

# 朝見遺跡（第7・8・9次）発掘調査報告

2023（令和5）年3月

三重県埋蔵文化財センター







第7次調査3区と面塚（南から）



方形周溝墓 S D704001（南から）



水銀朱が付着した敲石（209）



# 例 言

1. 本書は、平成 28 年度及び平成 29 年度に実施した高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う朝見遺跡第 7 次発掘調査、第 8 次発掘調査及び第 9 次発掘調査の報告書である。
2. 調査地は、三重県松阪市立田町及び和屋町に所在する。
3. 本遺跡の調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。現地調査から報告書作成に至る経費は、三重県教育委員会が文化庁からの国庫補助金を得て一部を負担し、その他を三重県農林水産部から執行委任を受けて実施した。
4. 発掘調査は、下記の体制で実施した。
  - ・第 7 次調査
    - 調査主体 三重県教育委員会
    - 調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究 1 課
      - 主幹 谷口一彦 主査 萩原義彦 技師 鐸木厚太 技師 水谷侃司
      - 主事 杉村 聡 研修員 村田雄紀
    - 調査期間 平成 28 年 4 月 20 日～平成 28 年 10 月 17 日
    - 調査面積 5,742㎡
  - ・第 8 次調査（工事立会）
    - 調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究 1 課
      - 主幹 谷口文隆 主査 萩原義彦 主事 杉村 聡 技師 水谷侃司
    - 調査期間 平成 28 年 9 月 6 日～11 月 22 日
    - 調査面積 約 600㎡
  - ・第 9 次調査（工事立会）
    - 調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究 1 課 主査 伊藤文彦 技師 鐸木厚太
    - 調査期間 平成 29 年 5 月 8 日、7 月 15 日～12 月 6 日
    - 調査面積 620㎡
5. 現地での図面作成及び写真撮影は調査担当者により、遺物写真撮影は当センター 主査 森川常厚及び技師 水谷侃司が行い、樹種同定、塗膜構造調査、年代測定、リン・カルシウム分析、蛍光 X 線分析に伴う写真は各受託業者による。
6. 本書の執筆は、樹種同定、塗膜構造調査、年代測定、リン・カルシウム分析、蛍光 X 線分析については各受託業者が、他は森川及び水谷に加え当センター主査 萩原義彦、技師 樋口太地が行った。全体編集は森川による。
7. 本書の遺跡地形図で使用した図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得た三重県共有デジタル図を用いている。（令和 4 年 4 月 6 日三総合地第 1 号）。遺跡調査区位置図に使用した事業計画図は三重県農林水産部の提供による。
8. 本書で用いた座標は世界測地系による座標北である。標高は、東京湾平均海水面を基準とした。
9. 調査にあたっては、下記の方々の御指導・御協力を得た。
  - 松阪市教育委員会 三重県農林水産部農業基盤整備課 三重県松阪農林事務所
  - 山本直人 朝見上地区土地改良区 地元各位
10. 土層及び土器の色調表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、2005 年版）に拠った。
11. 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

# 目 次

I. 前言	(水谷侃司・森川常厚)	1
1. 調査に至る経緯		1
2. 調査の経過		1
3. 朝見遺跡7～9次調査日誌(抄)		2
4. 文化財保護法にかかる諸手続		3
II. 位置と環境	(森川常厚)	4
1. 地理的環境		4
2. 歴史的環境		4
III. 第7次調査		13
1. 1区	(萩原義彦・森川常厚)	13
2. 2区	(　　　　　)	22
3. 3区	(　　　　　)	27
4. 4区	(萩原義彦・樋口太地・森川常厚)	37
5. 5区	(萩原義彦・森川常厚)	53
6. 6区	(　　　　　)	53
7. 7区	(萩原義彦・樋口太地・森川常厚)	74
8. 8区	(　　　　　)	74
9. 9区	(萩原義彦・森川常厚)	80
10. 10区	(萩原義彦・樋口太地・森川常厚)	85
11. 11区	(　　　　　)	91
12. 12区	(萩原義彦・森川常厚)	101
13. 13区	(萩原義彦・樋口太地・森川常厚)	111
IV. 第8次調査	(森川常厚)	157
1. 1-1区		157
2. 1-2区		157
3. 2-1区		157
4. 2-2区		158
5. 3区		161
6. 4-1区		161
7. 4-2区		163
8. 5区		163
9. 6区		163
10. 遺物		165

V. 第9次調査	(森川常厚)	169
1. 1区		169
2. 2区		169
3. 3区		169
4. 4区		169
5. 5区		169
6. 6区		171
7. 7区		175
8. 8区		175
9. 9区		176
10. 10区		176
11. 11区		176
12. 12区		179
13. 13区		179
14. 14区		179
15. 15区		180
16. 16区		181
17. 遺物		181
VI. 樹種同定		183
1. S D 706034 出土遺物	(汐見真 (株) 吉田生物研究所)	183
2. S Z 709009 出土遺物	(小李克也 (株) パレオ・ラボ)	183
3. S K 706039・S D 706034 出土遺物	((一社) 文化財科学研究センター)	184
VII. 塗膜構造調査	(本吉恵理子 (株) 吉田生物研究所)	187
1. はじめに		187
2. 調査資料		187
3. 調査方法		187
4. 摘要		187
VIII. 年代測定	((株) パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ)	189
1. 試料と方法		189
2. 結果		189
3. 考察		189
IX. リン・カルシウム分析	(竹原弘展 (株) パレオ・ラボ)	191
1. 試料と方法		191
2. 結果		191
3. 考察		191



X. 蛍光X線分析	(水谷侃司)	193
IX. 結語	(森川常厚)	196
1. 縄文時代		196
2. 方形周溝墓		198
3. 掘立柱建物		200

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	5	第29図	第7次調査4区平面図、土層断面図	38
第2図	遺跡地形図	7	第30図	SD704001遺物出土状況図	39
第3図	地区割図	8	第31図	SK704002・SH704011 ・SX704014・SX704015実測図	40
第4図	調査区位置図①	9	第32図	SD704001出土遺物	42
第5図	調査区位置図②	10	第33図	SH704011出土遺物①	43
第6図	調査区位置図③	11	第34図	SH704011出土遺物②	44
第7図	調査区位置図④	12	第35図	SH704011出土遺物③	45
第8図	第7次調査1区平面図	14	第36図	SH704011出土遺物④	46
第9図	第7次調査1区土層断面図	15	第37図	SX704014・SZ704012出土遺物	47
第10図	SK701003実測図	16	第38図	SX704015出土遺物	48
第11図	SK701003出土遺物①	17	第39図	SZ704013出土遺物①	49
第12図	SK701003出土遺物②	18	第40図	SZ704013出土遺物②	50
第13図	SK701003出土遺物③	19	第41図	SZ704013出土遺物③	51
第14図	SK701003出土遺物④	20	第42図	第7次調査4区下層包含層 ・表土等出土遺物	52
第15図	SD701001・SD701002等出土遺物	21	第43図	第7次調査5区平面図	54
第16図	第7次調査2区平面図	23	第44図	第7次調査5区土層断面図	55
第17図	第7次調査2区土層断面図	24	第45図	SD705001出土遺物	55
第18図	SA702007～702010実測図	25	第46図	第7次調査6区平面図	56
第19図	SB702006・SA702011 ・SF702003実測図	26	第47図	第7次調査6区土層断面図	57
第20図	SD702001出土遺物	26	第48図	SB706038実測図	57
第21図	第7次調査3区上層平面図	28	第49図	SE706036・SK706017 ・SD706006・SD706033実測図	58
第22図	第7次調査3区下層平面図、 SZ703017断面図	29	第50図	SK706007・SD706003 ・SD706006等出土遺物	61
第23図	第7次調査3区土層断面図	30	第51図	SK706010・SK706023 ・SK706024等出土遺物	62
第24図	SA703023・SE703006 ・SE703011・SK703018実測図、 SK703022遺物出土状況図	31	第52図	SK706026・SD706033出土遺物	64
第25図	第7次調査3区上層遺構出土遺物	32	第53図	SD706034出土遺物①	66
第26図	第7次調査3区下層遺構出土遺物	34	第54図	SD706034出土遺物②	67
第27図	第7次調査3区下層包含層出土遺物	35	第55図	SD706034出土遺物③	68
第28図	第7次調査3区下層包含層 ・上層包含層出土遺物	36	第56図	SD706034出土遺物④	69

第57図	SD706034出土遺物⑤	70	第99図	SD713004・SD713006	
第58図	SB706038・SK706039出土遺物	71		・SD713008・SD713009実測図	118
第59図	第7次調査6区包含層等出土遺物	72	第100図	SK713013・SE713035	
第60図	第7次調査7区平面図	73		・SD713041実測図	119
第61図	第7次調査7区土層断面図	73	第101図	SD713034実測図	120
第62図	第7次調査7区出土遺物	73	第102図	第7次調査13区遺構出土遺物①	122
第63図	第7次調査8区平面図①	75	第103図	第7次調査13区遺構出土遺物②	123
第64図	第7次調査8区平面図②	76	第104図	SD713004出土遺物	124
第65図	第7次調査8区土層断面図	77	第105図	第7次調査13区包含層等出土遺物①	125
第66図	SB708005実測図、 柱穴遺物出土状況図	78	第106図	第7次調査13区包含層等出土遺物②	126
第67図	SB708009・SB708010実測図	79	第107図	第7次調査13区包含層等出土遺物③	128
第68図	SB708005出土遺物	79	第108図	第8次調査1-1区平面図	157
第69図	第7次調査9区平面図	81	第109図	第8次調査1-2区平面図、 SD817断面図	158
第70図	第7次調査9区土層断面図	82	第110図	第8次調査2区平面図、 SE808断面図	159
第71図	SZ709009実測図	83	第111図	第8次調査3区・4区平面図、 3区土層断面図	160
第72図	第7次調査9区出土遺物	84	第112図	第8次調査5区平面図、土層断面図	161
第73図	第7次調査10区平面図①	86	第113図	第8次調査6区平面図、土層断面図	162
第74図	第7次調査10区平面図②	87	第114図	第8次調査2-1区出土遺物	163
第75図	第7次調査10区土層断面図	88	第115図	第8次調査2-2区出土遺物	164
第76図	SD710001～710006出土遺物	89	第116図	第8次調査5区・6-1区出土遺物	165
第77図	SD710007・SR710011等出土遺物	91	第117図	第9次調査1区・2区平面図、 土層断面図	170
第78図	第7次調査11区平面図①	92	第118図	第9次調査3区平面図、土層断面図	171
第79図	第7次調査11区平面図②	93	第119図	第9次調査4区平面図、土層断面図	172
第80図	第7次調査11区土層断面図①	94	第120図	第9次調査5区・7区平面図、 土層断面図	173
第81図	第7次調査11区土層断面図②	95	第121図	第9次調査6区平面図、土層断面図	174
第82図	SH711024実測図	96	第122図	第9次調査8区・9区平面図、 土層断面図	174
第83図	SH711024等出土遺物	97	第123図	第9次調査10区平面図、土層断面図	175
第84図	SD711012・SD711013 ・SD711027等出土遺物	98	第124図	第9次調査11区・12区平面図、 土層断面図	177
第85図	第7次調査11区表土等出土遺物	100	第125図	第9次調査13区平面図、土層断面図	178
第86図	第7次調査12区平面図①	102	第126図	第9次調査14区平面図、土層断面図	178
第87図	第7次調査12区平面図②	103	第127図	第9次調査15区平面図、土層断面図	179
第88図	第7次調査12区平面図③	104	第128図	第9次調査16区平面図、 SD91601断面図	179
第89図	第7次調査12区土層断面図	105	第129図	第9次調査出土遺物	180
第90図	SK712014・SK712020実測図、 SE712005遺物出土状況図	106	第130図	内面の分析データ	188
第91図	SD712001・SD712009等出土遺物	108	第131図	外面文様の分析データ	188
第92図	第7次調査12区包含層等出土遺物①	109	第132図	暦年較正結果	190
第93図	第7次調査12区包含層等出土遺物②	110	第133図	試料像①	193
第94図	第7次調査13区平面図	112	第134図	X線スペクトル①	193
第95図	第7次調査13区土層断面図	113			
第96図	SB713036実測図、 柱穴遺物出土状況図	114			
第97図	SB713037・SA713042実測図	116			
第98図	SB713038・SA713039実測図	117			

第135図 X線スペクトル②	194
第136図 試料像②	194
第137図 試料像③	194
第138図 X線スペクトル③	195

第139図 試料像④	195
第140図 X線スペクトル④	195
第141図 方形周溝墓配置図	198
第142図 掘立柱建物変遷図	199

## 写真図版

巻頭図版	第7次調査3区と面塚 方形周溝墓 S D704001 水銀朱が付着した敲石
<b>第7次調査</b>	
写真図版1	3・4区調査前風景と面塚 5～7区調査前風景
写真図版2	1区全景 1区全景 SK701003
写真図版3	2区全景 SA702007～702010 SB702006、SA702011
写真図版4	SF702003検出状況 SF702003 SF702003断面
写真図版5	3区全景 3区下層全景 SK703018断面 SK703022遺物出土状況
写真図版6	SE703006 SE703011
写真図版7	4区上層全景 4区下層全景
写真図版8	SD704001 SD704001遺物出土状況 SD704001遺物(230)出土状況 SD704001遺物 (233・235・236)出土状況
写真図版9	SH704011 SH704011石囲炉 SH704011石囲炉下部 SH704011遺物出土状況 SK704002断面

写真図版10	SX704014 SX704014 SX704015 5区全景
写真図版11	6区全景 SB706038
写真図版12	SE706036 SE706036断面
写真図版13	SK706026 7区全景
写真図版14	8区全景 SB708010
写真図版15	SB708005 SB708005柱穴遺物出土状況
写真図版16	9区全景 9区全景
写真図版17	SZ709009 SZ709009断面
写真図版18	10区西部全景 10区東部全景
写真図版19	SD710001断面 SD710001 SD710006
写真図版20	11区西部全景 11区東部全景
写真図版21	SH711024、SD711008 SD711001 SD711003
写真図版22	12区西部全景 12区中央部全景
写真図版23	12区東部全景 SD712003・712004、SK712020 SE712005遺物出土状況



写真図版24	13区北半全景 13区南半全景
写真図版25	SB713036 SB713036柱筋上小穴遺物出土状況 SB713036柱穴遺物出土状況 SD713008
写真図版26	SB713037、SA713042 SB713038、SA713039
写真図版27	縄文土器
写真図版28	縄文土器
写真図版29	縄文土器
写真図版30	縄文土器
写真図版31	縄文土器
写真図版32	縄文土器
写真図版33	縄文土器
写真図版34	縄文土器
写真図版35	縄文土器
写真図版36	縄文土器
写真図版37	縄文土器
写真図版38	縄文土器
写真図版39	縄文土器
写真図版40	弥生土器～古式土師器
写真図版41	土師器杯・皿
写真図版42	土師器皿
写真図版43	土師器高杯・甕・鍋・茶釜
写真図版44	ロクロ土師器・黒色土器・須恵器 灰釉陶器・緑釉陶器・山茶椀
写真図版45	山茶椀
写真図版46	陶器
写真図版47	陶器
写真図版48	陶器
写真図版49	磁器
写真図版50	瓦・土製品
写真図版51	石器
写真図版52	石器
写真図版53	木製品・金属製品

#### 第8次調査

写真図版54	1-1区全景 SD817検出状況 2-1区全景 2-2区全景 SE808断面
--------	--

写真図版55	3区全景 5区全景 SD811断面 SD817断面 6-1区全景 6-2区全景 6-1区断面
写真図版56	出土遺物
写真図版57	出土遺物

#### 第9次調査

写真図版58	1区全景 2区全景 3区全景 SD90201 4区全景 4区西壁土層
写真図版59	5区遺構検出状況 SD90501 7区SB63004柱穴検出状況 6区全景
写真図版60	8区遺構検出状況 9区遺構検出状況 11区全景 10区全景 10区西壁土層 12区全景 13区全景
写真図版61	14区全景 SD91401断面 15区全景 16区全景 出土遺物
写真図版62	木製品顕微鏡写真 炭化材の走査型電子顕微鏡写真
写真図版63	木製品顕微鏡写真
写真図版64	写真1 資料No.1内面 写真2 内面の断面 写真3 資料No.1外面 写真4 外面の断面 炭化材の年代測定試料写真 プレス試料およびリンと カルシウムの元素マッピング図

## 目 次

第1表	高度水利機能確保基盤整備事業 (朝見上地区)地内埋蔵文化財調査一覧…	3
第2表	第7次調査出土遺物観察表…	130～156
第3表	第7次調査掘立柱建物・柱列一覧…	156
第4表	第8次調査出土遺物観察表…	167～168
第5表	第9次調査出土遺物観察表…	182
第6表	木製品樹種同定表…	183
第7表	樹種同定結果一覧…	184
第8表	木材同定結果…	186
第9表	調査資料…	187
第10表	蛍光X線分析結果…	188
第11表	漆器の断面観察結果…	188
第12表	測定試料および処理…	189
第13表	放射性炭素年代測定 および暦年較正の結果…	190
第14表	半定量分析結果…	192
第15表	測定条件①…	193
第16表	定量結果①…	193
第17表	測定条件②…	193
第18表	定量結果②…	193
第19表	測定条件③…	194
第20表	定量結果③…	194
第21表	測定条件④…	195
第22表	定量結果④…	195
第23表	方形周溝墓一覧…	198
第24表	遺構一覧…	202～208

# I. 前 言

## 1. 調査に至る経緯

平成 21 年度、高生産性農業の実現と経営体育成を図るとともに、生活環境の一体的な整備を行うことにより、農業・農村の健全な発展に寄与することを目的とし、朝見上地区土地改良区（和屋町・立田町・朝田町）によって農業基盤整備事業が計画された。事業の総面積は、3 町合わせて 1,590,000㎡である。

この農業基盤整備事業にかかる埋蔵文化財の保護については、平成 21 年度に三重県農水商工部（現・農林水産部）から工区内の埋蔵文化財の有無について照会があった。これを受けて埋蔵文化財センターでは、事業地内に堀町遺跡・四常遺跡・大角遺跡・中坪遺跡・朝見遺跡が既に周知されていることを通知した。その結果、2009（平成 21）年 10 月 27 日から松阪農林事務所と埋蔵文化財センターでこれらの取り扱いについての協議が開始されることになった。

埋蔵文化財の保護が必要な面積は、799,060㎡に及ぶ広大なものであるため、埋蔵文化財の状況を把握するための調査を 2010（平成 22）年から 4 ケ年に渡って実施することになった。その結果、四常遺跡を除く 4 遺跡で埋蔵文化財の包蔵が良好な範囲が明らかとなり、工事の施工にあたっては保護措置が必要との結論に至った。これを受けて、これらを極力保存する工法において事業の実施が図られたが、排水路やポンプ場等のどうしても保存が困難な範囲に限り、発掘調査を実施し記録による保存を行うこととなった。調査は、工事の展開や耕作の状況を勘案して実施することになったが、住民の生活に支障が大きい生活道路部分等では工事立会として実施し、即日の調査終了に努めた調査区もある。

調査は、2010（平成 22）年の朝見遺跡第 1 次調査から開始し、堀町遺跡で 3 回、大角遺跡で 1 回、中坪遺跡で 4 回、朝見遺跡で 7 回の調査が実施され、中坪遺跡第 3 次調査が終了した 2018（平成 30）年 1 月 29 日をもって、当該事業地域内の現地における調査を終了した。本書で報告する発掘調査は、朝

見遺跡としては最終に位置する調査である。

## 2. 調査の経過

調査の開始は、最も工事が先行する範囲を対象とした朝見遺跡第 1 次調査で、2010（平成 22）年 9 月 14 日から開始された。4 ケ所の狭小な調査区に分かれるため、工事立会として実施し、平安時代後期の溝等を検出した。

翌年の 2011（平成 23）年には、朝見遺跡第 2 次調査が開始され、本格的な発掘調査の開始となった。平安時代から鎌倉時代を中心に井戸や溝が多数検出され、石帯、墨書土器、馬歯等の官衙関連遺物が出土している。鎌倉時代では、火付木や牛馬骨を伴う雨乞い祭祀を思わせる遺構も検出されている。

2012（平成 24）年度の調査は、その中心を堀町遺跡に移すが、大角遺跡や朝見遺跡でも小規模な調査が行われた。堀町遺跡第 5 次調査や大角遺跡では中世が中心であり、比較的規模の大きい掘立柱建物や多数の井戸が検出されている。また、「盛法寺」と墨書された山茶碗が注目される。

2013（平成 25）年度の調査は、引き続き堀町遺跡で行われると共に、中坪遺跡でも調査が開始され、朝見遺跡でも小規模な調査が継続している。堀町遺跡第 6 次調査では、縄文時代中期末の遺物が多く出土し、沖積平野での検出事例として注目された。他は、前年の調査と同様な内容であるが、平安時代の墨書土器や齋申等の木製品も多い。中坪遺跡第 1 次調査でも中世の井戸を多く検出し、区画溝と思われるものも数条検出している。

2014（平成 26）年度は、調査の中心が再び朝見遺跡に移り、中坪遺跡の調査も継続されている。堀町遺跡では小規模な調査が実施され、これをもって堀町遺跡の現地調査は終了となる。朝見遺跡第 5 次調査では、平安時代の大型建物を中心とする建物群が検出され、他にも大型建物が 3 棟散在する状況が確認された。遺物では、青銅鏡 3 面が出土したことが特筆され、農耕祭祀に伴うものと考えられている。

中坪遺跡第2次調査では、前回の調査と同様な結果であるが、掘立柱建物や堀状の区画溝を検出している。また、律令期の獣脚付壺や緑釉陶器香炉も出土している。

2015（平成27）年度は、朝見遺跡のみで調査が実施された。朝見遺跡第6次調査では、中世を中心に掘立柱建物や井戸を多数検出している。鎌倉時代の木棺墓からは漆椀や烏帽子等が埋納されていた。律令期では、蛇行する小溝からの多量の土師器杯皿類や集中して出土した製塩土器が注目される。また、縄文時代後期の土坑等も検出されている。

2016（平成28）年度は、本書で報告する朝見遺跡第7次調査と第8次調査である。第7次調査は13の調査区に分かれる。比較的面積の広い6区及び13区から調査を開始した。耕作の状況等に配慮しつつ、5区、1区、11区、12区、10区、9区、8区、2区、3区及び4区、7区の順に実施し、3区及び4区の埋め戻しを最後として調査を終了した。第8次調査は、第7次調査に引き続き実施された。これまでの調査で実施できなかった生活道路部分等を対象に工事立会として実施している。このため調査区は小規模な10ヶ所に分かれ、断続的に実施された。

2017（平成29）年度は、現地調査の最終年度となった。中坪遺跡を中心に実施され、朝見遺跡は本書で報告する小規模な第9次調査である。中坪遺跡第3次調査と並行して実施され、第8次調査と同様な対象の15ヶ所で工事立会として実施した。中坪遺跡第4次調査は朝見遺跡第9次調査に引き続き、中坪遺跡第3次調査と並行して実施された。小規模な2ヶ所について、工事立会として実施している。中坪遺跡第3次調査では、杭と丸太で構成される奈良時代の水利遺構が確認された。中世では、掘立柱建物や多数の井戸が検出され、堀状の区画溝が注目される。多量の土師器皿や鍋等に加え瓦質の磚や風炉、人面が墨書された土師器皿等が出土している。この調査の埋め戻しをもって現地での調査を全て終了した。

### 3. 朝見遺跡第7～9次調査日誌（抄）

[平成28（2016）年]

- 5月12日 第7次調査開始。6区表土掘削。  
13日 6区遺構検出。溝・土坑・柱穴を検出。  
13区表土掘削。  
18日 6区遺構掘削。13区表土掘削。  
19日 6区遺構掘削。SD706002、SK706014 土層断面図作成。  
31日 6区・13区遺構掘削。  
6月2日 6区遺構掘削。SD706012より近世瓦・瀬戸焼・常滑焼の甕等出土。13区表土掘削・遺構検出。表土中より緑釉陶器出土。  
3日 6区遺構掘削。13区表土掘削・遺構掘削。  
8日 5区表土掘削。13区全景撮影。  
10日 6区全景撮影・遺構実測。13区遺構実測。  
14日 1区表土掘削。5区遺構掘削・全景撮影。6区遺構実測。13区埋戻し。  
15日 5区遺構実測。13区表土掘削。  
16日 5区埋戻し。  
17日 6区東半埋戻し。  
20日 1区遺構掘削、SK701003より縄文土器出土。6区井戸断ち割り・土層断面図作成。  
22日 6区西半埋戻し。13区遺構掘削・西壁土層断面図作成。  
24日 1区遺構掘削・上層全景撮影・遺構実測。13区表土掘削・遺構掘削。  
27日 13区遺構掘削・13区東半表土掘削。  
29日 1区SK701003遺物出土状況図面作成。13区遺構掘削。  
7月4日 11区表土掘削。13区全景撮影。  
6日 13区遺構実測。  
8日 1区全景撮影・遺構実測。  
11日 1区埋戻し。  
12日 12区表土掘削。11区で縄文時代の竪穴遺構検出。  
19日 11区写真撮影・遺構実測。12区遺構掘削。  
21日 10区表土掘削。12区全景撮影・遺構実測。  
27日 12区SE712005断ち割り。  
8月1日 9区表土掘削。  
2日 8区表土掘削。9区遺構掘削。10区全景撮影。

8日 8区遺構掘削。  
 11日～16日 夏季休暇。  
 17日 2区表土掘削。  
 18日 8区全景撮影。  
 19日 2区遺構掘削。8区遺構実測。3区・4区表土掘削。  
 25日 2区全景撮影・遺構実測。3区遺構掘削。7区表土掘削。  
 30日 4区遺構掘削。  
 31日 4区全景撮影。7区遺構掘削。  
 9月1日 4区遺構実測。7区全景撮影。  
 2日 7区埋戻し。  
 3日 現地説明会。  
 5日 2区・3区北半埋戻し。3区南半・4区下層掘削。  
 6日 第8次調査開始。  
 12日 3区・4区下層全景撮影。  
 14日 3区・4区下層遺構実測・埋戻し。  
 16日 資材撤収・第7次調査終了。  
 11月22日 第8次調査終了。  
 [平成29(2017)年]  
 7月15日 第9次調査開始。  
 12月6日 第9次調査終了。

(1) 三重県文化財保護条例第48条第1項  
 平成22年9月9日付け、松農第4236-1号(県教育委員会教育長あて三重県知事通知)

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

(2) 県文化財保護条例第48条第2項  
 平成22年9月13日付、教委第12-4075号(県知事あて県教育委員会教育長通知)

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について」(朝見遺跡、堀町遺跡、大角遺跡、中坪遺跡、四常遺跡)

(3) 文化財保護法第99条第1項  
 平成28年4月20日付、教埋第27号(県教育長あて県埋蔵文化財センター所長報告)

「埋蔵文化財発掘調査の報告について」

(4) 文化財保護法第100条第2項  
 ・平成28年11月11日付け、教委第12-4416号(松阪警察署長あて県教育委員会教育長通知)

「埋蔵文化財の発見について(通知)」  
 ・平成28年12月6日付け、教委第12-4418号(松阪警察署長あて県教育委員会教育長通知)

「埋蔵文化財の発見について(通知)」  
 ・平成30年7月11日付け、教委第12-4411号(松阪警察署長あて県教育委員会教育長通知)

「埋蔵文化財の発見について(通知)」

(水谷・森川)

#### 4. 文化財保護法にかかる諸手続

本発掘調査に伴う埋蔵文化財の文化財保護法等に  
 関係する法的措置は、以下のとおりである。

調査年度	遺跡名	調査回数	調査面積	開始日	終了日	報告書	備考
H22	朝見遺跡	第1次	205㎡	10.27	11.19	『朝見遺跡(第1・2次)発掘調査報告』2014.10	工事立会
H23	朝見遺跡	第2次	3,325㎡ 87㎡	5.25 2.10	12.22 2.24		工事立会
H24	堀町遺跡	第5次	4,396㎡	5.23	2.22	『堀町遺跡(第5次)発掘調査報告』2016.3	工事立会
	大角遺跡	第1次	64㎡	10.24			
H25	朝見遺跡	第3次	236㎡	12.10	12.11	『朝見遺跡(第3・4・6次)発掘調査報告』2020.3	工事立会
	堀町遺跡	第6次	5,463㎡	5.10	2.12		
	中坪遺跡	第1次	1,955㎡	5.10	2.12		
H26	朝見遺跡	第4次	141㎡	9.30		『朝見遺跡(第3・4・6次)発掘調査報告』2020.3	工事立会
	中坪遺跡	第2次	1,100㎡	4.21	1.16		
	朝見遺跡	第5次	9,996㎡	4.22	2.18		
H27	堀町遺跡	第7次	720㎡	9.17	1.20	『堀町遺跡(第6・7次)発掘調査報告』2018.3	工事立会
	朝見遺跡	第6次	8,545㎡	5.12	2.23		
H28	朝見遺跡	第7次	5,742㎡	4.20	10.17	『朝見遺跡(第7・8・9次)発掘調査報告』2023.3	工事立会
	朝見遺跡	第8次	約600㎡	9.6	11.22		
H29	中坪遺跡	第3次	3,775㎡	6.29	1.29	『中坪遺跡(第3・4次)発掘調査報告』2022.3	工事立会
	朝見遺跡	第9次	620㎡	5.8	12.6		
	中坪遺跡	第4次	64㎡	10.16	10.18		

第1表 高度水利機能確保基盤整備事業(朝見上地区)地内埋蔵文化財調査一覧



## Ⅱ. 位置と環境

### 1. 地理的環境

朝見遺跡（1）は松阪市の東部、櫛田川左岸の和屋町から立田町に広がる遺物散布地である。櫛田川は、総延長84km、最大幅200mに及ぶ伊勢平野の大河川である。紀伊山地の高見山山系に源を發し、中央構造線に沿って山中を東流するが、伊勢平野に出ると向きを直角に北へ変え、伊勢湾へ注いでいる。伊勢平野での櫛田川は、洪水により幾度もその流路を変えている。分流して国史跡斎宮跡（2）を限る祓川も、かつては櫛田川の本流であった。この乱流の結果、下流域には広大な沖積平野が形成され、多数の自然堤防が散在する。和屋、立田、朝田の3集落は、弧状縦列に所在し、不明確ではあるものの自然堤防上に立地するものと思われる。朝見遺跡も自然堤防を中心に周知されており、周囲の水田より若干微高地の標高6～7m前後である。

### 2. 歴史的環境

当遺跡の所在する南勢地域は、県内でも有数の遺跡密集地帯である。沖積平野や河岸段丘、その背後の丘陵地帯には多くの集落跡や古墳群が存在する。

しかし縄文時代の遺跡に限れば、朝見遺跡周辺の沖積平野では殆ど知られていない。祓川右岸の低位段丘上の西出遺跡（3）が知られるのみである。西出遺跡は1978（昭和53）年に発掘調査が行われた。明確な遺構は検出されなかったものの検出面直上から人面を表現した土版が出土し、包含層出土遺物から晩期後葉に推定されている<sup>①</sup>。

やや上流に遡り段丘が明確になると、段丘上に粟垣内遺跡（4）や金剛坂遺跡（5）等が所在し、遺跡数は増加する。粟垣内遺跡では、中期末～晩期の土器片や石鏃等が散布し、コドノA遺跡（6）では晩期の土坑が検出されている<sup>②</sup>。1971（昭和46）年以降、数回の発掘調査が実施されている金剛坂遺跡では、直径2m前後の土坑群が検出されており、その内のひとつから後期に推定される環状壺形土器が完形で出土し、注目されている<sup>③</sup>。また、右岸の玉城

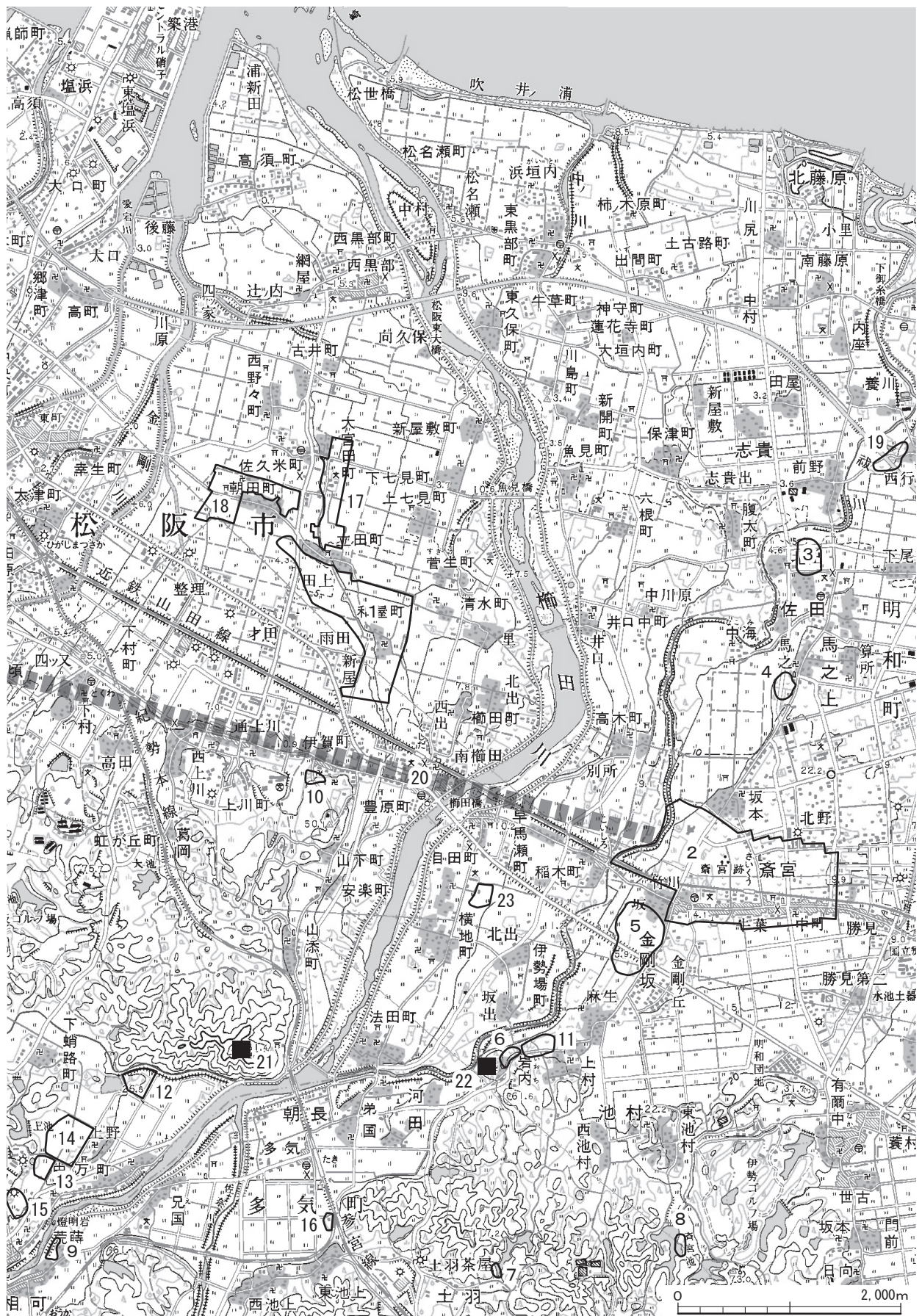
丘陵では、上村池B遺跡（7）で晩期の土器片が採集されており<sup>④</sup>、2007（平成19）年に発掘調査された斎宮池遺跡（8）では中期末葉から後期初頭の遺物が多く出土している<sup>⑤</sup>。さらに上流の新徳寺遺跡（9）は1994（平成6）年及び1996（平成8）年に発掘調査が行われ、後期の竪穴住居や埋設土器が検出されている<sup>⑥</sup>。左岸の丘陵裾野に位置する中谷遺跡（10）では、晩期後半の土器棺墓群が検出される等、調査事例の蓄積も進んでいる。

早期のものでは、コドノB遺跡（11）で集石炉が検出されている<sup>⑦</sup>。さらに上流に遡ると櫛田川が伊勢平野に流れ出る直前の中流域左岸、丘陵との間に生じる細長い平野に射原垣内遺跡（12）、鐘突遺跡（13）、上寺遺跡（14）が集中する。1979（昭和54）年に発掘調査が行われた射原垣内遺跡では、後期の土器に加え、早期の押型文土器が多数出土している。引き続き1980（昭和55）年に調査された鐘突遺跡<sup>⑧</sup>や上寺遺跡<sup>⑨</sup>でも早期の押型文土器が出土しているが、3遺跡とも遺構の検出には至っていない。しかし、さらに400m遡った鴻ノ木遺跡（15）では1990（平成2）年に発掘調査が開始され、早期の竪穴住居や煙道付炉穴が多数良好な状態で検出される<sup>⑩</sup>に至った。さらに右岸の坂倉遺跡（16）でも竪穴住居や煙道付炉穴が検出されており<sup>⑪</sup>、櫛田川中流域は縄文時代早期の遺跡密集地帯となっている。

この様に、河岸段丘上や丘陵またはその周辺で多くの遺跡が周知されていたが、近年、沖積平野での縄文時代の遺構・遺物が検出されている。2010（平成22）年から今回の調査に至るまで断続的に発掘調査が行われた、朝見遺跡、中坪遺跡（17）、堀町遺跡（18）からは、縄文時代中期から後期の遺物が出土し、後期の土坑群や埋設土器が検出されている<sup>⑫</sup>。さらに祓川下流の西浦遺跡（19）でも中期の深鉢が出土したとされ<sup>⑬</sup>、縄文時代の遺跡分布等の考察に一石を投じる結果となっている。

古代の朝見遺跡は伊勢国飯野郡に含まれる。飯野郡は、伊勢神宮の神領「神三郡」にあたる。また、当遺跡から約5km東には斎宮跡があり、これへ向け





第1図 遺跡位置図 (1:50,000) [国土地理院「松阪」1:50,000より]



て古代伊勢道(20)が1.5km南を通過する。この伊勢道に揃えた飯野郡条里型地割(北から約15°東偏)が当遺跡周辺に広がる<sup>⑩</sup>。

中世にはいると北畠氏の神三郡への影響が強くなり<sup>⑪</sup>、南北朝の争乱時には延元二(1337)年に北畠親房の御教書を受けて潮田刑部左衛門尉幹景が神山城(21)に立て籠もったとされる。中坪遺跡近辺では、北朝の軍勢との激しい戦闘も伝えられている<sup>⑫</sup>。櫛田川右岸の丘陵にも北畠一族の居住により岩内御所と称される<sup>⑬</sup>岩内城跡(22)がある。これらをはじめ、丘陵上には中世城館が散在する状況である。

一方、沖積平野では明確な城館跡はみられないが、中の坊遺跡(23)では条里方向に沿う直角に曲がる堀状の溝を検出しており、有力者の屋敷を想定している<sup>⑭</sup>。また、朝見遺跡や中坪遺跡でも城館を想定させるような堀状の溝を確認しており、沖積平野においても城館が埋没している可能性を示唆している。

なお、朝見遺跡内の水田には、「面塚」と呼ばれる塚がある。天から降ってきた翁の面7点を7基の塚を設けて奉納したと伝えるもの<sup>⑮</sup>で、地元により祀られた1基が今日まで残存している。(森川)

#### [ 註 ]

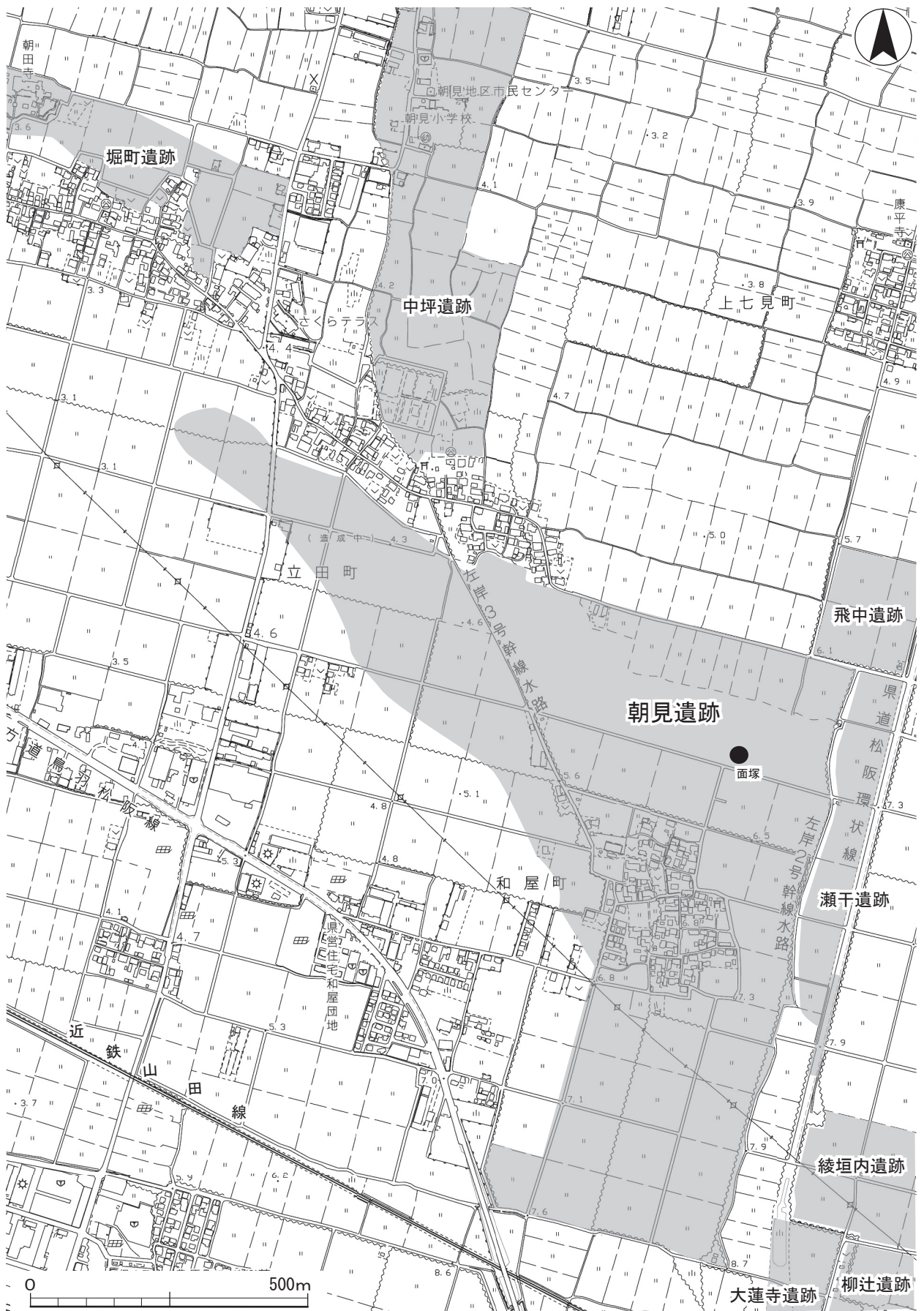
- ① 森田幸伸「西出遺跡」『三重県史 資料編 考古1』三重県 平成17年9月30日
- ② 西出孝『コドノA遺跡・コドノB(第1次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1998.3
- ③ 谷本鋭次ほか『金剛坂遺跡発掘調査報告』明和町郷土文化を守る会 1971
- ④ 森田幸伸「上村B遺跡」『明和町史史料編第一巻』明和町 平成16年3月31日
- ⑤ 田村陽一ほか『長谷町遺跡・斎宮池遺跡・真木谷遺跡・与五郎谷遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2010年
- ⑥ 小濱学ほか『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』三重県埋蔵文化財センター 1997.3
- ⑦ 森川常厚ほか『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2003.8
- ⑧ 西出孝『コドノB(第2次・第3次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2000.3

- ⑨ 松阪市教育委員会『射原垣内遺跡発掘調査概報』1980年3月
- ⑩ 奥義次ほか『鐘突遺跡発掘調査報告』松阪市教育委員会 1981.3
- ⑪ 奥義次ほか『上寺遺跡発掘調査報告』松阪市教育委員会 1981.3
- ⑫ 田村陽一ほか『鴻ノ木遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1998.3
- ⑬ 山田猛「坂倉遺跡」『三重県史 資料編 考古1』三重県 平成17年9月30日
- ⑭ 渡辺和仁ほか『朝見遺跡(第3・4・6次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2020年3月
- ⑮ 明和町教育委員会による。
- ⑯ 伊藤裕偉「斎宮寮・伊勢道・条里」『斎宮歴史博物館研究紀要 十三』平成16年3月31日
- ⑰ 小林秀「中世後期南伊勢の鋳物師について」『Mie history vol2』三重歴史文化研究会 1990.11
- ⑱ 奥義次「神山城」『三重の中世城館』三重県教育委員会 昭和52年1月11日
- ⑲ 「角川日本地名大辞典」編纂委員会『角川日本地名大辞典 24 三重県』株式会社角川書店 昭和58年6月8日
- ⑳ 新人物往来社『日本城郭大系 10 三重・奈良・和歌山』1980年
- ㉑ 伊藤裕之ほか『中の坊遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1997(平成9)年3月
- ㉒ 渡辺和仁ほか『朝見遺跡(第3・4・6次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2020年3月  
森川常厚ほか『中坪遺跡(第3・4次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2022年3月
- ㉓ 相場さやかほか『朝見遺跡(第1・2次)発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2014年10月

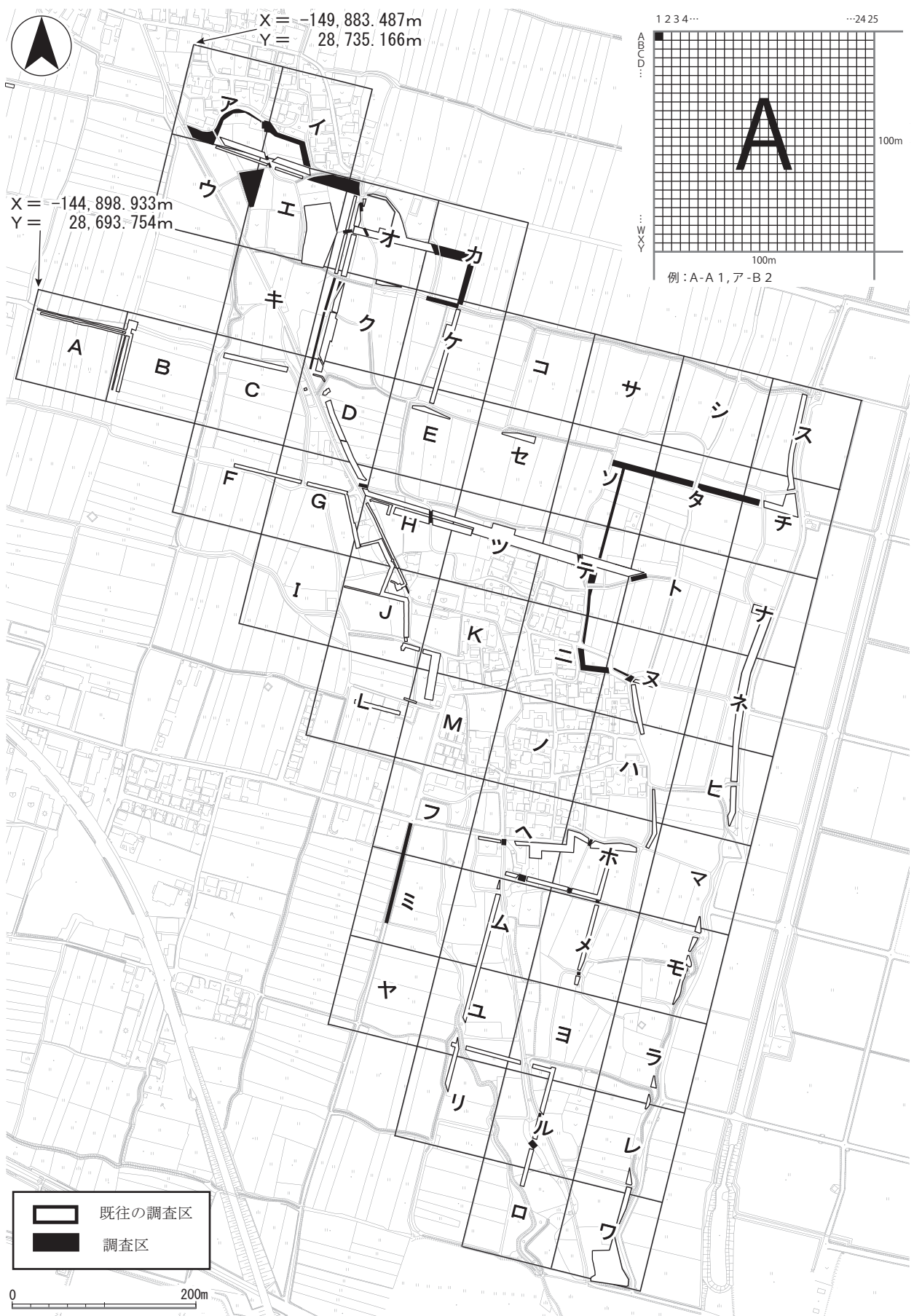
#### [ 参考文献 ]

- ・ 松阪市『松阪市史 第一巻 史料篇 自然』1977年12月10日





第2図 遺跡地形図 (1 : 10,000)

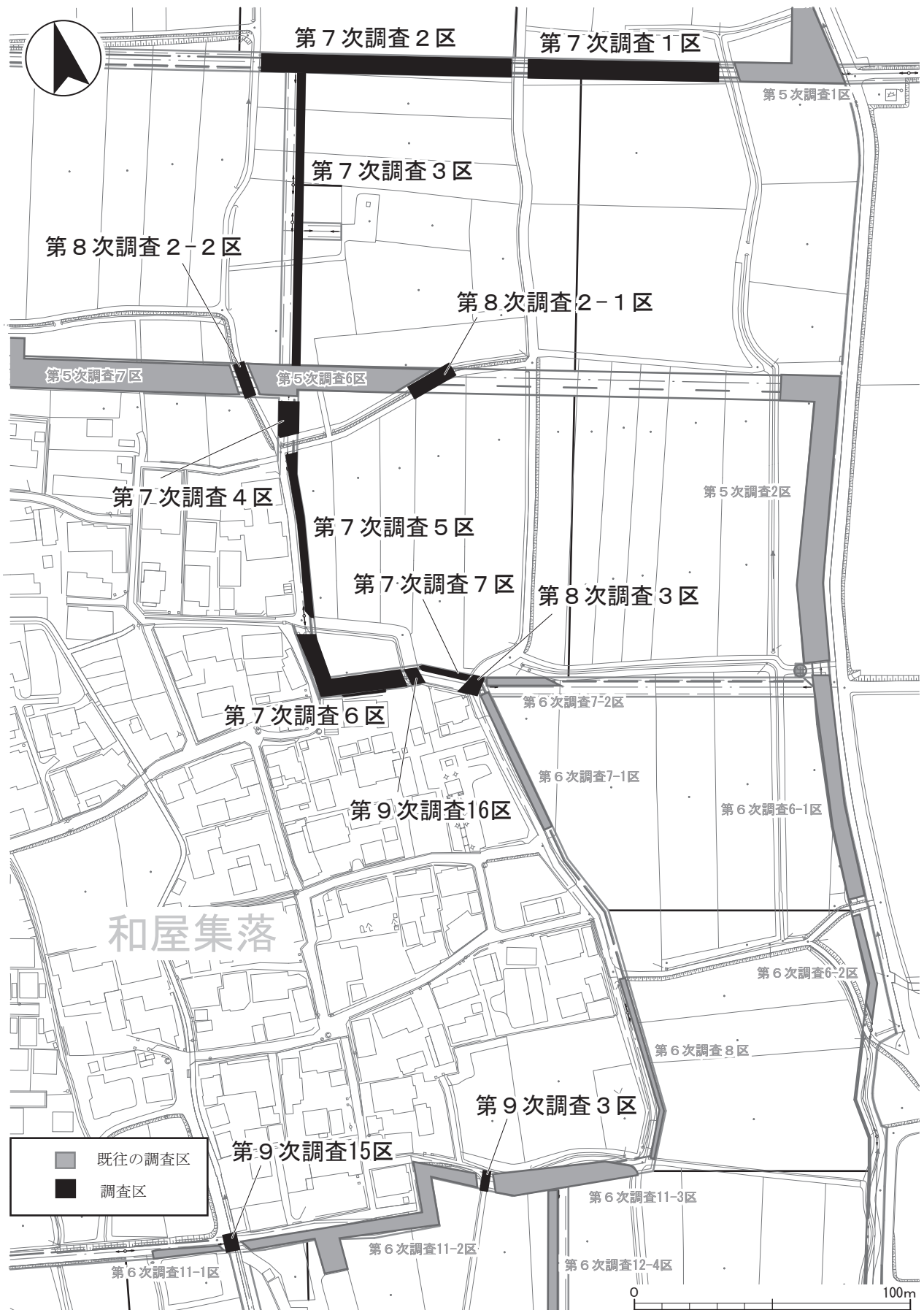


第3図 地区割図 (1 : 6,000)

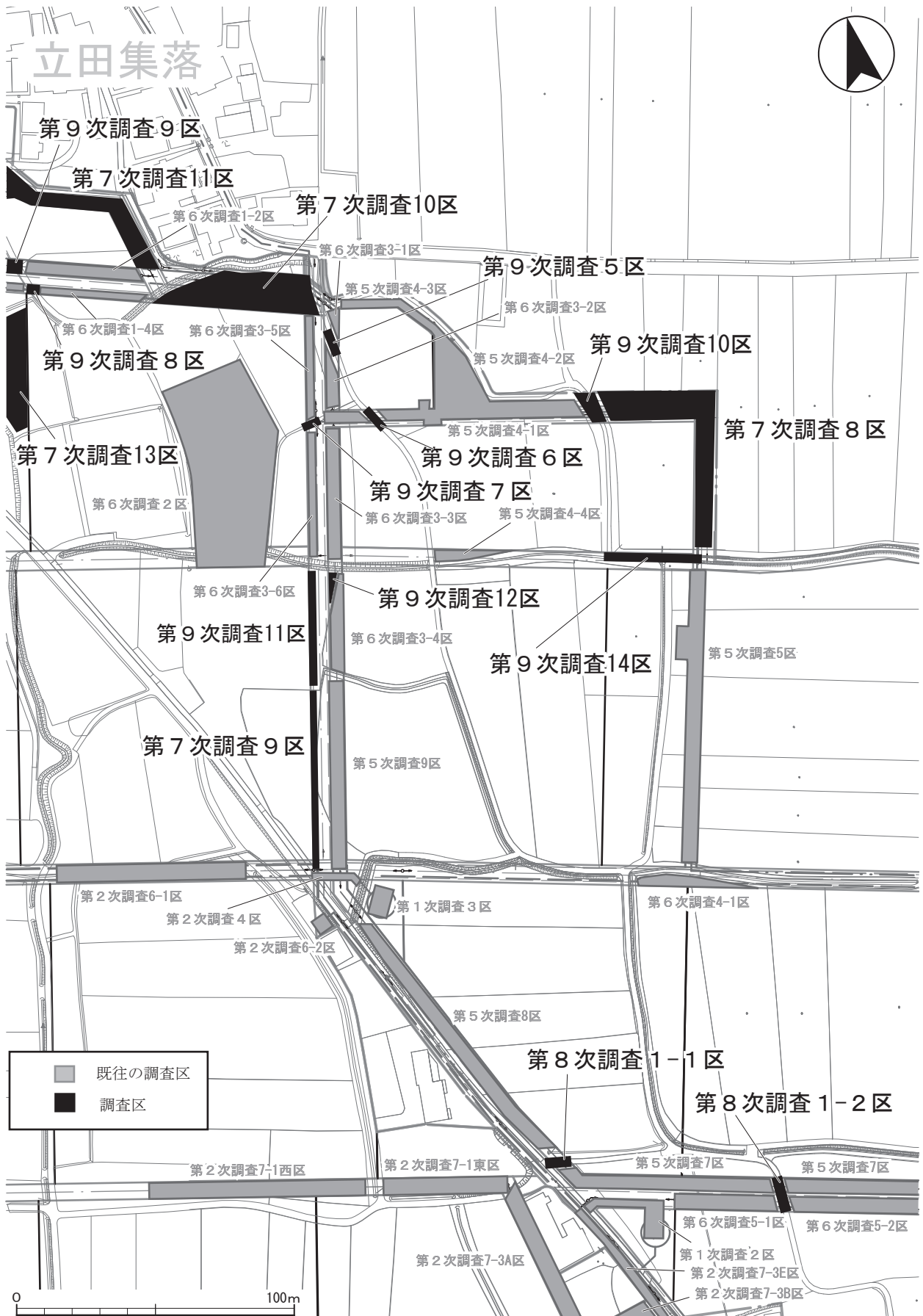




第4図 調査区位置図① (1 : 2,000)



第5図 調査区位置図② (1 : 2,000)



第6図 調査区位置図③ (1 : 2,000)



第7図 調査区位置図④ (1 : 2,000)



### Ⅲ. 第7次調査

第7次調査は、調査原因事業地の北部から北西部にかけての排水路予定地等を対象に13の調査区に分かれて実施している。このため、調査区の大半は溝状の細長い形状を呈することになった。

なお、隣接する既往の調査結果については第1表に示す発掘調査報告書による。また、出土遺物の分類、年代等については、土師器杯皿類を中心とする古代の土師器は齋宮<sup>①②</sup>、山茶椀は藤澤良祐氏<sup>③</sup>、中世土師器鍋は伊藤裕偉氏<sup>④</sup>、中世土師器皿は新田洋氏<sup>⑤</sup>による。

#### 1. 1 区

##### (1) 遺構

調査区は、遺跡の東側外縁部に位置し、東西方向に延びる溝状を呈する。調査区内の大半が旧河道であるが、調査区東端で溝や土坑状の落ち込みを確認している。なお、第9図には上層と下層の検出面を示したが、掘削後の検証によるものである。実際の調査においては、両検出面が錯綜する結果に陥ってしまった。隣接する第5次調査1区と様相が異なるのは、これが一因するものかもしれない。

**SD701001** 調査区東側で検出した溝である。幅40cm、検出面からの深さは10cm程度の浅いものであるが、土層観察により20cmの深さをもつことが分かる。埋土は上下2層に分かれるが、下層は砂質土で鉄分を含む。ほぼ正方位で南北方向に延びるが、若干蛇行気味で小規模な流路の可能性が高い。縄文土器片が多く出土するなかで、土師器の杯・皿の小片が一定量あり、平安時代中頃を示す。しかし、器壁の薄い小片1片があり、室町時代まで下る可能性を残しておく。

**SD701002** 大規模な旧河道跡で、幅30mに及ぶが、岸は非常に緩やかに傾斜する。埋土は粘土と砂質土の互層であるが、砂質土が主体である。弥生土器から灰釉陶器まで各時期の遺物が出土しているが、最も下るロクロ土師器から平安時代後期以降に埋没したとみられる。

**SK701003** (第10図) 調査区東端ちかく

で検出した土坑状の落ち込みである。直径6mの不整形円形を呈し、南半が調査区外となる検出結果となった。しかし、埋土層の観察では西壁が確認できず、検出結果と齟齬を生じている。このように遺構とするに疑問のある結果となったが、土坑中央部に礫と縄文土器片の集中がみられた。

土器や礫の集中は、土坑底からやや浮いた位置に2ヶ所に分かれて所在し、調査区壁のものは炭化材のためか周囲の土壌が黒く変色している。ただし、土器や礫の集積下に焼土は確認できない。土器は、口縁部から底部片まであり、少なくとも2個体が確認できるが、完形のものが潰れた状態には程遠い状況である。礫も集石と評価できる状態ではなく、石囲炉が破損した状況にもない。また、礫のなかには石斧や石錘が含まれる。これらの時期は、出土した縄文土器から中期末葉とみられ、後述する炭化材の年代測定値とも合致する。

なお、土坑北部で直径30cm程の焼土を確認しているが、土坑底には及んでいない。堅穴住居に相当する支柱穴や炉跡は確認できなかった。

**SD701004** 調査区西部において検出した溝である。幅4m、検出面からの深さ80cmを測る堀状の溝である。埋土は3層に分かれるが、最上層は極細粒砂である。縄文土器の小片が出土し、それ以降のものは無い。しかし、方向は条里に沿い、時期が下る可能性もある。

**SD701005** 調査区西側において検出した溝である。溝は、非常に浅く緩やかに西側に傾斜する。西岸は調査区外となるが、隣接する2区のSD702005を西岸とすれば、幅25mを測る。埋土は細粒砂であり、流路と考えられるが、遺物の出土が無く、時期不明である。

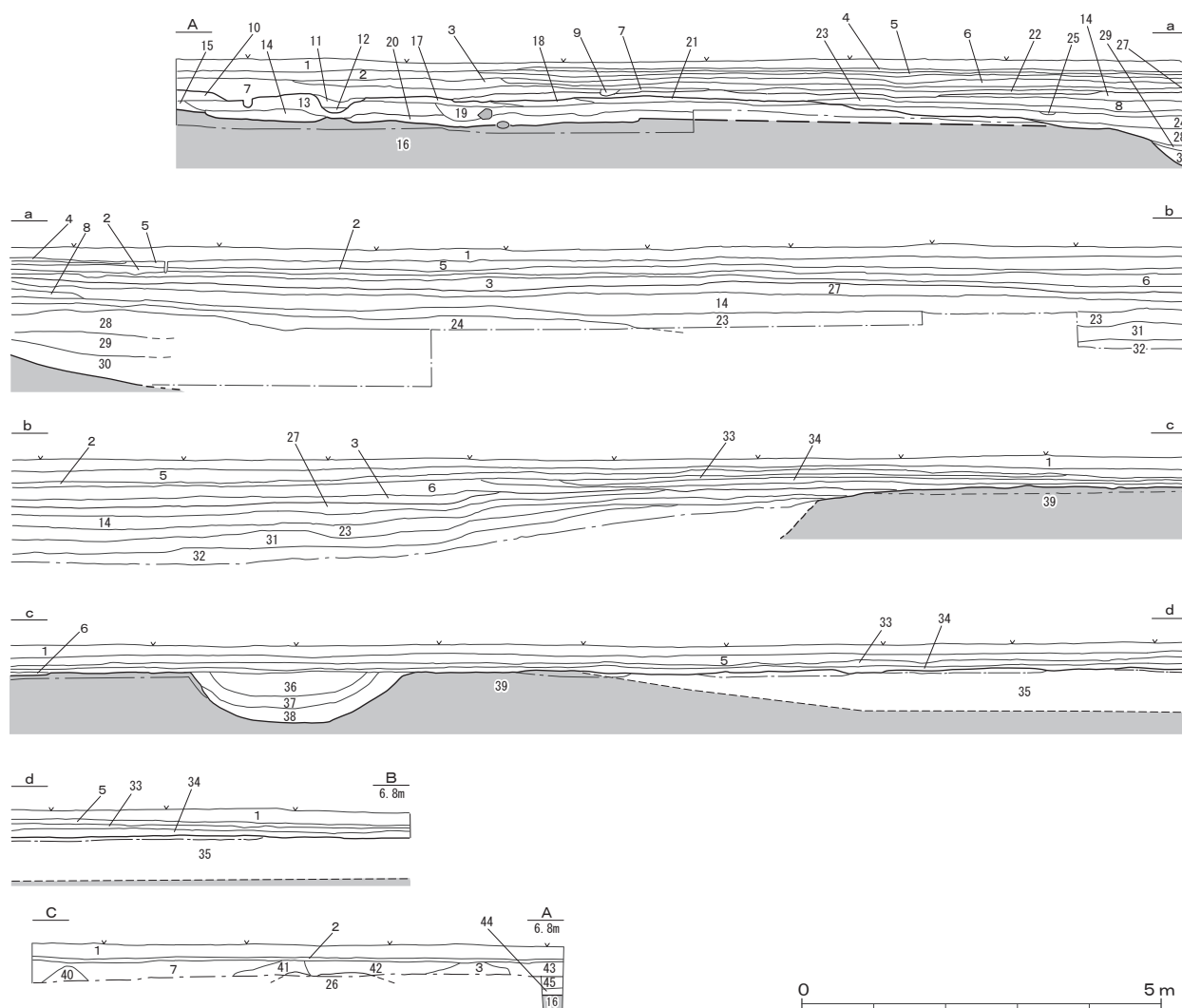
##### (2) 遺物

出土遺物の大半はSK701003出土の縄文土器である。他に古式土師器や律令期の土師器・須恵器等が出土している。

**SK701003出土遺物** (第11～14図) 1～87は縄文土器で、器形が不明確な小片が多いが、







- |  |   |
|--|---|
| 1 耕作土                                    | 24 10YR3/4 暗褐色砂質土<SD701002埋土>           |
| 2 2.5Y5/3 黄褐色砂質土                         | 25 7.5YR3/2 黒褐色砂質土<SD701002埋土>          |
| 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土                      | 26 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土                      |
| 4 10YR4/4 褐色粘質土                          | 27 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土                    |
| 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土                      | 28 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土<SD701002埋土>        |
| 6 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土                      | 29 7.5YR4/2 灰褐色砂質土<SD701002埋土>          |
| 7 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土                      | 30 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土<SD701002埋土>        |
| 8 10YR6/8 明黄褐色粘質土                        | 31 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土<SD701002埋土>         |
| 9 10YR3/3 暗褐色粘質土                         | 32 7.5YR4/2 灰褐色極細粒砂<SD701002埋土>         |
| 10 5Y4/2 灰オリーブ色粘土<上層検出面>                 | 33 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土                     |
| 11 5Y6/2 灰オリーブ色粘質土<SD701001埋土>           | 34 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土                     |
| 12 10YR3/3 暗褐色砂質土 (鉄分含) <SD701001埋土>     | 35 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂 (褐色土塊含) <SD701005埋土> |
| 13 10YR4/1 褐灰色砂質土 (鉄分多含) <SK701003埋土>    | 36 2.5Y4/4 オリーブ褐色極細粒砂<SD701004埋土>       |
| 14 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土 (鉄分含) <SK701003埋土等> | 37 2.5Y5/3 黄褐色シルト<SD701004埋土>           |
| 15 2.5Y4/1 黄灰色粘質土                        | 38 2.5Y6/2 灰赤シルト<SD701004埋土>            |
| 16 10YR4/2 灰黄褐色砂質土<下層検出面>                | 39 2.5Y8/6 黄色粘質土<検出面>                   |
| 17 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土<上層検出面>              | 40 2.5Y4/2 灰オリーブ色粘質土                    |
| 18 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土 (鉄分含) <上層検出面>       | 41 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (鉄分多含)                |
| 19 10YR3/4 暗褐色粘質土<SK701003埋土等>           | 42 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土                      |
| 20 7.5Y4/3 褐色粘質土<SK701003埋土等>            | 43 7.5Y4/1 灰色砂質土                        |
| 21 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土<上層検出面>              | 44 10YR4/1 灰褐色砂質土                       |
| 22 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土                     | 45 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土                    |
| 23 7.5YR3/4 暗褐色砂質土<SD701002埋土>           |   |

第9図 第7次調査1区土層断面図 (1:100)

その大半は深鉢と思われる。1～12・15～17は口縁部片で波状口縁が確認できるものが多い。深い沈線で区画し、内部に刺突文を施すが、2は一部に綾杉文、5は格子文をヘラで描き、16は太い沈線を平行に数条施す。体部片18も同様と考えられる。5は口縁部に複数の透孔の配置を加えている。

19は摩滅のため不明確であるが、綾杉文が施される。20～23も太い沈線による綾杉文を描くが、22は隆帯によってそれを区画している。24～36も綾杉文を施すものであるが、前述したものと比べて細く繊細に描く綾杉文を太い沈線による縦方向の区画に施している。

37～40・44は太い沈線により渦文を描くもので、41も同様か連弧文を描くものと思われる。口縁部片は波状口縁を呈する。43は隆帯を設けており、隆帯状に刺突文を施す。45～65も太い沈線を多条に施すが、小片のため文様構成は不明である。66～68は口縁部片であるが、同様な沈線を横位に3条施す。

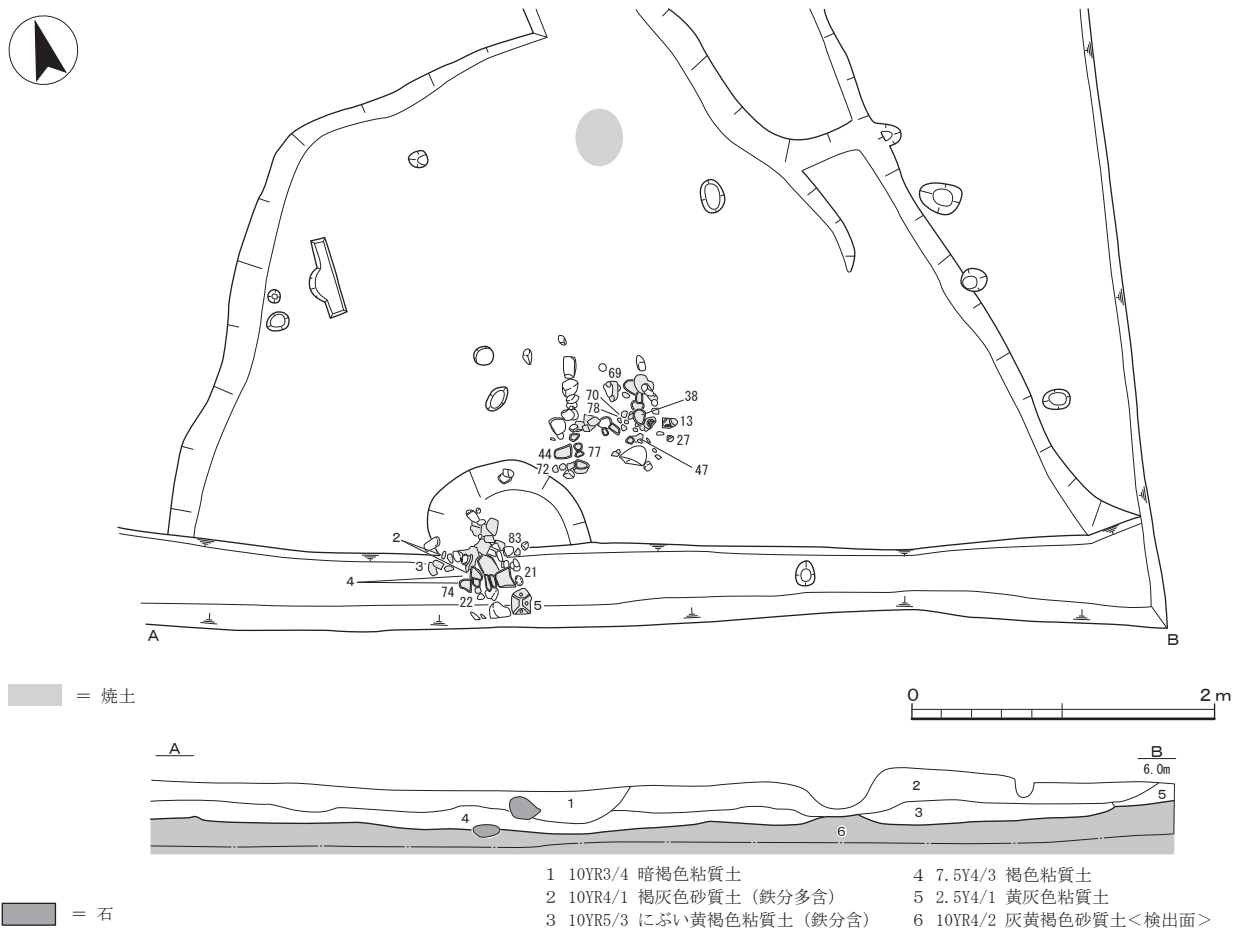
70・69は太い沈線による区画内を斜線で埋める

もの、73は刺突文、71・74～76は無文である。いずれも口縁部片で、70は高い波状を、69は緩やかな波状を呈する。71も波状口縁と思われるが、口縁端部を内に折り返している。72も口縁部片であるが、摩滅が激しく不明確ではあるものの口縁端部ちかくに縄文を施すようにみえる。77は体部片であるが、残存部全面に縄文を施している。

88・89は剝片、90は磨製石斧、91は打製の石錘である。90は刃先を打撃による加工で成形している。本来の刃先が欠損した後の再生であろうか。

**SD701001出土遺物** (第15図) 92は土師器の杯である。口縁部が外反し、底部外面は未調整、Ⅱ-3期に並行するものと思われ、9世紀後半の時期が与えられる。93～96は混入遺物で、全て縄文土器である。太い沈線で装飾し、弧状を描くものや多条に施すものがある。しかし、小片のため文様構成は不明である。

**SD701002出土遺物** (第15図) 図示した両者とも灰釉陶器で、97は甕、98は椀である。98

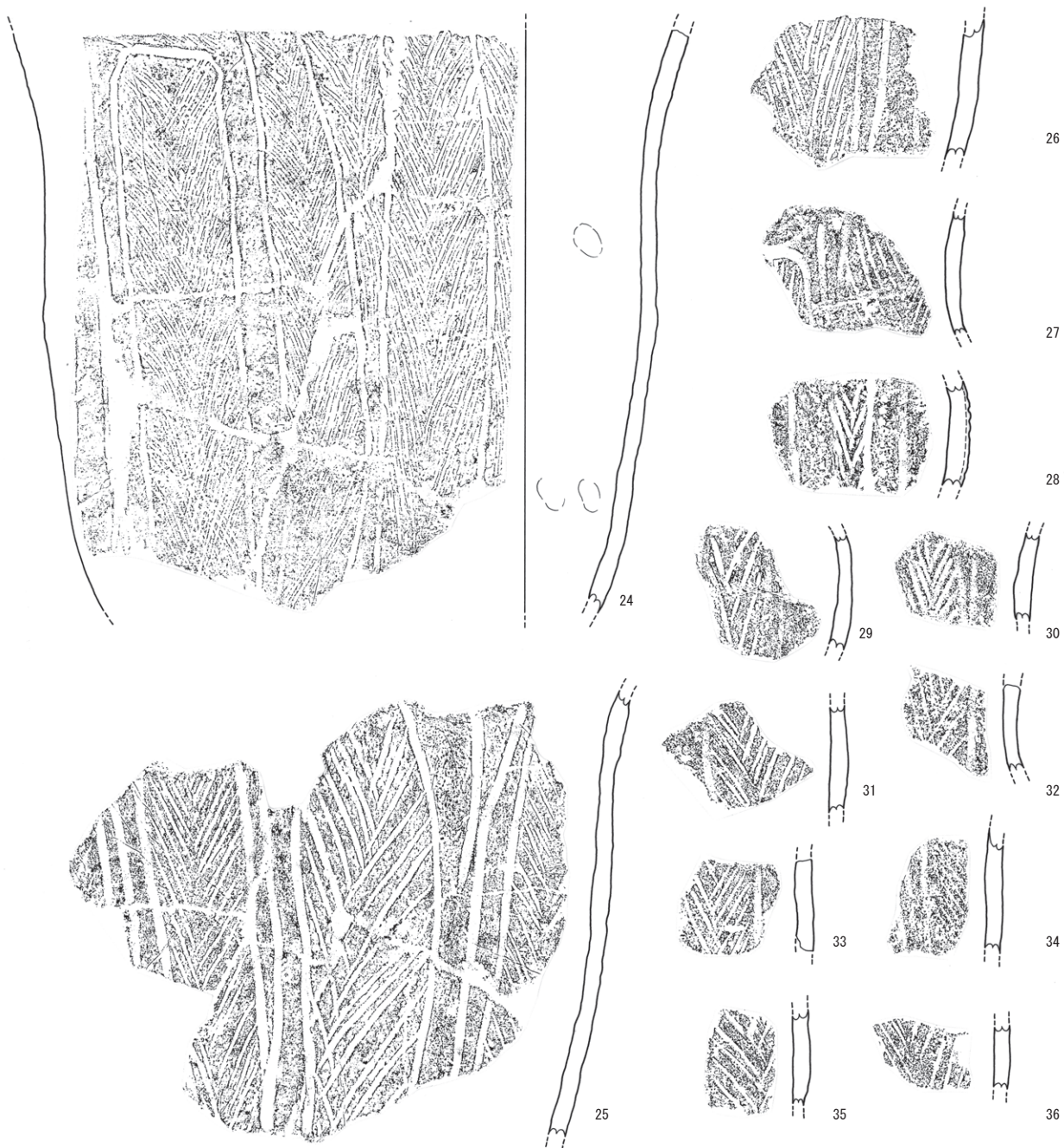
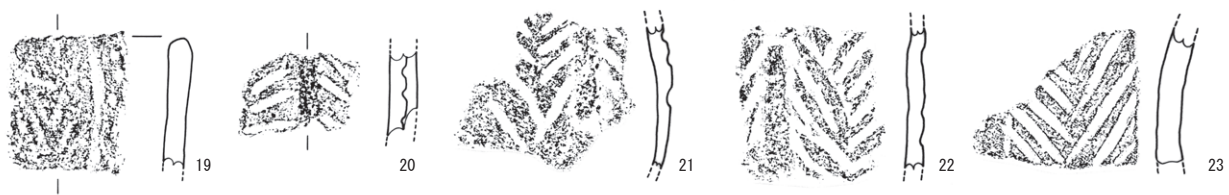


第10図 SK701003実測図 (1:50)

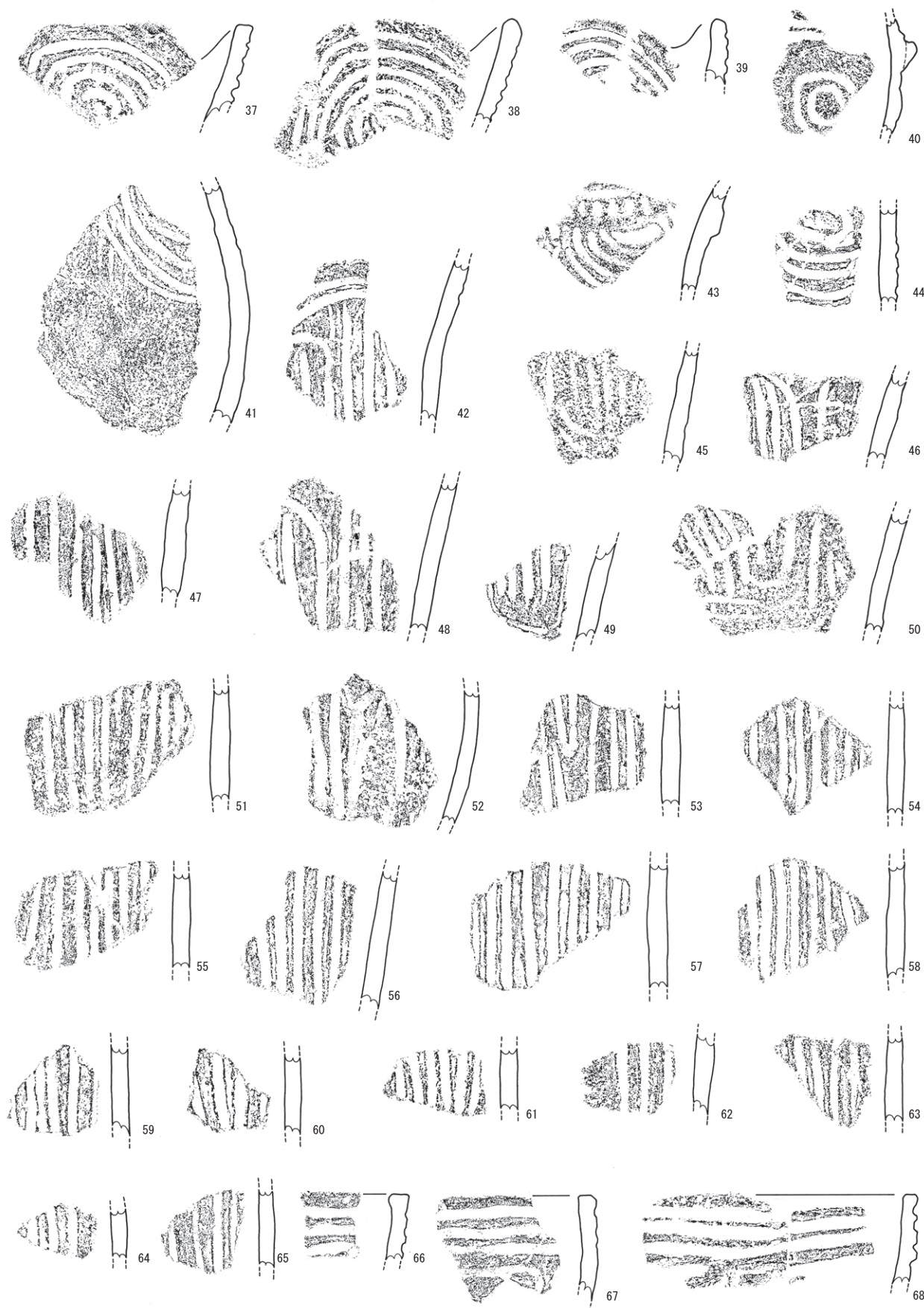


第11图 SK701003出土遺物① (1 : 3)



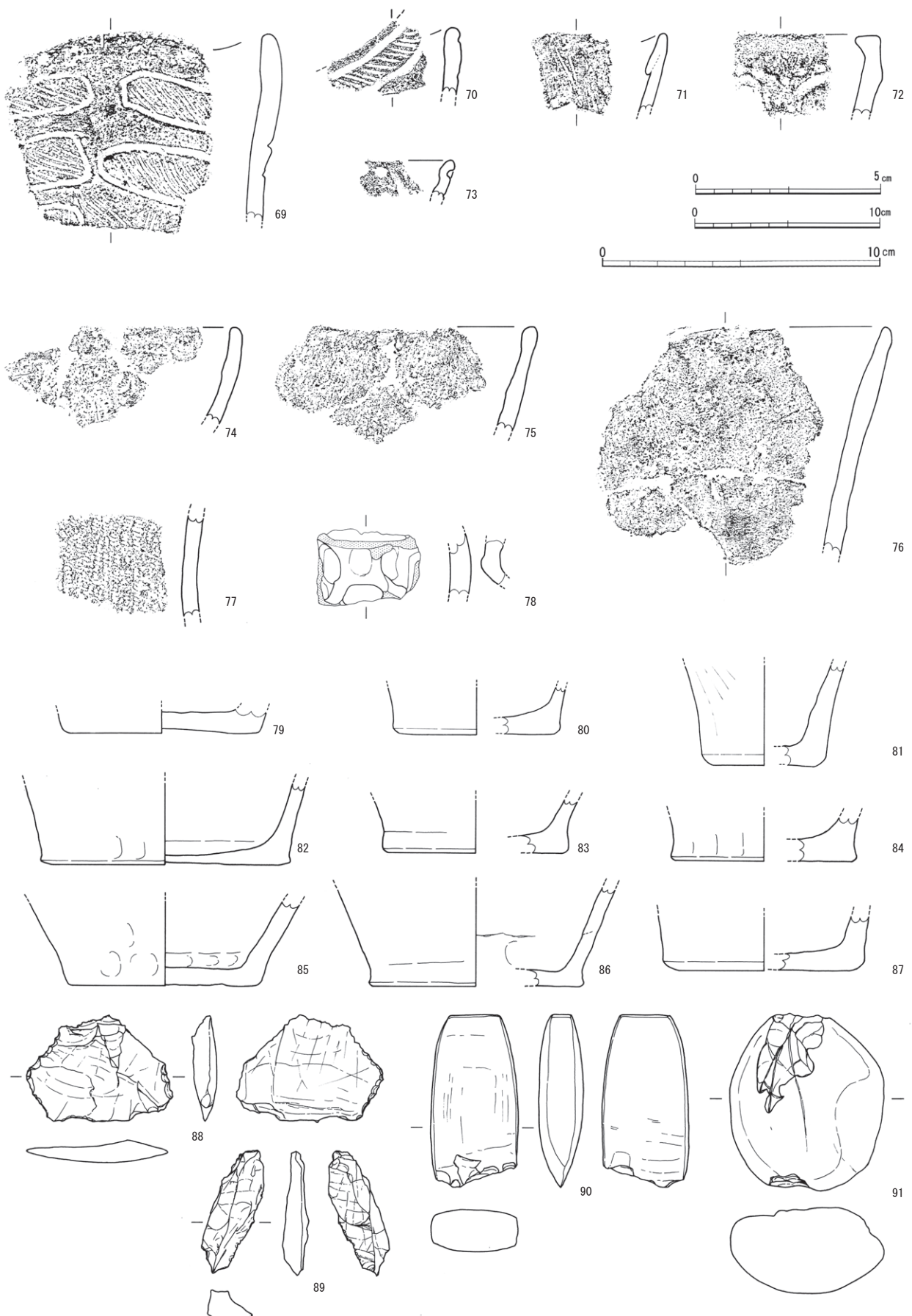


第12图 SK701003出土遺物② (1 : 3)



第13图 SK701003出土遺物③ (1 : 3)





第14図 SK701003出土遺物④ (88・89 = 2 : 3、90・91 = 1 : 2、他は1 : 3)

は高い高台を有し、灰釉は刷毛塗のように思えるが、底部外面に糸切痕が残る。他に図示できなかったがロクロ土師器の小片もある。

**SD701004出土遺物**（第15図） 図示できたものは99の縄文土器のみである。体部の小片であるが、隆帯が巡ることが確認できる。

**包含層等出土遺物**（第15図） 100は縄文土器の体部片である。太い沈線を3条施し、その両側にヘラによる斜行線がみえる。斜行線はおそらく綾杉文を形成するものと思われる。101は弥生土器または古式土師器の蓋、102・103は高杯、104は土師器の皿、

105は甕である。104の器壁は厚く、口縁端部は若干内に肥厚するが、底部外面のヘラケズリは不明確である。105の頸部には工具痕列が残る。おそらくハケメを施す際の工具の当たりと思われる。106～110は須恵器で、106・107は蓋、108は壺の底部と迷うが杯としておく。109は壺、110は甕である。108の底部外面には焼成前に刻まれた線刻がある。「×」を○で囲むものか、「#」を雑に描こうとしたものか迷う。111は灰釉陶器、112は山茶碗、113・114は土錘、115は石錐である。111の灰釉は漬け掛け、115はサヌカイトを打製している。（萩原・森川）

### SD701001



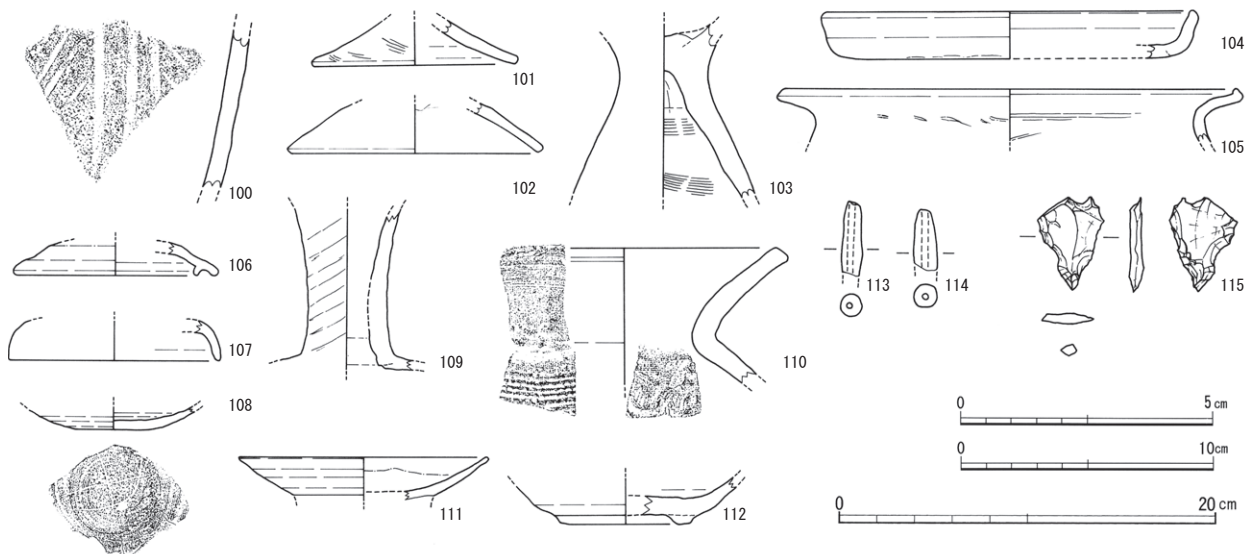
### SD701002



### SD701004



### 包含層等



第15図 SD701001・SD701002等出土遺物（115 = 2 : 3、93～96・99・100 = 1 : 3、他は1 : 4）

## 2.2区

1区を西に延長するかたちで、東西方向に延びる調査区である。遺構密度は薄く、遺物の出土も極めて少ない。縄文土器の小片のみが出土する遺構については、小規模なものは、一応、縄文時代としておくが、大規模な流路等は混入として時期不明としておく。このような状況のため、大半の遺構の時期が不明確である。

### (1) 遺構

**SD702001** (第17図) 調査区中央からやや東において検出した溝である。幅80cm、検出面からの深さ20cm程度の小規模なものであるが、概ね直線的に延びる。埋土はシルトで、良く締まっている。縄文土器片や土師器の杯や甕の小片が出土している。時期決定の根拠に乏しいが、中世までは下らず、平安時代中期頃の可能性がある。7m西側のSB702006と方向を揃えており、それに関連するものかも知れない。

**SD702002** (第17図) 調査区の中央部において検出した溝である。幅は1.2～2.4mで均一を欠く。深さは検出面から30cm程度で、幅に対し非常に浅いものである。したがって壁は非常に緩やかで、特に東側の岸が不明確である。蛇行することもあり、流路を想定したいが、埋土はシルトで良く締まっている。縄文土器の小片が出土したのみで、時期は不明とせざるを得ないが、SB702006を避ける様に蛇行しており、それと関連する可能性を残す。

**SF702003** (第18図) 調査区のほぼ中央部において焼土を検出し、この焼土を中心とした溝状の不整形な土坑を検出した。深さは検出面から10cmから50cmの不均一なもので、50cmに達する箇所が2ヶ所ある。複数の土坑の重複にもみえるが、埋土の様相はそれを示さない。なお、埋土には焼土が充満し、炭化物も含まれるが、土坑壁は焼けていない。土質的には検出面に酷似する埋土のため、土坑そのものを誤認した可能性もあるが、被熱が50cmちかくまで及ぶことは考え難く、底から5cm程度は褐色味を増す埋土も存在する。したがって、何らかの土坑が存在したものと思われるが、縄文土器の小片が若干出土するに止まり、土坑の性格は時期と

ともに不明確なものである。

**SK702004** 調査区の東側において検出した土坑である。平面形は直径1.1～1.6mの楕円形であるが、中央部は1.1mの円形となる。深さは検出面から40cm程度で縄文土器の小片が出土したに止まる。

**SD702005** (第18図) 調査区東端で検出した溝である。既述したように、隣接する1区のSD701005と合わせ、幅25mの流路を形成する。縄文土器の小片が出土するに止まる。

**SB702006** (第18図) 調査区中央部からやや東側で検出した掘立柱建物である。棟方向は不明であるが、一応、東西棟に仮定した。桁行2間(2.85m)、梁行は2間であるが寸法は東西で異なり、2.4m及び2.55mで、歪んだ平面形を呈する。柱穴は、直径20～30cmの円形を呈する小規模なもので、中央に束柱を設ける。埋土は粘質土系で、柱痕跡は確認できない。あるいは柱痕跡のみを検出した可能性もある。遺物の出土が無く、時期は特定できない。

**SA702007～702010** (第19図) 調査区西側から中央部にかけて検出した柱列群である。柱穴は直径20～30cmの円形を呈する小規模なものである。SA702008とSA702009は近接した縦列に配置され、全体として17mの長い柱列を構成する。この北側にSA702007、南側にSA702010が並行し、3乗の柱列を構成している。全ての柱列の柱間は不等間でやや蛇行する。この形状から柱列とするに疑問もあるが、遺構密度が極めて低い区域での検出であり、簡易な柵列の痕跡とした。全ての柱穴で遺物の出土が無かったため、時期決定の根拠に欠ける。

**SA702011** (第18図) SB702006の北側桁行の延長上にある2基の小穴を柱列とした。厳密にはSB702006の桁行より若干南側に位置するが、方向は揃えている。SB702006とは1.2mの間隔を空け、柱穴や埋土の状況はSB702006に酷似する。出土遺物は無く、時期は不明とせざるを得ないが、SB702006に付属する施設と考えられる。

なお、2基の小穴をもって柱列とするに疑問もあるが、周囲に小穴が少ない状況で、SB702006に方向を揃えるため、可能性として提示するものである。

### (2) 遺物

図示できたものはSD702001出土の土師器杯(116)



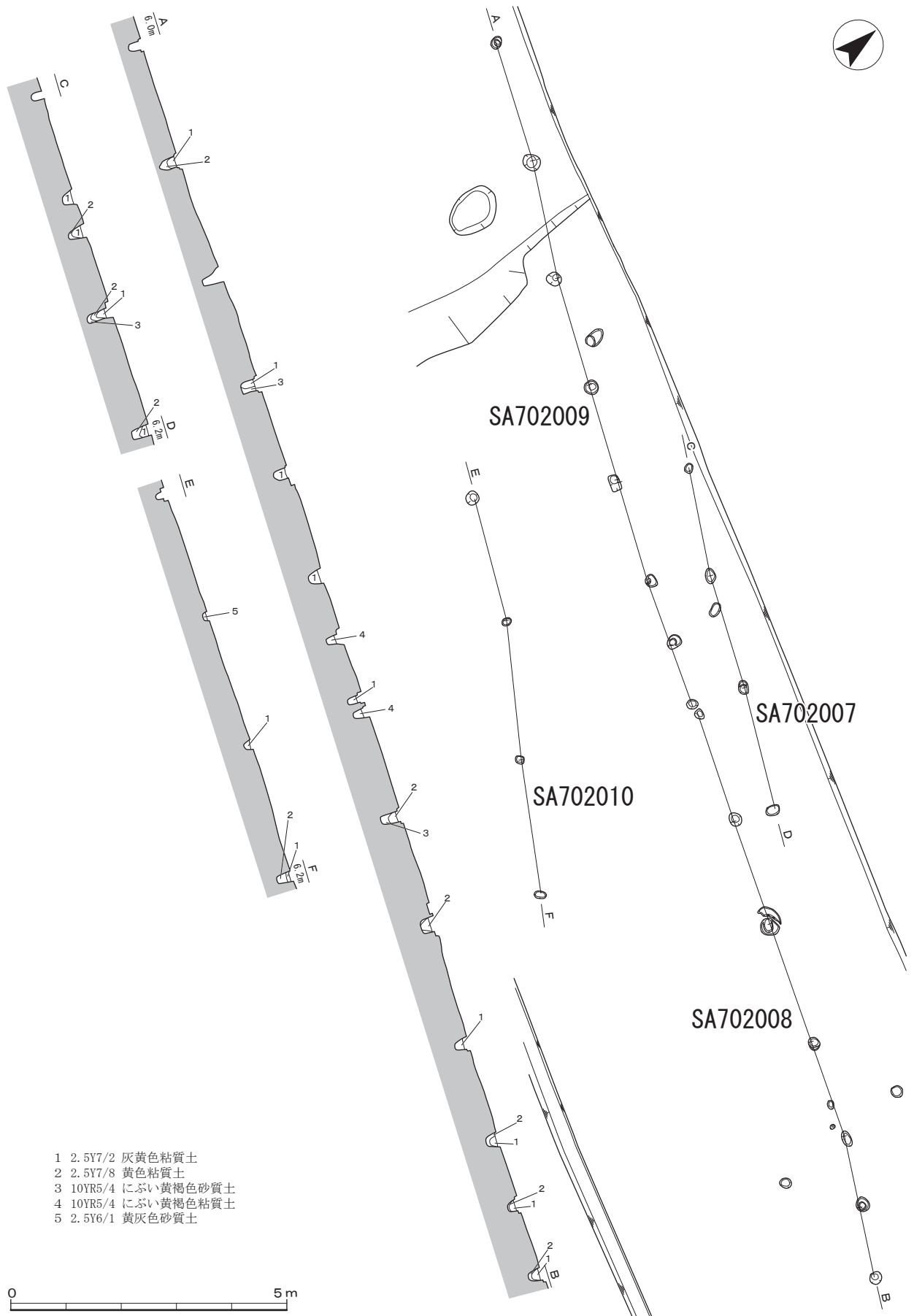


第16図 第7次調査2区平面図 (1:200)

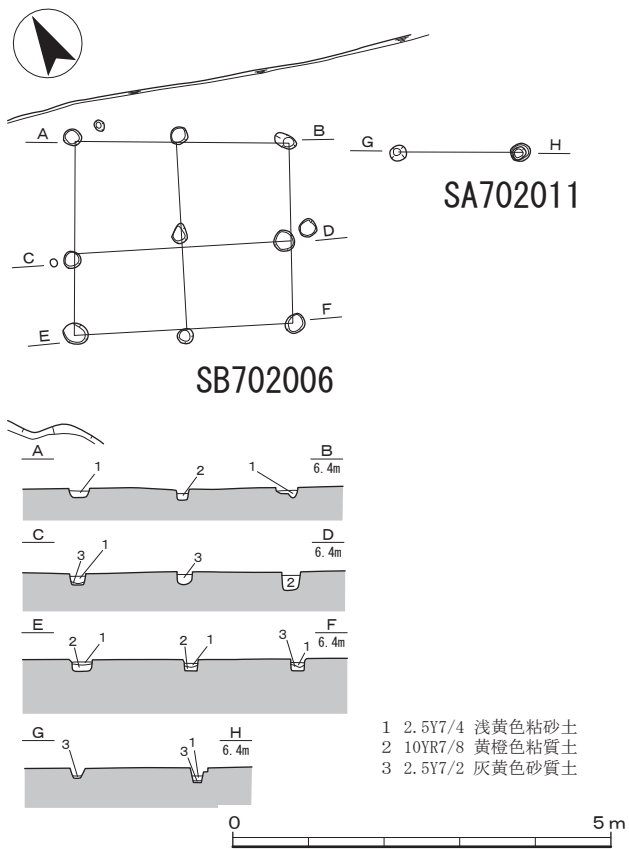


- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 耕作土</li> <li>2 7.5YR6/8 橙色粘土</li> <li>3 7.5YR6/1 褐灰色粘砂土（マンガン粒含）＜検出面＞</li> <li>4 10YR7/6 明黄褐色砂質土＜検出面＞</li> <li>5 2.5YR4/8 赤褐色砂</li> <li>6 7.5YR6/1 褐灰色砂質土＜検出面＞</li> <li>7 2.5Y6/8 明黄褐色シルト（良く締まる）</li> <li>8 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土（良く締まる）＜SD702005埋土＞</li> <li>9 2.5Y5/3 黄褐色シルト（良く締まる、鉄分塊含）＜検出面＞</li> <li>10 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト（良く締まる）</li> <li>11 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト（良く締まる、鉄分含）</li> <li>12 2.5Y5/4 黄褐色粘質土（良く締まる）</li> <li>13 2.5Y5/4 黄褐色シルト（良く締まる）</li> <li>14 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト（良く締まる、炭化物含）</li> <li>15 7.5YR4/4 褐色シルト</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>16 5YR4/3 にぶい赤褐色粘質土（良く締まる）</li> <li>17 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト（良く締まる）</li> <li>18 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土（良く締まる）</li> <li>19 2.5Y6/4 にぶい黄褐色シルト（良く締まる、鉄分塊含）＜検出面＞</li> <li>20 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト（良く締まる、鉄分塊含）</li> <li>21 2.5Y5/3 黄褐色シルト（良く締まる、鉄分塊多含）</li> <li>22 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト（良く締まる）＜SD702001埋土＞</li> <li>23 2.5Y5/4 黄褐色シルト（良く締まる、鉄分塊含）＜SD702002埋土＞</li> <li>24 10YR4/4 褐色シルト（良く締まる）</li> <li>25 2.5Y5/4 黄褐色粘質土（良く締まる）</li> <li>26 2.5Y7/8 黄色砂質土</li> <li>27 7.5YR6/4 にぶい橙色粘砂土</li> <li>28 7.5YR6/2 灰褐色粘質土</li> <li>29 2.5YR6/1 赤灰色砂</li> <li>30 10YR7/6 明黄褐色粘砂土</li> </ul> |
|--|--|

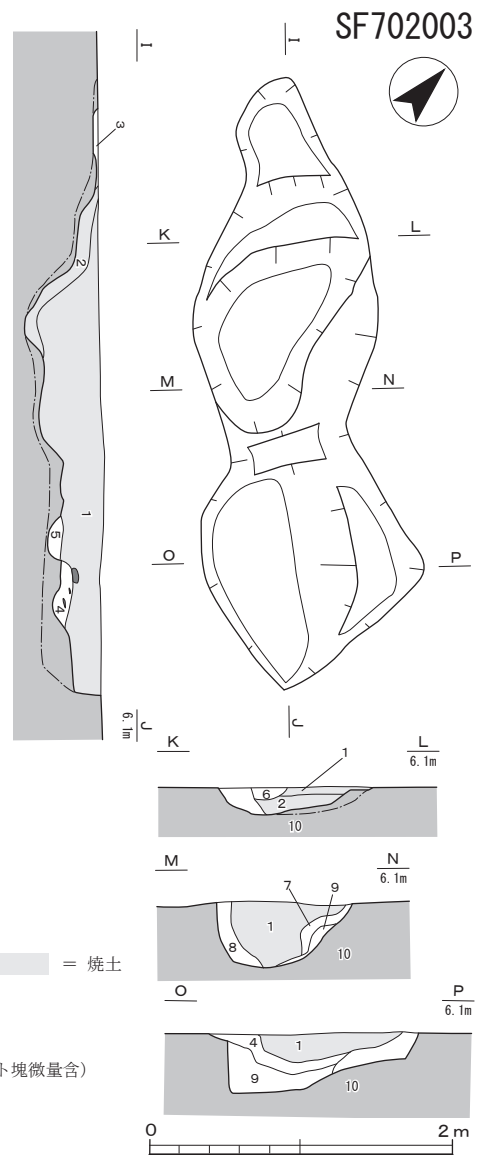
第17図 第7次調査2区土層断面図（1：100）



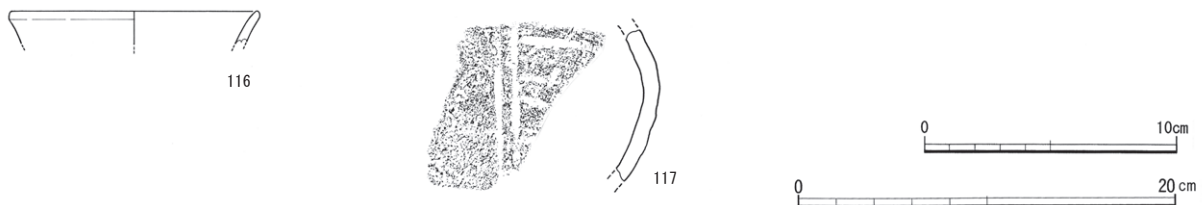
第18図 SA702007~702010実測図 (1 : 100)



- 1 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土化シルト (径2~10cm程度炭化物が南側に多少含む)
- 2 7.5YR4/3 褐色焼土化シルト (径1~2cm炭化物微量含、良く締まる)
- 3 5YR6/4 にぶい橙色シルト (炭化物微量含)
- 4 5YR5/6 明褐色シルト (炭化物少量含)
- 5 5YR4/6 赤褐色シルト (炭化物微量含)
- 6 5YR5/6 明赤褐色シルト (5YR4/3 にぶい赤褐色シルトが下層に一部堆積、炭化物含)
- 7 5YR4/6 赤褐色シルト (2.5Y5/6 黄褐色極細粒砂が下層に堆積、炭化物・7.5YR5/6 明褐色シルト塊微量含)
- 8 5YR4/6 赤褐色シルト (2.5Y5/6 黄褐色極細粒砂が下層に堆積 炭化物微量含)
- 9 2.5Y5/6 黄褐色極粒砂 (7.5YR4/4 3~5mm程度の褐色土塊・炭化物微量含、良く締まる)
- 10 2.5Y5/6 黄褐色極粒砂 (よく締まる) <検出面>



第19図 SB702006・SA702011実測図 (1:100)、SF702003実測図 (1:50)



第20図 SD702001出土遺物 (116 = 1:4、117 = 1:3)



と縄文土器（117）のみである。116の口縁端部の内への肥厚はみられない。117は混入遺物で、小片のため文様構成は不明であるが、沈線による縦方向の区画内に横方向に沈線を施すようで、縄文はみられない。（萩原・森川）

### 3.3区

2区から第5次調査6区に至る幅3m、延長100m以上に及ぶ細長い調査区である。第5次調査6区では下層で縄文時代の検出面を確認しているため、調査終了後、各所にトレンチを設定し、状況を確認した。その結果、検出面下に縄文土器の包含が確認され、その範囲の調査区南側において下層調査を実施している。

#### （1）上層検出遺構

調査区北側では若干の小穴を検出したに止まる。調査区中央から南側で遺構密度が高く、溝や井戸等を検出しているが、調査区が狭小なこともあり、溝の性格や集落の状況は不明確である。

なお、S K 703008・703010・703012、S D 703007・703009・703015は、検出面からの深さが5cm前後の痕跡程度のものである。特にS D 703009やS D 703015は遺構と認定すべきでないものであろう。上記の状況のため出土遺物は少なく、山茶碗や土師器鍋の小片がみられるものの、中世以降の可能性の高いものとするに止める。

**S D 7 0 3 0 0 1 ・ 7 0 3 0 0 2**（第23図） 調査区南側を同様な規模の2条の溝が、近接して横断する。両者とも幅1.6m、検出面からの深さは30～40cmを測る比較的規模の大きいものである。底部は平坦で箱掘り状を呈する。埋土はシルトで砂層は殆ど見られない。条里方向とは東で若干南側に振り、合致しない。出土遺物は縄文土器の混入が多く、土師器杯皿・鍋類の小片等で時期幅が大きく、時期決定に決め手を欠く。新相を示すものでみれば、S D 703001の土師器皿（123）が平安時代後～末期、S D 703002の土師器鍋が平安時代末頃と思われる、S D 703002が若干後出の傾向にある。ただし、この溝の南側4mで井戸を検出しており、この井戸を含めた屋敷地の区画溝とすれば、井戸の時期とする鎌倉時代末から室町時代に下る可能性も残る。

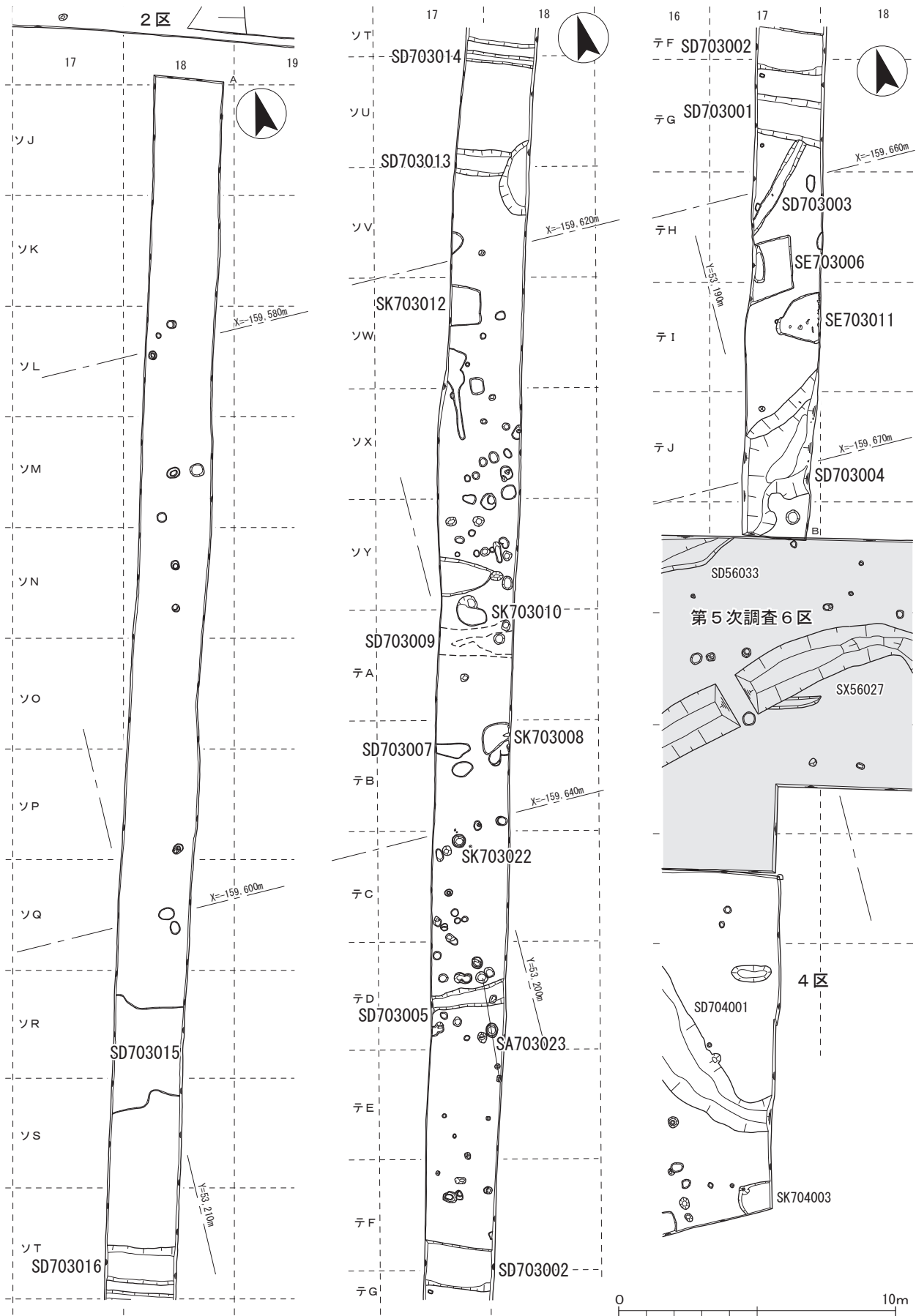
**S D 7 0 3 0 0 3** 調査区南側を南北方向に延びる幅40cm、検出面からの深さ10cm程度の小規模な溝である。北端はS D 703001により消滅しているが、その北側では検出できておらず、S D 703001に合流する可能性もある。遺物の出土はなく、S D 703001以前、または同時期のものとするに止める。

**S D 7 0 3 0 0 4**（第23図） 調査区南端で検出した溝である。幅3m、検出面からの深さ1mを測る規模の大きなものであるが、幅、深さともに不整な形状である。このため流路と考えられるが、埋土はシルト層で砂層は少ない。溝の南側は砂層や粗砂層が分布しており、大きな流路北岸付近の淀み部分を検出した可能性がある。土師器の小片と多くの縄文土器片が出土している。律令期の可能性があるが、時期は不明としておく。

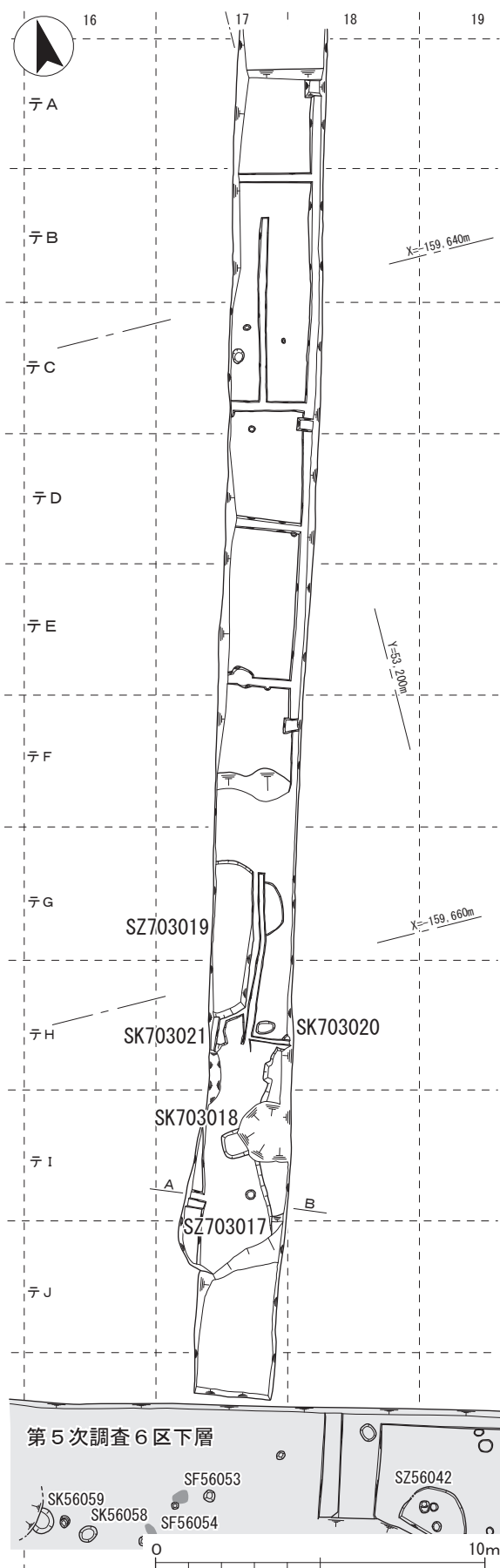
**S D 7 0 3 0 0 5**（第23図） 調査区南側で検出した幅30cm、検出面からの深さ10cm程度の小規模な溝である。条里方向とは東で北側に振り、合致しない。土師器杯や灰釉陶器が出土しており、10世紀代の平安時代中頃の時期が与えられる。

**S E 7 0 3 0 0 6**（第24図） 調査区南側で検出した井戸である。調査区端での検出のため全体の形状は不明であるが、掘形は一辺約2mの不整形を呈する。断面観察の結果、掘形は検出面から1mで底に至る。井戸本体は、直径50～60cmの小さいもので、掘形の北側に寄せて設けられている。また、掘形底よりさらに70cmで底に至り、この部分については掘形と本体が一体化している。この状況から素掘りまたは、曲物を井戸枠として設置していたのかも知れない。なお、埋土上層に礫を多く含むが、石組を想定させるものではない。土師器皿や鍋、山茶碗等が出土しているが、後述するS E 703011よりやや後出の様相があり、室町時代に入るものと思われる。

**S E 7 0 3 0 1 1**（第24図） 調査区南側の上層検出面で不整楕円形の土坑を検出した。直径1.5m前後で、検出面からの深さ1mまで掘削したが、崩落の危険が生じたため断ち割りを実施した。その結果、検出面からの深さが1.7mを測る井戸と想定されるものとなった。東半は調査区外のため、全体の形状は不明であるが、調査区断面で石組を検出した。掘形の東側に接して川原石を積み上げ、直径1mの



第21図 第7次調査3区上層平面図 (1:200)

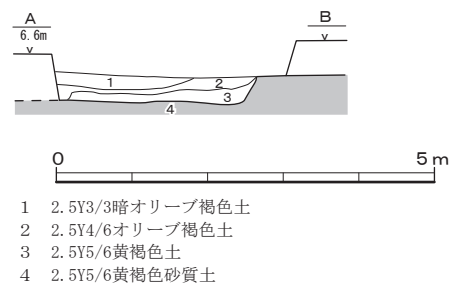


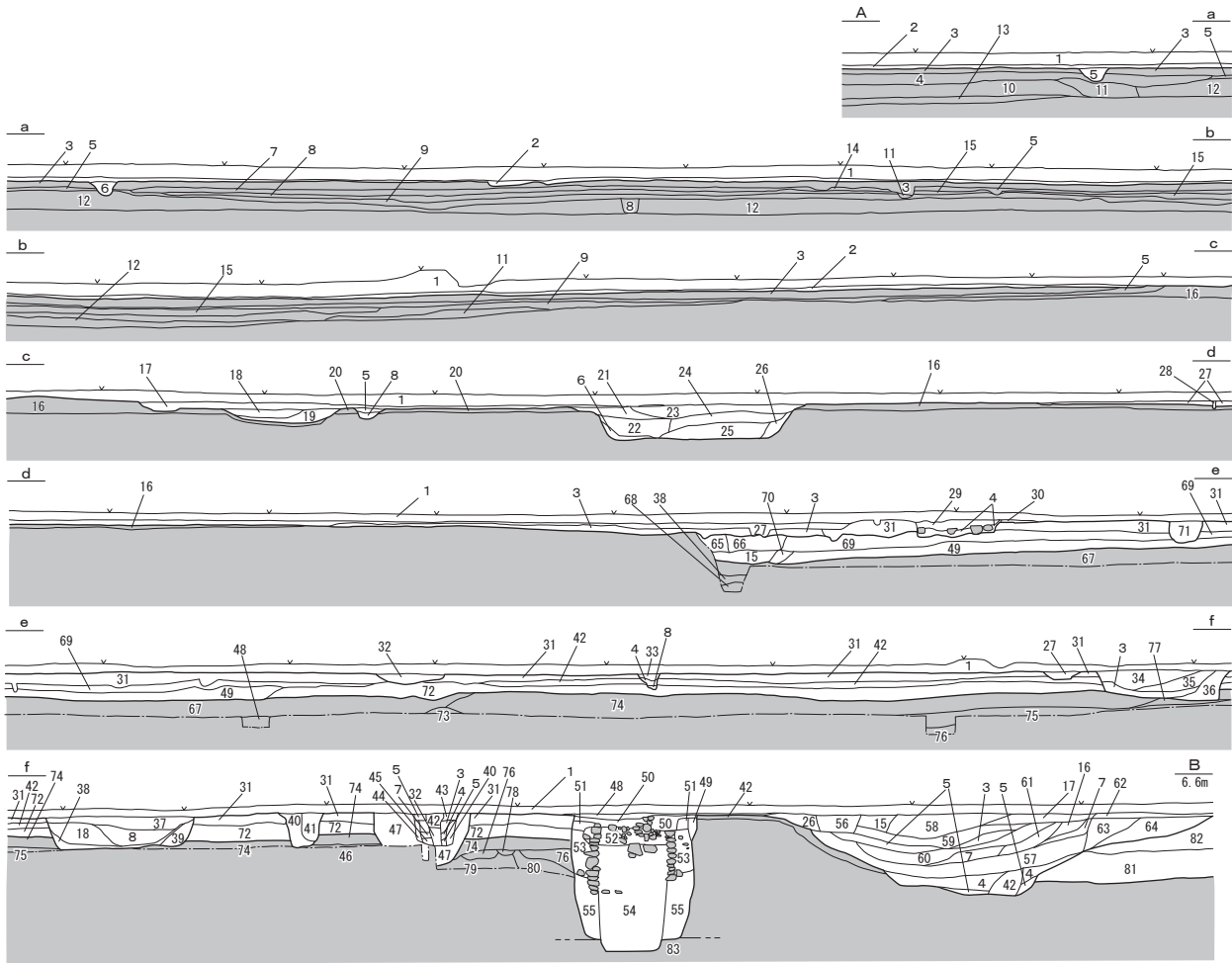
第22図 第7次調査3区下層平面図 (1:200)、SZ703017断面図 (1:100)

井戸としている様である。しかし、検出面から70cmほどで途絶え、その下さらに90cmの礫層に至るまでの井戸枠構造は不明である。さらに、調査区内においては明確な石積みは無い。したがって、6区のS E 706036のように下部は桶等が井戸枠であったものと推測される。西側の石組が残存しないことや、掘形の西に膨張した形態から、後世に石組の西側を壊して桶等を抜き取ったものと思われる。これらの痕跡等を確認すべきであったが、調査区が狭小なことに加え崩落が激しく、この井戸の下部構造については十分な調査が実施できなかった。遺物は埋土上層から多く出土した。新相の山茶碗や土師器皿があり、室町期にちかい鎌倉時代末頃には埋没していたものと考えられる。

**SD703013・703014・703016** (第23図) 調査区中央部で検出した3条の溝である。幅3m～40cm、検出面からの深さ10～30cmを測る3者3様であるが、方向は3者とも条里方向に合致する。SD703013からは第Ⅲ期に下る土師器杯や灰釉陶器が出土しており、10世紀後半の平安時代後期となる。SD703014も同様であるが、若干古相を示す。SD703016は灰釉陶器が出土しているものの詳細な根拠を持たないが、前2者と同時期としておく。

**SK703022** (第24図) SA703023の北方2.5mの延長上に位置する柱穴状の土坑である。直径50cmの円形を呈し、深さは検出面から20cm程度である。小穴であるが、出土した遺物の残存が良好である。119は口縁部片であるが、口縁部が完存し正立、120は1/3程度の残存であるが底部ちかくまでである。



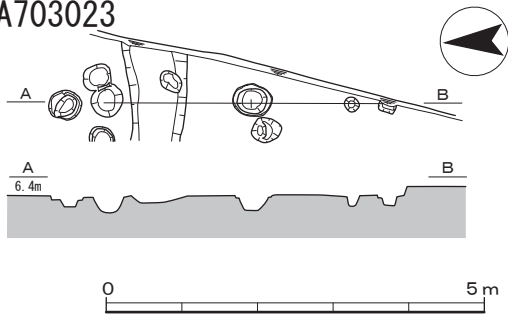


- |   |  |
|---|--|
| <p>1 耕作土<br/> 2 2.5Y5/6 黄褐色シルト<br/> 3 2.5Y5/4 黄褐色シルト&lt;SD703002・703004埋土・上層検出面等&gt;<br/> 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト&lt;SA703023・SK703008・SD703004埋土等&gt;<br/> 5 2.5Y5/3 黄褐色シルト&lt;SD703004・703014埋土等&gt;<br/> 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色極細粒砂<br/> 7 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト&lt;SD703004埋土等&gt;<br/> 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト&lt;SA703023・SD703001・703014埋土等&gt;<br/> 9 2.5Y5/3 黄褐色極細粒砂<br/> 10 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂<br/> 11 2.5Y4/3 オリーブ褐色極細粒砂<br/> 12 2.5Y4/4 オリーブ褐色細粒砂<br/> 13 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 (鉄分少量含)<br/> 14 2.5Y5/3 黄褐色シルト (マンガン含)<br/> 15 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (鉄分少量含) &lt;SD703004埋土等&gt;<br/> 16 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (鉄分含) &lt;SD703004埋土等&gt;<br/> 17 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (鉄分含) &lt;SD703004埋土等&gt;<br/> 18 2.5Y5/4 黄褐色シルト (鉄分含) &lt;SD703001・703016埋土&gt;<br/> 19 5Y4/3 暗オリーブ褐色極細粒砂&lt;SD703016埋土&gt;<br/> 20 2.5Y4/3 オリーブ褐色細粒砂 (鉄分含)<br/> 21 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (鉄分・5塊含)<br/> 22 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト<br/> 23 2.5Y5/4 黄褐色シルト (鉄分・マンガン含)<br/> 24 2.5Y4/3 オリーブ褐色中粒砂<br/> 25 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト<br/> 26 2.5Y5/4 黄褐色細粒砂&lt;SD703004埋土等&gt;<br/> 27 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (鉄分含)<br/> 28 5Y5/2 灰オリーブ色シルト<br/> 29 2.5Y5/4 黄褐色シルト (2.5Y6/3にぶい黄色シルト塊含) &lt;SK703008埋土&gt;<br/> 30 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (マンガン含)<br/> 31 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (マンガン含) &lt;上層検出面&gt;<br/> 32 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト&lt;SD703005埋土等&gt;<br/> 33 2.5Y5/4 黄褐色細粒砂 (マンガン含) &lt;SA703023埋土&gt;<br/> 34 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト (2.5Y5/4黄褐色シルト塊・鉄分少量含) &lt;SD703002埋土&gt;<br/> 35 2.5Y6/6 明黄褐色シルト&lt;SD703002埋土&gt;<br/> 36 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (鉄分少量含) &lt;SD703002埋土&gt;<br/> 37 2.5Y5/3 黄褐色シルト (2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊・鉄分含) &lt;SD703001埋土&gt;<br/> 38 10YR3/4 暗褐色極細粒砂&lt;SD703001埋土等&gt;<br/> 39 10YR6/2 灰黄褐色シルト&lt;SD703001埋土&gt;<br/> 40 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト<br/> 41 10YR5/2 灰黄褐色シルト<br/> 42 10YR4/2 灰黄褐色シルト&lt;SD703004埋土等&gt;<br/> 43 10YR3/3 暗褐色シルト</p> | <p>44 2.5Y5/4 黄褐色粘土<br/> 45 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土<br/> 46 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂<br/> 47 2.5Y6/1 灰白色シルト<br/> 48 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂<br/> 49 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト&lt;SE703011埋土等&gt;<br/> 50 7.5YR4/2 灰褐色砂質土&lt;SE703011埋土&gt;<br/> 51 7.5YR4/1 褐灰色砂質土&lt;SE703011埋土&gt;<br/> 52 7.5YR4/3 褐色粘質土&lt;SE703011埋土&gt;<br/> 53 7.5YR3/4 暗褐色砂礫土&lt;SE703011埋土&gt;<br/> 54 7.5YR4/6 褐色粘質土&lt;SE703011埋土&gt;<br/> 55 7.5YR4/1 褐灰色砂礫層&lt;SE703011埋土&gt;<br/> 56 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (鉄分少量含) &lt;SD703004埋土&gt;<br/> 57 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト&lt;SD703004埋土&gt;<br/> 58 2.5Y5/3 黄褐色シルト (鉄分・マンガン含) &lt;SD703004埋土&gt;<br/> 59 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (鉄分少量含) &lt;SD703004埋土&gt;<br/> 60 10YR4/2 灰黄褐色シルト (鉄分含) &lt;SD703004埋土&gt;<br/> 61 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルトと5の混成&lt;SD703004埋土&gt;<br/> 62 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (マンガン含) &lt;SD703004埋土&gt;<br/> 63 10YR5/8 黄褐色土&lt;SD703004埋土&gt;<br/> 64 7.5YR3/4 暗褐色砂質土&lt;SD703004埋土&gt;<br/> 65 10YR4/6 褐色極細粒砂<br/> 66 10YR5/6 黄褐色細粒砂<br/> 67 10YR3/4 暗褐色シルト<br/> 68 10YR3/4 暗褐色中粒砂<br/> 69 10YR4/6 褐色中粒砂<br/> 70 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト (鉄分多含)<br/> 71 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂<br/> 72 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト (鉄分少量含)<br/> 73 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細粒砂<br/> 74 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂&lt;下層検出面等&gt;<br/> 75 10YR4/4 褐色極細粒砂<br/> 76 10YR4/4 褐色細粒砂<br/> 77 10YR5/2 灰黄褐色シルト (鉄分少量含)<br/> 78 7.5YR3/3 暗褐色中粒砂<br/> 79 2.5Y6/3 にぶい黄色粗粒砂<br/> 80 7.5YR4/4 褐色中粒砂<br/> 81 10YR3/4 暗褐色砂礫層<br/> 82 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土<br/> 83 7.5YR5/1 褐灰色粗砂</p> |
|---|--|

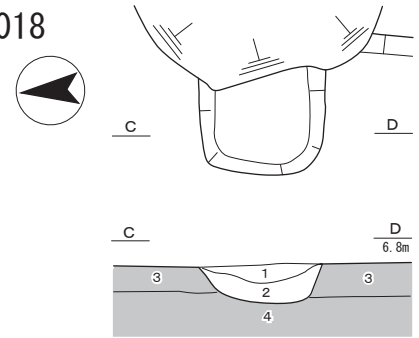
第23図 第7次調査3区土層断面図 (1 : 100)



SA703023

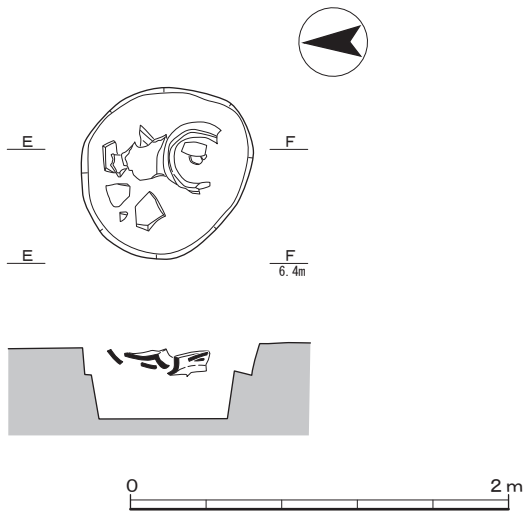


SK703018

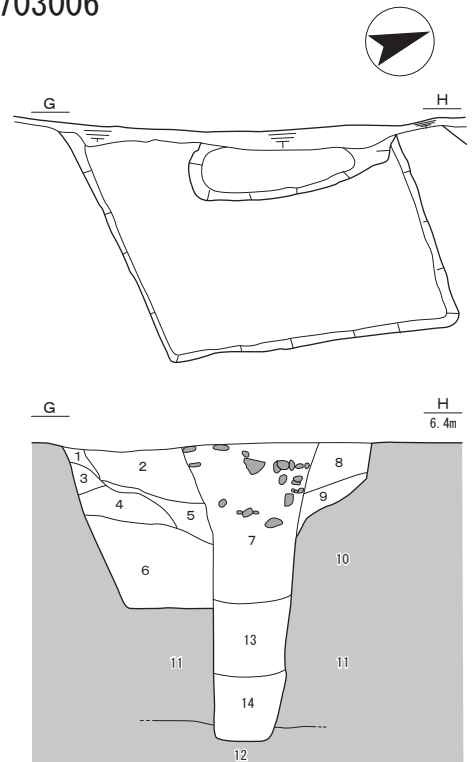


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 (炭少量含)
- 2 7.5YR5/4 にぶい褐色土
- 3 2.5Y5/6 黄褐色砂質土
- 4 7.5YR4/6 褐色砂質土

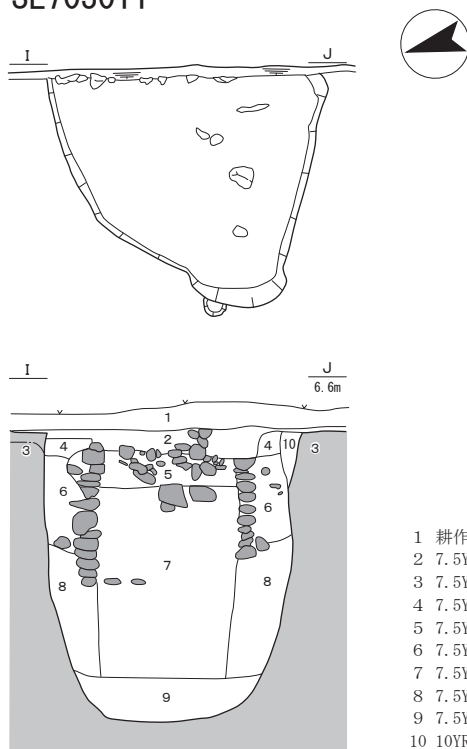
SK703022



SE703006



SE703011

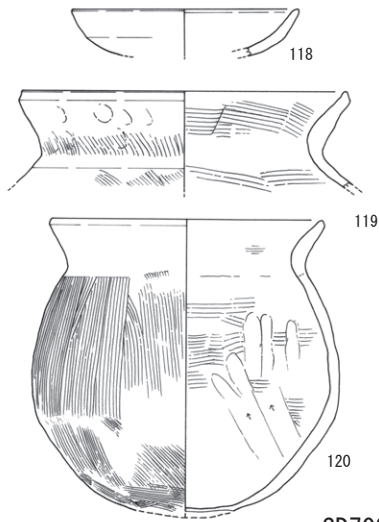


- 1 耕作土
- 2 7.5YR4/2 灰褐色砂質土
- 3 7.5YR4/3 褐色土
- 4 7.5YR4/1 褐灰色砂質土
- 5 7.5YR4/3 褐色粘質土
- 6 7.5YR3/4 暗褐色砂礫土
- 7 7.5YR4/6 褐色粘質土
- 8 7.5YR4/1 褐灰色砂礫層
- 9 7.5YR5/1 褐灰色粗砂層
- 10 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト

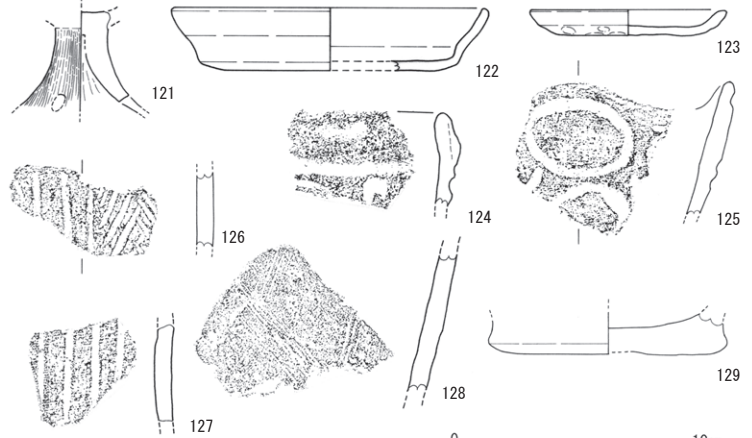
- 1 2.5Y5/4 黄褐色シルト
- 2 10YR4/4 褐色シルト
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト
- 5 2.5Y5/3 黄褐色シルト
- 6 10YR4/4 褐色極細粒砂
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 8 2.5Y5/4 黄褐色シルト
- 9 10YR4/3 褐色シルト
- 10 7.5Y4/3 褐色シルト
- 11 7.5YR5/1 褐灰色砂礫層
- 12 10YR7/8 黄褐色粗砂層
- 13 10YR3/4 暗褐色土
- 14 10YR3/4 暗褐色粘質土

第24図 SA703023 (1 : 100) ・ SE703006 ・ SE703011 ・ SK703018 (1 : 50) 実測図、SK703022遺物出土状況図 (1 : 20)

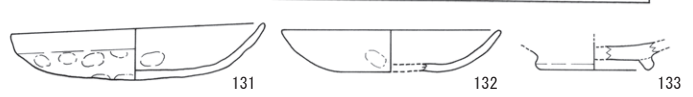
SK703022



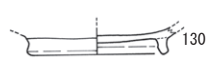
SD703001



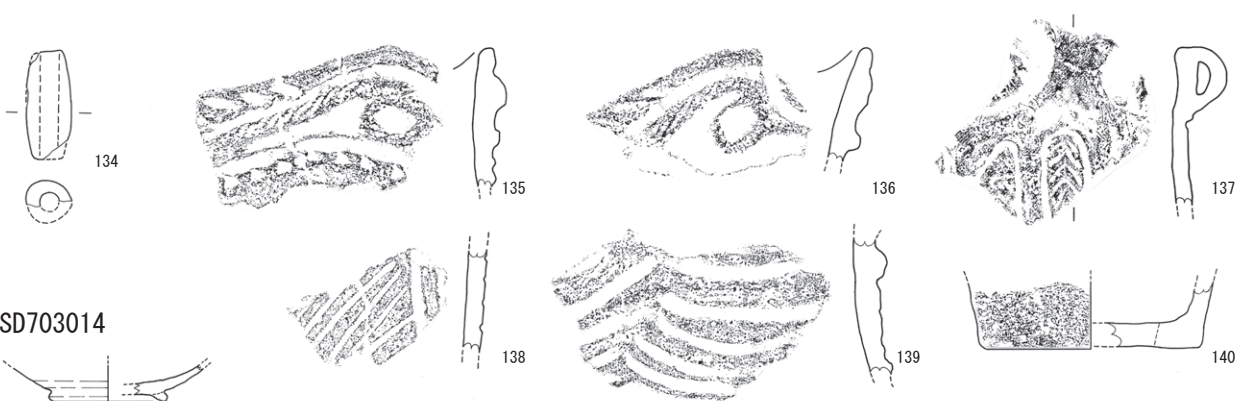
SD703013



SD703005



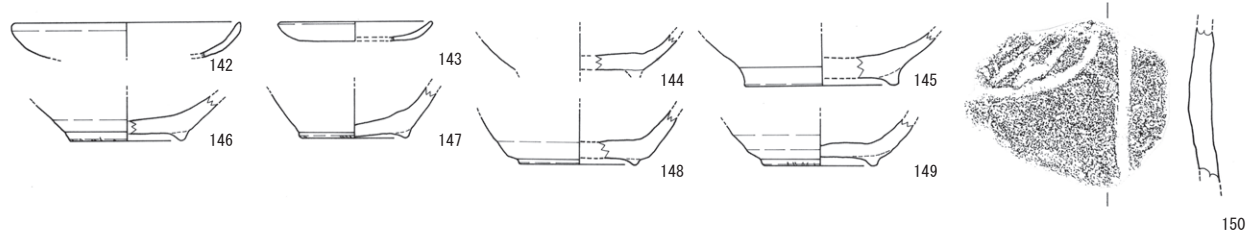
SD703002



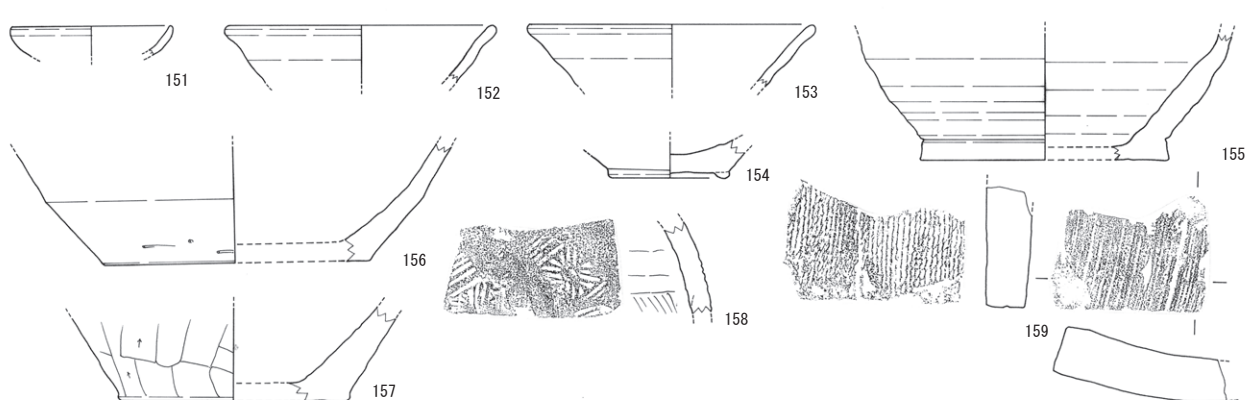
SD703014



SE703006



SE703011



第25図 第7次調査3区上層遺構出土遺物 (124~129・135~140・150 = 1 : 3、他は1 : 4)

両者とも律令期としては古相を示す土師器甕で、他に土師器の粗製椀（118）片も出土している。これらは、いずれも埋土上半の検出面ちかくから集中して出土したが、完形品を埋納したとするには程遠い状況である。

**SA703023**（第24図） 調査区中央部の上層検出面で検出した柱列である。調査区内では2間分の検出に止まり、周辺には小穴も多く柱列とするに疑問もあるが、南側調査区外へ続くものと考え、その可能性として提示する。柱掘形は直径40cmの円形を呈する小規模なもので、深さは検出面から20cm程度である。出土遺物は無く、時期は不明とせざるを得ない。

### （2）下層検出遺構

縄文土器を多く包含するものの確認できた遺構は少なく、不明確なものである。SZ703017・SZ703019・SK703020・SK703021は調査区南端で検出しているが、SK703021は検出面で確認するも土層断面では確認できず、遺構とするに疑問のものである。SZ703019は竪穴住居状の形状を呈するが、決め手を欠く。SZ703017・SK703021は、浅い落ち込み状で、人為的なものではないかも知れない。

**SK703018**（第24図） 東側が上層遺構により消滅しているため、全体の規模は不明であるが、一辺80cm程の隅丸方形を呈する土坑の可能性がある。深さは20cm程度と浅く、埋土は上下2層に分かれ、上層は炭を少量含む。縄文土器片が多数出土している。

### （3）上層遺構出土遺物

遺物量はさほど多くない。遺構出土遺物としたものの、その大半が混入遺物である場合も多く、一括性に欠ける。そのなかで、SK703022やSE703011からは比較的まとまった出土があった。

**SK703022出土遺物**（第25図） 小型の土坑から一括して出土したものである。118は土師器の椀、119・120は甕である。土師器甕の口縁下部は肥厚し、やや緩慢であるが外に面をもち概ね古相を示すものと思われる。対して椀の器高が低いが、小片からの復元のため正確を欠く可能性がある。これらは律令期としては前半の飛鳥から奈良時代前半として良いであろう。

**SD703001出土遺物**（第25図） 縄文土器から土師器まで多様な遺物がある。122は土師器の杯、123は皿で、123が最も新相を呈する。121は弥生から古式土師器の高杯、124～129は縄文土器で明らかな混入遺物である。121は外面をヘラミガキで調整するが、横線等の装飾はない。縄文土器は沈線で装飾するが、124には隆帯を加え口唇部外面に強い指押さえを施す。128は条痕とすべきもので、二枚貝によるものであろうか。

**SD703005出土遺物**（第25図） 130は灰釉陶器で唯一図示できたものである。高い高台をもつが、高台は内弯せず、底部外面のロクロケズリは確認できない。

**SD703013出土遺物**（第25図） 土師器と灰釉陶器がある。131・132は土師器で杯としたが、皿状の形状を呈し、器壁もやや厚い。133は底部片のため詳細は不明であるが、低く幅の広い高台を貼り付ける。これらは、土師器杯が第Ⅲ期に下るが、灰釉陶器が共伴するため10世紀後半から11世紀前半までのものと思われる。

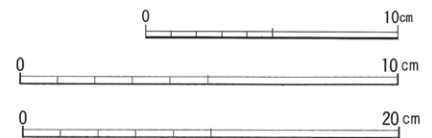
**SD703002出土遺物**（第25図） 平安時代末期の溝出土遺物であるが、土錘（134）が当該時期の可能性のあるものの他は縄文土器で、明らかな混入遺物である。縄文土器はいずれも小片で、沈線を中心に施文されるが、135は沈線間が隆帯状となる。135・136には一部に縄文が施され、文様構成が類似することから同一個体の可能性がある。137は橋状把手をもち、縦長の区画内に綾杉文を配置する。

**SD703014出土遺物**（第25図） 図示できたものは灰釉陶器の皿のみであるが、他に土師器杯も出土している。141は外に開いた高台を貼り付けるが、底部の残存が僅かのため外面のロクロケズリは確認できない。

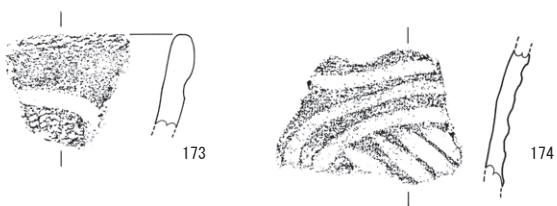
**SE703006出土遺物**（第25図） 室町時代の下る土師器鍋等の出土があり、図示したものは全て混入遺物の可能性がある。142・143は土師器の皿で、大型のものと小型のものである。143は当該時期に最も近いものであるが、器壁は比較的厚い。142の器壁も同様で、口縁部の内弯は非常に弱い。

144～149は山茶椀の底部片であるが、大半のものが高台は低く雑なものである。150は縄文土器の

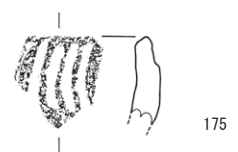
SZ703017



SZ703019



SK703020



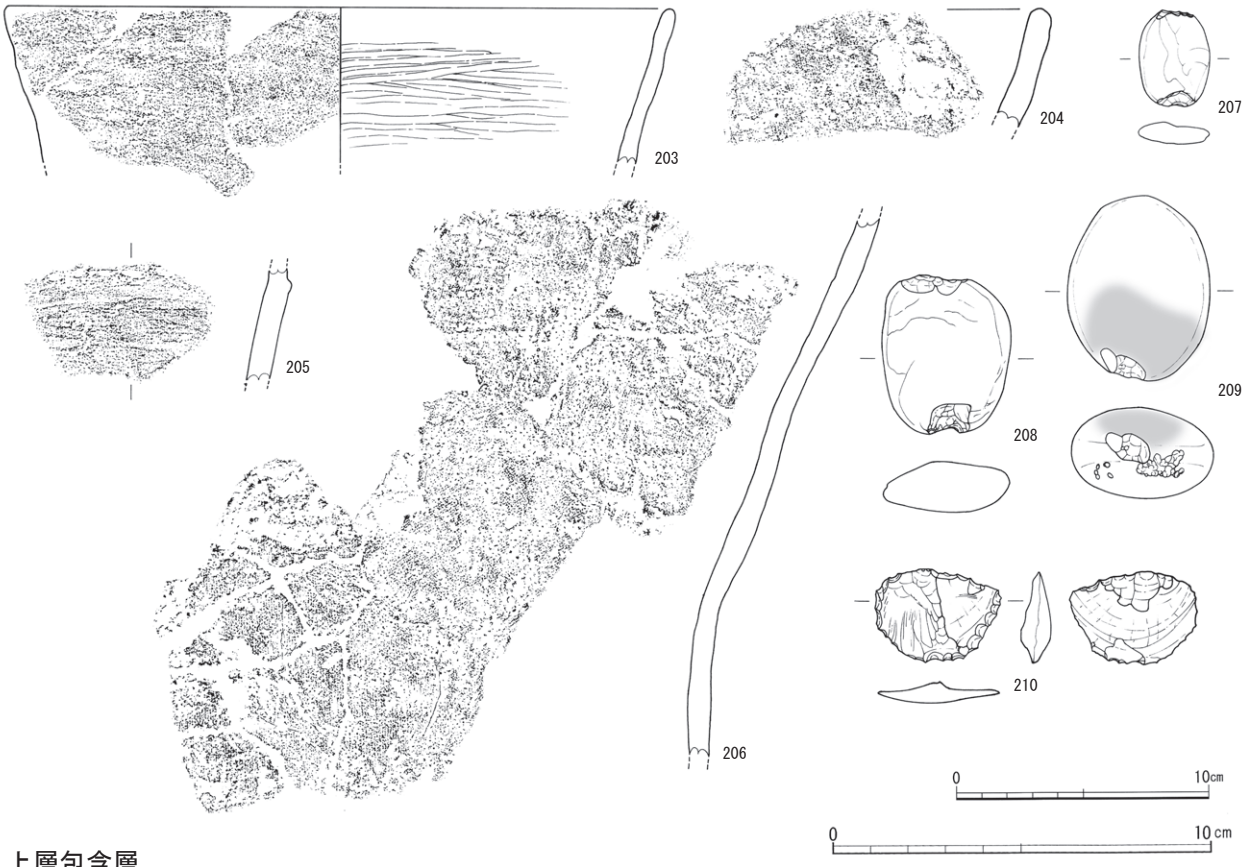
第26図 第7次調査3区下層遺構出土遺物 (171 = 1 : 2、172 = 1 : 4、他は1 : 3)



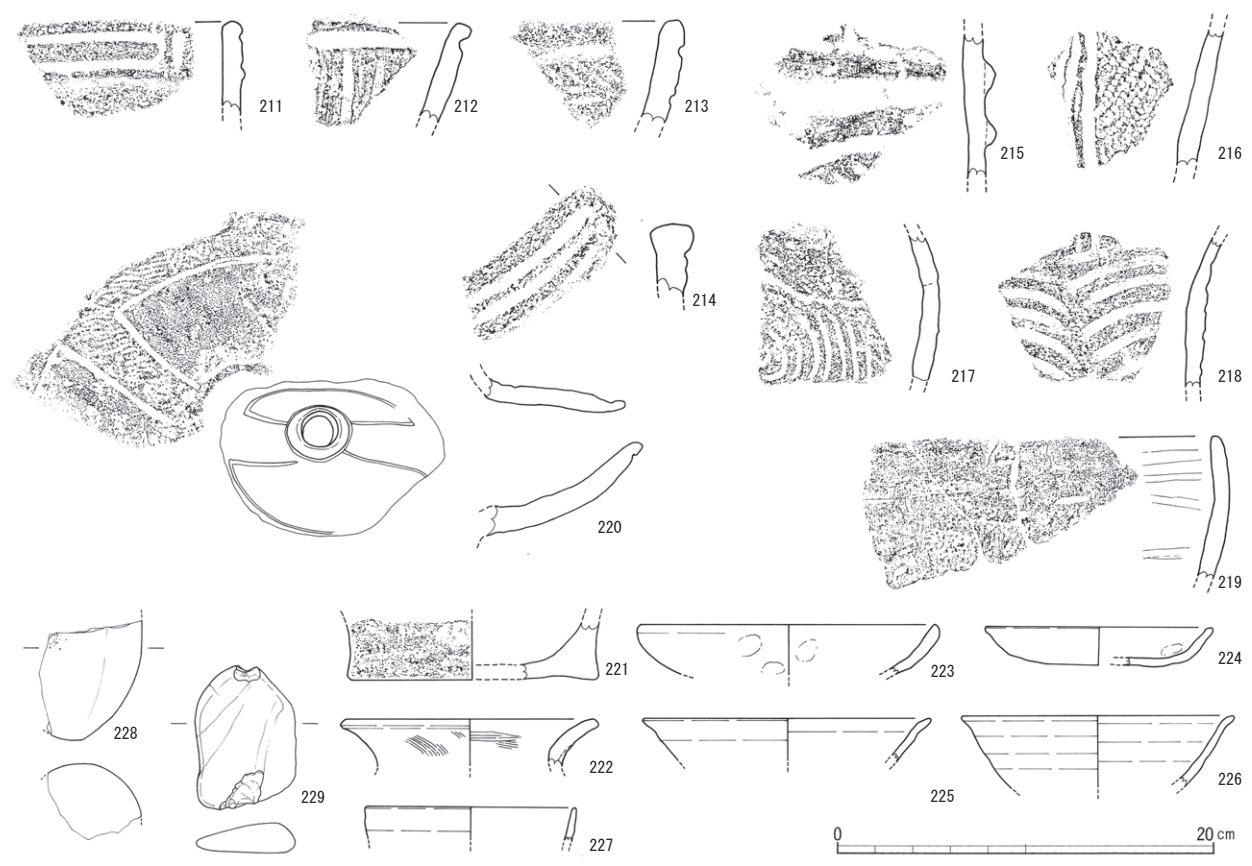


第27図 第7次調査3区下層包含層出土遺物 (1 : 3)

下層包含層



上層包含層



第28図 第7次調査3区下層包含層・上層包含層出土遺物 (210 = 1 : 2、207 ~ 209・222 ~ 229 = 1 : 4、他は1 : 3)



小片で、沈線で区画した文様を施す。

**S E 7 0 3 0 1 1 出土遺物** (第 25 図) 151 は土師器の皿、152～154 は山茶碗である。山茶碗の口縁部は直線的で外反はみられない。Ⅲ段階 7 型式に並行し、13 世紀後半にかかる。155・156 も山茶碗と同質の鉢であるが、155 の体部外面下半にロクロケズリは認められない。157 も鉢であるが、赤褐色を呈する常滑のもので、外面に縦方向のヘラケズリを施す。158 も常滑の甕であるが、外面に菊花文をスタンプで施している。159 は陶質の平瓦であるが、酸化焼成となる。

#### (4) 下層遺構出土遺物

縄文時代中期後半から後期初頭のもものが比較的まとまって出土している。しかし、不明確な落ち込みに関連するものが多く、遺構出土としたものの包含層出土にちかいものが大半である。

**S Z 7 0 3 0 1 7 出土遺物** (第 26 図) 160～170 は縄文土器、171 はチャートの石核、172 は打欠石錘で、172 は裏面が剥離状態に欠損している。160～163 は沈線で渦文等を描き、164・165 は円形の刺突を多数施す。164 の口唇部には縄文も施されている。166 はやや細い沈線で綾杉文、167～169 は無文で条痕を施す。170 は脚台で、幅の広い隆帯を縦方向に数条施すようで、円形の透孔も設けられている。

**S Z 7 0 3 0 1 9 出土遺物** (第 26 図) 多数の縄文土器小片が出土しているが、図示できたものは口縁部片の 173 と体部片の 174 である。173 は摩滅のため不明確であるが、磨消縄文と思われる。

**S K 7 0 3 0 2 0 出土遺物** (第 26 図) 175 は図示できた唯一のものである。内湾する口縁部片で、縦方向に弧状の沈線を多数施している。

#### (5) 下層包含層出土遺物 (第 27・28 図)

縄文土器 (176～206) と石錘 (207・208)、敲石 (209)、R F (210) がある。176～182 は太い沈線で施文するもので、176 や 177 は刺突文を加える。177 の沈線間は隆帯となるが、176・178 も同様な傾向がみえる。182 は太い沈線に綾杉文を加えるもので、183 も同様な構成であるが、沈線は細いものとなる。185・187 は沈線と条線の構成であるが、条線は綾杉文を意識したものようである。184 は残存部分に限れば隆帯のみで、188 は条線状の沈線に

隆帯で渦文を付加している。186 や 191・192 には縄文が施され、203～206 は無文でナデやヘラミガキで調整される。195 は把手、194 は脚付の小型鉢で、円形透孔を 4 方に穿つ。なお、189 の外面には赤色顔料の付着が僅かに認められる。

石錘は両者とも打欠石錘、R F は石鏃を指向したもののようである。敲石 (209) の敲面には赤色顔料の付着がある。後述する分析の結果、赤色顔料は水銀朱の可能性が高いことが確認された。

#### (6) 上層包含層等出土遺物 (第 28 図)

211～221 は縄文土器である。沈線により文様を描くものが多いが、215 は隆帯、220 は磨消縄文である。211 は口縁直下に細長い区画、217 は渦文を描くものと思われる。

222 は弥生土器または古式土師器の壺の口縁部であるが、内外面にハケメを残す。223・224 は土師器の皿、225 は灰釉陶器、226 は山茶碗であるが、225 の灰釉は口縁部内面に僅かに確認できる程度、226 は胎土の精良な山茶碗である。227 は須恵器、228 は磨石、229 は石錘である。227 は短頸壺の口縁部としたが、受部をもつ杯の可能性もある。(萩原・森川)

### 4. 4 区

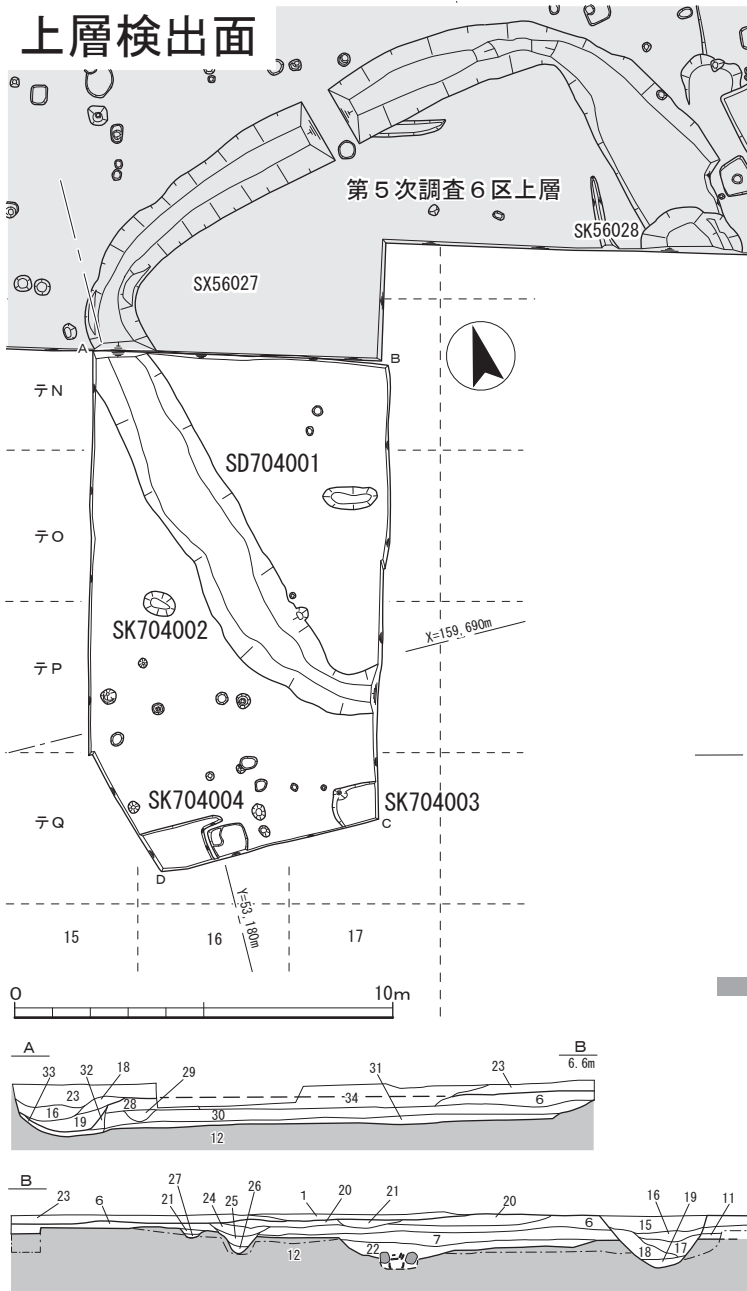
3 区の南側延長上にある小規模な調査区で、3 区との間には第 5 次調査 6 区が位置する。したがって、調査区北端は第 5 次調査 6 区と接続する。第 5 次調査 6 区では上下 2 層の検出面を確認しているため、当調査区においても同様に実施した。

#### (1) 上層検出遺構

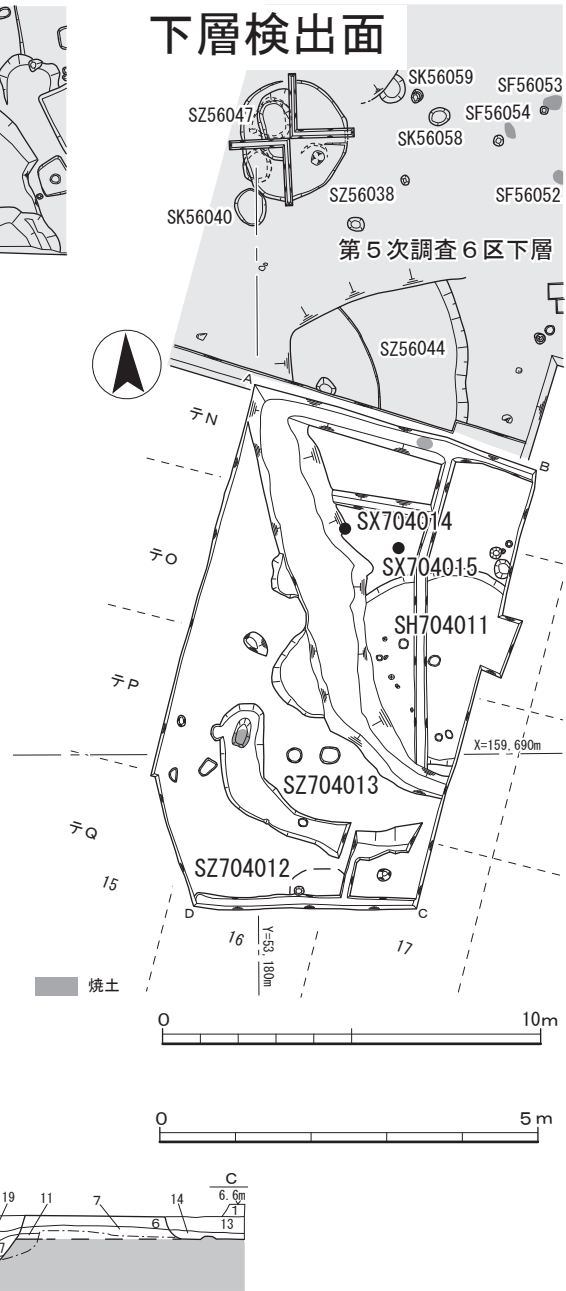
遺構密度は希薄で、3 基の土坑と方形周溝墓を構成する溝 1 条を検出したに止まる。

**S D 7 0 4 0 0 1** (第 30 図) 調査区の中央部を斜行する溝である。第 5 次調査の S X 56027 と連結し、両者で方形周溝墓を構成する。溝の内側で一辺 13 m の正方形を呈する。溝の幅は 2 m、検出面からの深さは 70cm 未満を測るが、東方への屈曲部は狭く、深さも浅くなる。この傾向は第 5 次調査区内でも共通しており、四隅とも溝幅を減じていた様である。したがって、溝内岸は整った正方形、外側は円形にちかい平面形を呈している。両調査区においても南辺は調査区外で、陸橋の有無は確認できない。

# 上層検出面



# 下層検出面

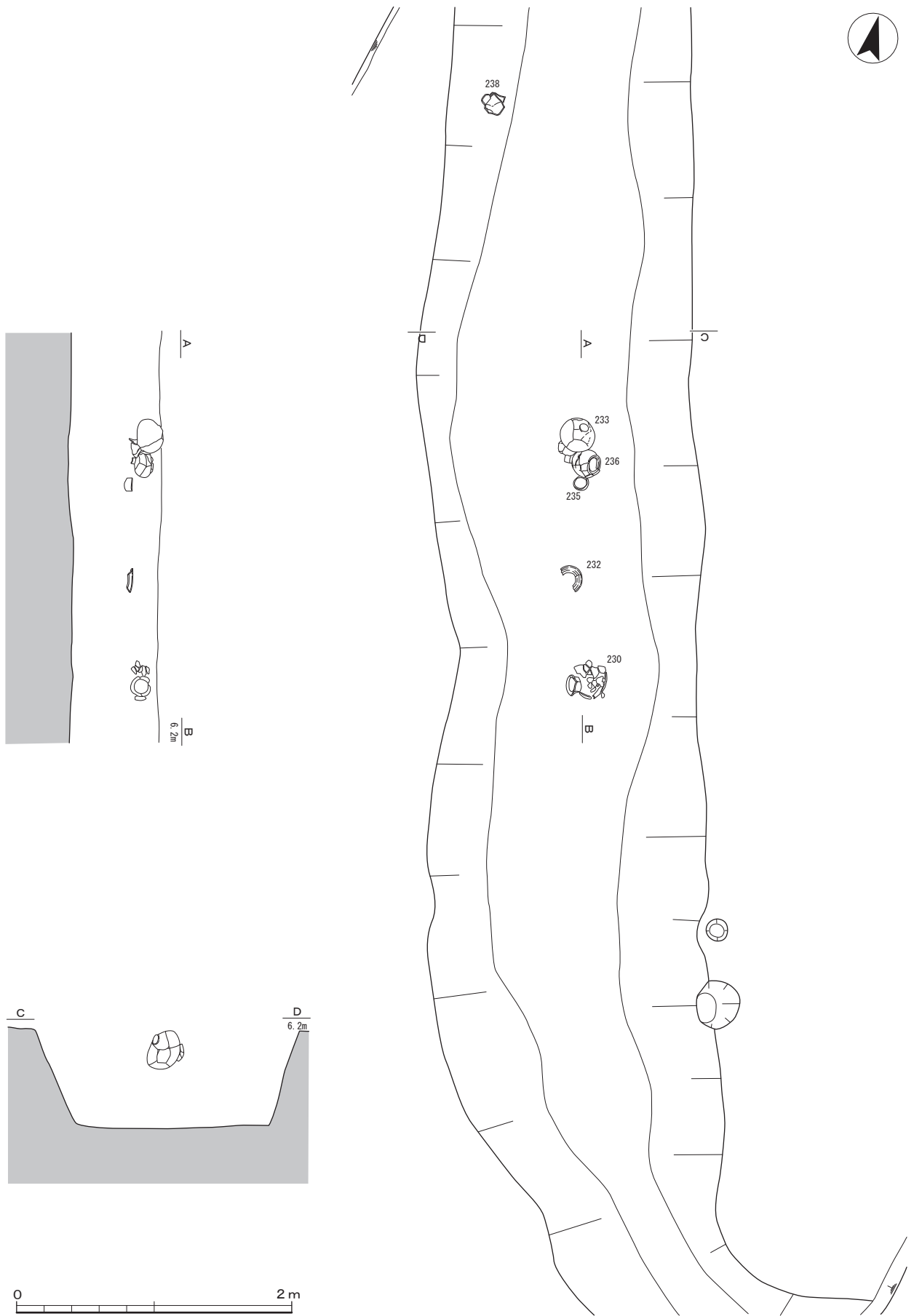


- 1 耕作土
- 2 10YR6/6 明黄褐色シルト (マンガン微量含)
- 3 10YR6/8 明黄褐色シルト (マンガン微量含)
- 4 2.5Y6/4 にぶい黄シルト (マンガン微量含) <SK704004埋土>
- 5 10YR6/3 にぶい黄橙シルト (マンガン微量含) <SK704004埋土>
- 6 2.5Y5/3 黄褐色シルトと10YR5/3 にぶい黄褐色シルトの混成 <上層検出面>
- 7 10YR4/6 褐色粘質シルト (幅1mm~2mm程縦筋状に2.5Y7/3淡黄色粘土を無数含)
- 8 2.5Y5/6 黄褐色粘土 (幅3mm程縦筋状に2.5Y7/3淡黄色粘土を無数含)
- 9 10YR4/4 褐色粘質粘土 (2.5Y7/3 淡黄色粘土粒(径3mm~5mm)多量含)
- 10 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土 (2.5Y7/3 淡黄色粘土粒(径5mm~1cm)多量含) <下層包含層>
- 11 2.5Y3/2 黒褐色シルト (2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊・炭化物微量含) <下層包含層>
- 12 2.5Y5/8 黄褐色砂質シルト (2.5Y7/2 灰黄色粘土塊多含) <下層検出面>
- 13 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色粘土粒(径2mm~4mm)微量含) <SK704003埋土>

- 14 10YR4/1 褐灰色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色粘土粒(径1mm~2mm)微量含) <SK704003埋土>
- 15 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色シルト含、マンガン微量含) <SD704001埋土>
- 16 10YR4/2 灰黄褐色シルト (10YR3/4 暗褐色シルト含) <SD704001埋土>
- 17 10YR4/4 褐色シルト (炭化物微量含) <SD704001埋土>
- 18 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (10YR5/6 黄褐色シルト含・径5mm程度の小石微量含) <SD704001埋土>
- 19 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土 <SD704001埋土>
- 20 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (マンガン微量含) <上層検出面>
- 21 7.5YR4/6 褐色シルト (焼土)
- 22 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト (2.5Y8/2 灰白色粘土塊(径3mm~1cm程)少量含) <SH704011埋土>
- 23 10YR5/6 黄褐色シルト (炭化物・マンガン微量含)
- 24 7.5YR4/3 褐色シルト (炭化物微量含) <土坑埋土>
- 25 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (炭化物微量含) <土坑埋土>
- 26 10YR5/6 黄褐色シルト (炭化物少量含) <土坑埋土>
- 27 7.5YR4/2 灰褐色シルト <焼土坑埋土>
- 28 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR7/6 明黄褐色シルト含)
- 29 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト
- 30 10YR6/6 明黄褐色シルト (炭化物含)
- 31 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (炭化物含)
- 32 2.5Y3/2 黒褐色シルト (2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土塊微量含)
- 33 2.5Y4/1 黄灰色砂層
- 34 攪乱層

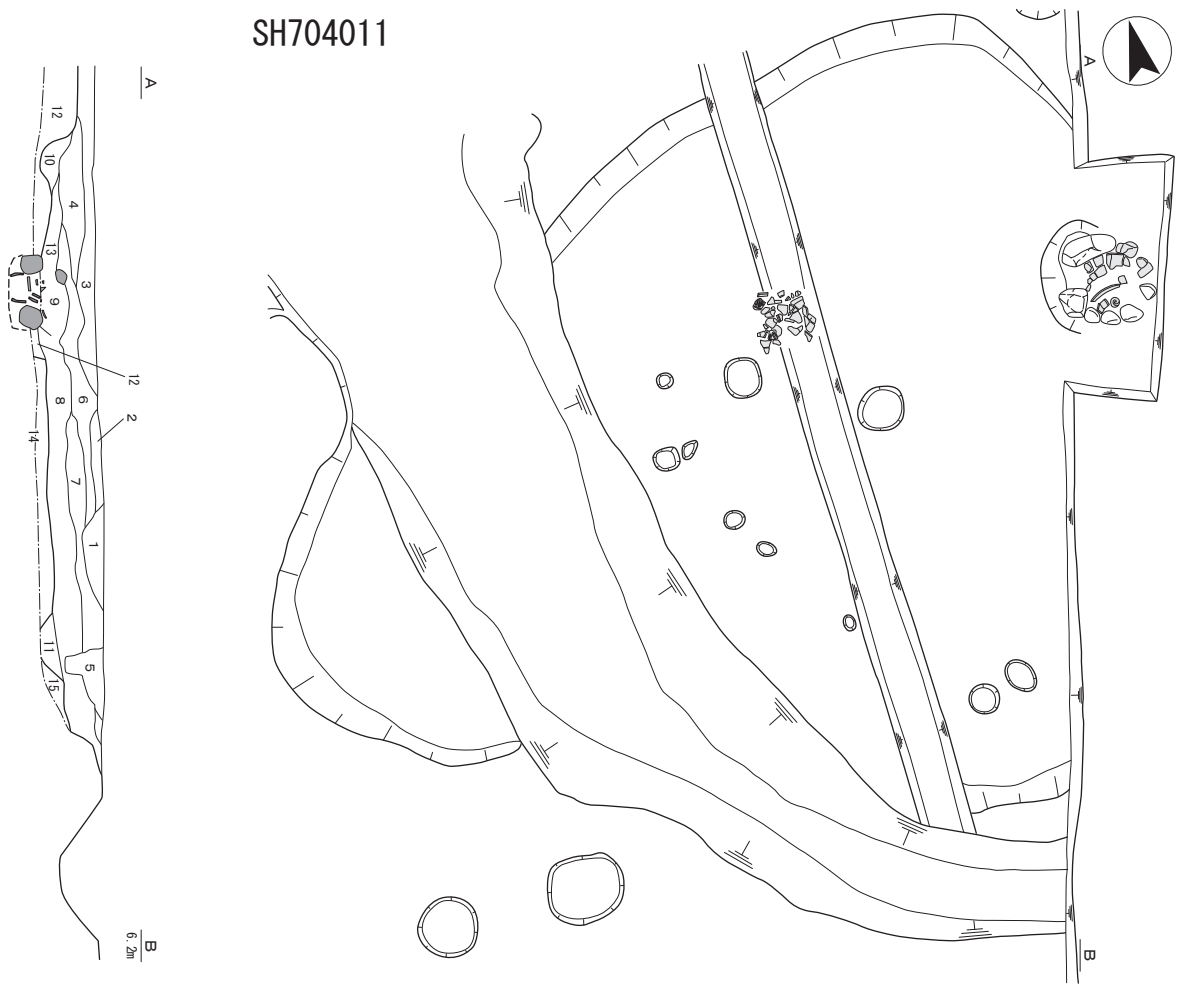
第29図 第7次調査4区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)





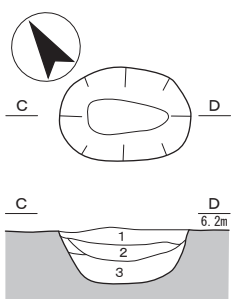
第30図 SD704001遺物出土状況図 (1 : 40)

# SH704011



- |   |   |
|---|---|
| 1 2.5Y5/2 暗灰黄色 (10YR5/3 にぶい黄褐色粘土・焼土・炭化物含)         | 9 2.5Y4/2 暗灰黄シルト<br>(10YR6/6 明黄褐シルト少量含、炭化物微量含、土器堆積) |
| 2 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト (炭化物含)                         | 10 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト (2.5Y8/3 淡黄色粘土塊(径5mm~1cm)斑状に含)  |
| 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y5/6 黄褐色シルト少量含)          | 11 10YR4/2 灰黄褐色シルト (2.5Y5/4 黄褐色シルト含、炭化物微量含)         |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト                               | 12 2.5Y7/4 淡黄色シルト<検出面>                              |
| 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土 (10YR5/4にぶい黄褐色シルト少量含)          | 13 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト少量含)           |
| 6 10YR3/3 暗褐色シルト (2.5Y4/2 暗灰黄色極粒砂微量含)             | 14 10YR5/6 黄褐色シルト (径5mm~1cmの礫多含)                    |
| 7 10YR3/2 黒褐色シルト (2.5Y5/4 黄褐色極粒砂少量含)              | 15 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト (2.5Y7/2 灰黄色極細粒砂含)              |
| 8 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト (2.5Y8/2 灰白色粘土塊(径3mm~1cm)少量含) |   |

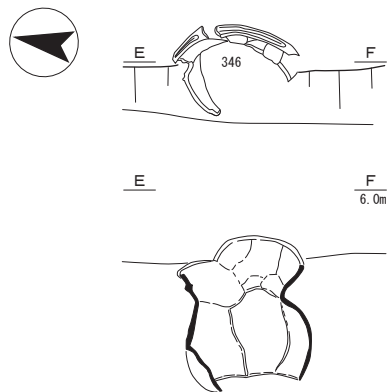
## SK704002



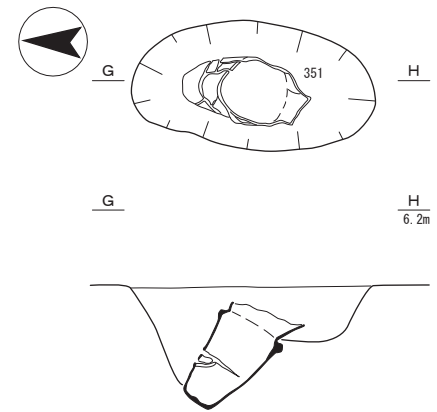
- |  |
|--|
| 1 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト<br>(5YR4/3 にぶい赤褐色シルト・焼土多含) |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト                            |
| 3 10YR4/4 褐色シルト                                |



## SX704014



## SX704015



第31図 SK704002・SH704011実測図 (1:50)、SX704014・SX704015実測図 (1:20)

埋土はシルトで、炭化物を微量に含む層もある。

今回の調査においても完形にちかい壺(230・233)や甕(236)が出土しているが、溝底から相当浮いた位置から正立や倒立、横倒しの不統一な状態で出土している。この様な状況から、これらの遺物は第5次調査の状況と同様に、溝の埋没が相当進んだ時期に転落したものと考えられる。これらの遺物は、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけてのものであるため、方形周溝墓としては、終末にちかい時期のものとなる。

**SK704002** (第31図) 調査区中央部で検出した直径60～85cm、検出面からの深さ30cm程度の楕円形を呈する小規模な土坑である。埋土は3層に分かれるが、最上層は焼土を多量に含む。中層と下層は検出面層との異差が少なく、埋土とするに疑問もあるが、中層には焼土の混入もある。縄文土器の小片が出土しているが、上層での検出であるため縄文時代に遡ることは困難である。

**SK704003・704004** (第29図) 調査区南端で検出した2基の土坑であるが、SK704004は平面検出と土層断面で形状に齟齬が生じており、検出に疑問が残る。両者とも若干の遺物が出土したのみである。調査区南側には現況の水路があり、これに向けての地層の傾斜を土坑と認識した可能性もある。

## (2) 下層検出遺構

竪穴住居状の土坑1棟、埋設土器2基を検出したほか、不明瞭な落ち込みや、焼土を検出している。

**SH704011** (第31図) 直径約5mの円形を呈するものと思われ、東半が調査区外である。調査区端で石囲炉を検出しており、竪穴住居を想定した。しかし、平面形は相当歪んだ不整形円形となり検出に疑問も残る。壁は比較的緩やかに傾斜し、埋土には炭化物を含む。床面に接して縄文土器小片が集中する個所があるが、炉の痕跡とするには焼土や炭が少ない。

石囲炉は調査区端で2個の石が立てられていることを手掛かりとして、調査区を拡張して検出した。石は、円形に5個立て並べられているが、北東側は欠損している。内部は縄文土器の小片があたかも敷き詰められた様な状態で出土している。これらの直

下に、底部と口縁部を欠いた深鉢(289)が据えられている。この289と上部の小片とは接合せず、別個体である。

深鉢の体部と石で構成されるSH704011の石囲炉に想定されるものであるが、疑問もある。住居の炉とするには北に偏り過ぎる。また、炭や焼土が殆ど検出されていない。殆ど未使用の状態に住居が廃棄されたものか、抜本的に住居や炉ではないことも視野に残る。

**SZ704012・704013** SZ704012は縄文土器が出土する層を土坑埋土と想定したが、遺構として検出できなかった。SZ704013はSH704011の外側を回り込むように弧状に検出した溝で、多くの縄文土器が出土している。しかし、南側岸の検出には疑問が残り、北端部の焼土との関連も不明である。これらは、南側に向けての層位の傾斜であるかも知れない。

**SX704014** (第31図) 西半を後世の方形周溝墓によって削平されているが、底部を欠失した深鉢を正立に埋設したものである。掘形は判然としない。

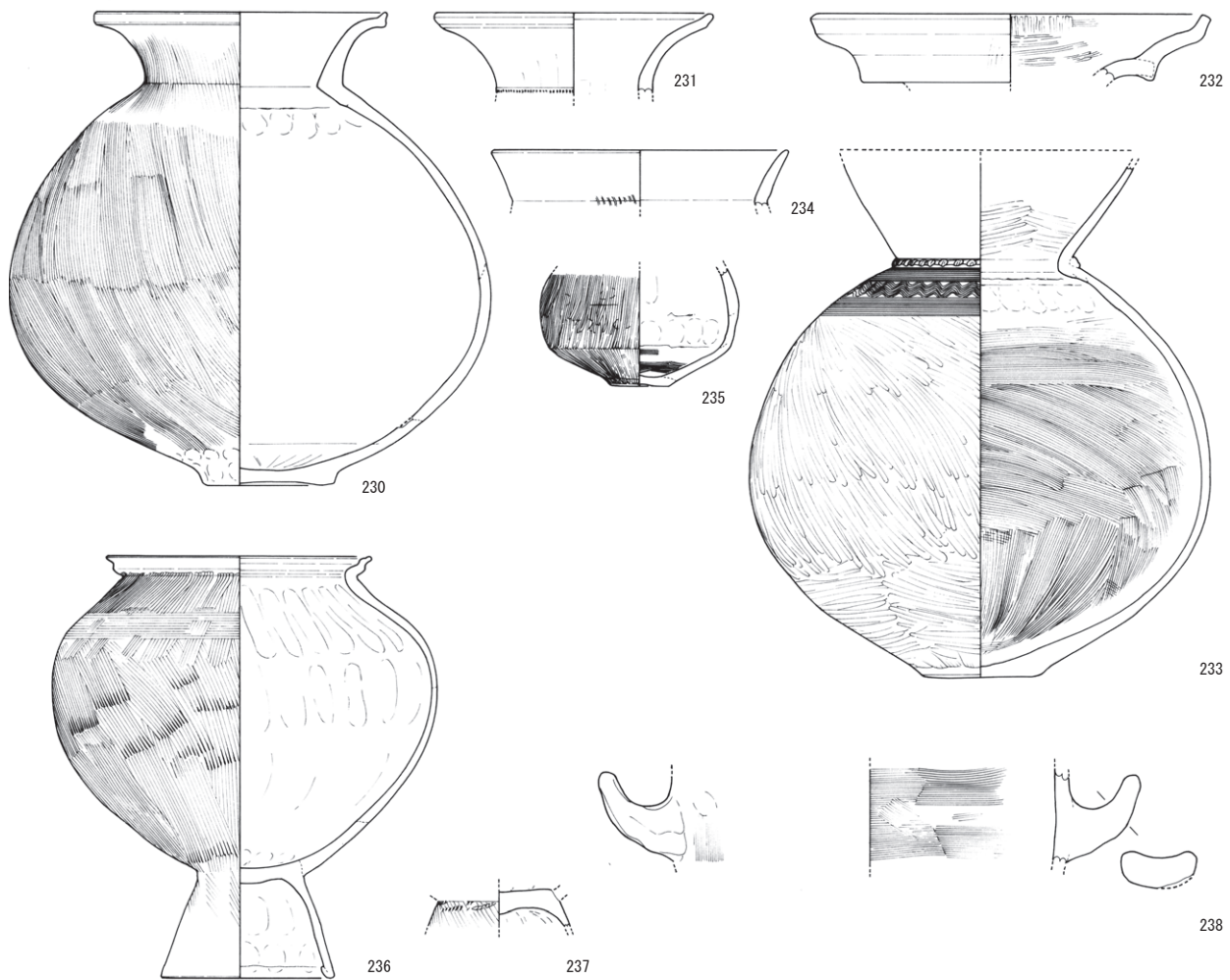
**SX704015** (第31図) 深鉢を正立斜位に埋設している。掘形は土器より一回り大きい楕円形で、南側壁に沿うかたちで土器を埋設している。口縁部を欠損するが、本来は完形で埋設されたものと思われる。後述するリン・カルシウム分析の結果では、骨や歯が土器内に存在した可能性があるものの土器外の基盤層にもリン・カルシウムが多い個所があり、土器棺墓と判断するには慎重を要する結果となった。

## (3) 遺物

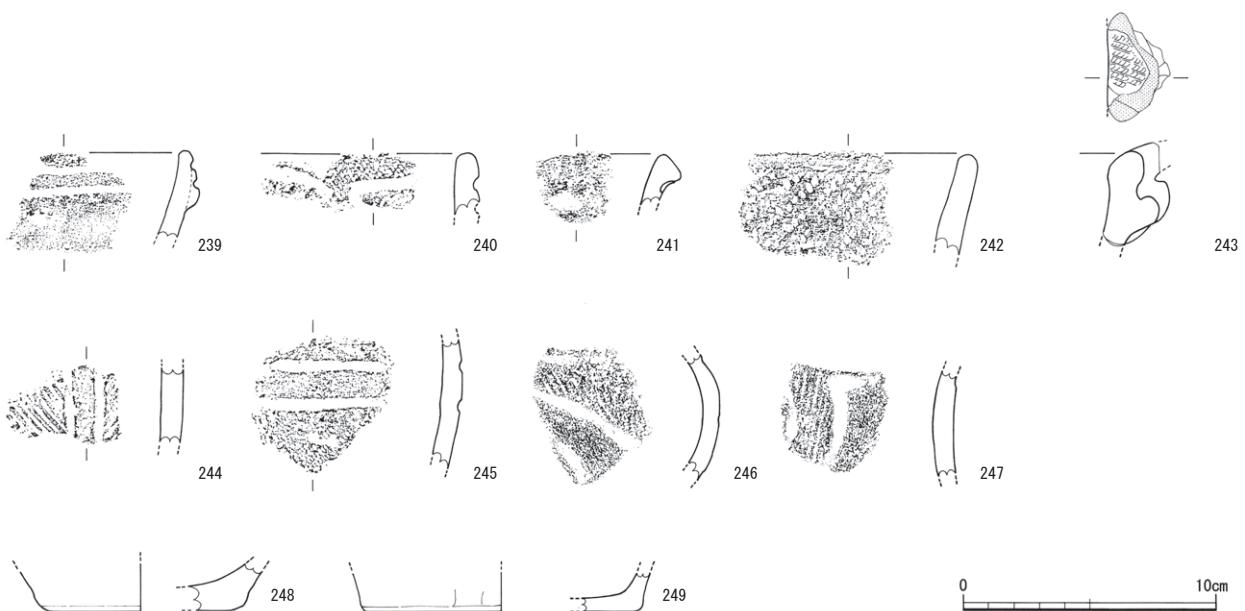
下層からは、SH704011を中心に多くの縄文土器が出土している。上層においても方形周溝墓出土遺物を除けば、その大半が縄文土器である。

**SD704001出土遺物** (第32図) 方形周溝墓の出土遺物を中心とするが、238は飛鳥～奈良時代の鍋形態の甕、239～249は縄文土器片で混入遺物である。

230～235は古墳時代初頭の土師器の壺である。大きく外反する口縁部をもつ230・231、二重口縁の232、単純な口縁端部の234がある。233は口縁



0 20 cm



0 10 cm

第32图 SD704001出土遺物 (230 ~ 238 = 1 : 4、239 ~ 249 = 1 : 3)



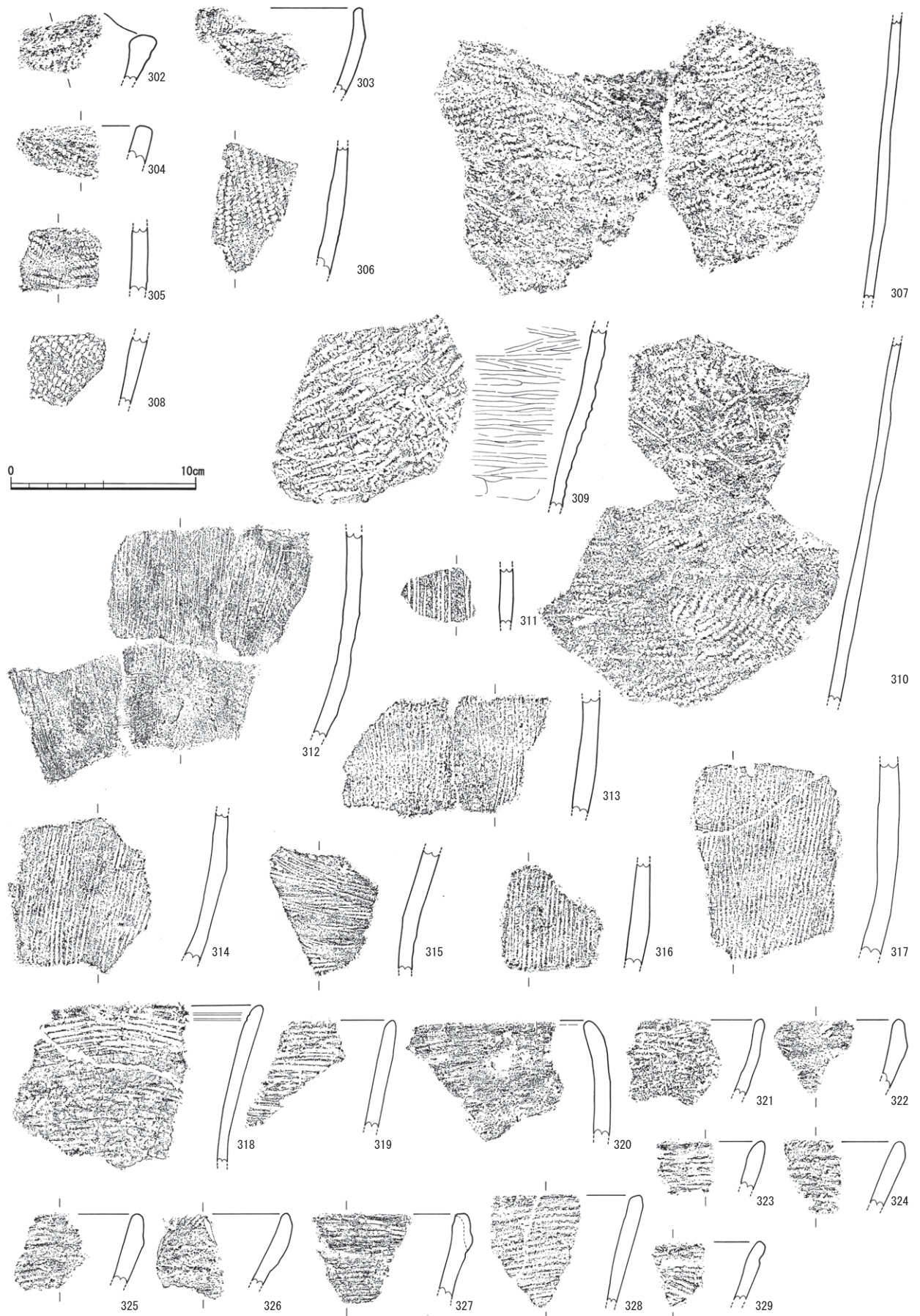


第33图 SH704011出土遺物① (1 : 3)

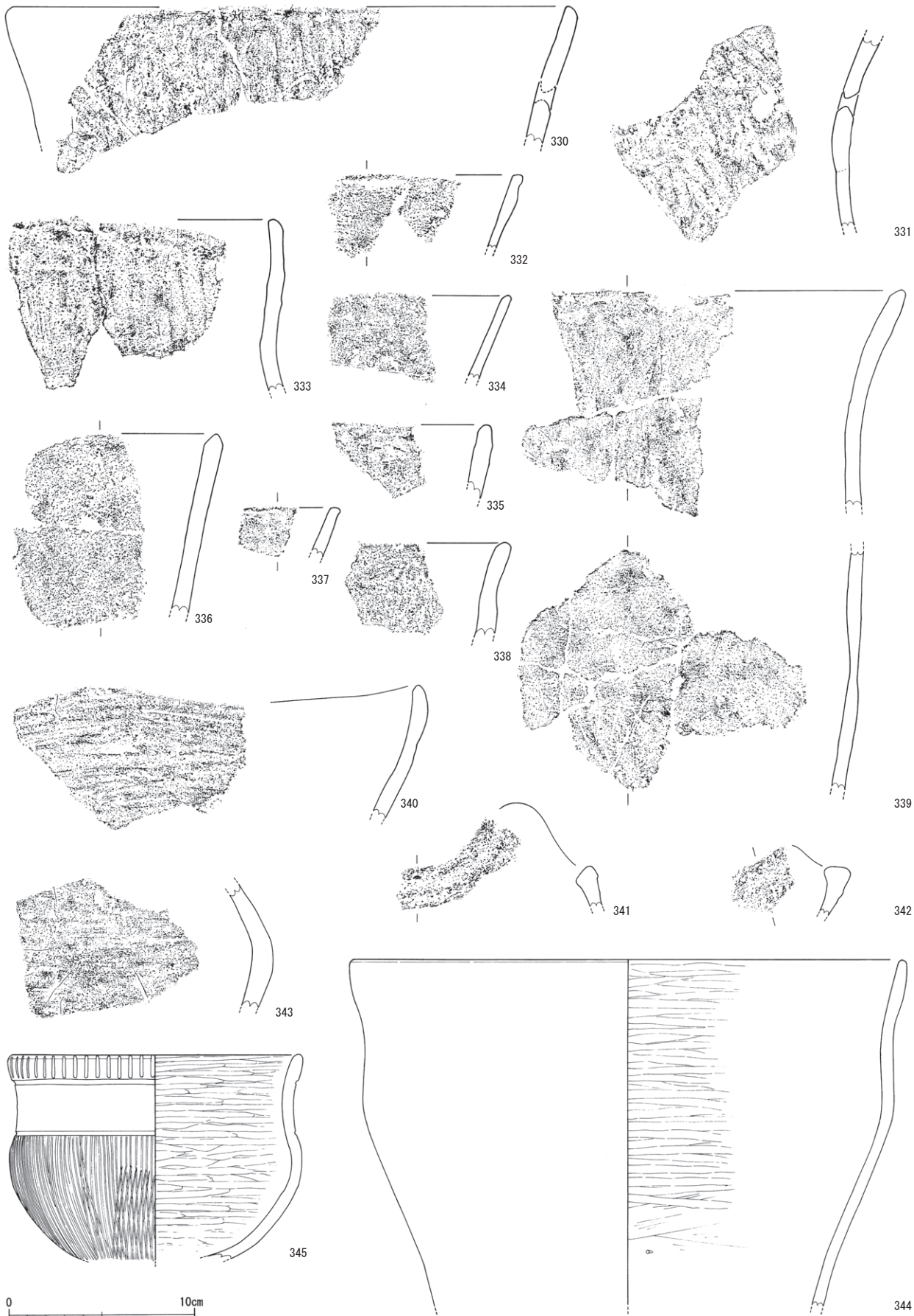


第34图 SH704011出土遺物② (1 : 3)





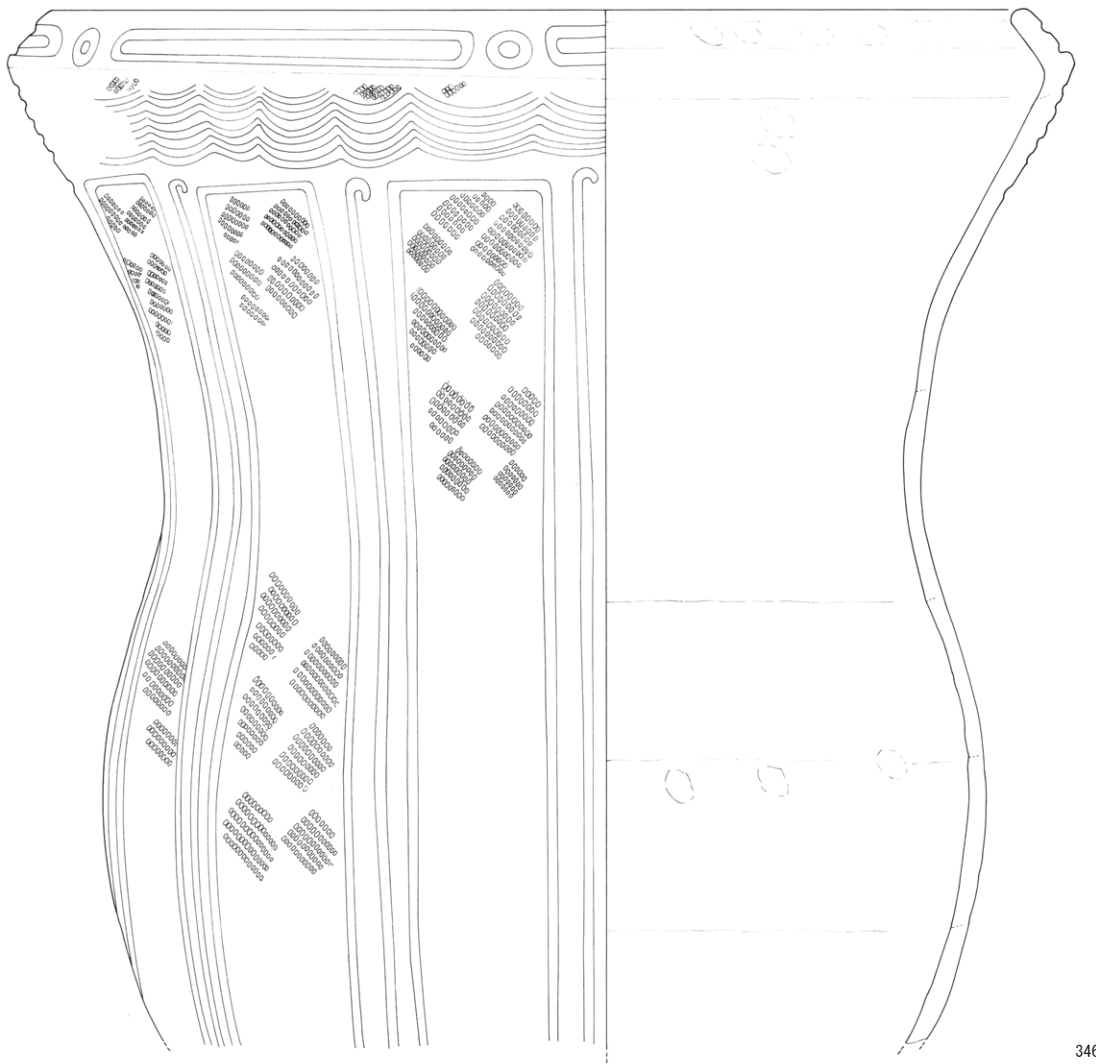
第35图 SH704011出土遺物③ (1 : 3)



第36图 SH704011出土遺物④ (1 : 3)



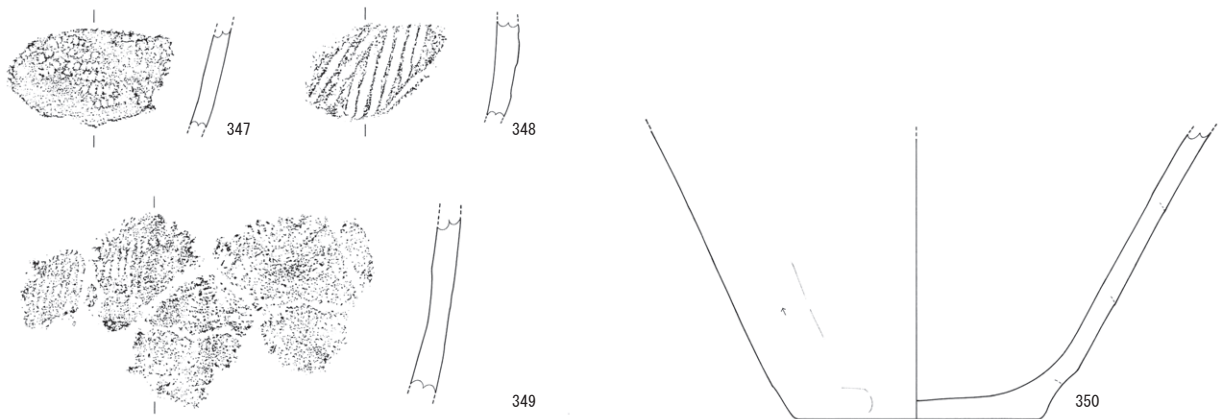
SX704014



346



SZ704012



第37图 SX704014・SZ704012出土遺物 (1 : 3)

端部を欠損しているが、端部に向かい器壁が薄くなることから、このまま単純に終息するものと思われる。頸基部に刺突を伴う突帯を巡らせ、横線と波状文で加飾されている。231も同様な可能性があるが、230には文様は無い。236は台付甕であるが、脚台端部の折り返しが明瞭である。口縁部のS字状の屈曲は、全体的に外傾しており、刺突は施されない。しかし、口縁部の器壁は厚く、肩部のヨコハケは頸部から下がった位置に残る。このような状況からB類<sup>⑥</sup>に止まるものと思われる。したがって、廻間I式後半～II式前半とするこれまでの年代観と齟齬はない。237も同様な甕の脚と思われる。

239～243は口縁部片であるが、239は隆帯を巡らせ、240は沈線に縄文を加える。241は刺突、242は残存部に限れば縄文を施すのみである。243は口唇部装飾部分であるが、口唇上部に縄文を施す。244～247は体部片、248・249は底部片である。装飾の中心は沈線であるが、246・247は縄文を充填している。

**SH704011出土遺物** (第33～36図) 堅穴住居から多量の縄文土器が出土した。特に250・273・275・287・289～292・300・312～317・339は石囲炉から集中して出土したものである。

250～267は沈線と縄文を施すものであるが、253は沈線ではなく残存部に限れば全て突帯である。257は連弧文を連ねる文様構成で、258や260も同様な文様構成と思われる。あるいは同一個体の可能性もある。同一個体の可能性の高いものには261と262、263と264もある。

268～273には縄文はみられず、沈線以外の部分には条痕が残るものが多い。

275～293は太い沈線で渦文を描くものや、長円形の区画を設定し、その内側に綾杉文を描くものである。ただし、279は半裁竹管による刺突を充填し、281は口唇部に円形刺突を加えている。また、284は綾杉文の周囲を隆帯で囲む様である。

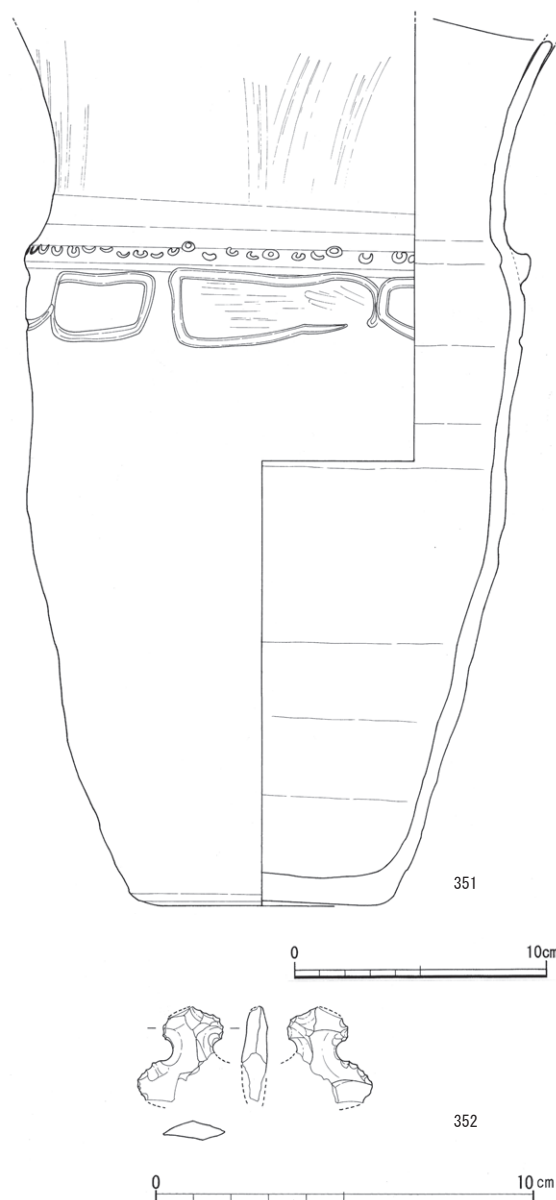
294～296も沈線を施すものであるが、既述してきたものと比べ細い沈線である。296は縄文を加えている。

302～344は無文のものであるが、302～310には縄文、311～317には条線が施される。318～329は条痕で調整されるが、318は二枚貝、321は半裁竹管

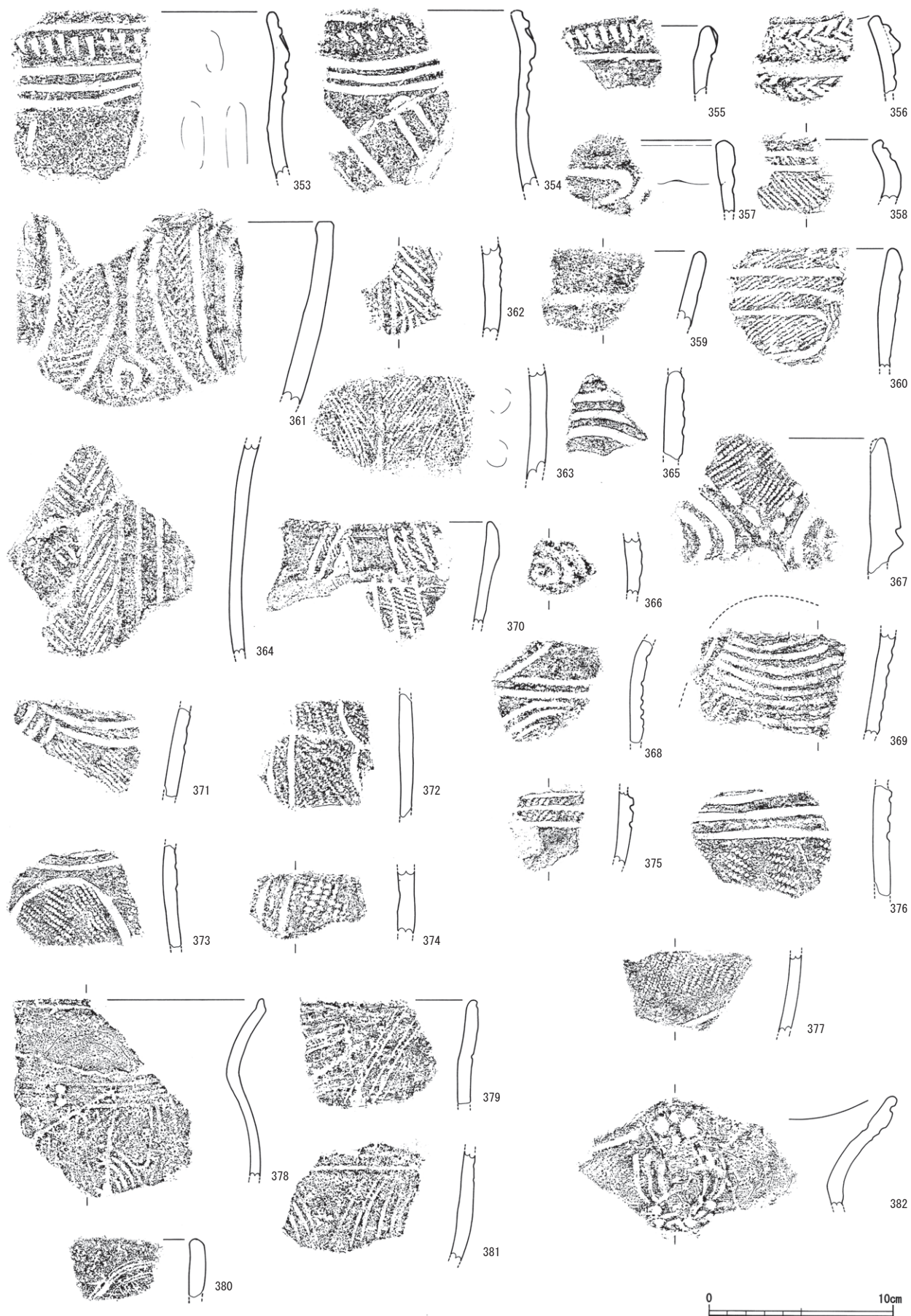
のようであり、使用工具は異なる。また、326の口唇部には刺突、329の口縁部外面には1条の沈線が巡る。330～344はナデやヘラミガキで調整されるものであるが、330と331には焼成後に穿たれた円孔がある。

345は浅鉢で、内面を丁寧なヘラミガキで調整する。口縁部外面に縦方向の短い隆帯を並べ、体部下半は装飾を意識したかのような丁寧な条痕である。

**SX704014出土遺物** (第37図) 346は埋設された縄文土器の深鉢である。口縁部が内傾するいわゆるキャリパー型を呈する。口縁部文様帯は、円と極細長方形の組み合わせを沈線で描く。体部には縦長の方形区画内を沈線で記し、内部を縄文で充



第38図 SX704015出土遺物 (351 = 1 : 3、352 = 1 : 2)



第39图 SZ704013出土遺物① (1 : 3)



填する。区画間には倒立の J を配し、口縁部文様帯との間には波状文を巡らしている。

**SZ704012 出土遺物** (第 37 図) 明確な遺構として認識できなかったため、出土遺物に一括性は乏しい。全て縄文土器で、図示したものは体部片 (347～349) と底部 (350) である。体部片には 347・349 に縄文、348 には沈線が施される。沈線は綾杉文の一部か。

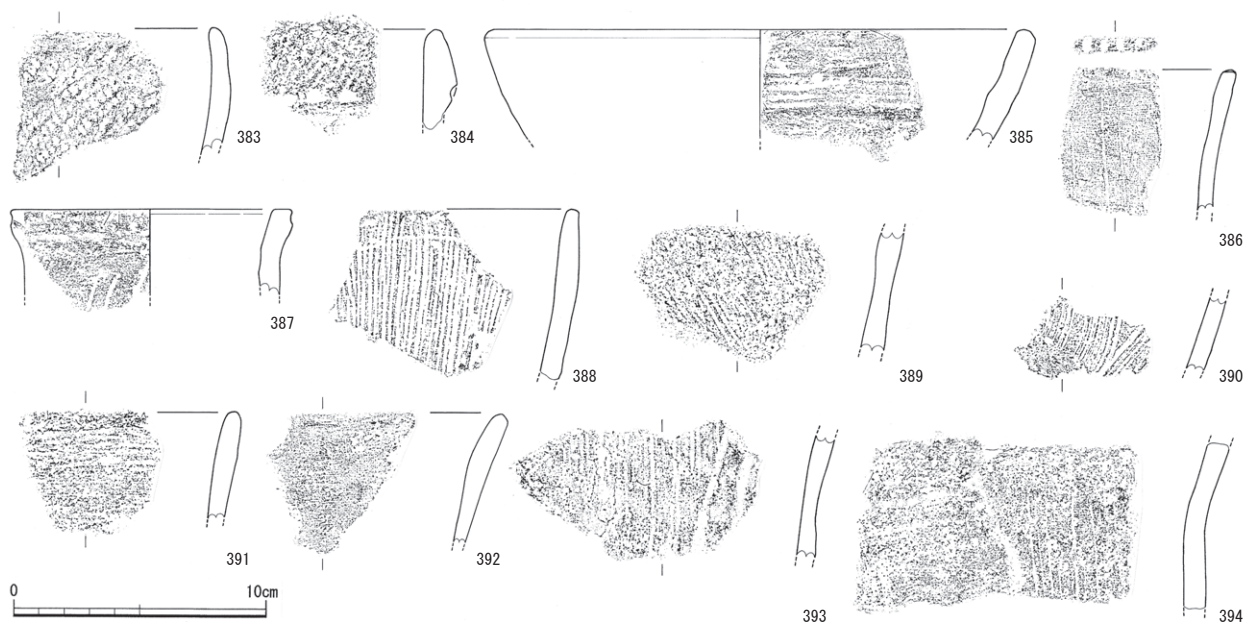
**SX704015 出土遺物** (第 38 図) 351 は埋設された縄文土器で、352 はその内部から出土した石匙である。351 の口縁端部が欠損かどうか微妙であるが、辛うじて端部まで残存するものと判断した。その場合、他の破片との照合から波状口縁を呈するものと推測せざるを得ない。全体的には細身の体部から外反する口縁部をもつ形態で、体部との境に突帯を巡らす。突帯上には竹管による刺突文をやや雑に施しており、その下に沈線による長方形区画を配する。この区画もやや雑に刻まれており、区画内を充填する文様は無い。摩滅のため不明瞭であるが、外面をヘラミガキで調整するようである。

**SZ704013 出土遺物** (第 39～41 図) 353～421 は縄文土器、422～425 は石器で、多くの縄文土器が出土しているが、遺構の認識に不明確な部分もあり、包含層出土にちかい状態である。

353～355 は口縁部の小片であるが、沈線に加え

口唇部に刺突を施すものである。353 と 354 の文様構成に共通部分が多いが、刺突工具が異なり同一個体とするのは疑問である。356 も口唇部に刺突を施すが、刺突は羽状に 2 列、その間は沈線ではなく突帯となる。361 も口縁部片であるが、沈線による縦長の区画に綾杉文を施し、体部片 364 も同様である。363 は条線により綾杉文を表している。365～367 は渦文、367 はさらに刺突と縄文を加える。368 は二重沈線に加え、下端に連弧文がみえる。体部文様帯の上端であろうか。369 は沈線による多重連弧文を連ねる様である。370～376 は沈線と縄文、378～381・386・387 は細い沈線または条線を施すが、いずれも小片のため全体の文様構成等は不明である。382 は波状口縁の頂部に円孔 2 個を横に並べ、上下にも円形の刺突を施す特異なものである。その下には太い沈線を縦に数条設け、竹管による刺突を点在させる。383 は口縁部先端まで縄文が施され、384 も同様であるが、口唇部のやや下に沈線を加えている。

385・388～406 は無文と思われるもので、388～394 に条痕が観察される。388 は貝殻、391 は茎束と考えられ、工具は異なる。395～406 はナデの調整が主体であるが、工具によるものや部分的に未調整のままのものもある。385 は浅鉢と思われる希少なものであるが、内面はヘラケズリで調整されている。なお、387・399 は壺型の土器としたが、脚の可能性はある。



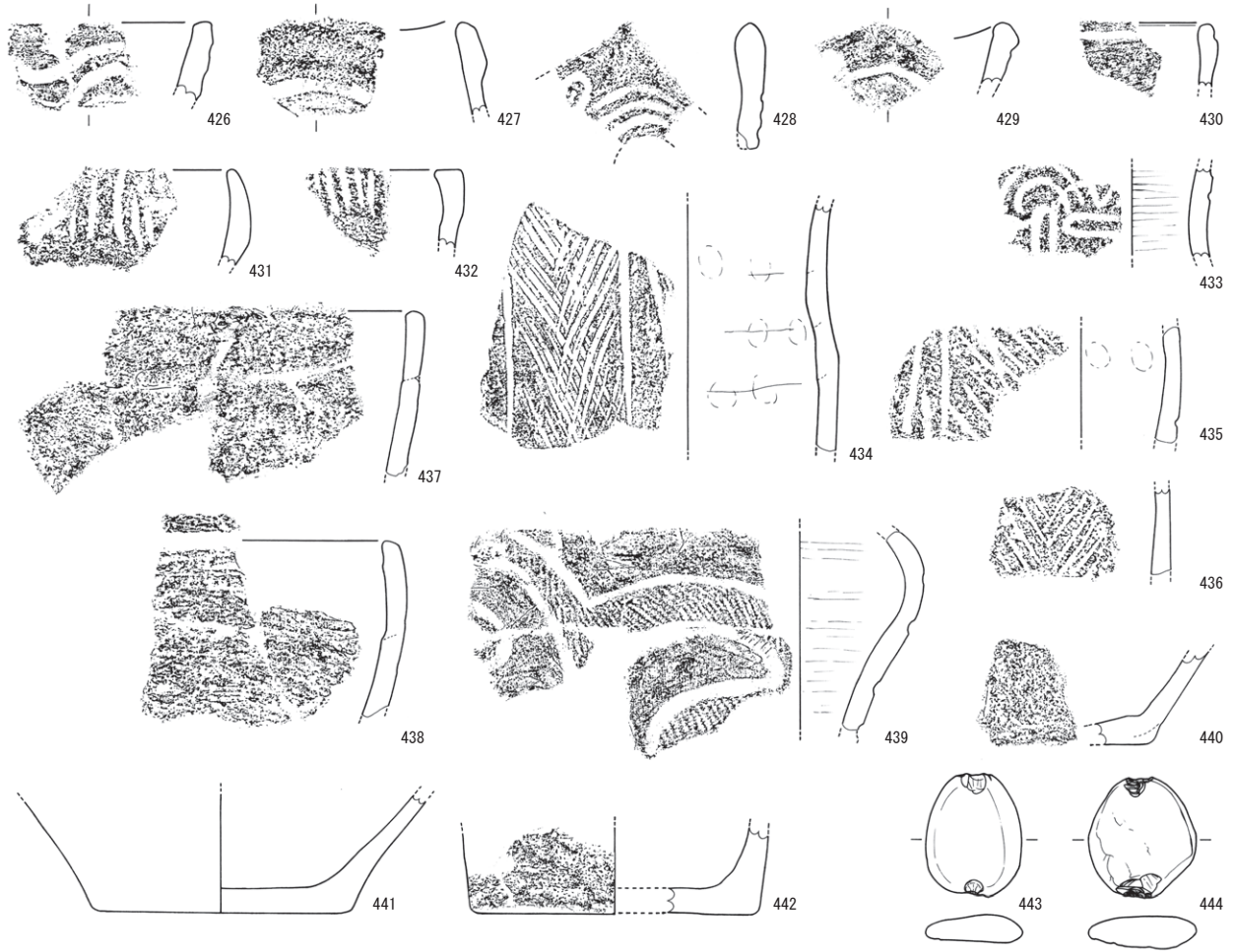
第40図 SZ704013出土遺物② (1 : 3)



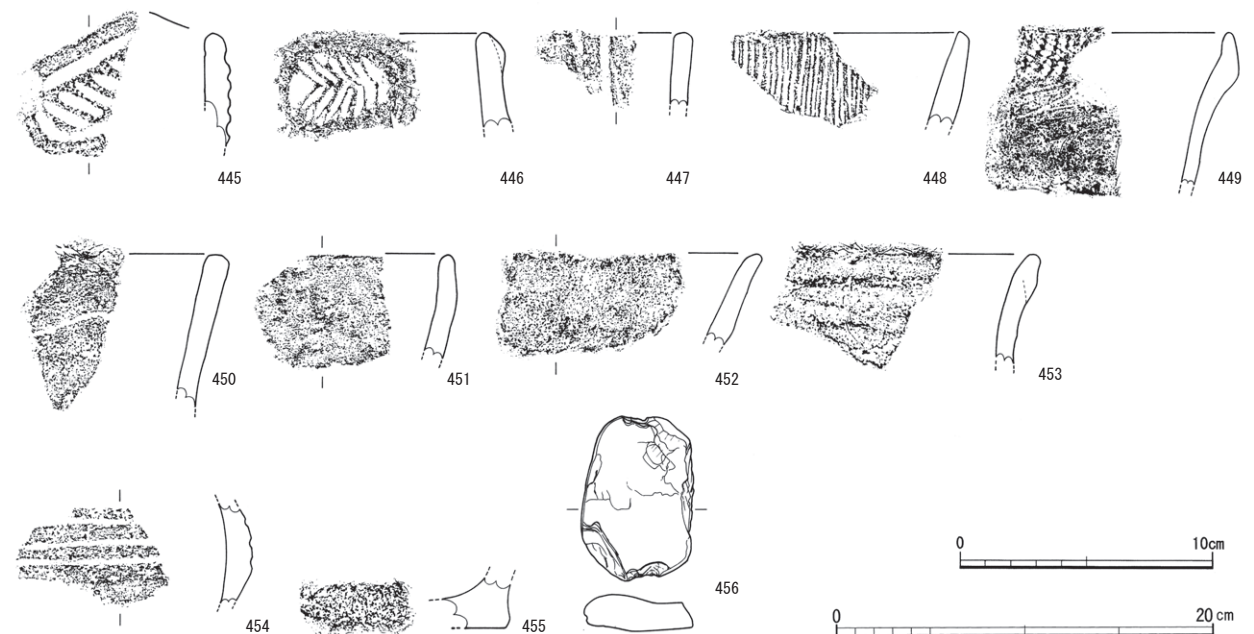


第41図 SZ704013出土遺物③ (422・423 = 1 : 2、424・425 = 1 : 4、他は1 : 3)

下層包含層



表土等



第42図 第7次調査4区下層包含層・表土等出土遺物 (443・444・456 = 1 : 4、他は1 : 3)

407～421は底部片で、調整はナデまたは未調整であるが、419の底部外面にはヘラケズリが施されている。

**下層包含層出土遺物**（第42図）443・444は石器、他は全て縄文土器で、石器は両者とも打欠石錘である。

426～432は口縁部片で、426～429の沈線は渦文を描くものと思われる。430・431の口縁部は内傾し、縦位の沈線または刻目を施す。433～436は体部片で沈線による区画内に綾杉文を充填するものが多いが、433は渦文の一部であろうか。内面にヘラミガキが観察でき、他のものより丁寧な仕上げである。437・438は無文、439は磨消縄文を施している。

**表土等出土遺物**（第42図）456は打欠石錘、他は縄文土器である。445～453は口縁部片であるが、445は沈線による区画内に斜行線を充填する。446には羽状刻目、447には縦位の沈線、449は口唇部のみ縄文を施す。他のものは無文であるが、448は条痕、453には低い隆帯が巡る。454は体部片であるが、横位の沈線を多条に巡らしている。

（萩原・樋口・森川）

## 5.5区

4区と6区を繋ぐように設定された幅約3m、延長60mに及ぶ細長い調査区で、西側には現集落が近接する。現況下40cmの明黄褐色土上面で遺構検出を行ったが、若干の小穴や溝を検出したに止まる。

調査区北端部は、大規模な湿地帯または流路となっており、この部分をS D 705001とした。埋土は粘質土が多く、土師器皿、灰釉陶器、山茶椀、製塩土器等の小片が出土しているが、遺物量は少ない。その中で457・458は図示できたものである。458は山茶椀であるが、口縁部は直線的な傾向が強くⅢ段階6型式前後に並行するものと思われ、12世紀末から13世紀初頭の鎌倉時代に求められる。他に同様な時期の土師器皿もあるが、埋土観察では、後世の溝も重複しており、現況でも用水路が所在する。したがって、最終埋没は近世以降に下る可能性もあり、これを利用して現代の用水路が設置されたかも知れない。

以上により、北側の4区とはS D 705001により分断され、層序としての連続性は無く、下層の縄文

土器も存在しない。

（萩原・森川）

## 6.6区

5区の南側延長上に位置し、L字に屈曲して第9次調査16区に至る調査区である。耕作土及び床土下の灰黄褐色またはにぶい黄橙色の粘質土上面で遺構検出を行った。耕作土から検出面までは20cm程度である。その結果、井戸、土坑、溝が複雑に重複し、今回の調査で最も遺構密度が高い調査区のひとつとなった。これらの大半は室町時代のもので、一部近世に下るものもある。

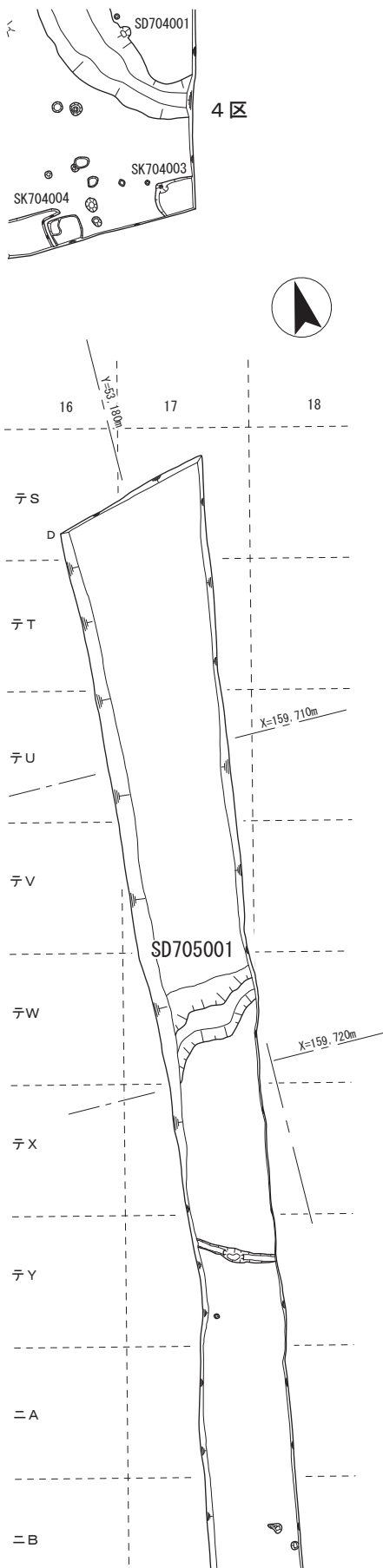
なお、S K 706005・706012・706027・706029・706037については、遺物の出土が僅少または皆無で、時期決定の根拠を欠くものである。S K 706012は重複するS D 706018と同一の可能性があり、調査区東部のS K 706027・706029・706037については、周囲に室町時代の大型土坑が点在する状況から、同時期の可能性が強いものと推測される。

### （1）室町時代の遺構

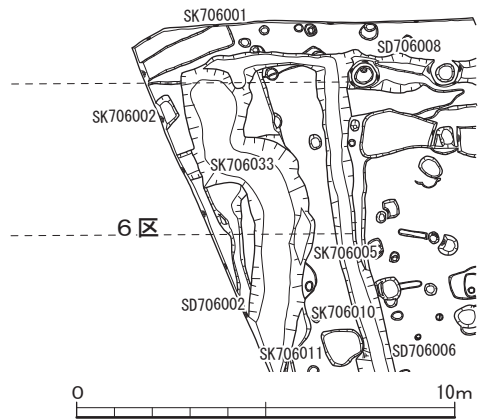
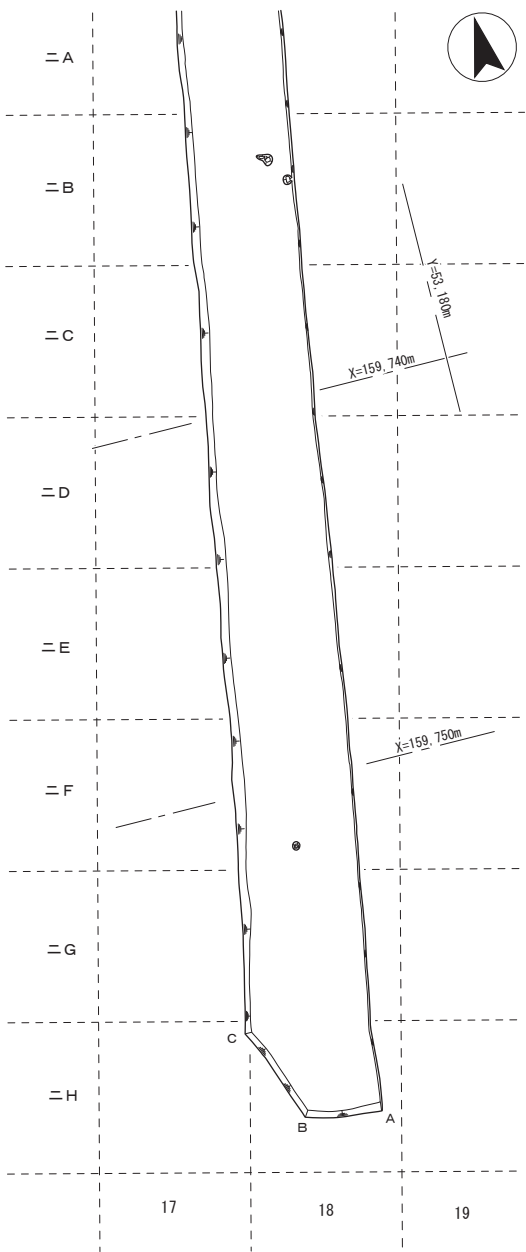
**S K 7 0 6 0 0 2** 調査区北西端で検出した。土坑の西側は調査区外であるが、一辺60cmの小規模な方形土坑と思われる。深さは検出面から60cmの非常に深いものであるが、重複するS D 706033のため誤認した可能性がある。出土遺物は少なく土師器皿等の小片が出土するに止まる。

**S D 7 0 6 0 0 3** 調査区北西端を南北に延びる幅40cm未満、検出面からの深さ30cm程度の溝である。他遺構との重複のため不明確な部分もあるが、検出時点では南北端共に調査区内で止まることが確認できた。延長は12mとなる。土師器皿・鍋等比較的多くの遺物が出土している。なかには近世に下る可能性のあるものも若干みられるが、混入遺物と判断している。

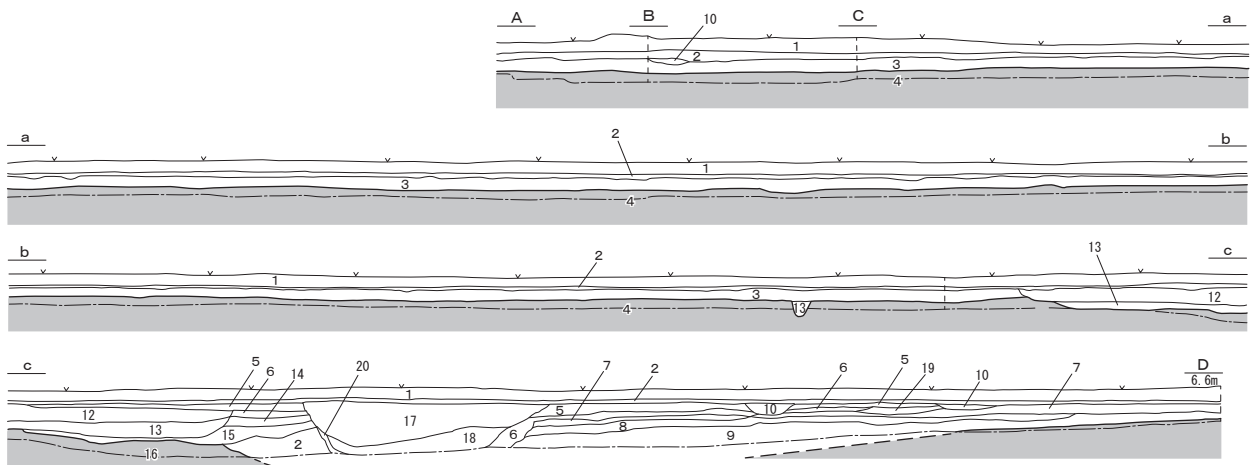
**S K 7 0 6 0 0 4・7 0 6 0 0 7** 両者とも調査区北部で検出した50cm×2m程度の溝状の土坑である。深さは検出面から30cm程度である。しかし、S D 706033やS D 706008と重複しており、特にS D 706008とは検出時点では離れていたものが掘削途上でほぼ一体化する結果となり、正確を欠く部分もある。S K 706007からは多くの遺物が出土しているが、S D 706008のものが混在する可能性もある。



第43図 第7次調査5区平面図 (1:200)







- |                               |                                 |                                  |
|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 耕作土                         | 9 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土<SD705001埋土> | 15 7.5Y5/3 灰オリーブ色粘砂土<SD705001埋土> |
| 2 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土<SD705001埋土等> | 10 2.5Y6/1 黄灰色粘質土               | 16 2.5Y4/6 オリーブ褐色土<検出面>          |
| 3 2.5Y7/6 明黄褐色砂質土             | 11 2.5Y5/1 黄灰色粘質土               | 17 2.5Y4/4 オリーブ褐色土               |
| 4 2.5Y6/8 明黄褐色土<検出面>          | 12 2.5Y5/1 黄灰色粘土<SD705001埋土>    | 18 2.5Y5/1 黄灰色砂                  |
| 5 2.5Y8/6 黄色砂質土<SD705001埋土>   | 13 2.5Y4/1 黄灰色粘土<SD705001埋土>    | 19 2.5Y5/6 黄褐色土                  |
| 6 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土<SD705001埋土> | 14 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土<SD705001埋土>  | 20 2.5Y5/4 黄褐色砂                  |
| 7 2.5Y6/6 暗黄褐色粘質土<SD705001埋土> |                                 |                                  |
| 8 2.5Y6/1 黄灰色粘質土<SD705001埋土>  |                                 |                                  |

第44図 第7次調査5区土層断面図 (1:100)

SD706006・706008 (第49図)

SD706006は南北に延びる溝で、調査区北端で直角に曲がる。SD706008はその屈曲部から東へ延びる同様な溝で、両者でT字形を呈する。SD706006の南端や東端は、遺構が複雑に重複することもあり不明瞭であるが、本来はそのまま調査区外へ延びていたものと推測される。幅1.2m、検出面からの深さ50cmを測り幅に比べ深いものである。しかも断面形はV字状を呈する。対してSD708008は深さが30cmで浅く、両者が一連のものとするに疑問もある。検出時点ではSD706008が先行する結果となっており、そのまま西へSD708006と重複して直線的に延びていた可能性もある。

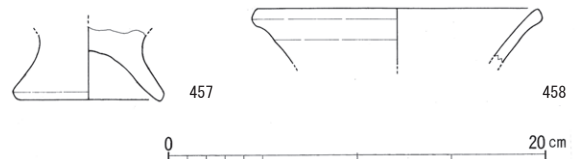
SD708006の埋土は粘質のシルトであり、砂は無い。土師器や陶器の皿や碗等の破片が比較的多く出土している。

SK706009・706013~706016

調査区西部に点在する土坑である。直径1~2mの円形または不整形を呈するが、深さは検出面から30cm未満の浅いものである。土師器等の小片が出土しているが、特筆すべきものは無い。

SK706010

調査区西部でSD706033と重複して検出され、それより後出のものである。直



第45図 SD705001出土遺物 (1:4)

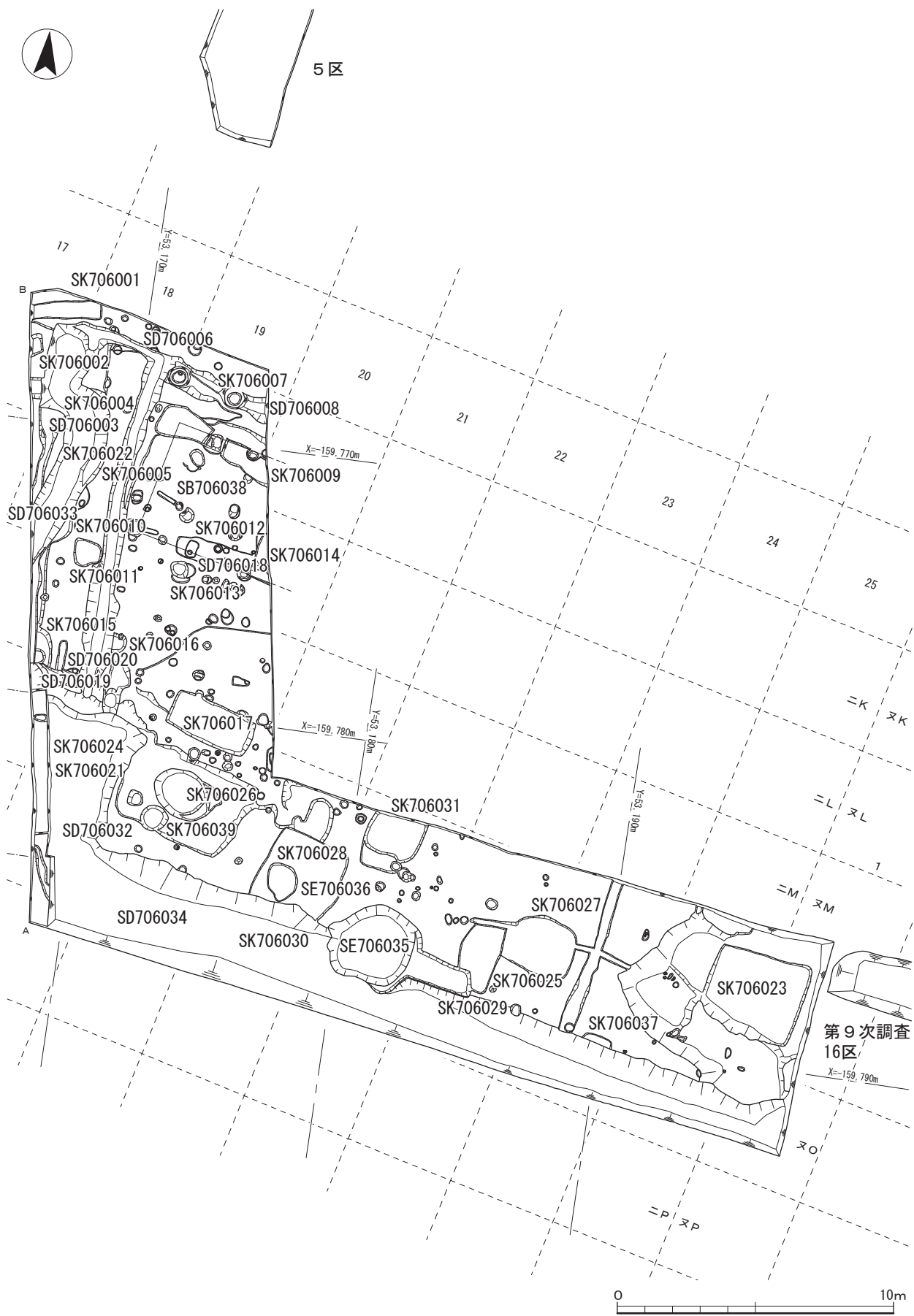
径1mの不整形円形を呈するが、深さは検出面から30cm程度しかない。土師器皿・鍋が出土し、特に鍋は多量に出土したが、完形ちかくまで接合できたものはない。

SD706018~706020

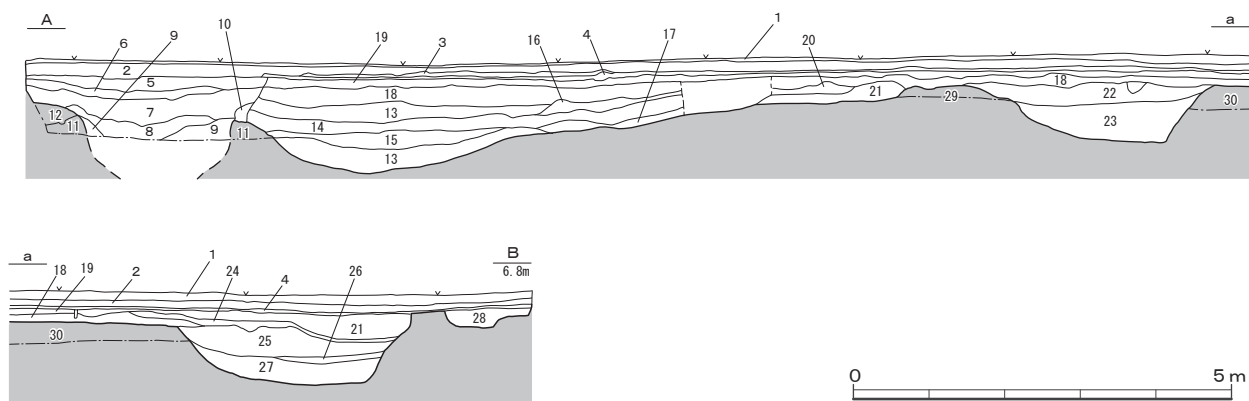
調査区北部から西部で検出した小規模な溝である。SD706019・706020は幅30cm、検出面からの深さ20cm未満で並んで南北に延びる。この形状から耕作溝の可能性が考えられる。SD706018は、SK706012により削平され不明確な部分も多いが東西に延びる。その西側延長上にも小規模な溝が延びることもあり、これも耕作溝の可能性をもつ。

SK706021・706024

調査区西端で検出を試みたが、両者とも不定形で、重複するSD706032との識別が不十分な結果となった。したがって土坑とするに疑問が多く、SD706032の最終埋没形態を土坑と認識しようとした可能性もある。したがっ

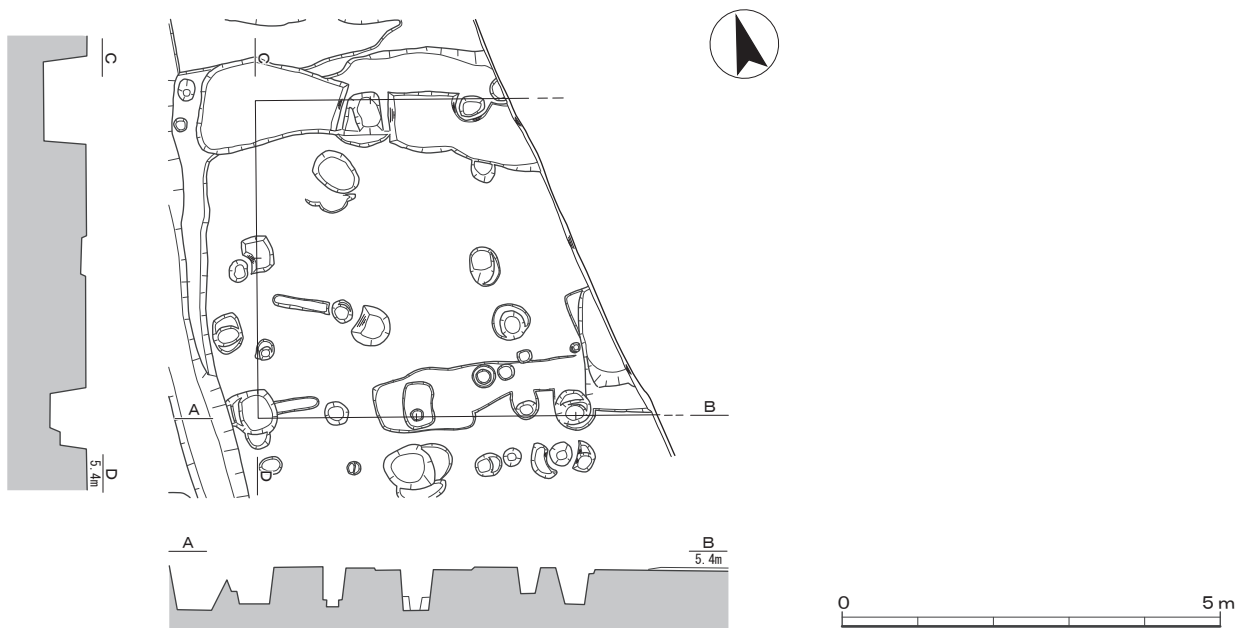


第46図 第7次調査6区平面図 (1:200)



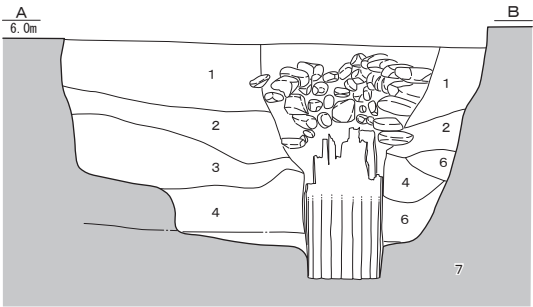
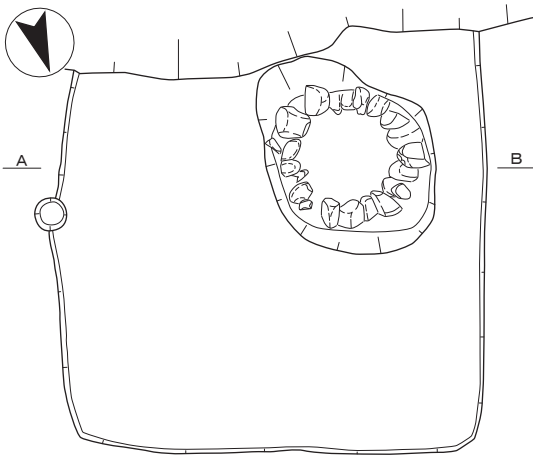
- |  |  |
|--|--|
| 1 10YR3/3 茶褐色シルト (小粒砂含) <耕作土>              | 16 2.5Y7/3 浅黄色シルト (褐色土塊含) <SD706032埋土>     |
| 2 10YR5/1 褐灰色粘質土<耕作土>                      | 17 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (黄橙色土塊含) <SD706032埋土>   |
| 3 10YR6/2 灰黄褐色シルト (赤褐色土含) <耕作土>            | 18 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト                       |
| 4 2.5YR6/2 灰黄色シルト (明赤褐色土含) <床土>            | 19 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (赤褐色土含)                 |
| 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト (赤褐色土塊含) <SD706034埋土>    | 20 10YR5/2 灰黄褐色シルト (褐色土塊含) <SD706032埋土>    |
| 6 10YR4/1 褐灰色シルト (赤褐色土塊含) <SD706034埋土>     | 21 2.5Y6/2 灰黄色シルト (赤褐色土塊含) <SD706032埋土等>   |
| 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト (褐色土塊含) <SD706034埋土>     | 22 10YR6/1 褐灰色シルト (明黄褐色土塊含) <SD706033埋土>   |
| 8 2.5YR4/2 暗灰黄色シルト<SD706034埋土>             | 23 10YR6/2 灰黄褐色粘質土<SD706033埋土>             |
| 9 5Y3/2 オリーブ黒色シルト (水分多含・有機物含) <SD706034埋土> | 24 2.5Y6/1 黄灰色粘質土                          |
| 10 5Y5/1 灰色シルト (極大礫含) <SD706034埋土>         | 25 5YR5/2 灰褐色粘質土<SD706033埋土>               |
| 11 5Y7/1 灰白色粘質土 (黄橙色土塊含)                   | 26 10YR7/4 にぶい黄橙色粘質土 (赤褐色土塊含) <SD706033埋土> |
| 12 N5/ 灰色シルト (黄橙色土塊・極大礫含)                  | 27 10YR6/2 灰黄褐色シルト (鉄分大塊含) <SD706033埋土>    |
| 13 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (褐色土塊含) <SD706032埋土>    | 28 2.5Y5/1 黄灰色シルト (黄橙色土塊含) <SK706001埋土>    |
| 14 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (黄橙色土塊含) <SD706032埋土>   | 29 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (赤褐色・黄橙色土塊含) <検出面>      |
| 15 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土<SD706032埋土>           | 30 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト (褐色土塊含) <検出面>         |

第47図 第7次調査6区土層断面図 (1:100)

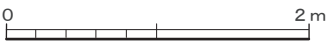


第48図 SB706038実測図 (1:100)

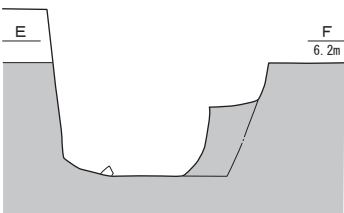
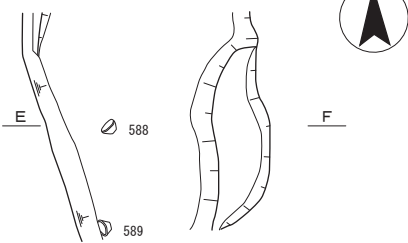
SE706036



- 1 10YR5/6 黄褐色土
- 2 10YR5/2 灰黄褐色土 (10YR5/6 黄褐色土含)
- 3 10YR6/6 明黄褐色粘土
- 4 10Y6/1 灰色粘土
- 5 5Y7/4 浅黄色粘土
- 6 5YR5/4 にぶい赤褐色砂
- 7 10YR5/8 黄褐色土(ベース)

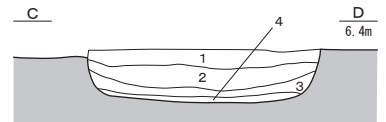
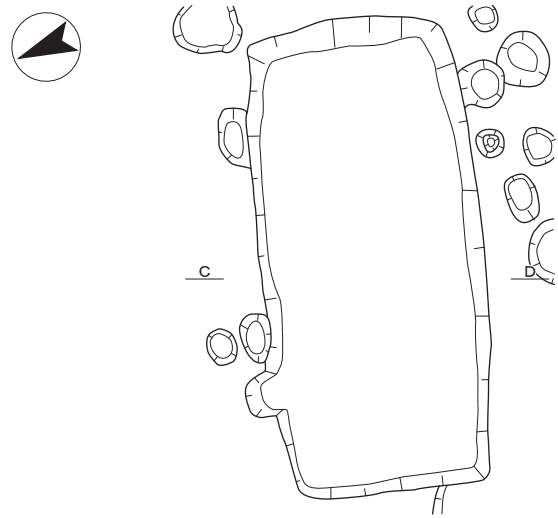


SD706033



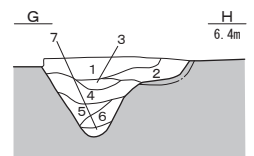
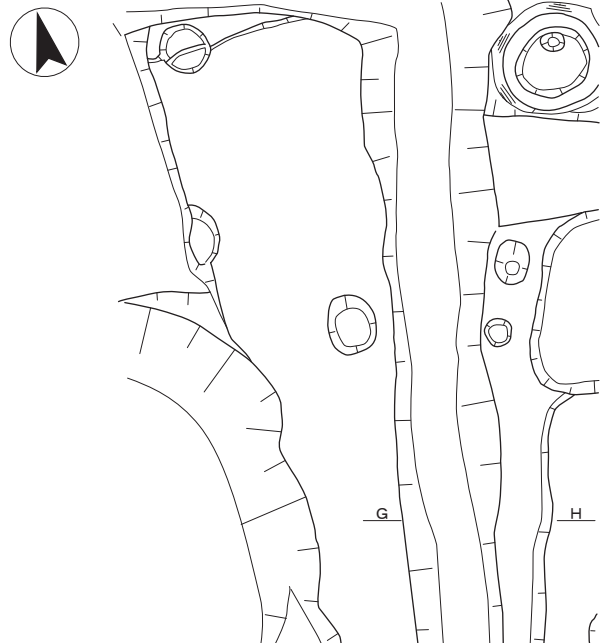
- 1 10YR8/2 灰白色シルト (縮まる・10YR4/4 褐色粘質シルト塊含)
- 2 10YR8/6 黄橙色粘質シルト (縮まる)
- 3 10YR7/1 灰白色シルト (縮まる)
- 4 10YR8/4 浅黄橙色粘質シルト (縮まる)
- 5 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト (縮まり弱い)
- 6 10YR6/4 にぶい黄橙色粘質シルト (縮まり弱い)
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト (縮まり弱い)

SK706017



- 1 10YR8/3 浅黄橙色シルト (縮まる・10YR4/4 褐色粘質シルト塊含)
- 2 10YR7/1 灰白色シルト (縮まる)
- 3 10YR6/1 褐灰色シルト (縮まる・10YR5/8黄褐色粘質シルト塊含)
- 4 10YR5/1 褐灰色極粒砂 (縮まり弱い)

SD706006



- 1 10YR8/2 灰白色シルト (縮まる・10YR4/4 褐色粘質シルト塊含)
- 2 10YR8/6 黄橙色粘質シルト (縮まる)
- 3 10YR7/1 灰白色シルト (縮まる)
- 4 10YR8/4 浅黄橙色粘質シルト (縮まる)
- 5 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト (縮まり弱い)
- 6 10YR6/4 にぶい黄橙色粘質シルト (縮まり弱い)
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト (縮まり弱い)

第49図 SE706036・SK706017・SD706006・SD706033実測図 (1:50)



て、出土遺物も S D 706032 に属する可能性もある。

**S K 7 0 6 0 2 2** 調査区北西端ちかくで直径 50cm の不整円形を検出したが、S D 706033 との重複もあり、正確に掘削できなかつた。したがって、深さや出土遺物の帰属に正確を欠く結果となつてしまった。

**S K 7 0 6 0 2 3** 調査区東端で検出した不定形な大型土坑である。南北 4 m、東は調査区外へ続くが、第 9 次調査 16 区の調査結果により、東西 10 m に及ぶ。深さは規模に対して浅いもので、底部は不均一である。複数の底が段状に連なり、最深部でも検出面から 50cm に止まる。土取坑のように思えるが、小片ではあるものの比較的多くの遺物が出土している。

**S K 7 0 6 0 2 5 ・ 7 0 6 0 3 1** 調査区東部で検出した同様な土坑である。S K 706025 は 1.5 × 2.5 m の不整長方形を呈し、S K 706031 は一回り大きい規模となる。しかし深さは両者とも検出面から 30cm 程度である。出土遺物は小片が少量出土するに止まる。

**S D 7 0 6 0 3 2** (第 47 図) 調査区南端で検出した。調査区端での検出のため、明確な規模は不明であるが、幅は 4 m 以上、深さは 1.2 m を測る。埋土は幾層にも分かれるが、シルトや粘質土で流水の痕跡はない。しかし、北へ向けて徐々に深さを減じており、非常に緩やかな斜面となる。したがって、溝とするに疑問もあり、南半を S D 706034 によって削平された大型の土坑とすべきかも知れない。

**S D 7 0 6 0 3 3** (第 49 図) 調査区北西端ちかくを南北に延びる堀状の大溝である。幅 1.4 m、検出面からの深さ 60cm 程度を測るが、多くの遺構が重複することもあり、その平面形を正確にとらえられなかつた部分もある。掘削結果の状況をみれば、調査区外から緩やかな弧状を描き、そのまま調査区外へ続く。この溝の機能については不明とせざるを得ないが、土師器皿・鍋、山茶碗等多くの遺物が出土し、完形またはそれにちかいものもある。588 は溝底に接して出土した完形の山茶碗で、この溝が掘削された時期にちかいものと思われる。他の土師器類からみても、最終埋没は比較的早く、室町時代前半を想定している。

**S E 7 0 6 0 3 5** 調査区南側で S E 706036 に隣接して検出された。直径 3 m ちかくの円形を呈し、深さは検出面から 1.5 m を測る。この形状から井戸と判断した。素掘りの状態であるが、径が大きく、井戸枠を抜き取られた結果の可能性もある。井戸としては出土遺物が少なく、完形にちかいものもない。

**S E 7 0 6 0 3 6 ・ S K 7 0 6 0 2 8** (第 49 図) 調査区南部で方形の土坑を検出し、S K 706028 として掘削した。南側を近世の溝 S D 706034 に削平されるが、一辺 2.5 ~ 3 m の方形を呈するものである。ところが、土坑内北東隅ちかくから石組井戸 S E 706036 が検出された。断面観察の結果、S K 706028 は S E 706036 の掘形であることを確定するに至る。井戸本体に対して大型で比較的整った形態の掘形である。S E 706036 は 20cm 程度の川原石を内径 60cm の円形に積み上げ井戸枠とするが、検出面下 60cm 以下では、縦板の桶となる。幅 8 cm、長さ 1 m の板を掘形の底から 20cm 程度突き刺すかたちで立て、それを円形に並べて桶状にしている。あるいは大型の桶を転用したものかも知れない。その上に石を積み上げるもので、隣接する中坪遺跡の S E 39015 と同じ構造である。検出面から井戸の底までは 1.7 m を測る。

遺物の出土は、井戸としては極めて少なく、土師器鍋と陶器の小片が出土するに止まる。掘形の S K 706028 も同様で、土師器皿や青磁の小片 (502) 等に止まっている。

**S B 7 0 6 0 3 8** (第 48 図) 調査区北部で検出した。柱掘形は 40 ~ 60cm の隅丸方形または長方形を呈するが、北側は S K 706009 との重複により検出できなかったものもある。ただし、西端のものは検出時点では柱穴の存在を認識している。梁行は 2.1 m の等間、南側桁行も同様であるが、北側は 1.5 m で狭い。これは前述した状況から柱穴を正確に検出できなかった結果の可能性もある。また、北側にも S K 706007 等の柱穴状の遺構が並び、さらに 1 間以上北側に広がる可能性や、抜本的に柱取りが異なる可能性も秘める。棟方向は条里方向にちかく、柱穴からは土師器皿を中心に比較的多くの遺物が出土しているが、完形またはそれにちかいものはない。

なお、建物周囲を巡る S D 706006 ・ 706008 とは同時期で、何らかの関連があるかも知れない。

**SK706039** 調査中央部で近世の土坑SK706026と重複して検出され、それに先行するものである。直径90cm、検出面からの深さ80cmを測る深いものである。ほぼ完形の土師器皿に加え、木製の下駄3、曲物の底板2が出土し、自然に埋没したとするには不自然な状況である。

## (2) 江戸時代の遺構

**SK706001** (第47図) 調査区北西端で検出した。幅60cmで、2m西進し調査区外へ続く溝状の遺構である。深さは検出面から20cm程度、埋土はシルトである。土師器や陶器の小片が出土するに止まる。

**SK706011** 調査区西部で検出した土坑である。一辺1mの不整方形を呈し、深さは検出面から20cm未満の浅いものである。したがって、土師器皿等の小片が少量出土するに止まる。

**SK706017** (第49図) 調査区中央部で検出した1.2×3.4mの隅丸方形を呈する土坑である。深さは検出面から30cm程度で底部は平坦な整った形態を呈する。埋土は平行に4層となるが、最下層が細粒砂の他は良く締まったシルトである。土師器・陶器類が出土し、室町時代の土師器皿・鍋の混入もある。しかし、いずれも小片で、他に特筆すべきものは無い。

**SK706026** 調査区中央部において検出した。直径1.6～2mの楕円形を呈するが、深さは検出面から1mを超える。この様な状況から素掘りの井戸と考えられる。この井戸は、4.5×2.8mの長方形の土坑内にあり、井戸掘形と本体の様相を呈する。しかし、深さ20cmで底に達し、掘形ではない。この様に井戸の周囲を一段下げる類例としては、龜山市金森遺跡の井戸SK123の西側を掘り窪めたSK125<sup>⑧</sup>があり、SK706026も同様な井戸と思われる。土師器皿や施釉陶器、陶器の甕等が出土しているが、完形またはそれにちかいは無い。

**SK706030** 調査区南部で検出した。当初、SK706028と同様な形態の土坑としてSD706034の埋土上面で検出した。しかし、掘削の結果、SD706034との識別が困難となり、遺構とするに疑問を生じている。SD706034埋土の一部の可能性もある。なお、SK706026出土の捏鉢(554)には、

当遺構出土の破片が接合している。

**SD706034** (第47図) 調査区南端を東西に延びる溝である。調査区端での検出のため、明確な規模は不明であるが、幅は4m以上、深さは1.2mを測る堀状の大溝である。埋土は幾層にも分かれるが、シルトや粘質土で流水の痕跡はない。埋土からは多量の土師器・陶磁器が出土し、完形の土師器灯明皿が10個、完形の灯明受皿が1個、完形の腰鍔が3個等、残存が良好なものが多い。

なお、北側へ屈曲するかたちで重複するSD706032と一体のものとし、全体としてL字状に屈曲する堀としたところではあるが、既述したようにSD706032は北へ向けて徐々に深さを減じており、非常に緩やかな斜面となる。したがって、堀とするに疑問もあり、出土遺物においても近世の陶磁器類等は出土しておらず、先行する土坑の重複とすべきであろう。

## (3) 遺物

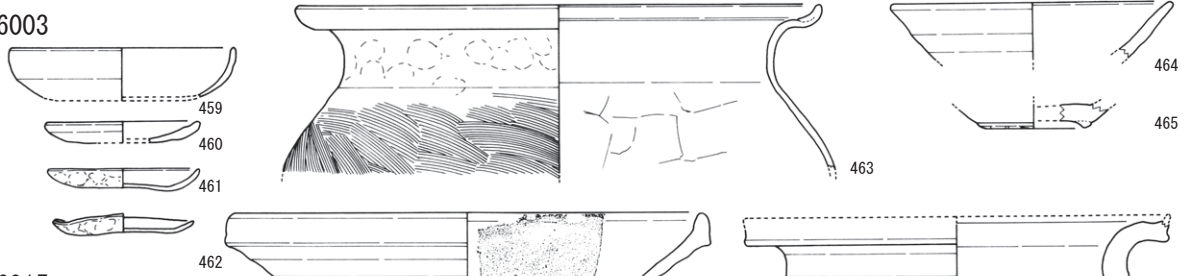
多くの遺構出土遺物があるものの溝出土が多く、井戸や土坑からも良好な一括資料は得られていない。室町時代以降のものが大半で、室町時代と近世遺物が混在する遺構も散見される。

**SD706003出土遺物** (第50図) 土師器の皿(459～462)、鍋(463)、山茶椀(464・465)、陶器の播鉢(466)、甕(467)があり、図示できなかったが、天目茶椀の小片もある。土師器皿には口径11.8cmの大型のものと8cm未満の小型のものがある。460を除き器壁は薄い。皿A<sub>4</sub>、皿B<sub>4</sub>に分類されるものである。463は口縁端部を内に折り返すが、皿と同様に器壁は薄い。第3段階に並行するものと思われる、両者とも14世紀のものとする。464の口縁部は若干外反を残し、466は細かい播目をもつ。

**SK706015出土遺物** (第50図) 土師器の皿や鍋があるが、図示できたものは468の皿のみである。口径7.4cmの小型のもので、器高1cm未満の扁平なものであるが、器壁に厚みを残している。皿B<sub>5</sub>に分類され、14世紀後半とされる。

**SD706006出土遺物** (第50図) 土師器の皿(469～471)、鍋(472)、天目茶椀(473)、播鉢(474)、青磁椀(475)、山茶椀(476・477)がある。土師器皿は、口径11cm前後、器高2.2cm前後のもので内湾する口縁

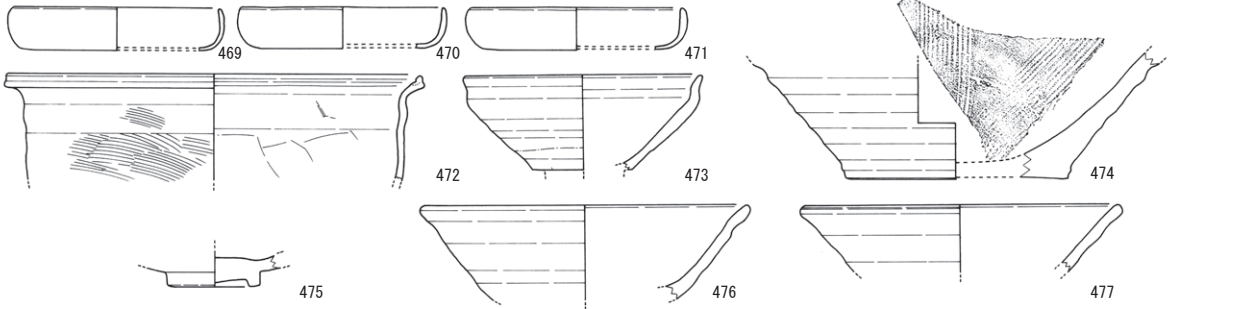
SD706003



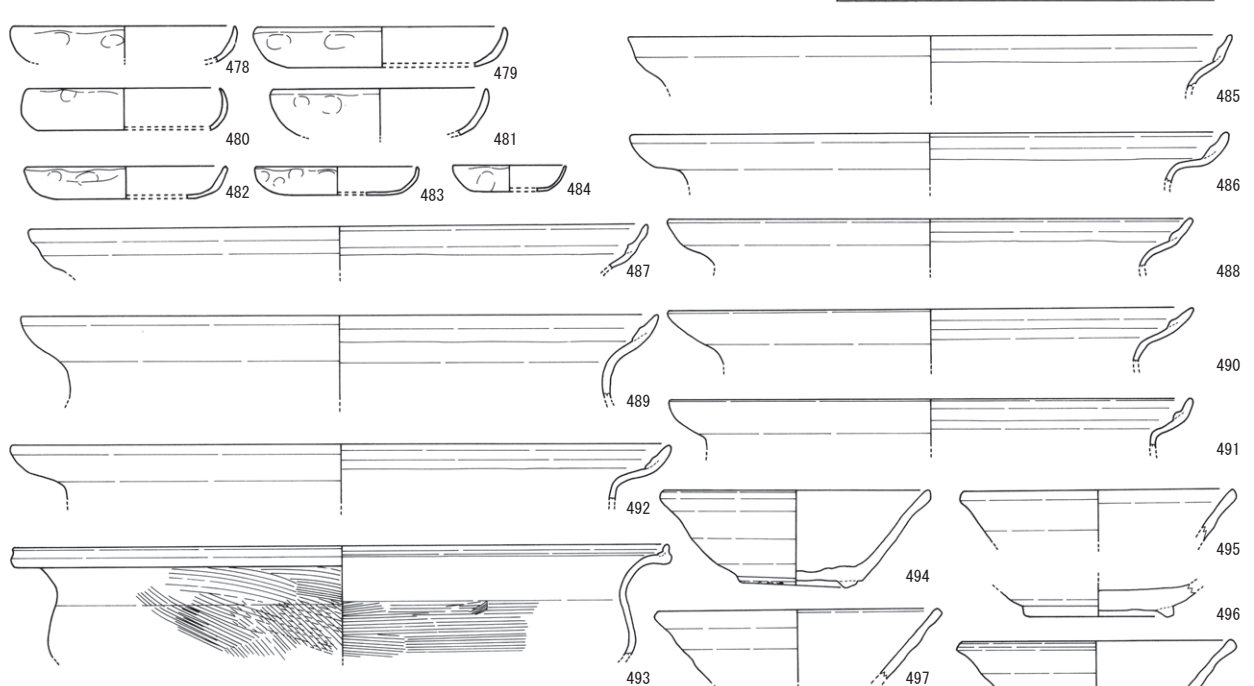
SK706015



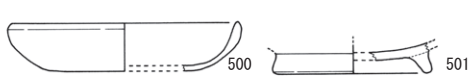
SD706006



SK706007



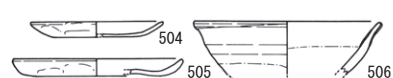
SK706009



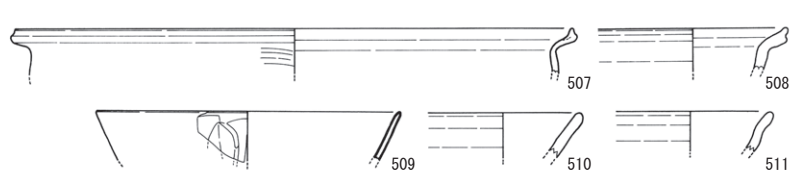
SK706011



SK706013



SK706021

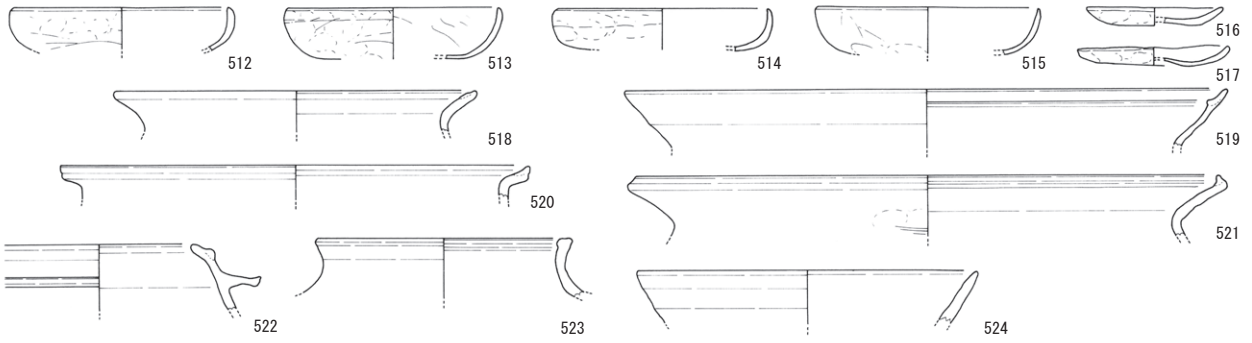


SK706028

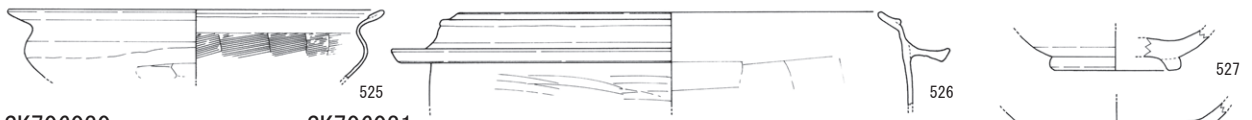


第50图 SK706007・SD706003・SD706006等出土遺物 (1 : 4)

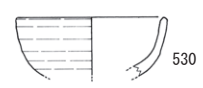
SK706010



SK706022



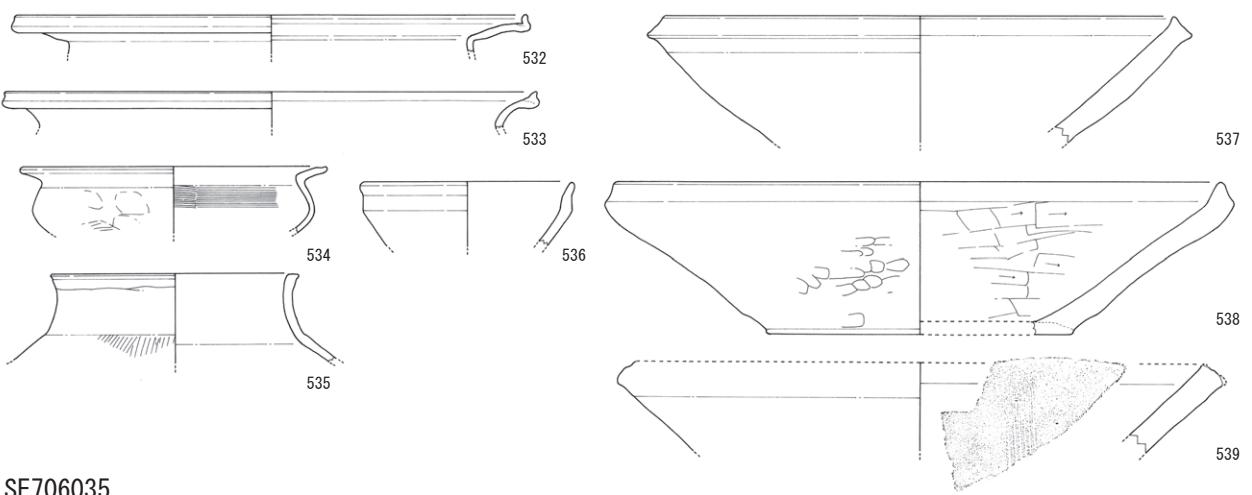
SK706030



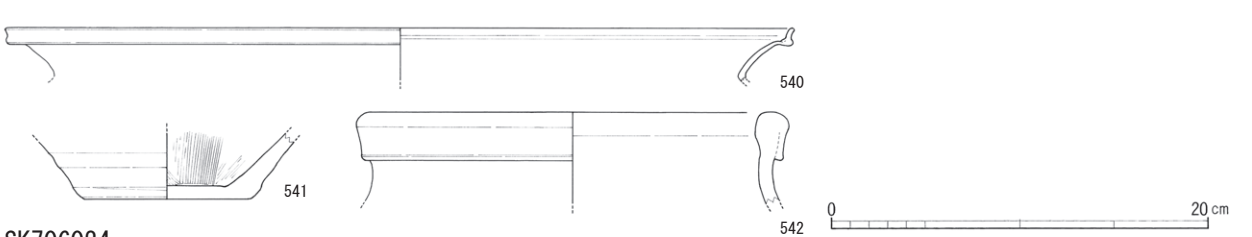
SK706031



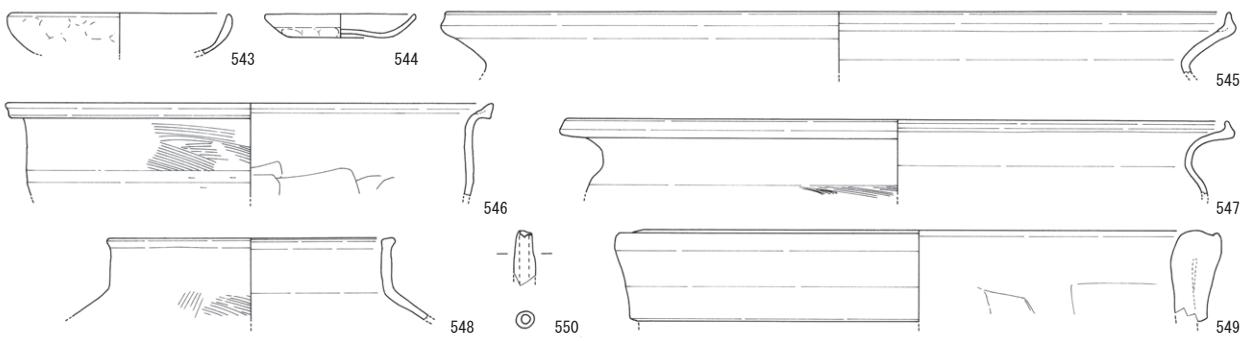
SK706023



SE706035



SK706024



第51图 SK706010·SK706023·SK706024等出土遺物 (1 : 4)



部をもつ。皿A<sub>4</sub>に分類され、14世紀前半の時期とされる。土師器鍋は頸部への屈曲がない形態である。口縁部端部の折り返しは断面三角形を呈する第4段階とされ、15～16世紀とされるものである。天目茶碗の底部外面ちかくには錆釉が施され、搦鉢の内面は使用のための摩耗がみられる。山茶碗は混入と思われるが、477の口縁端部外面には弱い沈線が巡る。

**SK706007出土遺物** (第50図) 土師器の皿(478～484)、鍋(485～493)、山茶碗(494～499)がある。土師器皿は直径10cm以上の大型のものと8cm以下の小型のものがある。大型のものの口縁部は内弯し、小型のものも内弯が観察できる程度の器高を保っている。内面をナデ、外面は未調整であるが、481・482は口縁端部に弱いヨコナデを施す。また、482の外面には粘土紐接合痕が明瞭に残る。小型のものは皿A<sub>5</sub>に下るものであろう。

土師器鍋は、口縁部のみの図化に止まるが、口縁端部を内に折り返し、強いヨコナデを加えるが、493は他と異なり、断面三角形を呈している。前者の第3段階が多数を占め、後者の第4段階は少数である。これら土師器の皿・鍋は14世紀に収まるものを主体とするが、15世紀以降に下るものが若干存在する状況である。

山茶碗は494に口縁部の外反傾向を僅かに残すが、概ね直線的で、鋭利を欠くが端部は外に面をもつ。496の底部外面に藁状の圧痕がある。

**SK706009出土遺物** (第50図) 土師器皿(500)と山茶碗(501)を図示した。土師器皿は口縁部が内弯し、端部にヨコナデを施す。他にこれより新相を示す土師器皿の小片もある。山茶碗は高い高台をもち胎土も精良の古相を示すもので、混入と考えられる。

**SK706028出土遺物** (第50図) 土師器皿も出土しているが、図示できたものは青磁碗(502)のみである。高台は削り出され、高台内側まで施釉が及ぶ。

**SK706011出土遺物** (第50図) 土師器皿や陶器も出土しているが、図示できたものは503のみである。小型の焙烙の可能性も残るが、煤の付着も無いため蓋とした。調整にハケメを用いず、外面をヘラケズリ、内面も同様な調整であるが、工具の

当たりが弱く、ナデとしておく。

**SK706013出土遺物** (第50図) 土師器の皿(504・505)と施釉陶器の碗(506)がある。土師器皿の口径は両者で異なるが、器高は限界にまで低下している。他に、これより新相を示す土師器皿の小片も出土している。

**SK706021出土遺物** (第50図) 土師器鍋(507・508)、青磁碗(509)、山茶碗(510・511)がある。土師器鍋の口縁端部は両者とも折り返した断面が三角形を呈する第4段階で15～16世紀のものである。青磁碗の外面には幅の広い蓮弁文が施される。山茶碗は両者とも小片であるが、511は口縁端部の外反傾向が残る。この様に青磁碗や山茶碗は古相を示し、混入遺物と考えられる。

**SK706010出土遺物** (第51図) 土師器皿(512～517)、鍋(518～521)、羽釜(522)、茶釜(523)、施釉陶器の碗(524)がある。土師器皿には口径11cmを超える大型のものと7cm程度の小型のものがある。大型のものは口縁部が内弯し、小型のものは極限まで器高が低下している。513の底部外面には板状の圧痕がある。鍋の口縁端部は、内に折り返しその上を強くヨコナデするもの(519)と断面三角形を示すもの(520・521)が混在する。後者は第4段階に分類されるもので、15～16世紀のものとなる。

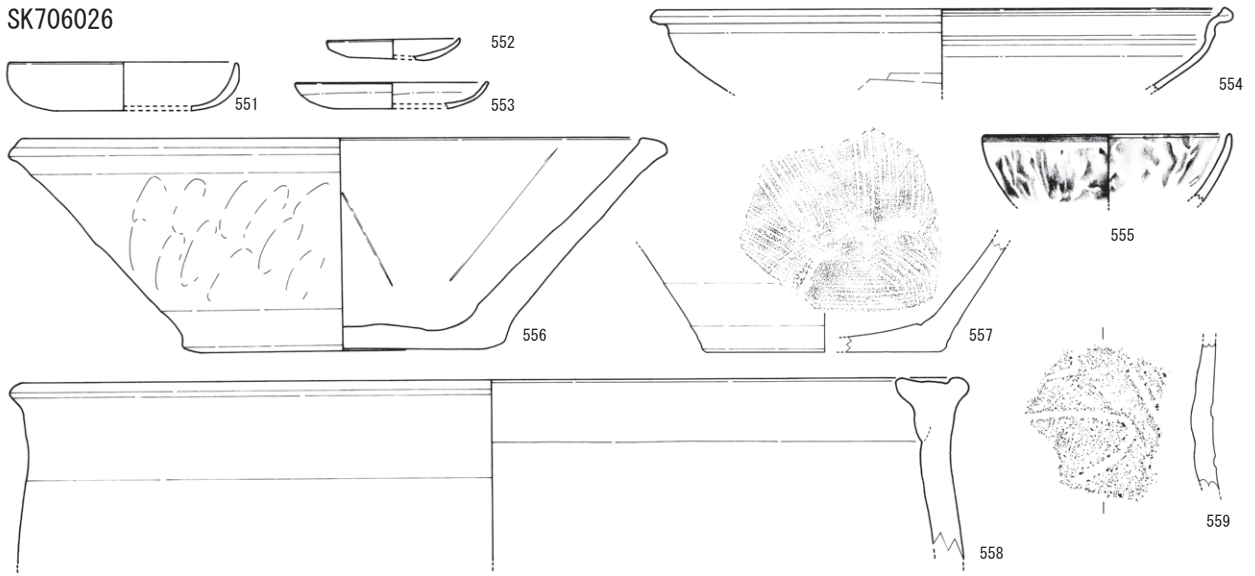
**SK706022出土遺物** (第51図) 525は小型の鍋である。小型であるためか、外面にハケメは無く、粘土紐接合痕を明瞭に残す。526は土師器の羽釜であるが、外面のハケメは非常に粗いものである。527・528は山茶碗、529は同質の鉢である。山茶碗の高台は比較的整ったものであり、混入遺物とすべきであろう。

**SK706030出土遺物** (第51図) 土師器鍋、陶器甕等が出土しているが、図示できたものは施釉陶器の碗(530)のみである。焼成不良のためか灰釉が沸騰気味である。

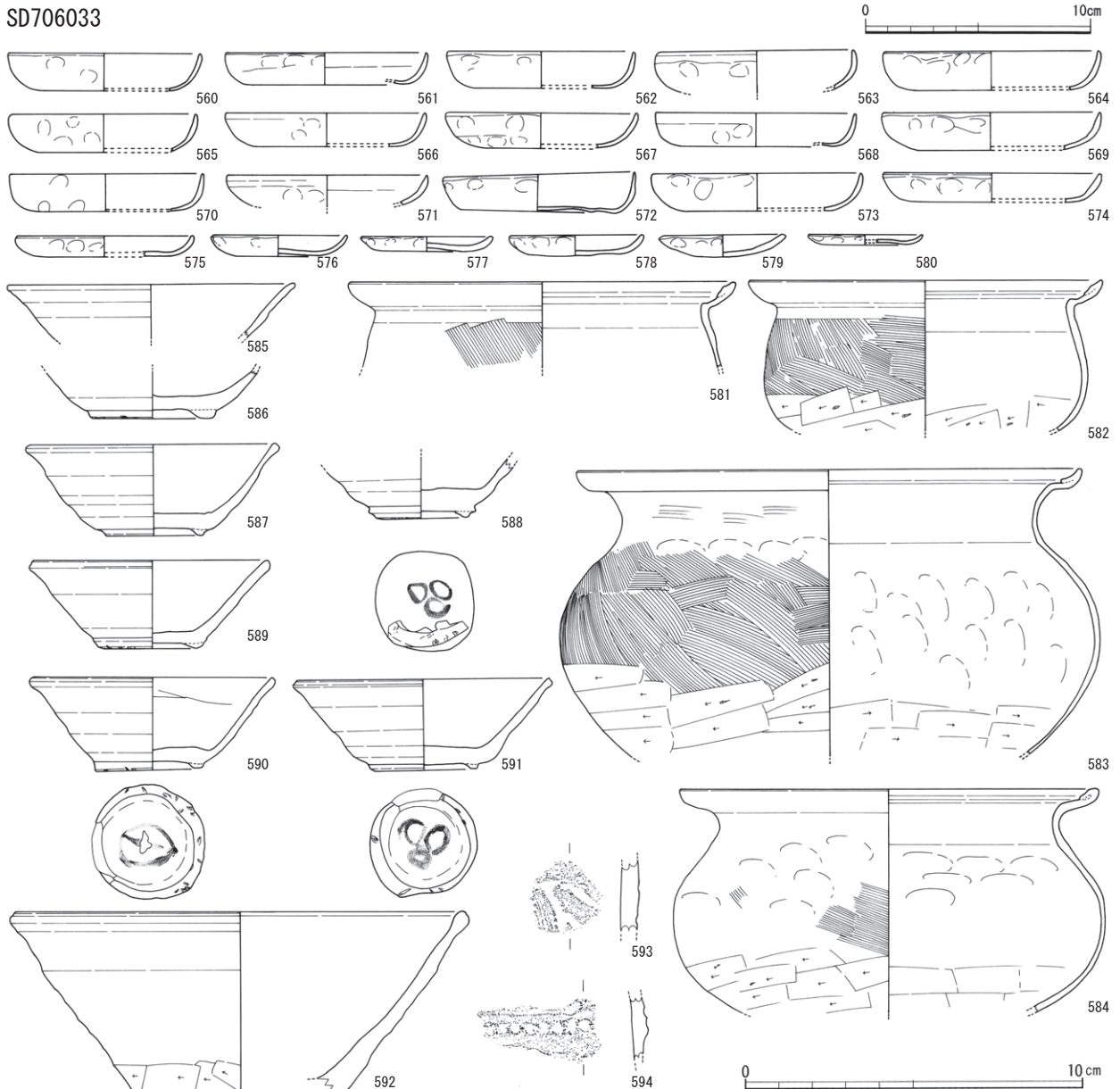
なお、陶器の捏鉢はSK706026のものと接合したため、SK706026出土遺物とした。

**SK706031出土遺物** (第51図) 土師器の皿や鍋が出土しているが、図示できたものは土師器皿の531のみである。大型の皿に類するが、口径は

SK706026



SD706033



第52図 SK706026・SD706033出土遺物 (559・593・594 = 1 : 3、他は1 : 4)

8cmまで縮小が進んでいる。内弯は弱く、皿A<sub>6</sub>とすれば15世紀に下る。

**SK706023出土遺物** (第51図) 土師器の鍋(532～534)、天目茶椀(536)、陶器の捏鉢(537・538)、搦鉢(539)がある。土師器鍋には大型のもの(532・533)と小型のもの(534)があるが、口縁端部の形態は異なり、大型のものが断面三角形を呈するのに対し、小型のものは内に折り返した面をヨコナデにより押さえている。前者は第4段階に分類され、15～16世紀のものとなる。捏鉢は両者とも内面に使用の痕跡があるが、537は赤褐色を呈する赤焼のものである。

**SE706035出土遺物** (第51図) 540は土師器の鍋で第4段階、541は陶器の搦鉢、542は甕で、他に施釉陶器や青磁片も出土している。541は搦目を付ける櫛が底部に非常に強く当たっているが、内面は使用のためか、平滑である。

**SK706024出土遺物** (第51図) 543・544は土師器の皿で、大型のものと小型のものがある。544は小型のものであるが、口縁部が内弯気味に立ち上がる程度の器高を保っている。545～547は土師器の鍋、548は茶釜、549は陶器の甕、550は土錘である。土師器甕の口縁端部の形状は全て断面三角形を呈するが、546は頸部の括れがないもので、体部外面下半のヘラケズリはロクロケズリにちかい一定方向のケズリである。土師器皿は皿A<sub>6</sub>、鍋は第4段階で15世紀のものとなる。

**SK706026出土遺物** (第52図) 明らかな混入遺物の縄文土器(559)を除き、中世と近世が混在する状況である。土師器皿(551～553)は大型のものと小型のものがあり、室町時代に収まるものであるが、553は赤味が強く近世にちかい焼成である。554は焙烙としたが、比較的器高を保ち、鍋にちかい形態である。陶器の捏鉢(556)は内面に工具痕を残すが、搦目には至らない。使用のためか内面は平滑である。555は施釉陶器の椀で、灰釉を施し、白色化粧土による装飾を施す。陶器の甕(558)の口縁は近世の特徴を示しており、555と共に近世に下るものである。

**SD706033出土遺物** (第52図) 土師器の皿・鍋、山茶椀等が多量に出土し、完形またはそれ

にちかいものが散見される。

土師器皿には大型のもの(560～574)と小型のもの(575～580)がある。大型のものは口径11～12cm、器高2cm以上を保つ。口縁部は内弯して立ち上がり、口縁端部をヨコナデするものもある。小型のものは口径が多様であるものの器高は1cm前後で、極限まで低下している。土師器鍋(581～584)は口縁部を内に折り返すことにより肥厚させ、583は強いヨコナデを加える。第4段階に収まるものであろう。584は体部のハケメが一部に限られ、口縁部から頸部の形状と合わせ古相を示すが、器壁は他のものと同様に薄くなっている。

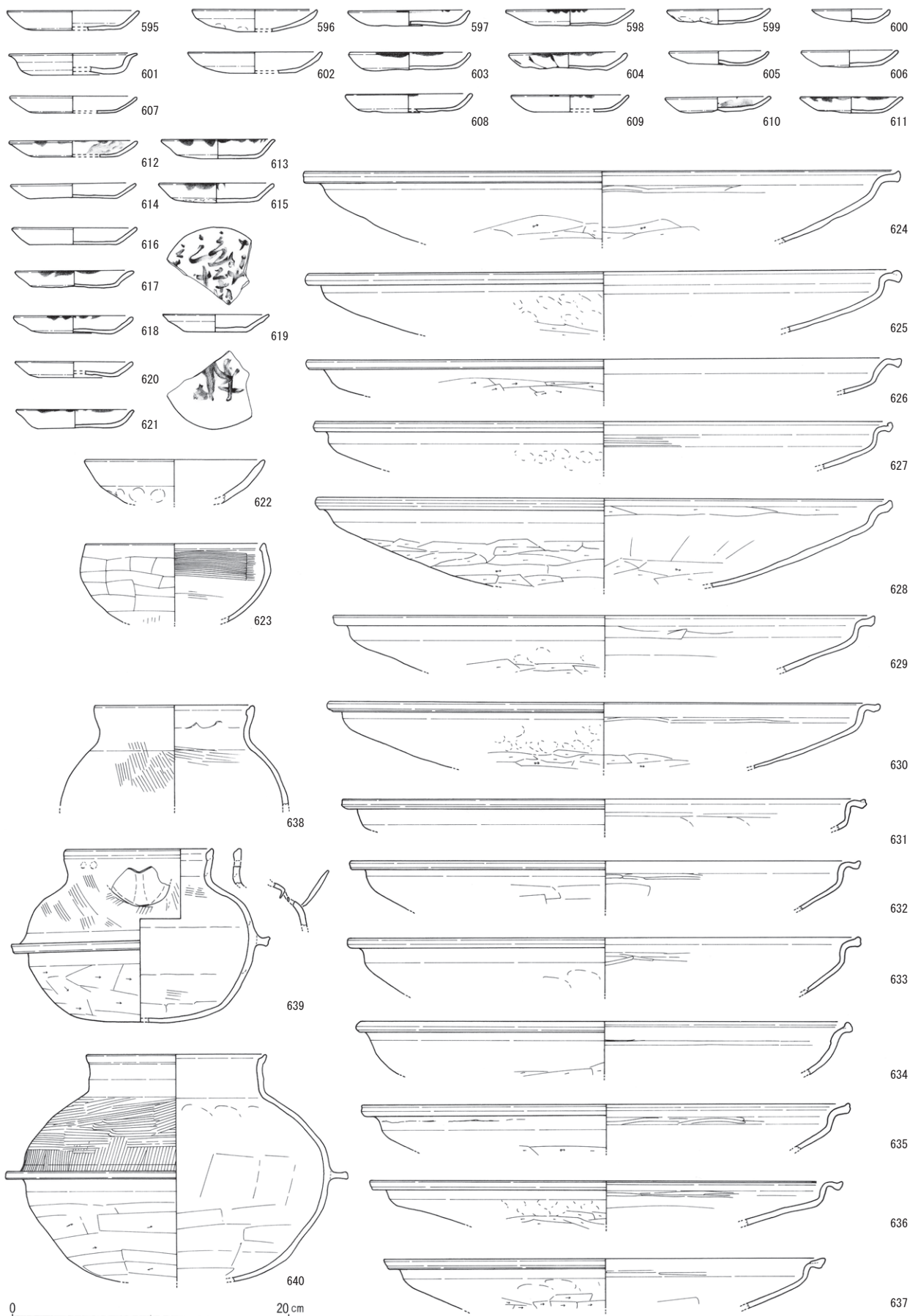
山茶椀は、585が口縁端部の外反傾向を残すが、他のものは直線的に立ち上がり低い高台を貼り付ける。589では、その高台の過半が剥離している。591の口縁端部外面は、細い板状工具によるヨコナデを行い、面を形成している。586や陶器の鉢(592)の内面は使用のためか平滑になっている。588・590・591の底部外面には墨書による記号が記され、588は内面にも煤の付着がある。なお、593・594の縄文土器は明らかな混入遺物である。

これらの土師器皿や鍋の特徴は中世Ⅲa期に相当するものと思われる。溝出土のため一括性には慎重とならざるを得ないが、山茶椀がⅡb期の要素を含むものであることを加味してⅡb期からⅢa期への過渡期にちかい14世紀前半としておく。

**SD706034出土遺物** (第53～57図) 近世の土師器や陶磁器等が多量に出土している。

595～621は土師器の皿で、赤味の強い発色を呈する。完形またはそれにちかい残存の良好なものも多い。底部から屈曲して直線的に外方へ立ち上がる口縁部のものが多いが、599や600等の丸味の残るものもある。口縁部等に油煙の付着するものが多く、灯明皿として使用されたものと推測されるが、601は底部に付着している。口縁端部が外反し、器壁もやや厚く異質である。蓋とすべきかも知れない。また、619はロクロで成形・調整がされる異質のもので、内外面に墨書で文字が重複して多数書かれている。604の外面にはヘラで突いたような線刻が巡るが、その意図は不明である。

622も土師器の皿としたが、外面に煤が薄く付着

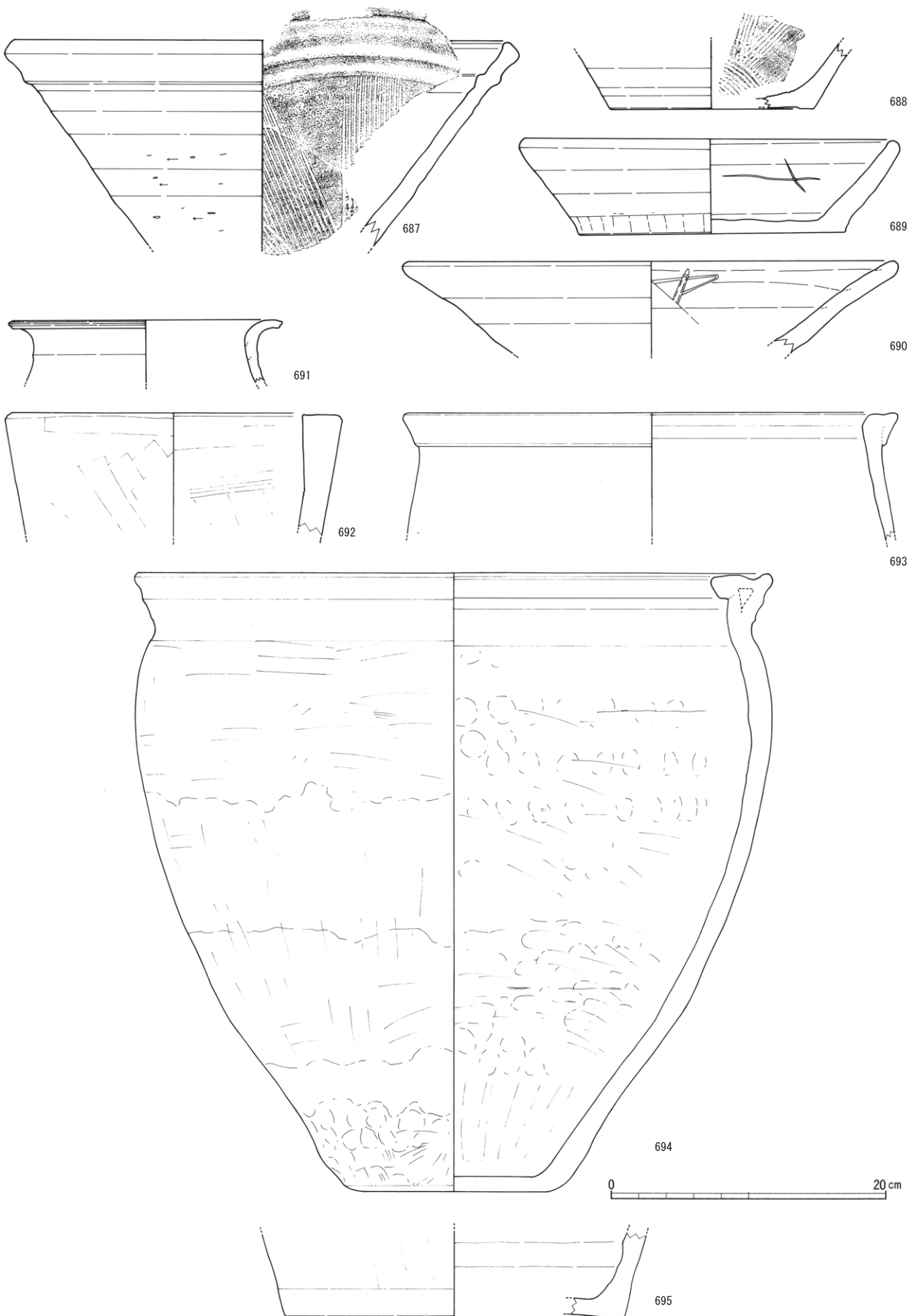


第53图 SD706034出土遺物① (1 : 4)





第54图 SD706034出土遺物② (1 : 4)



第55图 SD706034出土遺物③ (1 : 4)

する大型のものである。前代からの混入の可能性がある。623は土師器の椀としたが、外面全面をヘラケズリ状の工具ナデで調整する。外面に煤が厚く付着し、鍋のように使用されたものかも知れない。

624～637は土師器の焙烙で煤の付着するものが大半である。外面の調整にハケメを用いず、未調整のままであるが、底部のヘラケズリが口縁部ちかくまで及ぶものも多い。634の口縁部と体部の接合部内面には棒状工具による沈線状の調整がみられる。

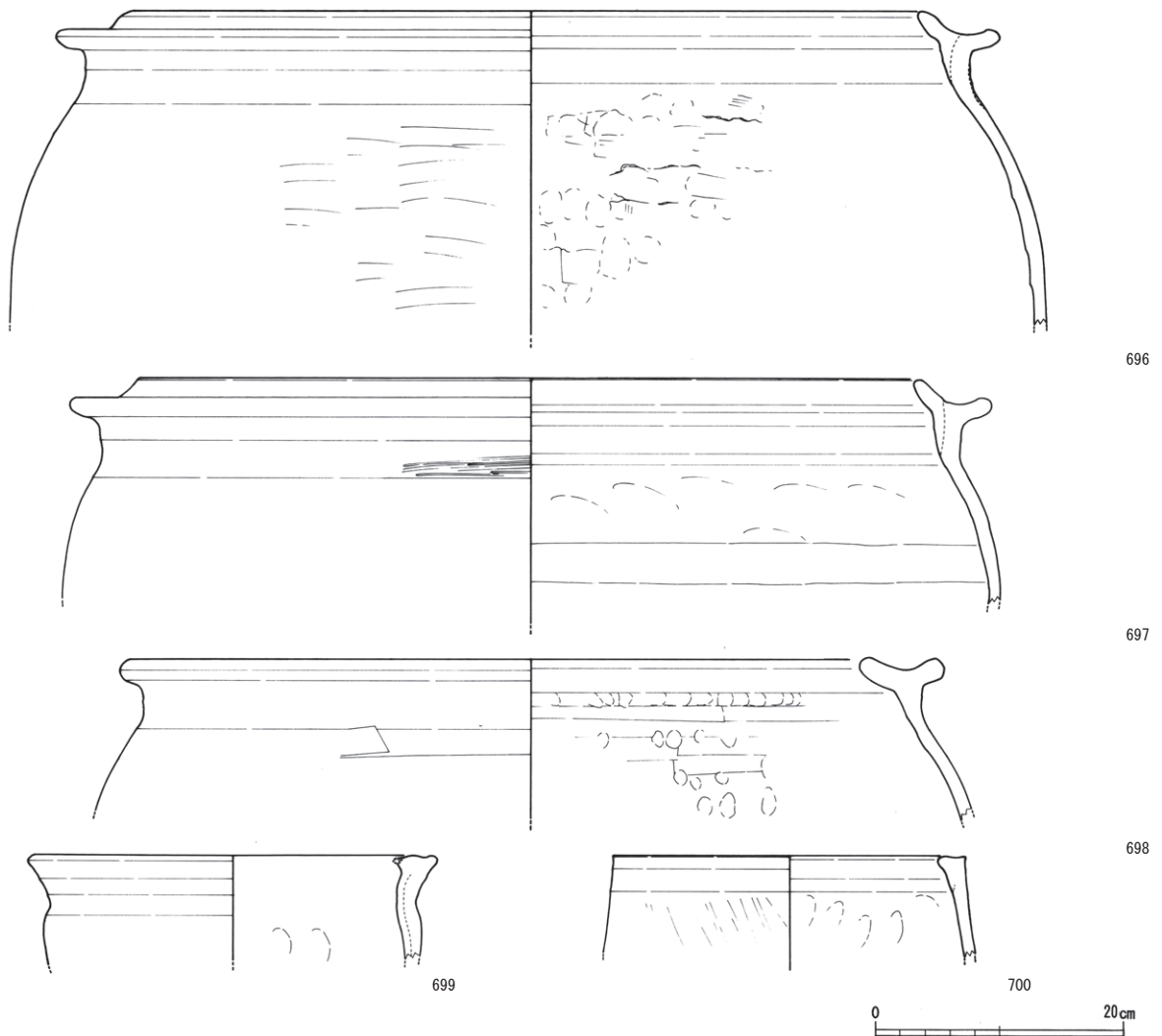
638・640は土師器の茶釜で、639も同様な形態を呈する。ただし注口が設けられていることから土瓶とした。

641～665は施釉陶器の椀で、瀬戸・美濃地域のものである。641～654・660は腰鍔椀または腰鍔鉢と推測されるもので、641等の体部が直線的な筒形椀に

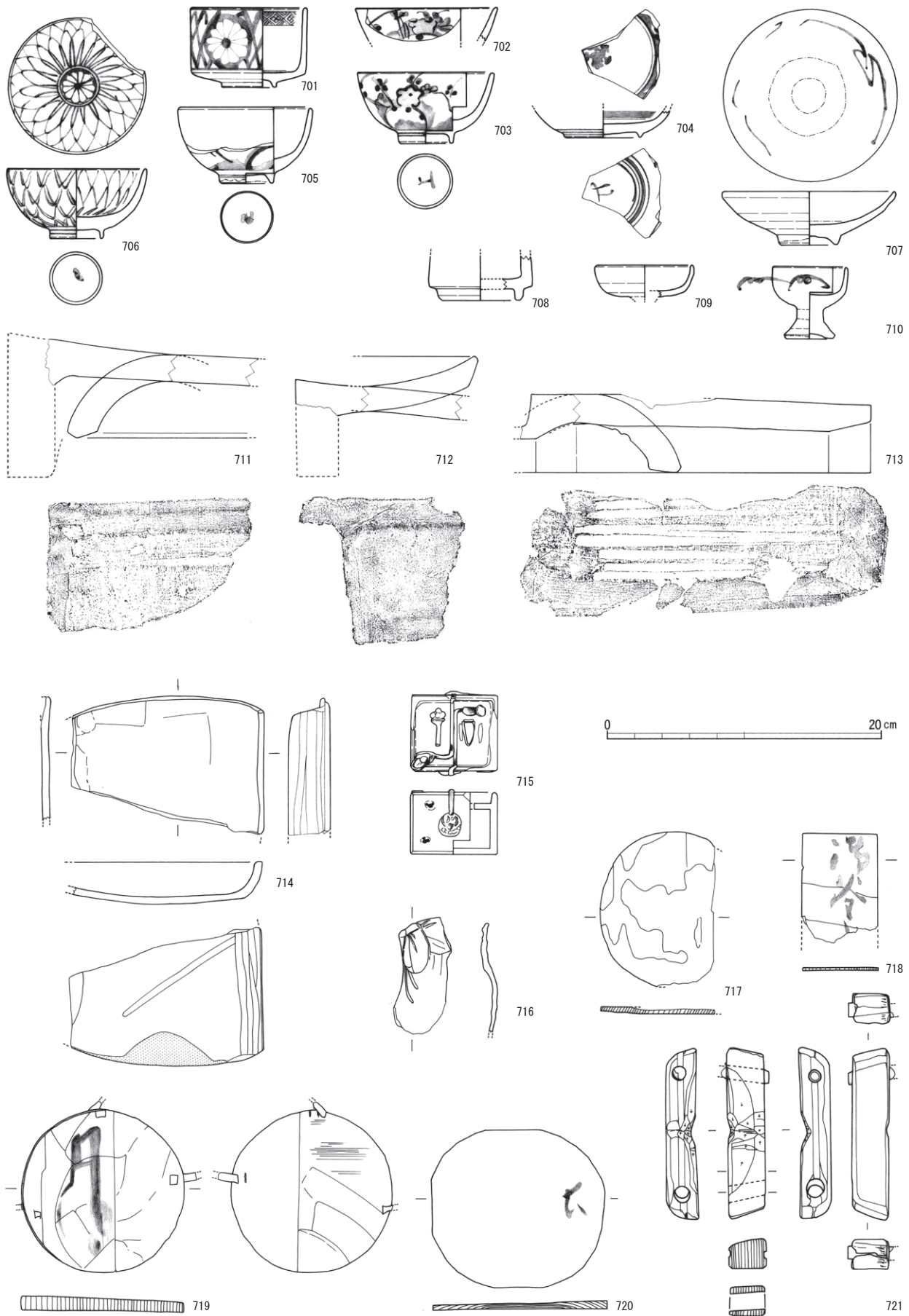
類似するものと652等の丸味をもつものがある。655は体部に刺突による列点を多条に施す鍔椀、656は鉄釉、657・664・665は灰釉で、664・665は小型のものである。658は透明釉または灰釉で、内部は氷割文となり、659は灰釉に白色化粧土を施した刷毛目椀、661～663は陶胎染付で、梅花や草花が描かれる。

666～668は仏飯具でいずれも灰釉が施されるが葉文等はない。669～673は施釉陶器の皿、674は灯明皿台としたものである。669は小型のもので、内面のみ鉄釉を施す。外面は強いヘラケズリで調整するが、文様的に工具痕を残す。673は焼成不良のためか釉が沸騰気味である。

676～685は施釉陶器の鉢で、682・683は口縁部が内傾し、鉄釉が施される。内面に煤が付着することから火鉢と思われる。684も同様な形態であるが、



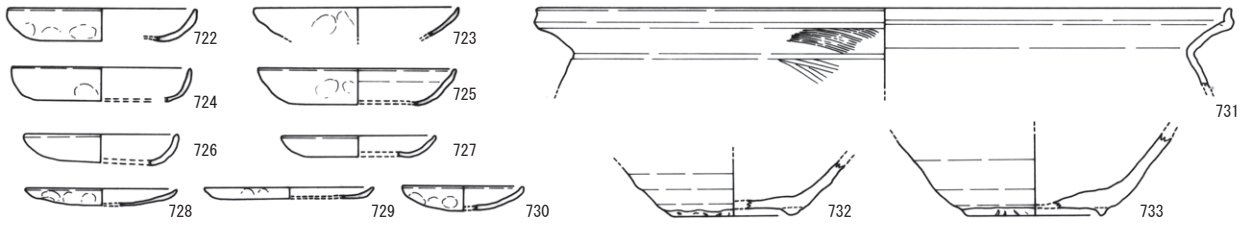
第56図 SD706034出土遺物④ (1:6)



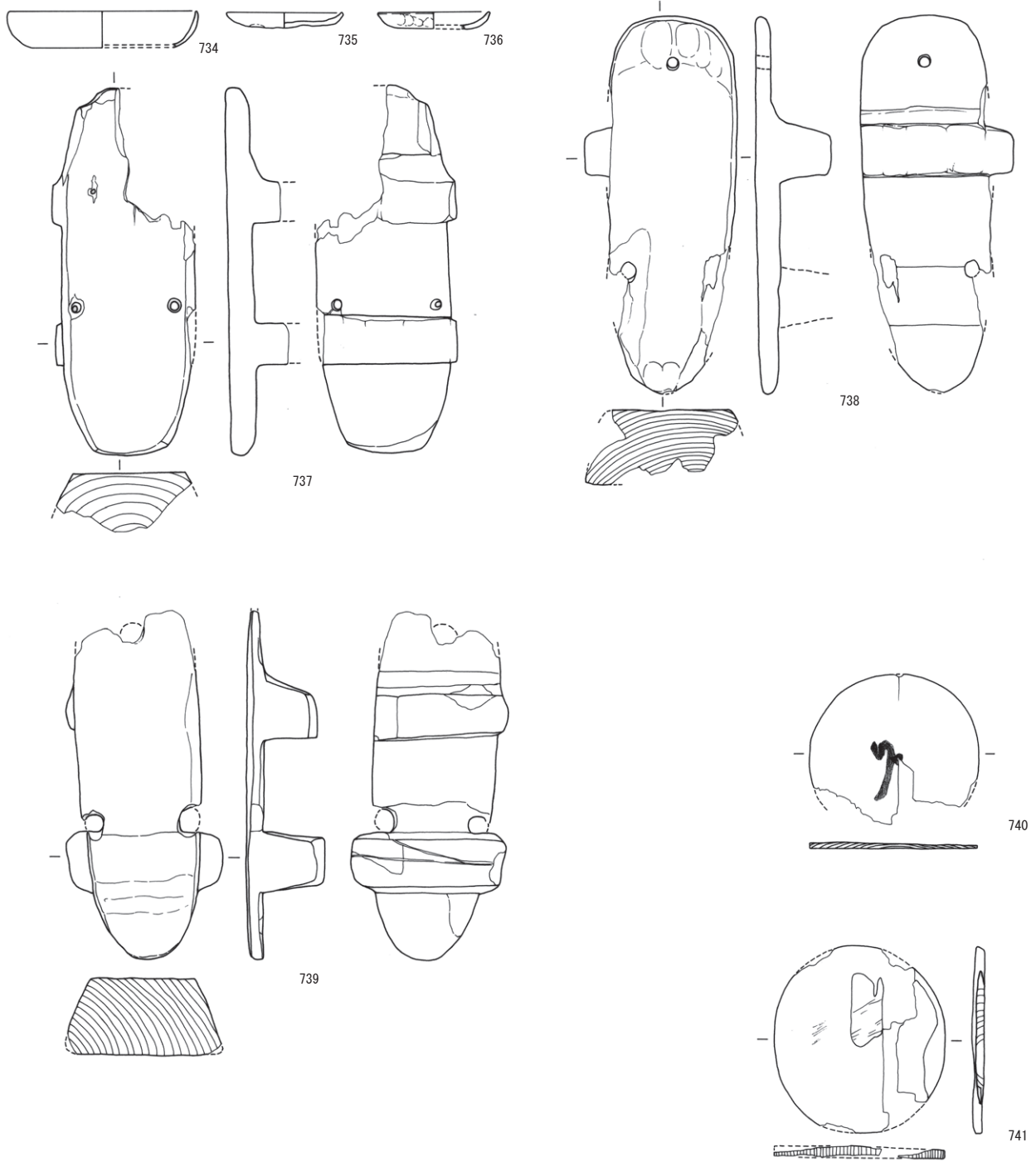
第57图 SD706034出土遺物⑤ (1 : 4)



SB706038



SK706039



0 20 cm

第58図 SB706038・SK706039出土遺物 (1 : 4)

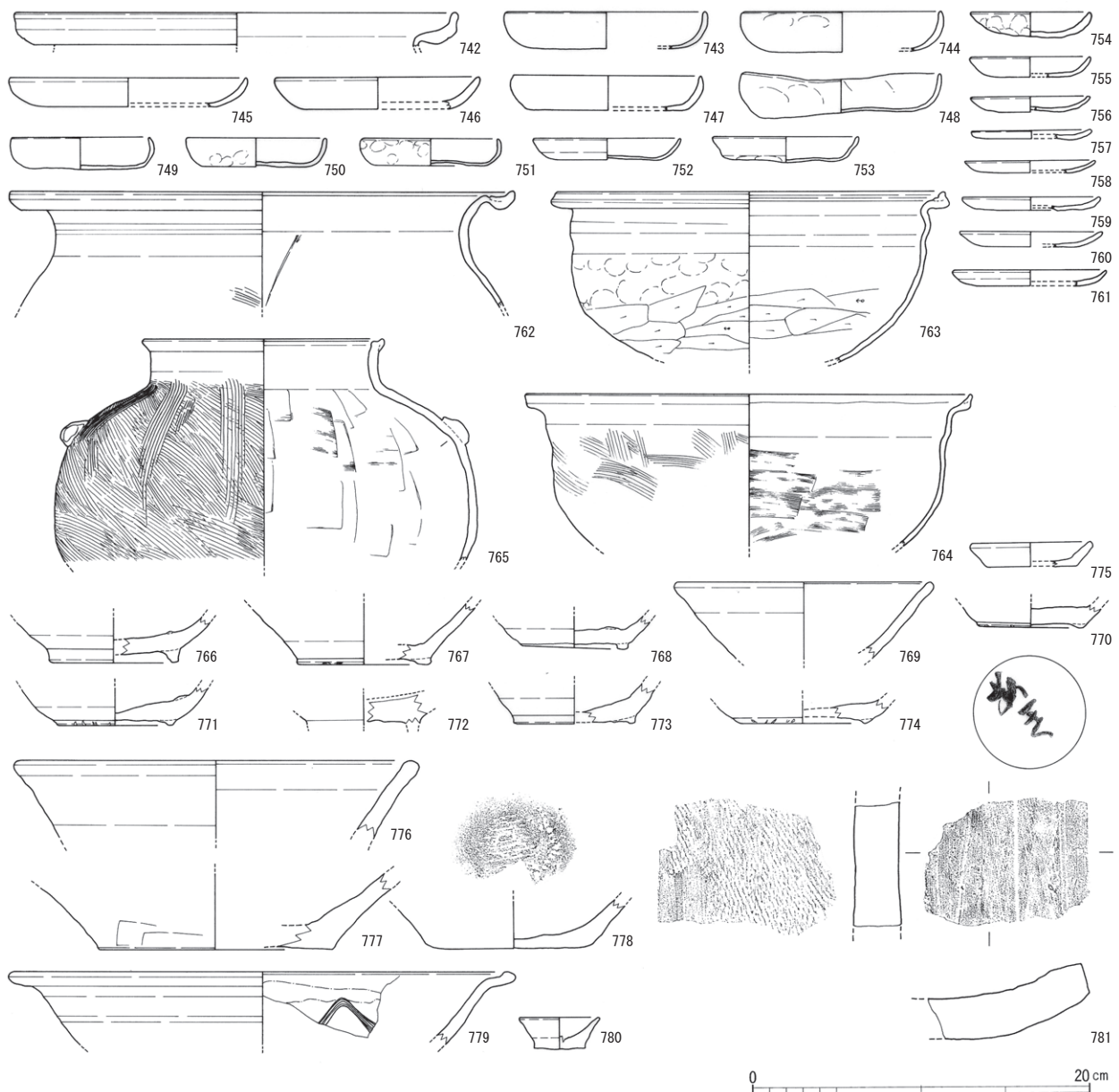
無釉で口縁部の一部を指で押し、弱い輪花状を呈する。678・679には注口が設けられ、681の底部外面には墨で「〇」が記される。686は小型の壺で、鉄釉を施し肩部には橋状把手を設ける。

687・688は搦鉢、689・690は捏鉢である。689・690の内面には焼成前に記号が記され、689の体部下端は指による強いナデで面取り状を呈する。691～700は常滑焼またはその質感の甕としたいところではあるが、691は口径が小さく、壺としておく。692は口径が小さいが、器壁は厚い。内面に煤が厚く付着することから火鉢、695及び700も内面に煤が付着し、火鉢の可能性もある。692の外面は浅へ

ラケズリ、698は浅いロケズリで調整されるが、両者とも工具ナデとすることも可能である。

701～710は磁器で、708は青磁、他の大半は染付である。701は瀬戸・美濃、他は肥前と思われるが、不明確なものもある。菊花や草花を絵付けするが、706は二重網目文、704は五弁花文をコンニャク印判で施す。裏銘を記すものも多く、703は「上」、704は「大」、705・706は何かの省略形であろうか。707の内面は蛇ノ目釉剥となり、709の胎土は磁器としてはやや白色味を欠く。

711～713は瓦で、711と712は瓦当を欠損する。714は土製品の十能、716は泥面子としておく。715



第59図 第7次調査6区包含層等出土遺物 (1:4)

は陶製品の水滴で、粘土で文様を造形し、灰釉に赤絵を加える。

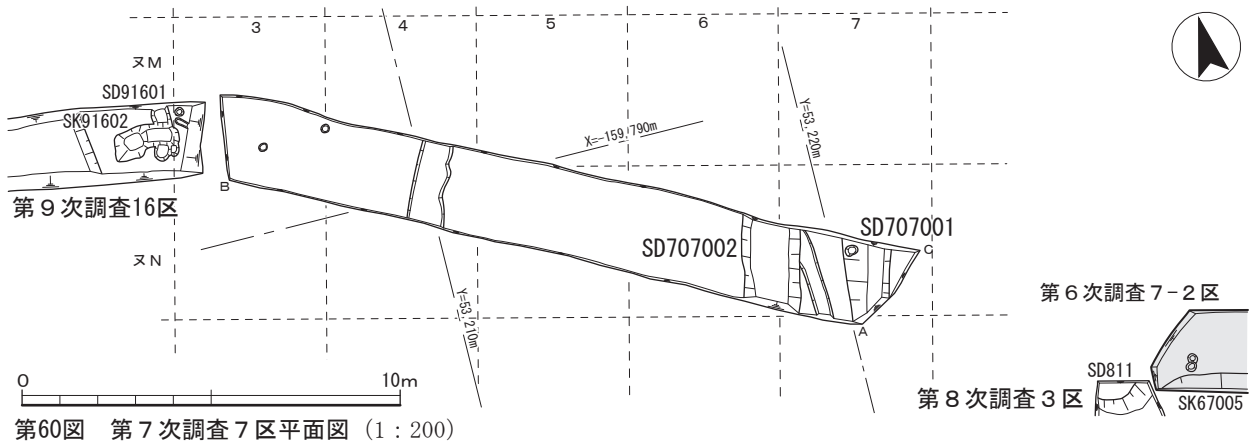
717・719・720は曲物の底板で、720には「大」と墨書され、719は一部が黒変している。718は木札で、上端からやや下がった片方に切れ目を設けている。721は小型の材で両端に円形の穿孔がある。孔には棒状部材が差し込まれる。他の部材と連結して何らかの道具となるものか、これ自体で完結した道具であるのかは不明である。これらの他に図示できなかったが、トチノキで製作された漆器椀の小片(写真図版64)がある。

これらの遺物のなかで陶磁器類に広東椀はみられず、五弁花文やコンニャク印判を用いること等により、18世紀に収まるものと考えられる。これは、

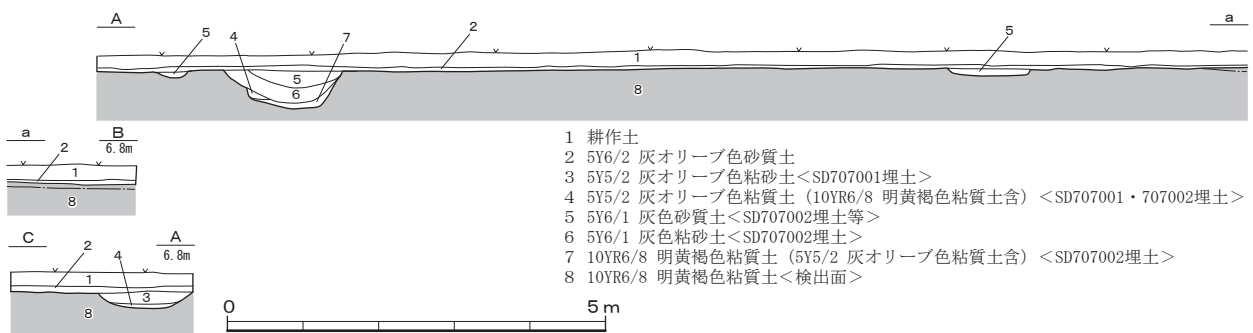
陶器甕の口縁部形態等の特徴とも矛盾しない。

なお、675は山茶椀で明らかな混入遺物である。

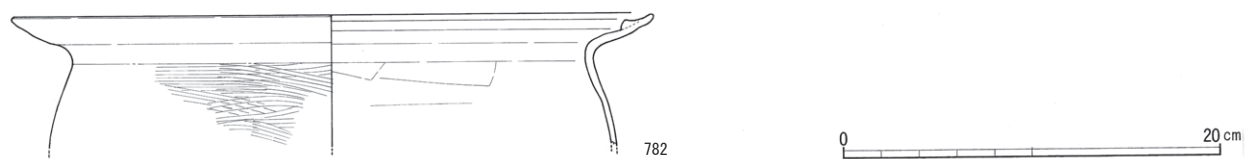
**SB706038出土遺物**(第58図) 掘立柱建物の柱穴からであるが、比較的多くの遺物が出土した。722～730は土師器の皿、731は鍋、732・733は山茶椀である。722と725・732・733は同一柱穴からの出土であるが、山茶椀は混入遺物と思われる。723・724・728～730が同一柱穴、726・727・731も同一柱穴からの出土である。土師器皿は大型のものと扁平な小型のものがあり、大型のものの口径は小さいものでも8cmを保つ。しかし口縁部の内弯が緩慢なものも多い。一方、土師器鍋の口縁端部は断面三角形を呈する。これにより土師器皿は皿A<sub>6</sub>、鍋は第4段階で15世紀のものとする。



第60図 第7次調査7区平面図 (1:200)



第61図 第7次調査7区土層断面図 (1:100)



第62図 第7次調査7区出土遺物 (1:4)

**SK706039出土遺物**（第58図） 小規模な土坑であるが、多くの木製品が出土している。土師器の皿は大型のもの（734）と小型のもの（735・736）がある。皿A<sub>5</sub>と皿B<sub>5</sub>に収まるものと思われ、14世紀としたいところではあるが、小型皿の口径の縮小が進んでおり、それより時期が下る可能性もある。737～739は下駄、740・741は曲物の底板である。738には足指の圧痕が残る。740には墨書があるが、文字か記号かは不明である。

**包含層等出土遺物**（第59図） 包含層をはじめ表土・小穴・遺構混入遺物の一部を扱う。

742は受け口状の口縁部を呈するもので、刺突等の装飾はみられない。弥生土器の甕としておく。

743～761は土師器の皿である。この内、756～761は大半が器高1cm未満の偏平な小皿である。器高を保つ大型の743～755は口縁部が内弯し、口径12cm程度のものから7cmのものまで多様である。ただし、752は内弯が弱く、器壁も薄い新相を示す。おそらく近世に下るもので、753もその可能性がある。大型・小型を問わず、内面をナデで調整し、外面は未調整であるが、748・750は工具により調整されている。

762～764は土師器の鍋、765は茶釜である。いずれも外面に煤が付着し、使用されたことを示す。外面をハケメ、内面をナデで調整することを基本とするが、763はハケメを用いず、764・765のナデはハケメ状である。762の頸部内外面は工具痕があり、口縁部ヨコナデに一部板状工具が使用された可能性がある。

766～774は山茶椀、775は山皿であるが、高台の低いものが多く、773は高台の貼り付けが不十分で大半が剥離している。多くのものの高台に靨痕があり、内面には重焼の痕跡を残す。770の底部外面には、ひらがなで「あき」と墨書される。

776～778は陶器の鉢、779は施釉陶器の鉢、780は小型の灯明皿、781は陶質の平瓦片である。陶器はロクロ成形であるが、777の体部下端はヘラケズリで整えられている。778は内面に櫛状の痕跡を残すが、その意図は不明である。内外面に煤が付着するが、破損面にも付着しており、破損後の作用でなければ、埋蔵環境によるものであろう。（萩原・森川）

## 7.7区

第7次調査区域としては南東端に位置する。6区の東側で、間に第9次調査16区を挟む。東側には第6次調査7-2区と第8次調査3区が迫る東西方向に細長いもので狭小な調査区である。遺構検出は、ほぼ耕作土直下で行ったが、遺構密度は極めて希薄で出土遺物も少なく、数条の溝を検出したに止まる。

SD707001・707002は共に調査区東端ちかくで検出した溝である。両者とも南北方向に延び、その方向は条里に沿う。埋土は粘質土と砂質土または粘砂で構成される。深さは、SD707001が20cmであるのに対し、SD707002は50cmを測る深いものである。第62図782に示すように、SD707002からは室町時代に下る遺物が出土しているが、SD707001は鎌倉時代に止まる。しかし両者の時期差は少ない。

782は土師器の鍋で、口縁端部上端を強くナデしており、外面には煤が付着する。口縁部の特徴から第3段階に相当するもので、室町時代でも前半の14世紀に位置付けられる。

（萩原・樋口・森川）

## 8.8区

調査区は立田集落の南東、第7次調査区域としては北東端に相当し、逆L字状を呈する比較的面積の広い調査区である。厚さ30cmほどの耕作土直下での検出になるが、予め耕作土が除去されている部分が多く、検出面が露呈した状態であった。遺構密度は希薄で出土遺物も少ない。平安時代の掘立柱建物や数条の溝等を検出したに止まるが、出土遺物が無く、時期決定の根拠に欠けるものも多い。

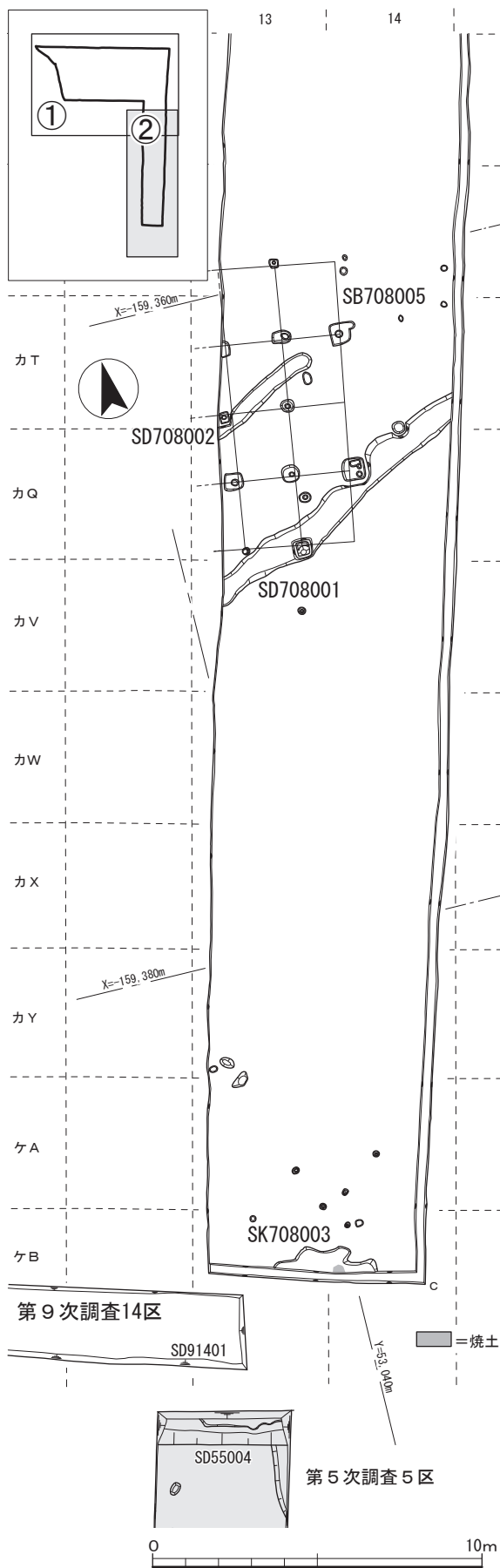
### （1）遺構

**SD708001・708002** 調査区南部を南西から北東方向へ延びる2条の溝である。両者とも検出面から20cm足らずの浅いもので、SD708002は途中で途切れている。両者はとも埋土はシルトで、溝芯々で約4mの間隔で並行する。SD708001から律令期と思われる土師器の小片が出土するに止まり、他に関連する遺構もない。柱穴が重複するSB708005が後出であるため、後述の結果より10世紀以前のもの可能性が高い。





第63図 第7次調査8区平面図① (1:200)



第64図 第7次調査8区平面図② (1:200)

SK708003 調査区南端において検出した土坑である。しかし平面形は不定形で、深さも10cm未満である。調査区外へ向けての自然傾斜の可能性が高いが、直径40cmほどの炭を含む焼土の広がりを検出している。縄文土器の小片が出土しているが、これまでの調査結果と比べ検出位置が高く、直ちにこの時期の竪穴住居を想定することは困難である。

隣接する第5次調査のSD55004を第9次調査でSD90401として検出している。その延長上当調査区の南端が位置する。SD55004の北岸も想定されるころではあるが、整った南岸に対して不定形の北岸となり、傾斜も極めて緩やかなものとなるため、溝の北岸とすることも困難である。

SD708004・708007 調査区北西部で検出した溝である。SD708004は、調査区外から13m北上して突然止まる。幅40cm、検出面からの深さは10cm未満の浅いものである。しかしその方向は条里に沿う。SD708007はSD708004から直角に西方へ6m延びて、同じように突然止まる。しかし幅は20cm、深さもさらに浅く、途切れ気味である。

SD708004からは平安時代前半の土師器杯や製塩土器が出土しており、SD708007から出土した土師器の小片も、その時期を否定するものではない。

SB708005 (第66図) 調査区ほぼ中央で検出した総柱の掘立柱建物である。西側が調査区外へ続くため全体の形状は不明であるが、東西棟と仮定した。桁行は2間以上、梁行きは4間となり、一辺60cmの方形の整った柱掘形をもつ。直径20cmの柱痕跡を検出したものも多い。しかし疑問もあり、北辺の柱掘形は極端に小さく、北東隅のものは柱通りから大きく外れる。また、それから南へ向かう東端の柱通りには検出できなかった柱穴が2基ある。この2基等の検出できなかった柱穴に対しては、異なる土壌水分での検出を数度試みたが、結局検出することは出来なかった。したがって、北辺は庇や付属する塀の可能性があり、身舎については、抜本的に異なる形状の可能性も残る。

柱穴のひとつから土師器杯(783)が出土した。柱穴の柱痕跡埋土の検出面付近に正立にちかい状態で出土した。口縁部の3/4を欠損しているが、検出面ちかくであるため後世に削平されたものと推測

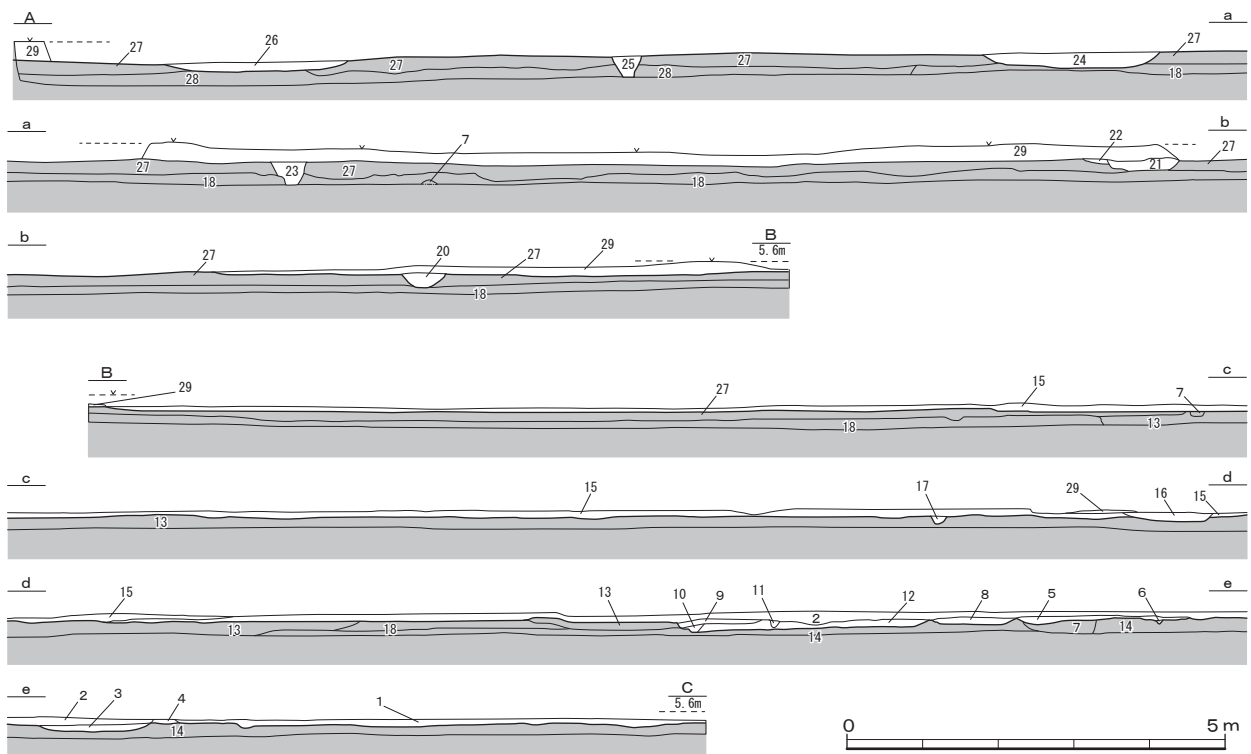
でき、本来は完形で埋納された可能性もある。この杯の形態は、第Ⅱ期第3～4段階に類似し、9世紀後半から10世紀前半の時期が与えられている。しかし、問題もある。口縁端部を内に巻き込む傾向を見せる土師器甕口縁部小片も出土している。このような形態は第Ⅱ期第4段階には存在するとしても第Ⅲ期第2段階まで明瞭な変化を見せない。これを重視すれば、最も新しくみた場合11世紀末まで下げることが可能となる。さらに、前述したように検出できない柱穴もあり、建物形態にも疑問が残るものである。この様に問題を含むものの、各要素を折衷し、第Ⅱ期第4段階の下限、10世紀中頃としておく。

**SK708006** 調査区北西部において検出した直径90cmの不整形円形を呈する土坑である。深さ

は検出面から20cm未満の浅いもので土師器の小片が出土したのみである。遺構であるかどうかを含め、その性格・時期ともに不明である。

**SD708008** 調査区北西部から北へ延びる幅30cm、検出面からの深さ10cm程度の小規模な溝である。出土遺物はなく、やや蛇行しており自然の作用による可能性もある。

**SB708009** (第67図) 調査区北西部で検出した南北棟である。妻柱は検出できず、桁行は不等間で、かつ桁行東西で柱間が異なる。さらに柱通りも悪く建物とするに疑問も多いが、遺構密度が薄い地域での検出であり、その可能性を示す。柱掘形は直径30cm程度の小規模な円形である。東側桁行が南へ1間延長しており、南側に位置するSB708010



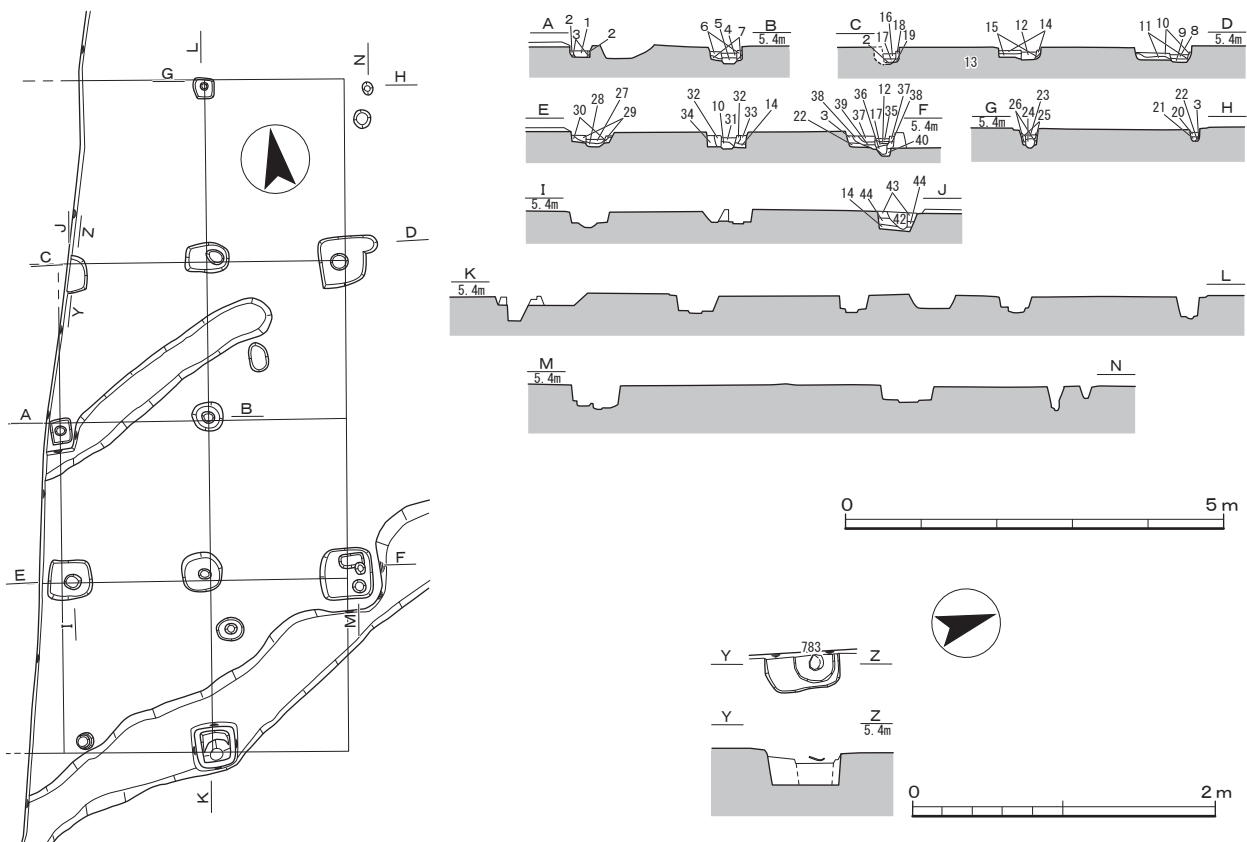
- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト                | 16 2.5Y7/2 灰黄色シルト (鉄分少量含) <SD708001 埋土> |
| 2 10YR8/2 灰白色シルト                   | 17 2.5Y6/2 灰褐色シルト (鉄分多含)                |
| 3 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト                | 18 10YR6/3 にぶい黄褐色粘質シルト (鉄分多含) <検出面>     |
| 4 2.5Y7/4 浅黄色シルト                   | 19 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト (鉄分多含)           |
| 5 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト              | 20 2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト (鉄分多含)              |
| 6 10YR6/3 にぶい黄褐色砂                  | 21 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質シルト (鉄分多含)            |
| 7 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト (鉄分多含) <検出面> | 22 2.5Y6/2 灰黄色シルト (下部鉄分多含)              |
| 8 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (下部は鉄分多含)      | 23 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト                  |
| 9 10YR7/1 灰白色シルト (下部は鉄分多含)         | 24 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト (下部鉄分多含)         |
| 10 10YR5/3 にぶい黄褐色砂 (鉄分多含)          | 25 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト                    |
| 11 10YR6/4 にぶい黄褐色砂                 | 26 2.5Y6/2 灰黄色シルト                       |
| 12 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト (鉄分多含)         | 27 10YR6/2 灰黄褐色シルト (鉄分少量含) <検出面>        |
| 13 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (鉄分多含) <検出面>    | 28 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト (鉄分多含)           |
| 14 10YR6/4 にぶい黄褐色粘質シルト <検出面>       | 29 耕作土                                  |
| 15 2.5Y7/1 灰白色砂質シルト                |   |

第65図 第7次調査8区土層断面図 (1:100)

との間を遮閉する塀が設けられていた可能性がある。出土遺物はなく、時期は不明であるが、後述するSB708010がすぐ南側で棟方向を揃えており、これと同一の時期と思われる。

**SB708010** (第67図) 調査区北西部で検出した南北棟で、柱掘形は直径30cm程度の小規模な円形である。しかし、北東隅の柱が大きく柱通りから外れ、それをを用いると桁行・梁行共に相対する寸法が異なることになる。しかも西側桁行は極端な不

等間で、建物とするに疑問の多いものである。しかし、遺構密度の薄い地域で小穴が長方形に巡る様子が明確であり、建物の可能性を示すものである。梁行が短いことから、片流れ屋根の粗末な雑舎であったものかも知れない。その場合、北側に隣接するSB708009に付属する道具小屋等のものであったものと推測できる。比較的薄い器壁の土師器杯の小片が出土しており、平安時代中頃の可能性がある。

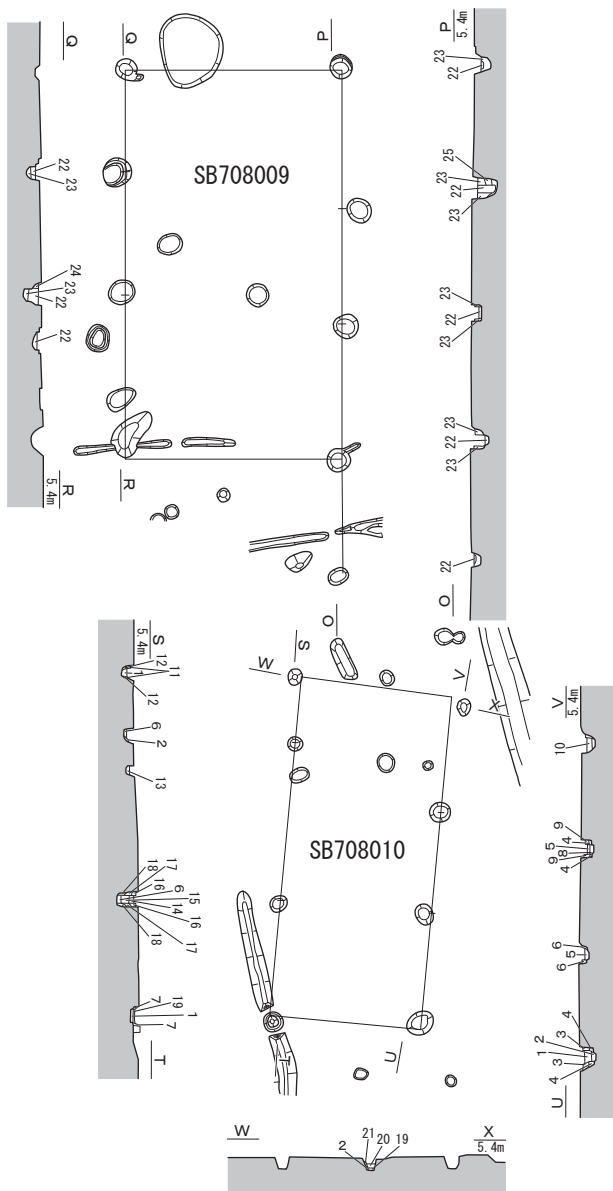


- 1 10YR7/3 にぶい黄橙色シルトと10YR5/2 灰黄褐色粘土の混成
- 2 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
- 4 10YR5/2 灰黄褐色粘土
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 6 10YR6/2 灰黄褐色シルトと10YR7/4にぶい黄褐色シルトの混成
- 7 10YR6/6 明黄褐色極粒砂
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘土
- 9 10YR6/6 明黄褐色シルト
- 10 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
- 11 10YR7/4 にぶい黄褐色極粒砂
- 12 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土
- 13 10YR8/4 浅黄褐色極粒砂 (マンガン含) <検出面>
- 14 10YR6/2 灰黄褐色シルト
- 15 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト
- 16 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質土塊微量含)
- 17 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト
- 18 10YR7/6 明黄褐色シルト
- 19 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト (マンガン含)
- 20 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土
- 21 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
- 22 10YR6/4 にぶい黄褐色極粒砂

- 23 2.5Y5/3 黄褐色粘土
- 24 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト
- 25 10YR7/4 にぶい黄褐色極シルト
- 26 10YR6/3 にぶい黄褐色極粒砂
- 27 10YR6/2 灰黄褐色シルトと10YR7/2 にぶい黄褐色極細粒砂の混成
- 28 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトと10YR6/4 にぶい黄褐色極細粒砂の混成
- 29 2.5Y6/4 にぶい黄色極粒砂と2.5Y6/6 明黄褐色シルトの混成
- 30 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト
- 31 2.5Y5/3 黄褐色シルトと2.5Y6/2 灰黄色極粒砂の混成
- 32 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
- 33 2.5Y7/3 浅黄色シルトと2.5Y6/6 明黄褐色極粒砂の混成
- 34 10YR5/3 にぶい黄褐色極粒砂
- 35 2.5Y5/6 黄褐色粘土
- 36 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土
- 37 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
- 38 10YR4/4 褐色シルト
- 39 2.5Y3/2 黒褐色シルト
- 40 2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y6/4 にぶい黄色シルト含)
- 41 10YR7/6 明黄褐色極粒砂<検出面>
- 42 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土 (2.5Y7/3 浅黄色シルト塊含)
- 43 2.5Y7/4 浅黄色シルト
- 44 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト

第66図 SB708005実測図 (1:100)、柱穴遺物出土状況図 (1:50)

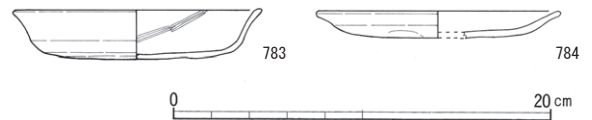




- 1 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
- 2 2.5Y7/2 灰黄色極粒砂
- 3 2.5Y6/6 明黄褐色シルト
- 4 2.5Y5/3 明褐色極粒砂
- 5 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
- 6 2.5Y7/4 浅黄色シルト
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色極粒砂
- 8 2.5Y6/2 灰黄色シルト
- 9 2.5Y7/6 明黄褐色シルト (マンガン微量含)
- 10 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (2.5Y6/4 にぶい黄色極粒砂少量含)
- 11 10YR8/4 浅黄褐色シルト
- 12 10YR8/3 浅黄褐色極粒砂
- 13 2.5Y7/4 浅黄色シルト (2.5Y7/2 灰黄色シルト少量含)
- 14 2.5Y6/2 灰黄色粘土
- 15 2.5Y5/3 黄褐色粘土
- 16 10YR6/2 灰黄褐色シルト
- 17 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 18 10YR6/3 にぶい黄褐色極粒砂
- 19 2.5Y7/3 浅黄色シルト
- 20 2.5Y7/3 浅黄色シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色極粒砂含)
- 21 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト
- 22 5Y6/1 灰色粘質土
- 23 5Y6/2 灰オリーブ色粘質土
- 24 5Y6/1 灰色砂質土
- 25 5Y6/2 灰オリーブ色砂質土



第67図 SB708009・SB708010実測図 (1:100)



第68図 SB708005出土遺物 (1:4)

## (2) 遺物

図示できたものはS B 708005 柱穴出土のものである。783は土師器の杯、784は皿で、それぞれ別の柱穴から出土している。783の口縁部は外反し、比較的薄い器壁である。口縁部内面には工具の痕跡が斜位にみられるが、調整とは思えない。784は器高が低く偏平な形態であるが、器壁は比較的厚い。これらは既述したように平安時代中頃の9世紀後半～10世紀前半のものである。なお、図示できなかった

たが、調査区中央北端ちかくの小穴から、唾壺の可能性のある緑釉陶器の体部小片が出土している。

(萩原・樋口・森川)

## 9.9区

第9次調査11区を南側へ約60m延長するかたちで設定された調査区である。幅は2mで、非常に細長い調査区である。5mの間隔を置いて東側に第5次調査9区が並走する。

検出面は比較的浅く、耕作土から30cm未満である。しかし、調査区南半は巨視的に見て流路帯であり、遺構を十分に捉えられなかった。したがって、平面図と土層断面図で齟齬を生じ、隣接する第5次調査結果とも直接連動しない部分が多い結果となった。

出土遺物は奈良時代から平安時代までのものが大半で、他の調査区で目立つ鎌倉以降の遺物は出土していない。

### (1) 遺構

検出した遺構の大半は溝である。特に南東から北西方向のものが多く、これらについては、隣接する第5次調査結果と直接連動するものは少ないものの延びる方向は合致している。しかし調査区北側では南西から北東へ延び、向きが直角ちかく異なる。この傾向も隣接する第5次調査9区と共通である。

**SD709001** 調査区中央部で検出した溝で北西から南東へ延びる。検出時点では南側に同様な溝が接するような状態としたが、掘削後の土層断面観察では1条の溝と考えられ、検出時点は埋没過程の一端を示すものであろう。幅2.4m、検出面からの深さ50cmを測る大規模なものであるが、溝の規模に対し遺物の残存度は低く、律令期の土師器甕や甗の小片が出土するに止まる。埋土は砂質土を含むものの大半がシルトである。

東側の延長上が第5次調査SD59016に相当する。規模はやや大きいものの時期は古代とされ、両者は一連のものとして良いであろう。しかし、今回の調査結果においても詳細な時期を決定することは出来なかった。

**SD709002** 調査区中央部において検出した溝で、南東から北西方向に若干弯曲気味に延びる。幅2m、検出面からの深さは40cm程度で、幅に比べ浅いものである。埋土はシルトで遺物は土師器の小片が出土したのみである。東側の延長上には第5次調査のSD59011が位置し、規模も似る。時期は

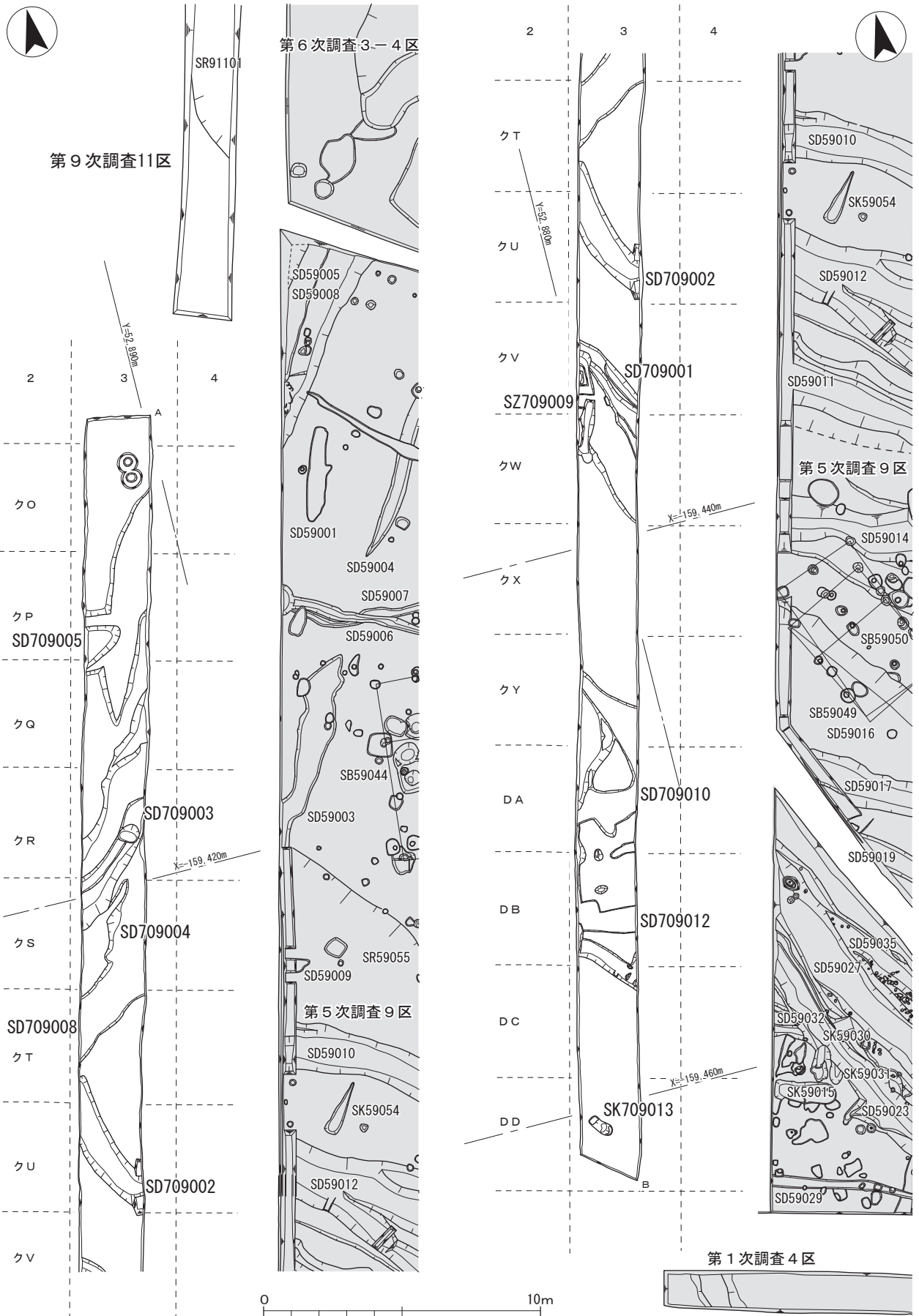
飛鳥～奈良時代とされ、今回の結果もそれを否定するものではない。したがって、両者は一連のものとして出来る。

しかし疑問点も多い。この近辺では第5次調査により古墳時代のSD59010と平安時代後期のSD59012の2条の溝が今回の当調査区方向へ延びることが確認されている。しかし今回の調査ではそれに対応する溝を検出できていない。さらに前代の流路SR59055がこれらを含むが、今回の調査ではこれに対応する流路の認識はない。第5次調査の結果に従えば、SD709002はSR59055の埋土上での検出となり、層序的にも不安定な状況である。したがって、SD709002検出の正確性にも疑問が残り、SD59011との一連性にも疑問符が付く。このため、SD709002の時期は、SD59011の直ぐ北側に並走するSD59012の時期である平安時代末期の可能性も残る。

**SD709003** 調査区北部で検出した溝である。平面検出と土層断面では齟齬を生じている部分もあるが、幅5～7m、最深部は検出面から80cmを測る深いものである。最深部は南端で、北へ向けて徐々に深さを減じる。この形状から流路と思われるが、埋土の大半はシルトで、調査区南部のものとは異なり、南西から北東へ延びる。この延長上には第5次調査のSD59005・59008があり、規模や時期が共通することも加えて一連のものとするべきである。

比較的多くの遺物が出土した。平安時代中期から後期の土師器杯・甕、灰釉陶器に加え古相の山茶碗等が出土し、弥生から古墳時代の高杯等も散見される。時期としては鎌倉時代に下るものは無いが、第5次調査では鎌倉時代に下る遺物も出土しており、鎌倉時代とせざるを得ない。

**SD709004・709008** 両者ともSD709003の南側に沿うように検出され不整形の溝である。幅は3m以上を測るが、深さは20cm未満の浅いもので、SD709003を流路とすれば、この両者はその流路の溢れにより形成されたものでSD709003の一部とするべきものであろう。SD709008の延長上には第5次調査のSD59003があり、不整形で浅い形状や方向が共通し、これらも一連のものと思われる。出土遺物から、この溢れの時期は平安時代後期までに収まるものと考えられる。



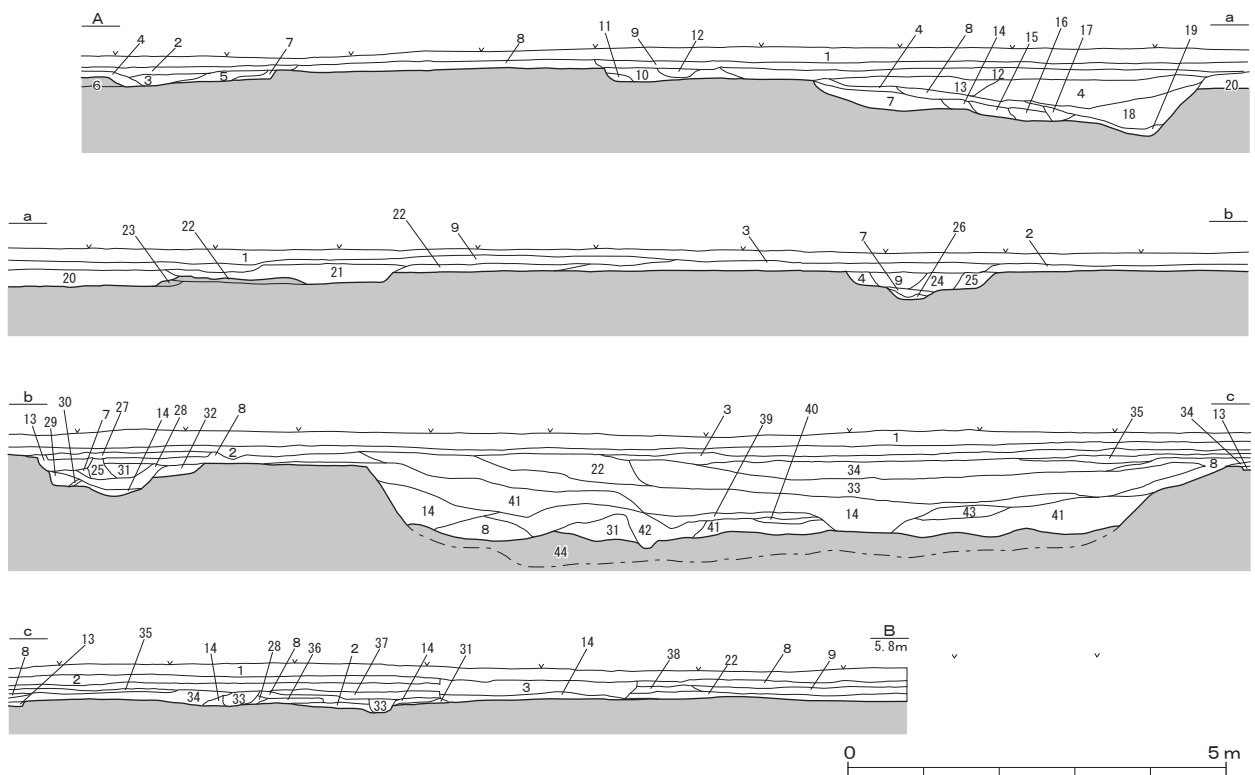
第69図 第7次調査9区平面図 (1:200)

SD709005 調査区北側において検出した。幅1.4mの東西に延びる溝としたが、調査区外西から1mほど東進して止まる。深さは30cmほどあり、方向は条里に沿うものの土坑の可能性も大きい。縄文土器の小片のみが出土している。これをもって縄文時代のものとするには、包含層等からの縄文土器の出土が殆ど無い状況から困難であろう。

SZ709009 (第71図) 調査区中央部で検出した土坑状の遺構である。大半は、調査区外のため全体の形状は不明であるが、一辺4mの隅丸方形

を呈する様にもみえる。深さは80cmに及ぶ深いもので、埋土には焼土や炭化物を含む。焼土の分布から2基の土坑が重複する可能性もあるが、断定できない。土坑壁自体が焼土化する様子はなく、この焼土は他所に起因するものとなる。炭化材を分析した結果、アカガシ亜属やクヌギ節で長時間燃焼に有利な材であることが判明した。他に土師器の粗製椀や長胴甕片が出土している。平安時代まで下ることは困難なもので、奈良時代までに収まるものである。

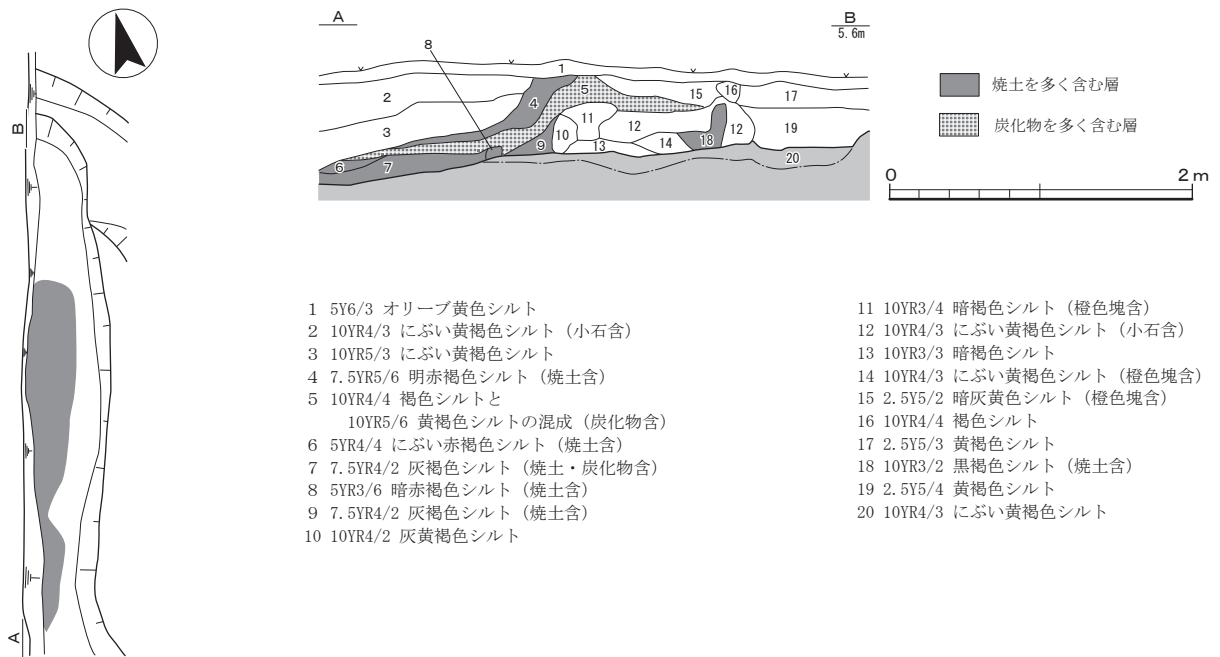
SD709010 調査区南部で検出した東西



- |  |   |
|--|---|
| 1 耕作土  | 23 2.5Y5/6 黄褐色シルト                               |
| 2 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト  | 24 2.5Y5/3 黄褐色シルトと2.5Y6/2 灰黄色シルトの混成<SD709002埋土> |
| 3 2.5Y5/4 黄褐色シルト   | 25 10YR4/2 灰黄褐色シルト<SD709001・709002埋土>           |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト<SD709002・709003埋土等>                    | 26 7.5YR4/2 灰褐色シルト<SD709002埋土>                  |
| 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (鉄少量含)                                 | 27 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトと10YR6/3 にぶい黄褐色シルトの混成       |
| 6 10YR3/4 暗褐色シルト～砂質土<検出面>                                  | 28 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト<SD709001埋土等>               |
| 7 10YR3/4 暗褐色シルト<SD709001～709003埋土等>                       | 29 10YR2/3 黒褐色シルト<SD709001埋土>                   |
| 8 2.5Y5/3 黄褐色シルト<SD709003・709010埋土等>                       | 30 7.5YR3/3 暗褐色シルト (鉄分含) <SD709001埋土>           |
| 9 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト<SD709002埋土等>                            | 31 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト<SD709001・709010埋土等>          |
| 10 10YR4/6 褐色砂質土   | 32 10YR3/4 暗褐色砂質土<SD709001埋土>                   |
| 11 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土                                       | 33 2.5Y5/3 黄褐色シルト (橙色塊含) <SD709010・709012埋土等>   |
| 12 2.5Y7/3 浅黄色シルト (小石含)                                    | 34 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (橙色塊含) <SD709010埋土>          |
| 13 10YR4/4 褐色シルト<SD709001・709003埋土等>                       | 35 2.5Y6/2 灰黄色シルト                               |
| 14 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト<SD709001・709003・709010埋土等>            | 36 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト                           |
| 15 2.5Y5/4 黄褐色砂質土<SD709003埋土>                              | 37 2.5Y5/3 黄褐色シルト (鉄少量含)                        |
| 16 7.5YR4/3 褐色シルト<SD709003埋土>                              | 38 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト                            |
| 17 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト<SD709003埋土>                           | 39 2.5Y4/2 暗灰黄色極細粒砂<SD709010埋土>                 |
| 18 10YR4/4 褐色シルト (マンガン含) <SD709003埋土>                      | 40 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (鉄分含) <SD709010埋土>         |
| 19 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土 (10YR2/3 黒褐色シルト・マンガン少量含) <SD709003埋土> | 41 10YR4/2 灰黄褐色粘土<SD709010埋土>                   |
| 20 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト (小石多含) <SD709004埋土>                   | 42 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (マンガン含) <SD709010埋土>       |
| 21 10YR6/2 灰黄褐色シルト<SD709008埋土>                             | 43 5Y4/2 灰オリーブ色シルト<SD709010埋土>                  |
| 22 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト<SD709010埋土等>                           | 44 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土<SD709010埋土>                |

第70図 第7次調査9区土層断面図 (1:100)





第71図 SZ709009実測図 (1 : 50)

に延びる溝であるが、土層断面の観察の結果、平面検出の結果とは全く連動せず、最大幅16mに及ぶ流路の埋土であることが判明した。その北岸はSD 709001 ちかくに及ぶ。深さは1m以上に及び、埋土はシルトが主体である。第5次調査のSD 59023・59027・59035の延長上にあり、さらにSD 59016の北岸とも対応する。しかし埋土の状況は、この4条の溝を想定する状態ではなく、1条の巨大な溝を呈している。SD 59035はSD 59027に削平されたものとすることができ、SD 709001はSD 709010から分流したものとするができる。奈良時代の土師器杯・甕類が出土しており、前述の結果とも矛盾はない。しかし、SD 59023に相当する平安時代後期～末期の遺物は出土しておらず、SD 59023の行方は不明とせざるを得ない。

**SD709012** 調査区南側において検出した幅50cm、深さ20cm程度の小規模な溝である。やはり平面検出とは齟齬を生じている。条里に沿って東西方向に延びるが、隣接する第5次調査では検出されておらず、条里に伴うとする根拠に欠ける。遺物は奈良時代の土師器・須恵器の小片が出土している。

**SK709013** 調査区南端で検出した不整形な小穴である。深さは中央部が深く20

cm程度を測る。両端は極端に浅く直径60cmの円形としても違和感はない。石鏃が2個出土しているが、時期は不明とせざるを得ない。

## (2) 遺物

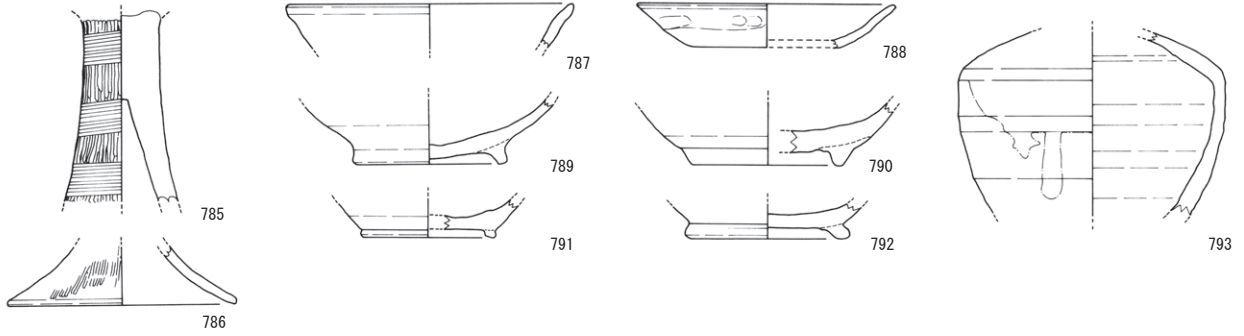
図示したものは流路出土のものも多く、一括性には乏しいものである。

**SD709003出土遺物** (第72図) 789～792は山茶碗、793は陶器の壺である。山茶碗は高く整った高台をもち、胎土も精良で、特に789は均質な胎土である。792の内面は使用のためか平滑となる。これらの山茶碗は、Ⅱ段階4型式までに収まるものと思われ、12世紀の平安時代末期ということになる。

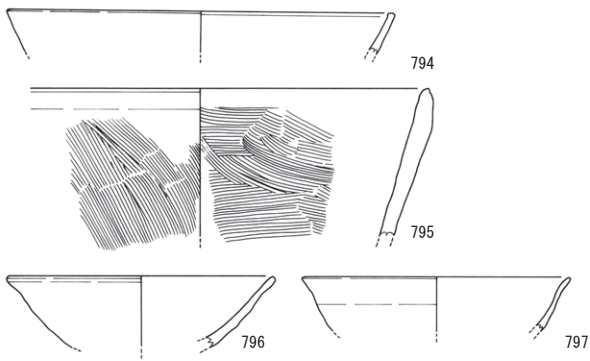
したがって、以下の遺物は混入として扱う。785は柱状部の長い弥生土器の高杯で、丁寧なヘラミガキの後、櫛による横線文を3段以上に巡らせる。786は壺の脚としたが、高杯の可能性も残る。787は土師器杯の可能性もあるが、質感から壺と判断した。788は杯で外傾する口縁部をもち、薄い器壁の外側は未調整のままである。

**SD709004出土遺物** (第72図) 794は土師器の壺の可能性もあるものの平安時代の甕としておく。795は甌の小片である。内外に丁寧なハケメを施し、他のものより古相である。796・797は灰

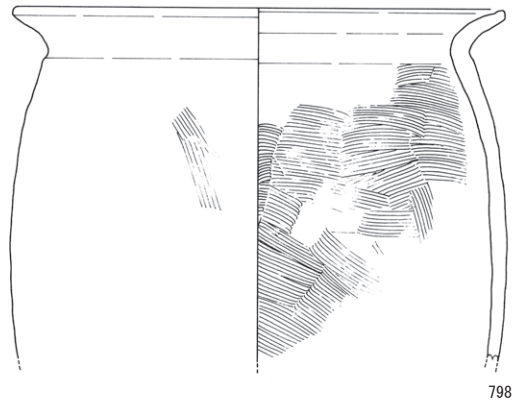
SD709003



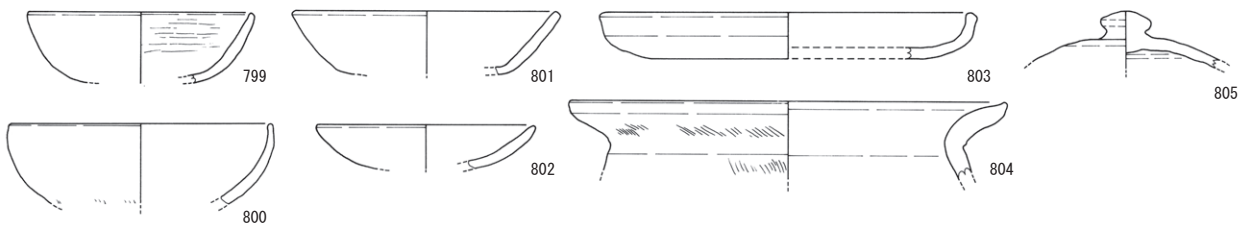
SD709004



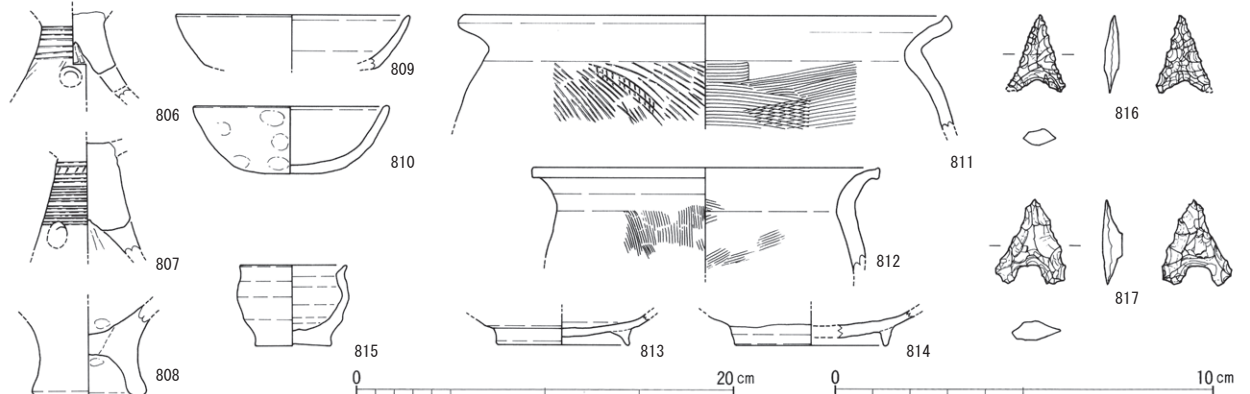
SZ709009



SD709010



表土等



第72図 第7次調査9区出土遺物 (816・817 = 1 : 2、他は1 : 4)

釉陶器としたが、無釉である。他に図示できなかったが、ロクロ土師器の小片も出土している。

795を混入として扱えば、これらの遺物は斎宮第Ⅲ期第1段階から第2段階に相当するものと思われる、平安時代後期の10世紀後半から11世紀前半の可能性が高い。

**S Z 7 0 9 0 0 9 出土遺物** (第72図) 土師器の粗製碗、長胴甕等が出土しているが、図示できたものは798のみである。口縁端部の面は鋭利に欠けるが、奈良時代に収まるものとみて良いであろう。外面のハケメは後のナデにより大半が消滅する特異な調整が施されている。

**S D 7 0 9 0 1 0 出土遺物** (第72図) 799は粗製の土師器碗、800も土師器碗である。799は粗製であるものの内面にヘラミガキを施す。801は土師器の杯で、器壁は厚いものの口縁部は直線的に外傾する。802は土師器の碗としたが、皿状の形態である。しかし、801と同様に器壁の厚いものである。803は土師器の皿であるが、底部外面にヘラケズリを施し、斎宮の第Ⅰ期に収まるものと思われる。804も古相を示す土師器甕、805は比較的高い摘みをもつが、天井部のロクロケズリは不明確である。

**表土等出土遺物** (第72図) 806・807は弥生土器の高杯で、櫛描横線文で装飾するが、807は二枚貝による刺突文を加える。透孔は両者で異なり、806が4方、807が3方である。808は脚部であるが、弥生土器の脚付鉢と思われる。

809は土師器の杯、810は碗、811・812は甕である。809は直線的に外傾する口縁部で、器壁は厚い。810も直線的に外傾する口縁部であるが、器高を保っている。813・814は灰釉陶器、815はミニチュアの陶器で、一応鉢としておく。816・817は石鏃で、両者ともS K 709013出土であるが、混入と考えられる。石材が異なり、816はチャート、817はサヌカイトである。(萩原・森川)

## 10. 10区

今回の調査区域では、最北部近くの立田集落南側に設定された調査区である。第6次調査3-5区が南東部に接続する。遺構密度は比較的希薄であるが、多数の溝や流路を検出している。溝の多くは南北に

延びるものであるが、その時期は弥生終末から室町時代まで多様である。

### (1) 遺構

**S D 7 1 0 0 0 1** 調査区東部を東西に延びる溝である。幅1.5m前後、深さ70cmで断面形はV字にちかい形状を呈する整ったものである。直線的に延びるが調査区南端で東へ弯曲する傾向を見せている。しかし、その延長上に位置する第9次調査5区や第6次調査3-1区では検出されておらず疑問である。埋土はシルトで、交差する溝からの混入遺物を除けば、律令期の甕・高杯片が目立つ。しかし溝の規模に比べ出土遺物は少ない。西側に約30m離れて、やや小規模な同時期の溝S D 710004が並走する。

**S D 7 1 0 0 0 2・7 1 0 0 0 8** 調査区東部を約6mの間隔で並走する2条の溝である。他の多くの溝と延びる方向を直角ちかく違える。両者とも幅1m前後であるが、S D 710002の幅は不安定である。深さは両者で異なりS D 710002が20cm前後に対し、S D 710008は50cm以上を測る深いものである。両者とも西端はS R 710003により消滅しているが、さらに西に延びる様子はない。東端はS D 710002が調査区外へ続くが、S D 710008はS D 710001により消滅し、それを越えて東進する様子はない。したがって、S D 710008は延長2mを確認したに過ぎない。S D 710008の深さから削平により消滅したとは考え難く、疑問である。S D 710002からは弥生終末から古墳時代の壺・甕等が出土しており、この溝の時期を表すものと思われる。S D 710008からも同時期の壺片が出土しているため、この時期としたが、前述した要素により確証が持てない。

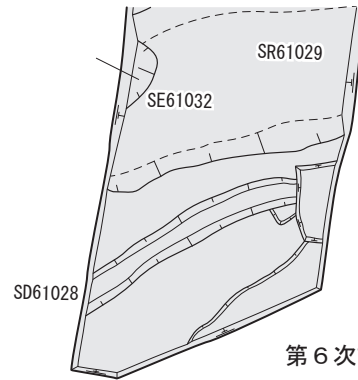
**S R 7 1 1 0 0 3** 調査区中央部を南北に流れる自然流路である。幅6m程度、深さ1.5m程度を測る。埋土はシルトと砂層で構成されるが、シルトが多く、淀む時期が多かったようである。南側は第6次調査のS R 63008に繋がる。溝の規模に対し、出土遺物は極めて少ない。S R 63008では遺物の出土が無く時期不明とされていたが、今回茶釜(825)が出土したことにより最終埋没は室町時代に下ることが判明した。

**S D 7 1 0 0 0 4** 調査区西端ちかくで検出した南北に延びる溝である。幅1.2m、深さ60cmで、既述した30m離れて並走するS D 710001よりやや小

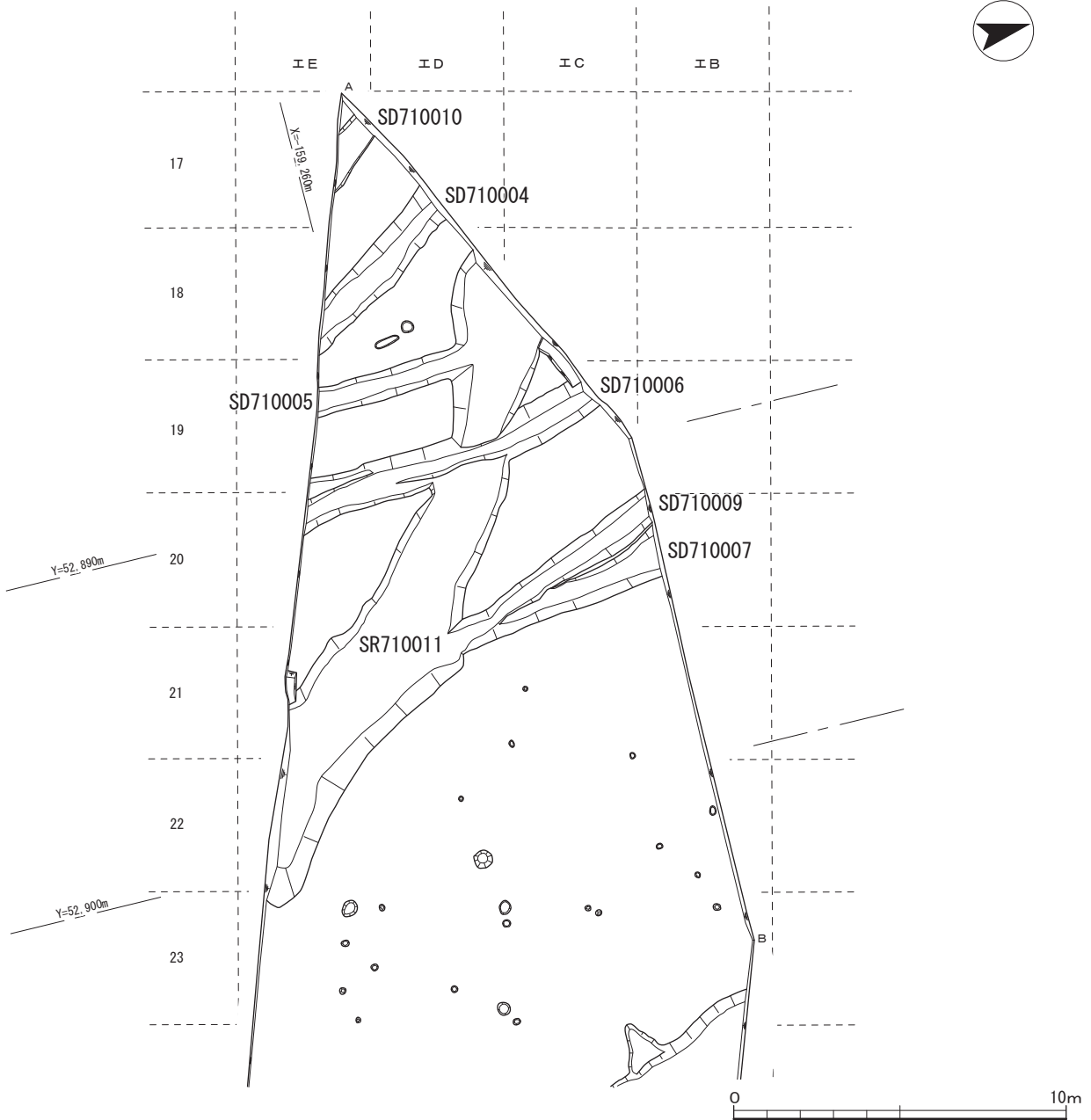
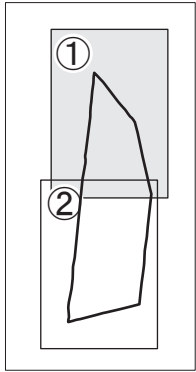
第6次調査1-4区



SK61016

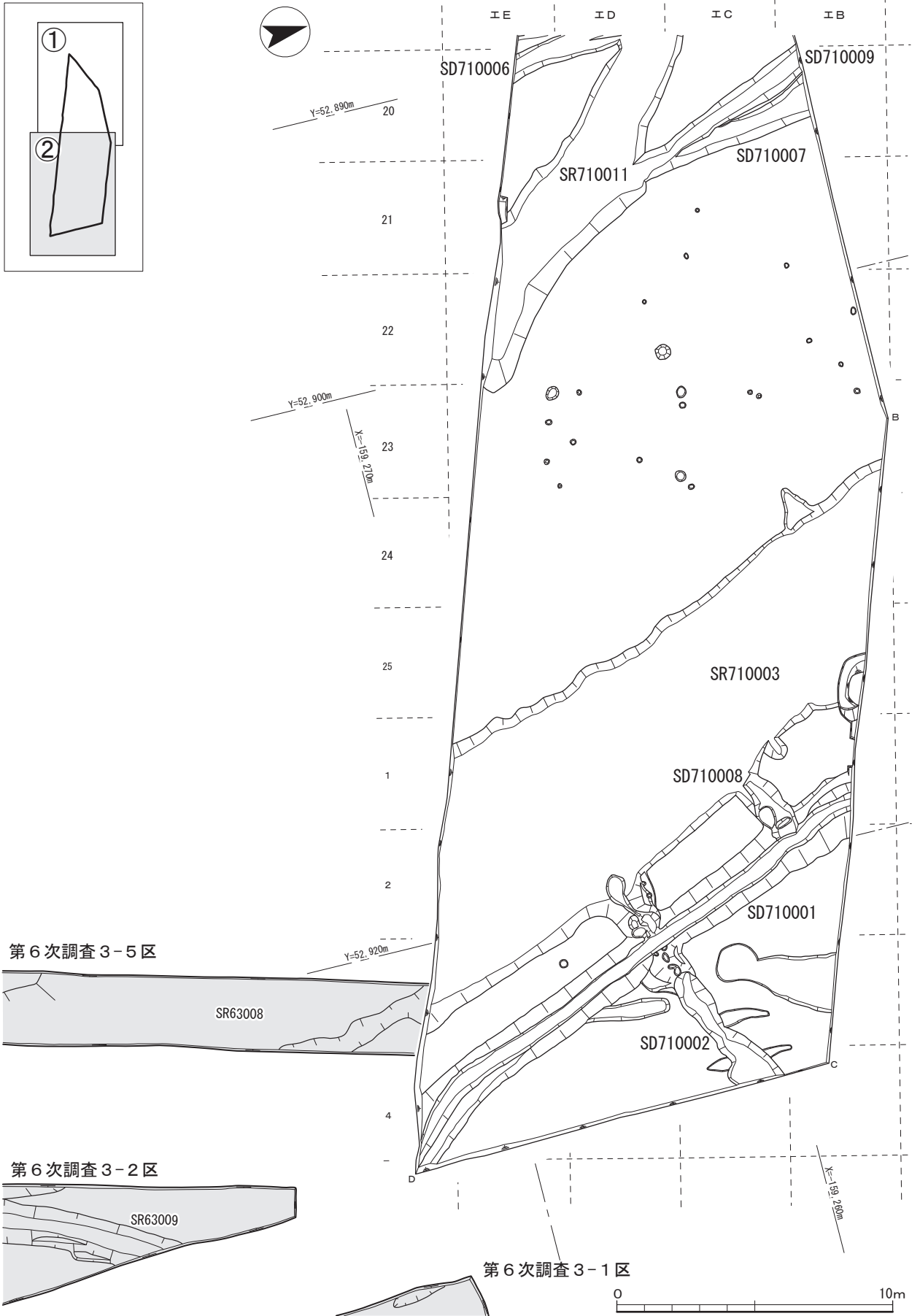
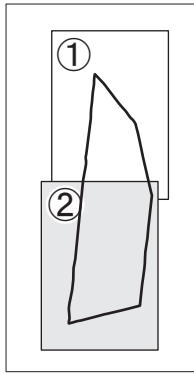


第6次調査1-3区



第73図 第7次調査10区平面図① (1 : 200)



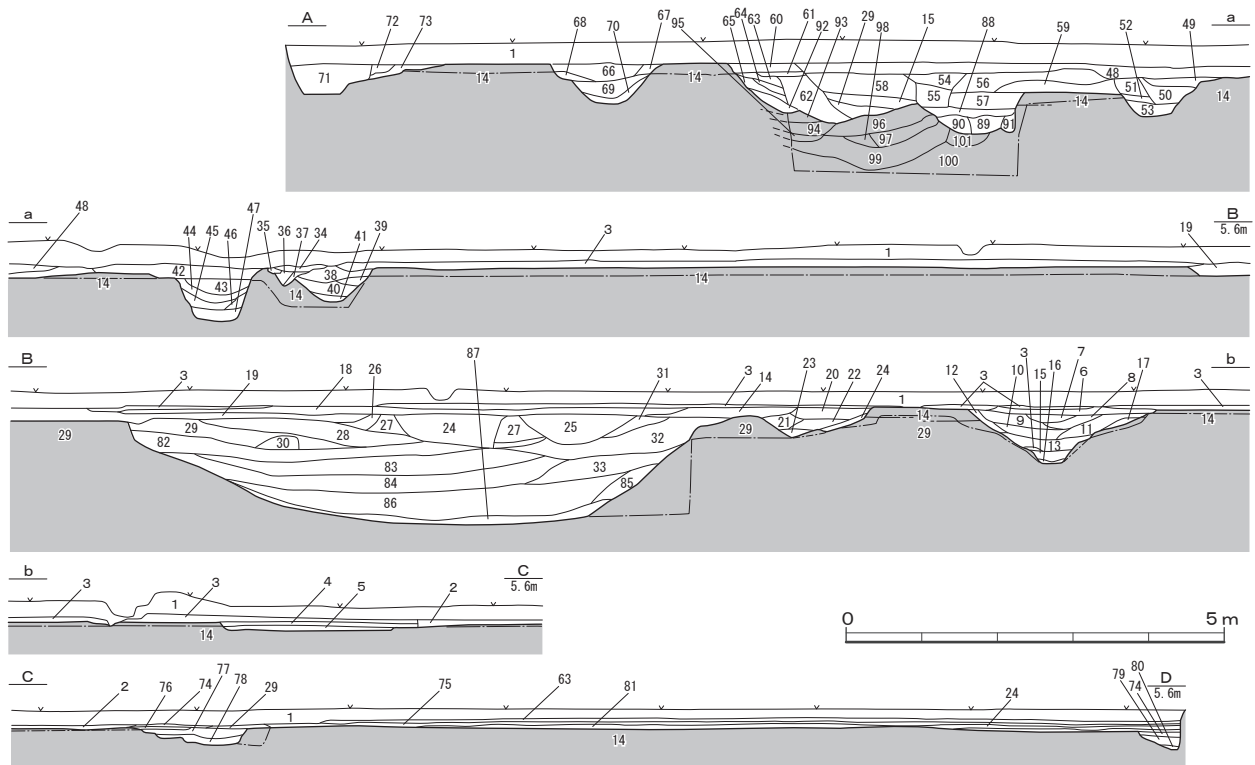


第6次調査3-5区

第6次調査3-2区

第6次調査3-1区

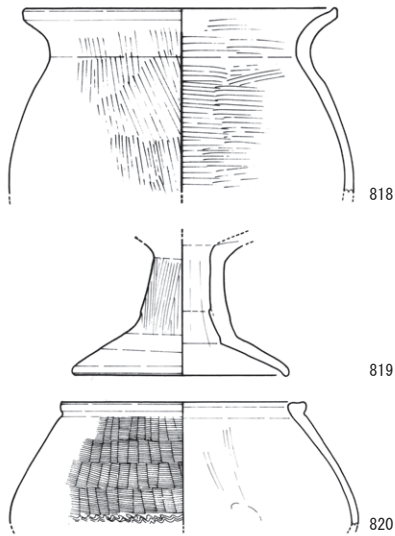
第74図 第7次調査10区平面図② (1:200)



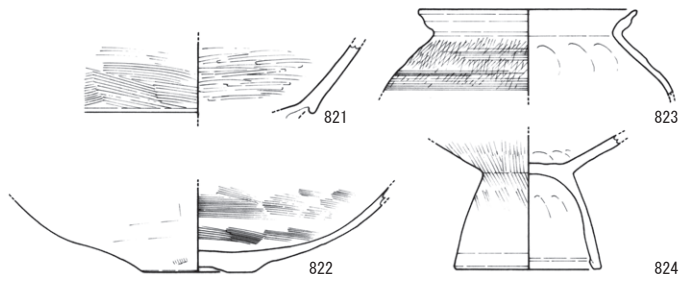
- |   |   |
|---|---|
| <p>1 耕作土</p> <p>2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (鉄分含)</p> <p>3 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト&lt;SD710001埋土等&gt;</p> <p>4 2.5Y5/4 黄褐色シルト (鉄分含)</p> <p>5 5Y4/4 暗オリーブ褐色シルト (鉄分含)</p> <p>6 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (鉄分多含)</p> <p>7 10YR3/3 暗褐色シルト&lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>8 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト</p> <p>9 10YR3/4 暗褐色シルトと10YR5/2 浅黄褐色極粒砂の混成&lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (10YR4/1 褐灰色極粒砂含) &lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>11 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (鉄分含) &lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>12 10YR4/4 褐色シルト (10YR7/3 にぶい黄褐色シルト含) &lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>13 10YR3/4 暗褐色極粒砂 (10YR4/1 褐灰色シルト少量含) &lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>14 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (鉄分含)</p> <p>15 2.5Y3/2 黒褐色中粒砂&lt;SD710001・SR710011埋土&gt;</p> <p>16 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土</p> <p>17 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト&lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>18 5Y5/3 灰オリーブ褐色シルト (鉄分・マンガン含)</p> <p>19 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト (鉄分含)</p> <p>20 2.5Y4/2 灰オリーブ褐色シルト (10YR6/1 褐灰色シルト含)</p> <p>21 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (10YR8/2 灰白色極粒砂含)</p> <p>22 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト</p> <p>23 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト</p> <p>24 2.5Y5/3 黄褐色シルト&lt;SR710003埋土等&gt;</p> <p>25 2.5Y5/3 黄褐色シルト (鉄分含、10YR7/1 灰白色粘土塊多含) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>26 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (2.5Y6/1 黄灰色極粒砂含) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>27 10YR3/2 黒褐色極粒砂 (10YR5/2 灰黄褐色シルト含) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>28 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト</p> <p>29 2.5Y5/4 黄褐色シルト&lt;SR710003・710011埋土等&gt;</p> <p>30 2.5Y4/2 暗灰黄色極粒砂&lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>31 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト (2.5Y5/2 暗灰黄色極粒砂含) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>32 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (10YR4/1 褐灰色極粒砂横筋状堆積、縮まり弱い) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>33 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト&lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>34 10YR6/2 灰黄褐色シルトと10YR5/6 黄褐色シルトの混成</p> <p>35 10YR6/6 明黄褐色シルト (マンガン少量含)</p> <p>36 2.5Y4/1 黄灰色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色シルト粒子少量含)</p> <p>37 2.5Y4/1 黄灰色シルト (縮まる)</p> <p>38 2.5Y4/1 黄灰色シルト (10YR5/3 にぶい黄褐色シルト多含、マンガン微量含) &lt;SD710007埋土&gt;</p> <p>39 10YR5/4 黄灰色シルト (10YR5/3 にぶい黄褐色シルト少量含、2.5Y5/1 黄灰色粘土少量含) &lt;SD710007埋土&gt;</p> <p>40 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (10YR5/6 黄褐色極粒砂斑状に含) &lt;SD710007埋土&gt;</p> <p>41 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 (少量の湧水) &lt;SD710007埋土&gt;</p> <p>42 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (マンガン少量含)</p> <p>43 10YR4/6 褐色シルト (2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、マンガン少量含) &lt;SD710009埋土&gt;</p> <p>44 10YR4/4 褐色シルト (2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、マンガン少量含) &lt;SD710009埋土&gt;</p> <p>45 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (10YR5/6 黄褐色シルト塊斑状に含、縮まり弱い) &lt;SD710009埋土&gt;</p> <p>46 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト (2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土含、粘性) &lt;SD710009埋土&gt;</p> <p>47 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 (2.5Y5/6 黄褐色土塊少量含、湧水の痕跡、マンガン多量) &lt;SD710009埋土&gt;</p> <p>48 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (マンガン多量)</p> <p>49 10YR4/2 灰黄褐色シルト (小石含) &lt;SD710006埋土&gt;</p> <p>50 7.5YR4/4 褐色シルト (7.5YR5/1 褐灰色シルト少量含、小石微量含) &lt;SD710006埋土&gt;</p> | <p>51 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/6 褐色砂質塊含) &lt;SD710006埋土&gt;</p> <p>52 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/6 褐色砂質塊含) &lt;SD710006埋土&gt;</p> <p>53 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (10YR4/4 褐色極粒砂含、縮まり弱い) &lt;SD710006埋土&gt;</p> <p>54 2.5Y6/2 灰黄色シルト&lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>55 2.5Y5/6 黄褐色シルト (小石微量含) &lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>56 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊少量含) &lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>57 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR6/08 明黄褐色シルト含) &lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>58 10YR6/2 灰黄褐色極粒砂 (10YR6/6 明黄褐色シルト塊上部に含) &lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>59 2.5Y4/1 黄灰色シルト (2.5Y5/6 黄褐色砂質土塊少量含) &lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>60 10YR6/6 明黄褐色シルト (10YR8/8 黄褐色砂質塊少量含) &lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>61 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト&lt;SD710011埋土&gt;</p> <p>62 10YR5/4 にぶい黄褐色極粒砂 (10YR6/2 灰黄褐色シルト線状に含) &lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>63 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト&lt;SR710011埋土等&gt;</p> <p>64 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (小石少量含) &lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>65 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/2 灰黄褐色砂質塊含) &lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>66 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR4/4 褐色砂質塊、小石含) &lt;SD710004埋土&gt;</p> <p>67 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/6 褐色シルト含) &lt;SD710004埋土&gt;</p> <p>68 10YR4/4 にぶい黄褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色シルト含) &lt;SD710004埋土&gt;</p> <p>69 2.5Y4/2 暗灰黄色極粒砂 (10YR5/6 黄褐色シルト・小石微量含) &lt;SD710004埋土&gt;</p> <p>70 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極粒砂 (10YR5/8 黄褐色砂質塊含、小石微量含) &lt;SD710004埋土&gt;</p> <p>71 10YR4/3 にぶい黄褐色極粒砂 (小石多含、縮まり弱い) &lt;SD710010埋土&gt;</p> <p>72 10YR5/2 灰黄褐色シルト (小石少量含) &lt;SD710010埋土&gt;</p> <p>73 10YR4/4 褐色シルト (10YR6/8 明黄褐色砂質塊含、小石少量含) &lt;SD710010埋土&gt;</p> <p>74 2.5Y5/3 黄褐色シルト (鉄分含) &lt;SD710001埋土等&gt;</p> <p>75 10YR5/2 灰黄褐色シルト (鉄分少量含)</p> <p>76 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト</p> <p>77 2.5Y6/2 灰黄色シルト (鉄分含) &lt;SD710002埋土&gt;</p> <p>78 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (鉄分少量含) &lt;SD710002埋土&gt;</p> <p>79 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (鉄分少量含) &lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>80 2.5Y5/1 黄灰色シルト (鉄分少量含) &lt;SD710001埋土&gt;</p> <p>81 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (鉄分・マンガン含)</p> <p>82 10YR5/2 灰黄褐色極粒砂&lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>83 2.5Y6/4 にぶい黄色中粒砂 (10YR5/1 褐灰色シルト含) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>84 5B6/1 青灰色粗砂 (下層に2.5Y5/6 黄褐色粗砂と10YR2/3 黒褐色中粒砂が互層堆積、縮まり弱い) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>85 2.5Y5/4 黄褐色粘土 (2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト塊含) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>86 2.5Y4/6 オリーブ褐色細粒砂 (5B5/1 青灰色粘土塊含、湧水層、縮まり弱い) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>87 5B5/1 青灰色粘土 (5Y6/4 オリーブ黄色粘土塊含、湧水層) &lt;SR710003埋土&gt;</p> <p>88 10YR4/4 褐色極粒砂&lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>89 2.5Y5/6 黄褐色粘土&lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>90 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト&lt;SD710005埋土&gt;</p> <p>91 10YR3/1 黒褐色粘土 (縮まり弱い) &lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>92 10YR4/2 灰黄褐色粘土&lt;SR710011埋土&gt;</p> <p>93 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 (縮まり弱い)</p> <p>94 2.5Y5/1 黄灰色極粒砂 (縮まり弱い)</p> <p>95 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土 (2.5Y6/8 明黄褐色粘土塊含)</p> <p>96 10YR3/3 暗褐色中粒砂 (縮まり弱い)</p> <p>97 10YR2/2 黄褐色中粒砂 (縮まり弱い)</p> <p>98 10YR5/8 黄褐色粘土 (縮まり弱い)</p> <p>99 2.5Y4/6 オリーブ褐色中粒砂 (一部に2.5Y3/1 黒褐色砂質土が筋状堆積、縮まり弱い)</p> <p>100 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中粒砂 (一部に2.5Y3/1 黒褐色砂質土が筋状堆積、縮まり弱い)</p> |
|---|---|

第75図 第7次調査10区土層断面図 (1:100)

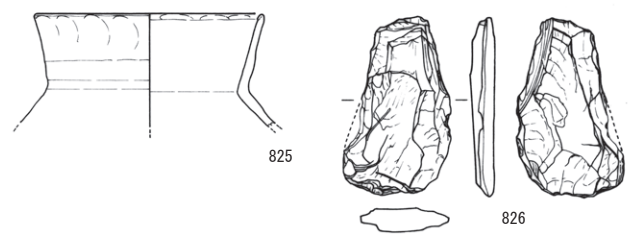
SD710001



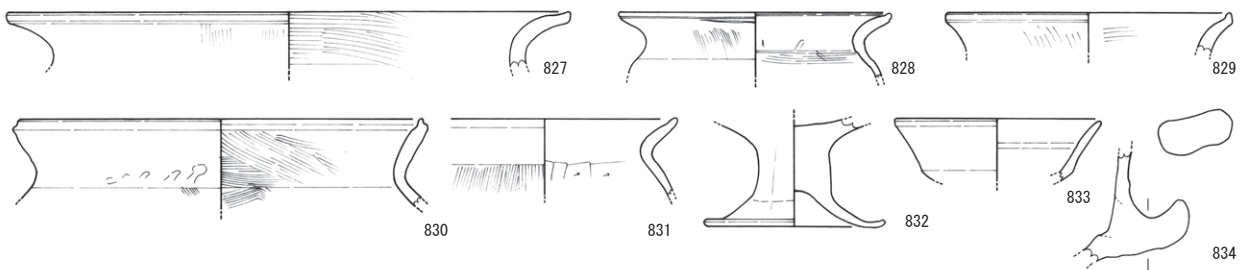
SD710002



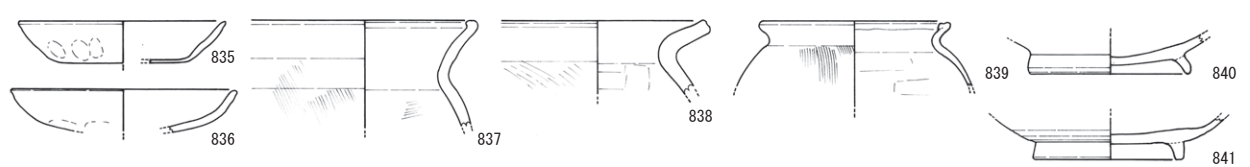
SD710003



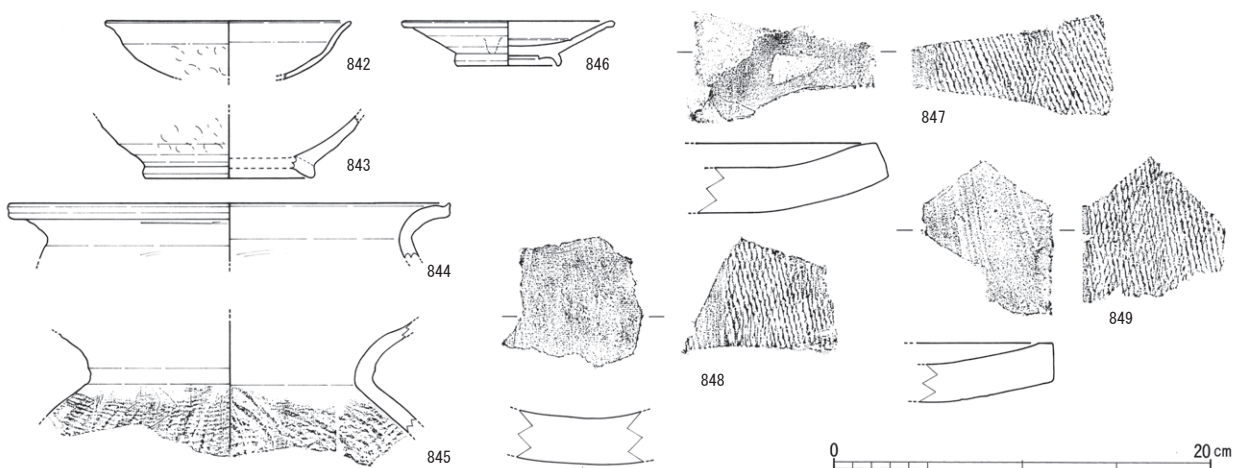
SD710004



SD710005



SD710006



第76図 SD710001~710006出土遺物 (1 : 4)

規模である。しかし断面形は類似する整ったものである。律令期の土師器甕・高杯等が出土しているが、この時期としては古相を示すものである。奈良時代でも飛鳥時代にちかい時期、または飛鳥時代の時期がこの溝に与えられる。

**SD710005～710007** 調査区東部を並走する3条の溝である。幅は1m前後、深さは50～60cmを測る類似した規模である。3者とも比較的多くの遺物が出土している。SD710005とSD710006は3mの間隔で並走する。時期は、前者が9世紀中頃～10世紀中頃、後者が10世紀後半～11世紀前半の平安時代、SD710006の5m東側を並走するSD710007はやや後出で12世紀に下るものである。

**SD710009** 調査区西側を南北に延びる溝である。後出のSD710007と重複し、それに削平される部分多く不明確な部分もあるが、幅80cm、深さ60cmを測る比較的整ったものである。遺物の出土は無く、12世紀以前のものとするに止まる。この溝が前述したSD710005・710006と同時期であれば、等間隔に並走する3条の溝となる。

**SD710010** 調査区西端において検出した溝である。他の溝と同様に南北に延びるものと推測される。埋土に小石を多量に含み、流路の可能性が高い。弥生時代終末～古墳時代の壺や甕の小片が出土している。

**SR710011** 調査区西側において検出した。南北に延びるが、他のものより斜行する。幅は一定を欠き、深さは60cm程度、埋土に砂層を含むことから自然流路と考えられる。流路の規模に対して遺物は少なく時期決定の根拠が弱い。SD710010と同時期の甕片等が出土している。さらに下層にも砂層が堆積しており、これに先行するさらに大規模な流路が重複するようである。

## (2) 遺物

**SD710001出土遺物** (第76図) 818は土師器の長胴甕であるが、口縁部下半がやや肥厚し、端部外面の面は鋭利である。律令期でも前半の奈良時代前期または飛鳥時代に遡る可能性もある。

819・820は混入遺物で、819は土師器の高杯、820は無頸壺である。819の外面は面取が無く、ハケメが施される。820の外面は櫛による連条文が前

面に施される。

**SD710002出土遺物** (第76図) 821・822は土師器または弥生土器の壺である。821は二重口縁壺としたが、外面がハケメのまま、高杯の可能性が残る。823・824はS字状口縁台付甕である。823の口縁部は外傾し、刺突文は無い。しかし肩部の張りは弱くハケメ工具で施された横線が2段確認できる。824の脚端部はヨコナデのままである。824の脚端部は折り返しの痕跡を残す。これらのS字状口縁台付甕はB類<sup>④</sup>に収まるものと思われる。

**SR710003出土遺物** (第76図) 自然流路であるが出土遺物が少なく、この時期を示すものとして唯一図化できたものが825である。形状から室町時代の茶釜としたが、指頭圧混を残す雑な仕上げで違和感も残る。826は打製石斧で、明らかな混入遺物である。

**SD710004出土遺物** (第76図) 827～831・834は律令期の土師器甕である。834は把手、他は口縁部片である。小片のため詳細は不明であるが、829・830は口縁部外面に面をもち、端部を摘まみ上げる。しかし828のそれは緩慢であり、831はそのまま丸く収めている。830には口縁部と体部の境に工具痕が残り、831の内面はハケメではなく、ヘラズリとなる。832は土師器の高杯であるが、脚柱部の面取りは弱く不明瞭である。833は須恵器の口縁部片であるが、隼としておく。

**SD710005出土遺物** (第76図) 835・836は土師器の杯で、835は器壁が薄く直線的に外方へ開く口縁部、836はやや器壁が厚く内弯気味に立ち上がる口縁部を呈する。837～839は土師器の甕であるが、839は明らかな混入である。837の口縁端部は内に折り返し気味となるが、838は外に面をもち、古相を示す。840・841は灰釉陶器で、840は三日月状の高台、841は方形の高台をもつが、841には底部外面のロクロケズリが僅かに確認できる。これらの遺物は、斎宮の第Ⅱ期第4段階前後の特徴をもち、10世紀の平安時代のものであろう。その場合、838も混入として扱う。

**SD710006出土遺物** (第76図) 842は土師器の皿、843は台付の椀、844は甕である。842の口縁部は外反を残し、844は外に面をもつ古相を



示すものである。845は須恵器の甕、846は灰釉陶器の皿である。846は低い三日月状の高台をもつが、底部外面は未調整で、漬掛けの灰釉を僅かに確認できる。847～849は平瓦の小片で、848・849は陶質、847は酸化焼成である。847凹面のヘラケズリは非常に浅く、ナデ状である。

これらの遺物には時期幅があるが、842・843・846は近接する時期のものと思われる。前述のSD710005と同様な時期と考えられ、842はやや古相を示す。また、図示できなかったがロクロ土師器の小片も出土している。ロクロ土師器は第Ⅲ期に出現するとされるため、SD710005よりは一時期下がる可能性がある。

**SD710007出土遺物**（第77図） 850は土師器の台付椀、851は皿である。851は扁平な形態であるが、器壁は厚い。852は土師器の甕であるが、ハケメ調整は無く、外面はナデ、内面を工具によるナデで調整している。853～864は山茶椀で、853の口縁部は外反し、他のものも比較的高い整った高台を有するものも多い。858の内面は使用のためか平滑になっている。865は平瓦、866は丸瓦の小片で、

865は陶質である。

多く出土している山茶椀は、一部に新相を示すものがあるもののⅡ段階4型式からⅢ段階6型式までに収まるものと思われ、12世紀末の平安時代末期から一部鎌倉時代に及ぶ時期が与えられる。

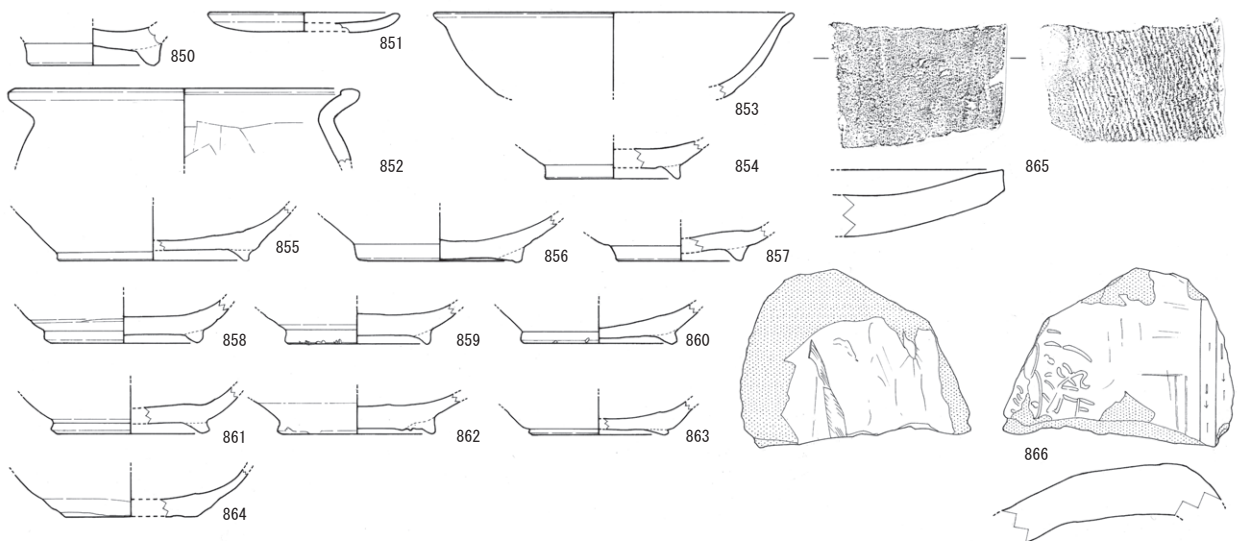
**SR710011出土遺物**（第77図） 出土遺物が少なく867が図示できる唯一のもので、弥生土器または古式土師器の甕である。受口状の口縁部を持ち、脚台が付く可能性がある。口縁部外面に刻目を施すが、櫛ではなくヘラの角で刻む。

**表土出土遺物**（第77図） 868は弥生土器または古式土師器の壺である。単純な口縁部で、装飾は無い。869は土師器の杯、870は山茶椀で、870は高い整った高台をもつ。（萩原・樋口・森川）

## 11. 11区

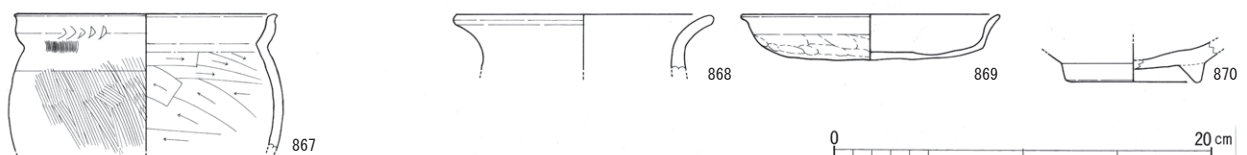
立田集落の南側に接する位置に設定された屈曲した変則的な形状の調査区である。西側は第9次調査13区を経由して12区に繋がり、南端は第6次調査1-2区接する。遺構検出は耕作土下約40cmのシルトまたは粗砂層で行い、他の調査区と比べ砂質度

### SD710007



### SR710011

### 表土等



第77図 SD710007・SR710011等出土遺物（1：4）

の高い検出面である。縄文時代、奈良～平安時代、室町時代の遺構を検出しているが、4区等のように検出面が上下に分かれず、同一検出面において縄文時代の遺構を検出している。

### (1) 縄文時代の遺構

この時期のものは調査区西部で集中的に検出している。しかしその大多数が不定形な形状を呈し、深さも10cm未満のものが多い。人為的な掘削とするに疑問が多く、自然地形の凹凸に縄文土器が滞留し、それを遺構として検出した可能性が高い。したがって、直ちに縄文時代のものとするには慎重を期す。後述するSK711002・711010とは土師器杯小片の有無が異なるのみであり、平安時代にまで下る可能性も示しておく。これに相当する遺構は、SK711009・711014・711017・711019・711021、SD711018・711020・711022である。

**SK711016** 調査区中央部で検出した土坑である。西半は平安時代の溝SD711006により削平され全体の形状は不明であるが、長径2m、短径1.2mの長円形を呈するものと推測される。深さは検出面から約30cmを測る比較的深いものである。埋

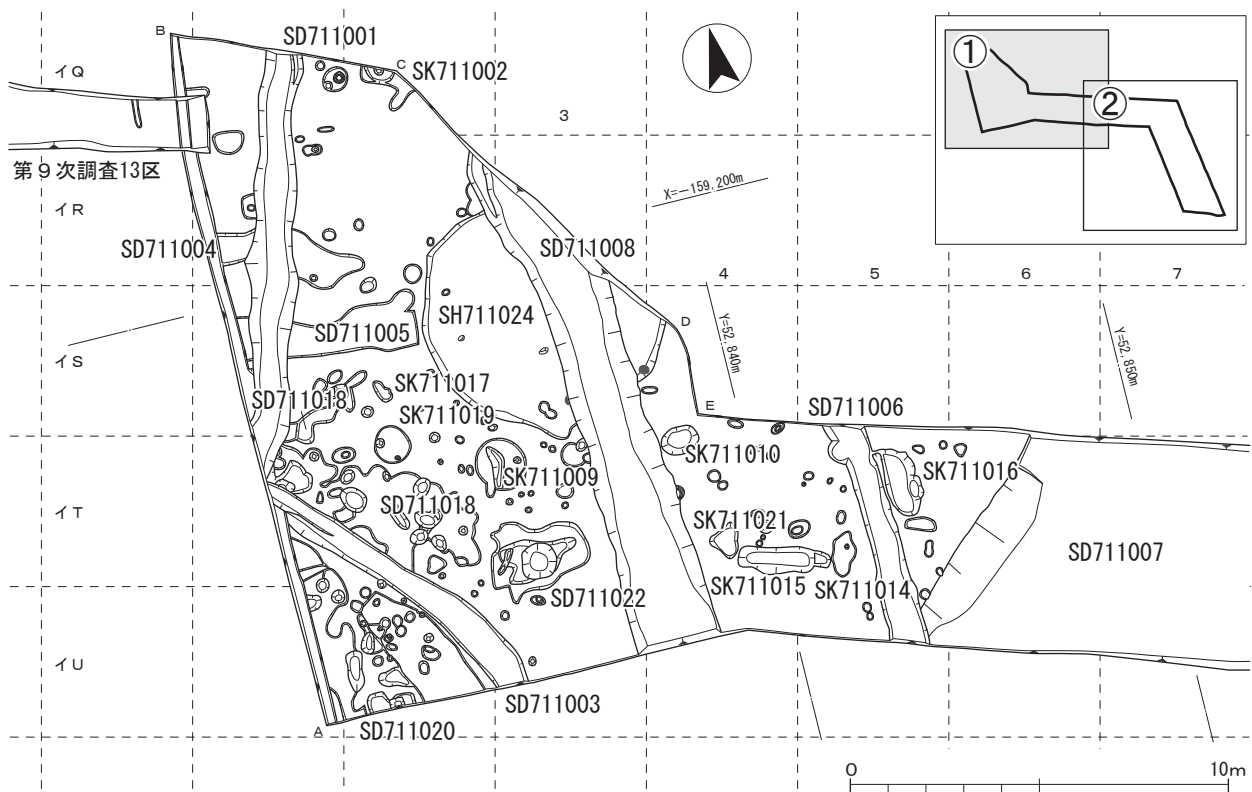
土は砂質土で縄文土器の小片が多数出土している。

**SH711024** (第82図) 調査区北西部で検出した。東半が調査区外に及び、SD711008にも削平されるため、全体の形状が不明な部分もあるが、直径約7mの円形を呈するものである。この形状から竪穴住居を想定したいところである。周囲には小穴をいくつか検出しており、垂木穴が巡るものと想定できる。また、壁は緩やかに傾斜している。しかし、深さが検出面から10cm程度しかなく、浅い地形上の落ち込みとする可能性も否定できない。南端ちかくで焼土を検出しているが、炉跡とするには無理な位置である。埋土はシルトで、周囲から徐々に埋没した状況が確認できる。埋没の遅れた中央部では炭化物を含み、床から浮いた位置ではあるが、炭化物の集積もみられる。遺物は、縄文時代中期末葉ものが多数出土している。

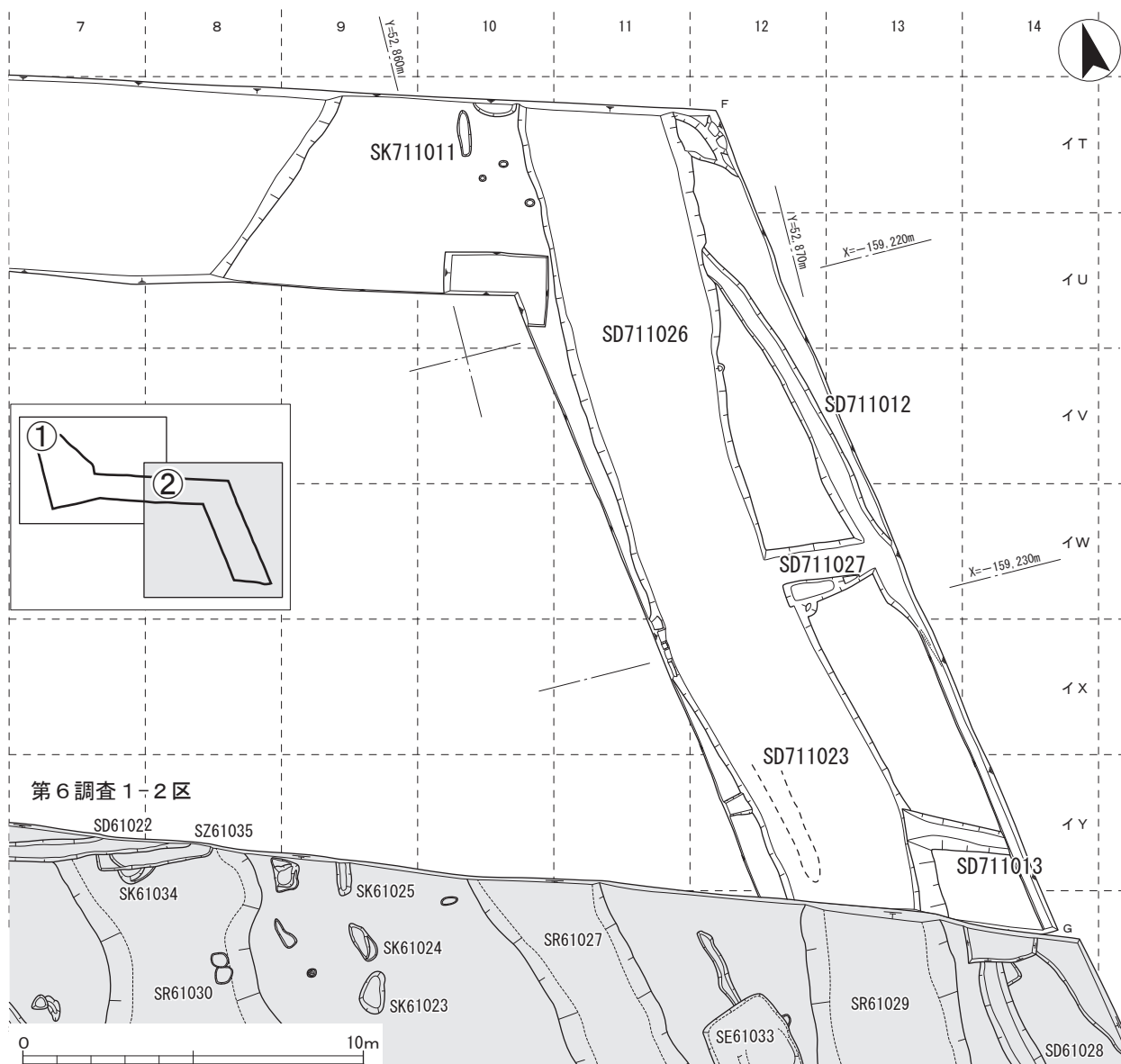
このように、縄文時代の竪穴住居とするに決め手を欠く状態であるが、いずれにしても埋没過程で炭化物が廃棄されたものと考えられる。

### (2) 奈良時代以降の遺構

検出したものの多くは溝や溝状の土坑である。こ



第78図 第7次調査11区平面図① (1:200)



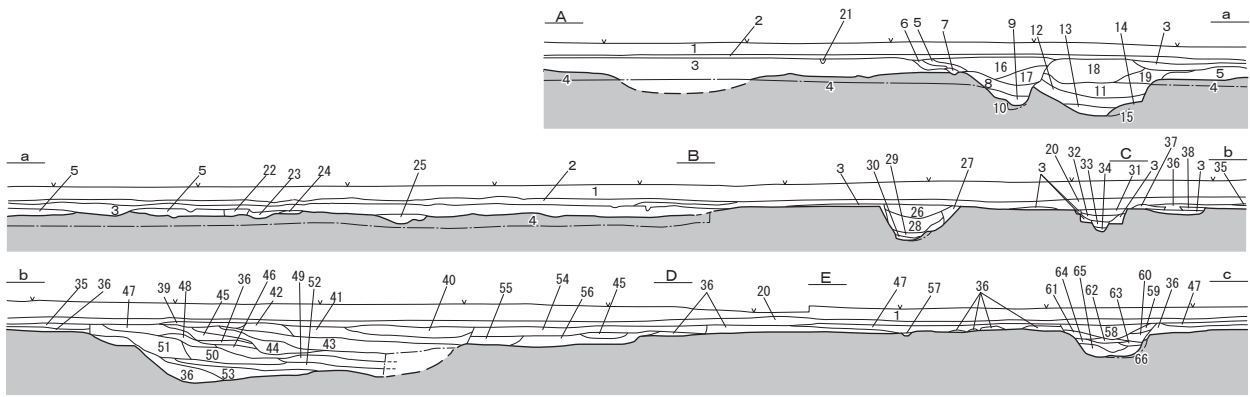
第79図 第7次調査11区平面図② (1:200)

これらの大半が自然流路またはその可能性をしめすものである。時期は平安時代中期から末期のものが中心で、室町時代に下るものが散見される。

SD711001 (第80図) 調査区西側端を南北に延びる溝である。幅1m前後、検出面からの深さは60cmを測り断面U字形を呈するしっかりした溝である。埋土はシルトが中心であるが、最下層は砂層となり、流水があったようである。重複するSD711003等に先行し、埋土からは縄文土器の小片が出土するのみである。SD711003の時期から平安時代中頃以前であることは明白であるが、縄文時代まで遡るとするには躊躇する。縄文土器が出土する不定形土坑SD711008より後出であり、縄文時代まで遡

るとするのは可能性のひとつに止めて、他の多くの溝と同様な平安時代の可能性が高いものとしておく。

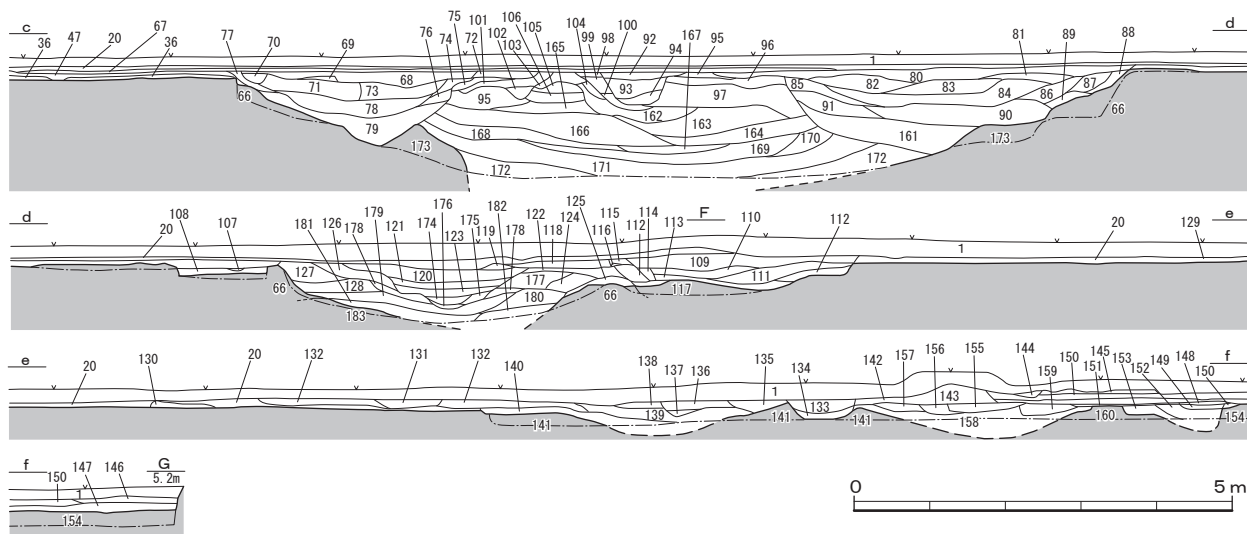
SK711002・711010 SK711002は、調査区北西側で検出した土坑である。大半が調査区外のため全体の形状は不明であるが、一辺1.6mの方形を呈するものと推測される。他の遺構が重複しており、検出時点での形状は不定形のものであった。SK711010は、調査区中央部で検出した直径1mの不整円形を呈する。両者とも検出面からの深さは10cm程度の浅いもので埋土は一部に砂粒を含むシルトである。縄文土器の小片が多数出土する中で土器器杯の小片があるため平安時代のものとした。ただし、これが重複遺構からの混入であれば、両者とも前述



- 1 10YR4/1 褐灰色シルト (石粒含) <耕作土>
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂・細石含)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/2 灰黄褐色粗砂含)  
<SK711002・SD711005・711020埋土等>
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 (10YR4/2 灰黄褐色砂含) <検出面>
- 5 7.5YR5/2 灰褐色シルト (10YR4/2 灰黄褐色砂多含) <SD711003埋土等>
- 6 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト  
(10YR4/2 灰黄褐色粗砂少量含) <SD711003埋土>
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR4/2 灰黄褐色粗砂多含) <SD711003埋土>
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト  
(10YR4/2 灰黄褐色砂少量含) <SD711003埋土>
- 9 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂 (10YR5/6 黄褐色砂含) <SD711003埋土>
- 10 10YR5/8 黄褐色粗砂 (10YR5/6 黄褐色砂少量含)
- 11 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR5/2 灰黄褐色砂含) <SD711001埋土>
- 12 10YR2/3 黒褐色シルト (10YR5/6 黄褐色砂少量含) <SD711001埋土>
- 13 10YR4/2 灰黄褐色細砂<SD711001埋土>
- 14 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR5/6 黄褐色砂多含) <SD711001埋土>
- 15 10YR5/1 褐灰色シルト (10YR5/6 黄褐色砂少量含)
- 16 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/6 黄褐色砂多含) <SD711003埋土>
- 17 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR5/6 灰黄褐色砂多含、  
10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂少量含) <SD711003埋土>
- 18 10YR3/3 暗褐色粘質シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711001埋土>
- 19 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711001埋土>
- 20 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色大粒砂少量含)
- 21 7.5YR6/3 にぶい褐色シルト
- 22 7.5YR7/4 にぶい橙色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色粘土粒含)
- 23 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘土粒含) <SD711004埋土>
- 24 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色粘土粒含)
- 25 7.5YR5/4 にぶい褐色シルト (10YR5/3 にぶい黄褐色粘土粒含)
- 26 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト<SD711001埋土>
- 27 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト<SD711001埋土>
- 28 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト  
(10YR5/4 にぶい黄褐色シルト多含) <SD711001埋土>
- 29 10YR3/3 暗褐色シルト  
(7.5Y4/2 灰オリーブ色シルト多含) <SD711001埋土>
- 30 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土<SD711001埋土>
- 31 10YR4/4 褐色シルト (10YR4/2 灰黄褐色砂多含)
- 32 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/2 灰黄褐色砂多含)
- 33 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 (10YR4/2 灰黄褐色砂多含)
- 34 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含)
- 35 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂含) <SD711008埋土>
- 36 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色砂含)
- 37 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂粒含) <SK711002埋土>
- 38 10YR5/2 灰黄褐色シルト<SK711002埋土>
- 39 10YR5/1 褐灰色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂粒多含) <SD711008埋土>
- 40 10YR4/1 褐灰色砂状シルト (下層に10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂  
・7.5YR4/4 褐色粗砂多含) <SD711008埋土>
- 41 10YR5/2 灰黄褐色砂状シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂少量含) <SD711008埋土>
- 42 10YR5/1 褐灰色粗砂状シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711008埋土>
- 43 10YR5/1 褐灰色粗砂状シルト (石粒多含) <SD711008埋土>
- 44 10YR5/2 灰黄色粗砂状シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711008埋土>
- 45 10YR4/2 灰黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711008・SH711024埋土>
- 46 10YR5/2 灰黄褐色シルト  
(下層に10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711008埋土>
- 47 10YR5/2 灰黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SD711008埋土等>
- 48 10YR4/1 褐灰色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂・10YR4/4 褐色砂含) <SD711008埋土>
- 49 10YR5/2 灰黄褐色砂状シルト<SD711008埋土>
- 50 10YR4/2 灰黄褐色粗砂状シルト (石粒多含) <SD711008埋土>
- 51 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト  
(上層に10YR4/3 にぶい黄褐色砂少量含) <SD711008埋土>
- 52 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト<SD711008埋土>
- 53 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土<SD711008埋土>
- 54 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト  
(10YR5/4 にぶい黄褐色砂・10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含)
- 55 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SH711024埋土>
- 56 10YR4/1 褐灰色シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色砂多含) <SH711024埋土>
- 57 10YR8/3 浅黄色極粒砂 (縮まる)
- 58 10YR7/3 にぶい黄褐色極粒砂 (10YR5/2 灰黄褐色極粒砂  
・小石少量含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 59 10YR7/4 にぶい黄褐色中粒砂  
(小石少量含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 60 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂 (小石微量含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 61 10YR7/3 にぶい黄褐色細粒砂  
(小石微量含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 62 10YR7/2 にぶい黄褐色中粒砂<SD711006埋土>
- 63 10YR6/4 にぶい黄褐色極粒砂  
(10YR7/3 にぶい黄褐色シルト含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 64 10YR6/2 灰黄褐色極粒砂 (小石微量含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 65 10YR3/3 にぶい黄褐色極粒砂  
(10YR7/4 にぶい黄褐色シルト一部含、縮まり弱い) <SD711006埋土>
- 66 10YR6/2 灰黄褐色極粒砂と7.5YR6/3 にぶい褐色土の混成 (縮まり弱い)
- 67 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト  
(10YR8/2 灰白色極粒砂含、小石少量含、縮まる)
- 68 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト  
(小石多量含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 69 10YR5/2 灰黄褐色シルト (小石多含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 70 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト  
(10YR5/6 黄褐色砂質塊含、縮まる) <SD711007埋土>
- 71 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト  
(7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト塊含、縮まる) <SD711007埋土>
- 72 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト  
(7.5YR5/3 にぶい褐色シルト塊含、縮まる) <SD711007埋土>
- 73 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂 (小石多含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 74 7.5YR6/1 褐灰色極粒砂 (小石少量含、所々に7.5YR4/3 褐色砂質  
・10YR3/1 黒褐色砂質含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 75 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト  
(10YR7/3 にぶい黄褐色シルト含、縮まる) <SD711007埋土>
- 76 7.5YR6/2 灰褐色中粒砂 (小石微量含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 77 10YR5/1 褐灰色極粒砂 (小石少量含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 78 10YR6/3 にぶい黄褐色極粒砂  
(小石微量含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 79 10YR5/2 灰黄褐色極粒砂 (小石微量含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 80 7.5YR8/4 浅黄色シルト (小石含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 81 7.5YR7/2 明褐色シルト  
(10YR6/2 灰黄褐色中粒砂含、小石微量含、縮まる) <SD711007埋土>
- 82 10YR6/2 灰黄褐色シルト  
(10YR7/1 灰白色中粒砂含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 83 10YR6/3 にぶい黄褐色極粒砂 (小石含) <SD711007埋土>
- 84 10YR5/2 灰黄褐色極粒砂 (7.5YR7/6 橙色砂含) <SD711007埋土>
- 85 10YR7/3 にぶい黄褐色極粒砂<SD711007埋土>
- 86 7.5YR6/2 灰褐色極粒砂 (小石多含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 87 7.5YR7/3 にぶい黄褐色シルト (縮まる) <SD711007埋土>
- 88 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 89 10YR6/2 灰黄褐色シルト (小石少量含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 90 10YR7/1 灰白色中粒砂  
(7.5YR6/6 褐色鉄分砂含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 91 7.5YR6/1 褐灰色細粒砂 (小石含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 92 7.5YR6/2 灰褐色中粒砂 (小石含)
- 93 10YR6/2 灰黄褐色極粒砂 (7.5YR4/3 褐色砂質塊・鉄分含、縮まり弱い)
- 94 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 (縮まり弱い)
- 95 7.5YR7/4 にぶい褐色シルト (縮まる) <SD711007埋土>
- 96 7.5YR6/3 にぶい褐色シルト (縮まる) <SD711007埋土>

第80図 第7次調査11区土層断面図① (1:100)





- 97 10YR4/4 褐色シルト  
(7.5YR5/1 褐色極粒砂含、縮まる) <SD711007埋土>
- 98 7.5YR6/1 褐色シルト  
(7.5YR4/3 褐色極粒砂含、縮まる) <SD711007埋土>
- 99 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (縮まる) <SD711007埋土>
- 100 10YR5/2 灰黄褐色極粒砂 (縮まる) <SD711007埋土>
- 101 7.5YR6/2 灰褐色極粒砂  
(2.5Y7/3 灰黄色シルト含、縮まる) <SD711007埋土>
- 102 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂 (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 103 10YR7/1 灰白色極粒砂  
(7.5YR7/3 にぶい橙色土塊含、縮まる) <SD711007埋土>
- 104 7.5YR6/2 灰褐色細粒砂 (小石含、縮まる) <SD711007埋土>
- 105 10YR6/6 明黄褐色シルト  
(7.5YR5/4 にぶい褐色シルト含、縮まる) <SD711007埋土>
- 106 7.5YR6/1 褐色極粒砂  
(7.5YR5/6 明褐色シルト含、縮まる) <SD711007埋土>
- 107 7.5YR5/1 褐色極粒砂 (縮まり弱い)
- 108 10YR4/2 灰黄褐色シルト (7.5YR4/3 褐色極粒砂含、縮まる)
- 109 7.5YR6/2 灰褐色粘質シルト (小石含、縮まる) <SD711026埋土>
- 110 7.5YR5/1 褐色粘質シルト (小石含、縮まる) <SD711026埋土>
- 111 7.5YR6/1 褐色粘土  
(小石・7.5YR5/6 明褐色砂微量含、炭化物含、縮まる) <SD711026埋土>
- 112 7.5YR5/2 灰褐色粘質シルト (小石微量含、縮まる) <SD711026埋土>
- 113 5YR6/1 褐色粘土 (縮まる) <SD711026埋土>
- 114 7.5YR7/2 明褐色粘質シルト  
(7.5YR6/6 橙色極粒砂含、縮まる) <SD711026埋土>
- 115 7.5YR6/1 褐色粘土 (縮まる) <SD711026埋土>
- 116 7.5YR6/3 にぶい褐色粘土 (縮まる) <SD711026埋土>
- 117 10BG6/1 青灰色粘土 (縮まり弱い)
- 118 10YR6/4 にぶい黄褐色中粒砂 (小石多含、縮まり弱い)
- 119 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (小石微量含、縮まる) <SD711012埋土>
- 120 10YR4/4 褐色シルト (縮まる) <SD711012埋土>
- 121 10YR4/2 灰黄褐色シルト (縮まる) <SD711012埋土>
- 122 7.5YR5/2 灰褐色シルト  
(7.5YR5/6 明褐色シルトが上部に微量堆積、縮まる)
- 123 7.5YR5/1 褐色粗砂 (小石含、縮まり弱い) <SD711012埋土>
- 124 7.5YR6/1 褐色粗砂 (小石多量含、縮まり弱い) <SD711026埋土>
- 125 7.5YR7/4 にぶい橙色細粒砂 (縮まり弱い)
- 126 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト  
(7.5YR5/3 にぶい褐色シルト含、縮まる) <SD711026埋土>
- 127 7.5YR6/2 灰褐色シルト  
(7.5YR4/3 褐色粗砂含、縮まり弱い) <SD711026埋土>
- 128 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂 (小石含、縮まり弱い) <SD711026埋土>
- 129 10YR3/3 暗褐色シルト (縮まる)
- 130 5BG6/1 青灰色粘土 (7.5YR6/4 にぶい橙色土塊含、縮まる)
- 131 10BG6/1 青灰色シルト (7.5YR5/4 にぶい褐色砂含、縮まる)
- 132 7.5YR4/4 褐色シルト土 (10YR7/1 灰白色極粒砂・小石含、縮まり弱い)
- 133 10G6/1 緑灰色シルト土 (7.5YR5/6 明褐色砂質線状に含、縮まる)
- 134 5BG5/1 青灰色極粒砂 (縮まる)
- 135 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト  
(7.5YR5/4 にぶい褐色極粒砂・小石含、縮まり弱い) <SD711012埋土>
- 136 10BG7/1 明青灰色粘土  
(5Y6/3 オリーブ黄色シルト含、縮まる) <SD711012埋土>
- 137 10BG5/1 青灰色粘土  
(7.5YR5/6 明褐色砂質土含、縮まる) <SD711012埋土>
- 138 7.5YR6/2 灰褐色シルト  
(7.5YR5/4 にぶい褐色砂含、縮まる) <SD711012埋土>
- 139 10YR5/2 灰黄褐色シルト (小石微量含、縮まる) <SD711012埋土>
- 140 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂  
(10YR5/6 黄褐色細粒砂一部に含、縮まり弱い) <SD711012埋土>
- 141 10YR6/1 褐色シルト (7.5YR5/6 黄褐色極粒砂・小石含、縮まる)
- 142 5BG5/1 青灰色粘土 (7.5YR4/6 褐色砂線状に含、縮まる)
- 143 10YR4/2 灰黄褐色シルト (7.5YR5/3 にぶい褐色砂質粒子微量含、縮まる)
- 144 10YR4/1 褐色シルト (縮まり弱い) <耕作土>
- 145 7.5YR6/6 褐色シルト (縮まる)
- 146 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (縮まる)
- 147 10YR5/2 灰黄褐色シルト (7.5YR3/3 暗褐色砂質土塊含、縮まる)
- 148 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト  
(7.5YR3/3 暗褐色砂質土塊含、縮まる) <SD711013埋土>
- 149 7.5YR6/2 灰褐色シルト (7.5YR4/6 褐色砂質土塊含) <SD711013埋土>
- 150 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト  
(7.5YR3/4 暗褐色砂質土塊含) <SD711013埋土>
- 151 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (7.5YR4/3 褐色砂質土塊含)
- 152 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色極粒砂含、縮まる) <SD711013埋土>
- 153 7.5YR6/2 灰褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色シルト含、縮まる) <SD711013埋土>
- 154 7.5YR5/1 褐色極粒砂 (7.5YR4/3 褐色中粒砂含、縮まり弱い)
- 155 7.5YR6/2 灰褐色シルト  
(10YR5/4 にぶい黄褐色土が上部微量堆積、小石少量含)
- 156 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (7.5YR4/3 褐色極粒砂含、縮まる)
- 157 10YR5/2 灰黄褐色粗砂 (小石含、縮まり弱い)
- 158 7.5YR4/2 灰黄色シルト (小石含、縮まり弱い)
- 159 2.5Y7/2 灰黄色シルトと7.5YR5/6 明褐色極粒砂の混成 (縮まる)
- 160 10YR5/4 にぶい黄褐色極粒砂 (縮まり弱い)
- 161 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土 (縮まる) <SD711007埋土>
- 162 10YR6/2 灰黄褐色粗砂  
(10BG7/1 明青灰色中粒砂含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 163 5B6/1 青灰色粗砂  
(10YR7/1 灰白色中粒砂多含、縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 164 7.5YR5/6 明褐色粗砂 (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 165 10YR8/4 浅黄褐色シルト  
(7.5YR6/4 にぶい橙色シルト含、縮まる) <SD711007埋土>
- 166 7.5YR5/1 褐色粘質シルト  
(10YR7/6 明黄褐色粘土含) <SD711007埋土>
- 167 2.5Y6/3 にぶい黄色粘土 (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 168 2.5Y5/1 黄灰色粘土 (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 169 2.5Y4/2 暗黄褐色粘土 (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 170 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土 (縮まる) <SD711007埋土>
- 171 5PB6/1 青灰粘土 (縮まり弱い) <SD711007埋土>
- 172 5B6/1 青灰粘土 <SD711007埋土>
- 173 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土 (10YR4/3 にぶい黄褐色粘土含)
- 174 7.5YR3/2 黒褐色粘土 (縮まる) <SD711012埋土>
- 175 7.5YR4/1 褐色粘土  
(10YR4/4 褐色シルト質粘土斑状含、縮まる) <SD711012埋土>
- 176 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土 (縮まる) <SD711012埋土>
- 177 7.5YR6/2 灰褐色粗砂 (下層に7.5YR5/6 明黄褐色中粒砂が横筋状堆積、縮まり弱い) <SD711026埋土>
- 178 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト  
(10YR6/4 にぶい黄褐色極粒砂含、縮まる) <SD711026埋土>
- 179 7.5YR5/2 灰褐色中粒砂  
(7.5YR4/3 褐色土含、縮まり弱い) <SD711026埋土>
- 180 7.5YR6/8 橙色中粒砂と7.5YR5/1 褐色中粒砂の互層  
(縮まり弱い) <SD711026埋土>
- 181 7.5YR7/4 にぶい橙色中粒砂と7.5YR5/3 にぶい褐色中粒砂の混成  
(縮まり弱い、湧水層) <SD711026埋土>
- 182 5B5/1 青灰色細粒砂 (縮まり弱い、湧水層) <SD711026埋土>
- 183 10YR5/8 黄褐色粘土 (縮まる)

第81図 第7次調査11区土層断面図② (1:100)

した縄文時代の自然地形の凹凸の可能性もある。

**SD711003** (第80図) 調査区西端において検出した溝である。検出面からの深さ60cm以上を測る深いものである。しかし、断面形はV字状またはU字状で一定を欠き、幅も1m～60cmで、若干弯曲気味に延びる。埋土には砂粒を含み、最下層は完全な砂層となる。この様な形状から流路の可能性を否定できない。SD711001と重複するがSD711003が後出である。奈良から平安時代の土師器杯皿類を中心に比較的多くの遺物が出土しているが、最も新相を示すものが9世紀末～10世紀前半頃のものであるため、平安時代中頃の溝としておく。

**SD711004・711005** 調査区西端から東へ延びる2条の溝で、その方向は条里に乗る。両者は溝芯々で2mの間隔で並走し、4～6mで途絶える。その幅は80cm前後であるが、検出面からの深さは10cm未満で、幅に比べ非常に浅く、遺構とするに疑問が残るものである。この様な状況から出土遺物も少なく、縄文土器片と土師器皿・鍋が若干出土したのみである。土師器の時期から室町時代に下るものと考えられる。

**SD711006** (第80図) 調査区中央部を南北に延びる溝で、その方向は方位に乗る。幅1.2m、深さ40cmで断面はU字状を呈する。人為的に掘削されたものとしたいが、埋土は砂であり、自然流路の可能性も残る。検出面での観察では、東側に隣接する大規模な流路SD711007より後出のものとなったが、出土遺物に時期差はなく、SD711007の分流とすべきものであろう。

**SD711007** (第81図) 調査区中央部を南北に流れる自然流路である。検出時点では西側のSD711006と同規模なものとして幅10mを超える流路としたが、掘削の結果、幅12m、深さ14m以上を測る大規模な流路となった。土層断面の観察では数条の流路が重複しており、砂層とシルト層が混在する状況である。このため流水と淀みを幾度か繰り返していたものと推測される。

縄文土器の小片を中心に出土しているが、流路の規模に比べ遺物は少ない。最も新相を示す土師器皿から平安時代後期のものとした。

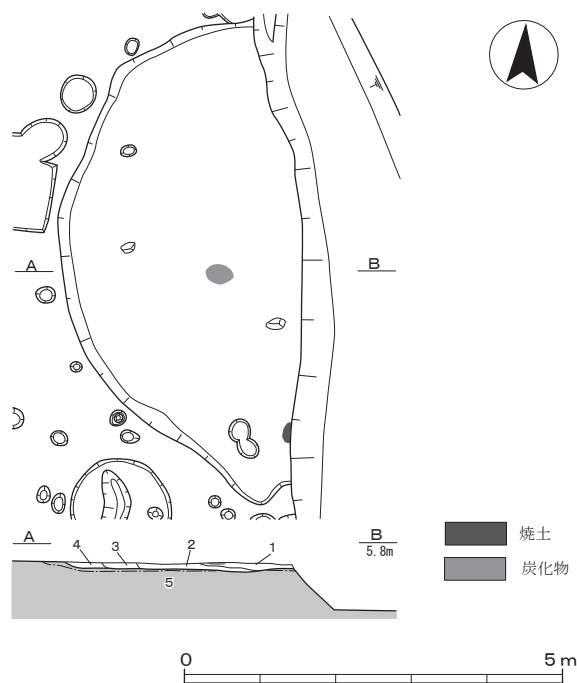
**SD711008** 調査区西部を南北に延びる溝

である。幅約2m、検出面からの深さは60cm以上を測る大規模なものである。直線的に延びるものの壁は緩やかで、埋土は砂層を主体とするため、自然流路に想定されるものである。溝の規模に比べ出土遺物は少なく、サヌカイトの剥片と縄文土器片が若干出土したに止まる。縄文時代の遺構SH711024と重複し、検出時の観察ではそれより後出である。土層断面の観察でもSH711024より一つ上の層から切り込んでおり、縄文時代より下る可能性がある。

西側には類似した状況のSD711001が並走する。縄文時代まで遡る可能性を残すものの、SD711001と同様な時期の流路であるものと推測できる。

**SK711011** 調査区中央部のSD711026西側で検出した長径1.2m、短径40cmの溝状の土坑である。検出面からの深さは10cm未満の浅いものであるが、他の多くにみられるような縄文土器の出土は無い。土師器の杯や甕が出土しており、これらにより平安時代のものとなる。

**SD711012** (第81図) 調査区東側を南南東から北北西に延びる溝である。幅60cm、深さ60cm



第82図 SH711024実測図 (1:100)

の深いものであるが、壁は比較的緩やかである。埋土はシルトが主体で砂の含有は少ないが、若干蛇行する傾向があり、流路の可能性が残る。平安時代の杯が比較的多く出土し、これらから平安時代中頃の時期が想定される。しかし、山茶椀片が微量混入する状況があり、最終埋没が平安時代末に下る可能性もある。

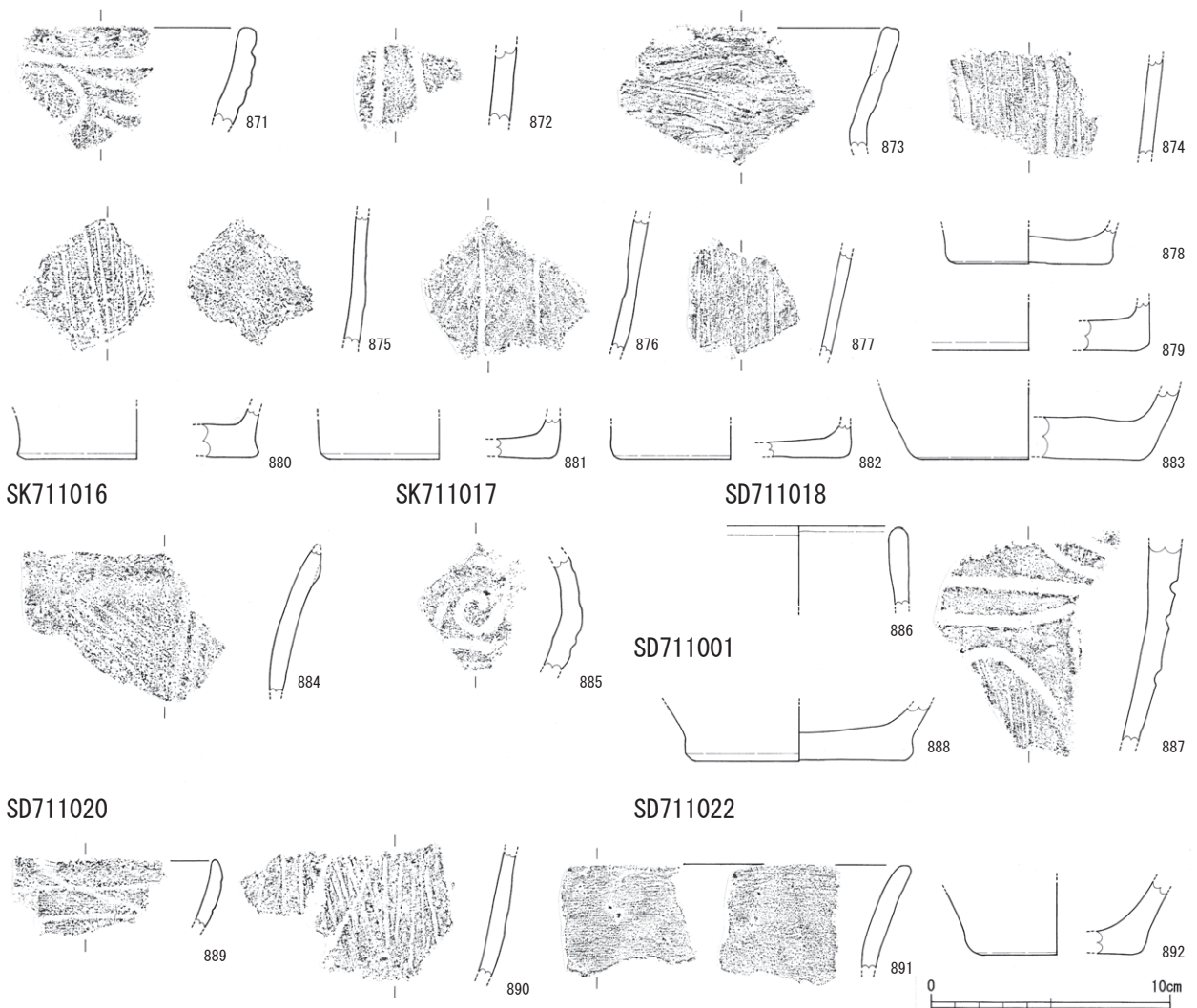
**SD711013** (第81図) 調査区南端ちかくを東西に横断する溝で、条里にほぼ沿う。幅80cm、深さ30cm以上を測る。埋土は砂粒を含むシルトで、比較的多くの遺物が出土している。土層断面の観察結果、北側に溝が重複しており、本来は幅1.2mであった可能性もある。南側上層にも浅い溝が重複しており、埋没の最終過程を示すものかも知れない。

土師器の杯・皿・甕、ロクロ土師器、灰釉陶器等があり、奈良～平安時代の遺物が目立つ。しかし、これらは重複するSD711026からの混入と考えられ、山茶椀や新相を示す土師器甕から平安時代末頃の時期とする。

**SK711015** 調査区中央部で検出した。長径2m、短径60cmの東西に延びる溝状の土坑である。深さは検出面から30cmを測る深いもので、他の多くのものと異なる。縄文土器や土師器鍋が若干出土するのみで、土師器鍋の特徴から平安時代後期の時期が与えられる。

**SD711023** 調査区南東部のSD711026埋土上で検出した溝である。幅は60cmで北方調査区外へ延びる。深さはSD711026との重複もあり不明確

SH711024



第83図 SH711024等出土遺物 (1 : 3)

であるが、交差する同時期のSD 711013と同様な規模と推測される。検出面での観察ではSD 711013より後出であるが、出土遺物からの時期差はない。

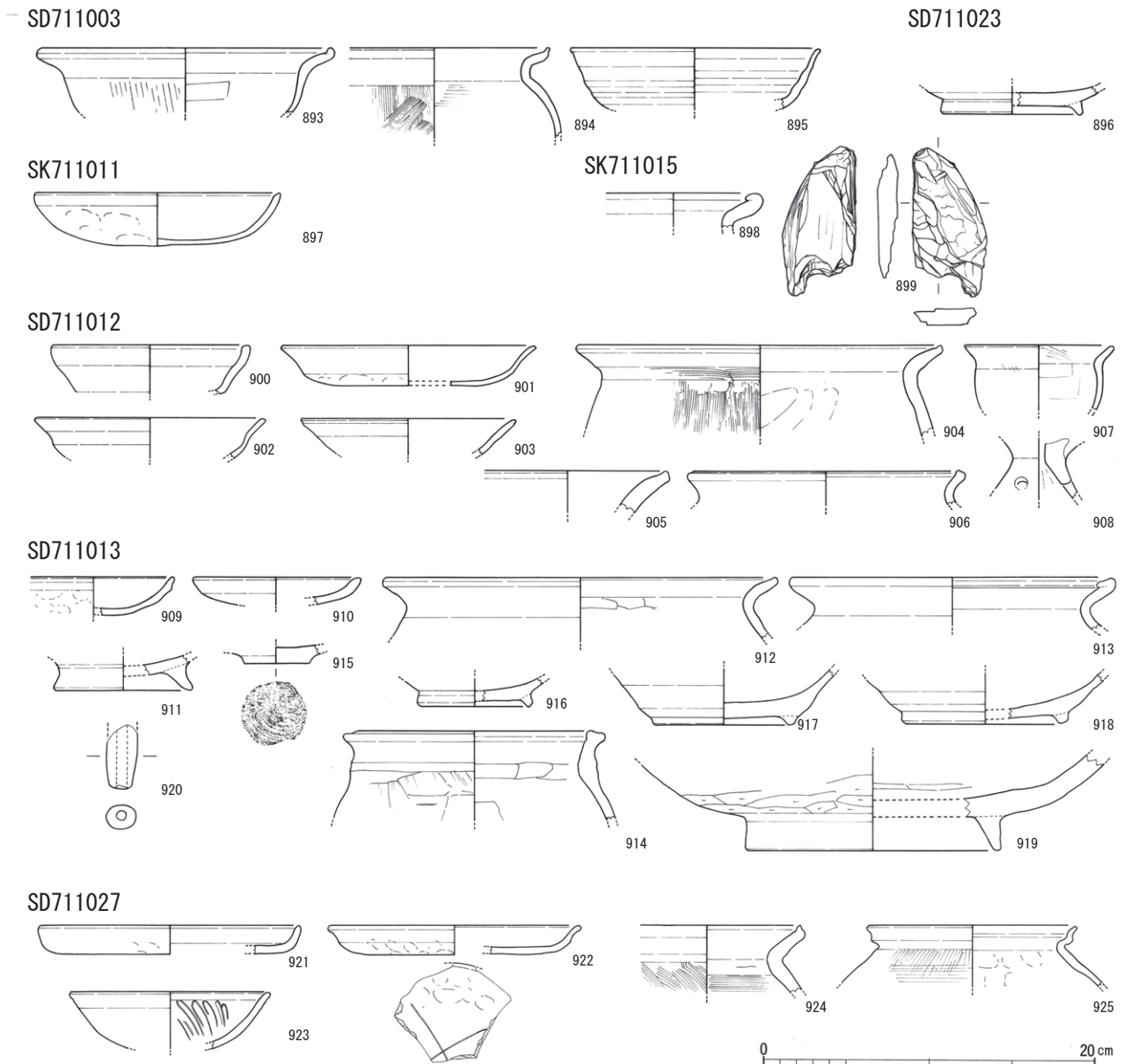
**SD 711026** (第81図) 調査区東側を南北に延びる溝で、その方向は方位に乗る。幅4～5m、深さは80cm程度で、幅に比べ浅く壁も非常に緩やかである。若干蛇行し、埋土も砂が多いことから自然流路と考えられる。

弥生時代終末期から室町時代の多くの遺物が出土するが、その多くは奈良から平安時代のものである。遺構検出時点や、土層観察においては、平安時代の溝SD 711023等に先行する結果が得られ、奈良か

ら平安時代とするに矛盾は無い。その場合、室町時代の遺物の扱いに苦慮するが、土層断面観察においては、東側に浅い溝が重複する様にも見える。

以上の状況と出土遺物から、弥生時代終末、奈良～平安時代、室町時代の3時期に流水があったもので、その中心は奈良から平安時代であったものと推測される。

**SD 711027** 調査区南部をほぼ方位に沿って東西に延びる溝である。幅1.2～1.6m、検出面からの深さは20cm程度である。重複するSD 711012に先行し、SD 711026より後出である。土師器の杯や甕等が出土しており、比較的古相を示す。最も新



第84図 SD711012・SD711013・SD711027等出土遺物 (1 : 4)



相を示すものでも平安時代前期を下らず、このことは重複する他の遺構との前後関係とも矛盾しない。

### (3) 遺物

#### SH711024 出土遺物 (第83図)

出土したものは全て縄文土器である。871・873は口縁部片、872・874～877は体部片、878～883は底部片で883を除き全て小片である。このため全体の形状が明らかなものは無い。口縁部片や体部片は縦方向の沈線または条線を施すものが多いが、873は横方向に条線または条痕を施す。調整の趣が強く、浅い条痕とすべきかも知れない。871は横方向の沈線に渦文と思われる円形の沈線を加える。

SK711016 出土遺物 (第83図) 多数の縄文土器片が出土しているが、図示できたものは884のみである。口縁部の小片で、口縁直下に低い隆帯を巡らす。その下には僅かに斜方向の条線がみえる。

SK711017 出土遺物 (第83図) 出土遺物は少なく、図示できたものは885のみである。沈線により渦文を描いている。

SD711018 出土遺物 (第83図) 886は縄文土器の口縁部片、887は体部片で両者とも小片である。他にサヌカイトの剥片も出土している。887は沈線により横方向と縦方向の細長い区画を設け、体部下方へ延びる縦方向の区画内を条線で充填する様である。

SD711001 出土遺物 (第83図) 出土したものは縄文土器のみであるが、既述した状況から混入遺物の可能性が高い。888は比較的残存度の良好な底部片である。

SD711020 出土遺物 (第83図) 出土したものは縄文土器の小片のみである。889は口縁部片で、口縁直下に2条の沈線を巡らせる。890は体部片で、縦方向に条線が施されている。

SD711022 出土遺物 (第83図) 縄文土器の小片が多数出土しているが、図示できたものは891の口縁部片と892の底部片である。891はヘラミガキで調整され、無文と思われる。

SD711003 出土遺物 (第84図) 土師器・須恵器の杯皿類等の比較的多くの遺物が出土しているが、図示できたものは土師器の甕(893・894)と須恵器の杯(895)に止まる。893は鉢状の甕で、

外面のハケメは縦方向の粗いものである。内面にはハケメは無く、工具ナデとなる。一方、894のハケメは細かく、内面にも細かいハケメが見える。895は底部外面をロクロケズリで調整する様にも見えるが、欠損が大きく不明瞭である。以上により、893が最も新相を示し、この溝の時期を表すものと考えられる。斎宮の第Ⅱ期第3～4段階に類似し、9世紀末～10世紀前半の平安時代のものとなる。

SD711023 出土遺物 (第84図) 図示したものは山茶碗(896)のみであるが、他に土師器杯や甕も出土している。しかし、896が最も新相を示すものである。比較的高い整った高台を有し、胎土も山茶碗としては精良なものである。従って、平安時代末に収まるものであろう。内面は使用のためか平滑になっている。

SK711011 出土遺物 (第84図) 図示できたものは土師器の皿(897)のみであるが、他に土師器甕等の小片も出土している。897は皿としたが、粗製のもので、ヨコナデは口縁端部に限られる。粗製碗が器高を減じた最終形態のようでもあるが、口径が碗とするに大きすぎる。いづれにしても杯から皿へ変容する時期のものとして、平安時代後半のものとしておく。

SK711015 出土遺物 (第84図) 図示できたものは土師器の甕(898)と打製石斧の未製品(899)であるが、他に縄文土器の小片も出土している。898は口縁部の小片であるが、器壁が厚く端部を内に折り返す。銅と呼ぶべき時期にちかい。

SD711012 出土遺物 (第84図) SD711026と大半が重複することもあり、混入遺物が多い。図示したものについても各機種で形態的特徴が異なるものが雑居する。

900～903は土師器の杯である。900は器壁が厚く古相を示すが、901・902は器壁が薄く口縁部が外反する。斎宮の第Ⅱ期第3段階～第4段階に並行するものと思われ、10世紀前後の平安時代のものとなる。903は外反が弱く、そのまま外方へ開く。台付皿の可能性も残る。口縁端部に油煙の付着がみられ、灯明皿として使用された可能性がある。

904～907は土師器の甕であるが、904・905は厚い器壁で口縁端部に面をもつ古相を示すものであ

る。904の頸部は工具による強く横方向のナデが施される。907は小型の甕であるが、調整にハケメは用いられない。

908は器台または高杯で、他のものと大きく時期が異なり、明らかな混入遺物である。

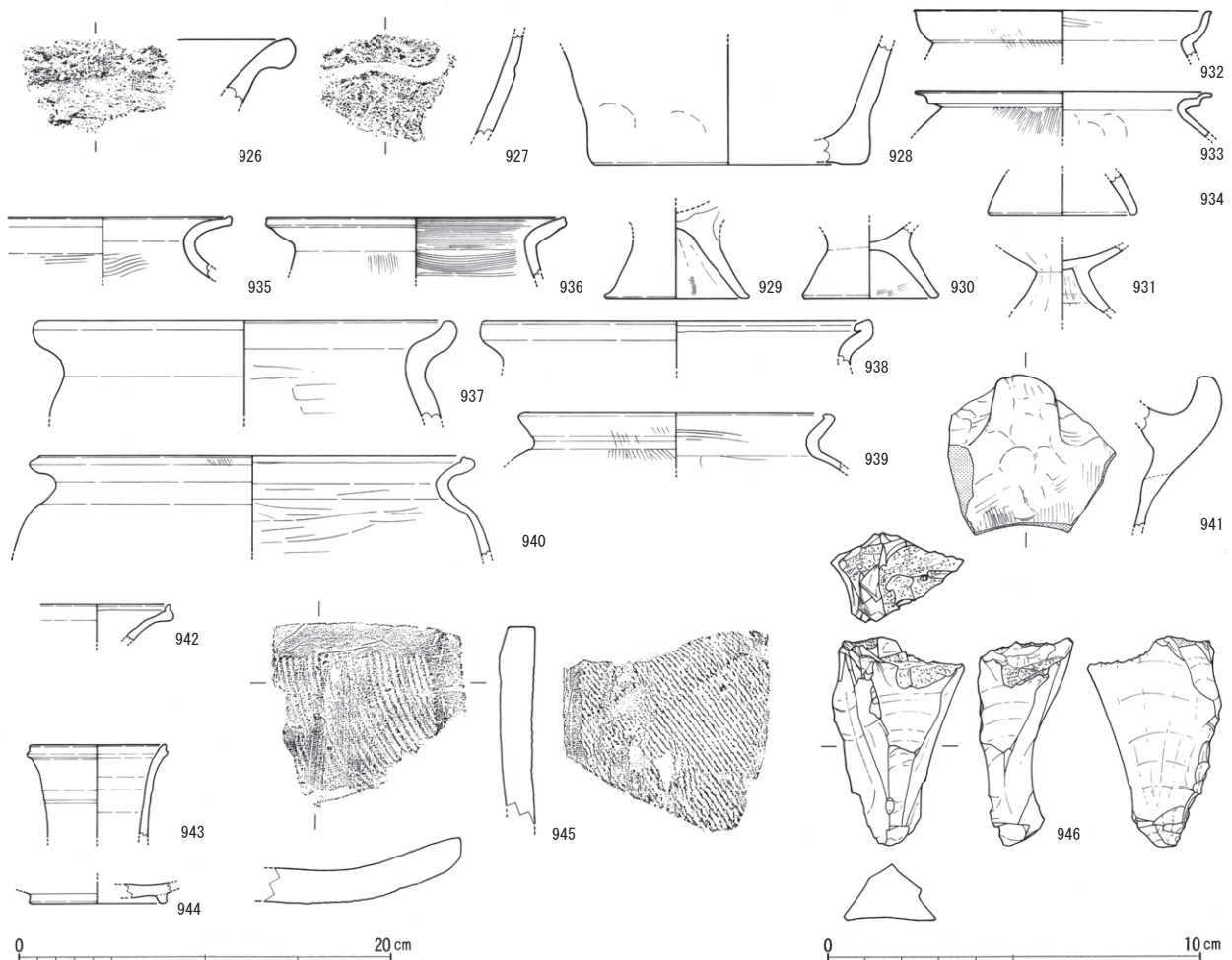
**SD711013出土遺物** (第84図) 909・910は土師器の皿で、909は大型、910は小型のものである。911は土師器の椀、912～914は甕である。913は口縁端部を内に折り返し、その面にやや強いヨコナデを施す。914は外反の弱い口縁部で器壁が厚い特異な形態を呈する。調整は内外面共に工具痕を明瞭に残す工具ナデで、頸部内面は特に強い工具ナデを施す。頸部外面には浅い沈線を巡らせるが、全体的に雑な仕上げの特異なものである。甕としたが、壺の可能性もある。

915はロクロ土師器、916は灰釉陶器、917・918は山茶椀、919は陶器の鉢、920は土錘である。山

茶椀は両者とも比較的整った高台を貼りつける。919は大型の鉢で、質感は山茶椀である。底部外面を雑なヘラケズリで調整する。

**SD711027出土遺物** (第84図) 921・922は土師器の皿であるが、921は器壁が厚く、922の口縁端部は外反する。しかし両者とも底部外面は未調整である。922の外面には焼成後鋭利な工具で「×」が線刻される。923は土師器の椀とした。内面には粗い放射暗文が施される。924・925は土師器の甕で、925はS字状口縁台付甕であるが、口縁部の刺突文は施されていない。これらの遺物は、925が大きく時期が遡り、明らかな混入遺物、他は斎宮の第Ⅱ期第1段階～第2段階に並行するものと思われ、9世紀前半の平安時代のものと考えられる。

**表土等出土遺物** (第85図) 表土や排土の他に遺構混入遺物の一部もここで扱う。但し、既述したようにSD711026については、室町時代の他に弥生



第85図 第7次調査11区表土等出土遺物 (946 = 1 : 2、他は1 : 4)

時代終末から古墳時代初頭と奈良から平安時代にも流路として機能していた時期がある。929～934と935・939はそれぞれの時期を示す可能性があり、ここで扱うべきではなかったことを断っておく。

926～928は縄文土器で、926は肥厚する口縁部で残存部に限れば無文である。927は波状の沈線を施すが、区画の一部かも知れない。

929～931は弥生時代終末から古墳時代初頭のもので、929・930は壺の脚、934は甕の脚と思われる。934の脚端部の折り返しは、目立つ事無く滑らかに仕上げられている。932は受口状の甕、933はS字状口縁台付甕で、両者とも口縁部の刺突文は省略される。

935・936・938～940は土師器の甕であるが、口縁部形態等は多様で、最も古相を示す936からもっとも新相を示す940まで時期幅が大きい。940はハケメにならず、内外面とも工具ナデである。941は甕としたが、鍋状の形態を呈するものと思われる、942は鍋または焙烙の口縁部片である。

943は灰釉陶器、944は山茶碗と迷うが、灰釉陶器としておく。945は酸化焼成の平瓦、946はサヌカイトの石核である。 (萩原・樋口・森川)

## 12. 12区

立田集落の南側に設定した調査区で、今回の調査では北西端に位置する。調査区の形状は、S字状に蛇行した変則的な形態である。

遺構検出は耕作土から30cm程度の浅い位置で行ったが、検出面はシルト層から砂質土層まで変化する。遺構の大半は溝で、奈良時代から室町時代までの各時期の流路と思われるものが多い。したがって、良好な一括資料としての遺物の出土は無いが、調査区西端ちかくからは縄文土器が多く出土している。

### (1) 遺構

**SD712001** (第89図) 調査区中央部を東西に延びる溝である。幅1.8m、深さ30cmほどで、幅に比べ浅いものである。壁は北側が急峻であるのに対し、南側は緩やかである。埋土は3層に分かれるが、全て砂層である。この様な状況から流路が想定される。

多くの遺物が出土しているが、奈良時代から室町時代までの多様な遺物が出土している。なかでも奈

良時代や平安時代後期の遺物が目立つが、最も新相を示す土師器鍋や陶器により室町時代としておく。但し、奈良時代から室町時代までの期間に断続的に流れていたもので、その回数や期間は奈良時代や平安時代後期が多かったものであろう。

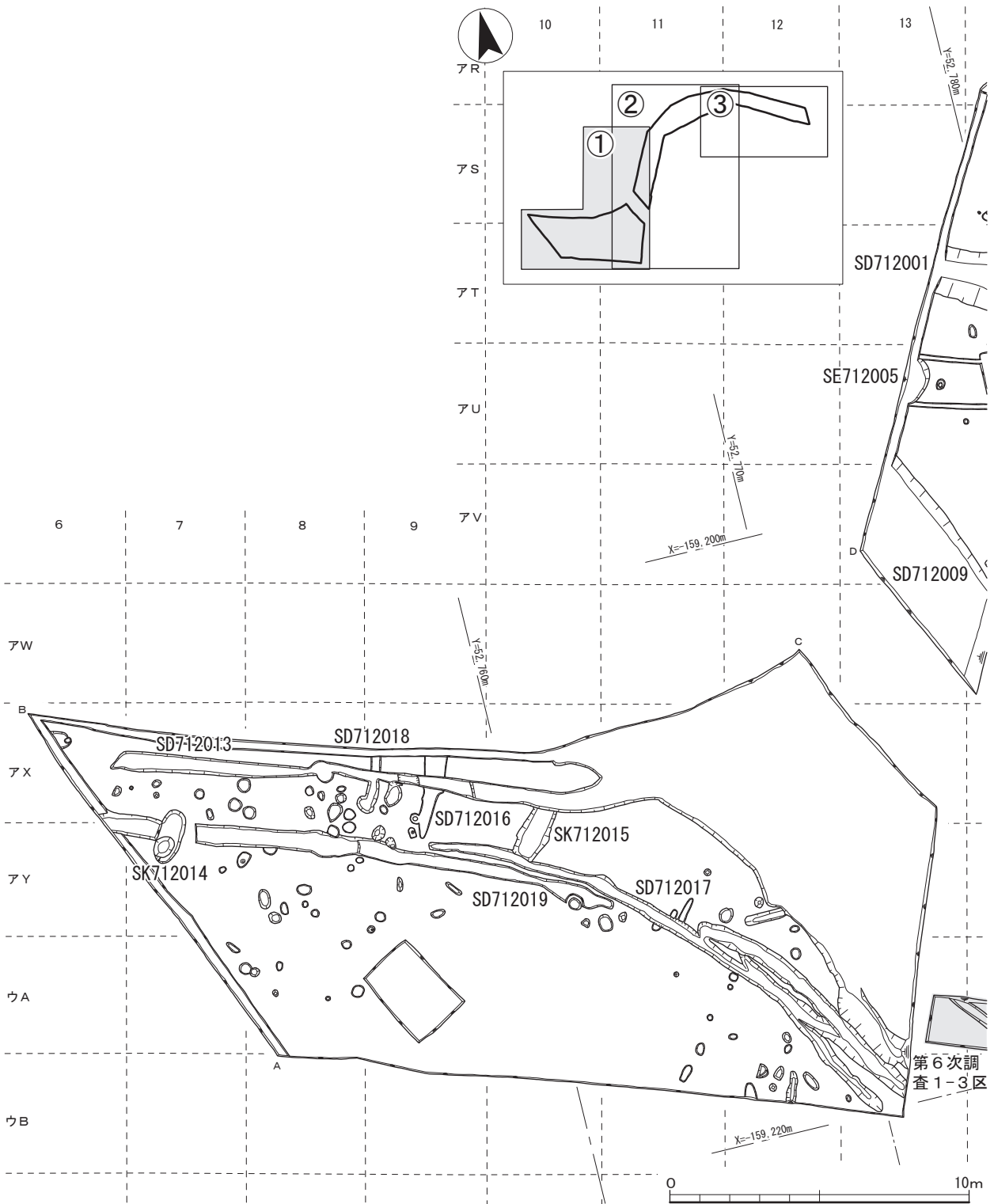
**SD712002** (第89図) 調査区中央部を南北に延びる溝で、幅80cm、深さ30cmを測る。幅はやや不均一で若干蛇行気味に延びるが、埋土は粘土である。縄文土器の小片が出土するのみであるが、南へ24m延長すると第6次調査のSD61014に至る。SD61014は、その形状がSD712002に酷似しており、両者が一連のものであれば、その時期は第6次調査の成果から平安時代中期となる。

**SD712003・712004** (第89図) 調査区中央部を芯々で2mの間隔を空け並走する2条の溝である。幅1～1.2m、深さは20cm程度で、幅に比べ浅いものである。方向は方位に沿うが、南方24mの第6次調査1-1区では、これらに相当する溝は検出されていない。既述したようにSD61014はSD712002に酷似する。奈良から平安時代の土師器・須恵器の杯皿類も混入しているが、室町時代の皿鍋類が出土しており、室町時代でも後半のものと考えられる。

**SE712005** (第89・90図) 調査区中央部北西端で検出した井戸である。西半が調査区外のため不明な部分も多いが、直径1.6mの円形を呈する掘形と思われる。検出面下80cmで還元層に至るが、井戸本体と掘形の識別は埋土断面には表れない。検出面下1.5mで底に至るが、直径70cmの円形状にさらに一段下がる様相を見せる。この部分に曲物が設置されていた可能性があるが、井戸枠の有無とともに不明である。

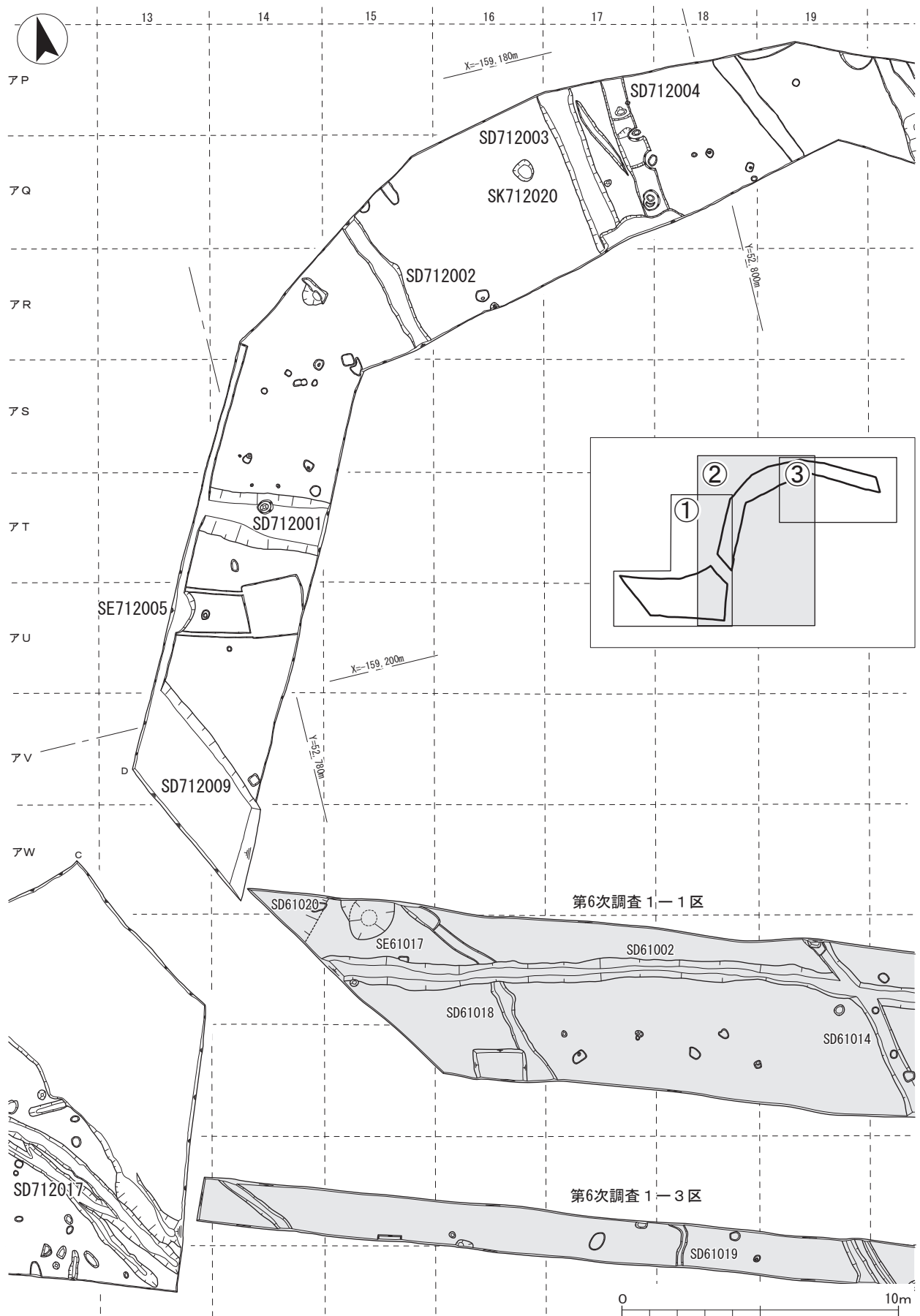
埋土からは、鎌倉時代の土師器鍋や山茶碗が出土しているが、室町時代に下る土師器皿もある。井戸底に埋納されたものは検出できなかった。前述した土師器皿を混入と考え、埋土最上層の山茶碗(969)が残存良好なこともあり、鎌倉時代の内に埋没したものと想定したい。

**SD712006** (第89図) 調査区中央部からやや東側において検出した溝である。検出時点では南側調査区外へ延びることを確認しているが、掘削

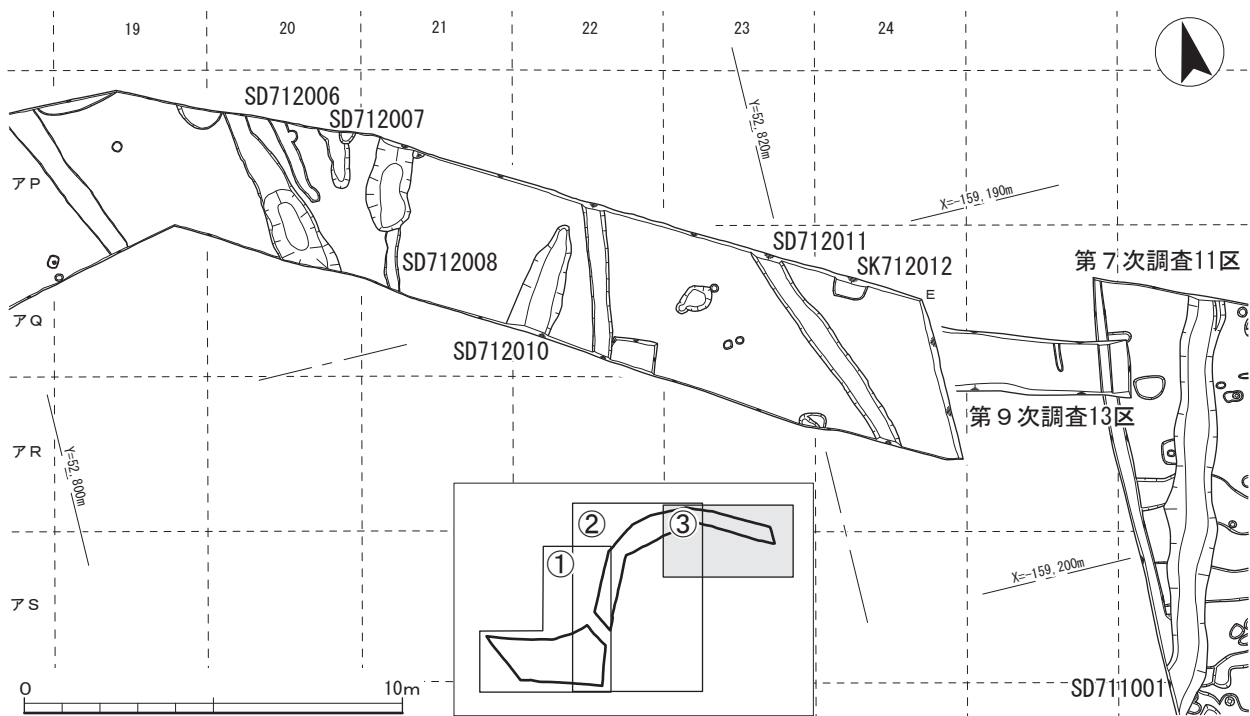


第86図 第7次調査12区平面図① (1 : 200)





第87図 第7次調査12区平面図② (1:200)



第88図 第7次調査12区平面図③ (1 : 200)

深度が無く、北端部でも深さ10cm未満の痕跡程度のものである。埋土は砂質土で流路痕跡の可能性がある。10世紀頃の土師器甕が出土しており、不確定ではあるものの平安時代中頃の時期を与える。

**SD712007** (第89図) 調査区東部で検出した。調査区中央部から幅を広げ調査区外に至る。深さは検出面から10cm程度で壁は緩やか、埋土は砂質土である。以上の状況から流路の痕跡と考えられる。器壁の薄い土師器杯片が出土したのみである。隣接するSD712006と連動する流路であれば、平安時代中頃の10世紀となり、出土した杯片と矛盾はない。

**SD712008** 調査区東側で検出した南北に延びる溝である。条里方向に延び、5.6m東側に同様な溝が並走するが、関連は不明である。幅40cm前後であるが、深さは10cm未満の浅いものである。詳細にみれば溝幅が不均一であり、条里に沿うのは偶然として、流路を想定しておく。

なお、検出時点では北側に土坑が重複し、それより後出のものとして判断したが、土層断面では逆の結果となった。16世紀に下る土師器鍋が出土しているが、重複する土坑出土の可能性が高い。したがって、SD712008の時期は16世紀の室町時代以前とする

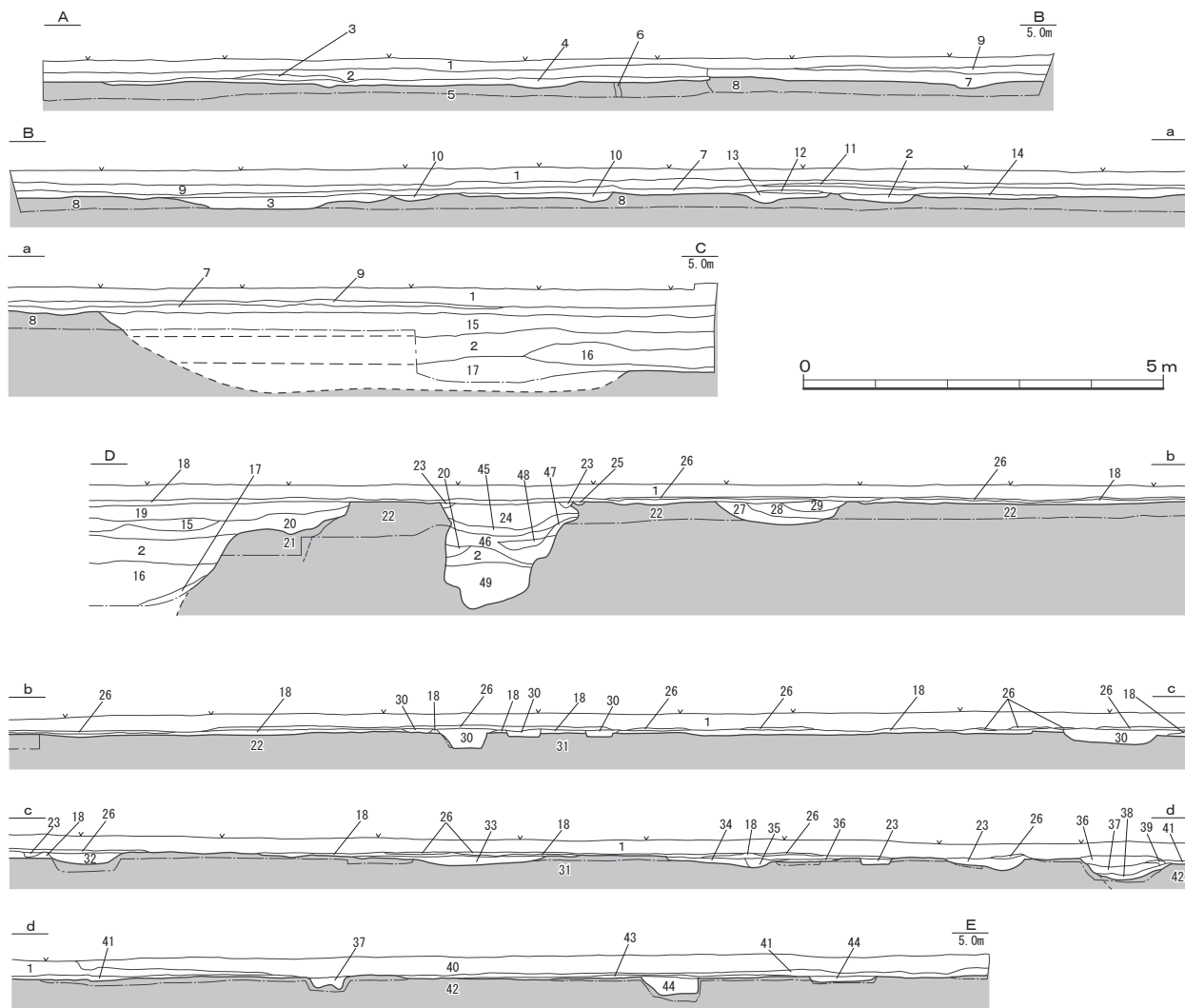
に止める。

**SD712009** (第89図) 調査区中央部からやや南西側の調査区が途切れる部分で検出した。幅は12mを測り、南東から北西方向に延びるものと推定される。隣接する第6次調査SD61020と同一のものと思われるが、流路方向に違和感が生じる。第6次調査が水没等により十分な検出ができなかったことが報告されているものの、その結果を受け止めれば、流路とするよりは沼地状の淀みあった可能性が生じる。また、埋土がシルト系で砂層がないこともそれに肯定的である。

律令期の土師器皿・甕、灰釉陶器等が出土しており、平安時代中頃のものが多い。これは第6次調査結果とも合致する。しかし、古相を示す山茶碗も出土しており、最終埋没は平安時代後期の11世紀まで下る可能性もある。

**SK712010** 調査区東側で検出した溝状の土坑である。平面形は不定形で、深さも検出面から10cm程度の浅いものである。このため人為的なものではなく、近隣の溝と同様に流路痕跡の可能性が高い。器壁の極めて薄い土師器皿が出土しており、室町時代に下るものと思われる。

**SD712011** (第89図) 調査区東部を斜行



- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 1 耕作土  | 26 7.5YR5/8 明褐色土                    |
| 2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土<SE712005・SD712009・712018埋土等> | 27 2.5Y6/1 黄灰色砂土<SD712001埋土>        |
| 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土                            | 28 2.5Y6/1 黄灰色細砂<SD712001埋土>        |
| 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト質                             | 29 2.5Y6/1 黄灰色砂<SD712001埋土>         |
| 5 5Y4/3 暗オリーブ色砂質土<検出面>                         | 30 5YR4/2 灰褐色粘土<SD712002・712003埋土>  |
| 6 10Y4/1 灰色砂質土                                 | 31 2.5Y7/4 浅黄色土<検出面>                |
| 7 5Y4/1 灰色シルト                                  | 32 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土<SD712004埋土>      |
| 8 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土<検出面>                       | 33 2.5Y7/4 浅黄色細砂土                   |
| 9 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土                              | 34 2.5Y6/1 黄灰色細砂土                   |
| 10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土                          | 35 2.5Y6/2 灰黄色粗砂土                   |
| 11 7.5YR4/3 褐色シルト                              | 36 5Y6/1 灰色土                        |
| 12 2.5Y5/3 黄褐色粘質土                              | 37 5Y6/4 オリーブ黄色粘砂土                  |
| 13 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト                           | 38 5Y6/1 灰色粘砂土                      |
| 14 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土<SD712016埋土>               | 39 5Y6/2 灰オリーブ色土                    |
| 15 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト<SD712009埋土>               | 40 5Y3/1 オリーブ黒色土                    |
| 16 2.5Y3/1 黒褐色粘質土<SD712009埋土>                  | 41 5Y5/1 灰色粘砂土                      |
| 17 10YR5/1 オリーブ灰色粘質土<SD712009埋土>               | 42 5Y5/2 灰オリーブ色細砂<検出面>              |
| 18 2.5Y7/1 灰白色砂質土                              | 43 5Y4/1 灰色粘砂土                      |
| 19 2.5Y6/2 灰黄色土<SD712009埋土>                    | 44 5Y7/1 灰白粘質土<SK712012・SD712011埋土> |
| 20 2.5Y6/1 灰黄色粘質土<SE712005・SD712009埋土>         | 45 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土<SE712005埋土>    |
| 21 2.5Y6/1 黄灰色砂 (10R3/2 暗赤褐色砂含)                | 46 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土<SE712005埋土>      |
| 22 2.5Y7/4 浅黄色細砂土 (10R3/2 暗赤褐色砂含) <検出面>        | 47 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト<SE712005埋土>   |
| 23 2.5Y7/2 灰黄色砂質土<SD712006・712007埋土等>          | 48 2.5Y4/1 黄灰色粘質土<SE712005埋土>       |
| 24 2.5Y7/2 灰黄色粘砂土<SE712005埋土>                  | 49 5Y4/1 灰色粘質土<SE712005埋土>          |
| 25 2.5Y7/1 灰白色粘質土                              |                                     |

第89図 第7次調査12区土層断面図 (1:100)

する溝である。幅 80cm、深さ 30cmを測り、断面形は箱型にちかい。埋土は粘質土で、飛鳥から奈良時代の土師器の甕や須恵器の蓋が出土している。

**SK712012** (第 89 図) 調査区東部の北端で検出した。北半が調査区外であるが、一辺 90cm の方形を呈する土坑と推測される。しかし深さは 10cm 程度の浅いものである。埋土の状況や出土遺物は近隣の S D 712011 に酷似する。

**SD712013** 調査区西側で検出した溝である。幅は 40cm 程度であるが、均一を欠く。深さは検出面から 10cm 前後の浅いものである。東側は S D 712009 と重複するが、前後関係は不明である。このことと溝の形状から S D 712009 から溢れ出た流路の可能性がある。縄文土器、律令期の土師器・須恵器、鎌倉時代の土師器等、小片ではあるものの多様な遺物が出土している。S D 712009 と関連するものとした場合、既述した S D 712009 の最終埋没がさらに下ることになる。

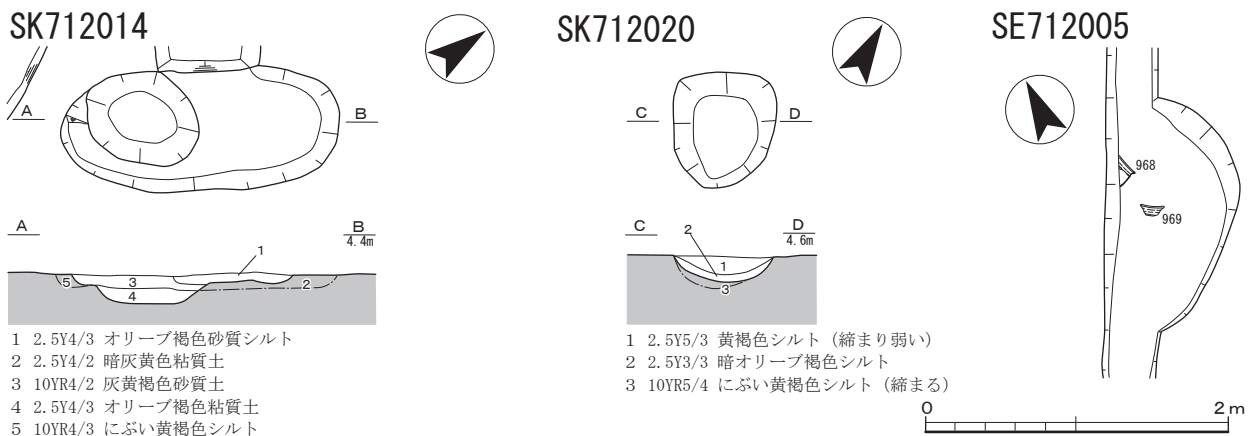
**SK712014** (第 90 図) 調査区西端ちかくで検出した土坑である。長径 1.9 m、短径 80cm の長円形の形状に掘削したが、断面観察の結果、長径は 1.4 m 程度であることが判明した。埋土は砂質土が主体であるが、円形状に落ち込む部分は粘質土である。このため、別遺構の重複とすべきかも知れない。縄文土器が出土しているなかで、平安時代前期の土師器杯小片がある。また、重複する S D 712019 より後出である。これらから、時期は平安時代前期となるが、縄文時代の遺構が重複する可能性も残る。

**SK712015** 調査区西部で検出した。短辺

80cm、残存長辺 2 m を測り溝状を呈する。深さは検出面から 10cm 未満の浅いもので、S D 712010 と同様に流路痕跡の可能性がある。出土遺物は奈良から平安時代の土師器や須恵器の小片が出土するに止まる。

**SD712016・712018** (第 89 図) 両者は約 2 m の間隔で並行し、調査区北部で発生し、調査区外北方に至る。幅は 40 ~ 80cm の均整を欠くもので、深さも検出面から 10cm 未満である。流水の痕跡のように見えるが、埋土は粘質土である。特に S D 712016 は浅く、自然の凹凸のようでもある。両者とも縄文土器の小片が出土するのみで、鎌倉時代の溝 S D 712013 に先行することを確認している。しかし以上をもって、縄文時代の遺構とするには躊躇する。縄文時代に遡る可能性を残すものの、人為的な溝の可能性は低いものとして良いであろう。

**SD712017・712019** 調査区西側で検出した溝である。両者は絡まり合う状態で緩やかな弧状を描き、S D 712013 を意識するかのように約 2.2 m 南側を並走する。東南端は S D 712009 に接するように並走し、調査区外へ至っている。この様な状況から前述した S D 712013 と同様に S D 712009 から溢れ出た流路と解釈できる。しかし、深さは検出面から 40cm を測る深いものとなったが、土層断面の観察の結果、本来は約 20cm で S D 712013 よりやや深い程度のものであったようである。しかし、この土層断面では S D 712019 の北側壁が確認できず、調査区北端まで同様なシルト層が続いている。S D 712019 が調査区西端間際で途切れていることを誤認した可能性があり、平面形、深さともに不正確なものとな



第90図 SK712014・712020実測図、SE712005遺物出土状況図 (1:50)



ることを断っておく。この様な結果に至る背景として、S D 712013 を含め調査区北半一帯が大きな流路帯であった可能性があるものと思われる。両溝とも縄文土器の小片が出土しているが、そこまで遡ることは困難である。1片ではあるがS D 712019 から中世に下る土師器皿片が出土しており、両溝の時期はS D 712009・712013 と同様な時期とすべきである。

**S K 7 1 2 0 2 0** (第90図) 調査区中央部で検出した柱穴状の土坑である。直径60cmの不整円形を呈し、深さは検出面から20cm程度の浅いものである。壁は非常に緩やかで、埋土の締まりも弱い。室町時代後半の土師器皿・鍋の小片が出土したのみで、遺物の出土状況に特筆すべきものはない。

## (2) 遺物

**S D 7 1 2 0 0 1 出土遺物** (第90図) 奈良時代から室町時代までの多様な遺物が出土している。947～949は土師器の粗製椀とした。947は深い半球状の形態を呈し、古相を示す。948・949は器高が低くなり杯状の形態となる。949は口縁端部内面に弱い沈線を巡らせる。950は杯、951は甑で、950は外反する口縁部をもち、器壁は薄くなっている。

952は黒色土器A類の椀、953はロクロ土師器、954・955は灰釉陶器の椀、956は壺である。しかし、954・955の灰釉は確認できない。957は比較的整った高台をもつ山茶椀で、内面には炭化物が付着する。958は陶器の皿である。山茶椀とは異なる質感で、いわゆる山皿ではない。959は陶器の甕で、外面にタタキ板の痕跡を残す。960は縄文土器の小片で、明らかな混入遺物である。磨り消し縄文で装飾する。961は陶質の平瓦片であるが、酸化焼成、962は土錘である。

**S D 7 1 2 0 0 9 出土遺物** (第90図) 963は土師器の甕、964は皿である。964の底部外面は未調整、内面には焼成後に鋭利な工具による線刻が施される。線刻は格子を描くようにも見えるが、方向が異なる直線も交えている。965は灰釉陶器の皿で、三日月状の高台をもつが、灰釉は漬掛けである。底部には「本」と墨書される。966は灰釉陶器と迷うが、山茶椀とした。山茶椀としては均質のものである。967は欠損があるものの鉄斧と思われる。

**S E 7 1 2 0 0 5 出土遺物** (第90図) 井戸であるが出土遺物は少ない。図示できたものは土師器鍋

(968)と山茶椀(969)である。両者とも埋土最上層からの出土である。969は口縁端の外反を残すものの体部は直線的になっている。Ⅲ段階5型式から6型式に並行するもので13世紀初頭頃の鎌倉時代のものとなり、土師器鍋と時期的な矛盾はない。

**S D 7 1 2 0 1 3 出土遺物** (第90図) 970は土師器の皿、971・972は縄文土器で明らかな混入遺物である。他に土師器の椀、須恵器の甕等が出土している。972の底部外面には網代の痕跡がある。

なお、970は資料整理時の混乱により、S D 712019 出土の可能性が残る。

**S K 7 1 2 0 1 4 出土遺物** (第90図) 図示した両者とも縄文土器である。遺構の時期によっては混入遺物となるが、この時代の可能性を残すためここで扱う。973は体部の小片であるが、低い隆帯の上半に矢羽根状の刻目を刻む。

**S D 7 1 2 0 1 7 出土遺物** (第90図) 図示できたものは975のみである。遺構の時期によっては混入遺物となる。口縁部の小片であるが、口縁直下に沈線を巡らし、その下を縄文で装飾している。

**S D 7 1 2 0 1 8 出土遺物** (第90図) 図示できたものは縄文土器の底部(976)のみである。遺構の時期によっては混入遺物となるが、この時代の可能性を残すためここで扱う。体部に沈線が認められるが、区画文の最下端かも知れない。

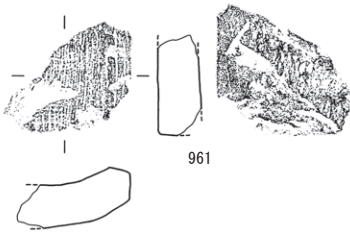
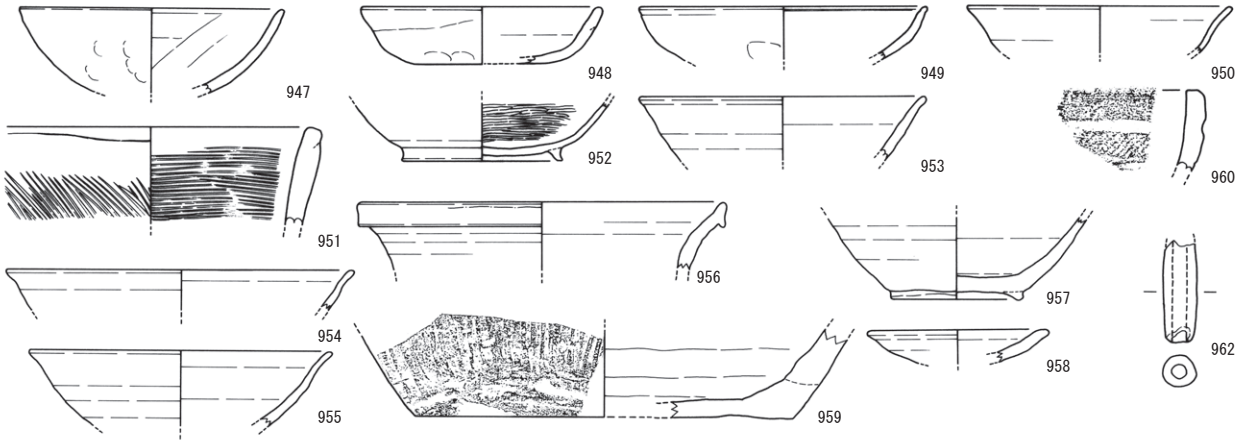
**S D 7 1 2 0 1 9 出土遺物** (第90図) 図示できたものは縄文土器の体部片(977)のみである。遺構の時期によっては混入遺物となるが、この時代の可能性を残すためここで扱う。磨り消し縄文で装飾する。

なお、既述したようにS D 712013 出土の970は、当遺構出土の可能性のある遺物である。

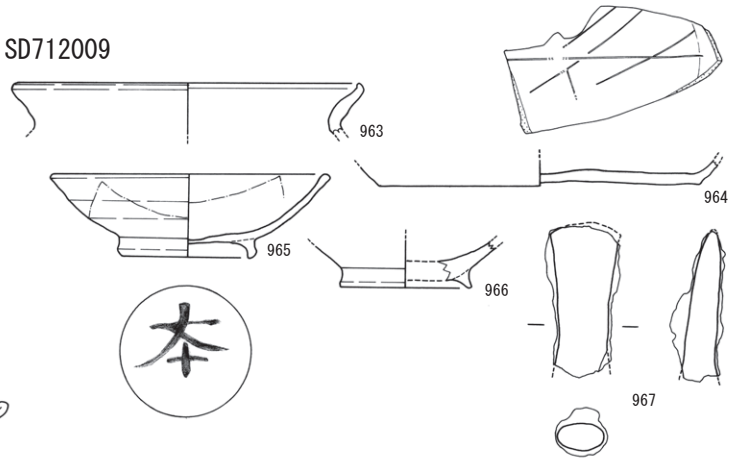
**包含層等出土遺物** (第91・92図) 978～1027は縄文土器の小片で、その大半が調査区西端ちかくから出土している。小片のため器形や文様構成の全体像は不明であるが、沈線による区画文を描くものが多い。978・979・981は渦文を加え、989等の弧状を呈する沈線も渦文の一部の可能性もある。なお、978・979・983は同一個体の可能性がある。

980・982は棒状工具による円形刺突を施し、981は口縁端部を肥厚させて円孔を空ける。987は竹管

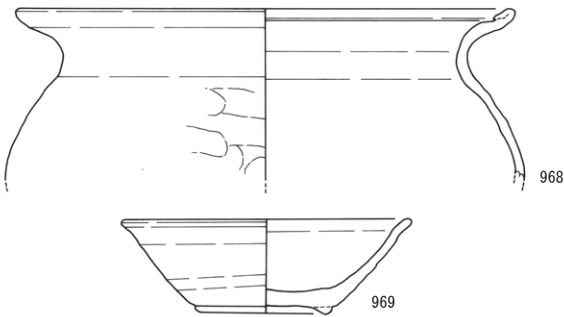
SD712001



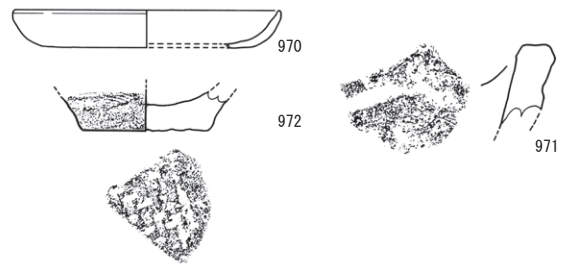
SD712009



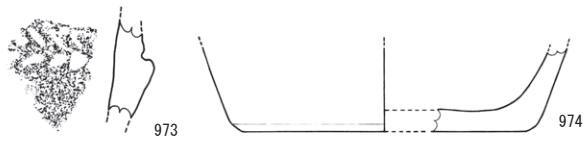
SE712005



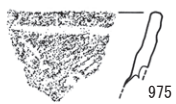
SD712013



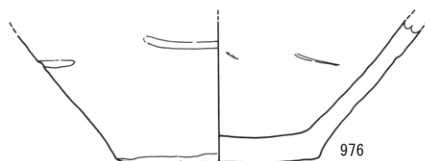
SK712014



SD712017



SD712018



SD712019



第91図 SD712001・SD712009等出土遺物 (960・971～977 = 1 : 3、他は1 : 4)



第92図 第7次調査12区包含層等出土遺物① (1 : 3)





第93図 第7次調査12区包含層等出土遺物② (1036 = 1 : 2、1028 ~ 1035 = 1 : 4、他は 1 : 3)



による刺突文を口唇部に列点として並べる。985は指による強い押圧により刺突文的な状況を作り出し、区画沈線間には縄文が僅かに確認できる。

986は隆帯に矢羽根状刻目を施すが、残存部に限れば区画沈線は確認できない。1005も残存部には区画沈線が無く、口唇部まで縄文を施している。993・995は区画内に条線を充填するもので、999も条線が沈線により区切られている。これらは、後述の磨り消し縄文と共通する手法を用いている可能性が高い。

1008～1022は区画沈線内に縄文を充填し、1021を除き磨り消し縄文の手法をとるものである。1012・1019・1022は区画沈線が太く明瞭なもので、同一個体の可能性が高い。他にも同様な状況を呈するものが多いが、1008・1009は逆に不明瞭である。この両者も同一個体の可能性がある。

1023～1027は底部片であるが、1023の底部外面には網代痕が残る。

1028は土師器の皿、1029は高杯、1030はロクロ土師器の椀、1031は灰釉陶器の椀、1032は須恵器の甕である。高杯は短脚で、外面にヘラケズリを施すが、明瞭な面取りには至っていない。1033は施釉陶器壺の小片であるが、肩部に沈線による文様が刻まれている。1034は加工円盤、1035は打ち欠きの石錘、1036は石鏃である。1034は陶器の播鉢を加工している。

(萩原・森川)

### 13. 13区

今回の調査では希少な方形の調査区である。検出面は巨視的に見て南から北に流れる大規模な流路埋土と思われ、多数の同方向の溝を検出している。しかし、層序に混乱を生じ、溝や土坑として十分検出できなかったものも多い。したがって、これらの時期決定には不確定な要素を含む。こうした中で、平安時代の南面庇付掘立柱建物や柱列が注目される。

#### (1) 遺構

**SD713001** 調査区西端から6mほど東側までの南北に延びる溝として検出した。しかし、他の溝との重複もあり北半ではその平面形を十分確認できていない。深さも北部では検出面から20cm程度としたが、南部では50cm以上に及び、層序的に矛盾も生じている。平面形に加え深さも検出しきれ

なかった状況から、溝とするより包含層として捉えるべきものであるかも知れない。それを反映したのか、出土遺物も縄文土器から室町時代の土師器皿まで多様なものが出土している。

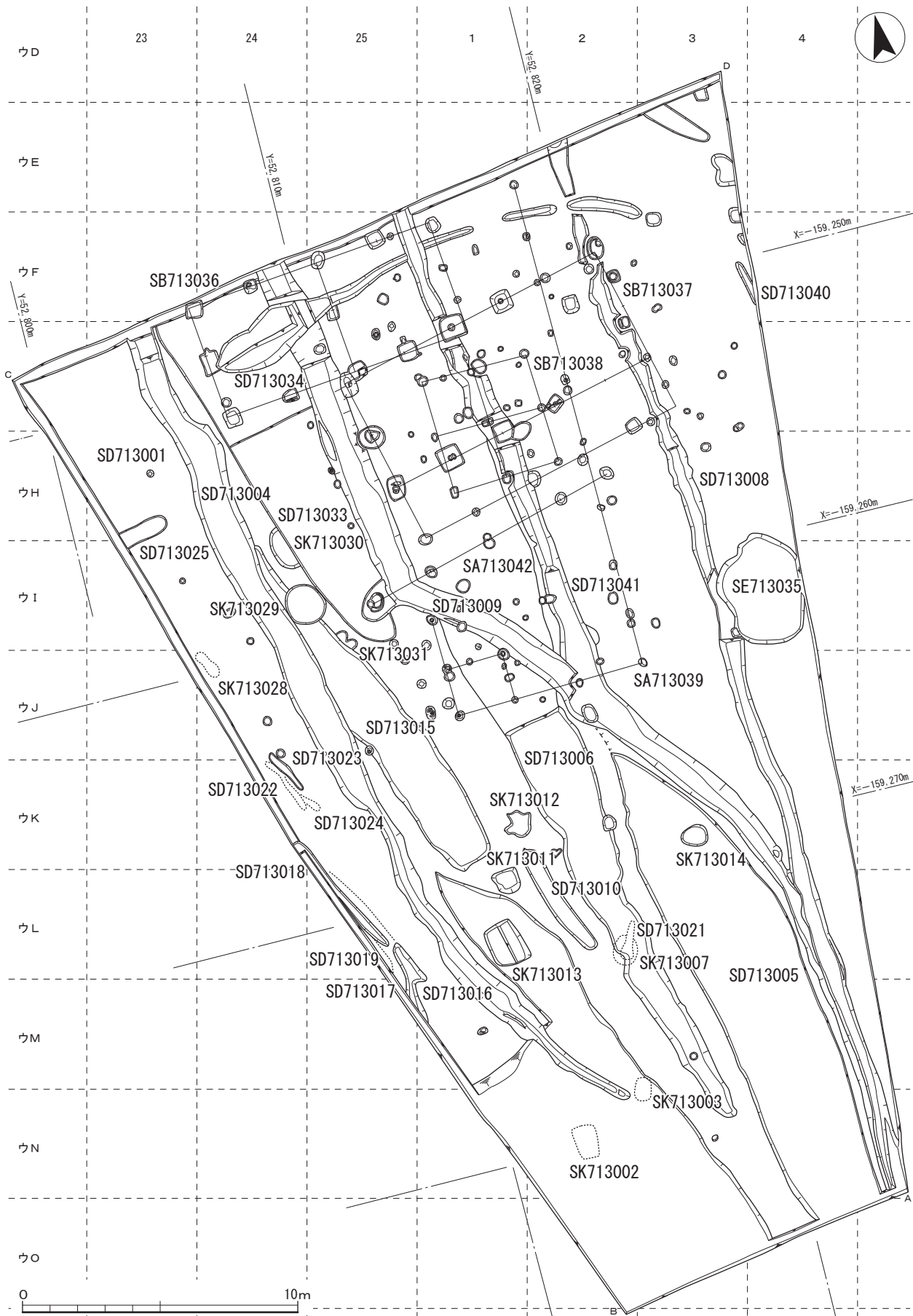
#### **SK713002・713003・713028**

**SD713001**の埋土上で方形または不整形の土坑として検出したが、掘削の結果、平面形や深さを確定することができなかった。したがって、**SD713001**の埋土の一部とすべきものと思われる。**SK713002**から平安時代後期の土師器杯や甕が出土している。土坑として確定できていれば、この時期の遺構とすることができるが、**SD713001**を含め層序等に混乱があり、その可能性を示すに止める。

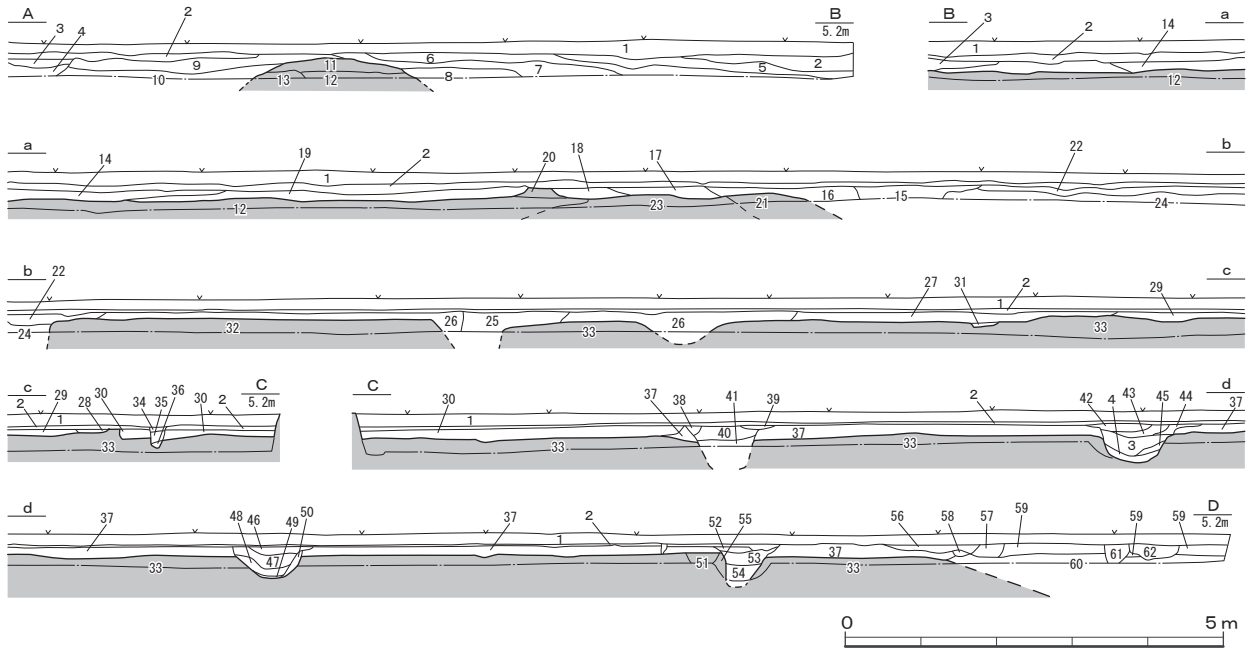
**SD713004** (第99図) 調査区西部を南北に延びる溝である。幅80cm前後であるが、不均一である。深さは50cmを測り、断面V字形にちかいつかりしたものである。しかし、全体的にみて若干蛇行気味であり、南端は徐々に幅を減じ調査区内で消滅する。以上の状況から流水の作用によるものと思われ、人為的な溝では無いようである。平安時代の土師器杯やロクロ土師器、中世の土師器皿、山茶椀、青磁椀等、各時期の多様な遺物が出土している。平安時代後半から流水が始まり、鎌倉時代末頃に最終的に埋没したものと思われる。

**SD713005** 調査区南部では、東側調査区外から7mを**SD713005**とし、南北に流れる溝としたが、**SD713001**と同様に北部では平面形や深さを十分把握しきれていない。**SD713008**や**SD713041**等は埋土上面で検出したことになり、これら全てに先行するものである。出土遺物は、奈良時代の土師器長胴甕や須恵器を若干含むものの大半は多数の縄文土器の小片や剝片である。奈良時代の遺構を見落とした可能性を含め、**SD713005**は縄文土器の包含層的なものである。

**SD713006** (第99図) 調査区中央部南端ちかくから、北進するに連れて幅を広げ、調査区北半では、幅4m以上に拡張した後、他の溝との重複もあり、その平面形を確定できていない。深さは30cm程度で幅に比べ浅く、埋土は極粒砂が多い。多数の縄文土器に加え、灰釉陶器、緑釉陶器等が出土している。この様な状況から、流水の作用によるも



第94図 第7次調査13区平面図 (1 : 200)



- 1 10YR4/1 褐灰色シルト<耕作土>
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト  
(10YR3/3 暗褐色粘土塊含) <SD713001埋土等>
- 3 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト<SD713009埋土等>
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土  
(10YR3/3 暗褐色粘土塊含) <SD713009埋土>
- 5 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト<SD713001埋土>
- 6 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト<SD713001埋土>
- 7 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト<SD713001埋土>
- 8 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト<SD713001埋土>
- 9 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト  
(7.5YR3/1 黒褐色粘土塊含) <SD713005埋土>
- 10 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト  
(7.5YR5/1 褐灰色細粒砂含) <SD713005埋土>
- 11 10YR4/1 黄灰色粘土質シルト (7.5YR4/2 灰褐色粘土塊含)
- 12 10YR3/1 黒褐色シルト
- 13 10YR4/3 オリーブ褐色シルト質粘土
- 14 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘土粒・小石含) <SD713001埋土>
- 15 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト  
(10YR5/1 褐灰色シルト塊含・雲母微量含) <SD713019埋土>
- 16 10YR8/3 浅黄橙色シルト (10YR3/2 黒褐色粘土粒含) <SD713019埋土>
- 17 10YR8/4 浅黄橙色シルト (10YR6/1 褐灰色粘質シルト塊  
・10YR3/3 暗褐色粘土粒少量含) <SD713017埋土>
- 18 10YR7/6 浅黄褐色シルト (10YR8/2 灰白色シルト含、  
10YR3/3 暗褐色粘土粒少量含) <SD713016埋土>
- 19 10YR8/4 浅黄橙色シルト  
(10YR3/3 暗褐色粘土粒少量含、縮まる) <SD713001埋土>
- 20 10YR8/3 浅黄橙色シルト  
(10YR8/8 黄橙色シルト・10YR3/3 暗褐色粘土粒微量含)
- 21 10YR8/2 灰白色シルト  
(10YR8/6 黄褐色シルト・10YR6/1 褐灰色粘質シルト塊含)
- 22 10YR8/3 浅黄橙色シルト (10YR5/1 褐灰色粘質シルト塊  
・10YR3/3 暗褐色粘土粒微量含) <SD713018埋土>
- 23 10YR7/6 明黄褐色シルト (10YR8/2 灰白色シルト塊含)
- 24 10YR8/3 浅黄橙色シルト (10YR7/3 にぶい黄橙色シルト  
・10YR3/3 暗褐色粘土粒微量含) <SD713018埋土>
- 25 10YR7/1 灰白色シルト (10YR8/3 浅黄橙色シルト含、縮まる)
- 26 10YR7/8 黄褐色極粒砂 (縮まる)
- 27 10YR8/3 浅黄褐色粘質シルト (縮まる)
- 28 10YR8/4 浅黄褐色シルト (縮まる)
- 29 10YR8/1 灰白色粘質シルト (10YR7/2 にぶい黄橙色土含、縮まる)
- 30 10YR8/2 灰白色粘質シルト  
(10YR4/1 褐灰色粘土塊含、縮まる) <SD713001埋土>
- 31 10YR8/3 浅黄褐色シルト (7.5YR4/1 褐灰色シルト含) <SD713025埋土>
- 32 7.5YR8/2 灰白色シルト (10YR5/1 褐灰色粘土塊含)
- 33 10YR6/1 褐灰色シルト (10YR8/2 灰白色極粒砂含、縮まり弱い)
- 34 7.5YR7/6 橙色シルト塊 (7.5YR7/1 明褐色シルト塊含、縮まる)
- 35 7.5YR7/1 明褐色シルト塊 (10YR8/4 浅黄褐色極粒砂塊含、縮まる)
- 36 10YR6/1 褐灰色粘質シルト (縮まる)
- 37 10YR5/6 黄褐色シルト (10YR7/2 にぶい黄褐色極粒砂  
・10YR5/2 灰黄褐色粘土塊含) <SD713006・713033埋土等>
- 38 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト (10YR4/1 褐灰色シルト  
・10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト塊含、縮まる) <SD713004埋土>
- 39 7.5YR7/2 明褐色シルト (10YR6/3 にぶい黄褐色シルト  
・10YR5/3 にぶい黄褐色粘土塊微量含、縮まる)
- 40 10YR6/1 褐灰色シルト (10YR4/4 褐色シルト塊含) <SD713004埋土>
- 41 7.5YR5/1 褐灰色粘質シルト<SD713004埋土>
- 42 10YR8/2 灰白色シルト (10YR8/3 浅黄褐色シルト  
・小石微量含、縮まる) <SD713009埋土>
- 43 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト (10YR7/1 灰白色シルト  
・小石微量含、縮まる) <SD713009埋土>
- 44 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト (10YR8/2 灰白色極粒砂  
・10YR5/8 黄褐色粘土塊含、縮まる) <SD713009埋土>
- 45 7.5YR6/1 褐灰色シルト土 (10YR7/4 にぶい黄褐色極粒砂  
・10YR8/3 浅黄褐色土含、縮まり弱い) <SD713009埋土>
- 46 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト (10YR8/4 浅黄褐色シルト  
・10YR4/4 褐色粘土塊含、縮まる) <SD713041埋土>
- 47 10YR6/2 灰黄褐色シルト (10YR7/3 にぶい黄褐色シルト  
・10YR5/1 褐灰色シルト土含、縮まり弱い) <SD713041埋土>
- 48 10YR4/2 灰黄褐色シルト<SD713041埋土>
- 49 10YR7/1 灰白色シルト<SD713041埋土>
- 50 10YR6/1 褐灰色シルト  
(10YR7/4 にぶい黄褐色シルト含、縮まり弱い) <SD713041埋土>
- 51 2.5Y7/6 明黄褐色シルト (7.5YR7/1 明褐色シルト  
・10YR5/3 にぶい黄褐色粘土塊含、縮まる)
- 52 10YR6/1 褐灰色シルト (10YR6/3 にぶい黄褐色シルト  
・小石微量含、縮まり弱い) <SD713008埋土>
- 53 10YR4/2 灰黄褐色シルトと10YR6/1 褐灰色極粒砂の混成<SD713008埋土>
- 54 2.5Y4/2 暗黄褐色極粒砂  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘土塊含) <SD713008埋土>
- 55 2.5Y8/6 黄色粘質シルト (2.5Y7/1 灰白色シルト土  
・2.5Y5/3 黄褐色シルト含、縮まり弱い)
- 56 10YR7/1 灰白色中粒砂 (10YR7/2 にぶい黄褐色シルト含、  
10YR5/4 にぶい黄褐色粘土塊微量含) <攪乱>
- 57 10YR7/2 にぶい黄褐色極粒砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト  
・10YR6/2 灰黄褐色シルト含、縮まり弱い)
- 58 2.5Y4/1 黄灰色中粒砂 (小石含、縮まり弱い) <攪乱>
- 59 10YR7/1 灰白色シルト (10YR8/4 浅黄褐色シルト含、  
10YR4/2 灰黄褐色粘土塊多含、縮まる)
- 60 10YR7/1 灰白色シルト (10YR8/4 浅黄褐色シルト土筋状に含、  
10YR4/2 灰黄褐色粘土塊若干含、縮まる)
- 61 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3 にぶい黄褐色粘土塊含、縮まる)
- 62 10YR7/1 灰白色シルト (10YR8/6 黄褐色シルト  
・10YR5/2 灰黄褐色粘土塊含、縮まる)

第95図 第7次調査13区土層断面図 (1:100)

ので、包含層的なものとして扱うべきものと考えられる。

SK713007・SD713021 両者ともSD713006の埋土上で検出され、しかも両者は重複する。ただし、平面形や深さを確定するには及ばず、SD713006の埋土の一部とすべきものかも知れない。SD713021から縄文土器の小片が若干出土したに止まる。

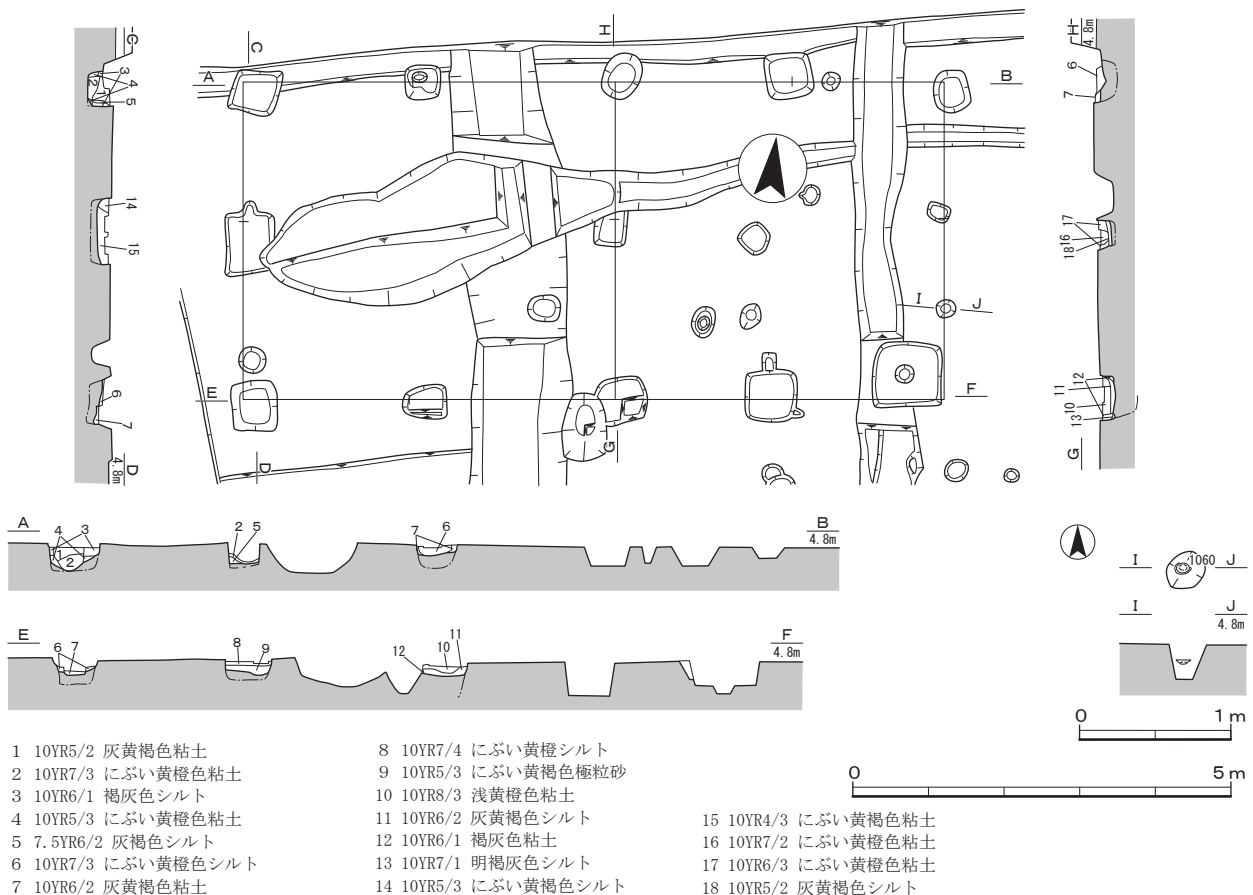
SD713008 (第99図) 調査区東部を南北に延びる溝である。幅60cm、深さは検出面から30cm程度、断面はU字形を呈する。南側調査区外からはほぼ直線的に延び、北側も調査区へ続き、その方向はほぼ方位に沿う。埋土は粘質土で、多数の縄文土器片に加え、山茶碗や土師器皿等が出土し、平安時代末期から鎌倉時代の時期が与えられる。隣接のSB713038やSA713039と時期や方向が合致し、これらに関連する施設の可能性がある。

SD713009 (第99図) 調査区外南側から北進し、北西方向へ進路を変えた後、再び北進して調

査区外へ至る。幅は1.2mを測るが、深さは検出面から30cm程度で幅に比べ浅く、壁も緩やかである。埋土はシルトと極粒砂で構成されるが、底部ちかくに砂が多い。これらから流水路とすべきものである。多数の縄文土器に加え山茶碗等が出土し、南側で重複するSD713008と时期的には近接する。検出面での観察ではSD703008より後出の結果が得られているが、SD713008と関連する可能性のあるSB713038を避けるように延びることから、流水路としたものの、これらと関連する排水設備の可能性も残る。

SD713010 調査区南部で検出した幅60cm、延長4m程の小規模な溝である。深さも検出面から10cm未満と浅く、耕作溝状であるが、近隣に連動する溝はない。室町時代の土師器皿や鍋が出土している。

SK713011 調査区南西部で検出した一辺約90cmの方形を呈する土坑である。深さは検出面から30cmを測り、埋土はシルトである。山茶碗の小片等が出土するに止まるが、平安時代末期の時期を与えることができる。



第96図 SB713036実測図 (1:100)、柱穴遺物出土状況図 (1:50)



**SK713012** 調査区南西部で検出した不整形な土坑である。深さも検出面から10cm程度で、遺構とするに疑問のものである。縄文土器の小片とサヌカイトの剥片が出土している。

**SK713013** (第100図) 調査区南西部で検出した長辺1.6m、短辺1.2mの長方形を呈する土坑である。深さは検出面から50～60cmで不均一である。埋土は3層に分かれるが、いずれもシルト系で、中層には極粒砂と炭化物が含まれる。縄文土器とロクロ土師器の小片が出土したのみであるが、これにより土坑の時期を平安時代後期とする。

**SK713014** 調査区南東部で検出した一辺80cm前後の不整形円形を呈する土坑である。深さは検出面から10cm程度しか無く、遺物の出土もないため遺構とするに疑問のものである。

**SD713015** 調査区西部を南北に延びる溝としたが、幅2mに対し深さは20cm程度しかなく、溝とするに疑問のものである。検出時点ではSD713004に先行する判断をしたが、出土遺物は室町時代の土師器皿を含み、矛盾を生じている。SD713001とも重複する位置にあり、これと同様に遺構とするよりは包含層的なものとして取り扱うべきものであろう。

**SD713016～713019** 調査区西端で4条の重複する小規模な溝として検出したが、掘削の結果、断続する不定形の溝となった。不定形な形状から複数の重複が想定されるが、層序的にも混乱を生じ、4条の識別は困難である。深さも10cm程度しかなく、SD713001の埋土上での検出のこともあり、埋土の一部の可能性もある。SD713016から山茶椀が出土しており、これらの時期を一応、平安時代末～鎌倉時代としておく。

**SD713022～713024** 調査区西端で3条の重複する小規模な溝として検出したが、掘削の結果、SD713023のみが1条の溝として認識された。形状や状況は前述したSD713016～713019と類似し、同様にSD713001の埋土の一部とすべきものと思われる。SD713023から土師器の小片が出土するに止まっている。

**SD713025** 調査区外西側から東へ2mほど延びる溝としたが、幅60cmに対し深さが10cmに及ばず、溝とするに疑問のものである。SD713001

の埋土上での検出のため、この埋土の一部とすべきかも知れない。出土遺物はなく、SD713001の時期も不安定なため時期決定の決め手がない。

**SK713029** 調査区北部で検出した直径1.5mの円形を呈する土坑である。深さは検出面から10cm程度の浅いもので土坑とするに疑問も残る。検出時点では重複するSD713015より後出のもの判断した。しかし、鎌倉時代に下る山茶椀が出土し、室町時代のSD713015との前後関係に矛盾が生じている。

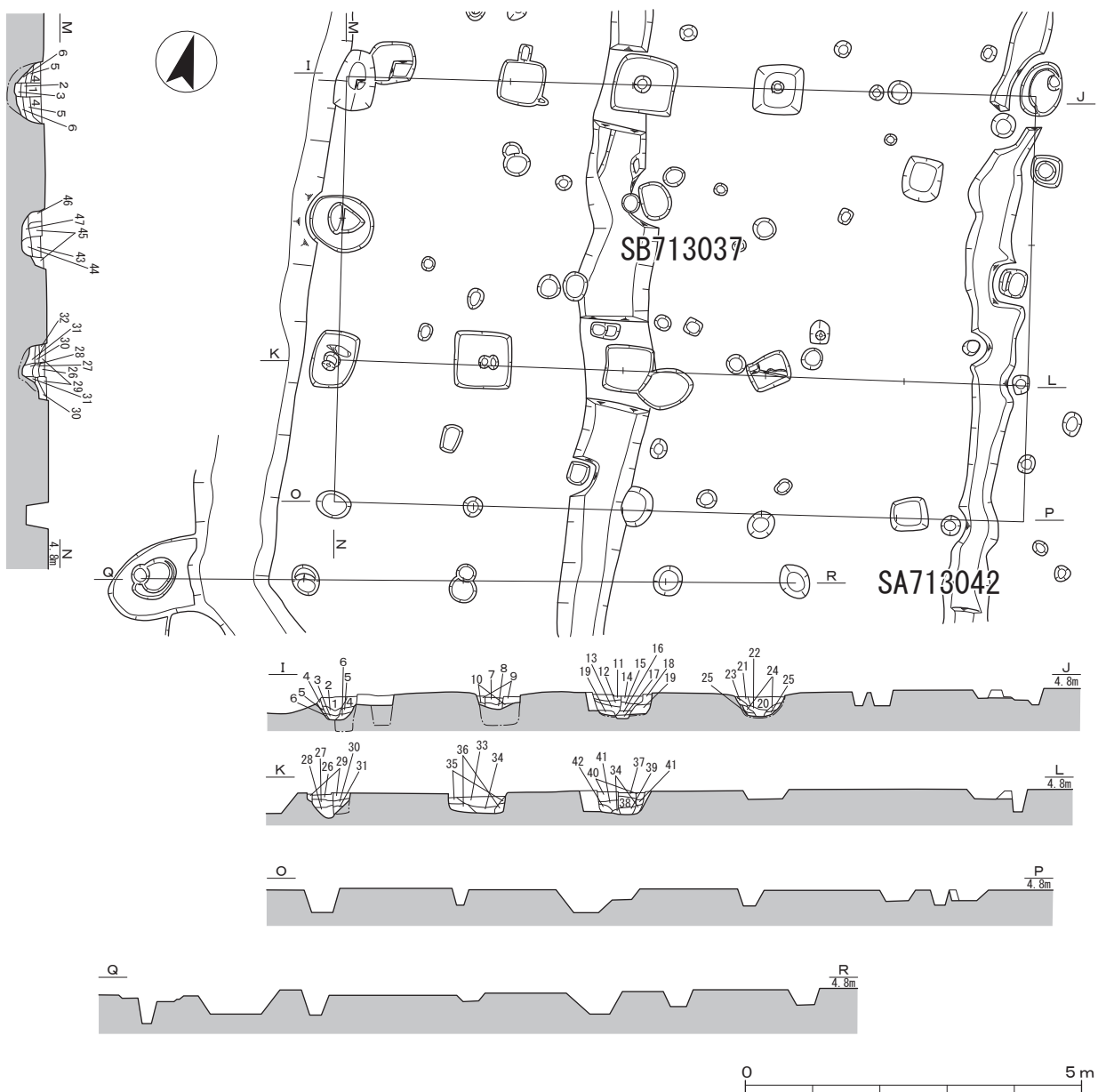
**SK713030** 調査区北部で検出した土坑である。直径1.6mの円形を呈するものと思われるが、東半はSD713033によって消滅している。深さは検出面から30cm程度であるが、遺物の出土はない。後出のSD713033の時期も確定せず、土坑の時期については手掛かりが無い。

**SK713031** 調査区中央部やや西側で直径1mの円形土坑を検出した。しかし掘削した結果、深さは10cm未満で平面形も不整形なものとなり遺構とするに疑問のものである。出土遺物は無く、重複する室町時代のSD713015より後出であることが検出時点で確認している。

**SD713033** 調査区北部で溝として検出した。北へ進むに連れて幅を広げ、4m程にまで拡張する。この形状はSD713006と類似し、同様に流水の作用によるもので遺構とするよりは包含層的なものとすべきであろう。SD713009に先行するため平安時代後期以前となるが、縄文土器の小片が若干出土するに止まるものの、出土遺物との矛盾はない。

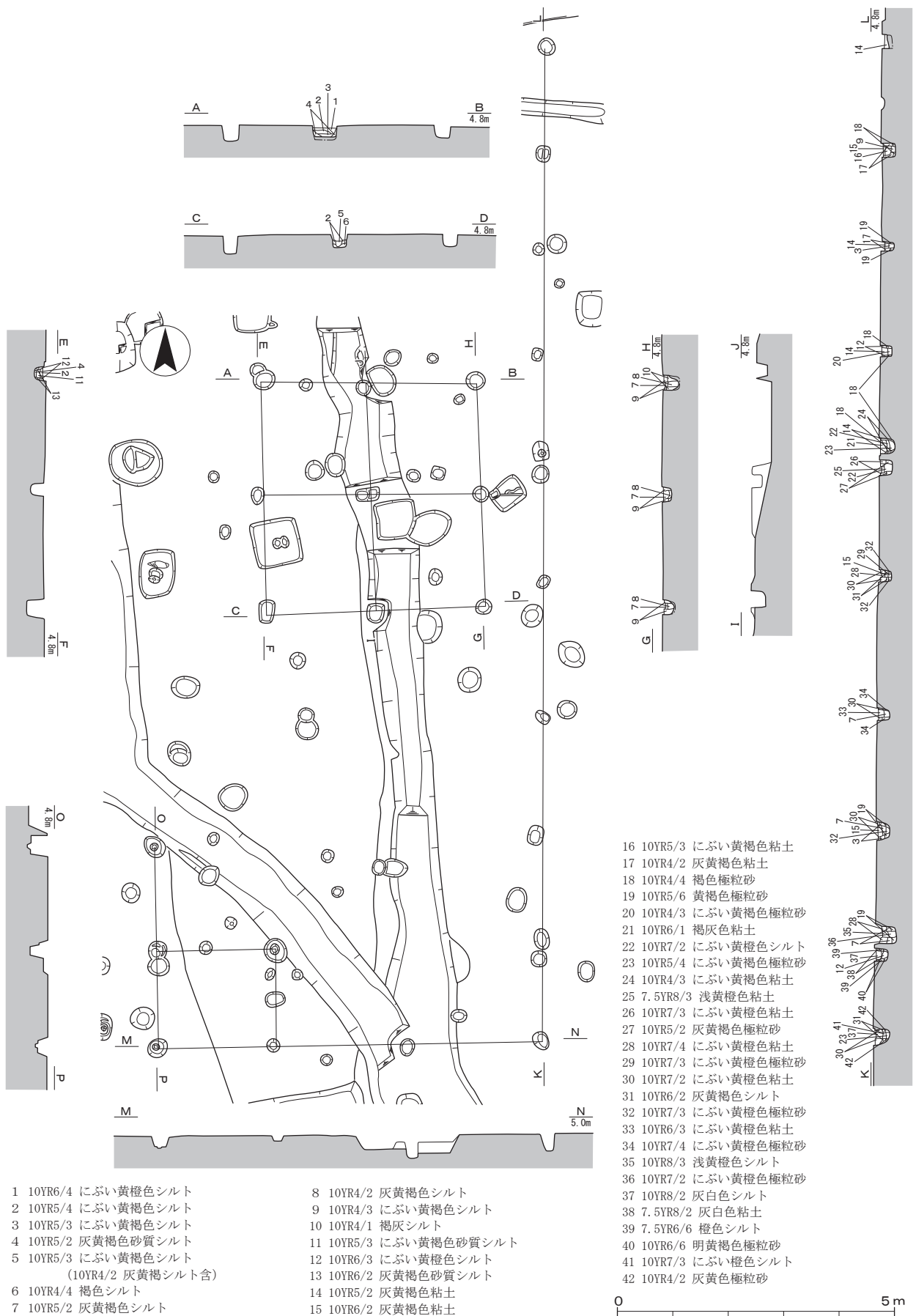
**SD713034** (第101図) 調査区北部を断続的に東西に延びる溝である。幅は西側が1.8m、東側は30cm程度で、深さは西側が60cm、東側では20cmから10cm未満、断続的となり南方へ弯曲する傾向を見せ消滅する。深い西側も調査区内で途切れており、太く深い西半は別の土坑が重複している可能性がある。但し、埋土に極端な異差は確認できず、底部もさらに深くなる可能性も残す。いづれにしても、人為的に掘削された溝とは思えず、埋土がシルト系であるものの流水の作用によるものと推定しておきたい。

西端でSB713036の柱穴と重複する。検出時点ではそれより先行するものとしたが、埋土観察の結

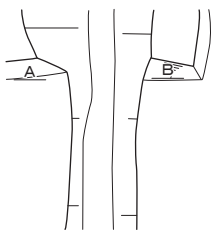


- |  |   |
|--|---|
| 1 10YR8/4 浅黄色シルト (10YR6/1 褐灰色粘土含、縮まる)              | 24 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/2 灰黄褐色粘土含、縮まる)    |
| 2 10YR8/2 灰白色中粒砂 (10YR7/3 にぶい黄褐色極粒砂・粘土塊含、縮まる)      | 25 10YR5/1 褐灰色粘土 (10YR7/2 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)     |
| 3 10YR7/2 にぶい黄褐色極粒砂 (10YR8/2 灰白色極粒砂含、縮まる)          | 26 10YR8/3 浅黄褐色シルト (10YR6/1 褐灰色粘土含、縮まる)       |
| 4 10YR8/4 浅黄褐色シルト (10YR7/1 灰白色粘土含、縮まる)             | 27 10YR8/4 浅黄褐色シルト (10YR5/2 灰黄褐色シルト含、縮まる)     |
| 5 10YR8/3 浅黄褐色中粒砂 (10YR7/2 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)         | 28 10YR6/1 褐灰色極粒砂 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)    |
| 6 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (10YR8/4 浅黄褐色極粒砂含、縮まり弱い)       | 29 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/1 褐灰色粘土塊含、縮まる)    |
| 7 10YR8/2 灰白色シルトと10YR8/4 浅黄褐色シルトの混成 (縮まる)          | 30 10YR8/4 浅黄褐色シルト (10YR5/1 褐灰色粘土塊含、縮まる)      |
| 8 10YR7/3 にぶい黄褐色シルトと10YR6/2 灰黄褐色極粒砂の混成 (縮まる)       | 31 10YR7/1 灰白色粘土 (10YR8/6 黄褐色シルト微量含、縮まり弱い)    |
| 9 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/2 灰黄褐色シルト含、縮まる)         | 32 10YR5/1 褐灰色粘土                              |
| 10 10YR7/3 にぶい黄褐色極粒砂 (縮まり弱い)                       | 33 10YR8/4 浅黄褐色シルト (10YR7/2 にぶい黄褐色粘土塊含、縮まる)   |
| 11 10YR8/4 浅黄褐色シルト (10YR7/6 明黄褐色極粒砂含、縮まる)          | 34 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト (10YR6/2 灰黄褐色粘土含、縮まる)    |
| 12 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/1 褐灰色粘土含、縮まる)          | 35 10YR6/1 褐灰色粘土 (10YR7/4 にぶい黄褐色粘土含、縮まる)      |
| 13 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土 (中粒砂含、縮まる)                     | 36 10YR6/2 灰黄褐色粘土 (10YR5/1 褐灰色粘土含、縮まる)        |
| 14 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (10YR6/1 褐灰色粘土含、縮まる)          | 37 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土 (縮まる)                     |
| 15 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色粘土含、縮まる)       | 38 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土 (10YR8/3 浅黄褐色シルト含、縮まる)    |
| 16 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土 (10YR8/4 浅黄褐色シルト含、縮まり弱い)       | 39 10YR6/2 灰黄褐色粘土 (縮まる)                       |
| 17 10YR6/2 灰黄褐色粘土 (10YR8/6 黄褐色極粒砂含、縮まり弱い)          | 40 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (10YR8/4 浅黄褐色粘土塊含、縮まる)   |
| 18 10YR6/1 褐灰色粘土 (10YR7/3 にぶい黄褐色粘土含、縮まる)           | 41 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土 (10YR6/6 明黄褐色シルト含、縮まる)    |
| 19 10YR6/2 灰黄褐色粘土 (10YR6/4 にぶい黄褐色粘土含、縮まる)          | 42 10YR5/2 灰黄褐色粘土 (10YR6/3 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)    |
| 20 10YR8/3 浅黄褐色シルト (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)        | 43 10YR6/1 褐灰色粘土 (10YR8/3 浅黄褐色シルト含、縮まる)       |
| 21 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト<br>(10YR7/4 にぶい黄褐色極粒砂含、縮まり弱い) | 44 10YR5/2 灰黄褐色粘土 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)    |
| 22 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (10YR6/4 にぶい黄褐色極粒砂含、縮まる)      | 45 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4 にぶい黄褐色粘土粒含、縮まる) |
| 23 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト (10YR7/1 灰白色粘土含、縮まる)          | 46 10YR5/2 灰黄褐色シルト (10YR6/2 灰黄褐色粘土含、縮まる)      |
|  | 47 10YR6/2 灰黄褐色粘土 (10YR7/4 にぶい黄褐色シルト含、縮まる)    |

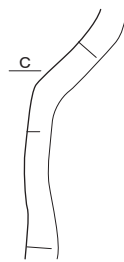
第97図 SB713037・SA713042実測図 (1:100)



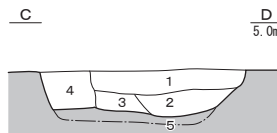
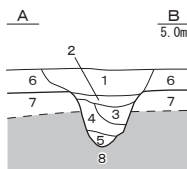
第98図 SB713038・SA713039実測図 (1:100)



SD713004

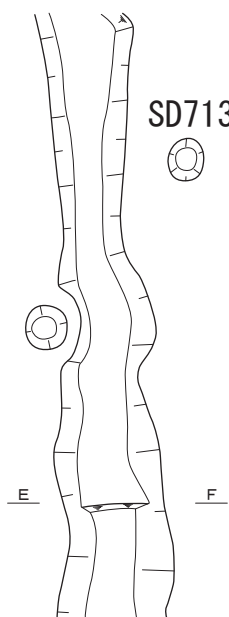


SD713006

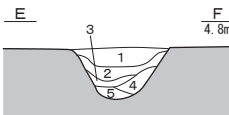


- 1 10YR6/1 褐灰色シルト (10YR4/4 褐色シルト塊含)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 3 10YR4/1 褐灰色粘質シルト
- 4 7.5YR5/1 褐灰色粘質シルト
- 5 7.5YR5/2 灰褐色粘土
- 6 10YR8/2 灰白色粘質シルト  
(10YR4/1 褐灰色粘土塊含、締まる) <SD713001埋土>
- 7 10YR6/1 褐灰色シルト (10YR8/2灰白色極粒砂含、締まり弱い)
- 8 10YR8/6 黄褐色粘質シルト (7.5YR6/1 褐灰色粘土塊含)

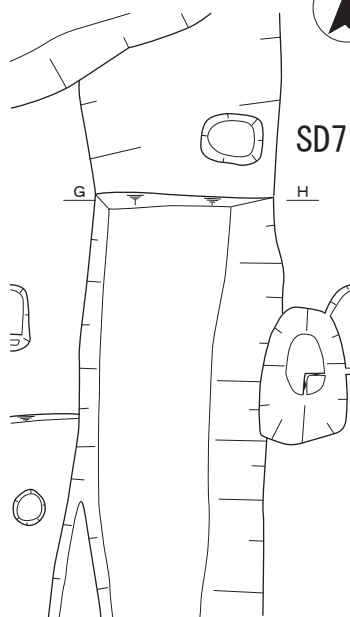
- 1 10YR7/1 灰白粘質シルト (10YR7/3 にぶい黄褐色塊含)
- 2 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト (10YR8/4 浅黄褐色極粒砂含)
- 3 10YR8/4 浅黄褐色極粒砂 (10YR6/8 明黄褐色極粒砂含)
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト
- 5 10YR8/6 黄褐色細粒砂 (7.5YR6/1 褐灰色粘土塊含)



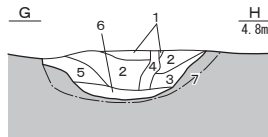
SD713008



- 1 10YR3/1 黒褐色粘質土 (マンガン粒含)
- 2 10YR3/1 黒褐色粘質土  
(粘性強い、マンガン粒若干含)
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土  
(粘性強い、マンガン粒若干含)
- 4 2.5Y3/2 黒褐色粘質土  
(粘性強い、マンガン粒若干含)
- 5 2.5Y3/1 黒褐色粘質土  
(粘性強い、マンガン粒若干含)

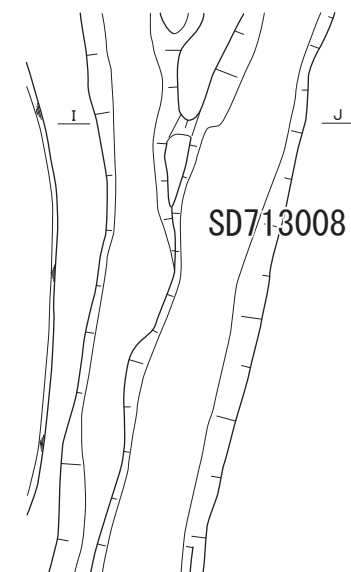


SD713009

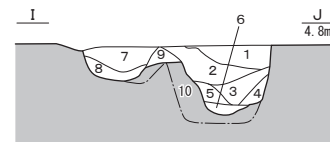


- 1 10YR6/2 灰黄褐色シルト (締まる)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト (締まる)
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色極粒砂 (締まる)
- 4 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土  
(7.5YR6/2 灰褐シルト含、締まる)
- 5 10YR4/4 褐色シルト (締まる)
- 6 10YR5/1 褐灰色細粒砂 (締まる)
- 7 10YR6/3 にぶい黄褐色中粒砂 (締まる)

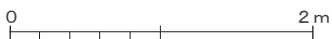
SD713009



SD713008

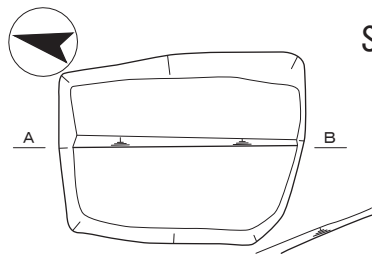


- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
- 2 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘土塊含)
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト  
(10YR6/1 褐灰色極粒砂含)
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘土塊含)
- 5 10YR4/1 褐灰色極粒砂
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色極粒砂  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘土塊含)
- 7 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト塊含)
- 8 2.5Y5/1 黄灰色シルト
- 9 10YR8/4 浅黄褐色極粒砂  
(10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト塊含)
- 10 10YR8/6 黄褐色細粒砂 (7.5YR6/1 褐灰色粘土塊含)

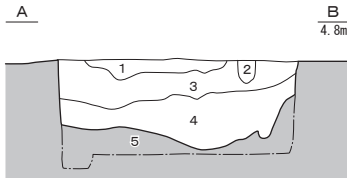


第99図 SD713004・SD713006・SD713008・SD713009実測図 (1:50)

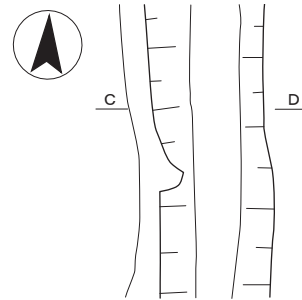




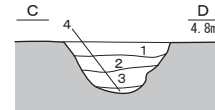
SK713013



- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト (10YR5/1 褐灰色シルト)
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト (10YR4/3 にぶい黄褐色極粒砂・炭化物含)
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質シルト

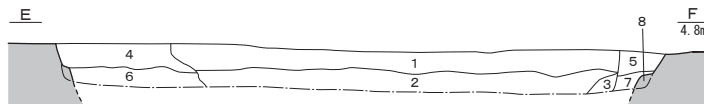
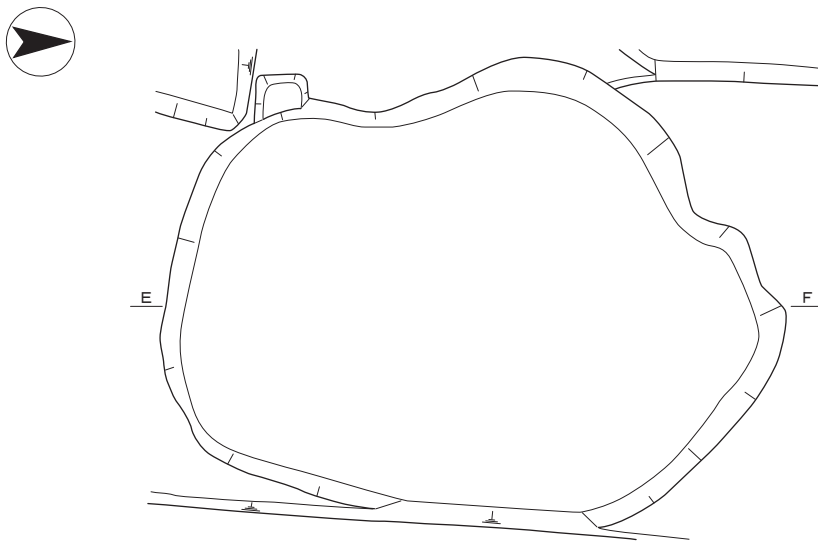


SD713041



- 1 10YR3/1 黒褐色粘質土 (マンガン粒若干含、粘性弱い)
- 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 (マンガン粒若干含)
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質土 (マンガン粒若干含、粘性強い)
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質土 (粘性強い)

SE713035



- 1 5Y4/1 灰色粘質土 (黄色土塊・マンガン粒含、黒色土塊若干含)
- 2 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 (黄色土塊・マンガン粒含、黒色土塊若干含)
- 3 10YR3/1 黒褐色粘質土 (やや砂質土・マンガン粒含)
- 4 5Y4/1 灰色砂質土 (黄色土塊多含、マンガン粒含)
- 5 2.5Y3/2 黒褐色砂質土 (黄色土塊・マンガン粒含、黒色土塊若干含)
- 6 2.5Y4/1 灰色砂質土 (黄色土塊多含、マンガン粒含、黒色土塊若干含)
- 7 10YR3/1 黒褐色粘質土 (マンガン粒含)
- 8 10YR4/1 褐灰色粘質土 (マンガン粒含)



第100図 SK713013・SE713035・SD713041実測図 (1:50)

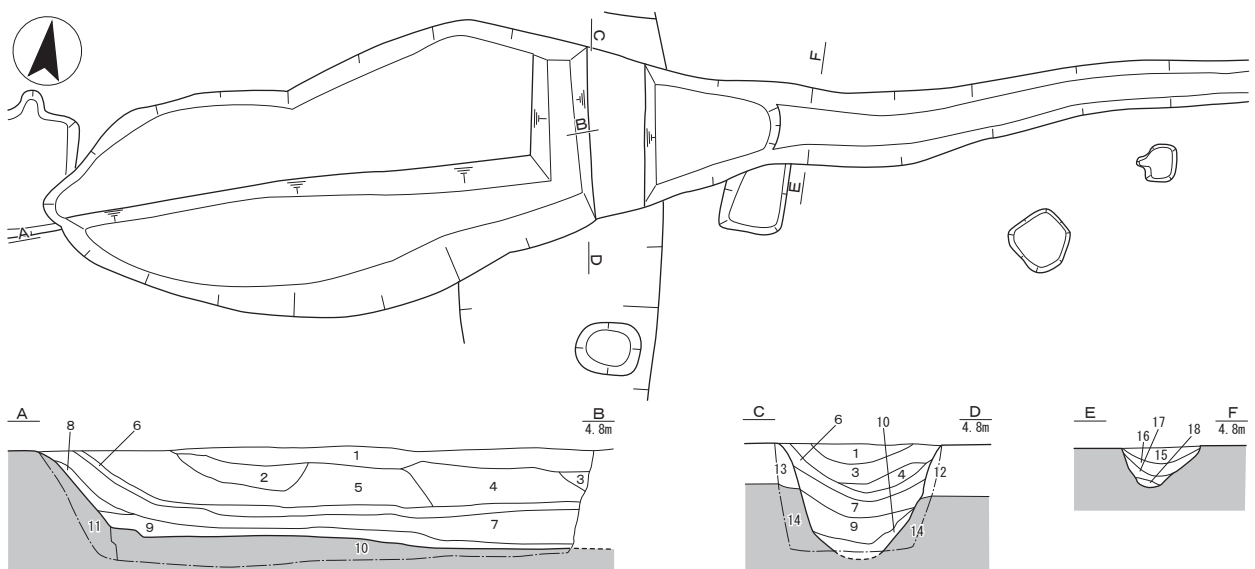
果、後出のものであることが分かった。中世の遺物が多く出土しており、土師器の皿・鍋、山茶碗や瓦器もみられる。最も新相を示す土師器皿・鍋から室町時代後半に下る時期が与えられる。

**SE713035** (第100図) 調査区中央東端で検出した。長径4m、短径3.2mの楕円形を呈するが、完掘できなかったため深さは不明である。30cm足らずの掘削であったが、埋土は中央部3mが粘質土、両端は砂質土で異なる。これにより直径3mの井戸と推定しておく。僅かな掘削であったが、比較的多くの遺物が出土している。なかでも鎌倉時代の陶器鉢や山茶碗が目立つ。山茶碗の中には残存度の比較的良好なものもある。但し、量は少ないものの室町時代に下る土師器皿も複数片認められる。未完掘のため詳細は不明で不正確な部分も多いが、井戸の時期を鎌倉時代とし、最終埋没が室町時代に下るものとしておく。

**SB713036** (第96図) 桁行4間、梁行2間の中央に間仕切りをもつ掘立柱建物で、棟方向は

E 6° Nである。柱掘形は、形の乱れたものもあるが、一辺60cmの方形を呈する。深さが検出面から20cm程度の浅いものが多い。したがって、上部はかなり削平されているものと考えられ、柱痕跡も不明確である。柱間は広いものが多く、著しく不等間である。調査区北端での検出のため、北側調査区外に及ぶ可能性も残り、平面形については再考の余地を残す。SB713037と重複し、それより先行するものであるが、時期が近接するため建替えの関係にあるかも知れない。出土遺物の中心は律令期の土師器小片であるが、南西角の柱穴から比較的残存が良好な土師器杯(1059・写真図版25)が出土している。これにより、第Ⅱ期第3～4段階、平安時代中頃の時期が想定でき、他の小片もこれを否定するものではない。

さて、東側梁行の柱筋に小穴がある。梁行の柱間は1.8m + 2.25mであるが、この小穴を含めると1.8m + 1.2m + 1.05mとなる。東側の出入口等の施設に関連する柱穴を想定したいところである。しかし、



- 1 7.5YR6/4 にぶい橙色極粒砂 (7.5YR4/3 橙色粘土粒含、縮まる)
- 2 10YR8/4 浅黄色シルト (7.5YR4/2 灰褐色粘土粒含、縮まる)
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (7.5YR8/4 浅黄橙色極粒砂塊含、縮まる)
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト (縮まる)
- 5 7.5YR4/2 灰褐色極粒砂 (10YR7/1 灰白色シルト含、縮まる)
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 (7.5YR4/6 褐色シルト一部筋状堆積、縮まる)
- 7 7.5YR5/2 灰褐色粘土 (縮まる)
- 8 7.5YR4/1 褐灰色シルト (縮まる)
- 9 7.5YR5/1 褐灰色粘土 (7.5YR4/2 灰褐色極粒砂塊含、縮まる)
- 10 7.5YR4/2 灰褐色粘土 (10YR4/4 褐色極粒砂塊含、縮まり弱い)

- 11 10YR8/6 黄橙色細粒砂 (10YR6/1 褐灰色極粒砂含、縮まる)
- 12 10YR3/2 黒褐色シルト (7.5YR4/3 褐色粘土粒含、縮まる)
- 13 10YR4/1 褐灰色シルト (7.5YR4/3 褐色粘土粒含、縮まる)
- 14 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト  
(10YR5/4 にぶい黄褐色極粒砂含、縮まり弱い)
- 15 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 (マンガン粒若干含)
- 16 10YR3/1 褐灰色粘質土 (マンガン粒若干含、粘性強い)
- 17 10YR4/1 褐灰色粘質土 (マンガン粒若干含)
- 18 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (マンガン粒若干含)

第101図 SD713034実測図 (1:50)

この小穴からはロクロ土師器（1060）が完形で出土している。前述の時期からやや下るもののため、S B 713036とは無関係の小穴とすべきところではあるが、柱筋に位置するため一応報告しておく。

**S B 7 1 3 0 3 7**（第97図） 桁行5間、梁行2間で南面庇をもつ掘立柱建物で、棟方向はE 13° Nである。柱掘形は、一部に検出できなかったものもあるが、一辺80cmの方形を基本とする比較的大型のものである。庇柱の掘形は一辺40cm程度の方形で、身舎のものとは著しく小型である。しかし、形の乱れたものや検出できなかったものもあり、庇柱の掘形については不明確な部分が多い。掘形埋土はシルトまたは粘土で、直径10cmほどの柱痕跡が確認できるものもある。柱間は南側桁行、梁行、庇ともに2.1mの等間であるが、北側桁行のみが不等間となる。したがって、桁行の相対する柱間は一致しない。

前述したようにS B 713036と重複し、それより後出のものである。平安時代の土師器杯片や黒色土器片等が出土し、図示した1062は口縁端部を内に巻き込む土師器甕の小片である。これらからS B 713036より若干新相を示すものと思われ、遺構検出時での前後関係の判断と矛盾はない。

**S B 7 1 3 0 3 8**（第98図） 2間×2間の総柱建物である。棟方向は不明であるが、東西棟と仮定する。その場合、棟方向はE 1° Nとなり、ほぼ方位に沿う。柱掘形は直径30cm程度の円形を呈する小型のもので、埋土はシルトである。埋土断面の観察により、直径15cm程度の柱であった可能性がある。柱間は1.95mであるが、西側梁行の2間目のみは2.25mとなり、全体的にも若干歪んだ平面形を呈する。

東側に1.2mの間隔でS A 713039が延び、南側7.8mで直角に東西に曲がり、S B 713038を囲う。両者とも山茶碗や土師器鍋片の出土があり、平安時代末～鎌倉時代の同時期で、両者は一連の施設とすることができる。

**S A 7 1 3 0 3 9**（第98図） 前述したようにS B 713038を囲むように延びる柱列である。S B 713038の1.2m東側を南北に9間延び、直角に折れて3間西進する。さらにそこから2間分北へ延びる。この角には1間×1間の閉鎖空間も設けられている。柱掘形は直径20～30cmの円形を呈する小型のもの

で、埋土断面の観察により直径10～15cmの柱であったようで、S B 713038と類似した規模である。柱間は不等間で、北から4間分で柱穴が2基連なり、この地点で柱列が北半と南半に分かれる様相もみせる。また、調査区外北方へ連続する可能性も大きい。この連なる2基の柱穴の南側のものの柱痕跡からは、土師器皿（1053）が完形で出土している。他に体部下半が良好に残存した山茶碗（1056）も出土している。

柱列としては特異な形態であることから、総柱の掘立柱建物を検出しきれなかった可能性も考慮せざるを得ない。しかし、時期的にもS B 713038と合致することから、これと合わせて何らかの施設の一部を示しているものとしておきたい。

**S D 7 1 3 0 4 0** 調査区北西端で検出した幅30cm、検出面からの深さ10cm程度の小規模な溝である。調査区外から北北西へ2mほど直進して途切れる耕作溝状のものであるが、他に連動する溝は無い。溝の規模に比べ多くの遺物が出土している。土師器の皿・山茶碗等があり、時期は鎌倉時代と考えられる。

**S D 7 1 3 0 4 1**（第100図） 調査区中央部を南北に延びる溝である。幅70cm、検出面からの深さ40cm程度で、断面はU字形である。調査区外南側から調査区外北側へ概ね直線的に延び、その方向は方位に沿う。多数の縄文土器片や室町時代の土師器皿等が出土しており、これにより室町時代の溝とすることができる。しかし検出時点では、平安時代のS B 713037等より先行する結果となっており、矛盾を生じている。S D 713041の時期決定に不安定要素を含む状況では、5.4m東側を並走する平安時代末～鎌倉時代の溝S D 713008との関係も気になるところではある。

**S A 7 1 3 0 4 2**（第97図） S B 713037の南面庇から約1mの間隔で東西に延びる柱列である。4間で、方向はE 15° N、柱掘形は直径40cm以下の小型の円形である。柱間は不等間であるが、西側2間は2.4m、東側1間は1.95mであるのに対し、中央は3mを測り、極めて広い。したがって、この部分が通路として開口していた可能性もある。

位置関係からS B 71037に付属する塀と考えられ、律令期の土師器杯の小片が出土している。しかし、西端から2基目の柱穴から山茶碗が出土してお

り、S B 71037 の付属塚とするに疑問を提示している。当該の柱穴が2基重複する様相があるため、これを混入遺物として、ここでは一応S B 713037 と同時期としておくが、平安末～鎌倉時代に下る可能性を残すものである。

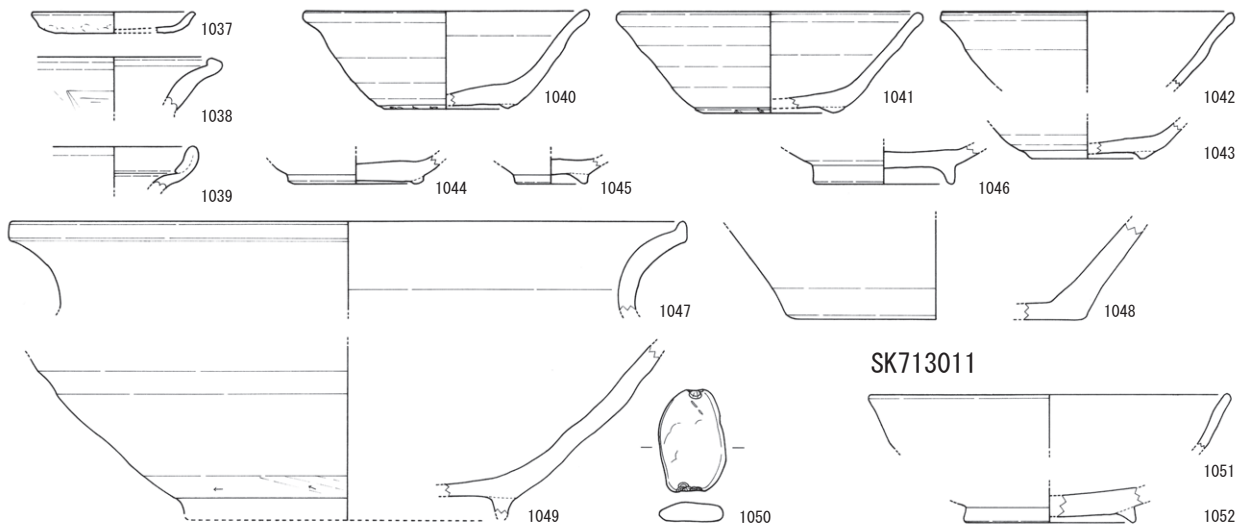
(2) 遺物

SE 713035 出土遺物 (第102図) 1037 は土師器の皿で、器壁は薄くなっているが、器高は1 cm以上を保っている。1038 は口縁端部を内に巻き込む土師器甕の口縁部、1039 は同様に巻き込んだ上面に強いヨコナデを施すもので、鍋と称すべき時

期に下るものである。

1040～1044 は山茶碗で、口縁端部は僅かに外反傾向を残すものの、高台は低く扁平なものである。これらはⅢ段階6型式前後に並行するもので、13世紀前後のものとなる。1045・1046 も山茶碗であるが、高く整った高台をもつものである。1045 は底径から小碗と思われ、1046 は山茶碗としては均質のものである。この様に両者は他の山茶碗より古相を呈している。1044・1046 は使用のためか、内面が平滑となり、1044 はやや黒く変色している。碗に転用されたものであろう。

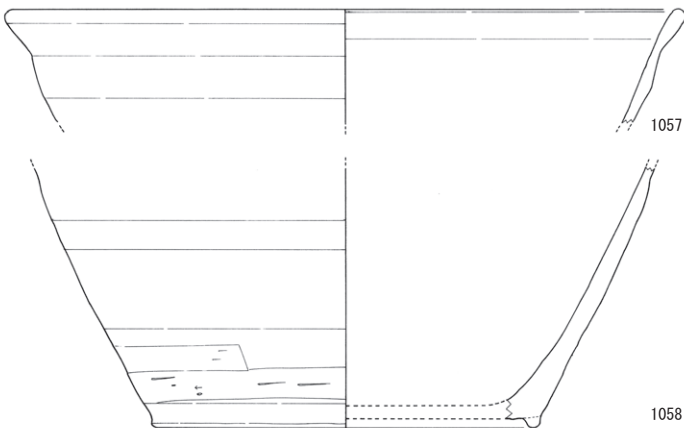
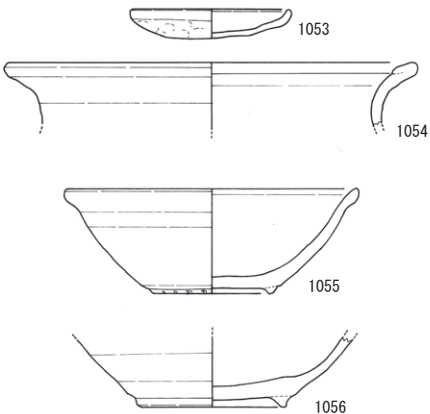
SE713035



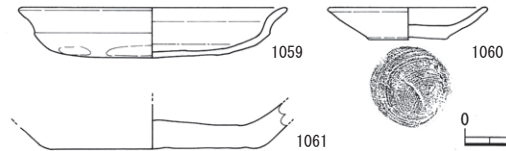
SK713011



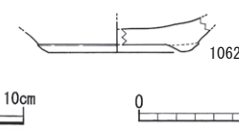
SA713039



SB713036



SK713029



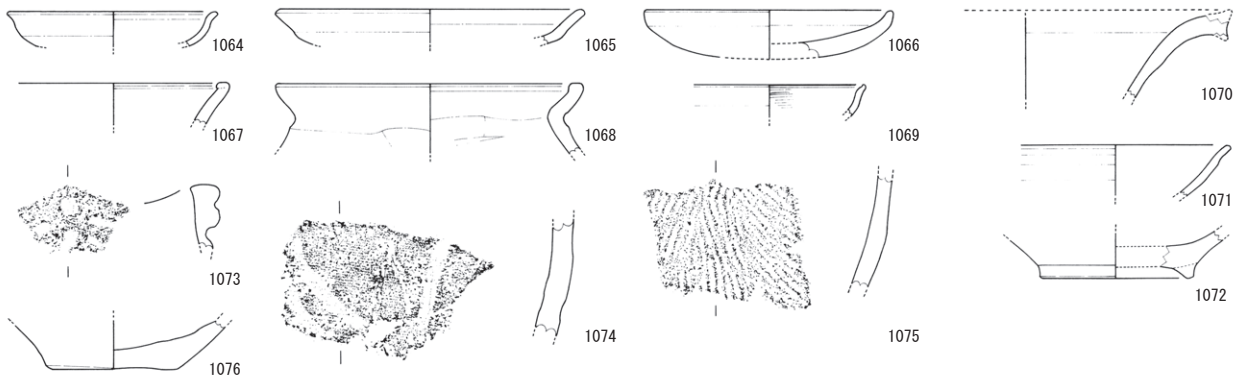
SB713037



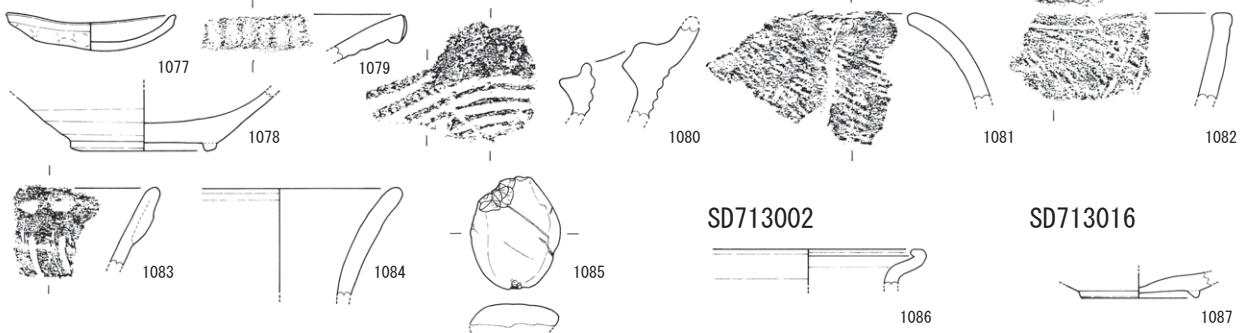
第102図 第7次調査13区遺構出土遺物① (1061 = 1 : 3、他は1 : 4)



SD713001



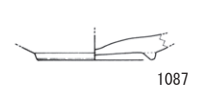
SD713008



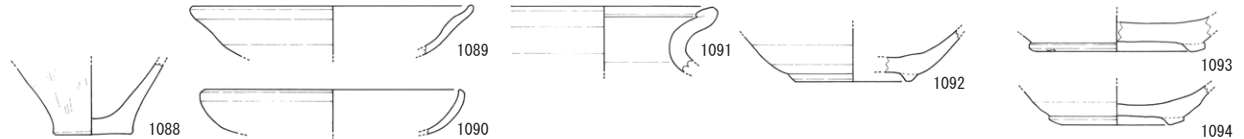
SD713002



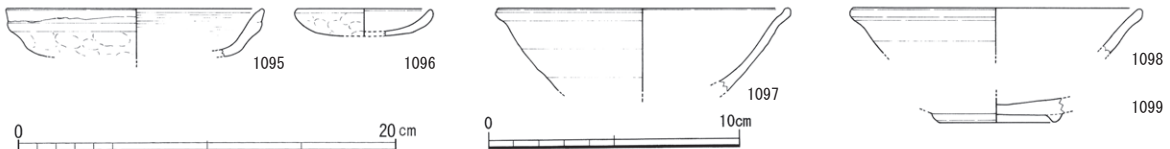
SD713016



SD713034



SD713040



第103図 第7次調査13区遺構出土遺物② (1073～1076・1079～1084 = 1 : 3、他は1 : 4)

1047・1048は陶器の甕、1049は高台を有する大型の鉢、1050は打欠石錘である。1047・1048は常滑産と思われる、1046の質感は山茶碗である。外面の底部ちかくをロクロケズリで調整する。

SK713011出土遺物(第102図) 出土したものは灰釉陶器と迷う小片を含め、山茶碗のみである。1051は口縁部片、1052は底部片である。1051の口縁端部に外反傾向はみられないが、1052の高台は比較的高い整ったものである。1052の底部内面は使用のためか平滑になっている。

SA713039出土遺物(第102図) 柱列

の柱穴から出土したものである。1053と1056、1055・1057・1058がそれぞれ同一の柱穴から出土している。1053は土師器の皿、1054は甕である。1053は完形で出土し、口径は8cm以上を測る。「て」字口縁皿が退化したものかも知れない。1054の口縁端部は内に折り返され、煤が厚く付着している。1055～1058は陶器で、1055・1056は山茶碗である。1055の口縁端は若干外反傾向を残す。Ⅲ段階でも前半の13世紀前後の時期を与えることができる。1058は底部に小さな高台を貼り付け、体部外面下端にロクロケズリを施す。

**SB713036出土遺物** (第102図) 1059は土師器の杯である。口縁部は強いヨコナデを伴い大きく外反し、底部は未調整である。第Ⅱ期第3段階の後半、10世紀前後のものとなる。1060はロクロ土師器で、1059とは時期差のあるものである。これは既述したようにSB713036出土とするには疑問の多い状況のためと思われる。1061は縄文土器の底部で、明らかな混入遺物である。

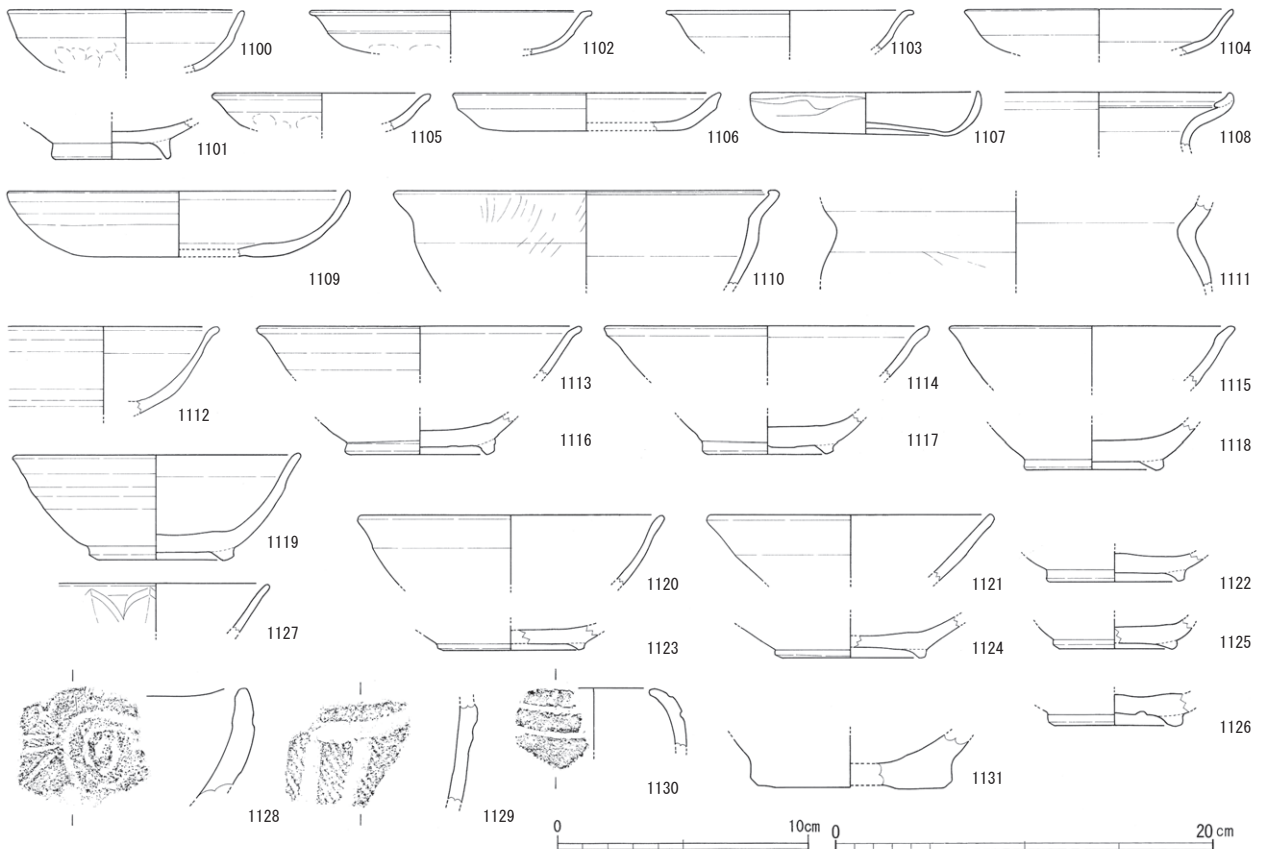
**SK713029出土遺物** (第102図) 図示できたものは1062のみで、他に縄文土器の小片が出土している。1062は山茶椀で、低く扁平な高台を貼り付けている。

**SB713037出土遺物** (第102図) 各柱穴から土師器の杯や甕、黒色土器、灰釉陶器等が出土しているが、図示できたものは1063の土師器甕のみである。口縁端部を内に巻き込み、外面に煤が付着する。この形態は第Ⅱ期第4段階から出現するようであるが、第Ⅲ期第2段階の11世紀中頃まで下る可能性もある。

**SD713001出土遺物** (第103図) 遺構の

平面形や深度に不確定要素が多いため、包含層出土的な扱いにならざるを得ない。そのためか、縄文土器、土師器、須恵器等出土遺物は多様で、時期幅も大きい。大きく時期を隔てる縄文土器を除くと、平安時代中頃から末期のものが多い。

1064は土師器の杯、1065は土師器の皿で、両者とも強いヨコナデにより口縁部を大きく外反させる。1066も土師器の皿であるが、口径が13cmに縮小し底部と口縁部の境が不明瞭な半円形の形態を呈する。器の規模に比べ器壁が異常に厚い。1067・1068は土師器甕の口縁部片である。両者とも口縁端部を内に折り返し気味で、結果として若干肥厚した端部となる。1068は体部にハケメが認められず、外面はヘラケズリ、内面は工具ナデの特異なものである。1069は瓦器の皿、1070は須恵器の甕、1071・1072は山茶椀である。瓦器は当地域では出土例が希少なもので、皿としては高い器高を有し古相を示す。山茶椀は外反する口縁端部や高く整った高台を呈し、瓦器と同様に山茶椀としては古相を示す。1073～1076は縄文土器であるが、小片のため全体の形



第104図 SD713004出土遺物 (1128～1130 = 1 : 3、他は 1 : 4)



第105図 第7次調査13区包含層等出土遺物①(1:3)

状が不明のため残存部に限った観察となる。1073は波状口縁を呈し、1074と共に沈線で装飾するが、1073は円形の刺突を加える。一方、1075には沈線は無く、全面に縄文を充填する。

**SD713008出土遺物** (第103図) 1077は土師器の皿である。完形であるものの歪みが非常に大きく器高を捉え難いが、少なくとも1.5cm以上を保っているものである。1078の山茶碗も比較的整った高台を呈しており、両者とも平安時代末期に収まるものと思われる。1078の底部内面は使用のためか平滑となり、漆状のものが付着している。

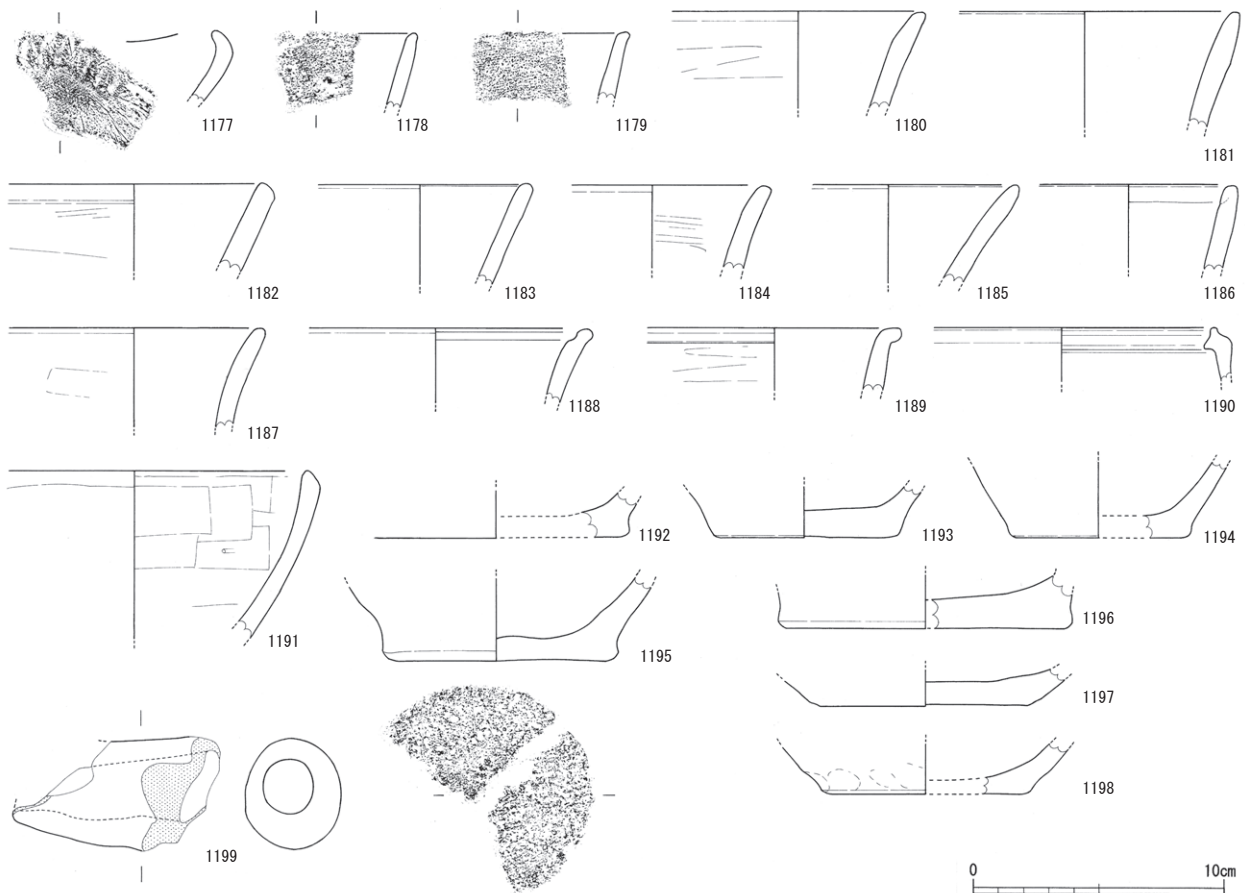
1079～1084は縄文土器の小片、1085は打欠石錘で溝の時期とは大きく隔たる混入遺物である。縄文土器は全て口縁部片であるが、多様である。1079は外反する口縁部で、端部は外に面をもつ。その面には刻目を施す。1080は波状口縁を呈し、おそらく渦文と思われる沈線を環状に巡らしている。1081は内弯する口縁部で外面は条線を充填する。1082も口縁端部に刻目を施すが、外面は弱い条線状の工具痕が

残る。1083は口縁端部を外に折り返し、弱い隆帯を形成している。円形の刺突を巡らせ、隆帯から下方へ縦方向の沈線を配置する。

**SD713002出土遺物** (第103図) 図示したものは土師器の甕 (1086) のみであるが、他に杯も出土している。口縁端部を明瞭に内に折り返す平安時代後期のものである。

**SD713016出土遺物** (第103図) 図示したものは山茶碗 (1087) で、他には縄文土器の小片のみである。1087の内面は使用のため平滑になり、黒変している。硯として利用されたものかも知れない。

**SD713034出土遺物** (第103図) 遺構の平面形や深度に不確定な要素があるため、包含層的なものとして扱わざるを得ない。1088は弥生土器の甕と思われる。外面の調整は工具ナデで、ハケメに至らない。1089は土師器の杯で、外反する口縁部の端部を内へ傾ける当地方で平安時代前半に普遍的にみられる形態であるが、器壁は薄くなっている。



第106図 第7次調査13区包含層等出土遺物② (1:3)



1090は土師器の皿、1091は土師器の鍋としたが、甕と称すべきかも知れない。1092～1094は山茶碗である。高台はいずれも低く潰れた傾向にある。

大きく時期を隔てる1088を除けば、1089・1091の平安時代中頃のもの、1090・1092～1094の鎌倉時代のものに分かれる。他に図示できなかったが室町時代に下る土師器皿や鍋片もあり、多様である。これは前述した遺構の状況による結果と思われる。

**SD713040出土遺物**（第103図）土師器の皿は、大型のもの（1095）と小型のもの（1096）がある。大型の1095は、口径が13.5cmに縮小しているが、比較的厚い器壁を保つ。口縁部にも粘土紐接合痕が明瞭な雑な仕上げである。1097～1099は山茶碗である。口縁端部の外反はみられず、高台も低下している。これらの遺物の時期差は小さく、いずれも鎌倉時代に収まるものと思われる。

**SD713004出土遺物**（第104図）平安時代後半から鎌倉時代を中心に多様な遺物が出土している。

1100～1111は土師器である。1100・1101は碗で、1100が半球状の体部を呈するのに対し、1101は高台を有するものである。1102～1104は杯で、口縁部は強いヨコナデにより外反する。底部外面は未調整であるが、1104のみはナデが施される。1105～1107は皿であるが、形態は多様である。1105は前述の杯と同様な形態であるが、口径が縮小し器壁が厚くなっている。1106は非常に厚い器壁で、ヨコナデは口唇部に限られる。1107は薄い器壁で内弯する口縁部を呈し、鎌倉時代末頃に下る当該土器群のなかで最も新相を示すものである。1108は鍋の小片であるが、口縁端部を内に折り返し、その上面にヨコナデを加える。1111は口縁部を欠損しているが、甕とした。しかし、ハケメはみられず、外面をヘラケズリ、内面を工具ナデで調整する。1109・1110は鉢としたが、1109は質感としては粗製の碗である。口径が大きいため鉢としたが、皿とすべきかも知れない。底部外面を工具によるナデで調整するが、一部ヘラケズリ状を呈する。

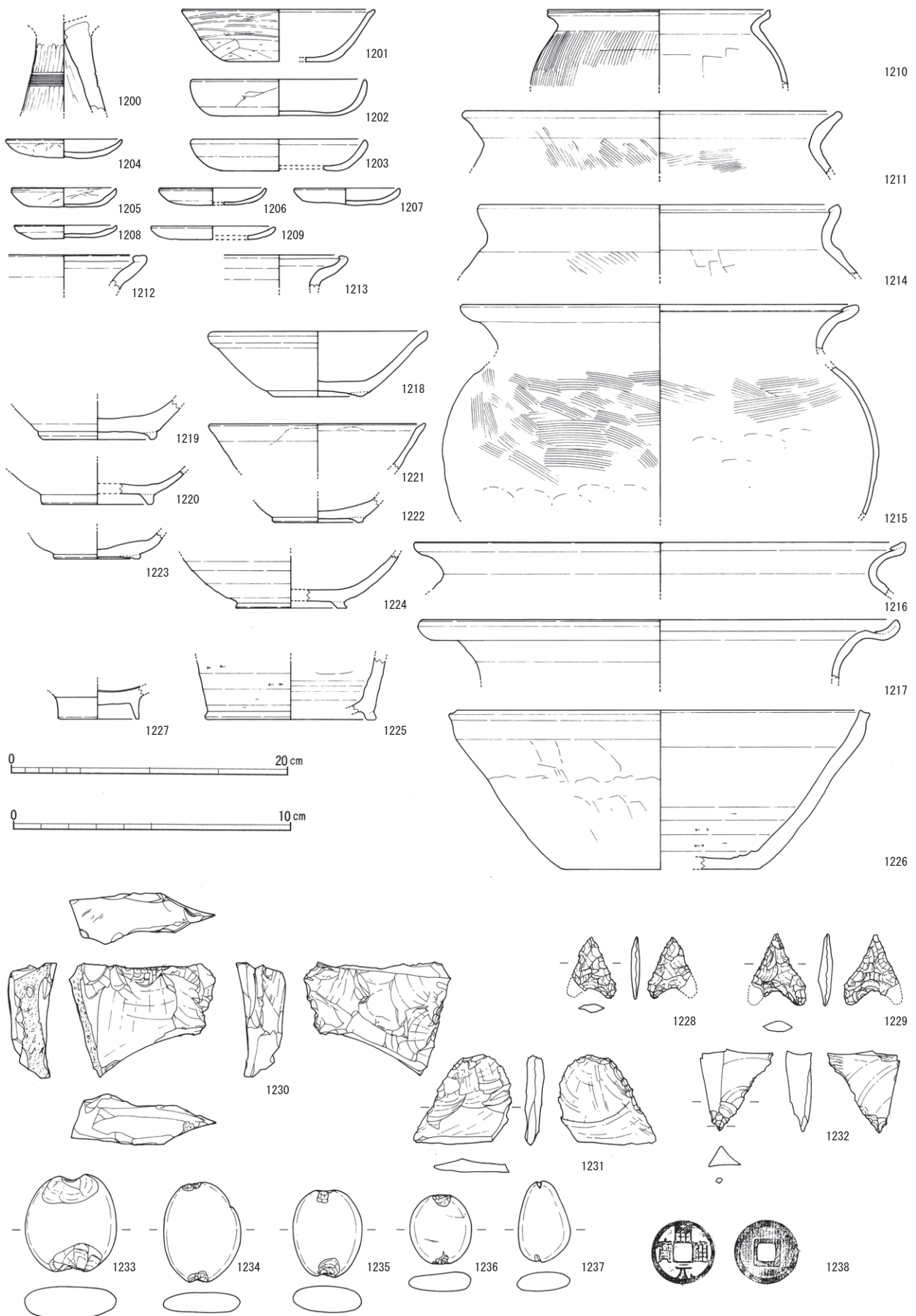
1112は施釉が確認できなかったが灰釉陶器、1113～1126は山茶碗、1127は青磁碗である。口縁端部は外反傾向を残すものが多いが、1121は直線

的である。高台は概ね低いもので、変形の激しいものもある。1123・1124は使用のためか内面が平滑になり、1121には煤が付着する。1122の底部外面は糸切ではなく、ヘラ切りのようである。また、1126には棒状工具による沈線が焼成前に施されるが、乾燥時に意図に反して刻まれた可能性もある。

1128～1131は縄文土器の小片である。他のものと大きく時期が異なり、明らかな混入遺物である。1128・1130は内弯する口縁部で、1128には渦文、1130には2条の沈線が確認できる。1129は体部片であるが、沈線と縄文で装飾される。

**包含層等出土遺物**（第105～107図）包含層や表土等に加え、遺構混入遺物の一部もここで扱う。

1132～1199は縄文土器であるが、全て小片で全体の形状が分かるものは無く、残存部分のみの様相である。1132～1135は突起の一部である。沈線や円形刺突、円孔により複雑な形状を呈している。特に1134は、口縁と並行方向の円孔が貫通するのに対し、それと直交するように設けられた円孔は内側が貫通して前述の円孔と直角に連結するのに対し、外側の円孔は貫通せず、深い円形刺突の様相を呈する。1136～1138は口縁部の小片であるが、端部に刻目を施し、1136は沈線が加わる。1139～1148も口縁部片であるが、並行沈線や区画を描く様子がみえる。1140・1141には円形刺突が加わる。体部片1154・1156・1157・1162も同様に並行沈線を施すが、1154は刺突文も多用している。1149～1153・1155は口縁部の内側に沈線を巡らせるものである。1151は口唇部に縄文の押圧が加わる。体部片1158・1159も沈線を巡らせるが、1158は条線を充填し、1159は円孔を空け、一部に縄文が施される。1163・1165も沈線が施されるが、斜行するものが加わる。1160・1161・1164・1166・1167は条線のみが確認できるものである。1164のように茎束による浅い条線もある。1168～1176は縄文と沈線により装飾される。小片のため不明確な部分も多いが、1168・1169には磨り消し縄文の手法が用いられ、1173や1174のように沈線によく区画に関係なしに縄文が施されるものもある。また、1175は極端に縄文の範囲が狭い。1177は摩滅のため不明瞭であるが、口縁部に刻目があるようにみえる。1178～1191は無文の口縁部片であるが、1188には内側に窪みが巡る。



第107図 第7次調査13区包含層等出土遺物③ (1228 ~ 1232・1238 = 1 : 2、他は1 : 4)

1149等と同様に沈線を巡らせる意図があるものかも知れない。1190は口唇部内側に突帯を設け、複雑な口縁端部形態を呈している。1192～1195は底部片である。1193は底部外面に工具痕がみられ、1195は網代痕と思われる様相を呈する。1199は円筒状の破片で、注口土器としたが、出土例の少ない器種であり、これらの一群に伴うかどうか、注意を要する。

1200は弥生土器または古式土師器の高杯である。ヘラミガキ調整の後、櫛による横線文を施す。1201は土師器の杯である。内外面をヘラミガキで調整する今回の調査で最も古相を示す杯である。1202・1203は口径12cm以上を測る大型の土師器皿、1204～1209は口径7～8cmの小型の皿である。大型のものは内湾する口縁部であるが、1203は内湾傾向が弱く、器壁も厚い。1210～1217は土師器の甕または鍋である。古墳時代の1210から中世の1217まで多様な時期のものがあるが、口縁部片が多く、全体の形状が不明なものが多い。1214の口縁端部が内に折り返される様子があり、1214ではそれが顕著となる。1217に至ると折り返した上面を強いヨコナデにより窪ませている。これらには、使用のためか煤が付着するものが多い。体部片を伴う1215では、体部はハケメで調整されるが、内面のものは浅く、工具ナデ状となっている。

1218～1224は山茶碗、1225は壺の底部片と思われる。山茶碗の高台は比較的整った形態のものが多いが、口縁部の外反はない。全体形が明確な1218においても体部から口縁端部にかけて直線的である。1226も陶器で、1227は白磁である。1226は底部内面にロクロケズリを行うのに対し、外面はロクロを使用せず、工具による斜方向のナデである。

1228・1229は石鏃、1230は石核、1231はR F、1232は石錐で、石材は全てサヌカイトである。1233～1236は打欠石錘、1237は切目石錘である。1237は平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物柱穴から出土したもので、唯一図示できたものであるが、当該時代以前からの混入遺物とするのが妥当と思われる。1238は銭貨である。「開元通宝」と記され、唐銭を継承したものである。(萩原・樋口・森川)

#### [註]

- ① 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ』2019年3月
- ② 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』平成13年3月31日
- ③ 藤澤良祐『瀬戸古窯趾群Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館1982
- ④ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history Vol.1』三重歴史文化研究会1990.5
- ⑤ 新田 洋「三重県における古代末～中世にかけての土器様相」『マージナルNo.9』愛知考古学談話会1988.10
- ⑥ 原田 幹「S字甕の波及と定着を巡る問題」『S字甕を考える』第7回東海考古学フォーラム三重大会
- ⑦ 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡(第3・4次発掘調査報告)』2022年3月
- ⑧ 三重県埋蔵文化財センター『三寺地内遺跡群発掘調査報告』2006年3月
- ⑨ 伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史資料編 考古2』三重県 平成20年3月31日
- ⑩ 大橋康二『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社 平成元年10月5日
- ⑪ 前掲⑥に同じ

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
						口径	器高	その他					
1	197-1	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	浅黄橙10YR8/4	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突文。
2	197-3	1区	SK701003 No.6・10	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突文+綾杉文。
3	197-4	1区	SK701003 No.6	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	5mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突文。
4	197-2	1区	SK701003 No.6	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突文。
5	196-1	1区	SK701003 No.1	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	6mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+透孔+斜格子文。
6	209-4	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
7	209-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
8	204-7	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR4/1	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
9	204-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y5/1	4mm以下の小石含	口縁部小片	沈線+条線。
10	205-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。沈線+条線。
11	209-1	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
12	198-2	1区	SK701003 No.3	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	7mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+ヘラ書文。
13	232-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4mm以下の砂粒多含	体部小片	隆帯+沈線+縄文。
14	232-7	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	3mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線。
15	203-6	1区	SK701003 No.31	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突文。
16	203-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突文。
17	204-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
18	205-1	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
19	233-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒多含	口縁部小片	綾杉文。摩滅のため調整不明。
20	232-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	黒褐7.5YR3/1	3mm以下の砂粒多含	体部小片	綾杉文。摩滅のため調整不明。
21	196-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	オリーブ黒5Y3/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
22	196-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯+綾杉文。
23	198-1	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
24	200-1	1区	SK701003 No.2・11・16	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	灰褐7.5YR4/2	3mm以下の砂粒含	体部4/12	沈線+綾杉文。
25	199-1	1区	SK701003 No.6	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+綾杉文。
26	210-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	橙5YR6/8	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+綾杉文。
27	210-7	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+綾杉文。
28	210-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯+刺突+綾杉文。
29	210-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
30	199-2	1区	SK701003 No.31	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
31	199-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
32	199-7	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
33	199-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
34	210-1	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	5mm以下の小石含	体部小片	綾杉文？。
35	199-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	褐灰10YR4/1	2mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
36	199-3	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
37	204-3	1区	SK701003	チJ4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	灰黄褐10YR5/2	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。渦文。
38	204-1	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	橙7.5YR6/6	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。渦文。
39	204-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	褐灰10YR5/1	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。渦文。
40	209-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	4mm以下の小石含	体部小片	渦文。
41	205-3	1区	SK701003 No.28	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	4mm以下の小石含	体部小片	渦文。
42	203-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
43	196-3	1区	SK701003 No.16	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯+刺突+沈線。
44	204-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の小石含	体部小片	渦文。
45	206-3	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
46	202-8	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
47	200-2	1区	SK701003 No.20	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	暗褐10YR3/4	粗	体部小片	沈線。

第2表 第7次調査出土遺物観察表①



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
48	203-1	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
49	201-1	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
50	203-3	1区	SK701003 No. 31	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
51	202-2	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
52	203-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
53	202-7	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
54	202-3	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
55	201-7	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
56	202-1	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
57	201-2	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
58	201-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
59	201-8	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
60	201-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
61	201-3	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
62	205-7	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	灰黄褐10YR4/2	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
63	202-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
64	201-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
65	202-6	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
66	205-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
67	205-6	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	5mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
68	205-4	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
69	142-1	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄2.5Y7/3	5mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刻目。
70	209-3	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刻目。
71	233-4	1区	SK701003	チK5	縄文土器 鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	7mm以下の小石含	口縁部小片	
72	233-3	1区	SK701003	チK5	縄文土器 鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	縄文。摩滅のため調整不 明。
73	209-5	1区	SK701003	チK4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突文。
74	206-6	1区	SK701003 No. 24	—	縄文土器 浅鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	8mm以下の小石含	口縁部小片	
75	206-1	1区	SK701003 No. 24	—	縄文土器 鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	7mm以下の小石含	口縁部小片	
76	232-1	1区	SK701003 No. 20	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	8mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
77	210-2	1区	SK701003 No. 20下	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	橙5YR6/6	3mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
78	232-5	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	4mm以下の砂粒多 含		橋状把手片
79	232-2	1区	SK701003 No. 26	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 10.0	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	5mm以下の砂粒多 含	底部7/12	
80	232-3	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.4	—	明褐7.5YR5/6	3mm以下の砂粒多 含	底部3/12	摩滅のため調整不明。
81	233-1	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	底径 5.4	—	橙7.5YR8/3	3mm以下の砂粒多 含	底部3/12残	摩滅のため調整不明。
82	211-4	1区	SK701003 No. 6	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 12.2	ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	底部2/12残	
83	211-3	1区	SK701003	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.4	ナデ	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒含	底部2/12残	
84	211-2	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.6	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の砂粒含	底部2/12残	
85	198-3	1区	SK701003 No. 20下	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 10.3	外面ナデ、内面未調 整	にぶい黄橙10YR7/4	4mm以下の砂粒含	底部10/12残	
86	211-5	1区	SK701003 No. 24	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 11.2	ナデ	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒含	底部2/12残	
87	211-1	1区	SK701003	チK5	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.2	ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	底部4/12残	
88	221-1	1区	SK701003	チK5	R F	長 2.85	厚 0.65	重 7.05g	—	灰7.5Y5/1	チャート	—	
89	221-2	1区	SK701003	チJ5	U F	長 3.35	厚 0.7	重 2.74g	—	灰白N5/	チャート	完形	
90	212-1	1区	SK701003	チK5	磨製石斧	長 6.14	厚 1.6	重 48.6g	—	明オリブ灰2.5GY7/1	緑色岩	ほぼ完形	
91	214-6	1区	SK701003 No. 14	—	打製石錘	長 6.43	厚 3.18	重 148.3g	—	灰白5Y8/1	花崗斑岩	完形	
92	207-1	1区	SD701001	チJ5	土師器 杯	14.2	2.4	—	底部外面未調整	橙7.5YR7/6	精良	口縁部1/12	
93	206-4	1区	SD701001	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
94	206-5	1区	SD701001	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。

第2表 第7次調査出土遺物観察表②

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
95	206-2	1区	SD701001	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	7mm以下の小石含	体部小片	沈線。
96	202-5	1区	SD701001	チJ5	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
97	207-3	1区	SD701002	—	灰釉陶器 甕	29.7	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	口縁部1/12	
98	207-2	1区	SD701002	—	灰釉陶器 甕	—	—	高台径 7.8	底部外面未調整	灰白5Y7/1	精良	高台3/12	灰釉刷毛塗。
99	210-3	1区	SD701004	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯。
100	209-7	1区	表土	チJ4	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+斜行線。
101	208-1	1区	表土	チJ4	土師器 蓋	10.5	—	—	外面ヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部5/12	
102	208-4	1区	表土	チJ5	土師器 高杯	—	—	脚径 13.0	ナデ	橙5YR7/8	精良	脚部1/12	摩滅が激しく調整不明確。
103	198-5	1区	表土	チJ5	土師器 高杯	—	—	脚基部径 4.6	内面ハケメ	浅黄橙10YR8/4	3mm以下の砂粒含	脚基部完存	摩滅が激しく調整不明確。
104	208-3	1区	表土	チJ3	土師器 皿	19.4	2.5	—	底部外面ナデ	灰黄褐10YR5/2	精良	1/12	
105	208-2	1区	表土	チJ3	土師器 甕	24.0	—	—	内面ハケメ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
106	207-4	1区	表土	チJ4	須恵器 蓋	10.4	—	—	天井部外面ロクロズリ	灰N6/	精良	口縁部2/12	
107	208-8	1区	排土	—	須恵器 蓋	11.0	—	—	ロクロナデ	灰N5/	1mm以下の長石含	口縁部1/12	
108	207-6	1区	表土	チJ2	須恵器 杯	—	—	—	底部外面ロクロズリ	灰白N7/	精良	底部完存	底部外面に線刻。
109	207-7	1区	表土	チJ2	須恵器 蓋	—	—	頸基部 4.8	ロクロナデ	灰N4/	精良	頸部完存	
110	207-8	1区	表土	チJ5	須恵器 甕	—	—	—	外面疑格子タタキ	灰N4/	1mm以下の長石含	口縁部小片	
111	207-5	1区	表土	—	灰釉陶器 皿	13.0	—	—	ロクロナデ	灰N6/	精良	口縁部3/12	灰釉漬け掛け。
112	208-7	1区	排土	—	山茶碗	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	高台5/12	
113	208-5	1区	表土	チJ2	土鉢	1.2	残長 4.0	残重 4.1g	ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	7/12	
114	208-6	1区	表土	チJ3	土鉢	1.2	残長 3.2	残重 3.5g	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
115	219-2	1区	P1	チJ5	石鉢	長 1.8	厚 0.25	重 0.53g	—	灰N5/	サヌカイト	完形	
116	189-4	2区	SD702001	タJ7	土師器 杯	13.0	—	—	—	橙2.5Y6/8	精良	口縁部1/12以下	
117	189-11	2区	SD702001	タJ7	縄文土器	—	—	—	内面ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
118	194-04	3区	SK703022	テC17 P1	土師器 甕	15.8	—	—	ナデ	灰黄褐10YR6/2	精良	口縁部1/12	
119	194-3	3区	SK703022	テC17 P1	土師器 甕	17.1	—	—	ハケメ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部完存	
120	194-2	3区	SK703022	テC17 P1	土師器 甕	14.3	15.8	—	内面下半ヘラズリ、他はハケメ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	4/12	
121	189-7	3区	SD703001	テG17	土師器 高杯	—	—	—	外面ヘラミガキ	橙5YR7/6	精良	脚部完存	透孔3方。
122	189-5	3区	SD703001	テG17	土師器 杯	16.4	3.4	—	—	明赤褐5YR5/8	精良	底部3/12	剥離が激しく調整不明。
123	189-6	3区	SD703001	テG17	土師器 皿	10.2	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	3/12	
124	190-2	3区	SD703001	テG17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	隆帯+沈線。
125	233-5	3区	SD703001	テG17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	4mm以下の砂粒多含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
126	233-6	3区	SD703001	テG17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
127	190-1	3区	SD703001	テG17	縄文土器 深鉢	—	—	—	未調整	にぶい赤褐5YR4/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
128	190-3	3区	SD703001	テG17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	条痕文。
129	233-7	3区	SD703001	テG17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.4	—	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒多含	底部小片	摩滅が激しく調整不明。
130	189-1	3区	SD703005	テD17	灰釉陶器 甕	—	—	高台径 7.0	底部外面ナデ	灰白2.5Y8/1	精良	高台2/12	
131	189-9	3区	SD703013	ソU18	土師器 杯	13.4	2.7	—	底部外面未調整	橙7.5YR7/6	精良	6/12	表面剥離多い。
132	189-10	3区	SD703013	ソU18	土師器 杯	11.6	2.2	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	表面剥離多い。
133	189-3	3区	SD703013	ソU18	灰釉陶器 甕	—	—	高台径 5.8	底部外面ナデ	灰白5Y7/1	精良	高台3/12	
134	189-8	3区	SD703002	テG18	土鉢	2.4	長 5.8	残重 14.3g	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	1mm以下の砂粒含	5/12	
135	190-6	3区	SD703002	テF17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。隆帯+沈線+竹管文+縄文。
136	190-8	3区	SD703002	テG18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+縄文。
137	190-7	3区	SD703002	テF17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	2mm以下の砂粒・炭母含	口縁部小片	沈線+綾杉文。
138	190-4	3区	SD703002	テG18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明赤褐2.5YR5/6	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
139	190-5	3区	SD703002	テF17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR7/6	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
140	190-9	3区	SD703002	テG18	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.0	ナデ	明赤褐5YR5/6	3mm以下の砂粒含	底3/12	
141	189-2	3区	SD703014	ソU18	灰釉陶器 皿	—	—	高台径 5.8	—	灰白5Y7/1	精良	高台2/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表③

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
142	192-7	3区	SE703006	テH17	土師器 皿	12.0	—	—	底部外面ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
143	193-4	3区	SE703006	テH17	土師器 皿	8.0	1.0	—	底部外面ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
144	191-6	3区	SE703006	テH17	山茶碗	—	—	—	底部外面糸切未調整	灰白5Y7/1	精良	底部5/12	高台欠損。
145	191-5	3区	SE703006	テH17	山茶碗	—	—	高台径 8.0	底部外面糸切後ナデ	灰白5Y7/1	3mm以下の小石含	底部3/12	高台欠損・変形多い。
146	192-3	3区	SE703006	テH17	山茶碗	—	—	高台径 5.8	底部外面糸切未調整	灰黄2.5Y7/2	2mm以下の砂粒含	底部3/12	高台に靱殻痕。
147	191-4	3区	SE703006	テH17	山茶碗	—	—	高台径 5.4	底部外面糸切後ナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部4/12	高台に靱殻痕。
148	192-4	3区	SE703006	テH17	山茶碗	—	—	高台径 6.0	—	灰白5Y7/1	精良	底部3/12	
149	192-5	3区	SE703011	テI17	山茶碗	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	6mm以下の小石含	口縁部2/12	
150	192-8	3区	SE703006	テH17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y5/1	7mm以下の小石含	体部小片	沈線。
151	193-5	3区	SE703011	テI17	土師器 皿	8.4	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部2/12	
152	192-6	3区	SE703011	テI17	山茶碗	14.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部2/12	
153	191-3	3区	SE703006	テH17	山茶碗	—	—	高台径 6.0	底部外面糸切後ナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部6/12	
154	192-2	3区	SE703011	テI17	山茶碗	—	—	高台径 6.0	底部外面糸切未調整	灰白5Y7/1	2mm以下の小石含	底部5/12	高台に靱殻痕。
155	193-1	3区	SE703011	テI17	陶器 鉢	—	—	底径 13.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部2/12	山茶碗質。
156	193-2	3区	SE703011	テI17	陶器 鉢	—	—	底径 13.6	体部外面下半ロクロケズリ	灰白5Y7/1	6mm以下の小石含	底部1/12	山茶碗質。
157	191-2	3区	SE703011	テI17	陶器 鉢	—	—	底径 12.0	体部外面下半ヘラケズリ	にぶい赤褐2.5YR5/4	3mm以下の小石含	底部3/12	常滑。
158	192-1	3区	SE703011	テI17	陶器 甕	—	—	—	体部内面工具ナデ	灰白5Y7/1	精良	体部小片	常滑。菊花状スタンプ文。
159	191-1	3区	SE703011	テI17	平瓦	—	—	—	凹面ヘラケズリ、凸面縄タタキ	にぶい赤褐2.5YR5/3	精良	1/12以下	陶質。酸化焼成。
160	188-2	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。渦文。
161	188-1	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。渦文。
162	188-7	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	5mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
163	188-6	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
164	188-4	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突+縄文。
165	188-5	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR5/1	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	刺突。
166	190-10	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐10YR3/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
167	187-1	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	29.2	—	—	外面条痕、内面ヘラミガキ	にぶい褐7.5YR5/3	4mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
168	194-1	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ヘラミガキ	灰黄褐10YR4/2	5mm以下の砂粒含	体部小片	
169	187-2	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR6/3	5mm以下の砂粒含	体部小片	
170	188-3	3区	SZ703017	テI17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR6/6	5mm以下の砂粒含	脚台部小片	透孔。隆帯。
171	221-4	3区	SZ703017	テI17	石核	幅 1.7	長 3.8	重 6.74g	—	灰白N4/	チャート	完形	
172	213-3	3区	SZ703017	テI17	打欠石錘	幅 5.54	長 6.1	残重 61.6g	—	灰白7.5Y7/1	砂岩	1/2	
173	234-1	3区	SZ703019	テH17	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	明黄褐10YR6/6	5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+縄文。摩滅が激しい。
174	193-3	3区	SZ703019	テH17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄2.5Y7/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
175	193-6	3区	SK703020	テH17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
176	235-5	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明赤褐2.5YR5/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
177	185-2	3区	下層包含層	チJ18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
178	184-8	3区	下層包含層	チJ18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
179	185-3	3区	下層包含層	テA18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
180	185-5	3区	下層包含層	テA18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
181	185-6	3区	下層包含層	テJ18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR6/2	精良	体部小片	沈線。
182	186-3	3区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	精良	体部小片	綾杉文。
183	186-4	3区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	4mm以下の小石含	体部小片	綾杉文。
184	235-6	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面ヘラミガキ、内面ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯。
185	186-5	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+条線。
186	182-2	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面未調整	暗灰黄2.5Y4/2	7mm以下の砂粒含	体部小片	縄文+沈線。
187	183-1	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	6mm以下の砂粒含	体部1/12以下	沈線+条線。
188	181-3	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面未調整	にぶい黄橙7.5YR6/4	4mm以下の砂粒含	体部1/12以下	隆帯+沈線。

第2表 第7次調査出土遺物観察表④

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
						口径	器高	その他					
189	185-7	3区	下層包含層	テG18	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	橙5YR6/6	精良	体部小片	沈線。外面に赤色顔料。
190	235-4	3区	下層包含層	テC18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐5YR4/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
191	182-1	3区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	縄文。
192	186-1	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
193	186-6	3区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒10YR2/1	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。残存部全面黒斑。
194	182-3	3区	下層包含層	テH17	縄文土器 脚付鉢	—	—	脚径 7.5	内面工具ナデ	橙7.5YR6/2	4mm以下の砂粒含	脚台4/12	透孔4方。縄文。
195	235-2	3区	下層包含層	テC18	縄文土器 深鉢把手	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒含	把手完存	
196	184-1	3区	下層包含層	テA18	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.8	ナデ	浅黄橙10YR8/4	3mm以下の砂粒含	底部1/12	
197	181-2	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.6	ナデ	橙5YR6/6	5mm以下の砂粒含	底部完存	
198	184-4	3区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.8	ナデ	橙7.5YR7/6	5mm以下の小石含	底部2/12	
199	184-3	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.2	ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
200	235-1	3区	下層包含層	テB18	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.4	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4mm以下の砂粒含	底部3/12	
201	184-2	3区	下層包含層	テA18	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.0	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	底部1/12	
202	184-5	3区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 10.0	ナデ	橙5YR6/6	4mm以下の小石含	底部2/12	
203	185-1	3区	下層包含層	テE18	縄文土器 深鉢	26.2	—	—	外面ナデ、内面ヘラ ミガキ	橙7.5YR7/6	4mm以下の小石含	口縁部2/12	
204	184-6	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
205	235-3	3区	下層包含層	テA18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	にぶい橙5YR6/4	4mm以下の砂粒含	体部小片	刺突文。
206	181-1	3区	下層包含層	テE17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	5mm以下の砂粒含	体部片	
207	212-8	3区	下層包含層	テC18	打欠石鏝	幅 3.72	長 5.08	残重 27.4g	—	明オレンジ灰5Y7/1	砂岩	8/12	
208	212-5	3区	下層包含層	—	打欠石鏝	幅 6.9	長 8.43	重 197.7g	—	灰白7.5Y7/1	砂岩	完形	
209	216-3	3区	下層包含層	テC18	敲石	幅 7.6	長 9.8	重 500.7g	—	灰白7.5Y7/1	砂岩	完形	敲面に赤色顔料付着。
210	220-3	3区	下層包含層	テA18	RF	幅 3.3	長 8.1	重 5.62g	—	灰N5/	サヌカイト	—	
211	195-8	3区	表土	テE18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
212	184-7	3区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
213	195-7	3区	表土	テE18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
214	185-4	3区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR6/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
215	195-9	3区	表土	テE18	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR5/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯。
216	186-2	3区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
217	194-5	3区	—	テC17 P3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	渦文。
218	195-10	3区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐10YR3/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
219	194-6	3区	—	テC17 P3	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ	灰黄褐10YR5/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
220	182-4	3区	排土	—	縄文土器 注口土器	—	—	—	ヘラミガキ・ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	注口部完存	磨消縄文。
221	195-6	3区	表土	テE18	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.6	ナデ	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
222	195-3	3区	—	テD17 P8	弥生土器 壺	13.0	—	—	ハケメ	赤褐5YR4/6	やや精良	口縁部2/12	
223	195-4	3区	—	テE17 P1	土師器 皿	15.6	—	—	底部外面未調整	橙2.5YR6/6	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
224	195-5	3区	—	ソV18 P1	土師器 皿	11.8	2.0	—	—	灰黄褐10YR6/2	精良	口縁部2/12	摩滅が激しく調整不明。
225	195-2	3区	—	テD17 P8	灰釉陶器 碗	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
226	194-7	3区	—	テD17 P3	山茶碗	14.3	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部2/12	
227	195-1	3区	—	テD17 P4	須恵器 壺	11.0	—	—	ロクロナデ	灰白N6/	精良	口縁部2/12	
228	216-1	3区	表土	テE18	磨石	残幅 5.1	残長 5.7	残重 136g	—	灰7.5Y6/1	砂岩	2/12	
229	213-4	3区	表土	テE18	打欠石鏝	幅 5.25	長 7.66	重 97.2g	—	灰白10Y7/1	砂岩	完形	
230	160-1	4区	SD704001 No.6	テO16	土師器 壺	15.7	25.7	底径 7.0	外面ハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
231	158-2	4区	SD704001	テP16	土師器 壺	15.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部6/12	刺突文。
232	162-1	4区	SD704001 No.5・6	テO16	土師器 壺	21.0	—	—	ヘラミガキ	灰白2.5Y8/2	4mm以下の砂粒含	口縁部8/12	二重口縁。
233	161-1	4区	SD704001 No.2	—	土師器 壺	16.0	28.4	底径 6.0	外面ヘラミガキ、内 面ハケメ	橙7.5YR7/6	3mm以下の砂粒多 含	口縁部欠損	刺突文+横線文+波状文。
234	158-1	4区	SD704001	—	土師器 壺	15.8	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	
235	162-2	4区	SD704001 No.4	—	土師器 壺	—	—	底径 3.2	外面ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/4	4mm以下の砂粒含	体部下半完存	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑤



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
236	159-1	4区	SD704001 No.3	—	土師器甕	14.2	22.7	脚径9.4	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	11/12	S字口縁。肩部に横線。
237	162-3	4区	SD704001 No.3	—	土師器甕	—	—	—	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	台基部完存	
238	158-3	4区	SD704001 No.1	—	土師器甕	—	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	1/12以下	
239	226-6	4区	SD704001	テO16	縄文土器深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/4	3.5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	隆帯。摩滅が激しく調整不明。
240	226-3	4区	SD704001	テN16	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	2.5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+縄文。
241	226-8	4区	SD704001	テO16	縄文土器深鉢	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	2.5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	刺突文。摩滅が激しく調整不明。
242	226-1	4区	SD704001	テN15	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR5/1	3mm以下の砂粒多含	口縁部小片	縄文。
243	226-7	4区	SD704001	テD16	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3mm以下の砂粒多含	口縁部小片	縄文。
244	226-5	4区	SD704001	テN15	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰7.5YR4/1	3.5mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線。
245	226-2	4区	SD704001	テN15	縄文土器深鉢	—	—	—	—	にぶい褐7.5YR6/3	3mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線+縄文。摩滅が激しく調整不明。
246	157-3	4区	SD704001	テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒多含	体部小片	充填縄文。
247	157-4	4区	SD704001	テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	充填縄文。
248	226-4	4区	SD704001	テN15	縄文土器深鉢	—	—	底径7.2	—	橙5YR7/6	2.5mm以下の砂粒多含	底部4/12	摩滅が激しく調整不明。
249	157-7	4区	SD704001	テO16	縄文土器深鉢	—	—	底径10.8	ナデ	橙7.5YR7/6	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
250	153-8	4区	SH704011 土器溜り	テO17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	4mm以下の小石含	口縁部小片	沈線+縄文。
251	230-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+縄文。
252	150-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+縄文。
253	153-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	明赤褐5YR5/6	2mm以下の砂粒含	体部小片	突帯+縄文。
254	151-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
255	157-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	磨消縄文。
256	157-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	磨消縄文。
257	150-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR5/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
258	151-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y5/1	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
259	150-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
260	150-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
261	227-1	4区	SH704011	テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/4	3.5mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線+縄文。摩滅が激しく調整不明。
262	155-4	4区	SH704011	テO17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	4mm以下の小石含	体部小片	沈線+縄文。261と同一個体か。
263	230-7	4区	SH704011	テO17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
264	155-6	4区	SH704011	テO17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	4mm以下の小石含	体部小片	沈線+縄文。263と同一個体か。
265	228-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙5YR7/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
266	228-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい赤褐5YR4/3	2mm以下の微砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
267	151-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
268	156-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい橙5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
269	153-7	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	外面条線、内面ナデ	黄灰2.5Y4/1	5mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
270	230-6	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
271	153-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	外面条線、内面ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
272	154-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	外面条線、内面ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
273	228-1	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器深鉢	—	—	—	外面条線、内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	精良	体部小片	沈線。
274	230-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
275	144-6	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	5mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。渦文。
276	154-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
277	144-1	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
278	154-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	3mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
279	155-1	4区	SH704011	テO17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	明黄褐10YR6/6	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
280	153-6	4区	SH704011	テO17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	7mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
281	230-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
282	153-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯+沈線。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑥

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
283	154-7	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
284	153-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	精良	体部小片	隆帯+沈線。
285	154-6	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
286	156-8	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
287	144-3	4区	SH704011 石囲炉下層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
288	155-2	4区	SH704011	テO17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
289	147-1	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/4	2mm以下の砂粒含	体上部完存	沈線。
290	143-2	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
291	143-1	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
292	142-7	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5mm以下の小石・ 雲母含	体部小片	沈線。
293	154-8	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
294	154-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
295	155-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐7.5YR4/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
296	155-7	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	4mm以下の小石含	体部小片	沈線+縄文。
297	227-3	4区	SH704011	テP17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.6	外面ヘラミガキ、内 面ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	4mm以下の砂粒多 含	底部2/12	
298	157-6	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 7.0	ナデ	にぶい黄橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	底部1/12	
299	157-8	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.6	ナデ	橙2.5YR7/6	2mm以下の砂粒含	底部3/12	
300	142-6	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 13.0	ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	4mm以下の小石含	底部3/12	
301	157-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面ヘラケズリ、内 面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	底部小片	
302	229-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰N5/	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。摩滅が激しく文 様・調整不明。
303	229-7	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐5YR4/2	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	縄文。
304	230-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	縄文。
305	228-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
306	155-8	4区	SH704011	テO17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	3mm以下の小石含	体部小片	縄文。
307	148-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の小石含	体部小片	縄文。
308	150-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	3mm以下の小石含	体部小片	縄文。
309	152-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ	にぶい褐7.5YR6/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
310	148-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の小石含	体部小片	縄文。
311	155-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	条線。
312	143-4	4区	SH704011 石囲炉	テO17	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	黄灰2.5Y5/1	3mmの砂粒含	体部小片	条線。摩滅が激しく調整不 明。
313	143-3	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y5/1	6mm以下の小石含	体部小片	条線。
314	144-2	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	3mm以下の小石含	体部小片	条線。
315	143-6	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	4mm以下の小石含	体部小片	条線。
316	143-5	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	4mm以下の小石含	体部小片	条線。
317	144-4	4区	SH704011 石囲炉	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	4mm以下の小石含	体部小片	条線。
318	147-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕・ヘラミガ キ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁内面に沈線2条。
319	156-6	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	灰黄褐10YR6/2	4mm以下の小石含	口縁部小片	
320	156-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	6mm以下の小石含	口縁部小片	
321	156-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
322	229-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	褐灰7.5YR4/1	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
323	230-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい橙5YR6/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
324	228-7	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	褐灰7.5YR4/1	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
325	228-8	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	褐灰10YR4/1	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	
326	228-6	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ヘラ ミガキ	にぶい橙5YR7/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	口唇部に刺突文。
327	153-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	浅黄2.5Y7/3	7mm以下の小石含	口縁部小片	
328	229-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ヘラ ミガキ	明褐灰7.5YR7/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
329	229-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	灰黄褐10YR5/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部外面に沈線1条。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑦

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
						口径	器高	その他					
330	152-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	29.8	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	焼成後穿孔。
331	152-2	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	焼成後穿孔。330と同一個体か。
332	228-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明赤褐2.5YR5/6	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	
333	144-5	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	3mm以下の小石含	口縁部小片	
334	156-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
335	151-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5Y4/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
336	229-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面工具ナデ、内面 条痕	黒褐7.5YR3/2	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	摩滅が激しく調整不明確。
337	227-2	4区	SH704011	テO17	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部小片	摩滅が激しく調整不明。
338	156-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
339	225-1	4区	SH704011 石皿	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	にぶい黄橙10YR5/3	4mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
340	152-4	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面ヘラケズリ、内 面ナデ	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。
341	154-2	4区	SH704011	テP16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	6mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。
342	229-6	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰N5/	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。摩滅が激しく調 整不明。
343	156-7	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	
344	149-1	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 深鉢	29.6	—	—	内面ヘラミガキ・ヘ ラケズリ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	剥離により外面調整不明。
345	147-3	4区	SH704011	テO17 テP17	縄文土器 浅鉢	15.6	—	—	外面条痕、内面ヘラ ミガキ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	刺突文+沈線。
346	139-1	4区	SX704014	テO17	縄文土器 浅鉢	38.8	—	—	内面ナデ	灰黄褐10YR4/2	2mm以下の砂粒含	3/12	沈線+波状文+縄文。
347	225-3	4区	SZ704012	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	明赤褐5YR5/6	5mm以下の砂粒多 含	体部小片	縄文。
348	136-3	4区	SZ704012	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
349	225-2	4区	SZ704012	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	褐7.5YR4/3	5mm以下の砂粒多 含	体部小片	縄文。摩滅が激しく調整不 明。
350	128-1	4区	SZ704012	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	5mm以下の砂粒含	底部完存	
351	140-1	4区	SX704015	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.9	外面ヘラミガキ	灰黄褐10YR5/2	5mmの砂粒・雲母 多含	5/12	波状口縁。突帯+沈線+刺 突。
352	220-1	4区	SX704015	テO16	石匙	残幅 2.3	残長 2.5	残重 2.25g	—	灰N5/	サヌカイト	6/12	
353	135-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/4	7mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
354	135-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+刺突。
355	132-1	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 浅鉢	—	—	—	外面ナデ、内面ヘラ ミガキ	灰黄褐10YR4/2	1mm以下の長石含	口縁部小片	沈線+刺突。
356	130-7	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR6/6	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	突帯+羽状刻目。
357	134-7	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
358	136-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	精良	口縁部小片	沈線+条線。
359	138-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明黄褐10YR6/6	4mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
360	128-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+縄文。
361	129-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR8/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+綾杉文。
362	136-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
363	134-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面未調整	浅黄橙10YR8/4	4mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
364	129-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR8/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+綾杉文。
365	131-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	渦文。
366	138-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐7.5YR4/6	4mm以下の小石含	体部小片	渦文。
367	130-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR6/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	渦文+刺突+縄文。
368	132-2	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	2mm以下の長石含	体部小片	渦文+沈線。
369	136-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	5mm以下の小石含	体部小片	渦文。
370	128-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+縄文。
371	130-6	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
372	131-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
373	131-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
374	138-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	赤褐5YR4/6	4mm以下の小石含	体部小片	沈線+縄文。
375	231-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	やや粗	体部小片	沈線+縄文。
376	130-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑧

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
						口径	器高	その他					
377	231-6	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
378	137-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。摩滅が激しく調整不明。
379	132-4	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR4/1	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	条線。
380	132-5	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	5mm以下の砂粒含	口縁部小片	条線。
381	128-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	条線。
382	137-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。口縁部に穿孔+刺突+沈線。
383	231-9	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐7.5YR3/1	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	縄文。
384	131-6	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+縄文。
385	138-7	4区	SZ704013	—	縄文土器 浅鉢	21.0	—	—	外面ナデ、内面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR6/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
386	231-8	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	刺突+条線。
387	138-6	4区	SZ704013	—	縄文土器 壺	11.0	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	4mm以下の小石含	口縁部2/12	条線。脚の可能性あり。
388	131-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	
389	231-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	
390	231-7	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ヘラミガキ	褐灰10YR4/1	4mm以下の砂粒含	体部小片	
391	138-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
392	231-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ヘラミガキ	灰褐7.5YR5/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
393	231-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	
394	132-3	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	灰黄褐10YR5/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	
395	137-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	4mm以下の小石含	口縁部小片	全片黒黒斑。
396	133-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面ナデ、内面未調整	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
397	231-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	
398	137-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
399	138-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 壺	13.6	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	脚の可能性あり。
400	137-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	摩滅が激しく調整不明。
401	133-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	
402	135-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	37.6	—	—	ナデ	黒褐10YR3/2	3mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
403	138-8	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	20.0	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	
404	131-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	5mm以下の砂粒含	口縁部小片	
405	136-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	灰黄褐10YR5/2	3mm以下の小石含	体部小片	
406	134-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	4mm以下の砂粒含	体部小片	
407	128-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 12.8	ナデ	浅黄橙10YR8/3	4mm以下の小石含	底部6/12	
408	133-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.7	外面ナデ、内面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	底部4/12	
409	132-7	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.6	ナデ	褐灰10YR5/1	3mm以下の砂粒含	底部2/12	
410	130-2	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	底部小片	
411	134-5	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 11.1	ナデ	橙2.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	底部2/12	摩滅が激しく調整不明確。
412	132-6	4区	SZ704013	テQ16	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.5	ナデ	明赤褐2.5YR5/6	1mm以下の砂粒含	底部2/12	
413	134-6	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.3	未調整	灰黄2.5Y7/2	5mm以下の砂粒含	底部4/12	
414	130-1	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.7	ナデ	灰黄2.5Y6/2	4mm以下の砂粒含	底部3/12	内面に工具痕。
415	136-6	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.8	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	4mm以下の小石含	底部4/12	
416	136-7	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.6	ナデ	橙7.5YR6/6	2mm以下の砂粒含	底部3/12	
417	136-8	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.6	ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	5mm以下の小石含	底部3/12	
418	134-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.8	ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	9mm以下の砂粒含	底部2/12	
419	133-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.0	底部外面ヘラケズリ、他は未調整	にぶい黄橙10YR7/4	5mm以下の砂粒含	底部5/12	
420	134-4	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 10.0	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	底部2/12	
421	130-3	4区	SZ704013	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 11.0	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	底部3/12	
422	221-3	4区	SZ704013	—	楔形石器	幅 3.4	長 3.6	重 15.09g	—	灰6/	サヌカイト	完形	
423	220-4	4区	SZ704013	—	R F	幅 4.8	長 3.3	重 12.62g	—	灰5/	サヌカイト	—	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑨



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
424	219-1	4区	SZ704013	—	敲石	幅 3.0	残長 6.0	残重 51.07g	—	灰白5Y7/1	砂岩	9/12	
425	213-7	4区	SZ704013	テQ16	打欠石錘	幅 5.5	長 6.86	重 123.2g	—	明褐灰7.5YR7/1	砂岩	完形	
426	227-7	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐7.5YR4/3	4mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	沈線。
427	142-4	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明赤褐5YR5/6	5mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
428	145-3	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
429	227-6	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR5/2	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
430	146-1	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐7.5YR5/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
431	145-2	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR4/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
432	145-1	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐7.5YR4/3	やや精良	口縁部小片	刻目。
433	145-4	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ	黒褐10YR3/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
434	146-2	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面未調整	灰黄褐10YR4/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
435	146-3	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面未調整	灰黄褐10YR4/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
436	146-4	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	綾杉文。
437	145-6	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	
438	145-5	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR4/1	9mm以下の砂粒含	口縁部小片	
439	145-7	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面ナデ、内面ヘラ ミガキ	灰黄褐10YR6/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	磨消縄文。
440	146-5	4区	下層包含層	テO16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明赤褐5YR5/6	2mm以下の砂粒含	底部小片	摩滅が激しく調整不明確。
441	146-7	4区	下層包含層	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.5	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	4mm以下の砂粒含	底部10/12	摩滅が激しく調整不明確。
442	146-6	4区	下層包含層	テO17	縄文土器 深鉢	—	—	底径 10.8	内面ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	底部3/12	摩滅が激しく調整不明確。
443	213-1	4区	下層包含層	—	打欠石錘	幅 5.2	長 6.53	重 80.0g	—	灰白10Y7/1	砂岩	完形	
444	213-2	4区	下層包含層	—	打欠石錘	幅 5.86	長 6.41	重 102.4g	—	明オリーブ灰2.5GY7/1	緑泥片岩	完形	
445	142-5	4区	SK704002	テO16 テP16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄2.5Y7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
446	141-6	4区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	羽状刻目。
447	227-5	4区	—	テP17 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR5/2	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	沈線。摩滅が激しく調整不 明。
448	141-4	4区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面条痕、内面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
449	141-1	4区	表土	テP16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	縄文。
450	141-2	4区	表土	テP16	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR6/1	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
451	227-4	4区	—	テP17 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR4/2	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部小片	
452	142-2	4区	—	テP17 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	精良	口縁部小片	
453	141-5	4区	排土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	隆帯。
454	142-3	4区	—	テQ17 P2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
455	141-3	4区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	底部小片	
456	213-5	4区	排土	—	打欠石錘	幅 5.92	長 8.72	重 150.7g	—	オリーブ灰5GY6/1	緑泥片岩	完形	
457	84-3	5区	SD705001	テW17	土師器 台付甕	—	—	脚径 7.4	ナデ	橙5YR6/6	精良	脚部10/12	
458	84-2	5区	SD705001	テV17	山茶碗	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
459	17-7	6区	SD706003	ニL18	土師器 皿	11.8	2.8	—	底部外面未調整	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
460	17-8	6区	SD706003	ニM18	土師器 皿	7.9	1.1	—	内面ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
461	17-5	6区	SD706003	ニL18	土師器 皿	7.8	1.2	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒 含	9/12	
462	17-6	6区	SD706003	ニL18	土師器 皿	7.4	1.0	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒 含	7/12	歪みが激しい。
463	18-1	6区	SD706003	ニL18	土師器 鍋	27.6	—	—	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部4/12	内外面に炭化物付着。
464	17-2	6区	SD706003	ニM18	山茶碗	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部2/12	
465	17-3	6区	SD706003	ニM18	山茶碗	—	—	高台径 5.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
466	17-4	6区	SD706003	ニL18	陶器 深鉢	24.6	—	—	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	瀬戸。
467	17-1	6区	SD706003	ニL18	陶器 甕	22.5	—	—	ロクロナデ	灰白10Y7/1	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	常滑。
468	30-3	6区	SK706015	ニN19	土師器 皿	7.4	0.9	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
469	18-4	6区	SD706006	ニK19	土師器 皿	10.8	2.25	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
470	18-5	6区	SD706006	ニK19	土師器 皿	10.8	2.15	—	—	浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑩

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
471	18-3	6区	SD706006	ニM19	土師器 皿	11.2	2.20	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
472	18-2	6区	SD706006	ニM19	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ、内面工 具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
473	19-2	6区	SD706006	ニK18	天目茶碗	12.4	—	—	体部外面下半クロク ロナデ	淡黄2.5Y8/3	微砂粒含	口縁部1/12	体部外面下半に錆蝕。瀬戸。
474	19-1	6区	SD706006	ニM19	陶器 播鉢	—	—	底径 11.8	クロクロナデ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	底部1/12	瀬戸。
475	19-3	6区	SD706006	ニM19	青磁 碗	—	—	高台径 4.8	底部外面クロクロナ ズリ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	底部充存	
476	19-4	6区	SD706006	ニM19	山茶碗	17.0	—	—	クロクロナデ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
477	19-5	6区	SD706006	ニM19	山茶碗	16.6	—	—	クロクロナデ	灰白5Y8/1	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	口縁部外面に弱い沈線。
478	39-3	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	11.6	—	—	外面未調整	灰白7.5YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
479	39-2	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	13.0	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
480	39-5	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	10.2	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
481	39-4	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	11.2	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
482	39-6	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	10.6	1.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
483	39-7	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	8.4	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
484	39-8	6区	SK706007	ニK19	土師器 皿	6.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
485	38-2	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	31.8	—	—	—	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
486	38-4	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	31.4	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
487	38-3	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	32.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
488	37-1	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	27.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
489	39-1	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	33.8	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。
490	37-3	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	27.8	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
491	37-2	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	27.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
492	38-1	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	34.8	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着、内面に炭化物 付着。
493	41-1	6区	SK706007	ニK19	土師器 鍋	34.6	—	—	ハケメ	にぶい橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
494	41-3	6区	SK706007	ニK19	山茶碗	14.0	5.1	高台径 5.3	クロクロナデ	灰白N8/	7mm以下の小石含	完形	口縁部内面に自然釉。
495	40-1	6区	SK706007	ニK19	山茶碗	14.2	—	—	クロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部内面に煤薄く付 着。
496	40-3	6区	SK706007	ニK19	山茶碗	—	—	高台径 7.2	クロクロナデ	灰白2.5Y8/1	3mm以下の砂粒含	高台8/12	底部外面に糞状圧痕。
497	40-2	6区	SK706007	ニK19	山茶碗	14.6	—	—	クロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部内面に自然釉。
498	41-2	6区	SK706007	ニK19	山茶碗	14.2	5.3	高台径 5.5	クロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	6/12	口縁部内面に自然釉。高 台に鋭痕。
499	40-4	6区	SK706007	ニK19	山茶碗	14.4	4.9	高台径 6.4	クロクロナデ	灰白2.5Y7/1	6mm以下の小石含	完形	内面に自然釉。
500	29-3	6区	SK706009	ニK19	土師器 皿	12.0	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部4/12	
501	29-8	6区	SK706009	ニK19	山茶碗	—	—	高台径 8.0	—	灰白2.5Y7/1	精良	高台3/12	
502	29-7	6区	SK706028	ニN21	青磁 碗	—	—	高台径 12.0	—	灰白5Y8/1	精良	高台1/12	
503	30-6	6区	SK706011	ニL18	土師器 蓋	15.0	—	—	底部外面ヘラクス リ、内面工具ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	精良	口縁部1/12	
504	31-4	6区	SK706013	ニL19	土師器 皿	7.0	0.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
505	31-3	6区	SK706013	ニL19	土師器 皿	8.9	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
506	31-5	6区	SK706013	ニL19	施釉陶器 碗	9.8	—	—	クロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。
507	32-1	6区	SK706021	ニO19	土師器 鍋	29.4	—	—	外面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
508	31-8	6区	SK706021	ニN19	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
509	31-9	6区	SK706021	ニN19	青磁 碗	16.0	—	—	クロクロナデ	灰白N8/	精良	口縁部1/12	運弁文。
510	31-7	6区	SK706021	ニN19	山茶碗	—	—	—	クロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部に自然釉。
511	31-6	6区	SK706021	ニN19	山茶碗	—	—	—	クロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部に自然釉。
512	34-6	6区	SK706010	ニO19	土師器 皿	11.2	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
513	34-5	6区	SK706010	ニL18	土師器 皿	11.0	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部5/12	底部外面に板状圧痕。
514	34-2	6区	SK706010	ニL18	土師器 皿	11.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部3/12	歪みが激しい。
515	34-1	6区	SK706010	ニL18	土師器 皿	11.6	—	—	外面未調整	灰白10YR8/1	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部2/12	歪みが激しい。
516	34-4	6区	SK706010	ニL18	土師器 皿	7.2	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部3/12	
517	34-3	6区	SK706010	ニL18	土師器 皿	7.8	1.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	歪みが激しい。

第2表 第7次調査出土遺物観察表①

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
518	35-3	6区	SK706010	ニO19	土師器鍋	19.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
519	35-1	6区	SK706010	ニO19	土師器鍋	31.8	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
520	35-2	6区	SK706010	ニO19	土師器鍋	24.7	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
521	34-8	6区	SK706010	ニO19	土師器鍋	30.8	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。
522	35-4	6区	SK706010	ニO19	土師器羽釜	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	2.5mm以下の砂粒含	口縁部小片	
523	34-7	6区	SK706010	ニO19	土師器茶釜	13.4	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
524	35-5	6区	SK706010	ニO19	施釉陶器椀	17.9	—	—	—	灰白2.5Y8/1	微砂粒含	口縁部1/12	瀬戸。灰釉。
525	32-3	6区	SK706022	ニL18	土師器鍋	19.8	—	—	外面未調整、内面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
526	32-2	6区	SK706022	ニL18	土師器羽釜	22.3	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	淡黄5YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
527	32-5	6区	SK706022	ニL18	山茶椀	—	—	高台径6.5	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	高台3/12	高台に砂痕。内面に自然釉。
528	32-4	6区	SK706022	ニK18	山茶椀	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	高台2/12	内面に自然釉。
529	32-6	6区	SK706022	ニL18	陶器鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	4mm以下の小石含	高台2/12	
530	42-2	6区	SK706030	ニO21	施釉陶器椀	7.8	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	灰釉。焼成やや不良。
531	29-5	6区	SK706031	ニN22	土師器皿	8.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	
532	28-4	6区	SK706023	ヌM1	土師器鍋	27.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
533	28-3	6区	SK706023	ヌM1	土師器鍋	28.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
534	30-5	6区	SK706023	ヌO1	土師器鍋	16.0	—	—	底部外面ヘラケズリ、内面ハケメ	橙2.5YR6/6	精良	口縁部1/12	
535	30-4	6区	SK706023	ニN25	土師器茶釜	13.0	—	—	外面ハケメ	浅黄橙10YR8/4	精良	口縁部2/12	
536	29-4	6区	SK706023	ニN25	天目茶椀	11.0	—	—	ロクロナデ	淡黄2.5Y8/3	精良	口縁部2/12	
537	28-1	6区	SK706023	ヌM1	陶器捏鉢	27.0	—	—	外面未調整	にぶい橙2.5YR6/4	精良	口縁部1/12	常滑。赤焼。
538	27-1	6区	SK706023	ヌN1	陶器捏鉢	32.0	8.0	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/6	8mm以下の小石含	3/12	常滑。
539	27-2	6区	SK706023	ヌN1	陶器挿鉢	30.0	—	—	—	橙5YR7/6	精良	口縁部1/12	常滑。
540	33-1	6区	SE706035	ニO22	土師器鍋	41.7	—	—	—	灰褐7.5YR5/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
541	33-4	6区	SE706035	ニO22	陶器挿鉢	—	—	底径8.8	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	底部4/12	外面に煤付着。
542	33-2	6区	SE706035	ニO22	陶器甕	21.2	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	常滑。
543	36-5	6区	SK706024	ニO19	土師器皿	11.4	—	—	外面未調整	灰白10YR8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
544	36-6	6区	SK706024	ニO19	土師器皿	8.0	1.3	—	外面未調整	橙5YR6/6	1mm以下の砂粒含	口縁部5/12	
545	36-1	6区	SK706024	ニO19	土師器鍋	41.1	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
546	36-3	6区	SK706024	ニO19	土師器鍋	25.6	—	—	外面ハケメ+ヘラケズリ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤厚く付着。内面に炭化物付着。
547	36-2	6区	SK706024	ニO19	土師器鍋	35.0	—	—	外面ハケメ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。
548	36-4	6区	SK706024	ニO19	土師器茶釜	14.8	—	—	外面ハケメ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面の一部に煤若干付着。
549	35-6	6区	SK706024	ニO19	陶器甕	31.6	—	—	ロクロナデ	にぶい黄褐2.5YR5/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
550	36-7	6区	SK706024	ニN19	土鉢	1.2	残長2.9	残重1.58g	ロクロナデ	にぶい橙5YR6/4	微砂粒含	5/12	
551	29-1	6区	SK706026	ニN20	土師器皿	12.0	2.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
552	30-2	6区	SK706026	ニN20	土師器皿	7.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	
553	29-2	6区	SK706026	ニN20	土師器皿	10.0	1.9	—	ナデ	橙5YR7/6	精良	口縁部2/12	
554	28-2	6区	SK706026	ニN20	土師器焙烙	30.0	—	—	底部外面ヘラケズリ	にぶい橙5YR6/4	精良	口縁部1/12	
555	29-6	6区	SK706026	ニN20	施釉陶器椀	13.0	—	—	ロクロナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	瀬戸美濃。灰釉。刷毛目椀。
556	43-1	6区	SK706026	ニN20	陶器捏鉢	32.9	11.5	底径16.5	ロクロナデ	橙2.5YR6/6	精良	8/12	常滑。SK706030と接合。
557	33-3	6区	SK706026	ニN20	陶器挿鉢	—	—	底径12.4	体部下外面ロクロケズリ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	底部3/12	
558	42-1	6区	SK706026	ニN20	陶器甕	49.4	—	—	ロクロナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
559	30-1	6区	SK706026	ニN20	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	7mm以下の小石含	体部小片	
560	23-6	6区	SD706033	ニL18	土師器皿	11.4	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
561	22-4	6区	SD706033	ニL18	土師器皿	11.8	1.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
562	23-5	6区	SD706033	ニL18	土師器皿	11.0	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
563	22-5	6区	SD706033	ニL18	土師器皿	11.4	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
564	22-7	6区	SD706033	ニL18	土師器皿	12.8	2.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑫

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器器種形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
565	23-4	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.0	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
566	22-2	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.8	2.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
567	23-7	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.4	2.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
568	23-3	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.8	2.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
569	23-1	6区	SD706033	=L18	土師器皿	12.8	2.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
570	23-2	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.4	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
571	22-3	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.8	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
572	22-1	6区	SD706033	=L18	土師器皿	11.4	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	完形	
573	22-6	6区	SD706033	=L18	土師器皿	12.4	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
574	22-8	6区	SD706033	=L18	土師器皿	12.8	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
575	23-8	6区	SD706033	=L18	土師器皿	10.4	1.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
576	24-3	6区	SD706033	=L18	土師器皿	7.8	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	5/12	
577	24-5	6区	SD706033	=L18	土師器皿	7.7	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
578	24-2	6区	SD706033	=L18	土師器皿	7.8	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	4mm以下の小石含	5/12	
579	24-1	6区	SD706033	=L18	土師器皿	7.0	1.3	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	完形	
580	24-4	6区	SD706033	=L18	土師器皿	6.7	0.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	7/12	一部黒斑。
581	26-1	6区	SD706033	=L18	土師器鍋	22.6	—	—	外面ハケメ	灰褐7.5YR6/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	口縁部外面に煤付着。
582	26-2	6区	SD706033	=L18	土師器鍋	20.8	—	—	外面ハケメ、下半内外面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面下半に煤付着。
583	25-1	6区	SD706033	=L18	土師器鍋	29.7	—	—	外面ハケメ、下半内外面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部5/12	外面から口縁部内面に煤付着。
584	25-2	6区	SD706033	=L18	土師器鍋	24.7	—	—	外面一部ハケメ、下半内外面ヘラケズリ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	体部外面に煤付着。
585	21-1	6区	SD706033	=L18	山茶碗	16.8	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
586	20-3	6区	SD706033	=L18	山茶碗	16.8	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	高台4/12	高台に靱殻痕。内面摩耗。
587	20-4	6区	SD706033	=L18	山茶碗	14.5	5.4	高台径5.7	ロクロナデ	灰白N8/	3mm以下の砂粒含	5/12	直接重焼痕。
588	21-4	6区	SD706033	=L18	山茶碗	—	—	高台径5.0	ロクロナデ	灰白N7/	2mm以下の砂粒含	高台3/12	高台に靱殻痕。底部外面に墨書記号。
589	20-2	6区	SD706033	=L18	山茶碗	13.7	5.2	高台径5.3	ロクロナデ	灰白N8/	4mm以下の小石含	口縁部先存	高台に靱殻痕。
590	21-2	6区	SD706033	=L18	山茶碗	14.2	5.6	高台径6.2	ロクロナデ	灰白N8/	4mm以下の小石含	完形	高台に靱殻痕。底部外面に墨書記号。
591	21-3	6区	SD706033	=L18	山茶碗	15.0	5.4	高台径6.0	ロクロナデ	灰白5Y8/1	3mm以下の砂粒含	9/12	高台に靱殻痕。底部外面に墨書記号。
592	20-1	6区	SD706033	=L18	陶器鉢	26.6	10.6	底径12.8	体部下端ヘラケズリ	灰白N7/	3mm以下の砂粒含	2/12	
593	26-4	6区	SD706033	=L18	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	3mm以下の砂粒多含	体部小片	土線+条線。
594	26-3	6区	SD706033	=L18	縄文土器深鉢	—	—	—	ナデ	赤褐5YR4/6	3mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯+刺突。
595	52-5	6区	SD706034	=O24	土師器皿	9.4	1.4	—	ナデ	橙5YR6/6	精良	口縁部3/12	内外面に煤薄く付着。
596	55-5	6区	SD706034	=O24	土師器皿	9.0	3.1	—	外面未調整	橙7.5YR6/6	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
597	50-8	6区	SD706034	=O24	土師器皿	8.6	1.2	—	外面未調整	橙5YR6/6	精良	ほぼ完形	口縁部に煤付着。
598	50-7	6区	SD706034	—	土師器皿	9.0	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部3/12	口縁部に煤付着。
599	50-2	6区	SD706034	=O22	土師器皿	7.4	1.1	—	外面未調整	橙5YR6/6	精良	完形	粘土紐接合痕明瞭。
600	50-1	6区	SD706034	=O25	土師器皿	5.6	1.0	—	外面未調整	にぶい橙5YR6/4	1.1mm以下の小石含	完形	
601	55-6	6区	SD706034	=O24	土師器皿	9.0	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	5/12	底部に煤付着。蓋の可能性あり。
602	51-8	6区	SD706034	=O23	土師器皿	9.6	1.5	—	ナデ	橙5YR6/8	精良	2/12	
603	50-5	6区	SD706034	=O24	土師器皿	8.6	1.4	—	外面未調整	橙5YR6/6	精良	完形	
604	52-7	6区	SD706034	=O24	土師器皿	8.4	1.3	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR6/4	精良	ほぼ完形	口縁部に煤付着。外面にヘラ状工具痕。
605	51-7	6区	SD706034	=O24	土師器皿	7.2	1.0	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	8/12	
606	51-5	6区	SD706034	=O25	土師器皿	7.0	1.2	—	外面未調整	にぶい橙5YR6/4	精良	7/12	
607	52-3	6区	SD706034	=O23	土師器皿	9.0	1.2	—	ナデ	橙5YR6/8	精良	4/12	
608	52-2	6区	SD706034	=O24	土師器皿	9.0	1.4	—	外面未調整	橙5YR6/8	精良	2/12	口縁部に煤付着。
609	52-1	6区	SD706034	=O24	土師器皿	8.4	1.2	—	ナデ	橙5YR6/6	精良	5/12	口縁部に煤付着。
610	52-8	6区	SD706034	=P21	土師器皿	7.6	1.1	—	外面未調整	橙5YR6/6	精良	ほぼ完形	口縁部に煤若干付着。
611	51-6	6区	SD706034	—	土師器皿	7.4	1.2	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	完形	口縁部に煤付着。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑬



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)		調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考	
						口径	器高						
612	52-6	6区	SD706034	—	土師器 皿	9.2	1.1	—	ナデ	橙5YR6/6	精良	6/12	内外面に煤付着。
613	50-6	6区	SD706034	ニO24	土師器 皿	8.0	1.4	—	外面未調整	橙7.5YR6/6	精良	完形	口縁部に煤付着。粘土紐接合痕明瞭。
614	51-1	6区	SD706034	—	土師器 皿	9.0	1.1	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	9/12	
615	50-4	6区	SD706034	ニO24	土師器 皿	8.2	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR6/4	精良	完形	口縁部に煤付着。
616	52-4	6区	SD706034	ニO23	土師器 皿	8.8	1.2	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	4/12	
617	50-3	6区	SD706034	ニO24	土師器 皿	8.4	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR6/4	精良	完形	口縁部に煤付着。粘土紐接合痕明瞭。
618	51-4	6区	SD706034	ニO24	土師器 皿	8.6	1.3	—	外面未調整	橙5YR6/6	精良	5/12	口縁部に煤付着。
619	56-4	6区	SD706034	ニO19	ロクロ土師器 皿	7.6	1.3	—	ロクロナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	3/12	内外面に墨書。
620	51-2	6区	SD706034	ニO25	土師器 皿	8.4	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR6/4	精良	5/12	
621	51-3	6区	SD706034	—	土師器 皿	8.4	1.4	—	外面未調整	橙7.5YR6/6	精良	6/12	
622	55-4	6区	SD706034	ニO22	土師器 皿	12.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤薄く付着。摩滅が激しい。
623	45-4	6区	SD706034	ニO24	土師器 椀	12.8	—	—	外面工具ナデ、内面ハケメ	にぶい橙7.5YR5/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤厚く付着。
624	47-3	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	43.0	—	—	底部内外面ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR6/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
625	48-1	6区	SD706034	ニO22	土師器 焙烙	42.5	—	—	外面未調整、底部内面ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	内外面に炭化物付着。
626	44-1	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	42.8	—	—	外面ヘラケズリ、内面ナデ	黒褐7.5YR3/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
627	49-2	6区	SD706034	ニO22	土師器 焙烙	41.6	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
628	47-2	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	41.4	—	—	内外面ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	内外面に煤付着。
629	49-1	6区	SD706034	ニO25	土師器 焙烙	39.0	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
630	47-1	6区	SD706034	ニO25	土師器 焙烙	39.8	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部5/12	内外面に炭化物付着。
631	44-2	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	37.8	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
632	44-4	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	36.8	—	—	工具ナデ	灰褐7.5YR4/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
633	44-3	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	36.8	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
634	49-3	6区	SD706034	ニO19	土師器 焙烙	35.2	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
635	48-3	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	35.2	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
636	48-2	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	34.2	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	内外面に炭化物付着。
637	45-1	6区	SD706034	ニO24	土師器 焙烙	32.0	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
638	45-3	6区	SD706034	ニO24	土師器 茶釜	11.4	—	—	ハケメ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
639	45-2	6区	SD706034	ニO24	土師器 土瓶	10.6	—	—	外面上半ハケメ、下半ヘラケズリ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	2/12	茶釜形態。底部外面に煤付着。
640	46-1	6区	SD706034	ニO24	土師器 茶釜	12.8	—	—	外面上半ハケメ、下半ヘラケズリ	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒含	2/12	鏝以下に煤付着。
641	53-5	6区	SD706034	ニO19	施軸陶器 椀	9.2	3.4	高台径3.4	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。鉄軸。腰錆椀。
642	53-6	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.5	5.3	高台径4.0	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	6/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
643	54-1	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.2	—	—	—	灰白7.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
644	54-3	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.2	—	—	—	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
645	54-6	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.0	—	—	—	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
646	54-5	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	—	—	高台径4.0	底部外面ロクロケズリ	灰白10YR7/1	2mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。鉄軸。腰錆椀。
647	60-4	6区	SD706034	ニO23	施軸陶器 椀	—	—	高台径3.8	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部3/12	瀬戸・美濃。鉄軸。
648	60-5	6区	SD706034	ニO20	施軸陶器 椀	—	—	高台径4.1	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部5/12	瀬戸・美濃。鉄軸。
649	53-3	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	8.7	5.4	高台径3.6	底部外面ロクロケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	完形	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
650	53-4	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.3	5.3	高台径3.8	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	ほぼ完形	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
651	53-2	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.6	5.5	高台径4.0	底部外面ロクロケズリ	灰白10YR8/1	3mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
652	53-1	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.2	5.5	高台径3.8	底部外面ロクロケズリ	灰白10YR8/1	1mm以下の砂粒含	完形	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
653	58-4	6区	SD706034	ニO22	施軸陶器 椀	9.9	—	—	—	灰白10YR8/1	精良	口縁部3/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
654	54-4	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	8.8	4.9	高台径3.5	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y7/2	2mm以下の砂粒含	底部11/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
655	58-2	6区	SD706034	ニO22	施軸陶器 椀	8.0	6.1	高台径4.4	底部外面ロクロケズリ	灰白N7/	精良	口縁部5/12	瀬戸・美濃。灰軸・鉄軸。腰錆椀。
656	60-3	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	9.6	5.7	高台径3.8	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。鉄軸。
657	59-4	6区	SD706034	ニO23	施軸陶器 椀	10.9	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/2	精良	口縁部2/12	瀬戸・美濃。灰軸。
658	59-5	6区	SD706034	ニO24	施軸陶器 椀	10.8	—	—	—	灰白5Y8/2	精良	口縁部2/12	内外面弱い氷割文。透明軸。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑭

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
659	58-3	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 碗	12.5	—	—	体部下外面ロクロ ケズリ	灰白5Y8/1	精良	口縁部3/12	瀬戸・美濃。灰釉+白色化 粧土。刷毛目碗。
660	54-2	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 碗	—	—	高台径 4.8	—	灰白10YR7/1	3mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。灰釉+鉄釉。 腰鉾碗。内面水割文。
661	57-2	6区	SD706034	ニO20	施釉陶器 碗	9.5	5.2	高台径 3.1	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	8/12	瀬戸・美濃。陶体染付。草 花文。
662	57-4	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 碗	11.8	4.8	高台径 3.9	底部外面ロクロケズ リ	灰白5Y8/1	精良	8/12	陶体染付。梅花文。
663	57-1	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 碗	11.4	4.2	高台径 3.5	底部外面ロクロケズ リ	灰白5Y8/2	精良	9/12	瀬戸美濃。陶体染付。草 花文。
664	59-2	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 碗	7.6	—	—	—	白9/	精良	口縁部2/12	灰釉。
665	58-5	6区	SD706034	ニO23	施釉陶器 碗	6.6	4.3	高台径 2.5	底部外面ロクロケズ リ	灰白5Y8/1	精良	底部完存	灰釉。
666	59-3	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 仏飯具	7.0	—	—	—	明オリブ灰2.5GY7/1	精良	口縁部2/12	灰釉。
667	58-6	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 仏飯具	7.0	—	—	底部外面ロクロケズ リ	灰白10Y8/1	精良	口縁部2/12	灰釉。
668	57-5	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 仏飯具	6.7	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部9/12	灰釉。
669	64-3	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 皿	7.8	1.2	—	底部外面ヘラケズリ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	4/12	内面鉄釉。
670	55-3	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 皿	—	—	高台径 8.6	底部外面ロクロケズ リ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部6/12	灰釉。
671	55-2	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 皿	—	—	高台径 7.4	底部外面ロクロケズ リ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部5/12	灰釉。内面水割文。
672	57-3	6区	SD706034	ニO20	施釉陶器 皿	—	—	高台径 6.1	底部外面ロクロケズ リ	灰白5Y7/1	精良	底部9/12	灰釉。草花文。
673	64-4	6区	SD706034	ニO25	施釉陶器	—	—	高台径 8.0	底部外面ロクロケズ リ	赤褐10YR5/4	2mm以下の砂粒含	底部4/12	唐津。灰釉。焼成やや不 良。
674	72-3	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 灯明皿台	6.0	6.0	底径 5.6	底部外面ロクロケズ リ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	完形	瀬戸・美濃。鉄釉。
675	62-3	6区	SD706034	ニO23	山茶碗	18.2	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	4mm以下の小石含	口縁部1/12	
676	55-1	6区	SD706034	ニO24	陶器 鉢	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。
677	60-1	6区	SD706034	ニO24	陶器 鉢	19.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	灰釉。
678	73-1	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 鉢	17.6	10.5	高台径 8.5	底部外面ロクロケズ リ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	8/12	瀬戸・美濃。鉄釉。焼成や や不良。
679	60-2	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 鉢	9.3	4.9	高台径 3.9	底部外面ロクロケズ リ	灰白10YR8/1	1mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。鉄釉。
680	72-2	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 火鉢	—	—	底径 11.9	底部外面ロクロケズ リ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	底部完存	瀬戸・美濃。鉄釉。短脚3 方。
681	73-2	6区	SD706034	ニO20	施釉陶器 鉢	—	—	高台径 9.0	底部外面ロクロケズ リ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	底部10/12	瀬戸・美濃。黄瀬戸釉。底 部外面に墨書「O」。
682	72-1	6区	SD706034	—	施釉陶器 火鉢	19.0	—	—	ロクロナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部5/12	瀬戸・美濃。鉄釉。
683	56-1	6区	SD706034	ニO23	施釉陶器 火鉢	20.0	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	瀬戸・美濃。鉄釉。内面に 煤付着。
684	70-2	6区	SD706034	ニO24	陶器 鉢	16.0	—	—	内外面未調整	にぶい赤褐5YR5/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	常滑。輪花。
685	65-1	6区	SD706034	ニO22	施釉陶器 鉢	—	—	高台径 11.0	底部外面ロクロケズ リ	灰白2.5Y7/1	精良	底部3/12	鉄釉。
686	56-2	6区	SD706034	ニO24	施釉陶器 壺	3.6	6.9	高台径 4.0	底部外面ロクロケズ リ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	5/12	鉄釉。
687	71-1	6区	SD706034	ニO24	陶器 搦鉢	36.0	—	—	底部外面下半ロクロ ケズリ	灰白2.5Y8/2	0.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
688	64-2	6区	SD706034	ニO25	陶器 搦鉢	—	—	底径 14.6	底部外面下半ロクロ ケズリ	灰白2.5Y8/1	2mm以下の砂粒含	底部1/12	
689	70-1	6区	SD706034	ニO25	陶器 搦鉢	26.6	7.1	底径 19.2	底部外面下端強い指 ナデ	灰褐5YR4/2	0.5mm以下の砂粒 含	9/12	常滑。内面にヘラ記号 「X」。
690	62-1	6区	SD706034	ニN20	陶器 控鉢	35.2	—	—	ロクロナデ	橙5YR7/6	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。内面にヘラ記号。
691	63-3	6区	SD706034	ニO24	陶器 壺	19.0	—	—	ロクロナデ	にぶい褐7.5YR5/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
692	66-2	6区	SD706034	ニO24	陶器 火鉢	24.0	—	—	ヘラケズリ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	常滑。煤厚く付着。
693	62-2	6区	SD706034	ヌO1	陶器 壺	35.2	—	—	ロクロナデ	にぶい橙5YR6/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
694	74-1	6区	SD706034	ニO24	陶器 壺	45.8	45.0	13.2	外面工具ナデ、内面 未調整	にぶい橙5YR7/4	赤色砂粒含	10/12	常滑。外面に煤付着。
695	64-1	6区	SD706034	ニO25	陶器 火鉢	—	—	底径 24.5	外面工具ナデ、内面 ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	底部1/12	内面に煤付着。
696	76-1	6区	SD706034	ニN20	陶器 壺	64.0	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	常滑。内面に煤付着。
697	75-1	6区	SD706034	ニO23	陶器 壺	63.2	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	6mm以下の小石含	口縁部5/12	常滑。
698	66-1	6区	SD706034	ニO24	陶器 壺	66.0	—	—	外面ロクロケズリ、 内面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	常滑。
699	63-2	6区	SD706034	ヌO1	陶器 壺	32.0	—	—	ロクロナデ	灰赤2.5YR4/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	常滑。
700	63-1	6区	SD706034	ニO24	陶器 壺	28.6	—	—	外面工具ナデ、内面 未調整	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	常滑。煤厚く付着。
701	61-6	6区	SD706034	ニO20	磁器 碗	8.2	5.9	高台径 3.8	—	灰白N8/	精良	5/12	瀬戸・美濃。染付。筒形 碗。菊花文、四方椿文。
702	60-7	6区	SD706034	ニO24	磁器 碗	10.2	—	—	—	灰白N8/	精良	口縁部3/12	肥前。染付。草花文。
703	61-2	6区	SD706034	ニO20	磁器 碗	9.8	5.2	高台径 3.8	—	灰白N8/	精良	8/12	肥前。染付。草花文。裏銘 「上」。
704	61-3	6区	SD706034	ニO24	磁器 碗	—	—	高台径 5.4	—	灰白N8/	精良	底部3/12	肥前。染付。五弁花文。裏 銘「大」。
705	61-1	6区	SD706034	ニO23	磁器 碗	9.4	5.5	高台径 3.7	—	灰白N8/	精良	底部完存、口縁 部小片	肥前。染付。草文。裏銘。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑮

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考	
						口径	器高	その他						
706	61-5	6区	SD706034	ニO24	磁器 椀	10.0	5.1	高台径 3.8	—	灰白N8/	精良	11/12	肥前。染付。二重網目文。 裏銘。	
707	61-4	6区	SD706034	ニO20	磁器 皿	12.3	3.9	高台径 4.1	—	灰白N8/	精良	完形	染付。蔓草文。蛇ノ目軸 刺。	
708	60-6	6区	SD706034	ニO24	青磁 椀	—	—	高台径 5.6	底部外面ロクロズリ	灰白N8/	微粒子含	底部4/12		
709	59-1	6区	SD706034	ニO24	磁器 仏飯具	7.0	—	—	—	明オリープ灰2.5GY7/1	精良	口縁部3/12		
710	60-8	6区	SD706034	ニO24	磁器 仏飯具	5.3	5.3	脚径 3.5	—	灰白N8/	精良	ほぼ完形	肥前。葉文。	
711	68-1	6区	SD706034	ニO24	軒丸瓦	—	—	—	凸面ヘラケズリ	灰N5/	精良	瓦当欠損		
712	67-1	6区	SD706034	ニO24	軒平瓦	—	谷深 4.8	—	ヘラケズリ	暗灰N3/1	精良	瓦当欠損		
713	69-1	6区	SD706034	ニO20	丸瓦	—	4.8	—	凸面工具ナデ、凹面 タタキ	灰N5/1	精良	7/12		
714	46-2	6区	SD706034	ニO24	土製品 十能	—	3.0	—	ヘラケズリ+工具ナ デ	暗灰N3/	2mm以下の砂粒含	5/12		
715	58-1	6区	SD706034	ニO20	陶製品 水滴	長幅 10.05	4.7	短幅 6.3	—	灰白 10YR8/2	精良	ほぼ完形	灰軸+赤絵。	
716	56-3	6区	SD706034	ニO24	土製品 泥面子	幅 3.2	長 8.4	—	—	灰白 10YR8/2	1mm以下の砂粒含	ほぼ完形		
717	4-2	6区	SD706034	ニO24	曲物 底板	8.4~ 11.2	厚 0.4	—	—	—	スギ	8/12	椀目。腐食が進む。	
718	6-2	6区	SD706034	ヌO1	木札	幅 5.6	残長 8.0	—	—	—	スギ	8/12以下	椀目。墨書「御谷口」	
719	4-1	6区	SD706034	ニO24	曲物 底板	11.8	厚 1.2	—	—	—	サワラ	完形	椀目。片面一部黒変。	
720	5-1	6区	SD706034	ニO24	曲物 底板	12.6~ 11.4	厚 0.7	—	—	—	スギ	完形	板目。墨書「大」。	
721	6-3	6区	SD706034	ニO20	木製品 道具材	幅 12.4	厚 3.5	—	—	—	ヒノキ	完形	椀目。双孔。	
722	8-2	6区	SB706038	ニK19 P8	土師器 皿	9.8	1.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
723	8-3	6区	SB706038	ニL19 P11	土師器 皿	10.8	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12		
724	8-4	6区	SB706038	ニL19 P11	土師器 皿	9.4	1.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12		
725	8-6	6区	SB706038	ニK19 P8	土師器 皿	10.4	1.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
726	12-7	6区	SB706038	ニL20 P13	土師器 皿	6.4	1.8	—	ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
727	12-3	6区	SB706038	ニL20 P13	土師器 皿	8.0	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部2/12		
728	9-1	6区	SB706038	ニL19 P11	土師器 皿	8.0	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
729	8-5	6区	SB706038	ニL19 P11	土師器 皿	8.8	0.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
730	8-7	6区	SB706038	ニL19 P11	土師器 皿	6.4	1.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
731	11-1	6区	SB706038	ニL20 P13	土師器 鍋	36.6	—	—	外面ハケメ、内面ナ デ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12		
732	9-4	6区	SB706038	ニK19 P8	山茶椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部2/12	高台に靱殻痕。	
733	9-3	6区	SB706038	ニK19 P8	山茶椀	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白5Y8/1	2mm以下の砂粒含	底部3/12	高台に靱殻痕。内面に煤付 着。	
734	11-7	6区	SK706039	ニN20 P4	土師器 皿	12.0	2.3	—	ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12		
735	11-3	6区	SK706039	ニN20 P4	土師器 皿	7.3	1.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	ほぼ完形		
736	12-6	6区	SK706039	ニN20 P4	土師器 皿	7.0	1.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12		
737	3-1	6区	SK706039	ニN20 P4	木製品 下駄	幅 9.1	長 23.4	厚 3.8	—	—	—	キハダ属	8/12	歯部欠損。椀目。
738	2-1	6区	SK706039	ニN20 P4	木製品 下駄	幅 9.9	長 24.0	厚 4.8	—	—	—	クリ	10/12	板目。右足用。
739	1-1	6区	SK706039	ニN20 P4	木製品 下駄	幅 10.1	長 22.2	厚 5.0	—	—	—	クリ	ほぼ完形	板目。腐食が進む。
740	6-1	6区	SK706039	ニN20 P4	曲物 底板	10.9~ 9.5	厚 0.45	—	—	—	—	スギ	10/12	板目。墨書。
741	5-2	6区	SK706039	ニN20 P4	曲物 底板	12.0~ 10.9	厚 0.8	—	—	—	—	サワラ	10/12	板目。腐食が進む。
742	31-1	6区	SK706002	ニK17	弥生土器 甕	26.0	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12		
743	13-5	6区	包含層	ニK18	土師器 皿	11.6	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12		
744	13-4	6区	包含層	ニK18	土師器 皿	11.6	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12		
745	12-4	6区	—	ニL20 P11	土師器 皿	14.0	1.7	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12		
746	10-7	6区	—	ニN19 P2	土師器 皿	12.0	1.9	—	ナデ	浅黄橙10YR8/4	精良	口縁部1/12		
747	12-1	6区	—	ニN19 P2	土師器 皿	11.0	2.1	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	精良	口縁部2/12		
748	13-3	6区	包含層	ニK18	土師器 皿	12.0	2.7	—	外面未調整、内面工 具ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	11/12	外面未調整、内面工 具ナデ	
749	11-2	6区	—	ニN20 P1	土師器 皿	8.0	1.9	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	6/12		
750	8-8	6区	—	ニM20 P6	土師器 皿	8.0	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	3/12		
751	9-2	6区	—	ニM20 P6	土師器 皿	8.0	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の砂粒含	ほぼ完形		
752	14-3	6区	包含層	ニK17	土師器 皿	8.6	1.3	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	6/12		

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑬

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
753	14-2	6区	包含層	ニK18	土師器皿	8.5	1.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
754	10-8	6区	—	ニN19 P 2	土師器皿	7.0	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	5/12	
755	11-4	6区	—	ニL20 P 11	土師器皿	7.0	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	3/12	
756	11-5	6区	—	ニL20 P 19	土師器皿	7.0	1.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	3/12	
757	12-2	6区	—	ニL20 P 10	土師器皿	7.0	0.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
758	11-6	6区	—	ニL20 P 11	土師器皿	7.6	0.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	3/12	
759	12-5	6区	—	ニL19 P 12	土師器皿	8.0	0.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
760	14-4	6区	排土	—	土師器皿	8.4	0.9	—	ナデ	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	2/12	
761	12-8	6区	—	ニN19 P 2	土師器皿	9.0	0.9	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	2/12	
762	13-1	6区	包含層	ニK18	土師器鍋	29.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
763	16-2	6区	包含層	ニK17	土師器鍋	22.8	—	—	外面未調整、内面ナデ	橙7.5YR7/6	1mm以下の砂粒含	6/12	外面に煤付着。
764	8-1	6区	—	ニK18 P 10	土師器鍋	26.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄褐10YR5/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
765	16-1	6区	包含層	ニK18	土師器茶釜	14.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	橙7.5YR7/6	微砂粒含	口縁部11/12	外面に煤付着。
766	10-3	6区	—	ニK20 P 1	山茶碗	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部3/12	重焼痕。
767	15-4	6区	表土	—	山茶碗	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部1/12	高台に靱殻痕。
768	10-2	6区	—	ニN22 P 2	山茶碗	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部6/12	高台に靱殻痕。別個体片軸着。
769	10-1	6区	—	ニK20 P 1	山茶碗	15.2	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	6mmの小石含	口縁部4/12	
770	14-1	6区	包含層	ニK18	山茶碗	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	底部ほぼ完存	高台に靱殻痕。墨書「あき」。
771	10-4	6区	—	ニM20 P 13	山茶碗	—	—	高台径6.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部4/12	高台に靱殻痕。重焼痕。
772	31-2	6区	SK706002	ニK17	山茶碗	—	—	—	—	灰白N8/	3mm以下の砂粒含	底部4/12	摩擦が激しく調整不明。
773	10-5	6区	—	ニM20 P 18	山茶碗	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部3/12	高台に靱殻痕。
774	9-5	6区	—	ニM20 P 13	山茶碗	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部2/12	高台に靱殻痕。
775	10-6	6区	—	ニL20 P 3	山皿	7.0	1.4	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	2/12	
776	9-6	6区	—	ニM20 P 3	陶器鉢	23.0	—	—	ロクロナデ	灰白10YR7/1	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
777	14-6	6区	表土	ニK19	陶器鉢	—	—	底径13.7	体部外面下端ヘラケズリ	灰白N8/	5mmの小石含	底部2/12	
778	13-2	6区	包含層	ニK18	陶器鉢	—	—	底径7.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	2mm以下の砂粒含	底部完存	見込に櫛描文。
779	15-1	6区	排土	—	旋軸陶器鉢	29.3	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	瀬戸。灰軸。葉文。
780	15-3	6区	表土	—	旋軸陶器灯明皿	4.6	1.9	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	灰軸。
781	15-2	6区	包含層	ニK18	平瓦	—	谷深1.0	—	凹面ヘラケズリ、凸面縄タタキ	灰白N5/	3mm以下の砂粒含	1/12以下	陶質。
782	84-1	7区	SD707002	又N 7	土師器鍋	34.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
783	87-1	8区	SB708005	カT13 P 1	土師器杯	13.0	2.6	—	底部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部9/12欠損	内面に工具痕。
784	87-2	8区	SB708005	カU13 P 1	土師器皿	12.8	1.4	—	底部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の砂粒含	1/12	
785	178-2	9区	SD709003	クR 3	弥生土器高杯	—	—	脚基部径4.0	外面ヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	脚基部完存	櫛描横線文3段以上。
786	178-4	9区	SD709003	クR 3	弥生土器壺	—	—	脚径12.0	外面ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/4	2mm以下の砂粒含	脚部2/12	
787	178-3	9区	SD709003	クR 3	土師器壺	15.0	—	—	—	橙7.5YR7/6	精良	口縁部2/12	
788	179-4	9区	SD709003	クR 3	土師器杯	13.6	2.4	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	精良	口縁部3/12	
789	179-5	9区	SD709003	クR 3	山茶碗	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部6/12	均質。
790	180-3	9区	SD709003	クR 3	山茶碗	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部5/12	
791	179-2	9区	SD709003	クR 3	山茶碗	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部5/12	
792	180-2	9区	SD709003	クR 3	山茶碗	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部5/12	内面平滑。
793	180-1	9区	SD709003	クR 3	陶器壺	—	—	肩部径13.6	体部下半ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	体部3/12	肩部に軸。
794	179-3	9区	SD709004	クS 3	土師器壺	20.4	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/4	4mm以下の小石含	口縁部1/12	
795	179-1	9区	SD709004	クS 3	土師器甌	—	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部小片	
796	180-4	9区	SD709004	クS 3	灰軸陶器碗	14.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	無軸。
797	180-5	9区	SD709004	クS 3	灰軸陶器碗	14.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	無軸。
798	178-1	9区	SZ709009	クV 3	土師器甌	25.8	—	—	外面ハケメ後ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	
799	176-4	9区	SD709010	クY 3	土師器碗	11.8	—	—	内面ヘラミガキ	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部2/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表①



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
800	176-2	9区	SD709010	クY3	土師器 椀	13.6	—	—	—	橙5YR7/6	精良	口縁部2/12	摩滅が激しく調整不明。
801	176-3	9区	SD709010	クY3	土師器 杯	13.8	—	—	—	橙5YR6/6	精良	口縁部1/12	摩滅が激しく調整不明。
802	176-1	9区	SD709010	クY3	土師器 椀	11.4	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
803	176-5	9区	SD709010	クY3	土師器 甕	19.4	2.4	—	底部外面ヘラケズリ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12	
804	176-6	9区	SD709010	クY3	土師器 甕	23.0	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	
805	176-7	9区	SD709010	DA3	須恵器 蓋	—	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	天井部完存	
806	176-8	9区	表土	DA3	弥生土器 高杯	—	—	脚基部 3.2	—	にぶい橙5YR6/3	1mm以下の砂粒含	脚基部完存	透孔4方。櫛描横線文。
807	176-9	9区	表土	クX3	弥生土器 高杯	—	—	脚基部 3.0	—	橙7.5YR7/6	1mm以下の砂粒含	脚基部完存	透孔3方。櫛描横線文+二枚貝刺突文。
808	177-1	9区	表土	クW3	弥生土器 鉢	—	—	脚径 5.2	ナデ	黄灰2.5Y5/1	2mm以下の砂粒含	脚部3/12	
809	177-2	9区	表土	クX3	土師器 杯	12.2	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	
810	177-3	9区	表土	クX3	土師器 椀	10.2	3.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
811	177-4	9区	表土	DD3	土師器 甕	25.4	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR6/4	やや精良	口縁部2/12	
812	177-5	9区	表土	DA3	土師器 甕	18.2	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	
813	177-8	9区	表土	DD3	灰軸陶器 椀	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部8/12	
814	177-7	9区	表土	クW3	灰軸陶器 椀	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部4/12	
815	177-6	9区	表土	DA3	陶器 鉢	5.6	4.3	底径 4.0	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部完存	
816	217-2	9区	SK709013	DD3	石織	幅 1.45	長 2.0	残重 0.67g	—	灰N4/	チャート	左脚端欠損	
817	217-3	9区	SK709013	DD3	石織	幅 1.8	長 2.2	重 1.13g	—	灰N5/	サヌカイト	完形	
818	224-1	10区	SD710001	オB1	土師器 甕	16.2	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部1/12	
819	77-2	10区	SD710001	オB1	土師器 高杯	—	—	脚径 11.2	外面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	脚部5/12	
820	77-1	10区	SD710001	オB1	土師器 壺	12.8	—	—	外面全面連条文	浅黄橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	無頸壺。
821	77-3	10区	SD710002	オC4	土師器 壺	—	—	—	外面ハケメ、内面ヘ ラミガキ	にぶい橙5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	二重口縁壺。
822	77-4	10区	SD710002	オC3	土師器 壺	—	—	底径 5.5	外面工具ナデ、内面 ハケメ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	底部完存	
823	78-1	10区	SD710002	オC4	土師器 甕	11.5	—	—	外面ハケメ、内面ナ デ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	S字溝。肩部に横線。
824	77-5	10区	SD710002	オC3	土師器 甕	—	—	脚径 7.6	外面ハケメ+ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	脚部1/12	
825	78-2	10区	SR710003	エB24	土師器 茶釜	12.0	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
826	212-2	10区	SR710003	エB24	打製石斧	幅 5.37	長 1.22	重 85.2g	—	明オリブ灰2.5GY7/1	緑泥片岩	ほぼ完形	
827	79-1	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	29.8	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
828	83-2	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	14.4	—	—	—	にぶい橙5YR6/4	0.5mm以下の砂粒 多含	口縁部3/12	
829	78-4	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	15.0	—	—	—	にぶい橙5YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
830	83-4	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	21.2	—	—	—	にぶい橙5YR7/3	0.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
831	78-5	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	—	—	—	外面ハケメ、内面ヘ ラケズリ	にぶい橙5YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
832	78-3	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	—	—	脚径 9.0	外面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	脚部7/12	
833	79-4	10区	SD710004	エE18	須恵器 甕	11.0	—	—	ロクロナデ	灰白 N7/	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
834	78-6	10区	SD710004	エE18	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	把手完存	
835	224-2	10区	SD710005	エC18	土師器 杯	11.0	2.2	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	摩滅が激しく調整不明。
836	224-3	10区	SD710005	エC18	土師器 杯	11.8	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部1/12	
837	79-2	10区	SD710005	エC18	土師器 甕	—	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
838	79-3	10区	SD710005	エD18	土師器 甕	—	—	—	外面ハケメ、内面工 具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
839	83-3	10区	SD710005	エC18	土師器 甕	10.0	—	—	外面ハケメ、内面工 具ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	精良	口縁部3/12	
840	79-5	10区	SD710005	エC18	灰軸陶器 椀	—	—	高台径 8.3	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部5/12	
841	79-6	10区	SD710005	エC18	灰軸陶器 椀	—	—	高台径 7.9	底部外面ロクロケ ズリ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部3/12	
842	82-4	10区	SD710006	エD19	土師器 杯	13.0	—	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	
843	82-3	10区	SD710006	エE20	土師器 椀	—	—	高台径 9.0	外面未調整	灰白2.5Y8/1	精良	底部2/12	
844	83-1	10区	SD710006	エE19	土師器 甕	23.4	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
845	82-1	10区	SD710006	エC19	須恵器 甕	—	—	頸部 15.0	外面タタキ、内面同 志円文	灰白5Y8/1	精良	頸部3/12	
846	82-2	10区	SD710006	エD19	灰軸陶器 皿	11.0	2.85	高台径 5.6	底部外面未調整	灰白5Y7/1	精良	底部6/12	灰軸漬掛け。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑧

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
847	80-2	10区	SD710006	エ E 20	平瓦	—	谷深 0.7	—	凹面ヘラケズリ、凸面縄タタキ	灰褐7.5YR4/2	やや精良	1/12以下	酸化焼成。
848	80-3	10区	SD710006	エ C 19	平瓦	—	—	—	凹面ナデ、凸面縄タタキ	褐灰7.5YR4/1	1mm以下の砂粒含	1/12以下	陶質。
849	80-4	10区	SD710006	エ E 19	平瓦	—	谷深 0.5	—	凹面コビキ、凸面縄タタキ	灰白5Y5/1	精良	1/12以下	陶質。
850	86-1	10区	SD710007	エ E 21	土師器 椀	—	—	高台径 6.6	ナデ	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	底部完存	
851	85-7	10区	SD710007	エ C 20	土師器 皿	10.0	1.0	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	2/12	
852	85-6	10区	SD710007	エ C 20	土師器 甕	18.0	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	精良	口縁部2/12	内外面に煤付着。
853	86-7	10区	SD710007	エ D 20	山茶碗	19.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
854	86-2	10区	SD710007	エ E 21	山茶碗	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部2/12	
855	86-4	10区	SD710007	エ C 20	山茶碗	—	—	高台径 10.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部3/12	
856	81-3	10区	SD710007	エ D 21	山茶碗	—	—	高台径 8.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部7/12	
857	86-8	10区	SD710007	エ C 20	山茶碗	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部3/12	
858	81-4	10区	SD710007	エ C 20	山茶碗	—	—	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部6/12	内面平滑。
859	81-2	10区	SD710007	エ D 21	山茶碗	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部9/12	高台に粗粒痕多数。
860	85-3	10区	SD710007	エ C 20	山茶碗	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部3/12	高台に粗粒痕。
861	86-6	10区	SD710007	エ E 21	山茶碗	—	—	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	底部3/12	内面平滑。
862	85-5	10区	SD710007	エ E 21	山茶碗	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	底部3/12	
863	86-3	10区	SD710007	エ E 21	山茶碗	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部2/12	
864	86-5	10区	SD710007	エ C 20	山茶碗	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部2/12 高台欠損	内面変色。
865	80-1	10区	SD710007	エ C 20	平瓦	—	谷深 0.7	—	凹面ヘラケズリ、凸面縄タタキ	灰白N5/	2mm以下の砂粒含	1/12以下	陶質。
866	81-1	10区	SD710007	エ E 21	丸瓦	—	—	—	工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	1/12以下	摩滅が激しい。
867	84-4	10区	SR710011	エ E 21	弥生土器 甕	13.8	—	—	外面ハケメ、内面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR6/3	精良	口縁部2/12	口縁部に刻目。外面に煤付着。
868	85-2	10区	表土	—	弥生土器 壺	13.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	精良	口縁部2/12	
869	85-1	10区	—	エ C 23 P1	土師器 杯	13.6	2.4	—	底部外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	4/12	
870	85-4	10区	表土	—	山茶碗	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部5/12	
871	94-2	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
872	94-3	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	3mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線。
873	94-1	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐7.5YR3/1	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	条線。
874	94-5	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	条線。
875	95-8	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR6/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	条線。
876	93-4	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR5/1	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
877	94-4	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	条線。
878	93-6	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.0	ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	底部2/12	
879	94-8	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR6/8	3mm以下の砂粒含	底部小片	
880	94-7	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.4	ナデ	橙5YR6/8	3mm以下の砂粒含	底部1/12	
881	93-8	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.2	ナデ	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒含	底部1/12	
882	93-7	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.2	ナデ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	底部2/12	
883	93-5	11区	SH711024	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.8	ナデ	橙5YR6/6	3mm以下の砂粒含	底部3/12	
884	94-6	11区	SK711016	イ T 5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR7/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	隆帯+条線。
885	89-3	11区	SK711017	イ S 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	3mm以下の砂粒・雲母含	体部小片	沈線。
886	89-2	11区	SD711018	イ S 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR5/3	2.5mm以下の砂粒・雲母含	口縁部小片	
887	89-1	11区	SD711018	イ T 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	2mm以下の砂粒・雲母含	体部小片	沈線+条線。
888	87-3	11区	SD711001	イ Q 1	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.7	ナデ	にぶい黄橙7.5YR6/4	3mm以下の砂粒多含	底部4/12	
889	93-2	11区	SD711020	イ U 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
890	93-3	11区	SD711020	イ U 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	条線。
891	93-1	11区	SD711022	イ T 3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	
892	92-8	11区	SD711022	イ T 3	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.2	ナデ	橙7.5YR7/6	2mm以下の砂粒多含	底部2/12	摩滅のため調整不正確。
893	87-4	11区	SD711003	イ U 2	土師器 甕	17.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑨

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
894	224-4	11区	SD711003	イ J 1	土師器 甕	—	—	—	内外面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	口縁部小片	
895	87-5	11区	SD711003	イ T 1	須恵器 杯	15.0	—	—	ロクロナデ	灰N6/	2mm以下の砂粒・ 小石含	口縁部1/12	
896	92-7	11区	SD711023	イ X 11	山茶椀	—	—	高台径 8.4	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部1/12	内面平滑。
897	88-1	11区	SK711011	イ T 10	土師器 皿	14.7	3.2	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	5/12	粗製。
898	89-4	11区	SK711015	イ T 4	土師器 甕	—	—	—	—	灰黄褐10YR4/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部に煤付着。
899	212-3	11区	SK711015	イ T 4	打製石斧	幅 6.92	長 9.4	重 51.3g	—	明オリーブ灰2.5GY7/1	緑泥片岩	—	未製品。
900	88-3	11区	SD711012	イ W 13	土師器 杯	11.8	—	—	—	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
901	88-2	11区	SD711012	イ W 13	土師器 杯	15.2	2.4	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
902	88-6	11区	SD711012	イ T 11	土師器 杯	13.7	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
903	88-5	11区	SD711012	イ T 11	土師器 杯	13.0	—	—	—	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁端部に油煙2ヶ所。
904	89-6	11区	SD711012	イ W 13	土師器 甕	21.8	—	—	外面ハケメ、内面未 調整	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
905	88-8	11区	SD711012	イ U 12	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
906	89-5	11区	SD711012	イ W 13	土師器 甕	16.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
907	88-7	11区	SD711012	イ T 11	土師器 甕	9.0	—	—	外面ナデ、内面工具 ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
908	88-4	11区	SD711012	イ T 11	土師器 器台	—	—	脚基部 3.1	ナデ	橙5YR7/6	2mm以下の砂粒含	脚基部完存	透孔3方。
909	90-5	11区	SD711013	イ Y 14	土師器 皿	—	—	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
910	90-6	11区	SD711013	イ Y 14	土師器 皿	10.0	—	—	底部外面ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
911	90-4	11区	SD711013	イ Y 14	土師器 椀	—	—	高台径 8.2	—	浅黄橙2.5YR8/3	1.5mm以下の砂粒 含	底部3/12	
912	90-3	11区	SD711013	イ Y 14	土師器 甕	23.5	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
913	90-2	11区	SD711013	イ Y 14	土師器 甕	19.4	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
914	90-1	11区	SD711013	イ Y 14	土師器 甕	14.0	—	—	内外面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	頸部に沈線。
915	90-7	11区	SD711013	イ Y 14	ロクロ土師器 皿	—	—	底径 3.8	ロクロナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	底部11/12	
916	91-4	11区	SD711013	イ Y 14	灰釉陶器 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部2/12	
917	91-2	11区	SD711013	イ Y 14	山茶椀	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部4/12	内面に炭化物付着。
918	91-3	11区	SD711013	イ Y 14	山茶椀	—	—	高台径 9.3	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5mm以下の砂粒 含	底部3/12	内面に炭化物付着。
919	91-1	11区	SD711013	イ Y 14	陶器 鉢	—	—	高台径 15.2	底部外面ヘラケズリ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部3/12	内面平滑。
920	90-8	11区	SD711013	イ Y 14	土錘	径 1.8	残長 3.8	残重 8.15g	ナデ	褐灰10YR6/1	1mm以下の砂粒含	6/12	
921	95-2	11区	SD711027	イ W 12	土師器 皿	15.6	1.8	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	口縁部1/12	
922	95-1	11区	SD711027	イ W 12	土師器 皿	15.0	1.8	—	底部外面未調整	橙7.5YR7/6	精良	口縁部1/12	底部外面に線刻「×」。
923	97-2	11区	SD711027	イ W 12	土師器 椀	12.0	—	—	底部外面未調整	橙5YR6/6	精良	口縁部1/12	内面に放射暗文。
924	96-2	11区	SD711027	イ W 12	土師器 甕	—	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
925	95-3	11区	SD711027	イ W 12	土師器 甕	12.4	—	—	外面ハケメ、内面ナ デ	にぶい黄橙10YR7/2	0.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
926	87-8	11区	SD711007	イ T 6	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR6/6	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
927	87-7	11区	SD711006	イ T 5	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
928	87-6	11区	SD711004	イ R 1	縄文土器 深鉢	—	—	底径 10.6	ナデ	橙5YR6/6	3mm以下の砂粒多 含	底部3/12	
929	92-5	11区	SD711026	イ T 10	土師器 壺	—	—	脚径 7.5	ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	脚部3/12	
930	92-6	11区	SD711026	調査区 壁174層	土師器 壺	—	—	脚径 7.1	ナデ	明赤褐5YR5/6	1mm以下の砂粒含	脚部8/12	
931	95-4	11区	SD711026	イ T 10	土師器 高杯	—	—	脚基部径 2.8	外面工具ナデ	灰白2.5Y8/2	0.5mm以下の砂粒 含	脚基部完存	
932	92-3	11区	SD711026	イ W 12	弥生土器 甕	15.8	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/4	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
933	92-2	11区	SD711026	イ T 10	土師器 甕	15.6	—	—	外面ハケメ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
934	95-6	11区	表土	—	土師器 甕	—	—	脚径 7.8	ナデ	にぶい黄橙10YR4/3	0.5mm以下の砂粒 含	脚部5/12	
935	92-4	11区	SD711026	イ W 12	土師器 甕	—	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
936	95-5	11区	表土	イ Y 13	土師器 甕	16.0	—	—	ハケメ	にぶい橙5YR7/3	0.5mmの砂粒含	口縁部1/12	
937	97-3	11区	表土	イ T 6	陶器 甕	22.0	—	—	外面ナデ、内面工具 ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
938	96-4	11区	表土	—	土師器 甕	20.8	—	—	—	にぶい黄橙7.5YR5/3	精良	口縁部2/12	
939	92-1	11区	SD711026	イ T 10	土師器 甕	16.0	—	—	外面ハケメ、内面工 具ナデ	にぶい橙5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
940	96-3	11区	—	イ Q 1 P 1	土師器 甕	27.8	—	—	内外面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部1/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑩

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
941	96-1	11区	表土	イY13	土師器 甕	—	—	—	ハケメ	灰白2.5Y8/2	精良	把手完存	
942	96-6	11区	排土	—	土師器 鍋	—	—	—	—	褐灰10YR4/1	精良	口縁部小片	
943	95-7	11区	表土	—	灰軸陶器 壺	7.2	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部3/12	
944	96-5	11区	表土	—	灰軸陶器 甕	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部2/12	
945	97-1	11区	表土	—	平瓦	—	谷深 1.6	—	凸面縄タタキ、凹面 コビキ	橙5YR7/6	精良	1/12以下	酸化焼成。
946	222-1	11区	表土	—	石核	幅 3.6	長 5.6	重 27.01g	—	灰白N8/	サヌカイト	先形	
947	174-3	12区	SD712001	—	土師器 甕	13.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
948	174-4	12区	SD712001	—	土師器 甕	12.6	3.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	ほぼ先形	
949	174-1	12区	SD712001	アY13	土師器 甕	15.2	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
950	174-2	12区	SD712001	ウB13	土師器 杯	13.8	—	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部2/12	
951	174-6	12区	SD712001	—	土師器 甕	—	—	—	ハケメ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部小片	
952	174-5	12区	SD712001	アT14	黒色土器 甕	—	—	高台径 8.4	内面ヘラミガキ	にぶい褐7.5YR6/3	精良	底部6/12	A類。
953	173-5	12区	SD712001	アT14	ロクロ土師器 甕	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
954	173-1	12区	SD712001	—	灰軸陶器 甕	18.2	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	口縁部1/12	
955	173-2	12区	SD712001	—	灰軸陶器 甕	15.8	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
956	173-4	12区	SD712001	—	灰軸陶器 壺	19.2	—	—	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
957	173-3	12区	SD712001	—	山茶甕	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y8/1	2mm以下の砂粒含	底部8/12	内面に炭化物付着。
958	173-6	12区	SD712001	—	陶器 皿	9.2	—	—	ロクロナデ	黄灰2.5Y6/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
959	175-1	12区	SD712001	—	陶器 甕	—	—	底径 29.0	外面タタキ	灰白N7/	2mm以下の砂粒含	底部2/12	常滑。
960	173-7	12区	SD712001	アY13	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線＋縄文。
961	175-2	12区	SD712001	ウB13	平瓦	—	谷深 0.9	—	凸面ヘラズリ、凹 面布目	浅黄橙7.5YR8/4	6mm以下の小石含	1/12以下	酸化焼成。
962	173-8	12区	SD712001	アT14	土鏝	径 1.75	残長 5.45	残重 13.7g	ナデ	黄灰2.5Y5/1	精良	11/12以下	
963	163-5	12区	SD712009	アV13	土師器 甕	18.0	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	
964	236-1	12区	SD712009	アV13	土師器 皿	—	—	—	底部外面未調整	橙5YR6/6	精良	底部2/12	底部外面に焼成後線刻。
965	163-2	12区	SD712009	アV13	灰軸陶器 皿	14.4	4.5	高台径 6.5	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部2/12欠損	灰軸横掛け。底部外面に墨 書「本」。
966	163-3	12区	SD712009	アV13	山茶甕	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部3/12	
967	7-1	12区	SD712009	—	鉄斧	幅 3.6	残長 8.0	厚 1.4	—	—	—	10/12以下	
968	164-1	12区	SE712005	アU13	土師器 鍋	26.0	—	—	外面未調整	浅黄2.5Y7/3	精良	口縁部2/12	
969	163-1	12区	SE712005	アU13	山茶甕	15.0	5.1	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部9/12欠損	
970	163-4	12区	SD712013	アX8	土師器 皿	14.0	2.0	—	ナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	口縁部2/12	SD712019の注記あり。
971	164-4	12区	SD712013	アX8	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	暗灰黄2.5Y5/2	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。沈線。摩滅のた め調整不明。
972	164-3	12区	SD712013	アX8	縄文土器 深鉢	—	—	底径 5.0	ナデ	暗灰黄2.5Y4/2	6mm以下の小石含	底部4/12	条線。底部外面に網代痕。
973	164-2	12区	SK712014	アY7	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/4	4mm以下の小石含	体部小片	隆帯＋矢羽根状刻目。
974	163-6	12区	SK712014	アY7	縄文土器 深鉢	—	—	底径 11.2	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	底部2/12	
975	164-5	12区	SD712017	アY10	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	5mm以下の小石含	口縁部小片	沈線＋縄文。
976	198-4	12区	SD712018	アX9	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.2	ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	3mm以下の砂粒含	底部9/12	沈線。
977	163-7	12区	SD712019	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄褐2.5Y5/3	7mm以下の小石含	体部小片	沈線＋縄文。
978	171-2	12区	—	アX8 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明褐7.5YR5/6	5mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。979・983と同一個 体？
979	171-3	12区	—	アX8 P6	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。978・983と同一個 体？
980	166-4	12区	表土	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の長石含	口縁部小片	沈線。
981	166-3	12区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
982	169-5	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。刺突。
983	171-4	12区	—	アX8 P6	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。978・979と同一個 体？
984	165-3	12区	耕作溝	アU14	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	1mm以下の長石含	口縁部小片	沈線。
985	165-2	12区	包含層	アT14	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	押圧＋縄文。
986	172-2	12区	—	アX8 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	体部小片	隆帯＋刺突文＋矢羽根状刻 目。
987	168-4	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	4mm以下の小石含	口縁部小片	波状口縁。竹管文＋沈線。

第2表 第7次調査出土遺物観察表②



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
988	165-1	12区	表土	ウA9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄2.5Y6/2	1mm以下の長石含	体部小片	竹管文。
989	169-1	12区	表土	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	7mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
990	169-3	12区	表土	アX8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄褐2.5Y5/3	5mm以下の小石含	体部小片	沈線。
991	235-7	12区	—	アX7 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。摩滅のため調整不明。
992	166-1	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR4/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
993	168-2	12区	—	アY9 P3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄2.5Y6/2	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+条線。
994	234-3	12区	—	アY9 P5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい褐7.5YR5/4	4mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線。摩滅のため調整不明。
995	167-3	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄2.5Y7/2	4mm以下の小石含	体部小片	沈線+条線。
996	172-1	12区	—	アX8 P4	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
997	169-6	12区	—	アY8 P3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
998	169-2	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄2.5Y7/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
999	166-5	12区	表土	アY7	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+条線。
1000	165-7	12区	表土	アY7	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR6/6	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
1001	166-6	12区	表土	アX9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐7.5YR4/6	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
1002	169-7	12区	表土	アX9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	3mm以下の小石含	口縁部小片	沈線。
1003	167-5	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	暗灰黄2.5Y5/2	4mm以下の小石含	体部小片	沈線。
1004	166-7	12区	表土	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR6/2	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
1005	171-1	12区	—	アY8 P1	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	縄文。
1006	172-6	12区	—	アY9 P2	縄文土器 浅鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の長石含	口縁部小片	
1007	234-6	12区	—	アY8 P9	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR7/3	4mm以下の砂粒多含	口縁部小片	
1008	165-5	12区	表土	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4mm以下の砂粒含	口縁部小片	磨消縄文。1009と同一個体か。
1009	165-6	12区	表土	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	磨消縄文。1008と同一個体か。
1010	166-2	12区	表土	アY7	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の長石含	口縁部小片	波状口縁。磨消縄文。
1011	172-4	12区	—	アY8 P3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	磨消縄文。
1012	170-2	12区	—	アX8 P4	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	5mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。磨消縄文。1019・1022と同一個体か。
1013	167-6	12区	表土	アY9	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	磨消縄文。
1014	234-4	12区	—	アY9 P5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR6/4	5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	摩滅のため調整・文様不明。
1015	168-6	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	磨消縄文。
1016	234-5	12区	—	アY9 P5	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒多含	口縁部小片	磨消縄文。摩滅のため調整不明。
1017	169-4	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄2.5Y6/2	4mm以下の小石含	体部小片	磨消縄文。
1018	170-4	12区	—	アY8 P6	縄文土器 深鉢	32.5	—	—	—	浅黄2.5Y7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	磨消縄文。
1019	170-1	12区	表土	アY7	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	磨消縄文。1012・1022と同一個体か。
1020	167-4	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ	灰黄2.5Y6/2	2mm以下の砂粒含	体部小片	磨消縄文。
1021	166-8	12区	表土	アY11	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR4/1	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
1022	170-3	12区	—	アY8 P3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐10YR3/2	1mm以下の砂粒含	体部小片	磨消縄文。
1023	172-5	12区	—	アY8 P6	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙2.5YR6/6	2mm以下の砂粒含	底部小片	底部外面に網代痕。
1024	172-3	12区	—	アX8 P6	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	底部小片	
1025	168-5	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	4mm以下の小石含	底部小片	
1026	168-1	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	底径 14.0	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
1027	168-3	12区	表土	アY8	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR6/6	4mm以下の小石含	底部小片	
1028	172-8	12区	—	アT14 P1	土師器 皿	14.3	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
1029	167-2	12区	表土	—	土師器 高杯	—	—	脚基部 4.3	脚柱部外面ヘラケズリ	橙5YR6/6	精良	脚基部完存	
1030	165-4	12区	包含層	アW12	ロクロ土師器 椀	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部1/12	焼成不良。
1031	172-7	12区	—	アR14 P1	灰釉陶器 椀	—	—	高台径 7.3	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部10/12	
1032	167-1	12区	表土	—	須恵器 甕	22.0	—	—	ロクロナデ	灰10Y6/1	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1033	168-7	12区	包含層	アV13	施釉陶器 皿	—	—	—	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	精良	体部小片	体部外面に線刻文。古瀬戸。
1034	169-8	12区	包含層	アQ16	加工円盤	径 2.6	厚 0.8	重 7.82g	—	灰黄2.5Y7/2	精良	完形	陶器挿鉢を加工。瀬戸。

第2表 第7次調査出土遺物観察表②

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
						口径	器高	その他					
1035	213-6	12区	表土	アY9	打欠石鉢	幅 6.1	長 6.51	重 96.1g	—	褐灰10YR5/1	チャート	完形	被熱のため石材不明確。
1036	217-1	12区	—	アY9 P2	石鉢	幅 1.7	長 3.4	重 2.1g	—	灰白N5/	サヌカイト	完形	
1037	116-9	13区	SE713035	東側半 裁	土師器 皿	8.6	1.1	—	底部外面未調整	にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
1038	116-8	13区	SE713035	東側半 裁	土師器 甕	—	—	—	外面一部工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
1039	116-7	13区	SE713035	東側半 裁	土師器 鉢	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	外面に煤付着。
1040	116-1	13区	SE713035	上層	山茶碗	14.8	5.3	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白N8/	1.5mm以下の砂粒 含	底部4/12	高台に靱殻痕。
1041	116-5	13区	SE713035	東側半 裁	山茶碗	15.6	5.4	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部3/12	高台に靱殻痕。内面に煤付 着。
1042	115-4	13区	SE713035	—	山茶碗	15.4	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	内面に煤付着。
1043	116-4	13区	SE713035	上層	山茶碗	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白N7/	1.5mm以下の砂粒 含	底部3/12	
1044	116-2	13区	SE713035	上層	山茶碗	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部5/12	内面平滑。内面若干黒変。
1045	116-3	13区	SE713035	上層	山茶碗 小碗	—	—	高台径 3.6	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部10/12	
1046	116-6	13区	SE713035	東側半 裁	山茶碗	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白N7/	微砂粒含	底部4/12	内面平滑。均質。
1047	115-1	13区	SE713035	エI3	陶器 甕	35.6	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
1048	115-3	13区	SE713035	エI3	陶器 鉢	—	—	底径 14.6	ロクロナデ	灰白N7/	3mm以下の砂粒含	底部2/12	常滑。
1049	115-2	13区	SE713035	エI3	陶器 鉢	—	—	—	体部下外面ロクロ ケズリ	灰白N8/	3mm以下の砂粒含	高台基部1/12	山茶碗質。
1050	214-3	13区	SE713035	東側半 裁	打欠石鉢	幅 3.34	長 5.24	重 32.0g	—	灰10Y5/1	砂岩	完形	
1051	113-4	13区	SK713011	—	山茶碗	19.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12以下	
1052	113-3	13区	SK713011	—	山茶碗	—	—	底径 8.8	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部2/12	内面平滑。
1053	117-1	13区	SA713039	No.5柱痕	土師器 皿	8.2	1.5	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	完形	
1054	120-2	13区	SA713039	エJ2	土師器 甕	21.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部外面に厚く煤付着。
1055	119-1	13区	SA713039	エH2 P2	山茶碗	15.4	5.5	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部7/12欠損	高台に靱殻痕。
1056	117-2	13区	SA713039	No.5柱痕	山茶碗	—	—	高台径 7.6	ロクロナデ	灰白5Y7/1	4mm以下の砂粒含	底部7/12	内面平滑。内面に炭化物煤 付着。
1057	118-1	13区	SA713039	エH2 P2	陶器 鉢	35.4	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1058	118-2	13区	SA713039	エH2 P2	陶器 鉢	—	—	高台径 20.0	体部下外面ロクロ ケズリ	灰白2.5Y7/1	4mm以下の石粒含	底部1/12	常滑。底部に煤付着。
1059	113-1	13区	SB713036	SK 713026	土師器 杯	14.0	2.6	—	底部外面未調整	橙7.5YR7/6	精良	口縁部5/12	
1060	119-5	13区	SB713036	エF1 P2	ロクロ土師器 皿	8.2	1.7	底径 4.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	5mm以下の小石含	完形	
1061	119-6	13区	SB713036	エF1 P3	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.0	—	橙7.5YR6/6	2mm以下の石粒含	底部2/12	底部外面に薄く煤付着。
1062	114-1	13区	SK713029	ウI24	山茶碗	—	—	高台径 7.3	ロクロナデ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	底部2/12	
1063	120-5	13区	SB713037	No.3掘形	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	外面に煤付着。
1064	98-4	13区	SD713001	—	土師器 杯	11.0	—	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1065	100-7	13区	SD713001	—	土師器 皿	16.0	—	—	底部外面未調整	橙5YR7/6	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1066	98-6	13区	SD713001	—	土師器 皿	13.0	1.3	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部2/12	
1067	98-5	13区	SD713001	—	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい橙5YR6/4	精良	口縁部小片	
1068	98-1	13区	SD713001	—	土師器 甕	16.0	—	—	体部外面ヘラケズ リ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	
1069	98-2	13区	SD713001	—	瓦器 皿	—	—	—	内面ヘラミガキ	灰N4/1	精良	口縁部小片	口縁部内面に沈線。
1070	98-3	13区	SD713001	—	須恵器 甕	—	—	—	ロクロナデ	灰N5/1	精良	口縁部小片	
1071	100-3	13区	SD713001	—	山茶碗	—	—	—	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	口縁部小片	
1072	98-7	13区	SD713001	—	山茶碗	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	底部2/12	
1073	99-5	13区	SD713001	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR5/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	波状口縁。沈線+刺突。
1074	99-1	13区	SD713001	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	精良	体部小片	沈線。
1075	99-4	13区	SD713001	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	明褐7.5YR5/6	4mm以下の砂粒含	体部小片	縄文。
1076	98-8	13区	SD713001	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.2	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒含	底部完存	
1077	110-2	13区	SD713008	エF2	土師器 皿	8.9	1.5~ 2.0	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	完形	
1078	110-1	13区	SD713008	エF2	山茶碗	—	—	高台径 6.5	ロクロナデ	灰白N7/	1.5mm以下の砂粒 含	底部完存	内面平滑。漆状の付着物。
1079	108-6	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/4	6mm以下の小石含	口縁部小片	沈線+刺突。
1080	110-5	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	黒褐10YR3/1	2mm以下の砂粒・ 雲母含	口縁部小片	波状口縁。渦文+刻目。
1081	110-4	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰褐7.5YR5/2	3.5mm以下の砂粒 多含、雲母含	口縁部小片	条線。

第2表 第7次調査出土遺物観察表③

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
1082	109-2	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	4mm以下の小石含	口縁部小片	刺突。
1083	110-6	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐10YR3/1	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	口縁部小片	隆帯+刺突+沈線。
1084	110-3	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	摩滅のため調整不明。
1085	214-1	13区	SD713008	エ F 2	打欠石鍾	幅 4.71	長 5.81	残重 51.0g	—	灰白10Y8/2	泥岩	6/12	
1086	100-6	13区	SD713002	—	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
1087	113-5	13区	SD713016	—	山茶椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	黄灰2.5Y6/1	精良	底部4/12	内面平滑、黒変。
1088	114-8	13区	SD713034	北半上層	弥生土器 甕	—	—	底径 4.0	外面工具ナデ	橙2.5YR6/6	3mm以下の砂粒含	底部9/12	
1089	114-6	13区	SD713034	ウ F 25	土師器 杯	14.8	—	—	ナデ	橙5YR7/6	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1090	114-7	13区	SD713034	エ F 1	土師器 皿	13.5	—	—	ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1091	114-5	13区	SD713034	—	土師器 鍋	—	—	—	ナデ	灰褐7.5YR4/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部に煤?付着。
1092	114-3	13区	SD713034	—	山茶椀	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	底部3/12	
1093	114-2	13区	SD713034	—	山茶椀	—	—	高台径 8.4	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部2/12	内面平滑。墨痕。
1094	114-4	13区	SD713034	—	山茶椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	底部2/12	高台摩耗。
1095	117-7	13区	SD713040	エ F 3	土師器 皿	13.5	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部2/12	
1096	117-6	13区	SD713040	エ F 3	土師器 皿	7.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1097	117-3	13区	SD713040	エ F 3	山茶椀	15.2	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	4mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1098	117-4	13区	SD713040	エ F 3	山茶椀	15.2	—	—	ロクロナデ	灰白10YR7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1099	117-5	13区	SD713040	エ F 3	山茶椀	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1100	104-3	13区	SD713004	ウ L 25	土師器 椀	12.3	—	—	外面未調整	にぶい橙5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1101	101-7	13区	SD713004	—	土師器 椀	—	—	高台径 6.0	—	浅黄橙10YR8/3	4mm以下の小石含	底部7/12	
1102	224-5	13区	SD713004	ウ L 25	土師器 杯	14.8	—	—	外面未調整	灰N6/	やや精良	口縁部1/12	
1103	100-2	13区	SD713004	—	土師器 杯	13.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
1104	100-1	13区	SD713004	—	土師器 杯	14.0	—	—	外面ナデ	橙5YR7/6	精良	口縁部1/12	
1105	104-2	13区	SD713004	ウ L 25	土師器 皿	11.4	—	—	外面未調整	灰白7.5YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1106	101-2	13区	SD713004	—	土師器 皿	14.0	2.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
1107	101-6	13区	SD713004	—	土師器 皿	12.0	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	
1108	101-3	13区	SD713004	—	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	
1109	101-4	13区	SD713004	—	土師器 椀	18.0	3.5	—	外面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1110	104-1	13区	SD713004	ウ L 25	土師器 鉢	20.0	—	—	外面上半ハケメ、下 半未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒 含	口縁部1/12	
1111	101-1	13区	SD713004	—	土師器 甕	—	—	頸部径 20.0	外面ヘラケズリ、内 面工具ナデ	にぶい橙2.5YR6/4	3mm以下の小石含	頸部2/12	
1112	102-5	13区	SD713004	—	灰釉陶器 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	口縁部小片	
1113	104-6	13区	SD713004	—	山茶椀	17.0	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	微砂粒含	口縁部1/12	
1114	102-4	13区	SD713004	—	山茶椀	17.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部2/12	
1115	103-4	13区	SD713004	—	山茶椀	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	口縁部1/12	
1116	103-3	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部4/12	
1117	102-3	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部完存	
1118	102-6	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	底部5/12	
1119	103-1	13区	SD713004	—	山茶椀	15.0	5.7	高台径 6.7	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	6/12	
1120	99-6	13区	SD713004	—	山茶椀	16.0	—	—	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	口縁部1/12	
1121	100-4	13区	SD713004	—	山茶椀	15.0	—	—	ロクロナデ	褐灰10YR6/1	精良	口縁部1/12	内面から外面へ煤付着。
1122	100-5	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部3/12	底部外面ヘラ切り。
1123	104-5	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 7.1	ロクロナデ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	底部2/12	内面平滑。
1124	103-6	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3mm以下の小石含	底部4/12	内面平滑。
1125	103-5	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白10YR7/1	精良	底部4/12	
1126	103-2	13区	SD713004	—	山茶椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部5/12	底部外面に沈線。
1127	101-5	13区	SD713004	—	青磁 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部小片	龍泉。蓮弁文。
1128	99-3	13区	SD713004	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	渦文。

第2表 第7次調査出土遺物観察表④

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
1129	102-2	13区	SD713004	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+縄文。
1130	104-4	13区	SD713004	ウL25	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR4/2	1.5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線。
1131	102-1	13区	SD713004	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.0	ナデ	明赤褐5YR5/6	5mm以下の小石含	底部3/12	
1132	108-3	13区	SD713006	エL2	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR5/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	突起。沈線+円形刺突。
1133	109-7	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	突起。刺突+円孔。
1134	109-6	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	橙5YR7/6	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	突起。円孔。
1135	113-8	13区	SD713021	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR5/1	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	突起。円孔。
1136	111-4	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	褐黄褐10YR4/2	2.5mm以下の砂粒・雲母含	口縁部小片	沈線+刻目。
1137	109-1	13区	SD713008	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄褐7.5YR8/4	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	刻目。
1138	106-1	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ?	灰黄橙10YR5/2	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+刻目。
1139	111-5	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	沈線。
1140	117-8	13区	SD713041	エH1	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	3mm以下の砂粒多含	口縁部小片	波状口縁。沈線+円形刺突。
1141	108-4	13区	SD713006	エL2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄褐10YR8/3	3mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線。
1142	111-6	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	2mm以下の砂粒・雲母含	口縁部小片	波状口縁。沈線。
1143	110-9	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ?	にぶい黄橙10YR7/2	2.5mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	沈線。
1144	110-10	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	褐7.5YR4/3	2.5mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+縄文。
1145	109-3	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	黒褐7.5YR3/2	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+条線。
1146	109-4	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線。
1147	126-4	13区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄褐2.5Y5/4	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
1148	111-3	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	にぶい褐7.5YR5/4	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
1149	105-4	13区	SD713005	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい褐7.5YR5/4	4mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	沈線。摩滅のため調整不明。
1150	105-3	13区	SD713005	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR4/2	3mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	沈線。摩滅のため調整不明。
1151	107-8	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+縄文。
1152	121-4	13区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
1153	110-7	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	褐灰7.5YR4/1	2mm以下の砂粒・雲母含	口縁部小片	沈線。
1154	108-2	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ?	にぶい黄褐10YR5/3	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線+刺突。
1155	108-1	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	黒褐10YR3/2	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線。
1156	109-5	13区	SD713006	エL2	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐7.5YR4/3	2mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線。
1157	106-2	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒多含	体部小片	沈線。摩滅のため調整不明。
1158	105-2	13区	SD713005	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	にぶい褐7.5YR5/3	3mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	沈線+条線。摩滅のため調整不明。
1159	110-8	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	黒褐10YR3/2	3mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	沈線+縄文+円孔。
1160	105-8	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい褐7.5YR5/4	4mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	条線。摩滅のため調整不明。
1161	111-2	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい褐7.5YR6/3	2mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	条線。摩滅のため調整不明。
1162	99-2	13区	SK713003	エN3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR5/2	3mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
1163	106-3	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	黒褐10YR3/2	2.5mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	沈線。摩滅のため調整不明。
1164	112-3	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	7mm以下の小石含	体部小片	条線。
1165	113-7	13区	SD713015	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒含	体部小片	沈線。
1166	111-1	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3.5mm以下の砂粒・雲母含	体部小片	条線。
1167	110-11	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	黒褐10YR3/1	2mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	条線。摩滅のため調整不明。全片黒斑。
1168	105-1	13区	SD713005	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR4/3	4mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+縄文。摩滅のため調整不明。
1169	106-5	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	褐灰7.5YR4/1	2mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	沈線+縄文。
1170	105-7	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	黒褐10YR3/3	4mm以下の砂粒多含	口縁部小片	沈線+縄文。摩滅のため調整不明。
1171	121-5	13区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐2.5Y3/1	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	沈線+縄文。
1172	111-7	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	1.5mm以下の砂粒・雲母含	体部小片	条線+縄文。
1173	105-6	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	灰黄褐10YR4/2	2.5mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	沈線+縄文。
1174	105-5	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR5/4	2.5mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	沈線+縄文。摩滅のため調整不明。
1175	106-4	13区	SD713006	エM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	灰黄褐10YR4/2	2.5mm以下の砂粒多含・雲母含	体部小片	沈線+縄文。

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑤



番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
1176	108-5	13区	SD713006	EM3	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒多 含	体部小片	沈線+縄文。外面黒変。
1177	122-8	13区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黒褐7.5YR3/1	1mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	刻目。
1178	121-2	13区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ?	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	摩滅のため調整不明確。
1179	121-3	13区	表土	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ?	褐灰10YR4/1	1mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	摩滅のため調整不明確。
1180	107-4	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	5mm以下の小石含	口縁部小片	
1181	112-4	13区	SD713015	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	5mm以下の小石含	口縁部小片	
1182	107-5	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	内面一部黒斑。
1183	104-7	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい褐7.5YR5/4	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	口縁部小片	摩滅のため調整不明。
1184	111-8	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	にぶい褐2.5YR5/3	4mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
1185	104-8	13区	SD713005	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	口縁部小片	摩滅のため調整不明。
1186	111-9	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ?	灰黄褐10YR4/2	2.5mm以下の砂粒多 含、雲母含	口縁部小片	摩滅のため調整不明確。
1187	107-6	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	灰黄褐10YR5/2	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
1188	113-2	13区	SD713015	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y4/1	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	口縁部内面に弱い沈線。
1189	107-7	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/3	4mm以下の小石含	口縁部小片	
1190	113-6	13区	SD713015	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
1191	112-2	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	—	工具ナデ	褐灰10YR4/1	4mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	全片黒斑。
1192	117-9	13区	SD713041	E I 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.8	—	にぶい赤橙5YR5/4	3mm以下の砂粒多 含	底部2/12	摩滅のため調整不明。
1193	107-1	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.5	ナデ	橙5YR6/6	3mm以下の砂粒多 含	底部9/12	
1194	107-3	13区	SD713006	E L 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 6.6	ナデ	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒多 含	底部3/12	
1195	112-1	13区	SD713009	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.0	工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒多 含	底部7/12	底部外面に網代痕。
1196	107-2	13区	SD713006	—	縄文土器 深鉢	—	—	底径 11.0	ヘラミガキ?	にぶい橙7.5YR6/4	2mm以下の砂粒多 含	底部3/12	摩滅のため調整不明確。
1197	106-6	13区	SD713006	EM3	縄文土器 深鉢	—	—	底径 8.2	—	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒多 含	底部4/12	摩滅のため調整不明。
1198	106-7	13区	SD713006	E L 2	縄文土器 深鉢	—	—	底径 7.4	—	橙7.5YR6/6	3mm以下の砂粒多 含	底部3/12	摩滅のため調整不明。
1199	108-7	13区	SD713006	EM3	縄文土器 注口土器	—	—	—	—	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒多 含	注口7/12以下	
1200	126-3	13区	表土	—	弥生土器 高杯	—	—	—	ヘラミガキ	橙5YR7/6	2mm以下の砂粒多 含	脚柱部4/12	横線文。
1201	224-6	13区	北サブトレ ンチ	—	土師器 杯	13.8	3.8	—	底部外面ヘラケズ リ、他はヘラミガキ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部1/12	
1202	123-1	13区	表土	—	土師器 皿	12.6	2.7	—	ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒多 含	5/12	
1203	124-3	13区	表土	—	土師器 皿	15.0	2.5	—	底部外面未調整	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒 多含	口縁部2/12	
1204	119-4	13区	—	ウG25 P2	土師器 皿	8.2	1.3	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒多 含	ほぼ完形	
1205	123-2	13区	表土	—	土師器 皿	7.4	1.4	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1206	123-3	13区	表土	—	土師器 皿	7.6	1.3	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1207	126-1	13区	表土	—	土師器 皿	7.6	1.2	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒多 含	完形	
1208	126-2	13区	表土	—	土師器 皿	7.4	1.0	—	底部外面未調整	灰白10YR8/3	3mm以下の砂粒多 含	ほぼ完形	
1209	119-3	13区	—	E I 1 P 8	土師器 皿	8.8	0.9	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒多 含	3/12	
1210	122-1	13区	表土	—	土師器 甕	16.0	—	—	外面ハケメ、内面工 具ナデ	灰黄褐10YR5/2	0.5mm以下の砂粒 多含	口縁部3/12	
1211	120-1	13区	—	E F 3 P 1	土師器 甕	26.0	—	—	ハケメ	橙7.5YR7/6	1mm以下の砂粒多 含	口縁部1/12	内面に煤付着。
1212	120-3	13区	—	E I 1 P 5	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	外面に煤付着。
1213	120-4	13区	—	E F 3 P 1	土師器 甕	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	
1214	112-5	13区	SD713009	—	土師器 甕	13.0	—	—	外面ハケメ、内面工 具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	
1215	127-1	13区	表土	—	土師器 鍋	28.6	—	—	ハケメ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒多 含	口縁部1/12	内面煤付着。
1216	125-2	13区	表土	—	土師器 鍋	35.4	—	—	—	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒多 含	口縁部1/12	内面煤付着。
1217	125-1	13区	表土	—	土師器 鍋	34.6	—	—	—	灰白10YR8/2	4mm以下の砂粒多 含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。
1218	124-1	13区	表土	—	山茶碗	15.6	4.7	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	5.5mm以下の砂粒 多含	口縁部3/12欠損	底部外面に煤付着。
1219	124-2	13区	表土	—	山茶碗	—	—	高台径 8.6	ロクロナデ	灰白10YR7/1	2mm以下の砂粒多 含	底部4/12	
1220	122-3	13区	表土	—	山茶碗	—	—	高台径 7.9	ロクロナデ	灰黄2.5Y6/2	精良	底部1/12	
1221	119-2	13区	—	E H 1 P 3	山茶碗	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒多 含	口縁部1/12	口縁部に自然軸。
1222	122-7	13区	表土	—	山茶碗	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部4/12	

第2表 第7次調査出土遺物観察表⑥

番号	実測番号	調査区	遺構	出土位置	器種 器形	法 量 (cm)			調整技法の特徴	色 調	胎土	残存度	備 考
						口径	器高	その他					
1223	122-6	13区	包含層	—	山茶碗	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部3/12	
1224	122-2	13区	表土	—	山茶碗	—	—	高台径 7.8	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部5/12	高台に靱殻痕。
1225	122-5	13区	表土	—	陶器 壺	—	—	高台径 12.2	外面ロクロケズリ	灰白5Y7/1	精良	底部1/12	
1226	121-1	13区	包含層	エG 2	陶器 鉢	29.4	11.5	底径 13.8	外面工具ナデ、内面 下半ロクロケズリ	にぶい褐7.5YR6/3	3mm以下の砂粒若干含	2/12	
1227	122-4	13区	排土	—	白磁 碗	—	—	高台径 5.8	底部外面ロクロケズリ	灰白7.5Y7/1	精良	底部完存	
1228	218-2	13区	SD713015	—	石鏝	幅 1.6	長 2.2	残重 0.77g	—	灰N5/	サヌカイト	左脚部欠損	
1229	218-1	13区	SD713009	—	石鏝	幅 1.95	長 2.55	残重 1.49g	—	灰N6/	サヌカイト	左脚部欠損	
1230	223-1	13区	SD713041	エI 2	石核	幅 5.3	長 4.1	重 32.14g	—	灰N6/	サヌカイト	完形	
1231	220-2	13区	SD713005	—	R F	幅 5.5	長 3.2	重 6.66g	—	灰N6/	サヌカイト	完形	
1232	219-3	13区	表土	—	石錐	幅 2.6	長 2.9	重 4.31g	—	灰白N7/	サヌカイト	完形	
1233	214-7	13区	SD713005	—	打欠石鏝	幅 6.63	長 7.01	重 145.3g	—	灰白2.5Y8/1	砂岩	完形	
1234	214-4	13区	包含層	エH 2	打欠石鏝	幅 5.55	長 7.16	重 91.6g	—	灰白7.5Y7/1	砂岩	完形	
1235	214-5	13区	SD713009	—	打欠石鏝	幅 4.96	長 6.24	重 91.3g	—	灰白7.5Y7/1	砂岩	完形	
1236	213-8	13区	SD713006	エM 3	打欠石鏝	幅 4.46	長 5.0	重 45.6g	—	灰白7.5Y7/1	砂岩	完形	
1237	214-2	13区	SB713038	エG 1 No. 2	切目石鏝	幅 3.81	長 5.81	重 48.4g	—	灰N5/	砂岩	完形	
1238	7-2	13区	包含層	エG 2	金属製品 銭貨	径 2.3	—	—	—	—	—	完形	「開元通宝」。

第2表 第7次調査出土遺物観察表㉗

遺構名	規模			棟方向	柱間寸法		時期	備 考
	桁×梁	桁行 (m)	梁行 (m)		桁行 (m)	梁行 (m)		
SB702006	2×2	2.85	2.4 2.55	E30° S	1.35+1.5	1.35+1.05 1.5+1.05	不明	棟方向は仮定。
SA702007	3	6.35	—	E25° S	2.0+2.1+2.25	—	不明	
SA702008	5	10.8	—	E20° S	2.1+1.95+2.25+1.8+ 1.35+1.35	—	不明	
SA702009	6	12.6	—	E20° S	2.25+2.1+2.1+1.8+1.95 +1.2+1.2	—	不明	
SA702010	3	7.2	—	E20° S	2.25+2.55+2.4	—	不明	
SA702011	(2)	(3.75)	—	N4° E	1.95+1.8+α	—	不明	
SA703023	(2)	(3.75)	—	N4° E	1.95+1.8+α	—	不明	
SB706038	(3)×2	(4.2)	4.2	E15° S	2.1+2.1+α 1.5+α	2.1	室町後	
SB708005	(2)×4	(3.75)	8.85	E8° S	α+1.95+1.8	2.4+2.1+2.1+2.25	平安中	東西棟に仮定。総柱型。時期決定に疑問を残す。
SB708009	3×(2)	5.1	2.8	N28° E	1.35+1.65+2.1	—	平安中	妻柱検出できず。SB708010と同時期に仮定。
SB708010	3×2	4.5 4.35	2.0	N33° E	0.9+2.1+1.5 1.5+1.35+1.5	1.1+0.9	平安中	
SB713036	4×2	9.3	4.05	E6° N	2.25+2.7+2.4+1.95	1.8+2.25	平安中	中央に間仕切り。
SB713037	5×2	10.5	4.2	E13° N	2.4+1.8+2.1+1.8+2.1 2.1	2.1	平安中 ～後	南面庇。
SB713038	2×2	3.9	3.9 4.2	E1° N	1.95	1.95 1.95+2.25	平安末 ～鎌倉	総柱。東西棟に仮定。
SA713039	南北9 東西3	南北 17.55	東西 6.9	N1° W	南北1.95+1.65+1.95+1.8+1.95+2.4+2.25+ 1.8+1.8、東西2.1+2.4+2.4	—	平安末 ～鎌倉	SB713038と方向を揃える。
SA713042	4	9.75	—	E15° N	2.4+2.4+3.0+1.95	—	平安中 ～後	SB713037と方向を揃える。鎌倉に下る可能性を残す。

第3表 第7次調査掘立柱建物・柱列一覧

## IV. 第8次調査

第8次調査は、第5次調査及び第6次調査で発掘調査を保留した農道部分等を対象に実施した工事立会による発掘調査である。このため調査区は10ヶ所に分かれ、しかも狭小である。

### 1. 1-1区

第5次調査7-3区と8区の間位置する狭小な調査区である。東西に延びる2条の溝、SD815・816を検出した。

**SD815** 幅は、80cmから1.5mで一定を欠く。深さは検出面から30cm程度で、幅に比べ浅いものである。北へ弯曲気味に延びる形状もあり、自然流路の可能性はある。室町時代の土師器鍋の小片が出土している。

**SD816** 幅は3~4m、検出面からの深さは80cm程度を測る比較的大規模なものである。現代の水路が重複するため、埋土の上半が攪乱されているが、弥生末~古墳時代の土師器小片が出土している。溝幅は一定を欠き、北岸は第5次調査8区に含まれる。これにより、SD58019やSD58020と同一遺構としたいところである。しかし、両者からは中世の遺物が出土し、室町時代に下る結果がでている。ここでは、これまでの朝見遺跡の調査で検出されている弥生末~古墳時代初頭の自然流路のひとつとしておくが、流路や溝が複雑に重複する場所であることに加え、調査区が狭小なことも一因し、遺構検出に確実性を欠く可能性があることを断っておく。

### 2. 1-2区

第5次調査7-1区と7-2区、第6次調査5-1区と5-2区の間位置する。幅5m、南北14mの細長い調査区であるが、工事により本来の地表は消滅している。その調査区を縦断するSD817を検出した。水道管により東岸を攪乱されているが、幅1.5~2m、検出面からの深さは1mを測る。埋土は礫を含む層をはじめ細流砂の上層と粘土やシルトの下層に大別される。遺物の出土は無く、時期の決定は困難である。隣接する第5次調査や第6次調

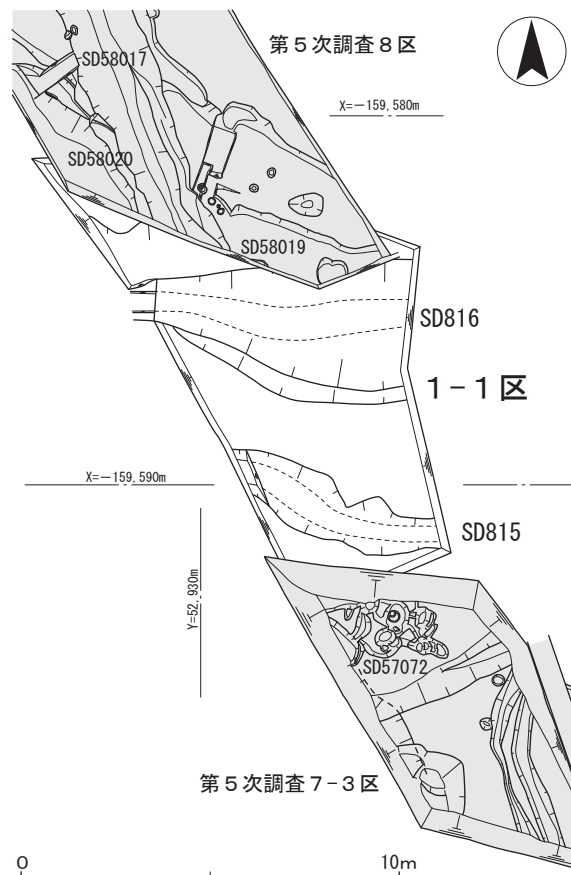
査でも同様な方向の溝を多数検出しているが、古墳時代や鎌倉時代から室町時代と多様な状況である。

### 3. 2-1区

第5次調査6区の東端に接する調査区である。細長い調査区を縦断する農業用水路により、調査区中央部が攪乱を受けている。調査区南西部で1基の井戸と1条の溝を検出した。

**SE810** 調査区端の検出で、第5次調査で検出したSK56013の南側の一部である。第5次調査では深さ1mで底に達し、井戸を示すものは無く、水溜的な機能を想定している。今回の調査結果は、それを否定も肯定もできないものであった。

**SD809** 調査区南西端で検出した不定形な溝である。第5次調査で検出されたSD56016の南東岸と考えられる。遺物の出土は無いが、SE810より先行するものである。



第108図 第8次調査1-1区平面図 (1:200)

#### 4.2-2区

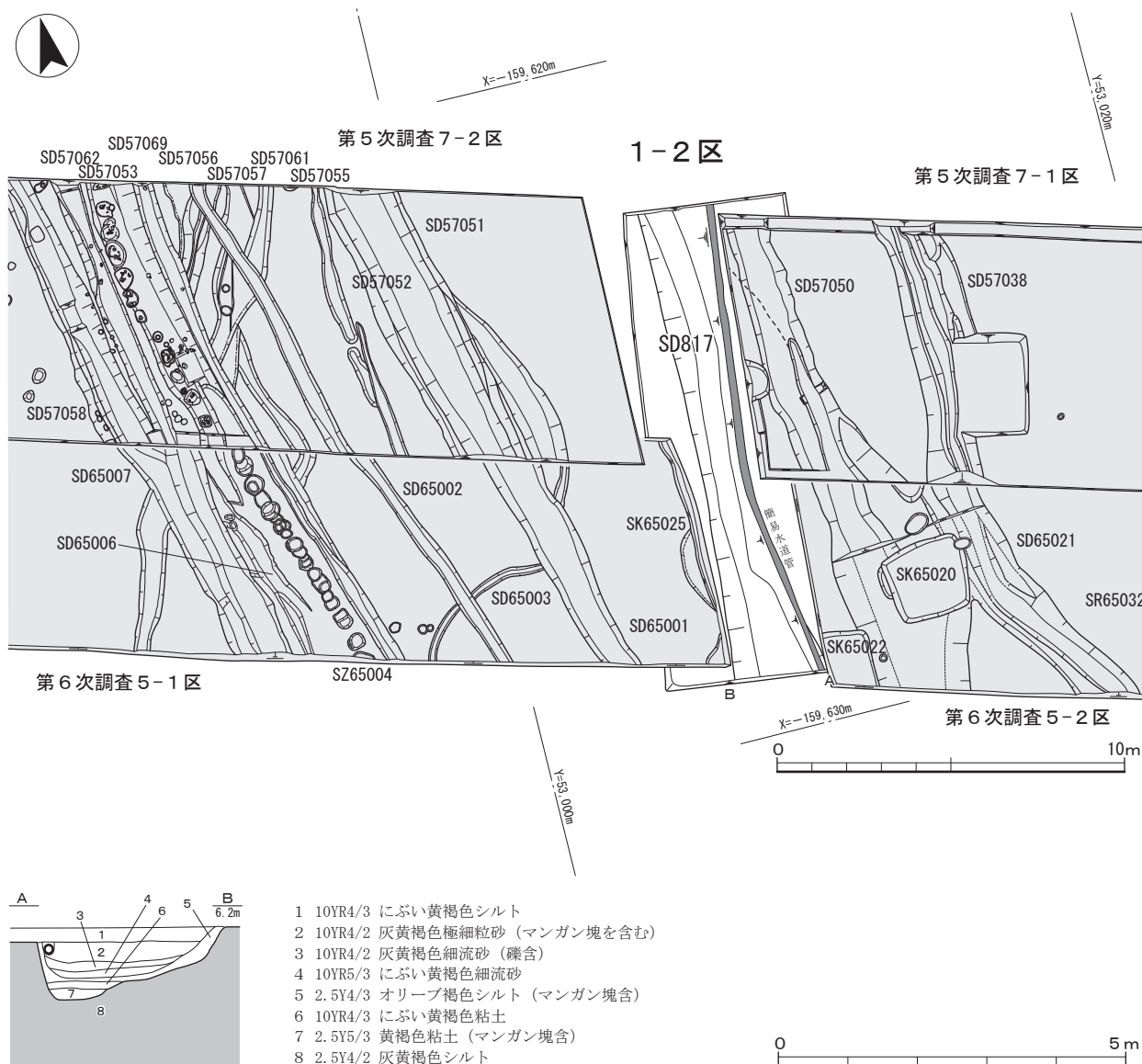
第5次調査5区と6区の間に位置する狭小な調査区で、中央を農業用水路により攪乱されているものの、井戸1基、土坑1基、溝3条等の多くの遺構を検出している。

SE808 調査区北端での検出のため、全体の形状は不明である。土層の状況から掘形と井戸本体を識別できるが、本来の規模を現すものではない。現況から約1m、標高約6m以下は還元層となっている。しかし、調査区内では井戸枠を確認できない。井戸本体の埋土も上部が開く形状のため、抜き取られた可能性もある。灰釉陶器の壺や甕片が出土して

おり、平安時代のものと考えられる。

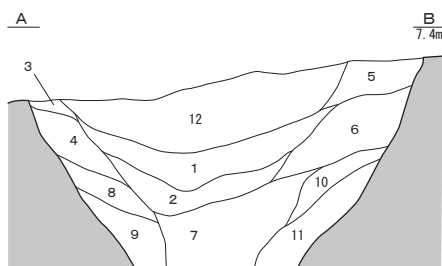
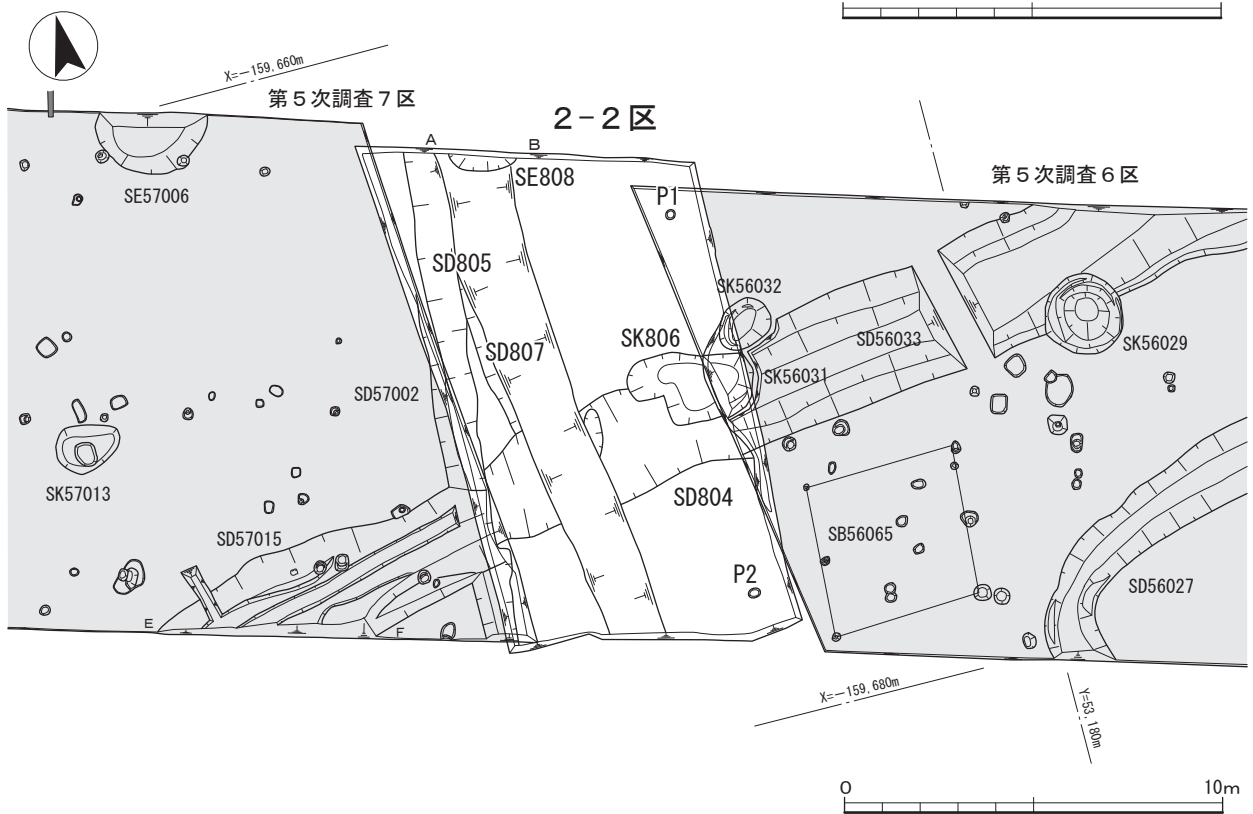
SK806 調査区東端で検出した不定形な土坑である。東半は第5次調査で検出したSK56031となる。したがって、長辺3.6m、短辺2mの不整長円形を呈することになり、埋土は砂質土である。SD804より後出で、室町時代の土師器鍋や陶器片が出土している。第5次調査では、SK56031は近世の土坑としており、同一遺構のSK806も近世に下ることになる。ただし、直径1.8mとした第5次調査結果と相違する不定形な形状となったため、室町時代の土坑が重複する可能性も残る。その場合SK806はSK56031とは別遺構となる。

SD804 調査区中央を東西に延びる幅約2.5m



第109図 第8次調査1-2区平面図(1:200)、SD817断面図(1:100)

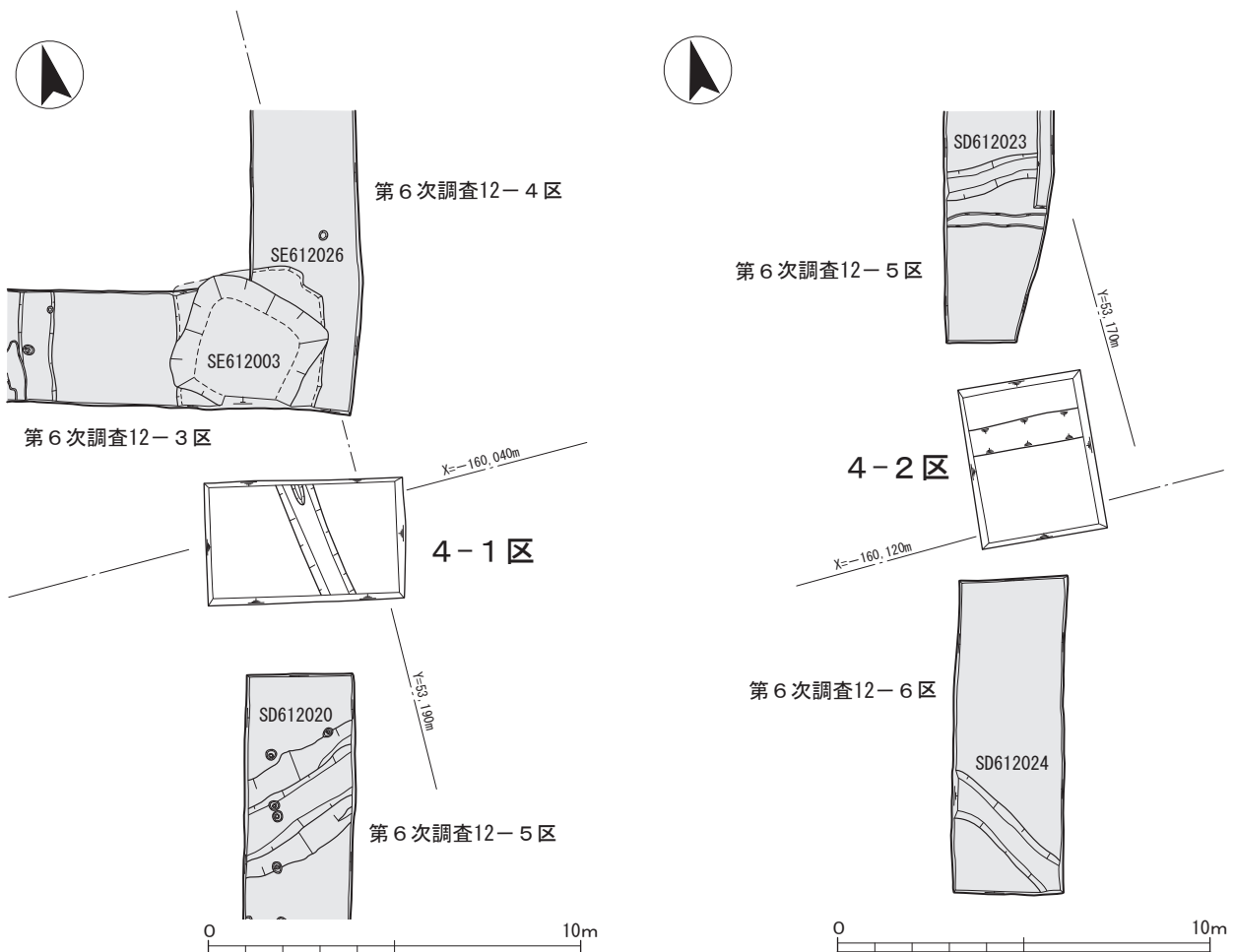
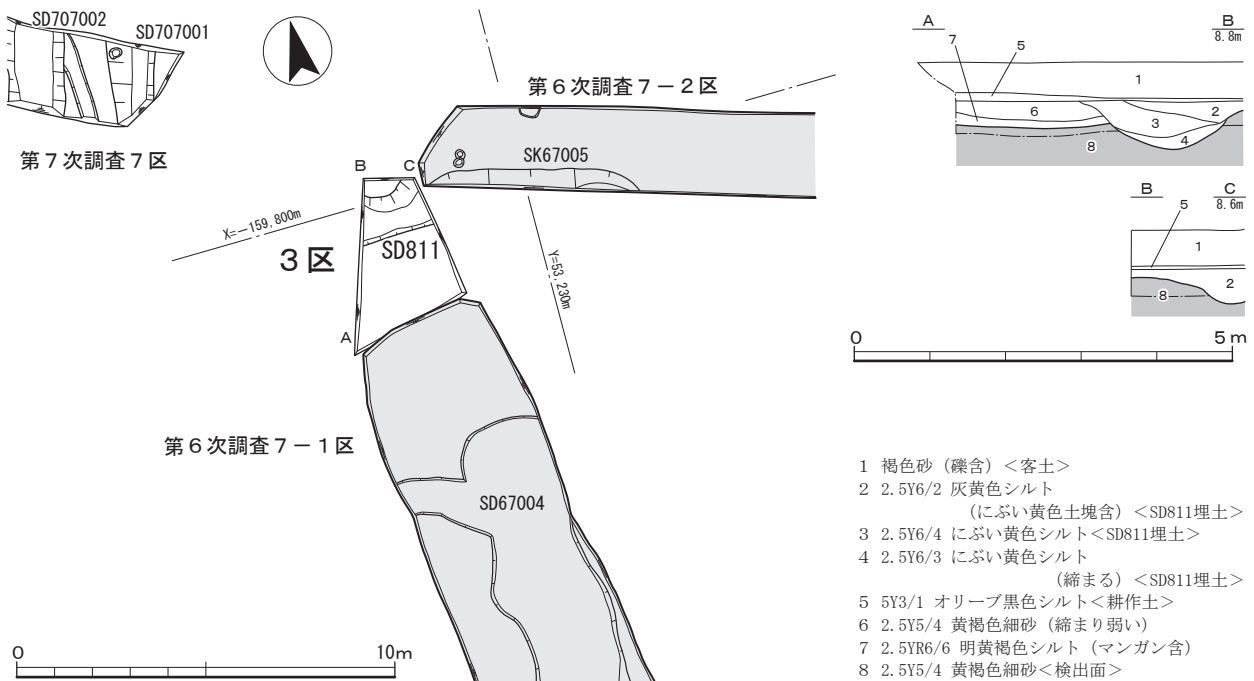




- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト   | 7 5BG5/1 青灰粘質シルト    |
| 2 10YR6/3 にぶい黄褐色粘質シルト | 8 10YR7/6 明黄褐色シルト   |
| 3 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト   | 9 10BG5/1 青灰粘質シルト   |
| 4 10YR6/1 褐灰シルト       | 10 10YR5/6 黄褐シルト    |
| 5 10YR5/3 にぶい黄褐砂質シルト  | 11 10YR6/3 にぶい黄橙シルト |
| 6 10YR5/4 にぶい黄褐シルト    | 12 攪乱               |



第110図 第8次調査2区平面図 (1:200)、SE808断面図 (1:50)



第111図 第8次調査3区・4区平面図 (1:200)、3区土層断面図 (1:100)

の溝で、東端は第5次調査のSD 56033に、西端は同じくSD 57015に繋がる。埋土はシルト層で、出土遺物は無い。第5次調査でも時期を決定できず、飛鳥時代以前とするに止めている。

**SD 805** 第5次調査で検出したSD 57002の東岸を検出したものと思われる。その結果、幅が1～1.4mであることが確認できる。今回の調査では山茶碗が多く出しているが、室町時代に下る土師器皿や鍋片もある。第5次調査では鎌倉時代としているが、最終埋没が室町時代に下る可能性がある。

**SD 807** 調査区を南北に延びる溝であるが、その大半が農業用水路と重複するため規模等は不明である。出土遺物は、縄文土器片が数点である。

### 5.3区

第6次調査7-1区の北端から延長し、7-2区の西端に至る狭小な調査区である。調査区は客土に覆われているが、本来の耕作土は残存している。耕

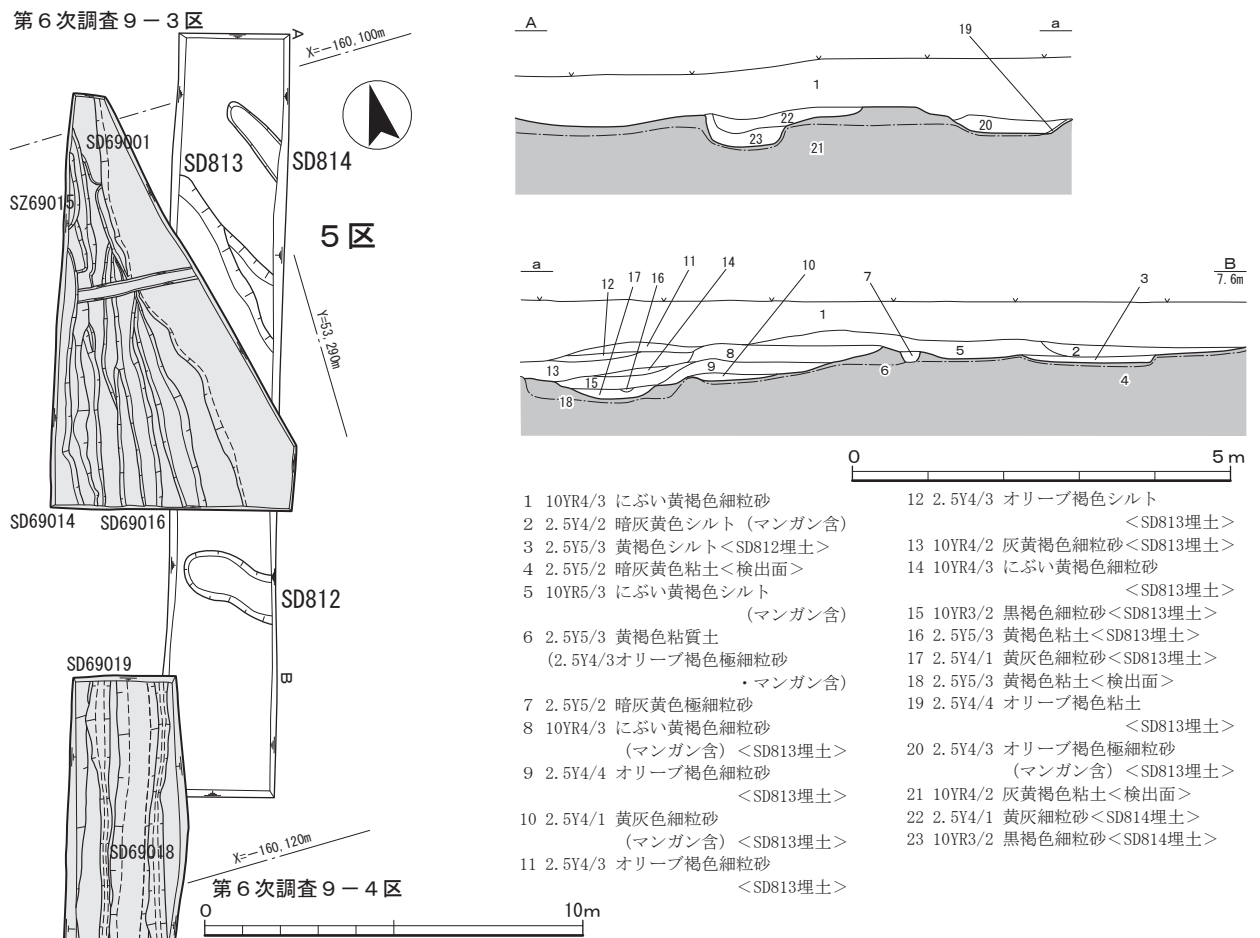
作土下約50cmの黄褐色細砂上面で遺構検出を行った。その結果、東西に延びるSD 811の1条を検出した。幅2m程度、検出面からの深さは30cm程度であるが、土層観察によれば耕作土直下から掘り込まれており、60cmを測る。埋土は3層に分かれるが、いずれも粘土またはシルトである。

出土遺物は無いが、第6次調査のSK 67005にSD 811の北岸が繋がるため同一のものと思われる。しかし、SK 67005からも土器の小片しか出土しておらず、時期決定の決め手を欠く。

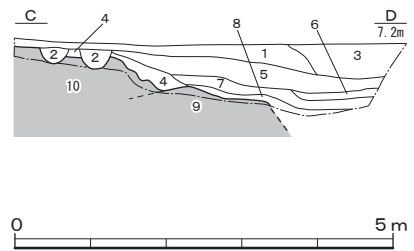
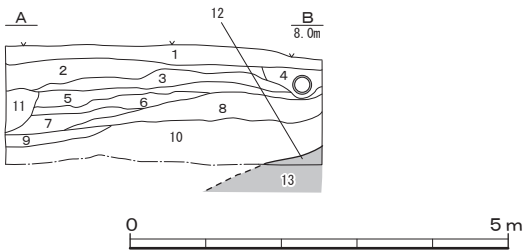
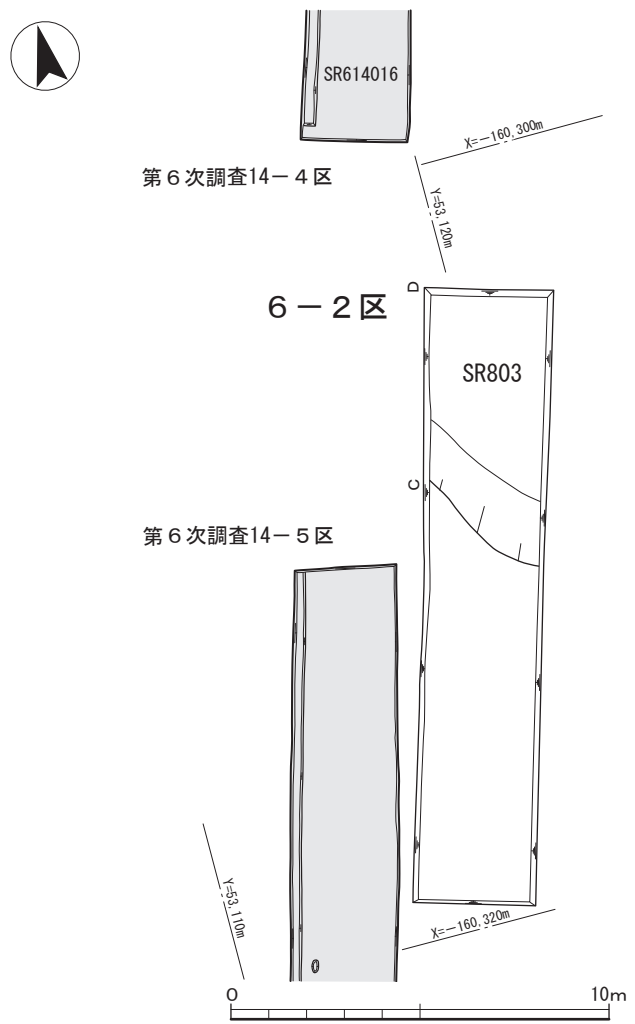
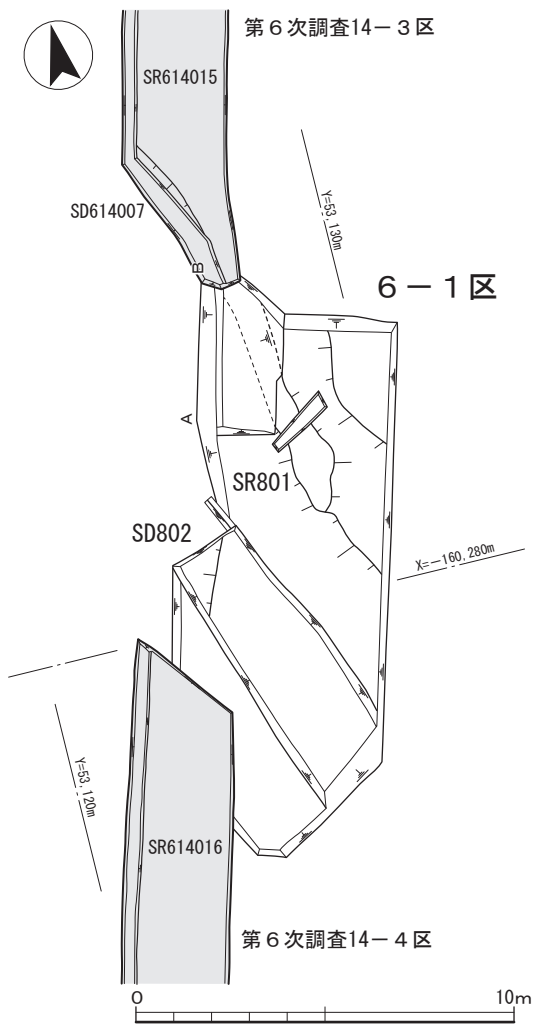
### 6.4-1区

第6次調査12-3区と12-4区の接合部と第6次調査12-5区の間に位置する。南北3m、東西5mの狭小な調査区である。現況下60～80cmの暗灰黄色粘土上面で遺構検出を行ったが、この検出面は、場所によって多少色調が変化している。

南北に延びる溝を1条検出した。幅80cm、検出



第112図 第8次調査5区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (礫含) <客土>
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 3 褐色シルト
- 4 赤褐色シルト (礫含) <配管埋土>
- 5 褐色シルト (礫含)
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (褐色土塊含) <SR801埋土>
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト (黄色土塊含) <SR801埋土>
- 8 2.5YR4/3 にぶい赤褐色シルト (褐色土塊含) <SR801埋土>
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト (褐色土塊含) <SR801埋土>
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (礫含) <SR801埋土>
- 11 淡褐色シルト (礫含) <農業用水路掘形>
- 12 10YR2/1 黒色粘土 <検出面>
- 13 10YR7/2 にぶい黄橙色礫

- 1 表土
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 3 2.5Y3/2 黒褐色土 <攪乱>
- 4 2.5YR4/3 にぶい赤褐色シルト <SR803埋土>
- 5 2.5Y5/3 黄褐色シルト <SR803埋土>
- 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色極細砂 (褐色土含) <SR803埋土>
- 7 2.5Y5/3 黄褐色粘土 <SR803埋土>
- 8 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂 <SR803埋土>
- 9 10YR4/4 褐色粘土
- 10 7.5YR2/1 黒色シルト <検出面>

第113図 第8次調査6区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



面からの深さは30cm程度で、直線状に南北に延びる。出土遺物が無く、時期は不明である。南側延長上で古墳時代後期のS D 612020 とほぼ直角に交わることになるが、関連の有無は不明である。

#### 7.4-2区

第6次調査12-5区と12-6区の間に位置する。南北3m、東西4mの狭小な調査区である。遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。隣接する第6次調査でも遺構密度が希薄であり、妥当な結果と思われる。

#### 8.5区

第6次調査9-3区と9-4区の間に設定された調査区であるが、一部に第6次調査と重複する結果となってしまった。

S D 813 は、第6次調査のS D 69001 と同一のもので、鎌倉時代のものとなる。溝幅は、第6次調査結果と総合すれば2.4mを測ることになる。S D 813 の北方2mにも同方向に延びる溝があるが、近代以降のものである。

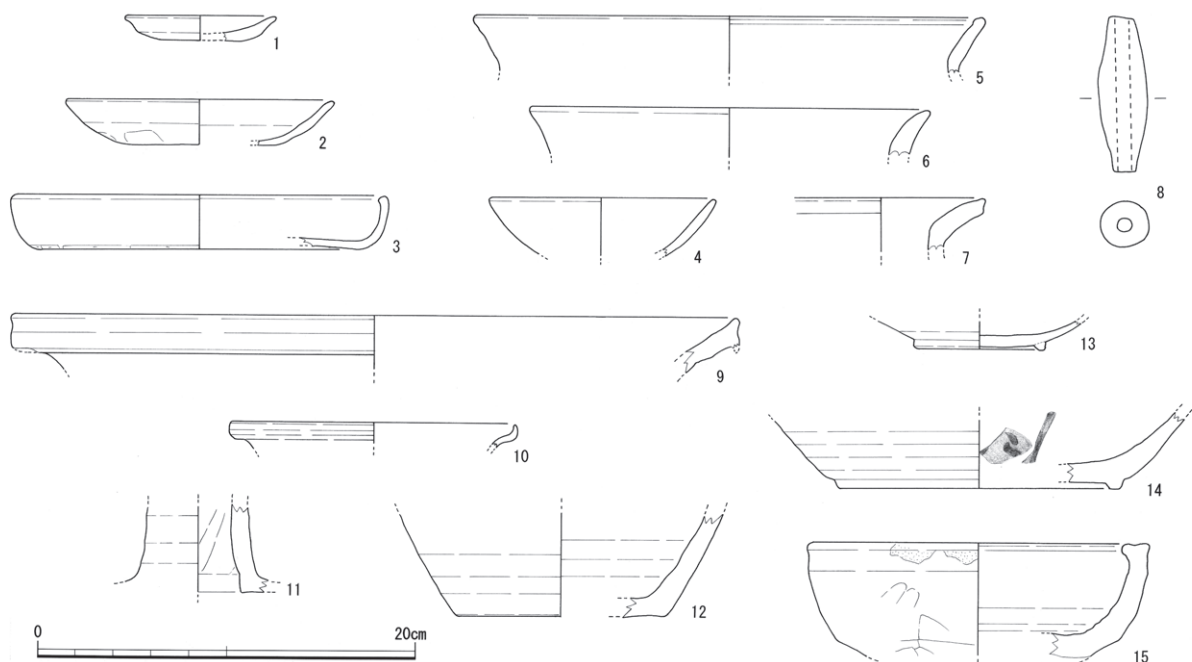
**S D 812** 調査区南部で検出した幅1m、検出面からの深さは10cm程度である。調査区外から西へ延びるが、調査区端で突然止まる。平面形も若干

蛇行気味で、遺構とするに疑問のあるものである。しかし、土師器の皿や鍋等の遺物が溝の規模に比べ多く出土しており、これらから室町時代前半の時期が与えられる。

#### 9.6区

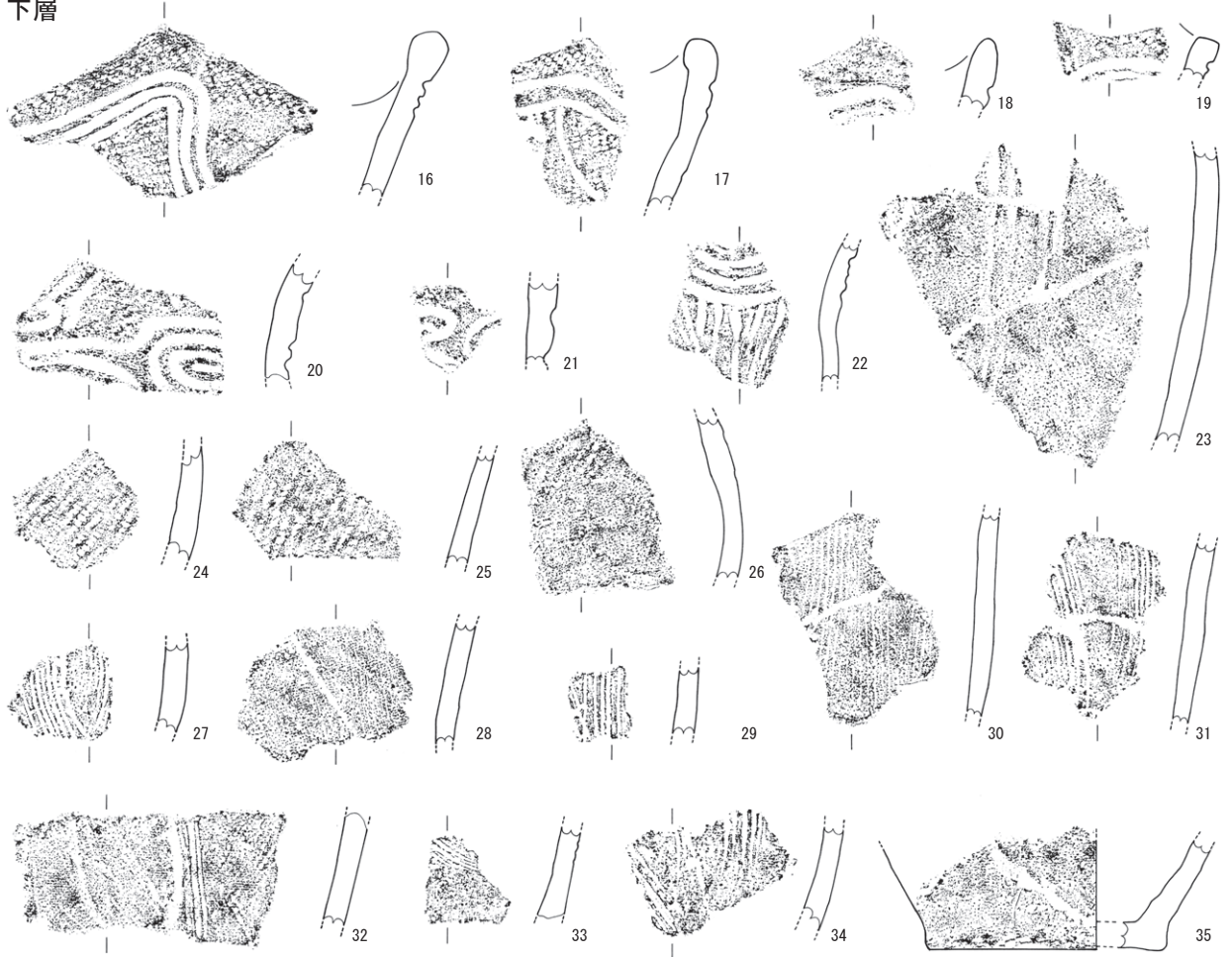
6-1区は、第6次調査14-3区と14-4区の間隔を埋める様に設定された調査区、6-2区は、第6次調査14-4区と14-5区の間に設定された調査区である。6-1区内は、用水路や配管による攪乱が激しかったが、流路と溝を検出している。第6次調査を含め、この付近一帯は大規模な流路帯となっている。S R 801 は、第6次調査のS R 614016 と同一であり、出土遺物も両者が鎌倉時代で矛盾は無い。S R 803 は、この流路の南岸を検出したものと思われ、この流路の幅は30mに及ぶ。

また、S R 801・803 の北側にはS R 614015 の埋土が広がる。S R 801・803 は、S R 614015 が埋没し縮小した結果とすることもでき、平安時代後期以降とする第6次調査時の時期決定とも整合する。これにより、本来は幅50m以上を測る大規模なものとなる。S D 802 はこの流路底ちかくでの検出である。須恵器等が出土するため、この流路の初期の姿の一部と思われる。



第114図 第8次調査2-1区出土遺物 (1:4)

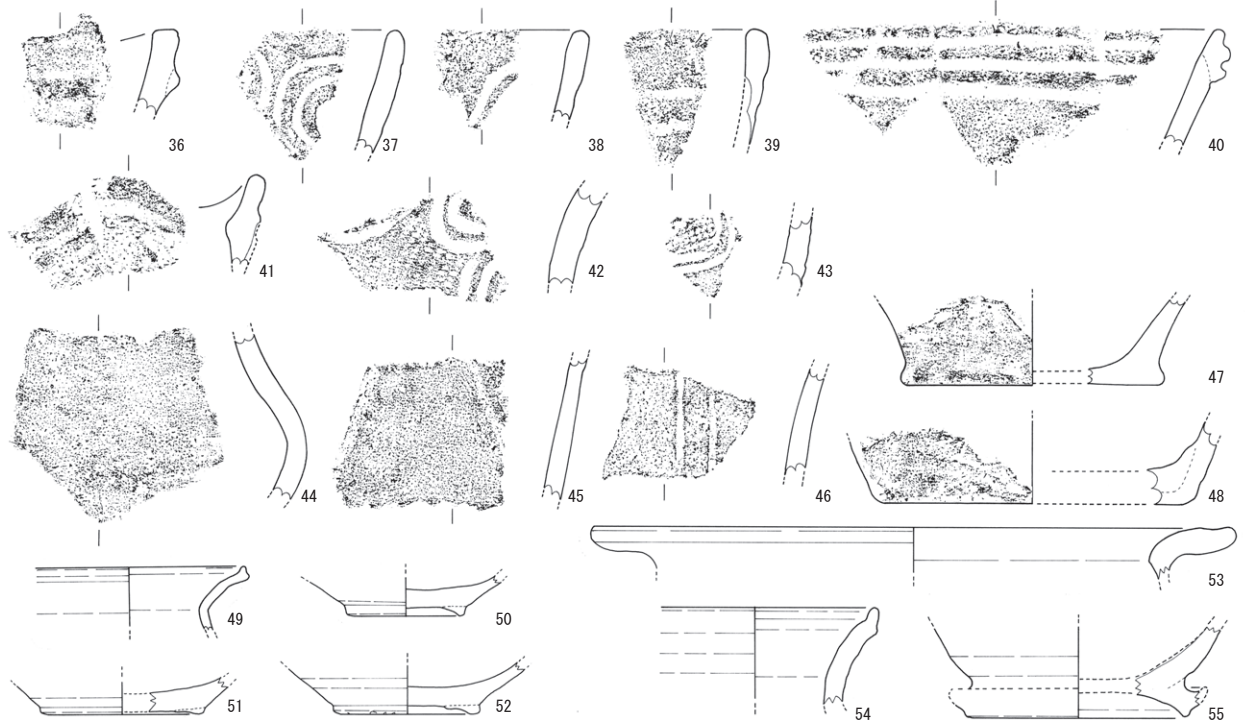
下層



0 10cm

0 20cm

上層



第115図 第8次調査2-2区出土遺物 (16~48 = 1:3、49~55 = 1:4)

## 10. 遺物

調査区が狭小10ヶ所に分かれることもあり、半数の調査区からは遺物の出土が無かった。遺物の出土した調査区においても表土等からのものが多く、遺構から一括して多くの遺物が出土したものは無い。そのなかで、下層包含層から出土した縄文土器やS R 801 出土の中世土師器が注目される。

なお、文中において表記した時期分類は、律令期については齋宮<sup>①</sup>の、中世については伊藤氏の編年によるものである。

### (1) 2-1区出土遺物 (第114図)

出土した遺物は全て表土からで、遺構出土のものは無い。1～3は土師器の皿である。3は内弯する口縁部の端部を肥厚させたもので、底部外面をヘラケズリで調整する。齋宮Ⅰ期に並行し、奈良時代に遡る。他のものは、口縁部が外傾し底部外面は未調整で、齋宮Ⅲ期に並行し11世紀の平安時代のものとなる。

4は粗製の椀、6は小片のため不明確であるが、壺の口縁部と思われる。7・8は土師器甕の口縁部であるが、7は口縁部が厚く古相を示す。

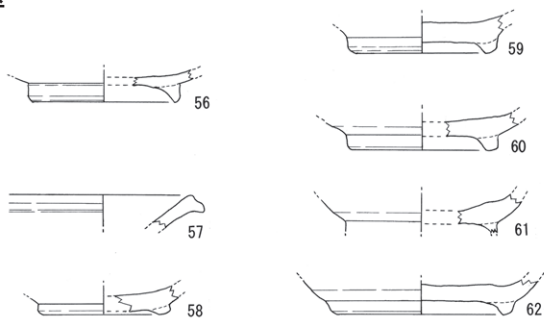
8は土錘、9～15は陶器であるが、10は不明確であるが、須恵器としておく。13は灰釉陶器の底部片であるが、内面の灰釉は自然釉と思われ、直接重焼の痕跡を示す。14は施釉陶器で灰釉を施すが、内面に火襻状の付着が多い。このために不明確であるが描かれるものは草文か。15は常滑焼の質感を呈し、内面に炭化物が付着する。口径に対して厚い器壁で、鉢状の形態であるが、底部外面の一部が薄く剥離している。外面の一部にヘラ状工具痕が雑にみられるが、ヘラケズリにちかい明瞭なものである。

### (2) 2-2区出土遺物 (第115図)

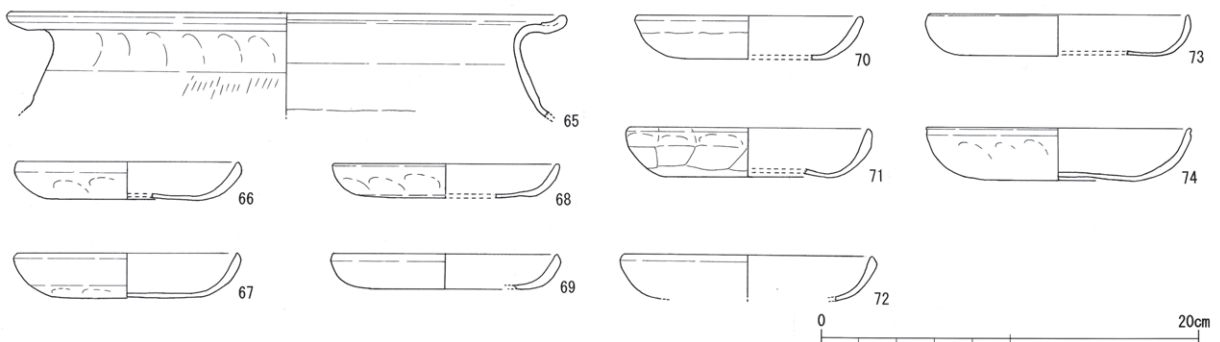
小片ではあるものの多くの縄文土器や陶器、山茶椀等が出土している。しかし、その多くは包含層等からの出土で遺構出土遺物は少なく、しかも図示したものは混入遺物であるものが大半である。ただし、近隣の第7次調査や第5次調査では下層検出面において縄文時代の遺構を確認している。今回図示した下層出土遺物は、この下層包含層に相当する遺物群である。

下層 (16～35) 全て下層包含層からの出土である。16～19の口縁部片は全て波状口縁を呈し、16・17は端部が肥厚する。16～21は沈線と縄文で

## 5区



## 6-1区



第116図 第8次調査5区・6-1区出土遺物 (1:4)

装飾するもので、磨消縄文の手法を用いるものを含むと思われるが、小片のため全様は不明である。16は3条1組の沈線を波状に巡らし、20は渦巻を横位に連結させたもので、18・19・20も同様なものと思われる。22は沈線を多用し、残存部には縄文が認められない。23は摩滅により不鮮明であるが、縦方向の沈線が確認できる。J字文の一部かも知れない。24～26には縄文、27～34には縦方向の条線が確認できる。

**上層 (36～55)** 36～48は縄文土器であるが、いずれも小片である。36～41は口縁部片で、36・41は波状口縁、他のものも明確ではないものの波状を呈する可能性がある。ただし40は浅鉢で、口縁端部外面に隆帯を巡らせ、その上に3条の沈線を巡らせる。他のものは体部片42・43を含め沈線と縄文で装飾するが、37は円孔を加える。36は隆帯を巡らし、46には2条の沈線が、45にも沈線が僅かに確認できる。これらの縄文土器は、上述した下層包含層出土のものの特徴がほぼ共通し、これからの混入と考えられる。

49は土師器の鍋、50～52は山茶碗、53は陶器の甕、54は壺、55は灰釉陶器の壺である。49の外面には煤が付着し、50・52の内面は平滑で、これらは使用の結果と考えられる。

### (3) 5区出土遺物 (第116図)

土師器の皿・鍋や山茶碗等が出土しているが、小片である。図示できたものは表土や排土からのもので、図示できた唯一の遺構出土遺物56も混入遺物である。

57は須恵器の壺、56は灰釉陶器の碗、59～62は山茶碗、63・64は陶器の鉢である。63の口縁部には、一部を指で強く押圧することによる歪みがあり、片口を意識したものと思われる。山茶碗の底部内面は、使用のためか平滑なものが多い。

### (4) 6-1区出土遺物 (第116図)

図示できたものは全て自然流水路のS R 801から出土したものである。65は土師器の鍋、66～72は土師器の皿である。土師器皿は内弯気味の口縁部を呈し、外面は未調整またはナデである。しかし、71の外面には明瞭な工具痕が残る。ヘラ状工具によるヘラケズりにちかい調整が行われた特異なものであ

る。また、74の口縁端部外面には1条の沈線が巡る。口径、器高とも他のものより若干大きく、古相を呈する。これらの土師器皿の口径は、11.6～13.8cmで、概ね中世Ⅱb期とすることができる。14世紀初頭の時期が与えられ、共伴する土師器鍋65とも矛盾が無い。(森川)

### [註]

- ① 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ』2019年3月
- ② 伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史料編 考古2』三重県 平成20年3月31日



番号	実測番号	遺構	調査区	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
					口径	器高	その他					
1	801-3	表土	2-1区	土師器 皿	7.8	1.3	—	底部外面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2	801-2	表土	2-1区	土師器 皿	14.0	2.4	—	底部外面未調整	浅橙5YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
3	801-4	表土	2-1区	土師器 皿	19.4	2.9	—	底部外面ヘラケズリ	浅橙5YR7/6	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
4	801-5	表土	2-1区	土師器 椀	11.8	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	摩滅のため調整不明。
5	802-1	表土	2-1区	土師器 甕	26.8	—	—	—	灰白10YR8/2 灰褐7.5YR6/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	口縁部にハケメが残る。
6	802-2	表土	2-1区	土師器 壺	21.0	—	—	—	灰白10YR8/2 橙5YR7/6	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	
7	801-6	表土	2-1区	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	
8	801-1	表土	2-1区	土製品 土鉢	2.7	長 8.3	重 43.1g	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3 褐灰7.5YR5/1	1mm以下の砂粒含	完形	
9	803-1	表土	2-1区	陶器 甕	38.0	—	—	—	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	口縁部内外面に自然釉が付着。
10	802-5	表土	2-1区	須恵器 壺	15.0	—	—	ロクロナデ	灰N5/	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
11	802-4	表土	2-1区	陶器 壺	—	—	頸部 6.0	ロクロナデ	灰白N7/	2mm以下の砂粒含	頸部4/12	
12	803-2	表土	2-1区	陶器 壺	—	—	底径 10.8	体部外面下半ロクロケズリ	灰白N7/ 灰N6/1	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
13	802-6	表土	2-1区	灰釉陶器 椀	—	—	高台径 6.5	底部外面糸切	灰白N8/	3mm以下の砂粒含	底部11/12	底部内面に直接重焼痕
14	803-3	表土	2-1区	施釉陶器 鉢	—	—	高台径 14.8	体部外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	底部1/12	灰釉。
15	802-3	表土	2-1区	陶器 鉢	17.6	—	—	外面下半に強いヘラ状工具痕	にぶい赤褐5YR5/3 灰褐5YR4/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。内面に煤付着。
16	807-5	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	褐灰7.5YR5/1	3mm以下の砂粒・ 雲母含	口縁部小片	波状口縁。沈線+縄文。
17	808-5	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR5/2	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	口縁部小片	波状口縁。沈線+縄文。
18	809-3	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	口縁部小片	波状口縁。沈線+縄文。
19	809-6	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒多 含	口縁部小片	波状口縁。沈線+縄文。
20	809-1	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	2.5mm以下の砂粒 多含、雲母含	小片	沈線。
21	808-7	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	2.5mm以下の砂粒 ・雲母含	小片	沈線。
22	808-2	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	外面ヘラミガキ	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒・ 雲母含	小片	沈線。摩滅のため内面調整不明。
23	808-1	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰白2.5Y8/2	3mm以下の砂粒・ 雲母含	小片	沈線。摩滅のため調整不明。
24	807-1	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ+未調整	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒・ 雲母含	小片	縄文。
25	809-2	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR5/3	2.5mm以下の砂粒 多含	小片	縄文。摩滅のため調整不明。
26	809-5	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ	灰黄褐7.5YR5/2	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	小片	縄文。摩滅のため外面調整不明。
27	807-2	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	4mm以下の砂粒・ 雲母含	小片	条線。
28	809-4	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒多 含、雲母含	小片	条線。
29	808-3	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	明赤褐5YR5/6	3mm以下の砂粒多 含	小片	条線。摩滅のため調整不明。
30	807-3	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒・ 雲母含	小片	条線。摩滅のため内面調整不明。
31	808-6	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	明赤褐5YR5/6	4mm以下の砂粒多 含、雲母含	小片	条線。摩滅のため調整不明。
32	807-4	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	灰黄褐10YR5/2	2.5mm以下の砂粒 ・雲母含	小片	条線。摩滅のため調整不明。
33	807-7	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	底部ヘラミガキ、内面ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	3.5mm以下の砂粒 多含	小片	条線。
34	807-6	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3.0mm以下の砂粒 ・雲母含	小片	条線。
35	808-4	下層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	底径 9.4	内面ナデ	明赤褐5YR5/6	3mm以下の砂粒多 含	底部3/12	摩滅のため調整不明。
36	805-6	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR5/3	3mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部外面に隆帯。摩滅により調整不明。
37	806-2	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR5/4	3mm以下の砂粒・ 雲母含	口縁部小片	波状口縁?。沈線+円孔。摩滅により調整不明。

第4表 第8次調査出土遺物観察表①

番号	実測番号	遺構	調査区	器種 器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
					口径	器高	その他					
38	806-1	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	1.5mm以下の砂粒・雲母含	口縁部小片	波状口縁、沈線。摩滅により調整不明。
39	805-2	SD807	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	灰黄褐10YR6/2	3.0mm以下の砂粒多含	口縁部小片	波状口縁?。沈線。摩滅により調整不明。
40	805-4	P1	2-2区	縄文土器 浅鉢	—	—	—	内面ヘラミガキ	橙5YR6/6	2.0mm以下の砂粒多含	口縁部小片	口縁部外面に隆帯+沈線3条。摩滅により調整不明。
41	805-5	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR5/4	3.5mm以下の砂粒多含・雲母含	口縁部小片	口縁部外面に沈線、内面に隆帯。摩滅により調整不明。
42	806-4	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2.5mm以下の砂粒多含・雲母含	小片	沈線+縄文。摩滅のため調整不明。
43	806-3	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面条痕	にぶい褐7.5YR6/3	3mm以下の砂粒含	小片	沈線+縄文。
44	806-5	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	内面ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	3.5mm以下の砂粒・雲母含	小片	摩滅のため外面調整不明。
45	805-1	SD807	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	小片	沈線?。摩滅のため調整不明。
46	805-3	上層包含層	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR5/3	3mm以下の砂粒含	小片	沈線。摩滅のため調整不明。
47	804-7	SK806	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	底径10.0	—	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	底部2/12	摩滅のため調整不明。
48	806-6	表土	2-2区	縄文土器 深鉢	—	—	底径11.8	外面ナデ	灰黄2.5Y7/2	5mm以下の砂粒含	底部2/12	摩滅のため調整不明。
49	804-5	上層包含層	2-2区	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部小片	口縁部外面に煤付着。
50	804-2	SD805	2-2区	山茶碗	—	—	高台径5.6	ロクロナデ	灰白N/8	1mm以下の砂粒含	底部完存	内面平滑。
51	804-3	SD805	2-2区	山茶碗	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部3/12	
52	804-1	SD805	2-2区	山茶碗	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰白N/8	1.5mm以下の砂粒含	底部完存	内面平滑。高台に靱殻痕。
53	803-4	SK806	2-2区	陶器 甕	33.6	—	—	—	橙2.5YR7/6	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
54	804-6	上層包含層	2-2区	陶器 壺	—	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	微砂粒含	口縁部小片	
55	804-4	SE808	2-2区	灰釉陶器 壺	—	—	高台径11.6	ロクロナデ	灰白N/7	微砂粒含	高台1/12	
56	810-4	SD812	5区	灰釉陶器 椀	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部1/12	
57	810-8	排土	5区	須恵器 壺	—	—	—	ロクロナデ	灰N5/	2mm以下の砂粒含	口縁部小片	
58	810-6	排土	5区	山茶碗	—	—	高台径5.8	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部1/12	
59	810-1	排土	5区	山茶碗	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部3/12	内面平滑。
60	810-5	排土	5区	山茶碗	—	—	高台径7.5	ロクロナデ	灰白N8/	2mm以下の砂粒含	底部3/12	内面一部平滑。
61	810-3	排土	5区	山茶碗	—	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部2/12	内面平滑。
62	810-2	表土	5区	山茶碗	—	—	高台径8.6	ロクロナデ	灰白N8/	1mm以下の砂粒含	底部1/12	内面一部平滑。
63	810-7	排土	5区	陶器 鉢	26.6	—	—	ロクロナデ	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。口縁部に片口。
64	811-1	排土	5区	陶器 鉢	—	—	高台径13.8	ロクロナデ	灰白N7/	3mm以下の砂粒含	底部2/12	
65	812-1	SR801	6-1区	土師器 鍋	29.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
66	811-5	SR801	6-1区	土師器 皿	11.6	2.0	—	底部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
67	811-4	SR801	6-1区	土師器 皿	11.6	2.4	—	底部外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部5/12	
68	812-4	SR801	6-1区	土師器 皿	11.8	2.8	—	底部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
69	812-5	SR801	6-1区	土師器 皿	11.8	1.9	—	底部外面ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
70	811-6	SR801	6-1区	土師器 皿	11.8	2.3	—	底部外面ナデか未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
71	811-3	SR801	6-1区	土師器 皿	12.6	2.6	—	外面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部5/12	外面に工具痕が明瞭に残る。
72	812-2	SR801	6-1区	土師器 皿	13.0	—	—	底部外面ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	摩滅のため調整不明。
73	812-3	SR801	6-1区	土師器 皿	13.6	2.2	—	底部外面ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	摩滅のため調整不明。
74	811-2	SR801	6-1区	土師器 皿	13.8	2.8	—	底部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	口縁部外面に沈線。

第4表 第8次調査出土遺物観察表②

## V. 第9次調査

第9次調査は、第5次調査、第6次調査及び第7次調査で発掘調査を保留した農道部分等を対象に実施した工事立会による発掘調査である。このため調査区は16ヶ所に分かれ、しかも狭小である。

### 1.1区

第6次調査12-1区と12-2区の間に位置する。表土は客土で構成され、調査区東部では基本層序が確認できる。表土下には灰色系の粘質土が堆積し、1.2mで明黄褐色粘質土に至る。しかしこの層は、調査区東端で検出されるに止まり、青灰色の粘質土が広がる沼地状を呈している。第6次調査では耕作土直下で遺構検出を行っているが、調査区西部は攪乱が多く、この検出面が存在しない。したがって、第6次調査で検出したS D 612016を今回の調査では検出することができなかった。第6次調査ではS D 612018とS D 612016が同一の大きな流路である可能性を指摘している。第117図に示す攪乱層2の東端が、S D 612016の東岸を示す可能性があり、昭和期の客土によってS D 612016が最終的に埋められたものかも知れない。これ以外においても、遺構・遺物ともに検出されなかった。

### 2.2区

第6次調査12-2区と12-3区の間に位置する。比較的安定した層序を呈し、表土下に旧耕作土が残存し、その下に締まりが強い灰黄褐色の粘質土がある。第6次調査ではこの層の上面で遺構検出を行っている。その下は、これもよく締まった灰黄色砂質土が厚さ50cmほど堆積し、灰黄色の砂質土に至る。さらに、表土下約1.5mの明黄褐色の粘質土まで確認したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

### 3.3区

第6次調査11-2区と11-3区の間に位置する。両調査区ともに多くの遺構が検出された調査区であり、下層に縄文時代の検出面も確認されている。表土直下の明黄褐色粘質土上面で遺構検出を行った結

果、南北に延びるS D 90301を検出した。幅80cm、検出面からの深さ20cmほどの小規模な溝で、埋土は灰褐色の粘質土のみである。古相を示す土師器杯や甕の小片が出土しているため、奈良時代に収まるものと思われる。しかし、第6次調査で検出された近隣の遺構は平安時代前期とされるものが散見されるため、これも同時期まで下る可能性も残る。また、第6次調査11-2区では、S D 39031に繋がる遺構が検出されておらず、疑問が残る。検出面と遺構埋土は差異が大きく見落とす可能性は低いものと思われる、座標測量の誤りのため、調査区の位置が微妙に異なる可能性も否定できない。

S D 90301以外に検出された遺構は無いが、土師器壺や灰釉陶器の小片が出土している。なお、第6次調査の下層遺構が調査区の近隣では検出されておらず、今回の調査では下層遺構の確認は行っていない。

### 4.4区

今回の調査では、最も西に位置する。幅1m未満、延長110mに及ぶ南北に細長い調査区である。表土下には、にぶい黄褐色粘質土、黒色粘質土があり暗褐色粘土に至る。この面を検出面として遺構検出を行った。表土から検出面までは約1mを測るが、南へ向かうと徐々に深さを減じる傾向にある。

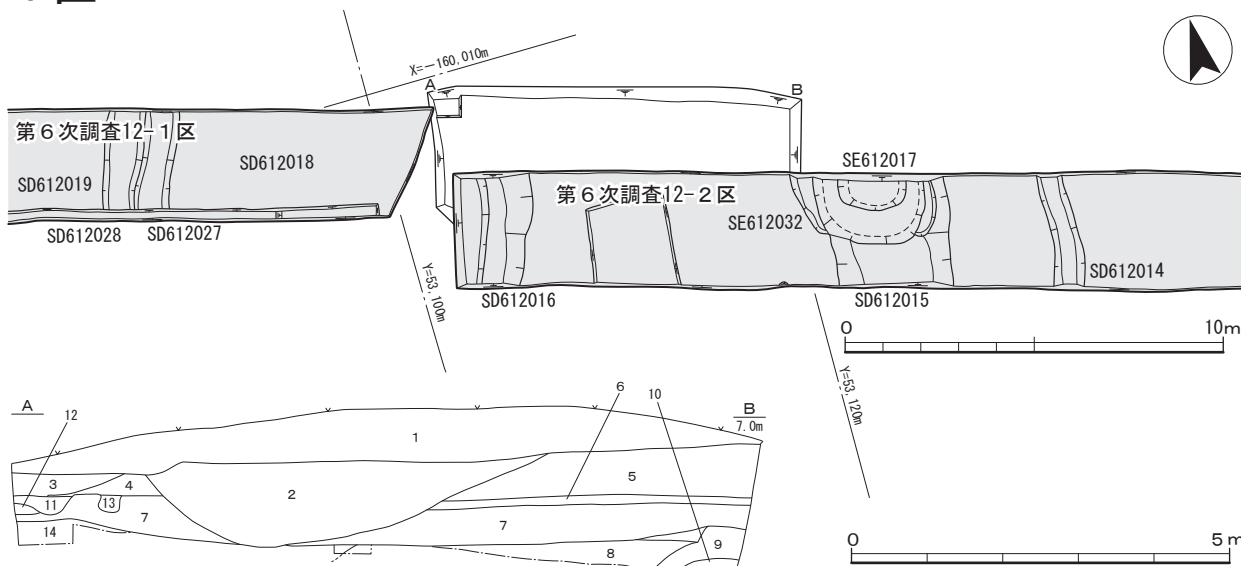
調査区の北側では小穴が散在し、土坑を1基検出しているが、遺物の出土は無い。調査区南側では、遺構の検出も皆無であった。土坑は、直径2mの不整形円形を呈する井戸状のものである。1.3m程掘削したが、遺物の出土は無く、湧水が激しく調査区も狭小なことから完掘を断念した。

なお、この検出面とした層は厚さ40cm程で黄橙色粘質土に至る。部分的にこの層の上面まで掘削したが、遺構や遺物の検出は無かった。

### 5.5区

第6次調査3-1区と3-2区の間隔を埋める様に設定された調査区である。層序は表土下に、にぶい黄橙色粘質土、黄褐色粘質土と続き、この黄褐色

# 1区

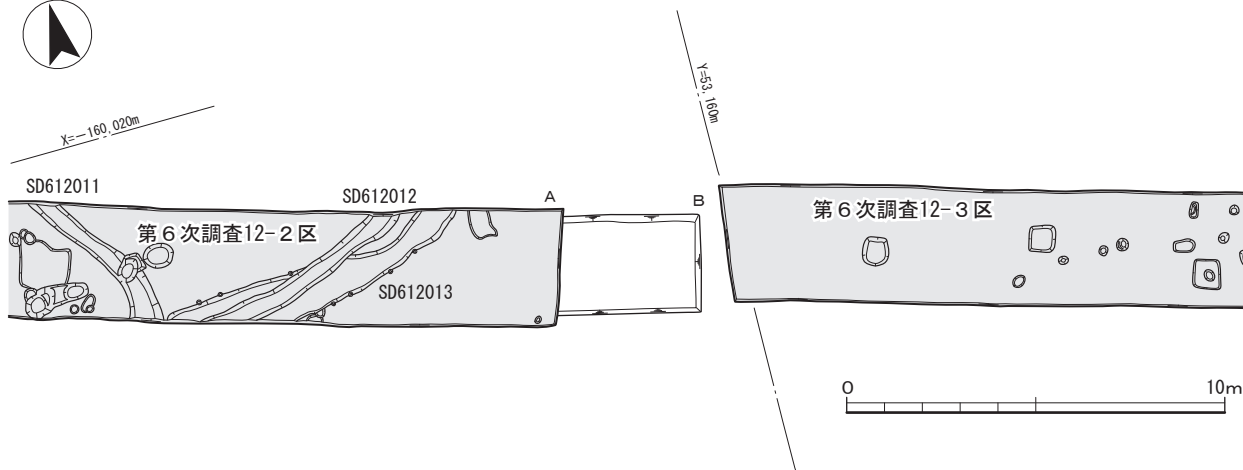


- 1 暗褐色土<表土>
- 2 攪乱<昭和44~45年頃の客土>
- 3 灰黄色粘質土 (縮まり強い)
- 4 褐灰色粘質土
- 5 褐灰色土

- 6 灰黄色粘土
- 7 灰黄色粘質土
- 8 青灰色粘土
- 9 明黄褐色粘質土
- 10 青灰色砂質土

- 11 灰黄色混礫土
- 12 灰黄褐色粘質土
- 13 灰黄褐色土 (プラスチック含)
- 14 灰色砂質土

# 2区



- 1 表土
- 2 褐色粘質土<旧耕作土>
- 3 灰黄褐色粘質土 (縮まり強い)
- 4 灰黄色砂礫土 (縮まり強い)
- 5 灰黄色砂質土 (粘性が弱い)
- 6 明黄褐色粘質土



第117図 第9次調査1区・2区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



粘質土上面で遺構検出を行った。表土から検出面までの深さは、50cm程度である。比較的大規模な溝を2条検出しているが、出土遺物は無い。調査区全体でも出土遺物が無く、時期決定は困難である。

北側のSD 90501は幅2m、検出面からの深さ60cmを測り、壁は緩やかである。埋土は粘質土で砂粒は含まない。第6次調査で検出したSD 63009の延長上に位置し、規模や緩やかな壁が共通するため、両者は同一遺構とみて相違ないものと考えられる。ただし、SD 63009は最下層に細粒砂の層が堆積している。SD 63009も出土遺物は少なく、時期を古代以前とするに止めている。また、反対側の延長上にある第6次調査3-1区では、それに相当する溝が無く疑問である。測量の誤りにより、どちらかの調査区が本来の位置より南北方向へ1.5m程異なっているとすれば、疑問は解消される。

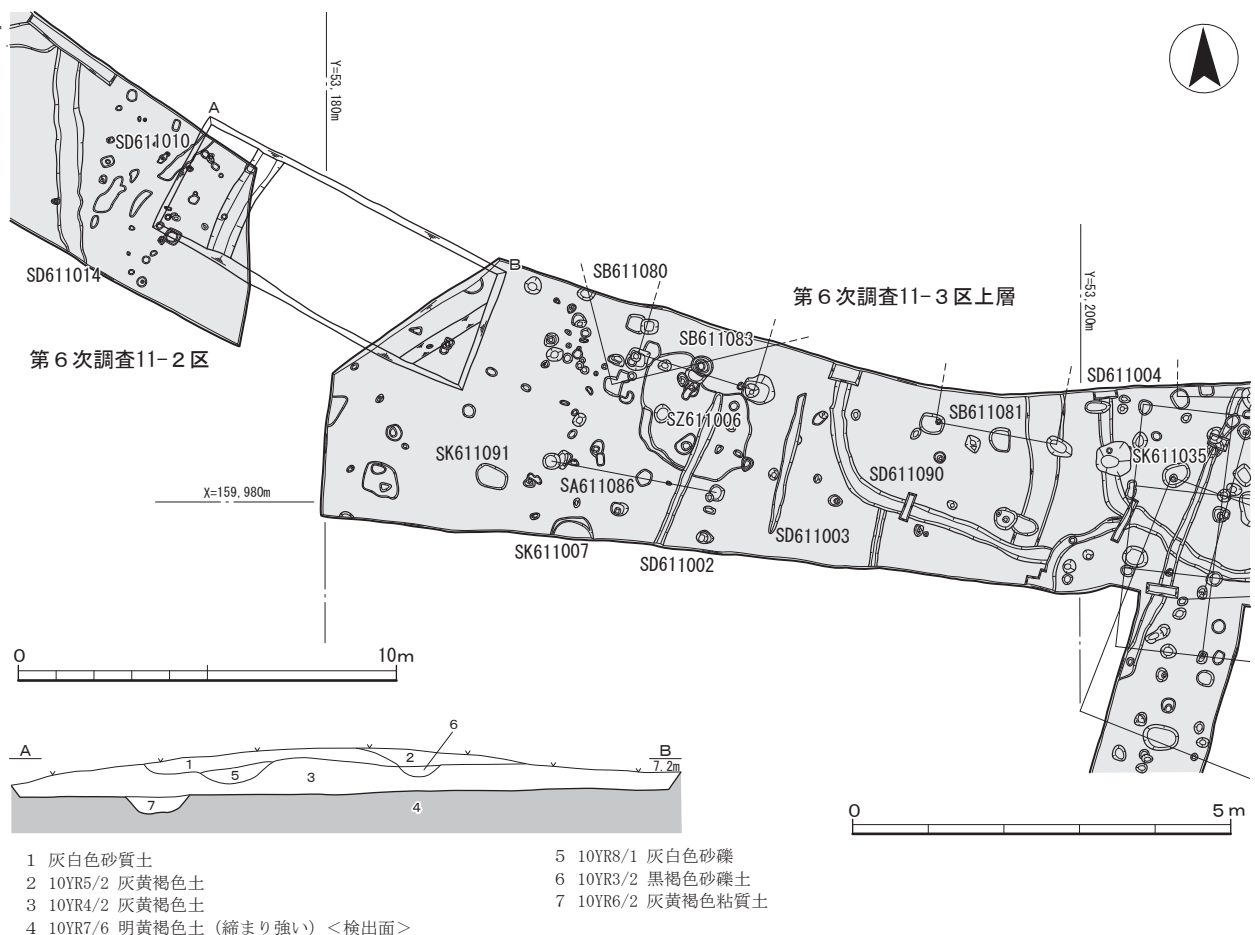
南側の溝もSD 90501と同様な規模であるが、方向を大きく違えている。工事による破壊を免れる位

置であったため完掘しなかったこともあり、詳細は不明である。

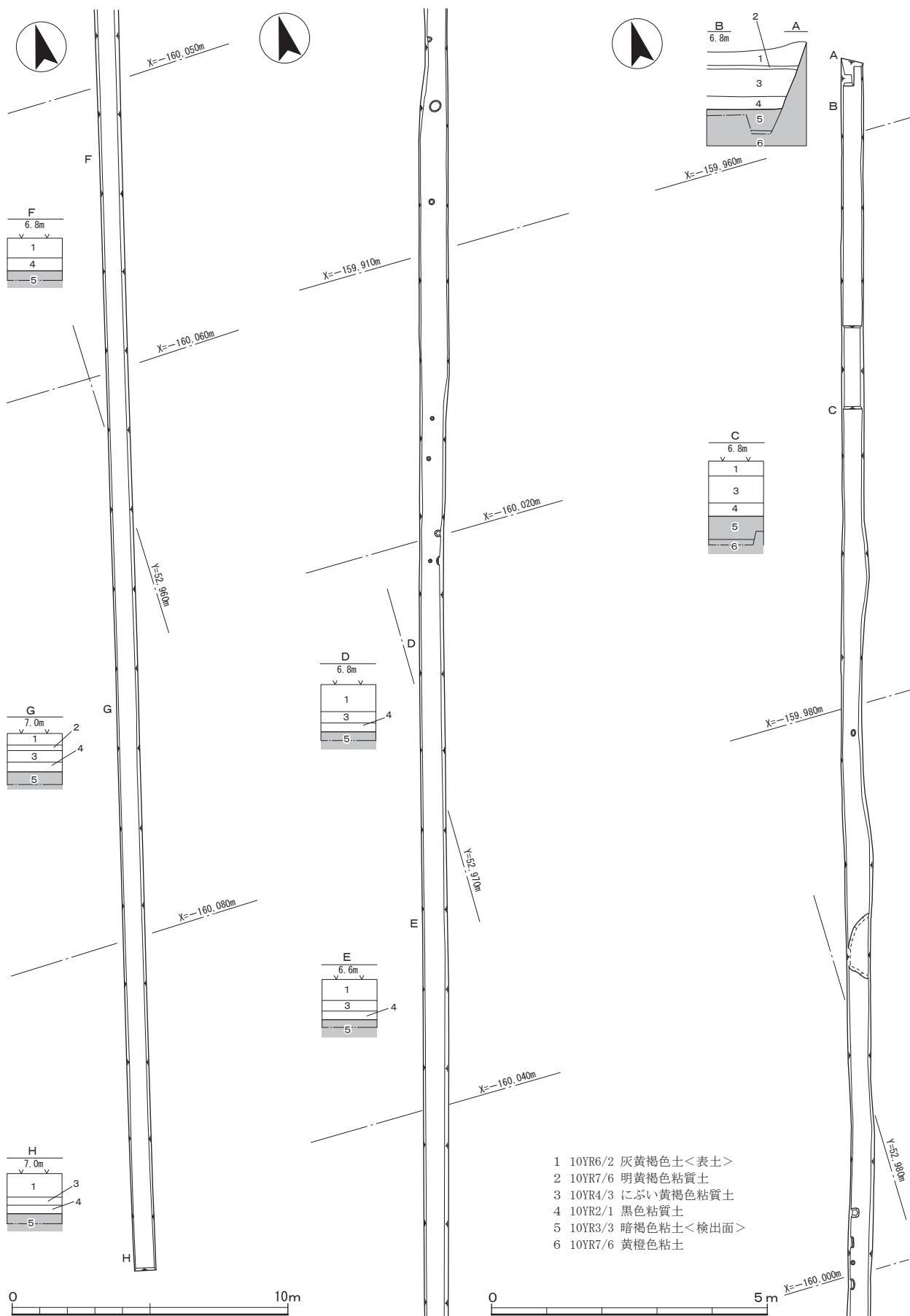
### 6.6区

第5次調査4-1区内、調査が出来なかった部分を対象とした調査区である。第5次調査で検出されたSB 54043の北側柱筋と東側梁行が位置する調査区でもある。表土下に薄い灰褐色粘土、鉄分を多く含む褐灰色シルトが堆積し、その直下の浅黄褐色粘質土上面で遺構検出を行った。検出面までの深さは、60cmほどである。

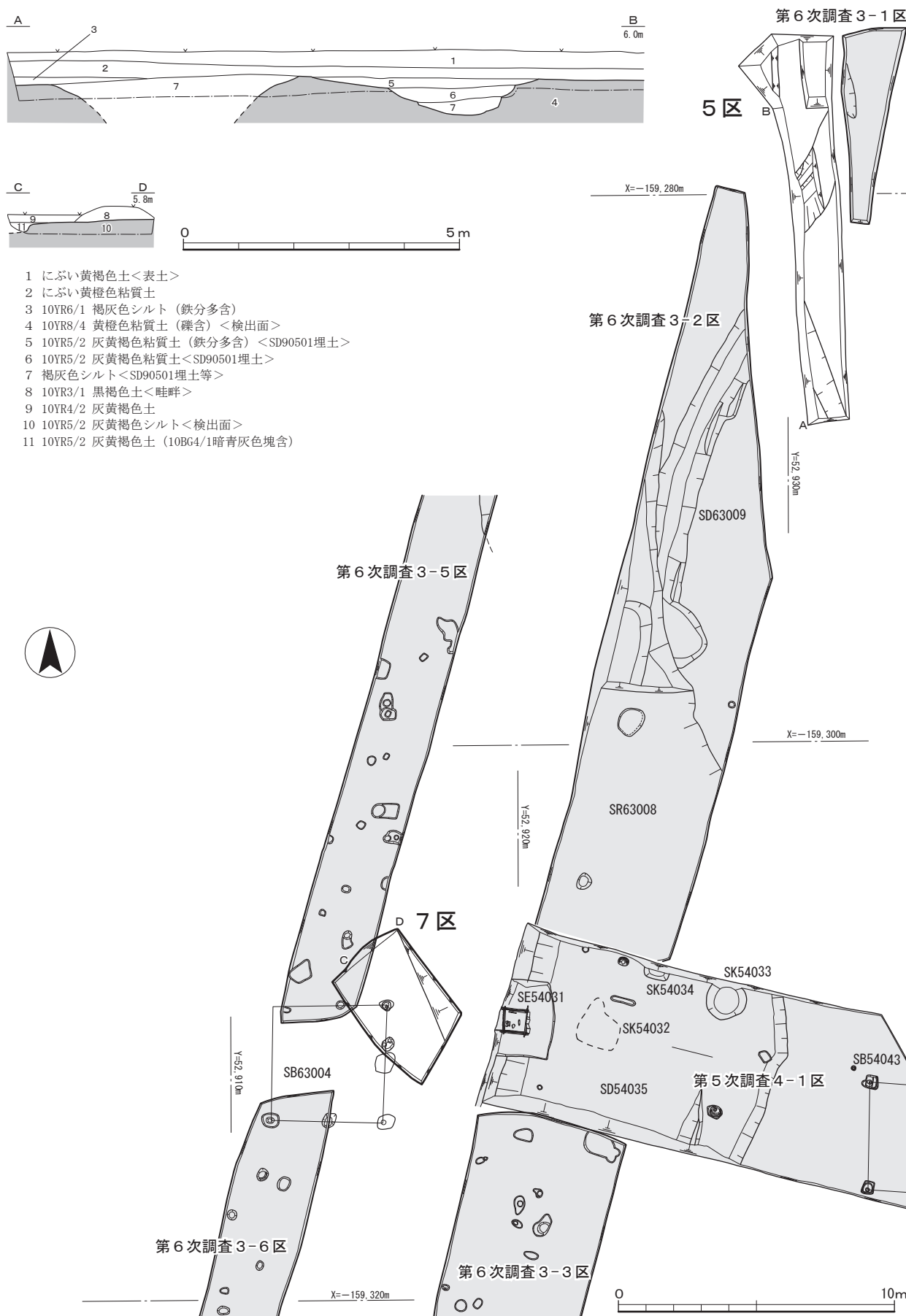
2基の小穴を検出したが、その内の1基は第5次調査で検出したSB 54043の北側の柱筋東端のものを再確認したものである。残る1基は北側柱筋の想定位置で検出している。水道管による攪乱のため過半を消失しているが、一辺50cmの不整形を呈するものと思われる。深さは検出面から5cm程度しか残存していない。土師器の小片が出土するのみであ



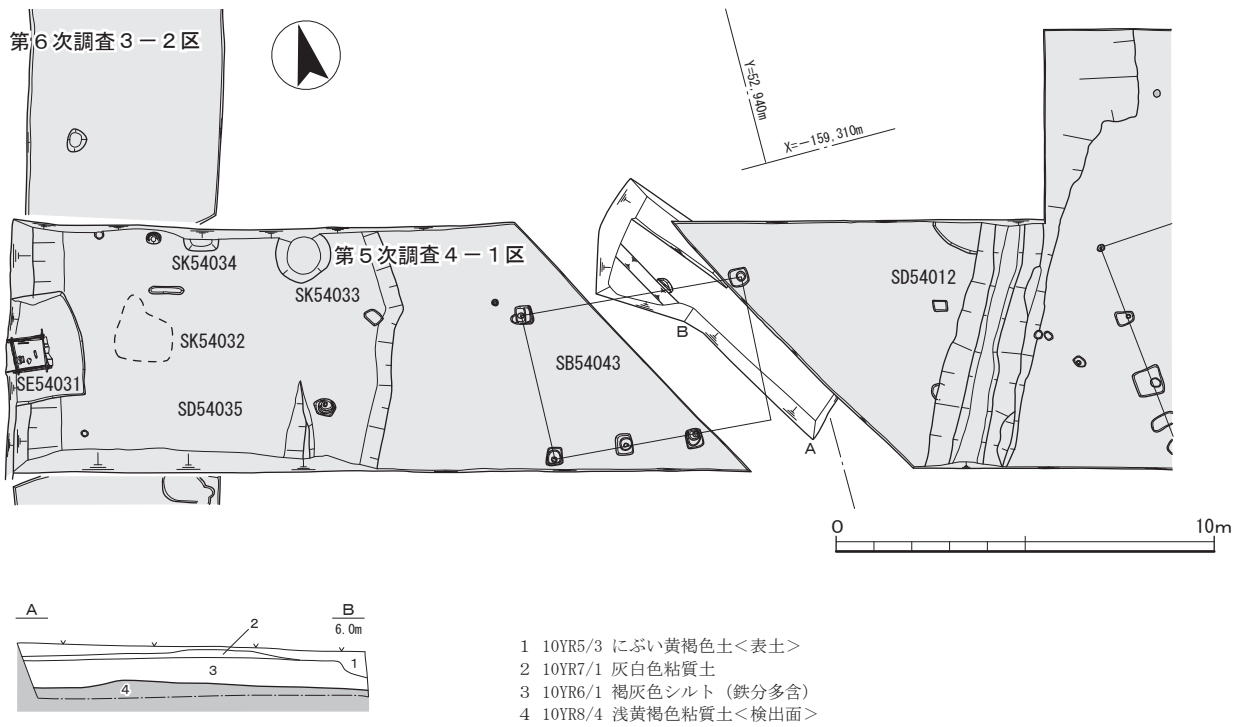
第118図 第9次調査3区平面図(1:200)、土層断面図(1:100)



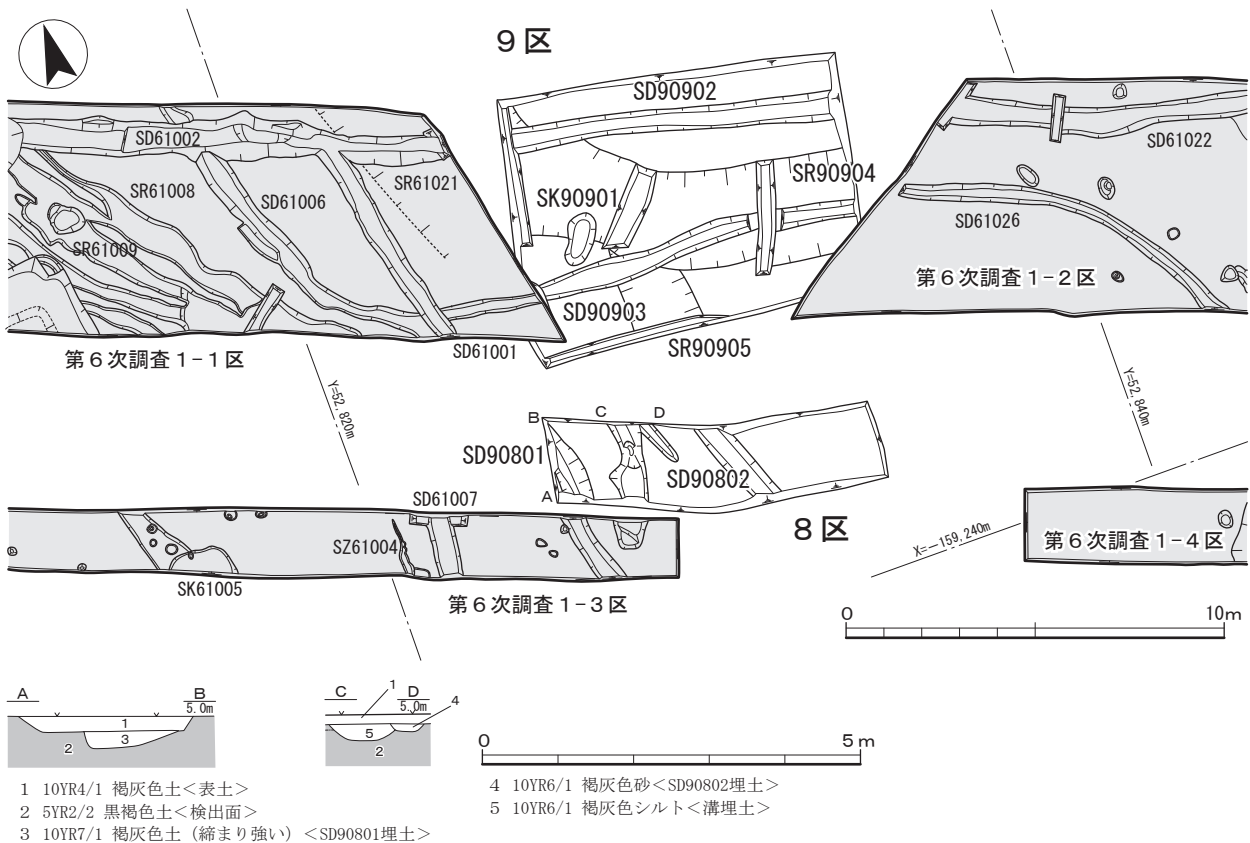
第119図 第9次調査4区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



第120図 第9次調査5区・7区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



第121図 第9次調査6区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



第122図 第9次調査8区・9区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



るが、中世より古いものと思われ、平安時代後期とする5次の調査結果と矛盾しない。

### 7.7区

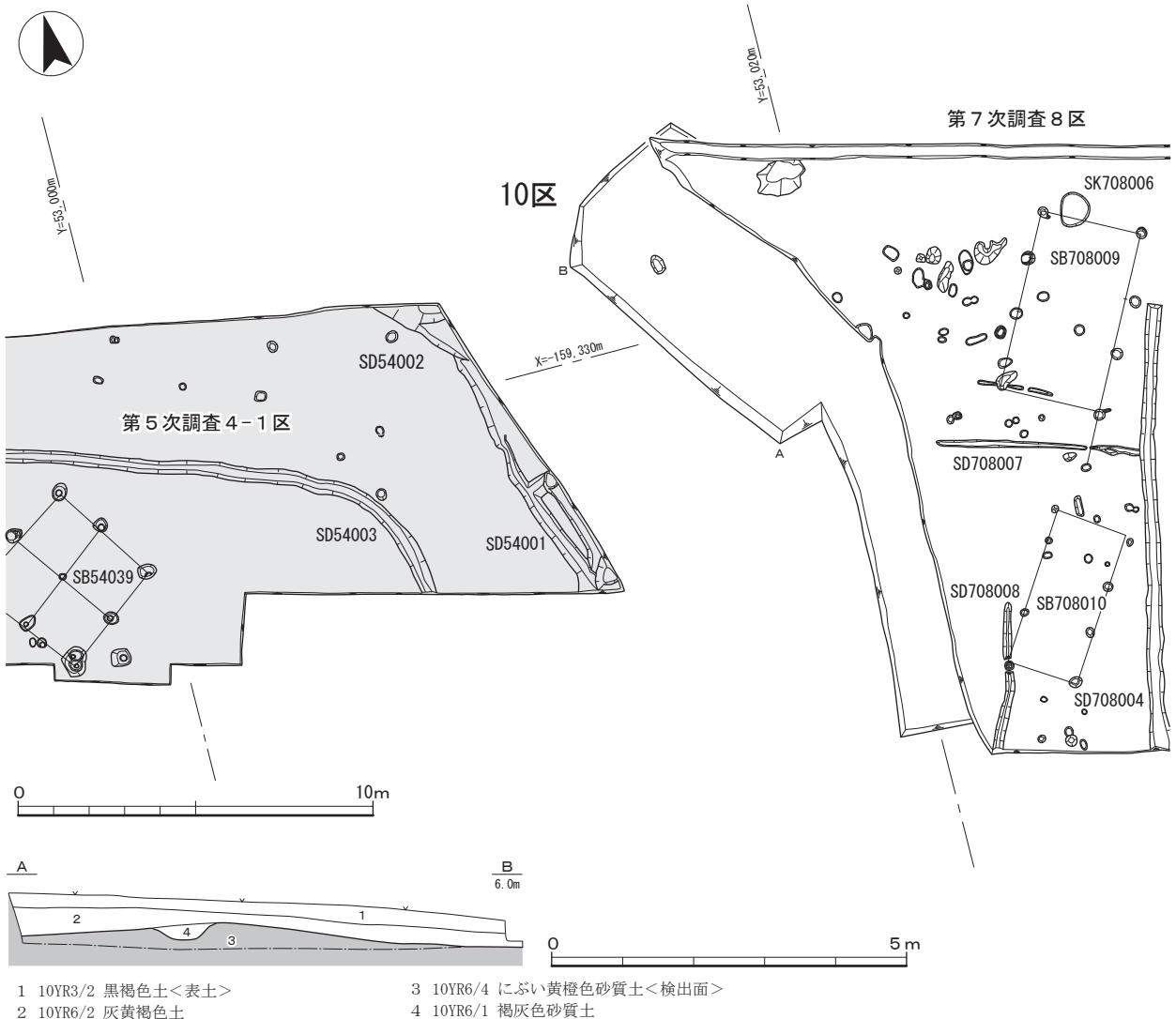
第6次調査3-5区と3-6区の間隔を埋める様に設定された調査区である。両調査区に跨る様に検出されたS B 63004の柱穴が位置する調査区でもある。表土直下の灰黄褐色シルト上面で遺構検出を行った。表土から検出面までの深さは、僅か20cm未満である。

2基の小穴を検出した。それぞれS B 63004の東側桁行を構成するものとなる。北側のものは桁行北端の柱穴で、直径30cmの円形を呈し、深さは検出面から15cm程度である。柱穴の南側に寄せて10cm程の石が据えられており、根石と思われる。その

南側に1.35mの間隔で位置する小穴はやや大きく、一辺40cmの隅丸方形にちかい形態で、深さは検出面から10cm足らずである。底部には柱痕跡と思われる窪みが2ヶ所あり、2基の柱穴が重複している可能性もある。第6次調査では時期不明とされていたが、今回、律令期の土師器杯や甕の小片が出土した。柱痕跡より出土した土師器杯により平安時代前半とすることができる。

### 8.8区

第6次調査1-3区と1-4区の間隔を埋める様に設定された調査区である。表土下の黒褐色土上面で遺構検出を行った。表土から検出面までの深さは、僅か20cm未満である。4条の溝を検出したが、その規模や



第123図 第9次調査10区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)

延びる方向は類似する。この方向は、第6次調査1-3区で検出されている数条の溝とも共通する。

S D 90801 は、第6次調査で検出された溝の延長である。第6次調査では遺物の出土が無かったが、今回の調査で土師器や須恵器の小片を確認している。奈良時代に遡るものも多いが、平安時代に下る土師器甕小片があり、平安時代中頃としておく。幅1.2m、検出面からの深さは20cm、埋土は溝としては締まりの強いものである。これを北へ延長すると第6次調査1-1区のS D 61001がある。時期も第6次調査結果と合致するため、一連の溝とするに相違ない。

S D 90802 は幅30cm、検出面からの深さ10cm程度の小規模なものである。埋土は砂で、自然流路の痕跡可能性がある。山茶碗が出土しており、時期としては、鎌倉時代とすることができる。1m東側に並走する幅80cmの溝があるが、関連は不明である。

#### 9.9区

第6次調査1-1区と1-2区の間隔を埋める様に設定された調査区である。検出面は8区と同様に耕作土直下である。土坑1基と複雑に交差する多数の溝を検出している。

S K 90901 長頸1.4m、短径60cmの不整長円形を呈する。深さは検出面から20cm程度の平面形に対して浅いものである。時期は、出土した山茶碗口縁部片により鎌倉時代とすることができる。他に律令期の土師器小片も出土している。

S D 90902 調査区北部を東西に延びる幅60cm、検出面からの深さ20cmの溝である。西側は第6次調査のS D 61002に繋がり、東側はS D 61022に繋がることが明白である。結果的に延長60m以上を確認したことになり、両端は第6次調査区外へ続いていくが東端はやや北へ向きを変える。完形の土錘や山茶碗片等が出土しており、平安時代末の時期が与えられる。第6次調査の成果により流水が認められ、最終埋没は鎌倉時代に下るようである。

S D 90903 調査区南部を東西に延びる幅70~50cm、検出面からの深さ10cm程度の浅い溝である。西端は第6次調査のS D 61006に、東端はS D 61026にそれぞれ繋がり、全体として緩やかに蛇行する溝となる。土師器片や須恵器または灰釉陶器

の甕片等が出土しており、中世に下るものは無い。しかし、S D 61026の時期が鎌倉時代に下るものとされるが、土壌観察ではS D 61002より先行する結果が出ており若干の矛盾を呈している。ここでは、平安時代末から鎌倉時代のものとしておく。

S R 90904・90905 S R 90904は幅3m以上の自然流路である。深さは検出面から30cm程度の規模に対して浅いものである。東西に延びるが、西端は向きを北西へ、そのまま第6次調査のS R 61021へ繋がる。東側は隣接する第6次調査1-2区では検出されなかったが、調査区断面の土層観察により確認している。S R 90905は調査区南方から北上し、S R 90904に合流する。幅は2m程度でやや小規模である。若干の出土遺物しか無いが、S R 90904からは弥生土器から古式土師器の小片が、S R 90905からは古墳時代後半から奈良時代の土師器甕の小片が出土している。第6次調査でも古墳時代前期としており、S R 90904の結果と合致する。S R 90905はそれより後出のものとなる。

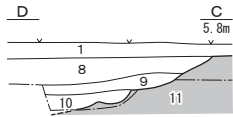
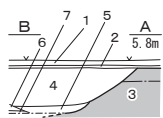
#### 10.10区

第5次調査4-1区と第7次調査8区の間隔を埋める様に設定された調査区である。表土下の灰黄褐色土を除き、にぶい黄橙色砂質土上面で遺構検出を行った。表土から検出面までは60~30cmで、全体的に北へ向けて緩やかに傾斜している。小穴を1基検出したに止まるが、土層断面では溝状遺構も確認できる。しかし、調査区全体として遺物の出土は無かった。

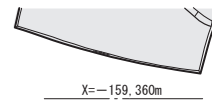
#### 11.11区

第6次調査3-4区の西側に並行する調査区である。検出面は耕作土直下で、検出面までは10~20cmである。自然流路S R 91101と小穴を検出している。S R 91101は幅1.2m、検出面からの深さ60cmを測るが、さらに4m外側にも北岸があり、さらに大規模な流路に含まれる様である。埋土は、流路とするには砂粒の少ないものである。土師器、須恵器、陶器等比較的多くの遺物が出土しているが、山茶碗により鎌倉時代に下るものと考えられる。

しかし、隣接する第6次調査3-4区で検出され

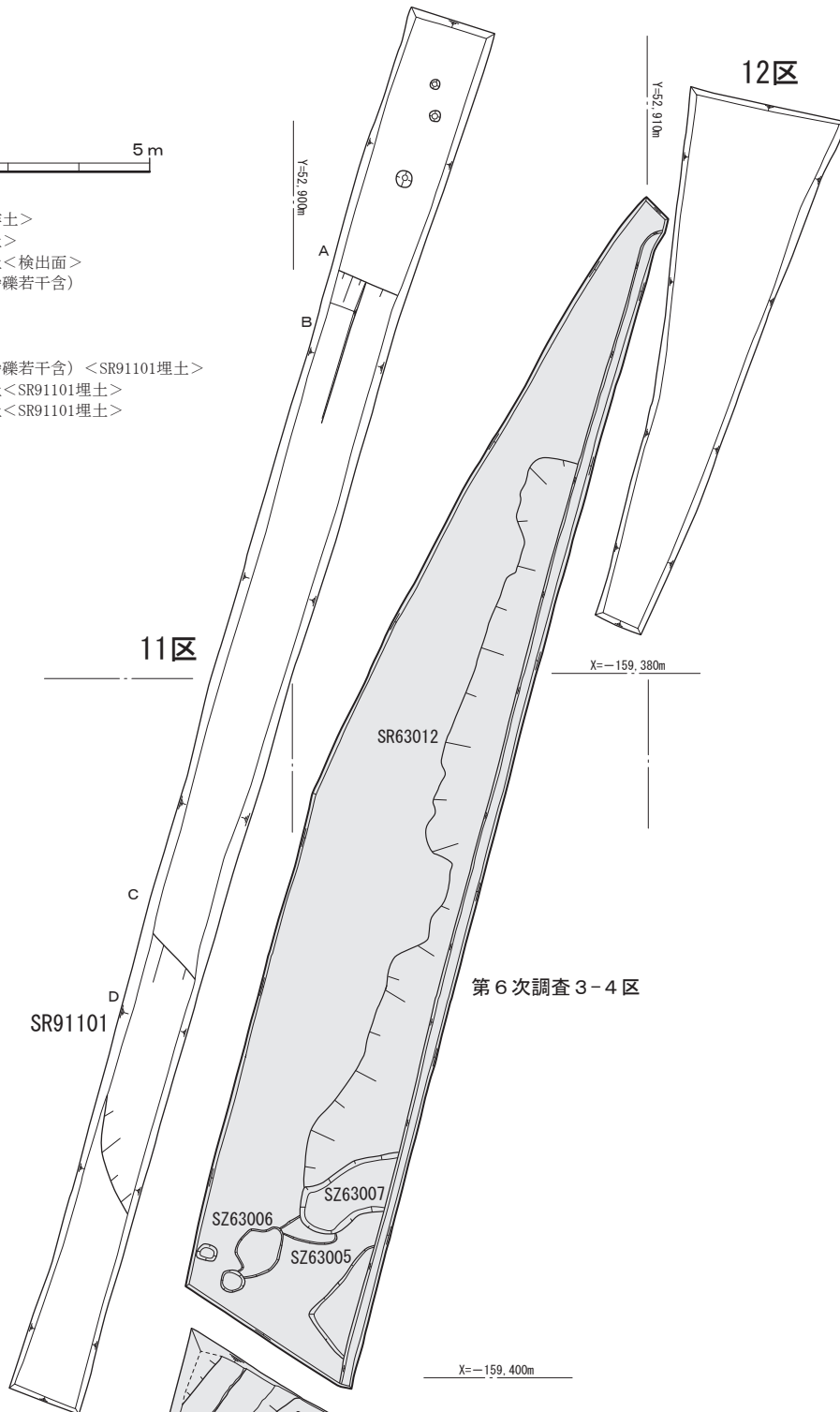


- 1 10YR3/2 黒褐色土<耕作土>
- 2 10YR5/8 黄褐色土<床土>
- 3 10YR6/4 にぶい黄褐色土<検出面>
- 4 10YR5/2 灰黄褐色土 (砂礫若干含)
- 5 10YR6/1 褐灰色粘土
- 6 10YR5/1 褐灰色砂礫
- 7 10YR4/6 褐色粘質土
- 8 10YR5/2 灰黄褐色土 (砂礫若干含) <SR91101埋土>
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色土<SR91101埋土>
- 10 10YR6/2 灰黄褐色砂質土<SR91101埋土>
- 11 10YR3/3 暗褐色粘質土

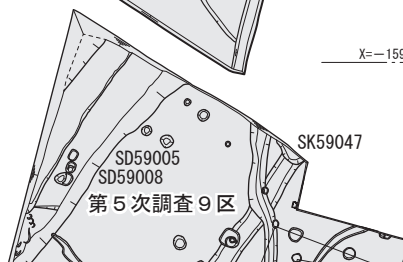


第6次調査3-3区

X=-159.360m

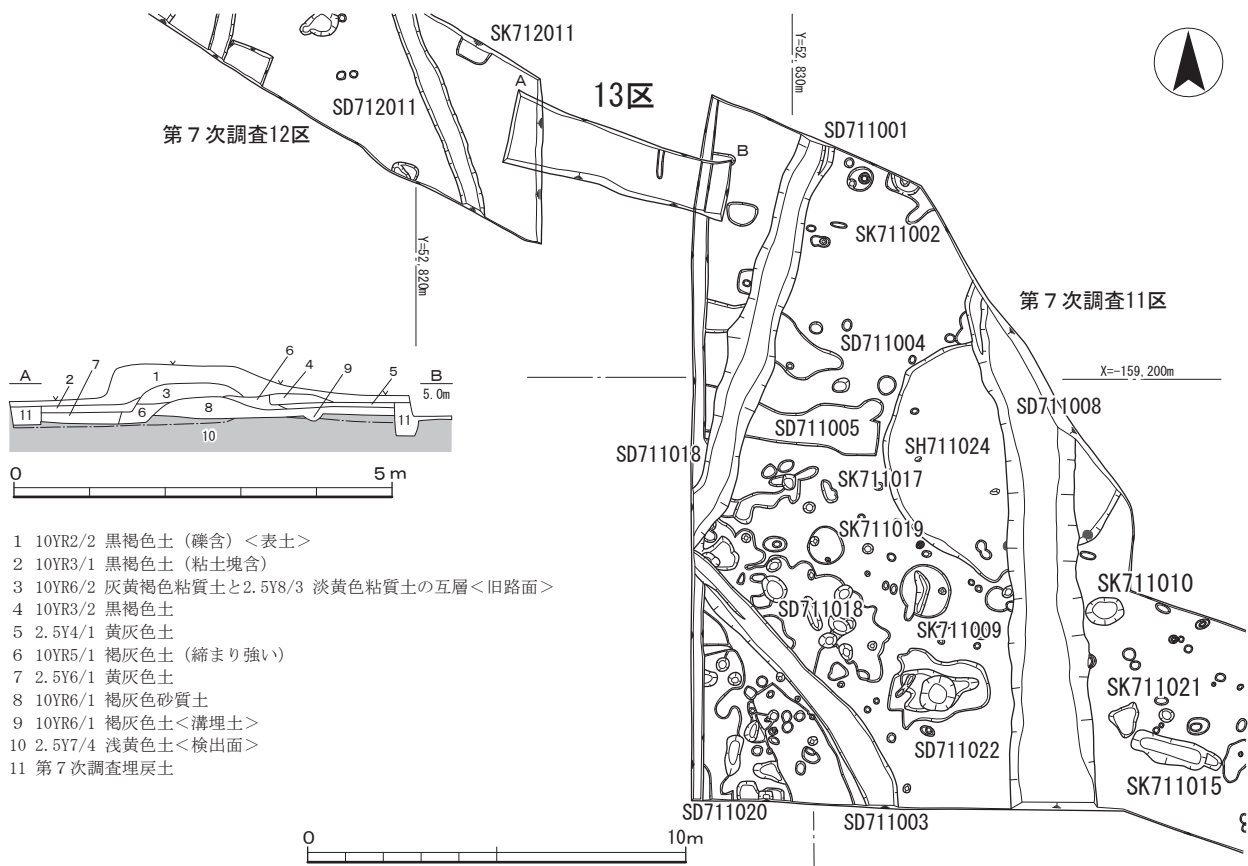


第7次調査9区

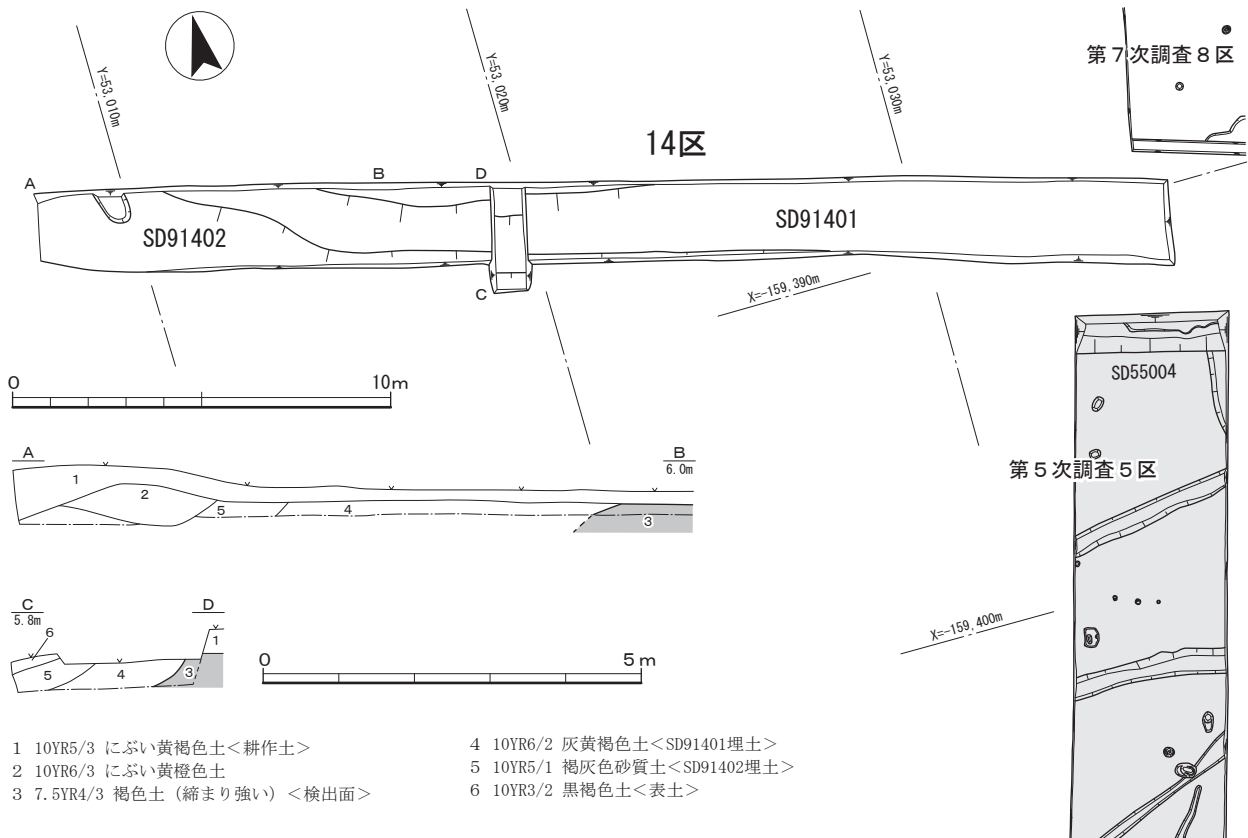


第5次調査9区

第124図 第9次調査11区・12区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



第125図 第9次調査13区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



第126図 第9次調査14区平面図 (1:200)、土層断面図 (1:100)



たSR 63012とは位置も方向も異なり矛盾を露呈している。おそらくこの調査区一帯が、多数の流路痕跡が複雑に交差する大きな流路帯であったために生じた結果と思われる。

### 12. 12区

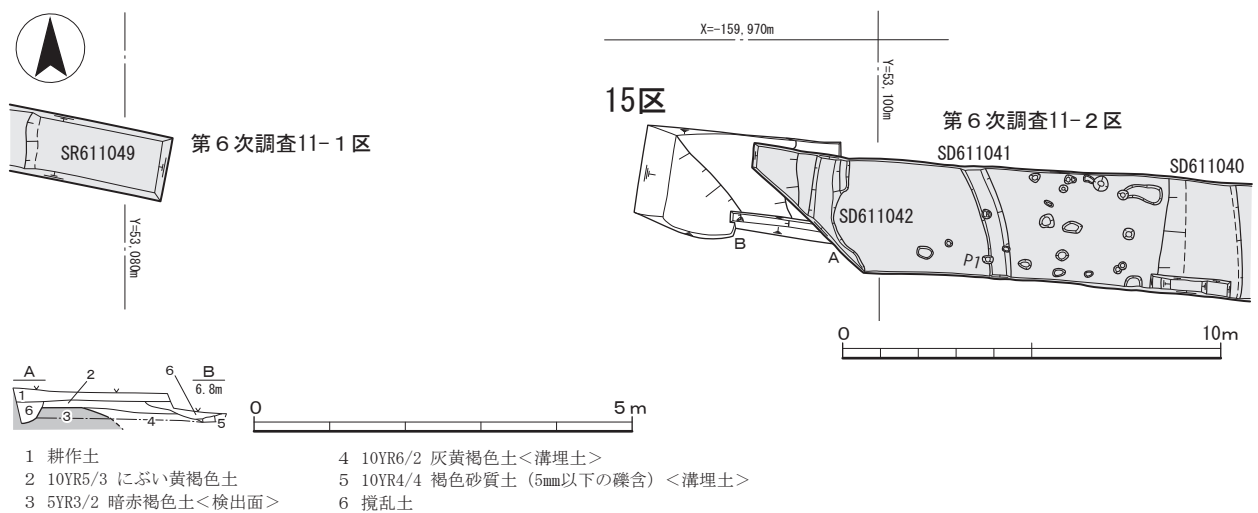
第6次調査3-4区の北東側に隣接し、11区の東側7mに位置する。11区と同様に耕作土直下で遺構検出を試みた。遺構・遺物ともに検出できなかったが、調査区の南側半分では鉄分が多くなり、南端付近では細砂層もみられる。おそらく、第6次調査のSR 63012と一体のものと思われ、11区の流路北岸に相当する可能性も高い。

### 13. 13区

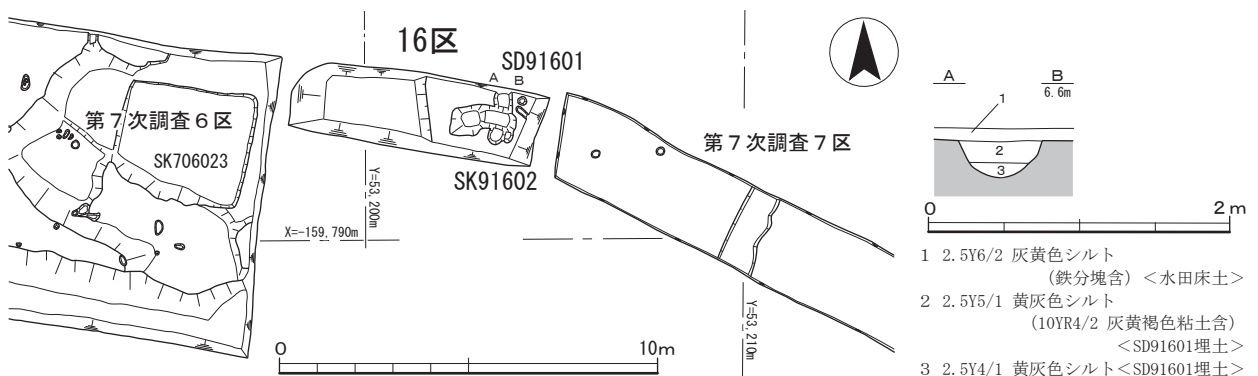
第7次調査11区と12区の間隔を埋める様に設定された調査区である。層序は小道や工事により乱れた状態であるが、巨視的には表土直下で遺構検出を実施したことになる。検出面までの深さは小道の盛土を除き、30cm程である。小溝を検出したに止まり、遺物の出土は無かった。

### 14. 14区

幅2m、延長30mの細長い調査区で、東端は第5次調査5区と第7次調査8区の間に入る位置となる。遺構検出は、耕作土直下の良く締まった褐色土上面



第127図 第9次調査15区平面図(1:200)、土層断面図(1:100)



第128図 第9次調査16区平面図(1:200)、SD91601断面図(1:50)

で行った。検出面までの深さは僅か20cm程度である。

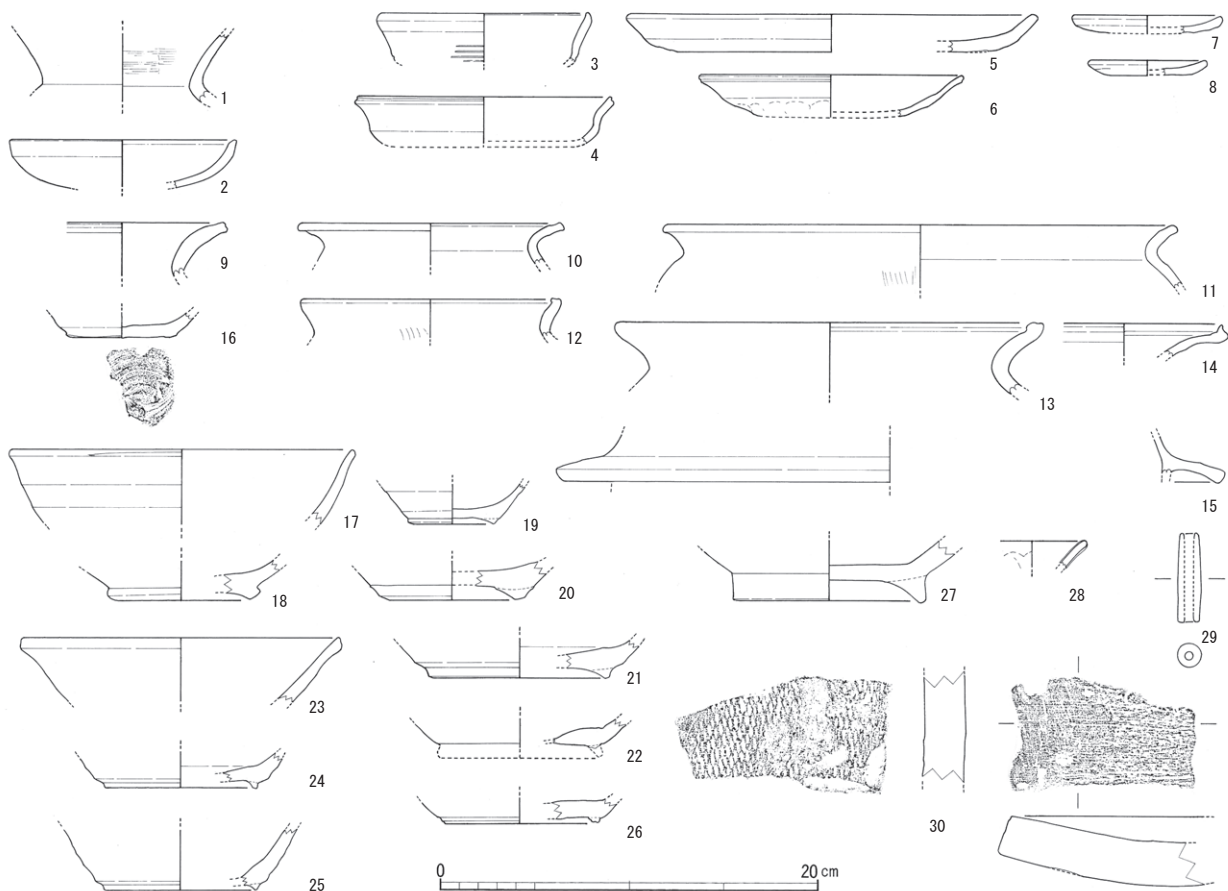
調査区に並行する重複したS D 91401 と S D 91402 を検出し、調査区の大半がこれらの溝の埋土となる。S D 91401 と S D 91402 は同方向に延び、S D 91402 が S D 91401 より後出である。S D 91402 は S D 91401 の埋土とみることもでき、砂質土であるため S D 91401 が埋没する最終形態を現すものと思われる。南岸は調査区外である。第5次調査の S D 55004 が S D 91401 の南岸とした場合、S D 55004 が室町時代であることに對し、S D 91401 からは平安時代前半の土師器杯の小片が出土しており、室町時代に下るものは無い。形状も直線的な S D 55004 に対し、S D 91401 はやや蛇行気味である。以上により、両者を別遺構とし、両調査区間の1 m未満の間に両者の北岸と南岸があるものと想定しておく。このことは、S D 55004 を条里坪境溝とした第5次調査結果と矛盾しない。

なお、S D 91402 からの遺物の出土は無く、埋没時期は不明である。

#### 15. 15 区

第6次調査11-1区と11-2区の間に位置し、東端は11-2区に一部重複する。耕作土下に薄いにぶい黄褐色土があり、その下の暗赤褐色土上面で遺構検出を行った。検出面までの深さは僅か20cmである。

調査区の大半は、溝状の落ち込みで、その東岸を確認した。遺物の出土は無く、時期は不明とせざるを得ない。東岸は、第6次調査で検出したものを再確認したもので、西岸は不明である。約15 m西方の第6次調査11-1区東端で西岸のみを確認した S R 611049 がある。これと同一遺構とした場合、幅20 mの大規模な自然流路となり、時期は第6次調査の成果から古墳時代以前ということになる。なお、深さは完掘しておらず不明である。



第129図 第9次調査出土遺物 (1 : 4)

## 16. 16区

第7次調査6区と7区の間に位置する。耕作土は残存しておらず、水田の床土が露呈していた。遺構検出はその直下で行い、検出面までは現況からわずかに10cm未満である。調査区東半では複数の土坑や溝が重複しており遺構密度は高い。ただし、隣接する第7次調査7区では遺構密度が低く違和感がある。一方、調査区西半は、第7次調査で検出した室町時代の大型土坑SK 706023で占められ、その東辺を確認している。

**SD91601** 調査区外から1mほど南下し、突然止まる溝である。幅50cm、検出面からの深さは25cmを測る。埋土は上下2層に分かれるが、2層ともシルト質である。出土遺物は無く、時期は不明である。

**SK91602** 長辺1m、短辺80cmの正方形にちかい長方形を呈し、検出面からの深さは50cmを測る平面形に比べ深いものである。土師器の皿や鍋、陶器片が比較的多くの遺物が出土しているが、埋納と思われるものは無い。これらから室町時代の時期が与えられるが、山茶碗等の混入遺物も多く、数的には鎌倉時代の方が多い。

## 17. 遺物

調査区が狭小なこともあり、出土遺物は少ない。同一遺構出土遺物においても混入が多く、一括資料とすべきものは無い。古墳時代前期以前の1、奈良時代の9や平安時代の4・5等の律令期のもの、17等の山茶碗をはじめとする平安末～鎌倉時代のものから14の室町時代の鍋まで、各時期のものが少数ではあるものの出土している。

1は頸部片で詳細は不明であるが、弥生土器または古式土師器の壺と思われるものである。外面のヘラミガキは確認できず、口縁部内面にはハケメが微かに残る。

2は粗製の碗である。残存部からの復元では、口径に対する器高が低下した形態となる。

3・4は土師器の杯であるが、4は外反する口縁端部外面に沈線を巡らす。3は口縁部外面に板状の圧痕があり、工具によるヨコナデを施しているよう

である。

5～8は土師器の皿である。5は器壁が厚く大型のもの、6は器壁が薄くなり指頭圧痕が目立つ。7・8は小型で偏平なものである。5の内面は焼成不良のためか黒斑状となる。

9～13は土師器の甕、14は鍋、15は羽釜である。9は口縁部が肥厚し、端部の面が明瞭で、古相を示す。13は口縁端部を内に折り返すことにより端部を肥厚させる。14も同様であるが、断面三角形状を呈する。13・14は使用のためか、口縁部外面に炭化物が付着する。

17～26は山茶碗で、27も同質のものであるが大型のため鉢とした。19は小型で小碗とすべきものである。大半が底部片で、18や20のように整った高台をもつものと24～26の様に形骸化した高台をもつものがある。特に25は、その多くが剥離している。21・22・27は底部内面が使用のためか平滑になり、21・26には炭化物が付着する。口縁部片は17と23であるが、17の口縁端部は外反気味であるが、23は直線的で外に面をもつ。27にはヘラによる沈線が巡るが、一周しない。

28は青磁碗、29は土錘、30は平瓦である。29は外面をヘラケズリで整える特異な調整である。30には縄タタキ痕が明瞭に残り、内面は不明確であるが布目痕と思われる。 (森川)

番号	実測番号	遺構	調査区	器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
					口径	器高	その他					
1	902-3	SR90904	9区	弥生土器壺	—	—	頸部8.5	—	浅黄橙10YR8/3	1mmの白色砂粒含	頸部3/12	口縁部内面にハケメが残る。
2	901-5	SR91101	11区	土師器椀	11.8	—	—	ナデ	淡黄2.5Y8/3	0.2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
3	904-2	SD90301	3区	土師器杯	11.0	—	—	工具ナデ	にぶい橙5YR7/4	精良	口縁部1/12	口縁部外面に板状工具痕。
4	903-2	SR91101	11区	土師器杯	13.3	2.7	—	底部外面未調整	橙5YR7/6	精良	口縁部1/12	口縁部外面に沈線。
5	902-4	SD90902	9区	土師器皿	21.4	2.0	—	底部外面未調整	橙5YR7/6	1mmの白色砂粒若干	口縁部1/12以下	焼成やや不良。
6	904-3	SD90902	9区	土師器皿	13.8	2.3	—	底部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12以下	
7	903-3	表土	11区	土師器皿	7.8	1.0	—	底部外面未調整	灰白7.5YR8/2	精良	口縁部3/12	
8	904-7	SK91602	16区	土師器皿	6.1	0.8	—	—	灰白7.5YR8/2	精良	口縁部2/12	摩滅により調整不明。
9	903-4	SD90301	3区	土師器甕	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部小片	
10	903-1	SD90301	3区	土師器甕	13.8	—	—	—	淡橙5Y8/4	精良	口縁部2/12	
11	903-5	SD90301	3区	土師器甕	26.8	—	—	体部外面ハケメ	淡橙5Y8/4	精良	口縁部1/12以下	
12	902-2	SD90801	8区	土師器甕	13.2	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12以下	
13	902-5	SD90902	9区	土師器甕	21.6	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	口縁部外面に炭化物付着。
14	904-1	表土	16区	土師器鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部小片	口縁部外面に炭化物弱く付着。
15	904-4	SK91602	16区	土師器羽釜	—	—	口径35.5	—	灰白10YR8/1	2mmの石英含	鏝部小片	
16	902-1	P2	11区	ロクロ土師器椀	—	—	底径5.8	ロクロナデ	浅黄橙7.5YR8/6	精良	底部3/12	
17	902-6	SD90902	9区	山茶椀	18.2	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y/8/1	精良	口縁部1/12	口縁部外面に沈線。
18	902-8	表土	16区	山茶椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白N/8	3mmの砂粒若干含	底部3/12	高台に砂痕。
19	901-3	SD90902	9区	山茶椀小椀	—	—	高台径4.2	ロクロナデ	灰白5Y/7/1	精良	底部7/12	内面に重ね焼痕。
20	903-8	SR91101	11区	山茶椀	—	—	高台径6.7	ロクロナデ	灰白N/8	精良	底部3/12	
21	903-7	SR90902	9区	山茶椀	—	—	高台径9.1	ロクロナデ	灰白N/8	精良	高台2/12	内面に炭化物付着。
22	902-7	SR91101	11区	山茶椀	—	—	高台径8.6	ロクロナデ	灰白N/8	1mmの砂粒若干含	底部2/12	
23	903-6	SK90901	9区	山茶椀	16.8	—	—	ロクロナデ	灰白N/8	1mmの白色砂粒含	口縁部2/12	
24	903-9	SD90802	8区	山茶椀	—	—	高台径8.2	ロクロナデ	灰白N/8	1mmの白色砂粒若干含	高台2/12	
25	904-5	SK91602	16区	山茶椀	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白N/8	4mmの小石含	高台2/12	高台の剥離多い。
26	904-6	SK91602	16区	山茶椀	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白N/8	1mmの白色砂粒若干含	高台2/12	内面に炭化物付着。
27	901-4	包含層	10区	陶器鉢	—	—	高台径10.1	ロクロナデ	灰白5Y/7/1	0.5mmの小石含	底部5/12	
28	903-10	表土	16区	青磁椀	—	—	—	—	灰白7/	精良	口縁部小片	外面に蓮弁文。龍泉窯。
29	901-2	SD90902	9区	土製品土鏝	1.3	長4.7	重7.7g	ヘラケズリ	暗灰黄2.5Y5/2	精良	完形	
30	901-1	SR91101	11区	平瓦	—	谷深0.7	—	外面 縄タケキ内面 布目?	橙7.5YR6/6	0.4mmの小石含	1/12以下	

第5表 第9次調査出土遺物観察表



## VI. 樹種同定

### 1. SD706034 出土遺物

#### (1) 試料

試料は漆器（試料No.1）1点である。

#### (2) 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

#### (3) 結果

樹種同定結果（広葉樹1種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

トチノキ科トチノキ属トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

(試料No.1)

(写真図版 62)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 80 \mu\text{m}$ ）が単独かあるいは2～4個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ $\sim 300 \mu\text{m}$ となっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

#### (4) まとめ

今回の試料1点は広葉樹材1点であった。江戸時

代の木製品で、落葉樹材のトチノキ科のトチノキ1点であった。

漆器は生産地からの流通も考えられるので、本遺跡付近の周辺の植生を反映しているかは不明である。

(汐見 真 (株) 吉田生物研究所)

#### [参考文献]

- ・ 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所 (1991)
- ・ 伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所 (1999)
- ・ 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版 (1988)
- ・ 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社 (1979)
- ・ 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料 第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」(1985)
- ・ 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料 第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」(1993)

#### [使用顕微鏡]

Nikon DS-Fi1

### 2. SZ709009 出土遺物

#### (1) 試料と方法

試料は、SZ709009 から出土した炭化材4点である。

まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

#### (2) 結果

同定の結果、広葉樹のコナラ属アカガシ亜属（以

試料番号	調査回数	分析番号	製品名	調査区	遺構 層位	時代	樹種
1	第7次	181	木椀	6	SD706034	江戸	トチノキ科トチノキ属トチノキ

第6表 木製品樹種同定表

下、アカガシ亜属)とコナラ属クヌギ節(以下、クヌギ節)、広葉樹樹皮の3分類群がみられた。クヌギ節が2点、アカガシ亜属と広葉樹樹皮が各1点である。同定結果を第6表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

**コナラ属アカガシ亜属** *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 写真図版 62 1a-1c(No.45)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシヤツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靱で、耐水性があり、切削加工は困難である。

**コナラ属クヌギ節** *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 写真図版 62 2a-2c(No.46)、3a-3b(No.47)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

**広葉樹樹皮** Broadleaf-wood Bark 写真図版 62 4a(No.48)

師管要素と放射組織で構成される広葉樹の樹皮である。放射組織は単列である。対象標本が少なく、同定には至っていない。

### (3) 考察

同定の結果、S Z 709009 から出土した炭化材は、アカガシ亜属とクヌギ節、広葉樹樹皮であった。試料は焼土とともに出土しており、いずれも燃料材であると考えられている。アカガシ亜属とクヌギ節は、燃料材としてみると火力は高くないが、長時間燃焼し続けるという材質をもち(樋口, 1993)、現在でも薪炭材として多く利用されている(伊東ほか, 2011)。遺跡周辺に生育するアカガシ亜属やクヌギ節が、燃料材として伐採利用されたと考えられる。

(小林克也 (株)パレオ・ラボ)

### [引用・参考文献]

- ・ 樋口清之(1993) ものと人間の文化史 71 木炭. 286p, 法政大学出版局.
- ・ 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011) 日本有用樹木誌, 238p, 海青社.

## 3. SK706039・SD706034 出土遺物

### (1) はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

### (2) 方法

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柁目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡(OPTIPHOTO-2: Nikon)によって40~1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生

試料No.	地区名	出土遺構	層位	種類	樹種
45	9区	SZ709009	1層	炭化材	コナラ属アカガシ亜属
46	9区	SZ709009	2層	炭化材	コナラ属クヌギ節
47	9区	SZ709009	A層	炭化材	コナラ属クヌギ節
48	9区	SZ709009	B層	炭化材	広葉樹樹皮

第7表 樹種同定結果一覧

標本との対比によって行った。

### (3) 結果

表8に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

#### 1) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~14細胞高である。

以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

#### 2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱であり、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築などに広く用いられる。

#### 3) サワラ *Chamaecyparis pisifera* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面では、早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞がみられる。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔がヒノキ型であるがスギ型の傾向を示すものもあり、1分野に2個存在するものがほとんどである。接線断面で放射組織は単列の同性放射組織型を呈する。

以上の特徴からサワラに同定される。サワラは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ30m、径1mに達する。材は

木理通直、肌目緻密であるが、ヒノキより軽軟でもろいが、広く用いられる。

#### 4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性が高く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、ほだ木など広く用いられる。

#### 5) キハダ属 *Phellodendron* ミカン科

年輪のはじめに大型でやや厚壁の丸い道管が、単独あるいは2個複合して2~3列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で方形の小道管が、多数集合して斜め方向および接線方向に帯状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。道管の穿孔は単穿孔である。小道管の内壁には、らせん肥厚が存在する。放射組織は多列の同性放射組織型で、紡錘形を呈する。幅は1~3細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の特徴からキハダ属に同定される。キハダ属には、キハダ、ヒロハノキハダなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1mに達する。

### (4) 所見

同定の結果、朝見遺跡の木製品はスギ4点、ヒノキ1点、サワラ2点、クリ2点、キハダ属1点であった。

スギは、曲物底板、木札に利用されている。材は加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材で、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。ヒノキは、道具に利用されている。材は木理通直で大きな材が取れる良材であり、特に保存性が高く、加工工作が容易な上、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。なお、ヒノキないしヒノキ科の

木材は、大きな材がとれる良材であり、律令期以降、瀬戸内から東海地方では、流通し最もよく用いられる材である。サワラは、曲物底板に利用されている。材はヒノキには劣るが木理通直、肌目緻密であり、水質によく耐える材である。クリは、下駄に利用されている。材は重硬で保存性が良い材であり、柱材などの建築材として利用されることが多く、また下駄に比較的好く利用される。キハダ属は、下駄に利用されている。材はやや軽軟だが、アテの少ない素直な材質をしており水湿に強い。キハダ属の下駄の報告例は極めて少なく、山梨県の江戸時代後半の宮沢中村遺跡や長野県の鎌倉時代から江戸時代初期の松原遺跡で確認される。また1800年代後半には長野県以外に、宮崎県都城地方などで下駄に見られた用材である。なお、クリ、キハダ属は本遺跡と同様に削り下駄としての加工がほとんどである。

いずれの樹種も温帯を中心に分布する樹木ばかりであった。スギは肥沃で湿潤な土壌を好み、ヒノキは適潤性であるが乾燥した土壌にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にもよく生育する。サワラは湿気の多い肥沃地で、溪流沿いを好む。クリは乾燥した台地や丘陵地を好み、二次林要素でもある。キハダ属は山地の林内に生育する落葉高木である。

本遺跡で同定された樹木は温帯に分布する樹木であり、当時遺跡周辺にも生育していた。曲物底板、木札、道具には加工が容易で木理通直なスギ、ヒノキ、サワラを用い、下駄には水湿に強い広葉樹のクリ、キハダ属を用いている。なお、キハダ属の下駄はめずらしくまた漆塗りの下駄であり、また本試料では割れた部分を修復して利用していたことがわかることから、クリの下駄と比べてよく手入れされていたと考えられる。本遺跡で同定された樹木は当時

遺跡周辺からか、また流通によってもたらされたと推定される。

(一般社団法人文化財科学研究センター)

[参考文献]

- ・ 伊東隆夫・山田昌久 (2012) 木の考古学, 雄山閣, p.449.
- ・ 佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.
- ・ 佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.
- ・ 島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p.296.
- ・ 農商務省山林局編 (1912) 木材の工藝的利用, 大日本山林会, p.1307.
- ・ 能城修一・鈴木三男 (2000) 長野県松原遺跡出土木材の樹種, 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5 - 長野市内その3 - 松原遺跡 弥生・総論8 総論・自然科学分析, 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書36, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター, p.61-98.
- ・ パリノ・サーヴェイ (2000) 宮沢中村遺跡, 山梨県埋蔵文化財センター, p.208-213.
- ・ 諸戸北郎 (1903) 大日本有用樹木効用編, 高山房出版, p.330.
- ・ 山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p.242.

番号	実測番号	名称	出土遺構	結果 (学名/和名)	
739	001-01	下駄	SK706039	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ
738	002-01	下駄	SK706039	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ
737	003-01	下駄	SK706039	<i>Phellodendron</i>	キハダ属
719	004-01	曲物底板	SD706034	<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl.	サワラ
717	004-02	曲物底板	SD706034	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
720	005-01	曲物底板	SD706034	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
741	005-02	曲物底板	SK706039	<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl.	サワラ
740	006-01	曲物底板	SK706039	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
718	006-02	木札	SD706034	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
721	006-03	道具	SD706034	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ

第8表 木材同定結果



## Ⅶ. 塗膜構造調査

### 1. はじめに

漆製品1点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

### 2. 調査資料

調査した資料は、第9表に示す近世の漆椀1点である。

### 3. 調査方法

#### (1) 蛍光X線分析

赤色漆層に混和された、赤色顔料を蛍光X線分析によって同定した。装置は島津製作所製のエネルギー分散型蛍光X線分析装置EDX-800を用いた。第130図、第131図の分析データ結果と第10表を示す。

以上の通り、内面からFe(鉄)が検出されたことから赤色顔料として酸化鉄のベンガラが、外面文様部からAs(砒素)とSn(錫)が検出されたことから石黄と錫が混和されたと判断される。

#### (2) 断面観察

次に、第9表の資料本体の塗膜付着部分から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

塗膜断面の観察結果を、第11表と以下の文章に示す。

**塗膜構造** 下層から、下地、漆層が観察された。

**下地** 内外両面ともに、褐色を呈する柿渋に木炭粉を混和した、炭粉渋下地が見られた。

**漆層** 内面には、下地の上に赤色漆が1層、外面には下地の上に透明漆が1層、その上に漆に黄色顔料や金属粉が混和された層が1層重なっていた。

**顔料** 内面の赤色漆には明確な粒子形状が見られない、細かな透明度の低いベンガラが見られた。外面の文様部には、落射光と透過光のもとで黄色い粒子と光を反射する粒子が見られた。何らかの金属粉である。

### 4. 摘要

三重県に所在する朝見遺跡から出土した、漆椀1点の塗膜構造調査を行った。蛍光X線分析と断面の観察から、内面には赤色顔料としてベンガラが漆に混和され、外面の文様部には石黄と錫粉が漆に混和されたと判断される。

トチノキの木胎に、柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地を施し、内面にはベンガラ漆を1層塗布して、外面には透明漆を1層塗布した上に、漆に石黄と錫粉を混和したもので文様を描いた。

(本吉 恵理子 (株)吉田生物研究所)

番号	保存処理番号	品名	写真番号	樹種*	概要
1	181	木椀	1,3	トチノキ	内面は全面赤色で、外面には黒色地に白っぽい文様が施された椀。

\* 樹種については、別稿の樹種同定報告書を参照のこと。

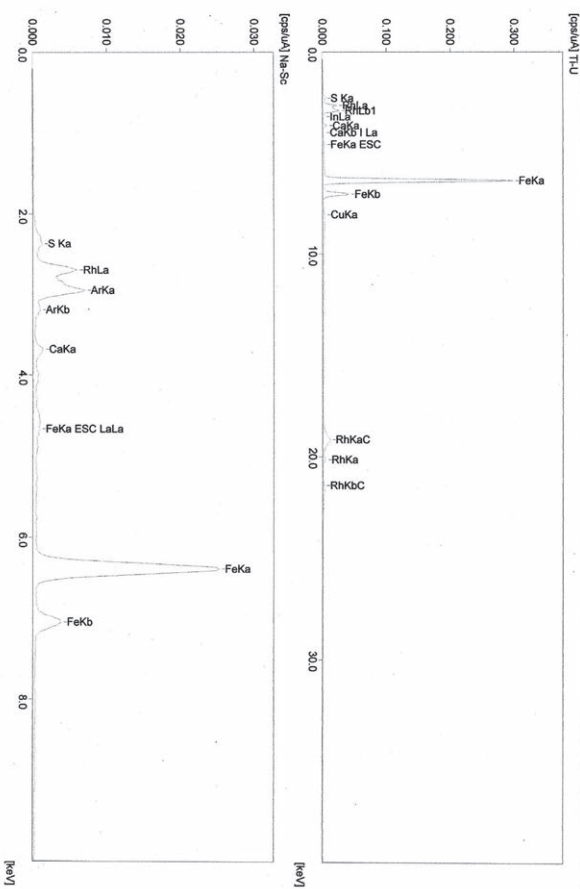
### 第9表 調査資料

元素	内面(wt%)	外面文様部(wt%)
S	24.71	33.67
Ca	7.79	35.16
Fe	66.95	25.69
Cu	0.53	0.44
As	—	2.9
Sn	—	2.11

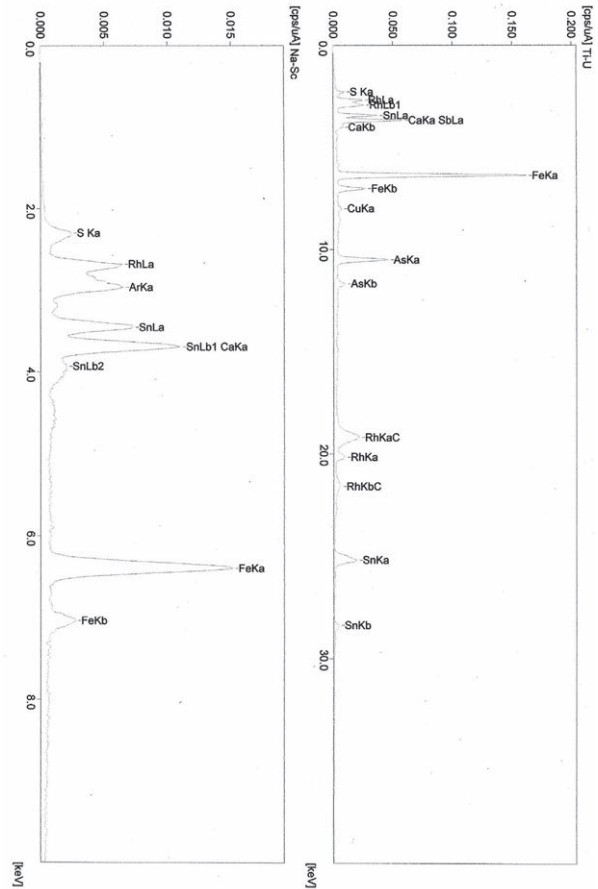
第10表 蛍光X線分析結果

番号	器種	部位	写真番号	塗膜構造(下層から)			
				下地		漆層構造	顔料
				接着剤	混和材		
1	椀	内面	2	柿渋	木炭粉	赤色漆1層	ベンガラ
		外面	4	柿渋	木炭粉	透明漆1層/漆+黄色顔料+金属粉	石黄?

第11表 漆器の断面観察結果



第130図 内面の分析データ



第131図 外面文様の分析データ

## VIII. 年代測定

### 1. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第12表のとおりである。試料写真を写真図版64に示す。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

### 2. 結果

第13表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta$ 13C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代、第132図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦

年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.3（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

### 3. 考察

幡中（2012）による縄文土器編年と放射性炭素年代値の検討結果にもとづくと、今回得られた暦年代は、試料No.49が縄文時代中期後半（船本IV式と里木II式）から中期末（北白川C式）、試料No.50が縄文時代後期前葉（四ツ池式）に対比される。試料No.51の年代値については、西本編（2006）の土器付着炭化物の年代値を参照すると、弥生時代前期に相当する。

ただし、木材の場合、最終形成年輪部分を測定す

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-36779	調査区：1区 遺構：SK701003 試料No.49	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-36780	調査区：11区 遺構：SH711024 試料No.50	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-36781	調査区：8区_Y_13 遺構：pit1 試料No.51	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）

第12表 測定試料および処理

ると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料は、すべて最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材である。したがって、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりも新しい年代であったと考えられる。

((株) パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ (伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadidze・辻 康男))

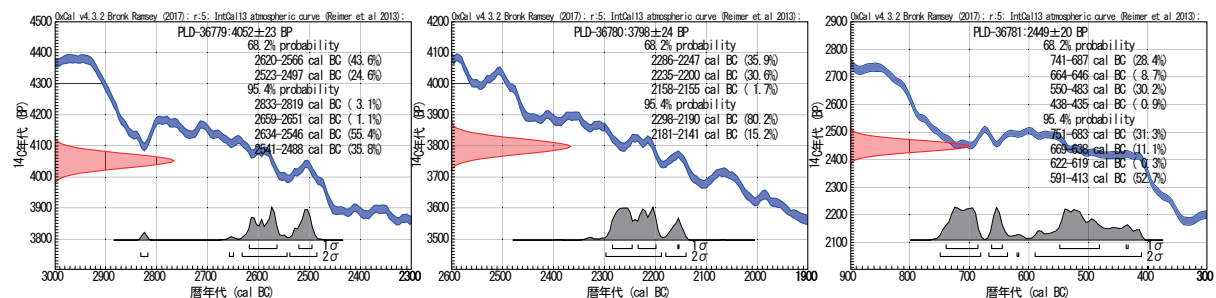
[引用・参考文献]

- ・ Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1) , 337-360.
- ・ 幡中光輔 (2012) 西日本縄文時代における遺跡タイロロジー分析の実践と展開. 関西縄文文化研究会編「関西縄文時代研究の新展開：松尾洋次郎さん追悼論集」・33-49. 関西縄文文化研究会

- ・ 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- ・ 西本豊弘 (2006) 新弥生時代のはじまり 第 1 巻 弥生時代の新年代. 143p, 雄山閣.
- ・ Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafliadason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0?50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55 (4) , 1869-1887.

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-36779 試料No. 49	-26.40 $\pm$ 0.19	4052 $\pm$ 23	4050 $\pm$ 25	2620-2566 cal BC (43.6%) 2523-2497 cal BC (24.6%)	2833-2819 cal BC ( 3.1%) 2659-2651 cal BC ( 1.1%) 2634-2546 cal BC (55.4%) 2541-2488 cal BC (35.8%)
PLD-36780 試料No. 50	-25.98 $\pm$ 0.24	3798 $\pm$ 24	3800 $\pm$ 25	2286-2247 cal BC (35.9%) 2235-2200 cal BC (30.6%) 2158-2155 cal BC ( 1.7%)	2298-2190 cal BC (80.2%) 2181-2141 cal BC (15.2%)
PLD-36781 試料No. 51	-24.43 $\pm$ 0.21	2449 $\pm$ 20	2450 $\pm$ 20	741-687 cal BC (28.4%) 664-646 cal BC ( 8.7%) 550-483 cal BC (30.2%) 438-435 cal BC ( 0.9%)	751-683 cal BC (31.3%) 669-638 cal BC (11.1%) 622-619 cal BC ( 0.3%) 591-413 cal BC (52.7%)

第13表 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果



第 132 図 暦年校正結果



## IX. リン・カルシウム分析

### 1. 試料と方法

分析対象となる試料は、縄文時代の埋設土器 S X 704015 内の底部から採取した埋土 1 点 (試料 No.52) と、比較試料として第 5 次調査 T 6 北壁の西①層から採取した基盤層の堆積物 1 点 (試料 No.33) の、計 2 点である。

分析は、藤根ほか (2008) の方法に従って行った。この方法は、リン、カルシウムを多く含む箇所を元素マッピングにより面的に検出し、直接測定できるという利点がある。測定試料には、試料を乾燥後、極軽く粉碎して塩化ビニル製リングに充填し、油圧プレス機で 20t・1 分以上プレスしたものを作製、使用した。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置である (株) 堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1.00mA のロジウム (Rh) ターゲット、X 線ビーム径が 100  $\mu$  m または 10  $\mu$  m、検出器は高純度 Si 検出器で、検出可能元素はナトリウム (Na) ~ウラン (U) である。また、試料ステージを走査させながら測定して元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

本分析では、まず元素マッピング分析を行い、元素の分布図を得た上で、リン (P) のマッピング図において輝度の高い箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では 50kV、1.00mA、ビーム径 100  $\mu$  m、測定時間 6000s、パルス処理時間 P3 に、ポイント分析では 50kV、0.10 ~ 0.44mA (自動設定)、ビーム径 100  $\mu$  m、測定時間 500s、パルス処理時間 P4 に設定して行った。定量計算は、装置付属ソフトによる標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法で行っており、半定量値である。

### 2. 結果

試料のリンおよびカルシウムの各マッピング図にポイント分析を行った各 5 ケ所 (a ~ e) の位置を示した図を図版 64 に、ポイント分析結果より酸化

物の形で表した各元素の半定量値を第 14 表に示す。なお、元素マッピング図は、元素ごとに輝度を相対的に比較できるように、各試料のブライトネスとコントラストを調整した。

分析の結果、比較試料である基盤の堆積物 (試料 No.33) ではリン ( $P_2O_5$ ) が 4.23 ~ 11.41%、カルシウム (CaO) が 1.88 ~ 13.92%、埋設土器②内の底部の埋土 (試料 No.52) はリン ( $P_2O_5$ ) が 1.78 ~ 12.49%、カルシウム (CaO) が 1.58 ~ 8.76% の値を示した。

### 3. 考察

#### (1) 分析結果の解釈

骨や歯は、ハイドロキシアパタイト  $Ca_5(PO_4)_3OH$  が主成分であり、すなわち蛍光 X 線分析ではリン (P) とカルシウム (Ca) がともに高く検出される。ただし、土壌中のリンとカルシウムは鉱物由来の可能性も考慮する必要がある、特にカルシウムは一般的にもともと土砂中に多く含まれている元素で、注意を要する。さらに、貝殻はもちろん、炭化材なども蛍光 X 線分析では高いカルシウム含有量を示す。

このように、カルシウムのみを検出では骨由来であるか骨以外のもの由来であるかを判断しにくいいため、分析ではリンを中心に検討した。また、埋没した時には骨が存在していても、埋没中に分解拡散が進行し、現状ではほとんどリンが検出されない場合や、骨からビビアナイト  $Fe_3(PO_4)_2 \cdot 8H_2O$  が析出しているケースのように骨由来のリンが多く検出される箇所でもカルシウムが少ないという場合もある。

今回分析した埋設土器 S X 704015 内の底部の埋土 (試料 No.52) では、ポイント分析においてリン、カルシウムともに明らかに多い箇所が検出された。この箇所を検出されたリンとカルシウムは、骨や歯に由来する可能性がある。ただし、比較試料である基盤層の堆積物 (試料 No.33) においても、埋設土器 S X 704015 内の底部の埋土 (試料 No.52) と同様に、ポイント分析においてリン、カルシウムともに明らかに多く含まれる箇所が検出されており、また、マッピング図全体の輝度に明確な差はみられな

いため、その解釈には注意が必要である。

(2) 小結

朝見遺跡（第7次）で検出された縄文時代の埋設土器 S X 704015 内の底部の埋土 1 点について分析を行った結果、リン、カルシウムともに明らかに多く含まれる箇所が検出され、骨や歯が存在した可能性が示された。ただし、基盤層の堆積物からも同様にリン、カルシウムともに明らかに多い箇所が検出されており、その解釈には注意が必要である。遺構の性格については、他の自然科学分析の結果および遺物の出土状況や類例など、考古学的所見も併せた総合的な判断が望まれる。

(竹原弘展 (株)パレオ・ラボ)

[引用・参考文献]

- ・ 藤根 久・佐々木由香・中村賢太郎 (2008) 蛍光 X 線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析. 日本文化財科学会第 25 回大会研究発表要旨集, 108-109.

No.	ポイント	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ZrO <sub>2</sub>
33	a	1.44	14.06	72.75	<b>4.23</b>	0.07	1.63	<b>1.88</b>	0.21	0.10	3.62	0.01	0.01	0.00	0.01
	b	1.05	17.29	45.90	<b>11.41</b>	0.12	2.15	<b>13.92</b>	1.71	0.16	6.23	0.02	0.01	0.01	0.01
	c	1.48	18.12	61.78	<b>4.41</b>	0.05	2.26	<b>3.82</b>	0.50	0.25	7.27	0.01	0.01	0.01	0.01
	d	1.48	17.90	59.89	<b>5.90</b>	0.06	1.23	<b>7.54</b>	0.47	0.15	5.35	0.01	0.01	0.01	0.01
	e	2.11	19.89	62.67	<b>4.29</b>	0.04	2.85	<b>2.99</b>	0.63	0.10	4.39	0.01	0.01	0.00	0.02
52	a	0.79	18.28	68.71	<b>1.78</b>	0.11	2.58	<b>1.58</b>	0.85	0.19	5.09	0.01	0.01	0.01	0.02
	b	0.33	12.33	60.20	<b>12.49</b>	0.01	1.82	<b>8.22</b>	0.65	0.13	3.77	0.01	0.01	0.01	0.03
	c	1.66	19.74	54.66	<b>3.19</b>	0.09	2.54	<b>8.76</b>	1.12	0.32	7.83	0.01	0.02	0.03	0.02
	d	3.71	22.22	59.19	<b>2.66</b>	0.29	3.08	<b>1.59</b>	1.02	0.23	5.96	0.01	0.02	0.01	0.01
	e	1.92	20.78	55.58	<b>6.51</b>	0.06	3.34	<b>4.54</b>	1.12	0.20	5.84	0.01	0.01	0.01	0.09

第14表 半定量分析結果(mass%)

## X. 蛍光X線分析

第7次調査3区下層包含層から出土した敲石 209 に付着した赤色物について、三重県総合博物館において蛍光X線分析を実施した。分析は、赤色部分とそれ以外の計4ヶ所について、それぞれ測定条件を変えて実施した<sup>①</sup>。

その結果、赤色部分のみで水銀が検出された。このことから、付着する赤色物は水銀朱の可能性が高いものと考えられる。(水谷)

### 【註】

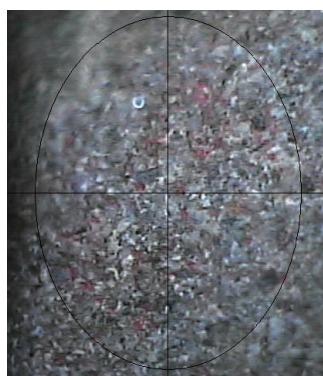
- ① 分析は三重県総合博物館が実施し、各表及びX線スペクトル図等は、博物館の提供による。

測定装置	SEA1200VX ID_1443			
分析条件ファイル名	20160910.bfp			
管球ターゲット元素	Rh			
測定日付	2017/3/15 14:24			
測定条件	条件 1	条件 2	条件 3	条件 4
測定時間 (秒)	30	30	30	30
有効時間 (秒)	25	28	24	21
コリメータ	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm
励起電圧 (kV)	50	50	15	15
管電流 (μA)	1000	1000	1000	1000
フィルター	Pb用	Cd用	C1用	OFF
マイラー	カバー	カバー	カバー	カバー
雰囲気	大気	大気	大気	大気
ピーキングタイム	1.0usec	1.0usec	1.0usec	1.0usec

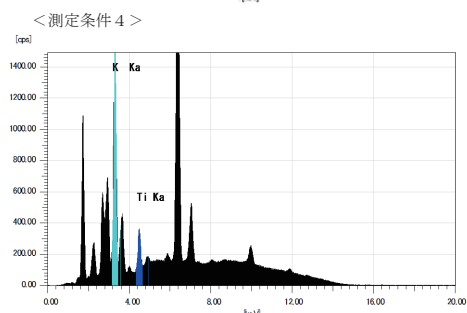
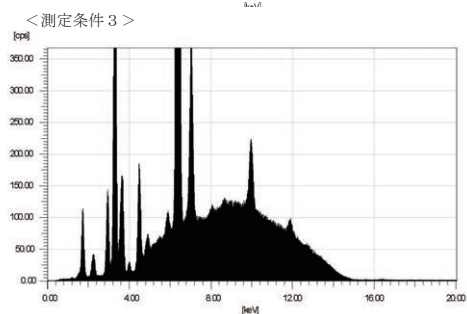
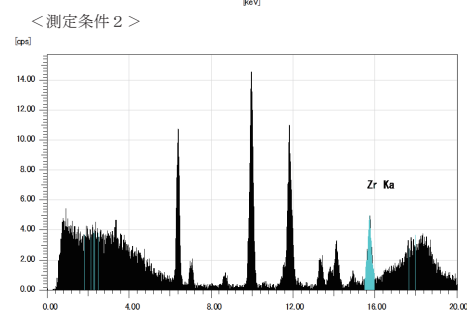
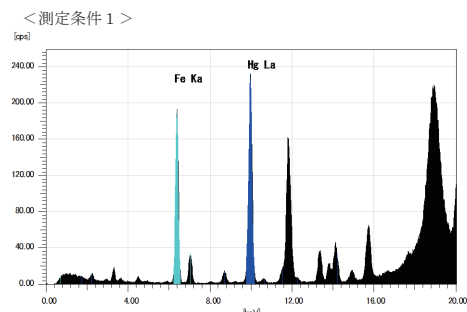
第15表 測定条件①

K	40.29 (wt%)
Ti	7.16 (wt%)
Fe	29.03 (wt%)
Zr	1.72 (wt%)
Hg	21.80 (wt%)

第16表 定量結果①



第133図 試料像①



第134図 X線スペクトル①

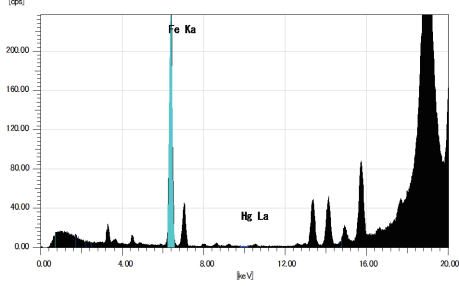
測定装置	SEA1200VX ID_1443			
分析条件ファイル名	20160910.bfp			
管球ターゲット元素	Rh			
測定日付	2017/3/15 14:37			
測定条件	条件 1	条件 2	条件 3	条件 4
測定時間 (秒)	30	30	30	30
有効時間 (秒)	24	28	22	20
コリメータ	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm
励起電圧 (kV)	50	50	15	15
管電流 (μA)	1000	1000	1000	792
フィルター	Pb用	Cd用	C1用	OFF
マイラー	カバー	カバー	カバー	カバー
雰囲気	大気	大気	大気	大気
ピーキングタイム	1.0usec	1.0usec	1.0usec	1.0usec

第17表 測定条件②

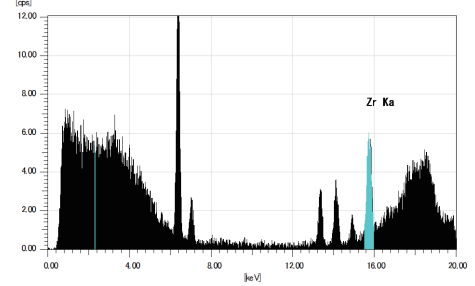
K	44.81 (wt%)
Ti	10.61 (wt%)
Fe	42.80 (wt%)
Zr	1.77 (wt%)
Hg	0.01 (wt%)

第18表 定量結果②

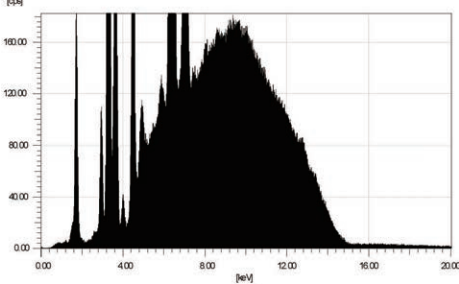
<測定条件 1>



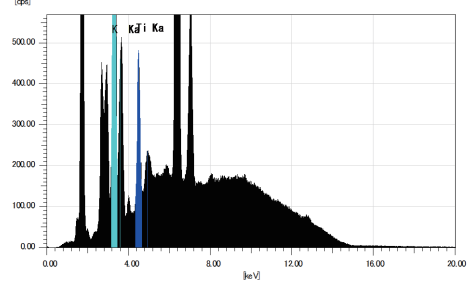
<測定条件 2>



<測定条件 3>



<測定条件 4>



第135図 X線スペクトル②



第136図 試料像②

測定装置	SEA1200VX ID_1443			
分析条件ファイル名	20160910.bfp			
管球ターゲット元素	Rh			
測定日付	2017/3/15 14:44			
測定条件	条件 1	条件 2	条件 3	条件 4
測定時間 (秒)	30	30	30	30
有効時間 (秒)	25	28	22	20
コリメータ	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm
励起電圧 (kV)	50	50	15	15
管電流 (μA)	1000	1000	1000	799
フィルター	Pb用	Cd用	C1用	OFF
マイラー	カバー	カバー	カバー	カバー
雰囲気	大気	大気	大気	大気
ピーキングタイム	1.0usec	1.0usec	1.0usec	1.0usec

第19表 測定条件③

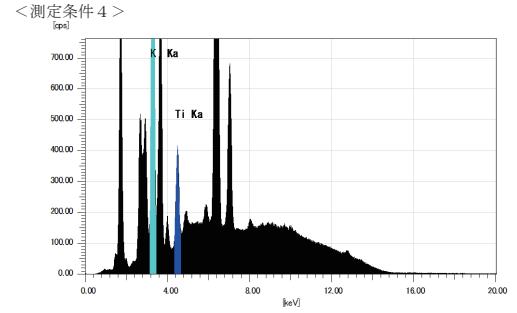
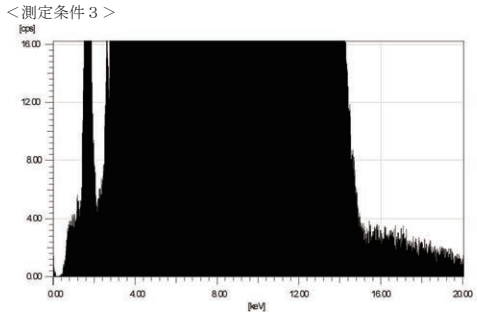
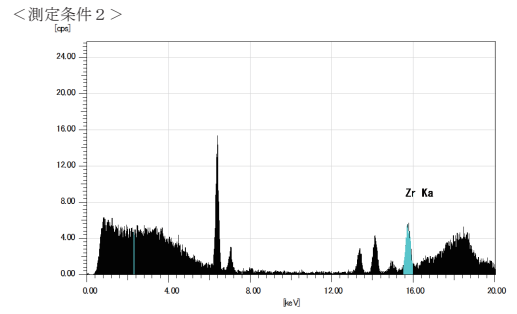
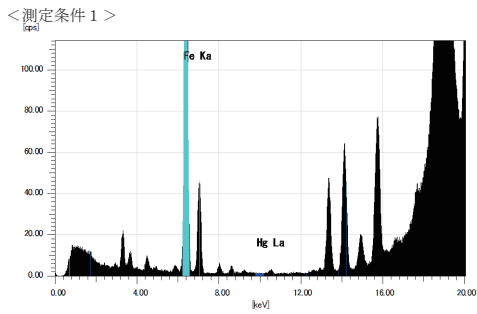
K	45.44 (wt%)
Ti	9.19 (wt%)
Fe	43.76 (wt%)
Zr	1.59 (wt%)
Hg	0.01 (wt%)

第20表 定量結果③



第137図 試料像③





第138図 X線スペクトル③

測定装置	SEA1200VX_ID_1443			
分析条件ファイル名	20160910.bfp			
管球ターゲット元素	Rh			
測定日付	2017/3/15 14:52			
測定条件	条件 1	条件 2	条件 3	条件 4
測定時間 (秒)	30	30	30	30
有効時間 (秒)	24	28	22	20
コリメータ	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm
励起電圧 (kV)	50	50	15	15
管電流 (μA)	1000	1000	1000	755
フィルター	Pb用	Cd用	C1用	OFF
マイラー	カバー	カバー	カバー	カバー
雰囲気	大気	大気	大気	大気
ピーキングタイム	1.0usec	1.0usec	1.0usec	1.0usec

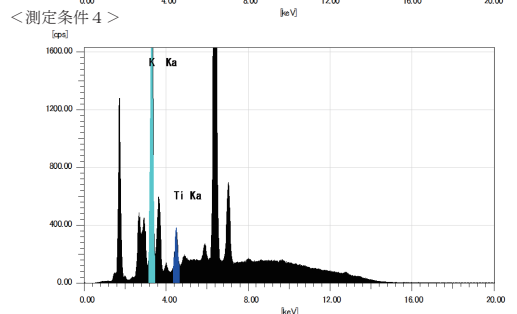
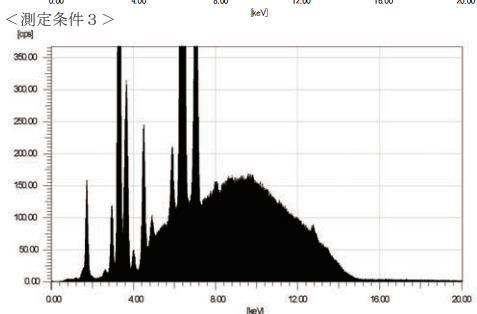
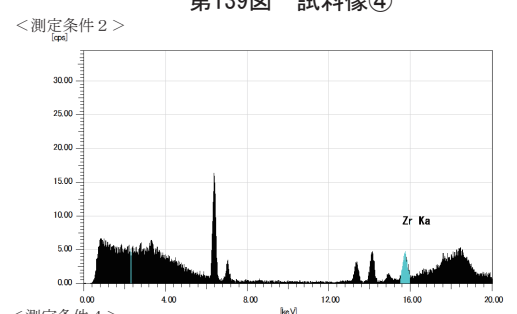
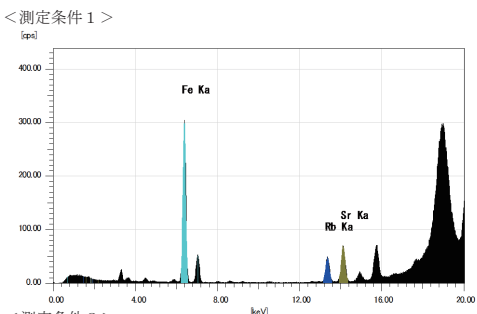
第21表 測定条件④

K	45.95 (wt%)
Ti	8.07 (wt%)
Fe	42.76 (wt%)
Rb	0.92 (wt%)
Sr	1.28 (wt%)
Zr	1.01 (wt%)

第22表 定量結果④



第139図 試料像④



第140図 X線スペクトル④

## XI. 結 語

今回の調査結果は、これまで6次にわたる調査成果を踏襲するものであった。こうしたなかで若干の項目について考察を加え結語に代えたい。

### 1. 縄文時代

今回の調査においても第5次調査や第6次調査と同様に、縄文土器が出土した。しかし、13区に分かれる第7次調査において、その出土状況には濃淡がある。

今回の調査範囲の内、和屋集落北東側水田に位置する1・3・4区は、縄文土器時代の遺構・遺物を検出した第5次調査の1・6区に隣接する位置にあり、当然のごとく多数の縄文土器が出土している。なかでも3区や4区では、第5次調査と同様に下層検出面を設定して縄文時代の遺構検出に努め、埋設土器や石囲炉を検出している。しかし、和屋集落北東側に接する5～7区や立田集落と和屋集落の中間に位置する8・9区からは殆ど出土していない。一方、今回新たに立田集落の南側に位置する10～13区の内、10区を除く調査区からも縄文土器の出土があった。

しかし、2基の埋設土器は別として、明確に遺構と断定できるものはない。石囲炉を含むSH704011にしても、既述したように炉の位置が北に偏りすぎており、使用痕跡も弱い。主柱穴も検出できていないこと等、堅穴住居とする決め手を欠いている。他にも堅穴住居状の平面形を呈するSK701003やSH711024があるが、深さも浅く平面形も不整形で同様な状況である。また、土坑においても自然の落ち込み等に疑われるものも多い。下層検出面において検出されたSK711016等の土坑も若干あるが、縄文土器の小片が出土するに止まっている。このような状況は、第5次調査においても同様であり、遺構の土壌化と堆積物の供給量の関係による遺構形態の消失としている<sup>①</sup>。

#### (1) 時期

前述したような状況から、遺構一括出土遺物に相当するものは無く、包含層的な扱いとせざるを得な

いものが大半である。しかも出土の中心は小片であるため、詳細が不明なものが多い。

伊勢湾西岸地域の中期後半については、穂積裕昌氏が口縁部文様帯に着目して4段階に分類している。突帯による渦巻文と、それに連続する区画文の表現から沈線による表現へ、渦巻文と区画文の連続から分離へという編年の予察を示している<sup>②</sup>。一方、田村陽一氏も同様な着眼点で4期に分類しているが、最も後出のIV期は、渦文から分離した区画文が消失する段階としている。そして、隆帯による渦文・区画文のI期を組取式に、沈線となるII期を島崎Ⅲ式に、渦文と区画文が分離するⅢ期を山の神I式に、そしてIV期を山の神Ⅱ式に対応させている<sup>③</sup>。

さて、前述したように一括資料として扱えるものではなく、小片が多いなかで形状が明確なものは2基の埋設土器である。SX704014の346は、口縁部文様帯を沈線で描き、渦文と区画文が分離している。その下には多重沈線による連弧文を配しており、第5次調査による分類の深鉢A4に該当する<sup>④</sup>。この状況から田村氏のⅢ期、山の神I式に並行するものと思われるが、渦文が円形に退化し、渦文と区画文の専有幅も狭くなっている。Ⅲ期でも後半とすべきであろうか。SK701003の37・38、SZ704013の365等の口縁部片には整った渦文が確認できるが、沈線によるものである。Ⅱ～Ⅲ期として良いであろう。3区の135・136のように隆帯で文様を描くものは散見される程度で、I期に遡る可能性のあるものは少ない。

次にSX704015の351であるが、波状口縁を呈するかどうかは微妙であるものの、括れが小さい形態で体部は無文となる。口縁部も無文帯となり、体部と口縁部の境には竹筒文を施す突帯を巡らせ、その下に窓枠状の区画文を横位に連続させる特異なものである。森添遺跡出土の深鉢5は、形態的に異なるものであるが、共通点も多い。括れの小さい体部や口縁部が無文帯、その下に窓枠状の区画文を横位に連続させる状況が共通する。体部も条線が施されるものの縦方向の区画文等は無いようである。北白川C式深鉢B類に相当するものとされ、中期に収ま

るものとなる。ただし、窓枠状区画が隆帯で描かれるのに対し351は沈線となり、区画内を充填する文様もない。森添遺跡深鉢5より文様が退化した状況にあるものと思われるが、中期末に収まるものとしておきたい。

S H 704011に含まれる石囲炉を形成する289には本書で綾杉文と表記した文様が刻まれる。葉脈状文と呼ばれるもので、中期後半に中部地方や北陸地方の影響を受けたものとされている<sup>⑥</sup>。この文様は他にもS K 701003の25をはじめ、各調査区から多数出している。

この様に、今回の調査で出土した縄文土器は山の神I式及びその前後のものが目立つ。一方、3区の220のように明らかな磨消縄文の技法を施すものがあり、後期に下るものが若干混在する状況にもある。したがって、中期後半から末期を主体とし、後期に下るものを一部含むという時期となろう。この状況は、第5次調査結果を踏襲するものである。第5次調査と調査区が隣接する1・3・4区においては、むしろ当然の結果であるが、今回新たに立田集落の南側に位置する11～13区に同時期の分布が広がることを確認する結果となった。和屋集落北方から断片的に立田集落南側へ広がる縄文人の活動痕跡を垣間見ることができる。一方、第6次調査では後期が主体であり、その位置は和屋集落の南側である。朝見遺跡に限ってみれば、和屋集落北方から立田集落へかけて広がる中期後半の縄文人の活動が、後期には縮小して和屋集落南側へ移動したようにも見えるのである。

## (2) 水銀朱

今回の調査では、石錘をはじめ一定量の石器や剥片が出土しているが、摺石や石皿の出土は無かった。こうしたなかで、3区下層包含層から出土した赤色顔料の付着した敲石(209)が目される。赤色顔料は、既述したように水銀朱の可能性が高いものとなった。敲石について詳細な時期を確定することが困難なため、共伴する縄文土器に頼らざるを得ない。191は沈線による区画内に縄文を充填するものである。摩滅により不明確な部分もあるが、磨消縄文の技法はとらず、区画沈線の後に縄文を充填したように見える。他には、綾杉文(葉脈文)を施すものが

目立つ。したがって、3区下層包含層出土縄文土器を概観した場合、明確に後期に下るものは無いものと思われる。この状況から敲石209は中期に遡る可能性が生じてきた。ただし、直上の上層包含層からは明らかに後期に下る220が出土している。間層を介さない包含層の上下を識別する調査であるため、多少の上下間の混入を否定しきれものでは無い。さらに、3区は狭小な溝状の調査区で、下層包含層が分離しているのは南半の80㎡程度である。したがって、たまたま調査区内では下層包含層から後期に下る土器が出土しなかったとの解釈も無謀ではない。また、水銀朱の付着する土器の最古例のひとつが、近隣の松阪市王子広遺跡出土の縄文土器である。後期初頭とされているもので、中期に遡るものは知られていない。この様な状況から、中期に遡ることについては、その可能性を示すに止めざるを得ないものと思われる。

さて、伊勢平野南端は中央構造線が横断する地質のため、水銀の産地として有名である。『延喜式』によれば伊勢国は中央へ水銀を進上していたとされ、国内産の水銀を進上した唯一の国であったようである。そしてその産出地が飯高郡の丹生であったことが相違ないものとされている<sup>⑦</sup>。その丹生は、当遺跡の南南西15kmに所在する。伊勢平野南端は水銀朱の付着する遺物が出土する遺跡が密集する特異な地域である。なかでも、朱の生産にかかわる敲石等が出土する遺跡も多く、特に天白遺跡、森添遺跡、池ノ谷遺跡の3遺跡は朱の生産遺跡としての主要要件を全て備えるもので、後期後半には朱が特産品として生産された地域と位置付けることが適切とされる<sup>⑧</sup>。また、新徳寺遺跡から出土した辰砂原石は、共伴遺物が広瀬土壙40段階や北白川上層1期等に比定できるもので、後期前半に遡るとしている。辰砂原石としては当地域最古のものとなり、朱の生産が後期前半まで遡るものと考えられるようになった。この様に、当地域が水銀朱の主要産出地である状況が縄文時代後期前半に遡ることができる。一方、岐阜県の塚奥山遺跡では、水銀朱が付着する土器や磨石が多く出土しているが、後期のものとされる一群のなかに、中期に遡る可能性のある浅鉢が1点含まれている<sup>⑨</sup>。

以上の背景を踏まえれば、水銀朱の主要産出地である当地域において、近い将来、良好な状況で中期に遡る史料が出土することが期待されるのである。当遺跡の敲石 209 の評価は、その時に改めてなされるものとなろう。

## 2. 方形周溝墓

今回の調査で検出した方形周溝墓は 4 区の S D 704001 のみであるが、第 5 次調査の S X 56027 の西辺に相当するものである。したがって、これまでの調査で確認された総数に変化はなく、隣接する瀬干遺跡を含めて 15 基である<sup>12)</sup>。

瀬干遺跡は朝見遺跡の東側に接する遺跡であり、瀬干遺跡から面塚を含む朝見遺跡にかけて、同時期の類似した規模の方形周溝墓群が広がることが想定される。しかし、若干の相違点もある。瀬干遺跡では大半の方形周溝墓が密接し、隣接する周溝を共有または接する状態で掘削されている<sup>13)</sup>のに対し、朝見遺跡では間隔を空けて散在的に所在している。他に

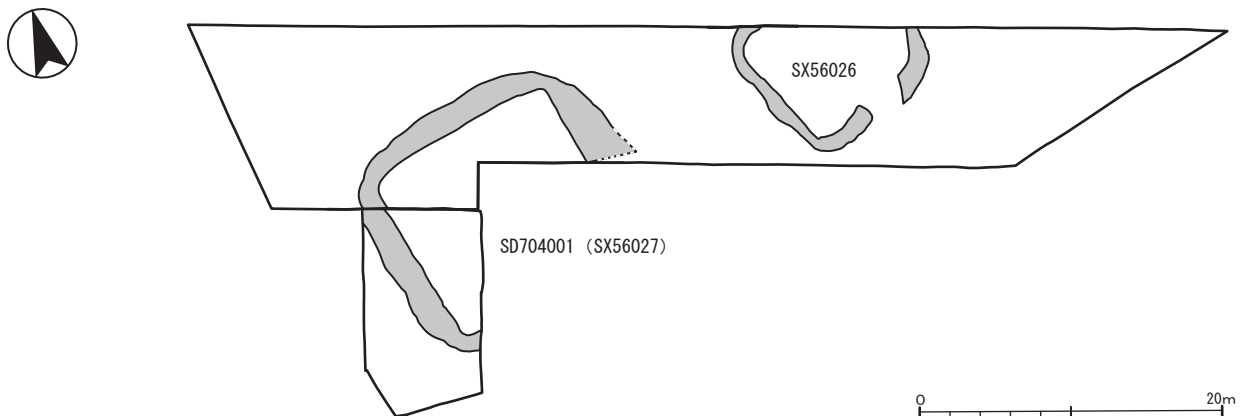
際立った相違はなく、この差が意味のあるものかどうかは不明である。

S D 704001 (S X 56027) は周溝の内々で 13 m を測る。突出した規模ではないものの、瀬干遺跡の S X 4、S X 8 の 10 m を一段階上回る規模である (第 23 表)。櫛田川流域において多数調査されている方形周溝墓においても内寸で 13 m を測るものは見出せない<sup>14)15)</sup>。唯一、櫛田川右岸をやや上流に遡った上ノ垣外遺跡 S X 3 が内寸 13 ~ 14 m を測り、S D 704001 (S X 56027) に匹敵する規模をもつ。東辺に陸橋部をもち、B 2 型を志向した可能性を指摘している<sup>16)</sup>。宇河雅之氏は赤塚次郎氏が定義する B 2 型が当地域で検出されていないことを踏まえ、B 1 型から瀬干遺跡 S X 2 型を経由して前方後方型の B 3 型への変遷を示し、上ノ垣外遺跡 S X 3 を瀬干遺跡 S X 2 型に含めている<sup>18)</sup>。

上記を踏まえれば、S D 704001 (S X 56027) はその規模からして前方後方型を志向する前段階として瀬干遺跡 S X 2 型としたいところである。今回の調査は陸橋部の確認はできなかったが、あるとすれ

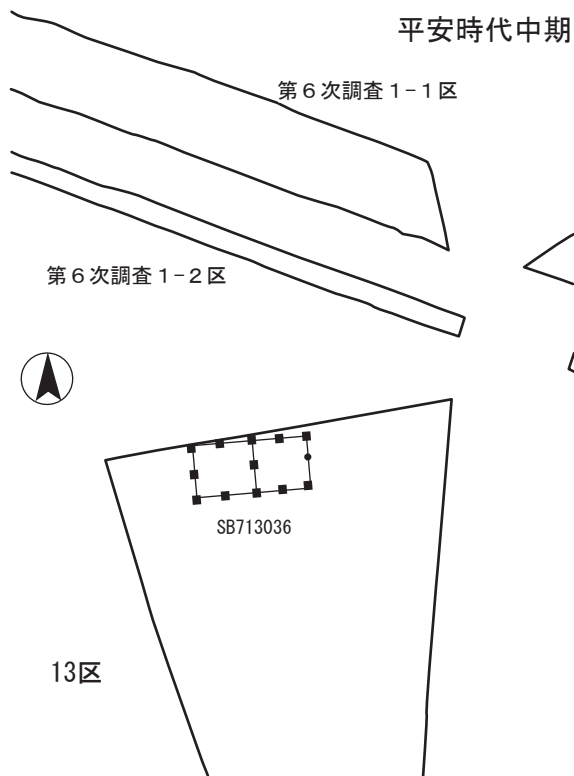
遺跡名 (調査回数)	遺構名	規模 (内寸)	周溝連結状況	備考
瀬干遺跡 (1 次)	SX2	8 m	連結	
瀬干遺跡 (2 次)	SX4	10m	単独	
瀬干遺跡 (2 次)	SX6	7 m	連結	瀬干遺跡第 1 次調査の SX4
瀬干遺跡 (2 次)	SX8	10m	連結	瀬干遺跡第 1 次調査の SX3
朝見遺跡 (5 次)	SX51017	6.5m	単独	
朝見遺跡 (5 次)	SX51029	7 ~ 8 m	単独	
朝見遺跡 (5 次)	SX51042	8 m	単独	
朝見遺跡 (5 次)	SX52019	8 m	単独	
朝見遺跡 (5 次)	SX56026	8 m	単独	
朝見遺跡 (7 次)	SD704001	13m	単独	朝見遺跡第 5 次調査の SX56027

第23表 方形周溝墓一覧



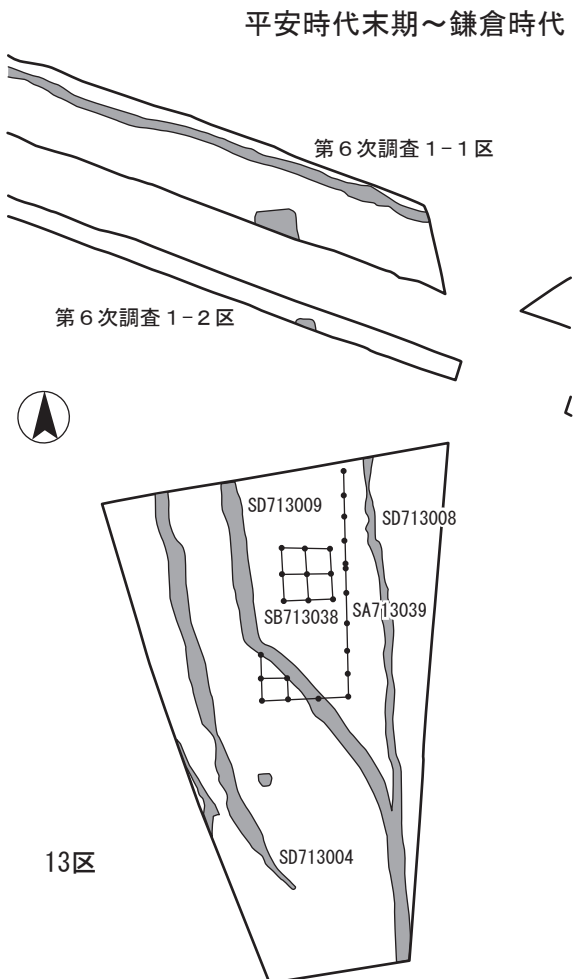
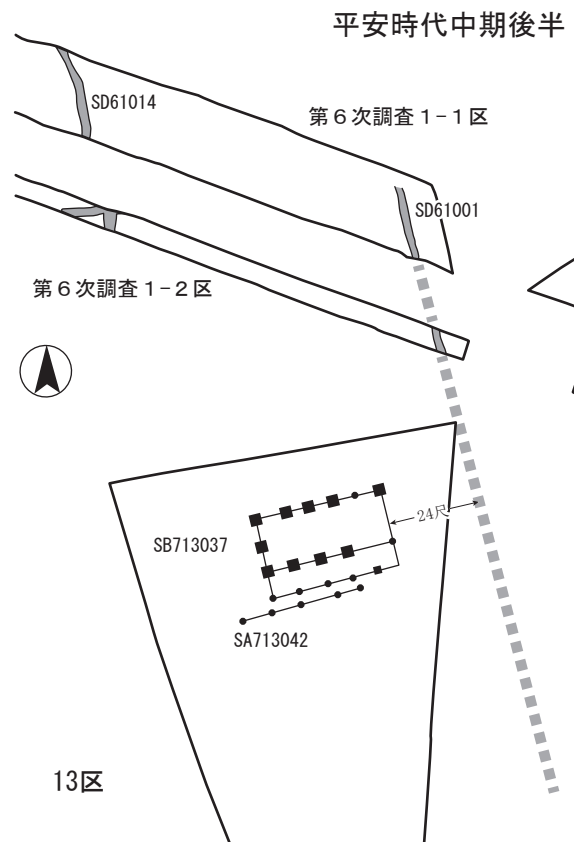
第141図 方形周溝墓配置図 (1 : 500)





ば、調査区外となる南辺または南半が調査区外の東辺となる。東辺では周溝の幅が拡張しており、瀬干遺跡 S X 2 型の陸橋部に向かう傾向を示している。問題点としては、陸橋部が東辺の南側へ偏った位置にしか想定できないことである。

瀬干遺跡の方向周溝墓は東または南東辺に陸橋部をもっている。榊田川下流部において一段階上回る規模の S D 704001 ( S X 56027 ) は、多少形状が歪になっても東辺に陸橋部をもつ瀬干遺跡 S X 2 型となるのではないだろうか。そして過ぎた見方ではあるが、10 m 東側に位置する小規模な方形周溝墓 S X 56026 を従えて所在するようにみえるのである。



0 20m

第142図 掘立柱建物変遷図 (1 : 600)

### 3. 掘立柱建物

#### (1) SB708005

SB 708005 は総柱の平面形態を呈し、10 世紀中頃の平安時代中期とした。伊勢平野での総柱型建物は、11 世紀に出現し、12 世紀に一斉に普及するものとされる<sup>19)</sup>。伊賀国では森脇遺跡 SB 307 が 10 世紀中頃から後半とされ<sup>20)</sup>、県内で最も早い例である。SB 708005 はこれに匹敵する時期が与えられたことになる。しかし、この建物は既述したように時期と建物形態に疑問を残すものである。建物形態については、その規模は別にして総柱型建物として良いものとするが、時期については、出土状況が良好な土師器杯を重視するか、10～11 世紀までの時期幅で考えざるを得ない土師器甕の口縁部小片を重視するかで状況は変わる。しかしいずれにしても、伊勢国において出現期の総柱型掘立柱建物であることには相違ない。

#### (2) 13 区の建物変遷

立田集落南側の 13 区では、比較的規模の大きい掘立柱建物や柱列等が重複して検出された。この 13 区の建物変遷を概観する。

平安時代中期としたものを 2 棟検出している。両者は柱穴の一部が重複しており、SB 713036 → SB 713037 の順を現地で確認している。出土遺物の状況も SB 713036 が 10 世紀前後、SB 713037 が新しい要素を含み 10 世紀から 11 世紀中頃までの幅で考えざるを得ず、現地での確認と合致する。

SB 713034 は周囲に同時期の遺構はなく、単独で所在する。次の SB 713037 も柱列 SA 713042 を伴うが、それ以外に付属する建物や周囲を区画する溝等は検出されていない。北側約 10 m で実施された第 6 次調査 1 区まで広げると、SB 713037 と方向を揃える SD 61001 がある。平安時代中期として報告しているが、小片ではあるが口縁端部を内に巻き込む土師器甕が複数出土しており、中期としても後半にちかいもので、時期も合致する。これを南方へ延長すると 13 区をかすめて東方の調査区外を南下する。直線的に掘削された溝で、何らかの区画を示しているものと思われる。ただし、SB 713037 東側梁行から溝までは約 7.2 m、24 尺となり、完数

を得られない。西側は、調査区内に区画溝等は検出されておらず、第 6 次調査の SD 61014 等も蛇行しており、区画溝として南下を想定することには無理がある。一応、東側は区画溝 SD 61001 に規制されているようであるが、積極的に SB 713037 の専有地を区画する様な施設は見当たらない。

平安末～鎌倉時代になると、逆 L 字状に延びる柱列 SA 713039 が現れる。東へ 7 m の後、方位に沿って 18 m 北へ延び調査区外へ続く。しかし、第 6 次調査 1 区までは北上していない。何かを囲う意図があるものと思われるが、雑舎的な SB 713038 があるのみで主要建物は確認されない。また、SA 713039 の東側 2 m ほどを並走する SD 713008 も直線的に延びており、これも SA 713039 と連動するものと思われるが、やはり第 6 次調査区には及んでいない。SD 713008 から分離する流路 SD 713009 は、SB 713038 を避ける様に西に流路を変えている。建物を意識したものであれば、排水施設等の関連施設となるが、SD 713004 をはじめ同方向に流れる流路帯であり、偶然の可能性もある。SA 713039 や SD 713008 と連絡して北側を限る施設の有無を調査区外のため確認できないことは残念であるが、何かを区画または遮閉する施設が出現したことには相違ない。

#### (3) 主要建物等の変遷

第 5 次調査では、和屋集落北方において有力な建物が単独にちかいかたちで散在的に存在していることが明らかになった。前述した SB 708005 と SB 713036・713037 の 2 群の建物は、柱掘形の規模で見れば第 5 次調査のものよりも小規模であるが、時期は同じである。単独にちかいかたちで所在することも共通する。したがって、第 5 次調査で確認した散在的に所在する主要建物の分布が北に広がり、立田集落南側に及ぶことを示しているものと思われる。そして、中世を志向する総柱型建物 SB 708005 が立田集落寄りに所在する。

次の平安時代末期～鎌倉時代では、主要建物は検出できなかったものの立田集落南側で区画または遮閉施設が出現する。続く鎌倉時代では、やはり立田集落寄りで区画溝を伴う屋敷地を第 6 次調査で検出している。そして室町時代には居館を想定させる二

重の堀が和屋集落近隣（第6次調査）と立田集落近隣（中坪遺跡第3次調査）で検出される。中世期の主要建物が未検出の状態では過言かも知れないが、開放的な空間に所在した律令期の主要建物が中世の進展と共に所在地を遮閉する施設を強化していく様子を垣間見ることができるのではないだろうか。そして、立田集落で検出された居館の想定地は、現代まで地域の中心地として意識され続けている<sup>20</sup>。この様な主要建物の在り方は、立田集落近辺が、徐々に地域の中心地としての地位を高めていく変遷も表しているとも思えるのである。（森川）

〔註〕

- ① 櫻井拓馬ほか『朝見遺跡（第5次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2022年3月
- ② 穂積裕昌ほか「大里地区内遺跡群」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊-』三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1992.3
- ③ 田村陽一『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告-第3分冊 8-堀之内遺跡C地区』三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 1991.3
- ④ 穂積裕昌ほか『朝見遺跡（第5次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2022年3月
- ⑤ 田村陽一ほか『森添遺跡』度会町教育委員会 2011
- ⑥ 前掲③に同じ
- ⑦ 松阪市教育委員会『王子広遺跡発掘調査報告書』1990年3月
- ⑧ 梅村 喬 星野利幸ほか『三重県史通史篇』三重県 平成二十八年三月三十一日
- ⑨ 奥 義次ほか『森添遺跡』度会町教育委員会 2011
- ⑩ 小濱 学ほか『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ 新徳寺遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1997.3
- ⑪ 三輪晃三ほか『塚奥山遺跡』財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター 2007
- ⑫ 前掲①に同じ
- ⑬ 原田恵理子ほか『瀬干遺跡（第2次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2000.3
- ⑭ 泉 雄二『織糸遺跡』三重県埋蔵文化財センター 2006.3
- ⑮ 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査月報』No.1～9

昭和57年7月25日～昭和59年8月1日

- ⑯ 赤塚次郎「前方後方墳」『季刊考古学第40号』雄山閣 1992
- ⑰ 西村修久ほか『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査Ⅱ 上ノ垣外遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1996.3
- ⑱ 宇河雅之ほか『瀬干遺跡・綾垣内遺跡 大蓮寺遺跡・柳辻遺跡・北ノ垣内遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1996.3
- ⑲ 石井智大ほか『大久保遺跡（第3次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2017年
- ⑳ 森川常厚『森脇遺跡（第三次）発掘調査報告』三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991.3
- ㉑ 森川常厚ほか『中坪遺跡（第3・4次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2022.3

調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
7次	1区	SD701001		流路	SK701003→	平安中	縄文土器、土師器杯・皿	室町に下る可能性あり。
7次	1区	SD701002		流路		平安後	ロクロ土師器、灰釉陶器・椀・壺	
7次	1区	SK701003		土坑	→SD701001	縄文中期末	縄文土器	落ち込み状。第10図。
7次	1区	SD701004		溝		縄文	縄文土器	条りに沿う。時期が下るか。
7次	1区	SD701005		流路		不明	なし	
7次	2区	SD702001		溝		平安中	縄文土器、土師器杯	
7次	2区	SD702002		溝		不明	縄文土器	
7次	2区	SF702003		土坑		不明	縄文土器	被熱。第19図。
7次	2区	SK702004		土坑		縄文	縄文土器	
7次	2区	SD702005		流路		不明	縄文土器	
7次	2区	SB702006		建物		不明	なし	第3表。第19図。
7次	2区	SA702007		柵		不明	なし	第3表。第18図。
7次	2区	SA702008		柵		不明	なし	第3表。第18図。
7次	2区	SA702009		柵		不明	なし	第3表。第18図。
7次	2区	SA702010		柵		不明	なし	第3表。第18図。
7次	2区	SA702011		柱列		不明	なし	SB702006に付属。第3表。第19図。
7次	3区	SD703001		溝	SD703003→	平安後～末	土師器杯・皿、陶器	
7次	3区	SD703002		溝		平安末	縄文土器、剥片、土師器椀・杯・鍋	
7次	3区	SD703003		溝	→SD703001	平安末以前	なし	
7次	3区	SD703004		流路		不明	縄文土器、土師器	
7次	3区	SD703005		溝		平安中	土師器杯、灰釉陶器	
7次	3区	SE703006		井戸		室町前	縄文土器、土師器皿・鍋、陶器	第24図。
7次	3区	SD703007		—		中世以降	土師器、山茶椀	痕跡程度の残存。
7次	3区	SK703008		—		中世以降	土師器、陶器	痕跡程度の残存。
7次	3区	SD703009		—		中世以降	なし	遺構に認め難い。
7次	3区	SK703010		—		中世以降	土師器、須恵器	痕跡程度の残存。
7次	3区	SE703011		井戸		鎌倉末	土師器皿、山茶椀、陶器	第24図。
7次	3区	SK703012		—		中世以降	縄文土器、土師器	痕跡程度の残存。
7次	3区	SD703013		溝		平安後	土師器皿、灰釉陶器	
7次	3区	SD703014		溝		平安後	土師器皿、灰釉陶器皿	
7次	3区	SD703015		—		中世以降	なし	痕跡程度の残存。
7次	3区	SD703016		溝		平安後	土師器、陶器	
7次	3区	SZ703017		不明		縄文	縄文土器、剥片、石錘	浅い落ち込み。第22図。
7次	3区	SK703018		土坑		縄文	縄文土器	第24図。
7次	3区	SZ703019		土坑		縄文	縄文土器	堅穴住居状。
7次	3区	SK703020		土坑		縄文	縄文土器	
7次	3区	SK703021		土坑		縄文	縄文土器	浅い落ち込み。
7次	3区	SK703022	テC17P1	土坑		飛鳥～奈良	土師器椀・甕	第24図。
7次	3区	SA703023	テD17P5	柱列		不明	なし	第3表。第24図。
			テD17P2					
			テE18P2					
7次	4区	SD704001		方形周溝墓		弥生～古墳	古式土師器高杯・壺・甕、土師器甕	SX56027と同一。第30図。
7次	4区	SK704002		土坑		不明	縄文土器	第31図。
7次	4区	SK704003		土坑		不明	土師器	自然地形か。
7次	4区	SK704004		土坑		不明	縄文土器	自然地形か。
7次	4区	SH704011		堅穴		縄文	縄文土器	石囲炉を伴うが、位置が片寄る。第31図。
7次	4区	SK704012		—		—	縄文土器	遺構にならず。
7次	4区	SZ704013		—		—	縄文土器、石器	自然地形か。
7次	4区	SX704014	埋設土器1	埋設土器		縄文	縄文土器	第31図。
7次	4区	SX704015	埋設土器2	埋設土器		縄文	縄文土器、石匙	第31図。
7次	5区	SD705001		流路		鎌倉後	土師器杯・皿、山茶椀	
7次	6区	SK706001	SK1	溝		江戸	土師器、陶器	
7次	6区	SK706002	SK2	土坑		室町	土師器皿、山茶椀	
7次	6区	SD706003	SD1	溝	SK706022→	室町	土師器皿・鍋、天目茶椀	
7次	6区	SK706004	SK3	溝		室町	土師器皿・鍋、山茶椀	

第24表 遺構一覧①



調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
7次	6区	SK706005	SK4	土坑	→SK76022 →SD706006 SD706033→	不明	なし	
7次	6区	SD706006	SD2	溝	SK706005→ SD706008→ →SK706007 SK706011→ SK706016→	室町	土師器皿・鍋、天目茶碗	第49図。
7次	6区	SK706007	SK5	溝	SD706006→ →SD706008	室町	土師器皿・鍋、山茶碗	
7次	6区	SD706008	SD3	溝	→SD706006 SK706007→	室町	土師器皿	
7次	6区	SK706009	SK6	土坑		室町後	土師器皿、山茶碗	
7次	6区	SK706010	SK7	土坑	SD706033→	室町後	土師器皿・鍋	
7次	6区	SK706011	SK8	土坑	→SD706006	江戸	土師器皿	
7次	6区	SK706012	SK9	土坑	SD76018→	不明	土師器、陶器	SD706018と同一か。
7次	6区	SK706013	SK10	土坑		室町	土師器皿	
7次	6区	SK706014	SK11	土坑	SD706018→	室町	土師器鍋	
7次	6区	SK706015	SK12	土坑	SD706032→	室町前	土師器皿・鍋	
7次	6区	SK706016	SK13	土坑	→SD706006	室町	土師器皿・鍋、陶器	
7次	6区	SK706017	SK14	土坑		江戸	土師器皿・鍋、陶器	第49図。
7次	6区	SD706018	SD4	耕作溝	→SK706012 →SK706014	室町後	土師器皿・鍋	
7次	6区	SD706019	SD5	耕作溝	SD706032→ SK706024→	室町	土師器鍋	
7次	6区	SD706020	SD6	耕作溝	SD706032→ SK706024→	室町	土師器皿・鍋	
7次	6区	SK706021	SK15	溝		室町	土師器鍋、天目茶碗	SD706032の最終埋没形態。
7次	6区	SK706022	SK16	土坑	→SD706003 SK76005→	室町後	土師器皿・鍋	
7次	6区	SK706023	SK17	土坑	→SD706034	室町後	土師器鍋・羽釜、陶器	
7次	6区	SK706024	SK18	溝	SD706019→ SD706020→	室町	土師器皿・鍋、施釉陶器	SD706032の最終埋没形態。
7次	6区	SK706025	SK19	土坑	SK706027→ SK706029→	室町後	土師器皿・鍋	
7次	6区	SK706026	SK20	井戸	SD706032→ SK706039→	江戸	土師器皿・鍋・焙烙、施釉陶器	SK706030と接合遺物あり。
7次	6区	SK706027	SK21	土坑	→SK706025	不明	なし	
7次	6区	SK706028	SK23	井戸	→SD706034	室町	土師器皿、山茶碗、青磁碗	SE706036の掘形。第49図。
7次	6区	SK706029	SK24	土坑	→SK706025	不明	土師器	
7次	6区	SK706030	SK30	溝	SD706034→	江戸	土師器鍋、青磁碗、施釉陶器	SD706034の埋土の一部。
7次	6区	SK706031	SK32	土坑		室町	土師器皿・鍋	
7次	6区	SD706032	SD7	溝	→SK706015 →SD706019 →SD706020 →SK706026	室町	土師器鍋、山茶碗	大型土坑の可能性あり。
7次	6区	SD706033	SD8	溝	→SD706003 →SK706005 →SK706010	室町	土師器皿・鍋、山茶碗	第49図。
7次	6区	SD706034	SD9	溝	SK706028→ →SK706030 SE706035→ SK706037→	江戸	土師器皿・焙烙	
7次	6区	SE706035	SE22	井戸	→SD706034	室町後	土師器鍋、青磁碗	
7次	6区	SE706036	SE23	井戸		室町	土師器鍋、陶器	SK706028が掘形。第49図。
7次	6区	SK706037	SK23	土坑	→SD706034	不明	なし	
7次	6区	SB706038	≒K19P5 ≒K19P8 ≒L19P1 ≒L19P11 ≒L19P16 ≒L20P13 ≒L20P30	建物		室町		第3表。第48図。
7次	6区	SK706039	≒N20P4	土坑	→SK706026	室町	土師器皿、下駄	
7次	7区	SD707001		溝		鎌倉後	土師器、山茶碗	条里に沿う。
7次	7区	SD707002		溝		室町前	土師器鍋	条里に沿う。
7次	8区	SD708001		溝	→SB708005	平安中以前	土師器	

第24表 遺構一覧②

調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
7次	8区	SD708002		溝	→SB708005	平安中以前	なし	
7次	8区	SK708003		土坑		不明	縄文土器	焼土を伴う。
7次	8区	SD708004		溝		平安前	土師器杯、製塩土器	
7次	8区	SB708005	カS14P1	建物	SD708002→ SD708001→	平安中		第3表。第66図。
			カT13P1				土師器杯・甕	
			カT13P2					
			カT13P3					
			カT13P4				土師器杯・甕	
			カU13P1				土師器杯・皿・甕	
			カU13P2					
カU13P5								
カU14P1	土師器甕							
7次	8区	SK708006		不明		不明	土師器	自然地形か。
7次	8区	SD708007		溝		平安前	土師器	
7次	8区	SD708008	SD704004	溝	→SB708010	不明	なし	流路か。
7次	8区	SB708009		建物		平安	なし	第3表。第67図。
7次	8区	SB708010	カO7P1	建物	SD708008→	平安	土師器杯	第3表。第67図。
7次	9区	SD709001		溝		奈良～平安	土師器杯・甕	SD59016と一連。
7次	9区	SD709002		溝		不明	土師器	
7次	9区	SD709003		流路	SD709004→	鎌倉	土師器杯・甕、山茶椀	SD59005・59008と一連。
7次	9区	SD709004		流路	→SD709003 SD709008→	平安後	ロクロ土師器、灰釉陶器、山茶椀	SD79003の一部。
7次	9区	SD709005		溝		不明	縄文土器	土坑の可能性を残す。
7次	9区	SK709007		試掘坑		—	土師器	
7次	9区	SD709008		流路	→SD709004	平安後	土師器、須恵器杯	SD79003の一部。SD59003と一連。
7次	9区	SD709009		不明		奈良	土師器椀・甕	焼土を含む。第71図。
7次	9区	SD709010		流路		奈良	土師器椀・杯・甕、須恵器蓋	
7次	9区	SD709012		溝		奈良	土師器、須恵器蓋	
7次	9区	SK709013		不明		不明	石鏃	
7次	10区	SD710001		溝	SD710008→ SD710002→	飛鳥～奈良	土師器杯・壺・高杯	
7次	10区	SD710002		溝	→SR710003 →SD710001	弥生～古墳	古式土師器高杯・壺・甕	
7次	10区	SR710003		流路	SD710008→ SD710002→	室町	土師器茶釜	
7次	10区	SD710004		溝		飛鳥～奈良	土師器椀・高杯・甕	
7次	10区	SD710005		溝		平安中	土師器杯・皿・甕、緑釉陶器	
7次	10区	SD710006		溝	SR710011→	平安後	土師器杯・甕、ロクロ土師器、瓦器、灰釉陶器	
7次	10区	SD710007		溝	SD710009→ SR710011→	平安末～鎌倉	土師器皿・鍋、山茶椀、瓦	
7次	10区	SD710008		溝	→SR710003 →SD710001	弥生～古墳	古式土師器	
7次	10区	SD710009		溝	→SD710007	平安末以前		
7次	10区	SD710010		流路		弥生～古墳	古式土師器壺・甕	
7次	10区	SR710011		流路	→SD710007 →SD710006	弥生～古墳	古式土師器甕	SR710012はSR710011の誤記入。
7次	11区	SD711001		溝	→SD711004 →SD711005 →SD711003 SD711018→	平安中以前	縄文土器	
7次	11区	SK711002		土坑		平安	縄文土器、土師器杯	自然地形の可能性あり。
7次	11区	SD711003		流路	SD711001→ SD711018→	平安中	縄文土器、土師器杯・皿	
7次	11区	SD711004		溝	SD711001→	室町	縄文土器、土師器皿	糸里に沿う。
7次	11区	SD711005		溝	SD711001→	室町	縄文土器、土師器鍋、石錘	糸里に沿う。
7次	11区	SD711006		溝	SD711007→ SK711016→	平安後	縄文土器、土師器鍋	方位に沿う。
7次	11区	SD711007		流路	→SD711006	平安後	縄文土器、土師器皿・壺	
7次	11区	SD711008		流路	SH711024→	平安中以前	縄文土器、剥片	平安末に下る可能性あり。
7次	11区	SK711009		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SK711010		土坑		平安	縄文土器、土師器杯	自然地形の可能性あり。
7次	11区	SK711011		土坑		平安	土師器皿・甕	
7次	11区	SD711012		溝	SD711027→ SD711026→	平安中～末	土師器杯・甕	流路の可能性あり。

第24表 遺構一覧③

調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
7次	11区	SD711013		溝	→SD711023 SD711026→	平安末	土師器杯・甕、ロクロ土師器、山茶 椀、緑釉陶器	条里に沿う。
7次	11区	SK711014		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SK711015		土坑		平安後	縄文土器、土師器鍋	
7次	11区	SK711016		土坑	→SD711006	縄文	縄文土器	
7次	11区	SK711017		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SD711018		自然地形	→SD711001 →SD711003	縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SK711019		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SD711020		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SK711021		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SK711022		自然地形		縄文	縄文土器	平安まで下る可能性あり。
7次	11区	SD711023		溝	SD711027→ SD711013→	平安末	土師器杯・甕、山茶椀	
7次	11区	SH711024		竪穴	→SD711008	縄文	縄文土器	焼土を伴うが位置が片寄る。第82 図。
7次	11区	SD711026		流路	→SD711012 →SD711027 →SD711026	奈良～平安	古式土師器、土師器台付椀・鍋、施 釉陶器	弥生終末、室町にも流水あり。
7次	11区	SD711027		溝	→SD711012 SD711026→ SD711023→	平安前	土師器杯・皿・甕	
7次	12区	SD712001		流路		室町	土師器甕・鍋、山茶椀、黒色土器、 施釉陶器	奈良、平安後にも流水あり。
7次	12区	SD712002		溝		不明	縄文土器	
7次	12区	SD712003		溝		室町後	土師器杯・皿・鍋、施釉陶器	
7次	12区	SD712004		溝		室町後	土師器杯・鍋、陶器	
7次	12区	SE712005		井戸		鎌倉	土師器皿・鍋、山茶椀	第90図。
7次	12区	SD712006		流路		平安中	土師器甕	
7次	12区	SD712007		流路		平安中	土師器	
7次	12区	SD712008		流路		室町以前	土師器鍋、施釉陶器	
7次	12区	SD712009		沼地		平安中～後	土師器皿・甕、灰釉陶器、鉄斧	SD61020と一連。
7次	12区	SK712010		流路		室町	縄文土器、土師器皿	
7次	12区	SD712011		溝		飛鳥～奈良	土師器甕、須恵器蓋	
7次	12区	SD712012		土坑		奈良	土師器甕	
7次	12区	SD712013		流路		鎌倉	縄文土器、土師器皿、陶器	SD712009の溢れ。
7次	12区	SK712014		土坑	SD712019→	平安前	縄文土器、土師器杯	第90図。
7次	12区	SK712015		流路	SD712017→	奈良～平安	土師器、須恵器甕	
7次	12区	SD712016		自然地形		鎌倉以前	縄文土器	
7次	12区	SD712017		流路	→SK712015	平安中～鎌倉	縄文土器	SD712009の溢れ。
7次	12区	SD712018		自然地形		鎌倉以前	縄文土器	
7次	12区	SD712019		流路	→SK712014	平安中～鎌倉	縄文土器、土師器	SD712009の溢れ。
7次	12区	SK712020	アQ16P1	土坑		室町	土師器皿・鍋	第90図。
7次	13区	SD713001	SD1	溝	→SK713028 SK713002→ →SD713025 →SD713023 →SD713024	室町	縄文土器、土師器皿、瓦器皿、山茶 椀	
7次	13区	SK713002	SK1	土坑	→SD713001	室町以降	土師器杯・甕	SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SK713003	SK2	土坑	→SD713001	室町以降	縄文土器	SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SD713004	SD2	流路	SD713015→	平安後～鎌倉	土師器皿、ロクロ土師器、山茶椀、 青磁椀	第99図。
7次	13区	SD713005	SD3	溝		不明	縄文土器	縄文時代の包含層状。
7次	13区	SD713006	SD4	流路		平安以降	縄文土器、灰釉陶器、緑釉陶器、剥 片	包含層状。第99図。
7次	13区	SK713007	SK3	流路		平安以降		SD713006の埋土で検出。
7次	13区	SD713008	SD5	溝	→SE713035 →SD713034 →SD713009	平安末～鎌倉	縄文土器、土師器皿、山茶椀、剥 片、石錘	方に沿う。第99図。
7次	13区	SD713009	SD6	流路	SD713008→ →SD713034 →SB713037 SD713041→ →SA713039	平安後～末	縄文土器、土師器皿、山茶椀、石 鏃、石錘	第99図。
7次	13区	SD713010	SD7	溝		室町前	土師器皿・鍋、陶器	
7次	13区	SK713011	SK4	土坑		平安末	山茶椀	
7次	13区	SK713012	SK5	土坑		不明	縄文土器、剥片	自然地形か。

第24表 遺構一覧④

調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
7次	13区	SK713013	SK6	土坑		平安後	縄文土器、ロクロ土師器	第100図。
7次	13区	SK713014	SK7	不明		不明	なし	自然地形か。
7次	13区	SD713015	SD8	不明	→SK713029 →SK713031 →SD713004	室町前	なし	包含層状。
7次	13区	SD713016	SD9	溝		平安末～鎌倉	縄文土器、山茶碗	
7次	13区	SD713017	SD10	溝	→SD713018	平安末～鎌倉		
7次	13区	SD713018	SD11	溝	SD713019→ SD713017→	平安末～鎌倉	土師器	
7次	13区	SD713019	SD12	溝	→SD713018	平安末～鎌倉		
7次	13区	SD713020	SD13	—		—	—	SD713001と同一。
7次	13区	SD713021	SD14	流路		平安以降	縄文土器	SD713006の埋土で検出。
7次	13区	SD713022	SD15	流路		室町以降		SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SD713023	SD16	流路	SD713001→	室町以降		SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SD713024	SD17	流路	SD713001→	室町以降		SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SD713025	SD18	流路	SD713001→	室町以降		SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SK713026	SK8	—		—	—	SB713036柱穴
7次	13区	SK713027	SK9	—		—	—	SB713036柱穴
7次	13区	SK713028	SK10	流路	SD713001→	室町以降		SD713001の埋土で検出。
7次	13区	SK713029	SK11	土坑	SD713015→	鎌倉	縄文土器、山茶碗	
7次	13区	SK713030	SK12	土坑	→SD713033	不明		
7次	13区	SK713031	SK13	土坑	SD713015→ SD713015→	室町以降		自然地形か。
7次	13区	SK713032	SK14	—		—	—	SB713036柱穴
7次	13区	SD713033	SD19	流路	SK713030→	平安以降	縄文土器	包含層状。
7次	13区	SD713034	SD20	流路	SD713008→ SD713041→ SD713009→ →SB713036	室町後	土師器皿・鍋、山茶碗	第101図。
7次	13区	SE713035	SE1	井戸	SD713008→	鎌倉	土師器皿、山茶碗、陶器鉢、施釉陶器	第100図
7次	13区	SB713036	ウ F 23SK14 SB1No.3 SK713032 ウ F 24SP1 SB1No.2 ウ F 25SP1 SB1No.1 ウ F 25SP2 ウ F 25SP3 SB1No.8 エ F 1SP3 ウ G 24SK9 SB1No.4 SK713027 ウ G 24SP3痕跡 ウ G 24SP4痕跡 ウ G 24SP5 SB1No.6 ウ G 24P1 ウ G 24SK713026 ウ G 25P4SB1No.7	建物	→SB713037 SD713034→	平安中	土師器 土師器、須恵器 土師器杯・甕 なし 土師器 縄文土器 なし なし なし 縄文土器、土師器 土師器杯 土師器杯・甕	第3表。第96図。
T13	T13	SB713037	エ F 1P5 SB2No.1 エ F 1P6 SB2No.2 エ F 2SP3 エ F 2SP4 ウ G 25P6 SB2No.4 ウ G 25P5 SB2No.3 エ G 1SP12 SB2No.2 エ G 1P6 エ G 1SP10 SB2No.8 SB2P10 エ G 2SP1 エ G 2P6 SB2No.9 エ G 3SP3 エ H 1SP4 エ H 1SP6 エ H 1SP8 エ H 1SP10 SB2No.7 エ H 2SP4	建物	SD713009→ SD37041→ SB713036→ →SB713038	平安中～末	土師器杯・皿 土師器杯 縄文土器 土師器杯 土師器、須恵器 土師器杯・甕 土師器 土師器甕、黒色土器 土師器杯、灰釉陶器 なし 土師器 土師器 土師器、須恵器 なし 土師器、灰釉陶器 なし	第3表。第97図。

第24表 遺構一覧⑤



調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
7次	13区	SB713038	ウG25P3 SB3No.3	建物	SB713037→ SD713041→	平安末～鎌倉	土師器、山茶椀	第3表。第98図。
			エG1P13 SB3No.2				土師器鍋、須恵器	
			エG1P12 SB3No.1				縄文	
			エG1SP7				なし	
			エG2P7 SB3No.4				土師器皿・鍋	
			エH1SP1				なし	
			エH1SP2				なし	
			エH1SP7				土師器甕	
		エH2P3 SB3				なし		
7次	13区	SA713039	エF2P9 SA1No.3	柱列	SD713009→	平安末～鎌倉	なし	第3表。第98図。
			エG2P3 SA1No.4				土師器杯	
			エG2P4 SA1No.5				土師器皿・甕、山茶椀	
			エG2P5 SA1No.6-1				土師器	
			No.6-2				土師器	
			No.6-3				土師器	
			エH2P1 SA1No.7				土師器甕	
			エH2P2 SA1No.8				土師器鍋、山茶椀、陶器鉢	
			エI2P10 SA1No.9				土師器	
			エI2P8 SA1No.10				土師器皿	
			No.11				土師器	
			エJ2P7 SA1No.12-1				土師器、ロクロ土師器、山茶椀	
			エJ2P4 SA1No.12-2				土師器、灰釉陶器	
			エJ1P9 SA1No.12-3				なし	
			エJ1P5 SA1No.12-4				なし	
			エJ1P2				土師器	
エJ1P9	なし							
エI1P10	なし							
7次	13区	SD713040	SD21	溝		鎌倉後	土師器皿、山茶椀	
7次	13区	SD713041	SD22	溝	→SD713008 →SD713009 →SB713037 →SB713038	室町前	縄文土器、土師器皿	第100図。
7次	13区	SA713042	ウI25SP4	柱列		平安中～後	縄文土器、土師器皿	第3表。第97図。
			ウI25SP5				縄文土器	
			ウI25SP2				なし	
			ウI1SP1				土師器甕、山茶椀	
			エH1SP5				縄文土器、土師器	
			エH2SP5				縄文土器、土師器甕	
エH2SP6	縄文土器							
8次	6区	SR801		流路		鎌倉	土師器皿・鍋	SD614016と一連。
8次	6区	SD802		流路		不明	須恵器甕	SR801・803の底部で検出。
8次	6区	SR803		流路		鎌倉	なし	SD614016の南岸。
8次	2-2区	SD804		溝	→SK806	飛鳥以前	なし	SD56033・57015と一連。
8次	2-2区	SD805		溝	→SK806	室町	土師器皿、山茶椀	SD57002の東岸。
8次	2-2区	SK806		土坑	SD804→	江戸	土師器鍋、陶器	SK56031と同一。
8次	2-2区	SD807		溝		不明	縄文土器	
8次	2-2区	SE808		井戸		平安	須恵器甕、灰釉陶器	
8次	2-1区	SD809		溝	→SE810	中世以前	なし	SD56016と同一。
8次	2-1区	SE810		水溜	SD809→	中世	なし	SK56013と同一。
8次	3区	SD811		溝		不明	なし	SK67005と一連。
8次	5区	SD812		溝		室町前	土師器皿・鍋、灰釉陶器	
8次	5区	SD813		溝		鎌倉	なし	SD69001と一連。
8次	5区	SD814		溝		近代以降	陶器、瓦	
8次	1-1区	SD815		流路		室町	土師器鍋	
8次	1-1区	SD816		流路		弥生～古墳	古式土師器	
8次	1-2区	SD817		流路		不明	なし	
9次	16区	SK90102		土坑		鎌倉	土師器皿・鍋、陶器	
9次	3区	SD90301	溝1	溝		奈良	土師器杯・甕	平安に下る可能性あり。
9次	5区	SD90501	SD1	溝		古代以前	なし	SD63009と一連。

第24表 遺構一覧⑥

調査 次数	調査区	遺構名	調査時名称	性格	前後関係	時期	主な出土遺物	備 考
9次	6区	SB54043	P1	建物		中世以前	土師器	
9次	7区	SB63004	P1	建物		平安前	土師器杯・甕	
			P2				土師器	
			P2柱痕				土師器杯	
9次	8区	SD90801	SD1	溝		平安中	土師器杯・甕	SD61001と一連。
9次	8区	SD90802	SD2	流路		鎌倉	山茶碗	
9次	9区	SK90901	SK1	土坑		鎌倉	土師器、山茶碗	
9次	9区	SD90902	SD2	溝		平安末	土師器皿、山茶碗	SD61002・61022と一連。
9次	9区	SD90903	SD1	溝		平安末～鎌倉	土師器、須恵器甕	SD61006・61026と一連。
9次	9区	SR90904	SR1	流路		弥生～古墳	古式土師器	SR61021と一連。
9次	9区	SR90905	SR2	流路		古墳以降	土師器甕	
9次	11区	SR91101	NR1	流路		鎌倉	土師器甕、山茶碗、陶器	
9次	14区	SD91401	SD1	溝	→SD91402	平安前	土師器杯	
9次	14区	SD91402	SD2	溝	SD91401→	平安前以降	なし	
9次	16区	SD91601	SD90101	溝		不明	なし	
9次	16区	SK91602	SK90102	土坑		室町	土師器皿・鍋、山茶碗、陶器	

第24表 遺構一覧⑦



3・4区調査前風景と面塚（南から）



5～7区調査前風景（北から）





1区全景（西から）



1区全景（東から）



SK701003（西から）

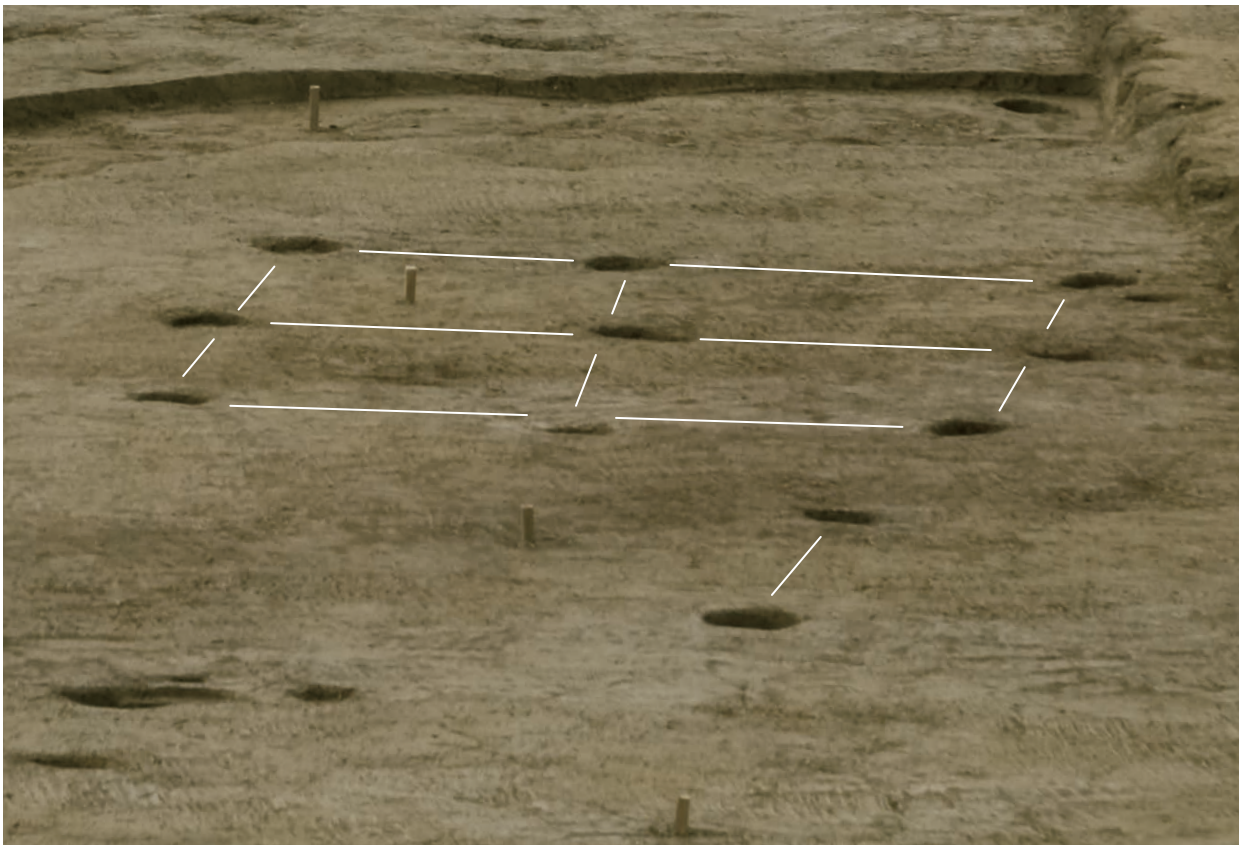




2区全景（東から）



SA702007~702010（西から）



SB702006、SA702011（東から）





SF702003検出状況（北から）



SF702003（北から）



SF702003断面（東から）





3区全景（北から）



3区下層全景（南西から）



SK703018断面（西から）



SK703022遺物出土状況（北から）





SE703006 (東から)



SE703011 (西から)





4区上層全景（北から）



4区下層全景（北から）





SD704001 (南から)



SD704001遺物出土状況 (南から)



SD704001遺物 (230) 出土状況 (南西から)



SD704001遺物 (233・235・236) 出土状況 (西から)





SH704011 (北から)



SH704011石囲炉 (東から)



SH704011遺物出土状況 (西から)



SH704011石囲炉下部 (東から)



SK704002断面 (南西から)

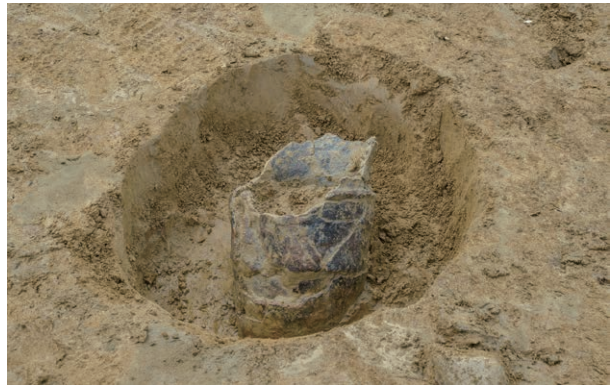




SX704014 (西から)



SX704014 (東から)



SX704015 (北から)



5区全景 (南から)





6区全景（北西から）



SB706038（北西から）





SE706036 (東から)



SE706036断面 (北から)





SK706026 (東から)

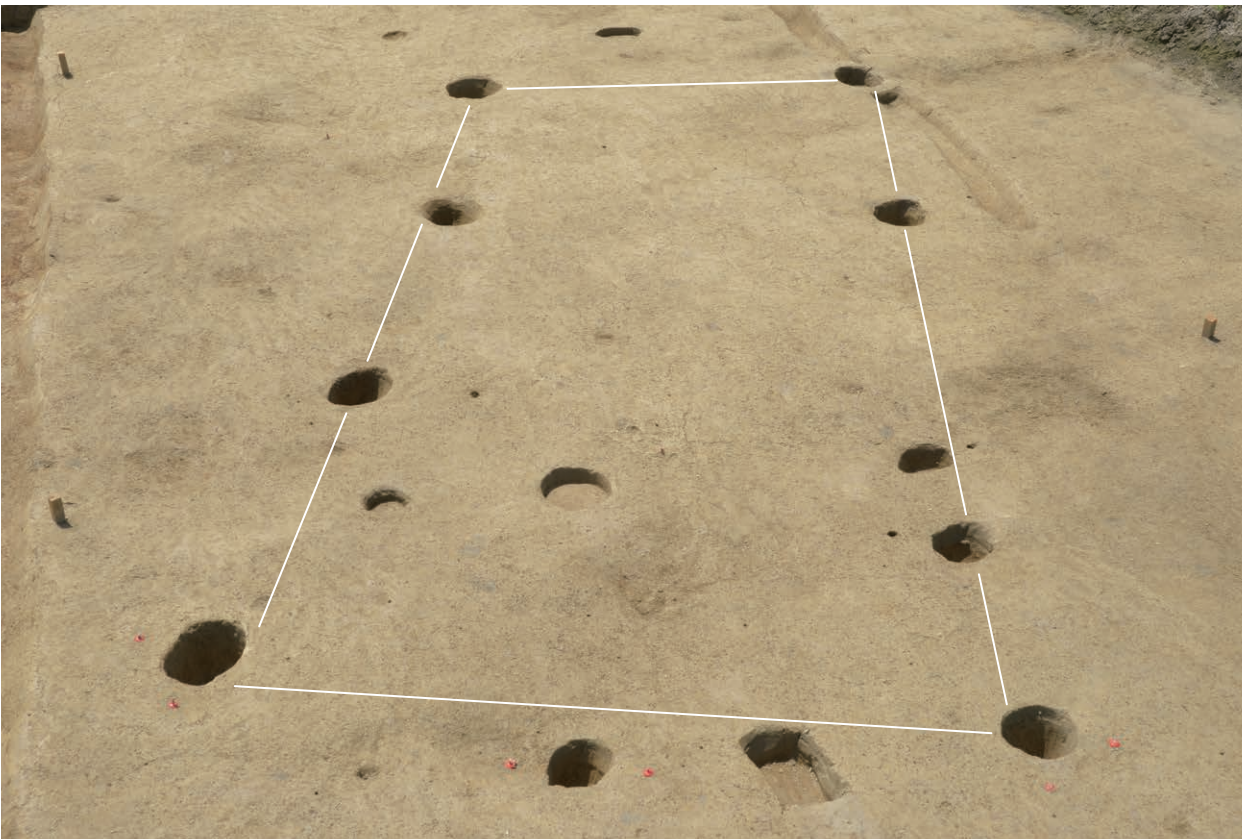


7区全景 (東から)





8区全景（北から）



SB708010（北から）





SB708005 (北から)



SB708005柱穴遺物出土状況 (東から)





9区全景（北から）



9区全景（南から）





SZ709009 (北から)



SZ709009断面 (東から)





10区西部全景（南西から）



10区東部全景（南東から）





SD710001断面（南から）



SD710001（北から）



SD710006（南から）





11区西部全景（西から）



11区東部全景（南から）





SH711024、SD711008 (北から)



SD711001 (北から)



SD711003 (北西から)





12区西部全景（東から）



12区中央部全景（南西から）

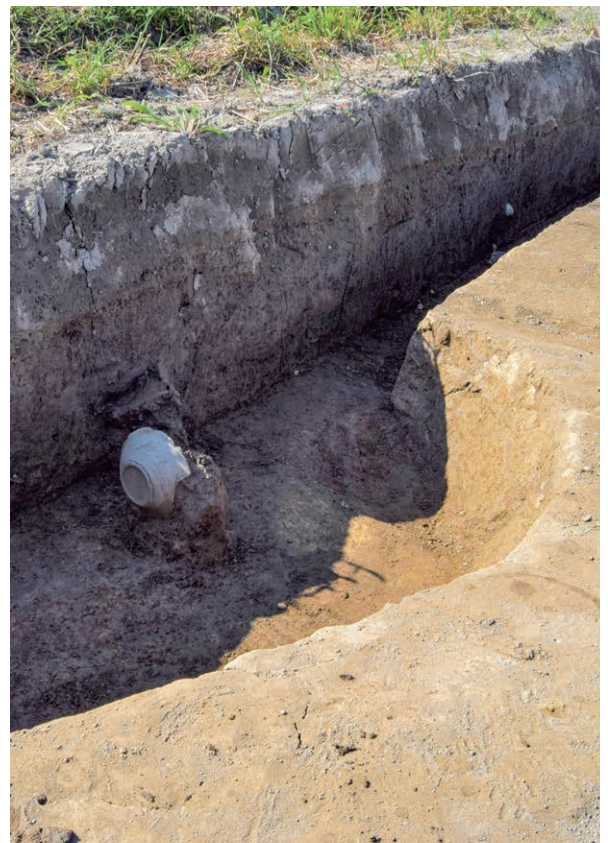




12区東部全景（東から）



SD712003・712004、SK712020（東から）



SE712005遺物出土状況（南から）





13区北半全景（北から）



13区南半全景（北西から）





SB713036 (南から)



SB713036柱筋上小穴遺物出土状況 (南から)



SB713036柱穴遺物出土状況 (北から)



SD713008 (南から)





SB713037、SA713042 (西から)



SB713038、SA713039 (南から)





5



978



1



979



382



1073



161



69



















135



160



367



136



40



428



38



275



37



177



178



181



256



285























縄文土器













577



579



735



1053



1077



1204



1207



1208



597



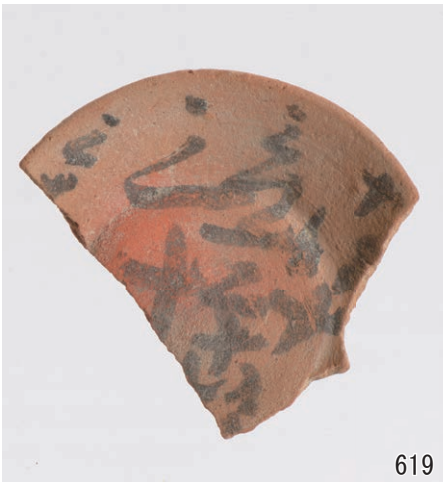
617



611



615



619



599



604



600



603



619



613



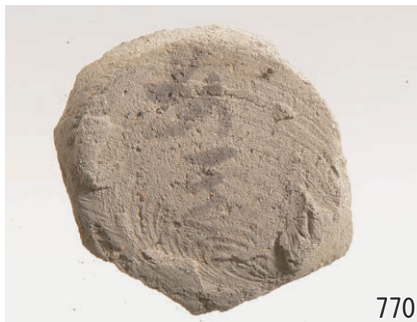
614





土師器高杯・甕・鍋・茶釜





口々土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・山茶椀



山茶碗



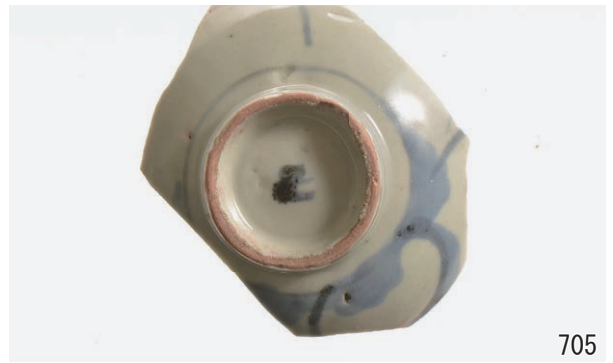






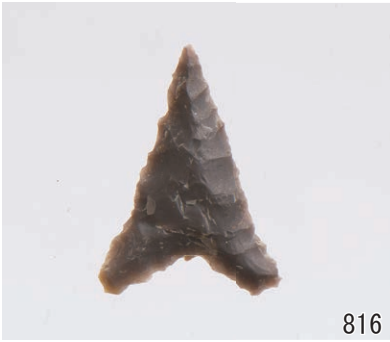




















737



737



717



738



738



740



739



739



719



721



721



718



720



1238





1-1区全景 (西から)



SD817検出状況 (北から)



2-1区全景 (東から)



2-2区全景 (北から)



SE808断面 (南から)





3区全景（北から）



5区全景（北から）



SD811断面（南から）



SD817断面（南から）



6-1区全景（南から）



6-1区断面（南から）



6-2区全景（南から）











1区全景（西から）



2区全景（西から）



3区全景（西から）



SD90201（南から）



4区全景（北から）



4区西壁土層（東から）





5区遺構検出状況（南から）



SD90501（東から）



7区SB63004柱穴検出状況（東から）



6区全景（南東から）





8区遺構検出状況（東から）



9区遺構検出状況（東から）



11区全景（南から）



10区全景（南から）



10区西壁土層（東から）



12区全景（南から）



13区全景（東から）



第9次調査

写真図版61



14区全景（東から）



SD91401断面（東から）



15区全景（西から）



16区全景（東から）



19



27



29



30



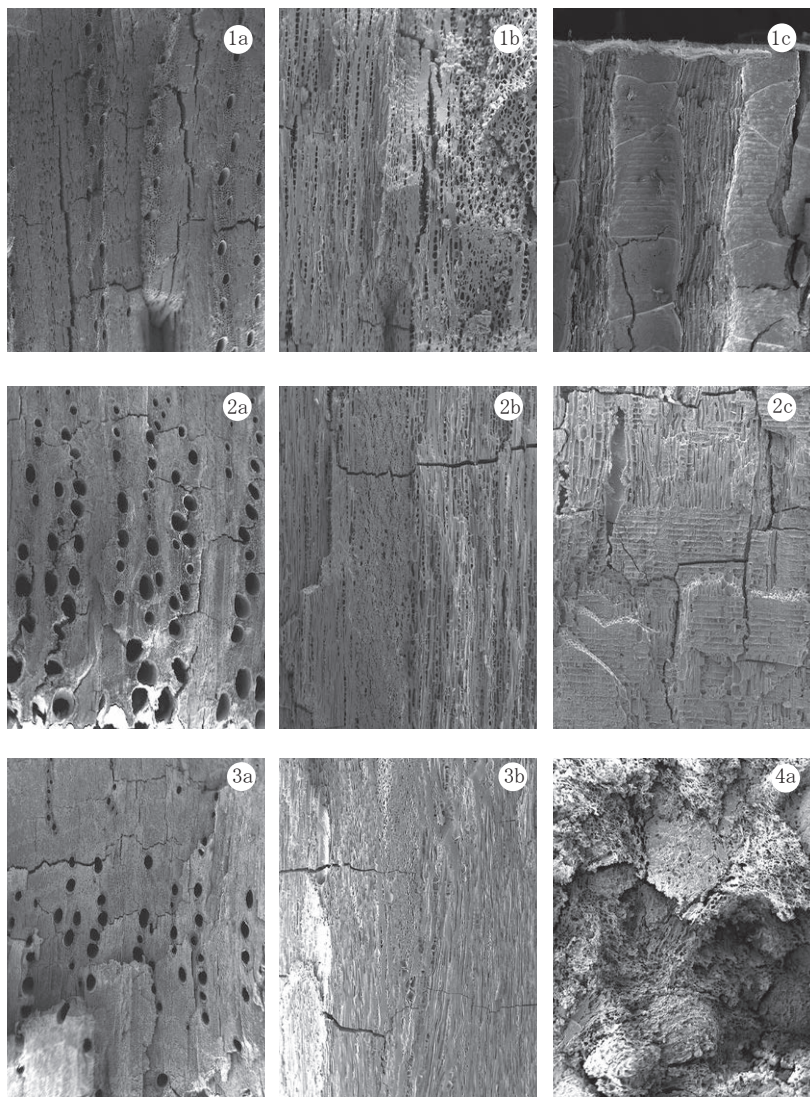
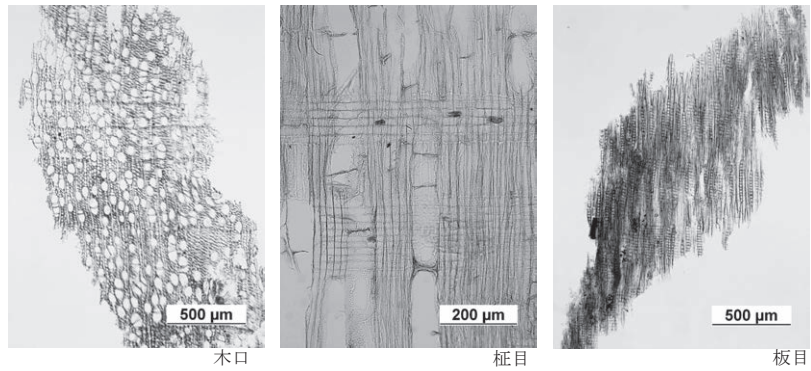
30

出土遺物



写真図版62

\*\*\* トチノキ科トチノキ属トチノキ  
木製品顕微鏡写真



1a-1c. コナラ属アカガシ亜属 (No. 45)

2a-2c. コナラ属クヌギ節 (No. 46)

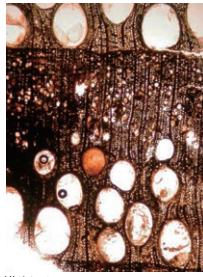
3a-3b. コナラ属クヌギ節 (No. 47)

4a. 広葉樹樹皮 (No. 48)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

炭化材の走査型電子顕微鏡写真

738 下駄 クリ



横断面

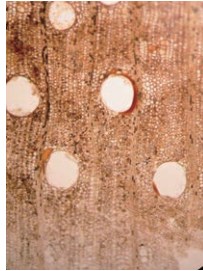


放射断面



接線断面

737 下駄 キハダ属



横断面

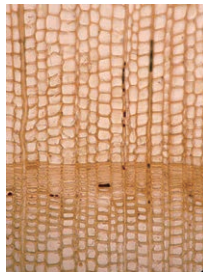


放射断面



接線断面

719 曲物底板 サワラ



横断面



放射断面

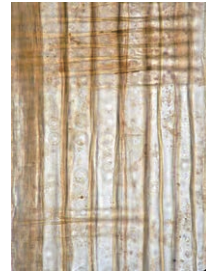


接線断面

717 曲物底板 スギ



横断面

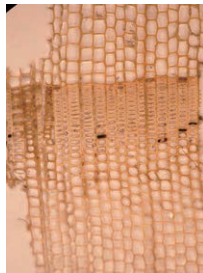


放射断面



接線断面

718 木札 スギ



横断面

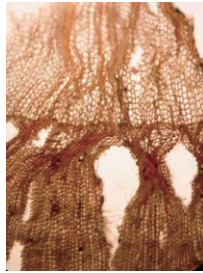


放射断面



接線断面

721 道具 ヒノキ



横断面



放射断面



接線断面



写真図版64



写真1 資料No. 1 内面



写真3 資料No. 1 外面

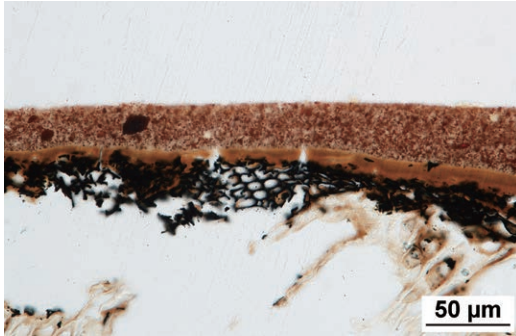


写真2 内面の断面

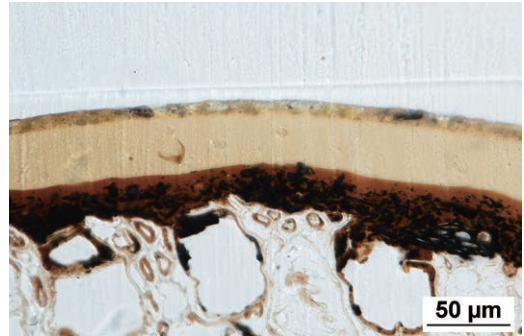
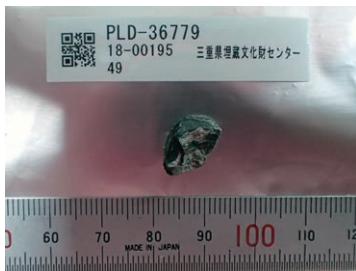


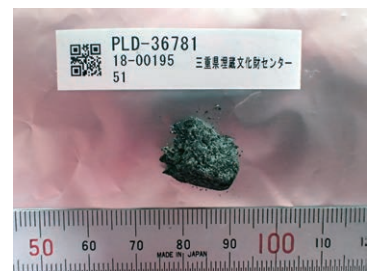
写真4 外面の断面



・試料 No.49 (PLD-36779)

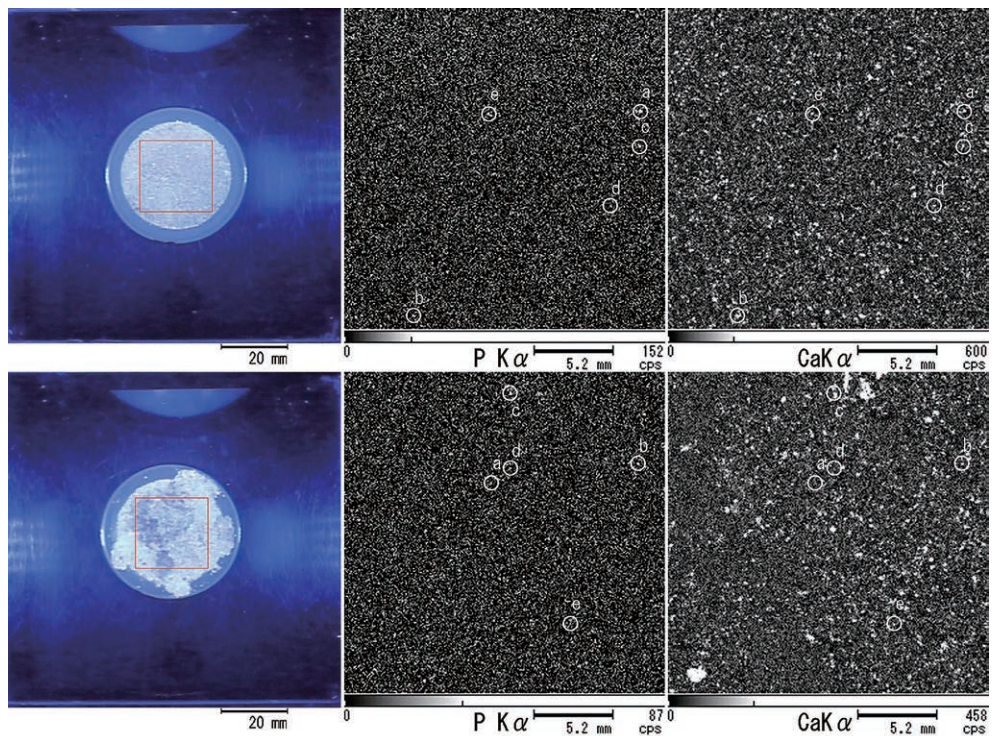


・試料 No.50 (PLD-36780)



・試料 No.51 (PLD-36781)

炭化材の年代測定試料写真



プレス試料およびリンとカルシウムの元素マッピング図



# 報告書抄録

ふりがな	あさみいせきだい7から9じはっくつちょうさほうこく							
書名	朝見遺跡（第7・8・9次）発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	411							
編著者名	森川常厚（編）、萩原義彦、樋口太地、水谷侃司 一般社団法人文化財科学研究所、株式会社パレオ・ラボ、株式会社吉田生物研究所							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732							
発行年月日	2023(令和5)年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あさみいせき 朝見遺跡 だいじ (第7次)	まつさかし 松阪市 たつたちょう 立田町 わやちょう 和屋町	24204	a 838	34度 33分 33秒	136度 34分 44秒	20160420 ～ 20161017	5,742㎡	高度水利機能確保基盤整備事業(朝見上地区)
あさみいせき 朝見遺跡 だいじ (第8次)						20160906 ～ 20161122		
あさみいせき 朝見遺跡 だいじ (第9次)						20170508 20170715 ～ 20171206	620㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
朝見遺跡	集落跡	縄文 弥生～古墳 平安 室町	埋設土器 石囲炉 掘立柱建物 井戸	縄文土器・古式土師器・土師器・山茶碗・陶器・石鏃・石錘・下駄・木札				
要約	朝見遺跡は橿田川左岸沖積地に位置する。これまでの第1～6次調査の成果を踏襲するもので、散在的に所在する平安時代の掘立柱建物や中世から近世の井戸・溝等を検出している。掘立柱建物のなかには、出現期と思われる平安時代中期ちかくに遡る総柱形態を呈するものがある。また、古墳時代初頭の方形周溝墓や縄文時代中期末の埋設土器、石囲炉等も検出している。多量の縄文土器や土師器皿、山茶碗等が出土しているが、墨書により記号をしるされたもの、手習いに用いられた土師器皿等がある。							

---

三重県埋蔵文化財調査報告 4 1 1

朝見遺跡（第7・8・9次）  
発掘調査報告

2023（令和5）年3月

編集 三重県埋蔵文化財センター  
発行

印刷 株式会社アイブレーション

---





